
加 須 市

長 竹 遺 跡 IV

首都圏氾濫区域堤防強化対策における
埋蔵文化財発掘調査報告
(第1分冊)

2020

国土交通省 関東地方整備局
公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 南盛土出土土器（精製土器1）



2 南盛土出土土器（精製土器2）



1 南盛土出土土器（浅鉢他）



2 I-7グリッド出土土器（第476図19）



3 G-6グリッド出土土器（第79図22）



4 I-6グリッド出土土器（第354図200）



5 K-8グリッド出土土器（第767図23）

序

埼玉県の北東県境を流れる利根川は、日本一の流域面積を誇る大川です。新元号である「令和」の出典元となった万葉集にも「刀祢河泊」とその名が見えるように、古くから人や物資が行きかう交通路として利用され、親しまれてきました。現在も生活用水や産業用水の供給源として、私たちは利根川から多大な恩恵を受けています。

しかし、その一方で利根川はたびたび恐ろしい水害を引き起こし、流域に生活する人々に計り知れないダメージを与えてきました。特に1947年のカスリーン台風による豪雨では、現在の加須市内で堤防が決壊し埼玉県東部が水没する大災害となりました。

国土交通省では、発生すればこのような災害を引き起こす利根川の氾濫を未然に防ぐため、堤防や調節池等の整備と防災・減災のための取組を推進しています。埼玉県における首都圏氾濫区域堤防強化対策事業もその一環です。

本事業地のある加須・羽生・久喜市内には、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在しています。今回、発掘調査を行った加須市の長竹遺跡もそのひとつです。発掘調査事業は同事業に伴う事前調査であり、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、当事業団が実施いたしました。

長竹遺跡からは、縄文時代後晩期の人々が直径約190mのドーナツ状に土を盛り上げ、生活の場とした環状盛土遺構が発見されました。そして、その盛土の中からは住居跡などの遺構とともに、約3000年前の後晩期を中心とした膨大な量の土器・土偶・石器などが出土し、当時の生活を知る上で貴重な成果をあげることができました。

本書は、環状盛土内の南盛土包含層の発掘調査成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護並びに普及・活用の資料として、また学術研究の基礎資料として、多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部文化資源課をはじめ、国土交通省関東地方整備局、加須市教育委員会並びに地元関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

令和2年3月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 藤 田 栄 二

例 言

- 1 本書は、加須市大字大越に所在する長竹遺跡（第1・3次調査）の発掘調査報告書である。

長竹遺跡の調査成果については以下のよう
に巻を分け、順次報告書を刊行している。

 - ・『長竹遺跡Ⅰ』第413集 A～C区古墳時代以降、B区南半～C区縄文時代
 - ・『長竹遺跡Ⅱ』第440集（南盛土遺構編）
A区南半～B区北半縄文時代の遺構
 - ・『長竹遺跡Ⅲ』第441集（北盛土遺構編）
A区北半～D区縄文時代の遺構
 - ・『長竹遺跡Ⅳ』第461集（本書）
A区南半～B区北半縄文時代の遺物包含層
 - ・『長竹遺跡Ⅴ』第462集（古代編）
D区古代以降
 - ・『長竹遺跡Ⅵ』（北盛土盛土編）A区北半～D区縄文時代の遺物包含層（予定）
- 2 遺跡の代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は以下のとおりである。

長竹遺跡第1次調査（No. 69-038）
埼玉県加須市大字大越字樋ノ口702-1他
平成22年4月23日付け 教生文第2-8号

長竹遺跡第3次調査（No. 69-038）
埼玉県加須市大字大越字樋ノ口702-1他
平成24年4月20日付け 教生文第2-9号
- 3 発掘調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査である。埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課（当時）が調整し、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所の委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 4 各事業の委託事業名は、下記のとおりである。

発掘調査事業（平成22・24年度）
「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須市）における平成22年度埋蔵文化財発掘調査」（平成22年度長竹遺跡第1次）
「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・羽生・久喜地区）における平成24年度埋蔵文化財発掘調査」（平成24年度長竹遺跡第3次）
整理・報告書作成事業（平成30・31年度）
「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・栗橋地区）における平成30年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」（加須市長竹遺跡）
「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・栗橋地区）における平成31年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」（加須市長竹遺跡）
- 5 発掘調査・整理報告書作成事業は1-3に示した組織により実施した。

発掘調査は、長竹遺跡第1次を平成22年5月1日から平成23年3月31日まで昼間孝志、富田和夫、岩瀬謙、黒坂禎二、吉田稔、大屋道則、大和田暲が、第3次を平成24年4月6日から平成25年3月31日まで黒坂禎二、山本靖、青木弘、大和田暲、高橋岳、高屋敷飛鳥が担当した。

整理報告書作成事業は、平成30年4月1日から平成31年3月31日まで渡辺清志、細田勝、入江直毅が、平成31年4月1日から令和2年3月31日まで金子直行、入江直毅が担当した。

報告書は、令和2年3月23日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第461集として印刷・刊行した。
- 6 発掘調査における基準点測量は、第1次調査を有限会社ジオプランニング、第3次調査を中央航業株式会社に委託した。
- 7 発掘調査における空中写真撮影は、中央航業株式会社に委託した。
- 8 巻頭図版の遺物写真撮影は、小川忠博氏に委託した。
- 9 発掘調査における写真撮影は、各調査担当者

- が行い、出土遺物の写真撮影は入江が行った。
- 10 出土品の整理・図版作成は、渡辺、金子、細田、入江が行った。
- 11 本書の執筆は、Ⅰ-1を埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、Ⅴ-23を渡辺が、他を金子、入江が行った。また、Ⅴの縄文土器、土製品については金子が、石器、骨製品については入江が行った。
- 12 本書の編集は金子、入江が行った。

13 本書にかかる諸資料は、令和2年4月以降、埼玉県教育委員会が管理・保管する。

14 発掘調査と本書の作成に際し、下記の機関・方々から御教示・御協力を賜った。記して感謝致します。(敬称略)

加須市教育委員会 阿部芳郎 猪瀬美奈子
 江原 英 大塚達朗 小倉和重 小野美代子
 上條信彦 笹森健一 設楽博己 鈴木徳雄
 鈴木正博 高橋龍三郎 中村耕作

凡 例

1 本書におけるX・Yの数値は、世界測地系、国土標準平面直角座標第IX系(原点:北緯 $36^{\circ} 00' 00''$ 、東経 $139^{\circ} 50' 00''$)に基づく座標値であり、Z座標の値は標高を示す。また、各挿図に示した方位は全て座標北を指す。

H-6グリッド北西杭の座標は、以下の通りである。

X = 20800.000 m、Y = -19730.000 m、
 Z = 13.992 m


北緯 $36^{\circ} 11' 14''$ 1772、東経 $139^{\circ} 36' 50''$
 2832

- 2 調査で使用したグリッドは、国土標準平面直角座標第IX系に基づく 10×10 mの範囲を基本(1グリッド)とし、調査区全体に方眼網を組んだ。
- 3 グリッドの名称は、北西隅を基点とし、北から南方向にアルファベット(A・A・B…Z・Z・A・B…)、西から東方向に数字(001・002…999・0・1…)を付し、アルファベットと数字を組み合わせ、例えばZ Z-999、A-1グリッドと呼称した。
- 4 1グリッドの中に 2×2 mの小グリッドを便宜的に配し、北東隅から東へ平行式に①～⑤まで番号を付した。具体的には右図のとおりである。

5 調査区は着手年次の関係上、北西より南東方向にD、A、B、C区と地区割りしている。本書が扱うA、B区では、縄文時代と古墳時代以降の文化層に間隙があり、それぞれ確認面が二面識別できた。その中で、縄文時代の環状盛土に関連する包含層と包含層出土遺物を取り扱う。

①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
㉑	㉒	㉓	㉔	㉕

小グリッド配置図

- 6 本書の本文、挿図、表中に記した遺構の略号は以下の通りである。
- ・ S J…竪穴住居跡
 - ・ S B…掘立柱建物跡
 - ・ S E…井戸跡
 - ・ S K…土坑
 - ・ Pit・ P…小穴・柱穴
 - ・ 集中…遺物集中
- 7 本書における挿図の縮尺は、以下の通りである。ただし一部例外もあり、それについては図中に縮尺とスケールを示した。
- ・ 縄文土器 1 : 4
 - ・ 土器拓影図 1 : 3・1 : 4
 - ・ 石器 1 : 1・2 : 3・1 : 3
 - ・ 土製品 1 : 2
 - ・ 骨製品 2 : 3
- 8 出土耳飾り観察表の項目は以下の通りである。
- ・ 径1は耳飾り側縁の装着部の最大径
 - ・ 径2は耳飾り側縁の装着部の最小径
- 9 遺構図・遺物実測図の表記方法は以下の通りである。
- ・  地山
 - ・ 彩色等の特徴を有する遺物はその範囲に網を掛けて示した。
赤彩10%
被熱50%
- 10 包含層断面図に表記した水準数値は、標高(m)で示した。
- 11 遺物観察表の表記方法は以下の通りである。
- ・ 口径・器高・底径はcm単位である。
 - ・ () 内の数値は復元推定値、[] は残存計測値を示す。
- 12 本書に使用した地形図は、加須市都市計画図 1/2500 である。
- 13 遺構番号は、原則、調査時のものを用いた。また、グリッドピットについては改めて番号を付した。
- 14 引用文献は、(著者(組織名)発行年)の順で表記し、参考文献とともに巻末に掲載した。
- 15 本書で用いる挿図の一部は、既刊の『長竹遺跡Ⅱ』にて既報告の挿図に一部加筆修正を加えている。具体的には下記の通りである。
- ・ 第6～8図…『長竹遺跡Ⅱ』第15～17図(なお、『長竹遺跡Ⅱ』第16図の右下で図示している平面図において、セクションポイントを示すA、A' は誤りである。正しくはAがA' であり、A' がAである。)
 - ・ 第10図…『長竹遺跡Ⅱ』第176図

目次

(第1分冊)

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I	発掘調査の概要	1
1	発掘調査に至る経過	1
2	発掘調査・報告書作成の経過	2
	(1) 発掘調査	2
	(2) 整理・報告書の作成	2
3	発掘調査・報告書作成の組織	4
II	遺跡の立地と環境	5
1	地理的環境	5
2	歴史的環境	6
III	遺跡の概要	13
IV	出土遺物の分類	25
1	縄文土器の分類	25
2	土製円盤の分類	26
3	耳飾りの分類	27
4	石器の分類	27
V	調査区出土遺物	30
1	F-4グリッド出土遺物	30
2	F-5グリッド出土遺物	39
3	F-6グリッド出土遺物	64
4	G-4グリッド出土遺物	67
5	G-5グリッド出土遺物	75
6	G-6グリッド出土遺物	108
7	G-7グリッド出土遺物	177
8	H-5グリッド出土遺物	182
9	H-6グリッド出土遺物	220

(第2分冊)

10	H-7グリッド出土遺物	345
11	I-5グリッド出土遺物	402
12	I-6グリッド出土遺物	420
13	I-7グリッド出土遺物	583
14	I-8グリッド出土遺物	667

(第3分冊)

15	J-6グリッド出土遺物	675
16	J-7グリッド出土遺物	737
17	J-8グリッド出土遺物	811
18	K-6グリッド出土遺物	825
19	K-7グリッド出土遺物	831
20	K-8グリッド出土遺物	931
21	L-7グリッド出土遺物	963
22	L-8グリッド出土遺物	975
23	B区 (I-8, J-8, K-8グリッド) 出土遺物	979

VI 調査のまとめ

1	環状盛土遺構と出土土器について	1083
2	安行式土器の貼付文(瘤)の 変遷について	1084
3	土器片利用の土製円盤について	1090
4	長竹遺跡の南盛土における 出土石器について	1092

(第4分冊)

写真図版

挿図目次

(第1分冊)

第1図	埼玉県の地形図	5	第34図	F-5グリッド出土遺物(14)	55
第2図	環状盛土・環状貝塚 に関連する遺跡の分布図	12	第35図	F-5グリッド出土遺物(15)	56
第3図	長竹遺跡の位置図	13	第36図	F-5グリッド出土遺物(16)	57
第4図	長竹遺跡の盛土全体図	17	第37図	F-5グリッド出土遺物(17)	58
第5図	長竹遺跡の盛土等高線図	18	第38図	F-5グリッド出土遺物(18)	59
第6図	南盛土における基本土層(1)	19	第39図	F-5グリッド出土遺物(19)	60
第7図	南盛土における基本土層(2)	20	第40図	F-6グリッド検出遺構	64
第8図	南盛土における基本土層(3)	21	第41図	F-6グリッド時期別濃淡図	65
第9図	南盛土の西壁基本土層(1)	22	第42図	F-6グリッド出土遺物	66
第10図	南盛土の西壁基本土層(2)	23	第43図	G-4グリッド検出遺構	68
第11図	南盛土の西壁基本土層(3)	24	第44図	G-4グリッド時期別濃淡図	69
第12図	F-4グリッド検出遺構	30	第45図	G-4グリッド出土遺物(1)	70
第13図	F-4グリッド時期別濃淡図	31	第46図	G-4グリッド出土遺物(2)	71
第14図	F-4グリッド出土遺物(1)	32	第47図	G-4グリッド出土遺物(3)	72
第15図	F-4グリッド出土遺物(2)	33	第48図	G-4グリッド出土遺物(4)	73
第16図	F-4グリッド出土遺物(3)	34	第49図	G-5グリッド検出遺構	76
第17図	F-4グリッド出土遺物(4)	35	第50図	G-5グリッド時期別濃淡図	77
第18図	F-4グリッド出土遺物(5)	36	第51図	G-5グリッド出土遺物(1)	78
第19図	F-5グリッド検出遺構	40	第52図	G-5グリッド出土遺物(2)	79
第20図	F-5グリッド時期別濃淡図	41	第53図	G-5グリッド出土遺物(3)	80
第21図	F-5グリッド出土遺物(1)	42	第54図	G-5グリッド出土遺物(4)	81
第22図	F-5グリッド出土遺物(2)	43	第55図	G-5グリッド出土遺物(5)	82
第23図	F-5グリッド出土遺物(3)	44	第56図	G-5グリッド出土遺物(6)	83
第24図	F-5グリッド出土遺物(4)	45	第57図	G-5グリッド出土遺物(7)	84
第25図	F-5グリッド出土遺物(5)	46	第58図	G-5グリッド出土遺物(8)	85
第26図	F-5グリッド出土遺物(6)	47	第59図	G-5グリッド出土遺物(9)	86
第27図	F-5グリッド出土遺物(7)	48	第60図	G-5グリッド出土遺物(10)	87
第28図	F-5グリッド出土遺物(8)	49	第61図	G-5グリッド出土遺物(11)	88
第29図	F-5グリッド出土遺物(9)	50	第62図	G-5グリッド出土遺物(12)	89
第30図	F-5グリッド出土遺物(10)	51	第63図	G-5グリッド出土遺物(13)	90
第31図	F-5グリッド出土遺物(11)	52	第64図	G-5グリッド出土遺物(14)	91
第32図	F-5グリッド出土遺物(12)	53	第65図	G-5グリッド出土遺物(15)	92
第33図	F-5グリッド出土遺物(13)	54	第66図	G-5グリッド出土遺物(16)	93
			第67図	G-5グリッド出土遺物(17)	94

第 68 図	G-5 グリッド出土遺物 (18) …	95	第 105 図	G-6 グリッド出土遺物 (29) …	138
第 69 図	G-5 グリッド出土遺物 (19) …	96	第 106 図	G-6 グリッド出土遺物 (30) …	139
第 70 図	G-5 グリッド出土遺物 (20) …	97	第 107 図	G-6 グリッド出土遺物 (31) …	140
第 71 図	G-5 グリッド出土遺物 (21) …	98	第 108 図	G-6 グリッド出土遺物 (32) …	141
第 72 図	G-5 グリッド出土遺物 (22) …	99	第 109 図	G-6 グリッド出土遺物 (33) …	142
第 73 図	G-5 グリッド出土遺物 (23) …	100	第 110 図	G-6 グリッド出土遺物 (34) …	143
第 74 図	G-5 グリッド出土遺物 (24) …	101	第 111 図	G-6 グリッド出土遺物 (35) …	144
第 75 図	G-6 グリッド検出遺構 ……	108	第 112 図	G-6 グリッド出土遺物 (36) …	145
第 76 図	G-6 グリッド時期別濃淡図 …	109	第 113 図	G-6 グリッド出土遺物 (37) …	146
第 77 図	G-6 グリッド出土遺物 (1) …	110	第 114 図	G-6 グリッド出土遺物 (38) …	147
第 78 図	G-6 グリッド出土遺物 (2) …	111	第 115 図	G-6 グリッド出土遺物 (39) …	148
第 79 図	G-6 グリッド出土遺物 (3) …	112	第 116 図	G-6 グリッド出土遺物 (40) …	149
第 80 図	G-6 グリッド出土遺物 (4) …	113	第 117 図	G-6 グリッド出土遺物 (41) …	150
第 81 図	G-6 グリッド出土遺物 (5) …	114	第 118 図	G-6 グリッド出土遺物 (42) …	151
第 82 図	G-6 グリッド出土遺物 (6) …	115	第 119 図	G-6 グリッド出土遺物 (43) …	152
第 83 図	G-6 グリッド出土遺物 (7) …	116	第 120 図	G-6 グリッド出土遺物 (44) …	153
第 84 図	G-6 グリッド出土遺物 (8) …	117	第 121 図	G-6 グリッド出土遺物 (45) …	154
第 85 図	G-6 グリッド出土遺物 (9) …	118	第 122 図	G-6 グリッド出土遺物 (46) …	155
第 86 図	G-6 グリッド出土遺物 (10) …	119	第 123 図	G-6 グリッド出土遺物 (47) …	156
第 87 図	G-6 グリッド出土遺物 (11) …	120	第 124 図	G-6 グリッド出土遺物 (48) …	157
第 88 図	G-6 グリッド出土遺物 (12) …	121	第 125 図	G-6 グリッド出土遺物 (49) …	158
第 89 図	G-6 グリッド出土遺物 (13) …	122	第 126 図	G-6 グリッド出土遺物 (50) …	159
第 90 図	G-6 グリッド出土遺物 (14) …	123	第 127 図	G-6 グリッド出土遺物 (51) …	160
第 91 図	G-6 グリッド出土遺物 (15) …	124	第 128 図	G-6 グリッド出土遺物 (52) …	161
第 92 図	G-6 グリッド出土遺物 (16) …	125	第 129 図	G-6 グリッド出土遺物 (53) …	162
第 93 図	G-6 グリッド出土遺物 (17) …	126	第 130 図	G-6 グリッド出土遺物 (54) …	163
第 94 図	G-6 グリッド出土遺物 (18) …	127	第 131 図	G-6 グリッド出土遺物 (55) …	164
第 95 図	G-6 グリッド出土遺物 (19) …	128	第 132 図	G-6 グリッド出土遺物 (56) …	165
第 96 図	G-6 グリッド出土遺物 (20) …	129	第 133 図	G-7 グリッド検出遺構 ……	178
第 97 図	G-6 グリッド出土遺物 (21) …	130	第 134 図	G-7 グリッド時期別濃淡図 …	179
第 98 図	G-6 グリッド出土遺物 (22) …	131	第 135 図	G-7 グリッド出土遺物 (1) …	180
第 99 図	G-6 グリッド出土遺物 (23) …	132	第 136 図	G-7 グリッド出土遺物 (2) …	181
第 100 図	G-6 グリッド出土遺物 (24) …	133	第 137 図	H-5 グリッド検出遺構 ……	184
第 101 図	G-6 グリッド出土遺物 (25) …	134	第 138 図	H-5 グリッド時期別濃淡図 …	185
第 102 図	G-6 グリッド出土遺物 (26) …	135	第 139 図	H-5 グリッド出土遺物 (1) …	186
第 103 図	G-6 グリッド出土遺物 (27) …	136	第 140 図	H-5 グリッド出土遺物 (2) …	187
第 104 図	G-6 グリッド出土遺物 (28) …	137	第 141 図	H-5 グリッド出土遺物 (3) …	188

第142図	H-5グリッド出土遺物(4) ..	189	第179図	H-6グリッド出土遺物(10) ..	240
第143図	H-5グリッド出土遺物(5) ..	190	第180図	H-6グリッド出土遺物(11) ..	241
第144図	H-5グリッド出土遺物(6) ..	191	第181図	H-6グリッド出土遺物(12) ..	242
第145図	H-5グリッド出土遺物(7) ..	192	第182図	H-6グリッド出土遺物(13) ..	243
第146図	H-5グリッド出土遺物(8) ..	193	第183図	H-6グリッド出土遺物(14) ..	244
第147図	H-5グリッド出土遺物(9) ..	194	第184図	H-6グリッド出土遺物(15) ..	245
第148図	H-5グリッド出土遺物(10) ..	195	第185図	H-6グリッド出土遺物(16) ..	246
第149図	H-5グリッド出土遺物(11) ..	196	第186図	H-6グリッド出土遺物(17) ..	247
第150図	H-5グリッド出土遺物(12) ..	197	第187図	H-6グリッド出土遺物(18) ..	248
第151図	H-5グリッド出土遺物(13) ..	198	第188図	H-6グリッド出土遺物(19) ..	249
第152図	H-5グリッド出土遺物(14) ..	199	第189図	H-6グリッド出土遺物(20) ..	250
第153図	H-5グリッド出土遺物(15) ..	200	第190図	H-6グリッド出土遺物(21) ..	251
第154図	H-5グリッド出土遺物(16) ..	201	第191図	H-6グリッド出土遺物(22) ..	252
第155図	H-5グリッド出土遺物(17) ..	202	第192図	H-6グリッド出土遺物(23) ..	253
第156図	H-5グリッド出土遺物(18) ..	203	第193図	H-6グリッド出土遺物(24) ..	254
第157図	H-5グリッド出土遺物(19) ..	204	第194図	H-6グリッド出土遺物(25) ..	255
第158図	H-5グリッド出土遺物(20) ..	205	第195図	H-6グリッド出土遺物(26) ..	256
第159図	H-5グリッド出土遺物(21) ..	206	第196図	H-6グリッド出土遺物(27) ..	257
第160図	H-5グリッド出土遺物(22) ..	207	第197図	H-6グリッド出土遺物(28) ..	258
第161図	H-5グリッド出土遺物(23) ..	208	第198図	H-6グリッド出土遺物(29) ..	259
第162図	H-5グリッド出土遺物(24) ..	209	第199図	H-6グリッド出土遺物(30) ..	260
第163図	H-5グリッド出土遺物(25) ..	210	第200図	H-6グリッド出土遺物(31) ..	261
第164図	H-5グリッド出土遺物(26) ..	211	第201図	H-6グリッド出土遺物(32) ..	262
第165図	H-5グリッド出土遺物(27) ..	212	第202図	H-6グリッド出土遺物(33) ..	263
第166図	H-5グリッド出土遺物(28) ..	213	第203図	H-6グリッド出土遺物(34) ..	264
第167図	H-5グリッド出土遺物(29) ..	214	第204図	H-6グリッド出土遺物(35) ..	265
第168図	H-6グリッド検出遺構	220	第205図	H-6グリッド出土遺物(36) ..	266
第169図	H-6グリッド時期別濃淡図 ..	221	第206図	H-6グリッド出土遺物(37) ..	267
第170図	H-6グリッド出土遺物(1) ..	231	第207図	H-6グリッド出土遺物(38) ..	268
第171図	H-6グリッド出土遺物(2) ..	232	第208図	H-6グリッド出土遺物(39) ..	269
第172図	H-6グリッド出土遺物(3) ..	233	第209図	H-6グリッド出土遺物(40) ..	270
第173図	H-6グリッド出土遺物(4) ..	234	第210図	H-6グリッド出土遺物(41) ..	271
第174図	H-6グリッド出土遺物(5) ..	235	第211図	H-6グリッド出土遺物(42) ..	272
第175図	H-6グリッド出土遺物(6) ..	236	第212図	H-6グリッド出土遺物(43) ..	273
第176図	H-6グリッド出土遺物(7) ..	237	第213図	H-6グリッド出土遺物(44) ..	274
第177図	H-6グリッド出土遺物(8) ..	238	第214図	H-6グリッド出土遺物(45) ..	275
第178図	H-6グリッド出土遺物(9) ..	239	第215図	H-6グリッド出土遺物(46) ..	276

第216図	H-6グリッド出土遺物 (47) ..	277	第245図	H-6グリッド出土遺物 (76) ..	306
第217図	H-6グリッド出土遺物 (48) ..	278	第246図	H-6グリッド出土遺物 (77) ..	307
第218図	H-6グリッド出土遺物 (49) ..	279	第247図	H-6グリッド出土遺物 (78) ..	308
第219図	H-6グリッド出土遺物 (50) ..	280	第248図	H-6グリッド出土遺物 (79) ..	309
第220図	H-6グリッド出土遺物 (51) ..	281	第249図	H-6グリッド出土遺物 (80) ..	310
第221図	H-6グリッド出土遺物 (52) ..	282	第250図	H-6グリッド出土遺物 (81) ..	311
第222図	H-6グリッド出土遺物 (53) ..	283	第251図	H-6グリッド出土遺物 (82) ..	312
第223図	H-6グリッド出土遺物 (54) ..	284	第252図	H-6グリッド出土遺物 (83) ..	313
第224図	H-6グリッド出土遺物 (55) ..	285	第253図	H-6グリッド出土遺物 (84) ..	314
第225図	H-6グリッド出土遺物 (56) ..	286	第254図	H-6グリッド出土遺物 (85) ..	315
第226図	H-6グリッド出土遺物 (57) ..	287	第255図	H-6グリッド出土遺物 (86) ..	316
第227図	H-6グリッド出土遺物 (58) ..	288	第256図	H-6グリッド出土遺物 (87) ..	317
第228図	H-6グリッド出土遺物 (59) ..	289	第257図	H-6グリッド出土遺物 (88) ..	318
第229図	H-6グリッド出土遺物 (60) ..	290	第258図	H-6グリッド出土遺物 (89) ..	319
第230図	H-6グリッド出土遺物 (61) ..	291	第259図	H-6グリッド出土遺物 (90) ..	320
第231図	H-6グリッド出土遺物 (62) ..	292	第260図	H-6グリッド出土遺物 (91) ..	321
第232図	H-6グリッド出土遺物 (63) ..	293	第261図	H-6グリッド出土遺物 (92) ..	322
第233図	H-6グリッド出土遺物 (64) ..	294	第262図	H-6グリッド出土遺物 (93) ..	323
第234図	H-6グリッド出土遺物 (65) ..	295	第263図	H-6グリッド出土遺物 (94) ..	324
第235図	H-6グリッド出土遺物 (66) ..	296	第264図	H-6グリッド出土遺物 (95) ..	325
第236図	H-6グリッド出土遺物 (67) ..	297	第265図	H-6グリッド出土遺物 (96) ..	326
第237図	H-6グリッド出土遺物 (68) ..	298	第266図	H-6グリッド出土遺物 (97) ..	327
第238図	H-6グリッド出土遺物 (69) ..	299	第267図	H-6グリッド出土遺物 (98) ..	328
第239図	H-6グリッド出土遺物 (70) ..	300	第268図	H-6グリッド出土遺物 (99) ..	329
第240図	H-6グリッド出土遺物 (71) ..	301	第269図	H-6グリッド出土遺物 (100) ..	330
第241図	H-6グリッド出土遺物 (72) ..	302	第270図	H-6グリッド出土遺物 (101) ..	331
第242図	H-6グリッド出土遺物 (73) ..	303	第271図	H-6グリッド出土遺物 (102) ..	332
第243図	H-6グリッド出土遺物 (74) ..	304	第272図	H-6グリッド出土遺物 (103) ..	333
第244図	H-6グリッド出土遺物 (75) ..	305			

表目次

(第1分冊)

第1表	環状盛土・環状貝塚関連遺跡一覧	11	第18表	G-5グリッド	
第2表	F-4グリッド		出土復元土器観察表	102	
	出土復元土器観察表	36	第19表	G-5グリッド	
第3表	F-4グリッド		出土破片土器観察表	102	
	出土破片土器観察表	36	第20表	G-5グリッド	
第4表	F-4グリッド		出土土製品観察表	103	
	出土土製品観察表	37	第21表	G-5グリッド	
第5表	F-4グリッド		出土土製円盤観察表	104	
	出土土製円盤観察表	37	第22表	G-5グリッド	
第6表	F-4グリッド		出土耳飾り観察表	104	
	出土石器観察表	37	第23表	G-5グリッド	
第7表	F-5グリッド		出土石器観察表	104	
	出土復元土器観察表	61	第24表	G-6グリッド	
第8表	F-5グリッド		出土復元土器観察表	165	
	出土破片土器観察表	61	第25表	G-6グリッド	
第9表	F-5グリッド		出土破片土器観察表	166	
	出土土製品観察表	62	第26表	G-6グリッド	
第10表	F-5グリッド		出土土製品観察表	169	
	出土土製円盤観察表	62	第27表	G-6グリッド	
第11表	F-5グリッド		出土土製円盤観察表	169	
	出土石器観察表	63	第28表	G-6グリッド	
第12表	F-6グリッド		出土耳飾り観察表	169	
	出土復元土器観察表	66	第29表	G-6グリッド	
第13表	F-6グリッド		出土石器観察表	169	
	出土破片土器観察表	66	第30表	G-6グリッド	
第14表	F-6グリッド		出土骨製品観察表	171	
	出土土製品観察表	66	第31表	G-7グリッド	
第15表	G-4グリッド		出土復元土器観察表	182	
	出土復元土器観察表	74	第32表	G-7グリッド	
第16表	G-4グリッド		出土破片土器観察表	182	
	出土破片土器観察表	74	第33表	G-7グリッド	
第17表	G-4グリッド		出土土製円盤観察表	182	
	出土石器観察表	74	第34表	G-7グリッド	

	出土石器観察表	182		出土復元石器観察表	333
第 35 表	H-5 グリッド		第 42 表	H-6 グリッド	
	出土復元石器観察表	214		出土破片石器観察表	335
第 36 表	H-5 グリッド		第 43 表	H-6 グリッド	
	出土破片石器観察表	215		出土土製品観察表	341
第 37 表	H-5 グリッド		第 44 表	H-6 グリッド	
	出土土製品観察表	216		出土土製円盤観察表	341
第 38 表	H-5 グリッド		第 45 表	H-6 グリッド	
	出土土製円盤観察表	216		出土耳飾り観察表	342
第 39 表	H-5 グリッド		第 46 表	H-6 グリッド	
	出土耳飾り観察表	217		出土石器観察表	342
第 40 表	H-5 グリッド		第 47 表	H-6 グリッド	
	出土石器観察表	217		出土骨製品観察表	344
第 41 表	H-6 グリッド				

写真図版

(第 1 分冊)

巻頭図版 1	1	南盛土出土土器 (精製土器 1)	3	G-6 グリッド出土土器
	2	南盛土出土土器 (精製土器 2)	4	I-6 グリッド出土土器
巻頭図版 2	1	南盛土出土土器 (浅鉢他)	5	K-8 グリッド出土土器
	2	I-7 グリッド出土土器		

I 発掘調査の概要

1 発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所では「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】」に基づき、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業として、利根川右岸の堤防を拡幅し、強化する事業を進めている。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課では、国が実施するこうした公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、従前より関係部局と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財の所在及び取扱いについては、利根川上流河川事務所長から平成17年1月20日付け利上沿第18号で、埼玉県教育委員会教育長あて、埋蔵文化財の所在及びその取扱いについて照会がなされた。

事業予定区域内には埼玉県指定旧跡や周知の埋蔵文化財包蔵地が所在すること、埋蔵文化財の詳細な状況等を把握するための確認調査を実施する必要がある旨を、平成17年3月17日付け教生文第1780号で回答した。

当該箇所はこの回答の時点では周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、平成18年秋に事業予定地すべての現地踏査を行い、さらには明治時代の地形図等と照合し、確認調査の必要箇所の絞り込みを行った。当該箇所については平成21年5月後半から6月にかけて確認調査を実施した。その結果、縄文時代・平安時代を中心とした遺構、遺物が確認され、この箇所は長竹遺跡（No.69-038）として平成21年6月16日に遺跡台帳に登録された。

上記の埋蔵文化財の所在が明確になったことから、平成21年6月24日付け教生文第623-1号で工事計画上やむを得ず現状を変更する場合は、記録保存のための発掘調査の実施が必要な旨を回

答し、取扱いについて協議を重ねたが、現状保存が困難であることから記録保存の措置を講ずることとなった。

本遺跡は、膨大な遺構、遺物が検出されたことから、計5箇年の調査を実施した。調査にあつては、発掘調査実施機関である公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団（平成23年度までは財団法人）と、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、生涯学習文化財課（当時）の三者で、工事日程、調査計画、調査期間などについて定期的に会議を開催し、各種の調整を行った。

なお、平成24年6月、遺跡が北西に延伸していることが確認され、平成24年6月13日付けで長竹遺跡の範囲拡大の変更増補を行った。この範囲を含めた文化財保護法第94条の規定による国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長からの埋蔵文化財発掘通知と、それに対する埼玉県教育委員会教育長からの勧告は下記のとおりである。

平成22年4月9日付け教生文第4-1001号

平成23年3月18日付け教生文第4-1404号

平成24年2月16日付け教生文第4-1336号

また、同法第92条の規定による発掘調査届が公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出され、それに対する埼玉県教育委員会教育長からの指示通知は下記のとおりである。

〔1次調査〕

平成22年4月23日付け教生文第2-8号

〔3次調査〕

平成24年4月20日付け教生文第2-9号

（埼玉県教育局市町村支援部文化資源課）

2 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

本書に係る長竹遺跡の発掘調査は、平成22年度（第1次）・平成24年度（第3次）に実施した。調査の対象面積は、6,450㎡である。

平成22年度（第1次調査）

長竹遺跡第1次の発掘調査は、平成22年5月1日から平成23年3月31日まで実施した。調査対象はA区第一面の南半、B区第一・二面、調査面積は3,289㎡であった。

5月中旬に調査区の保護と安全確保のため、囲柵工事を行い、発掘事務所を設置した。

6月上旬から重機による表土除去をB区で開始した。その後、人力による遺構の確認作業に着手し、遺構精査を実施した。中旬に基準点測量を業者に委託し、B区に基準杭を打設した。これを基にB区の断面図・平面図等を作成し、写真撮影を行った。

8月中旬に重機によりB区の第一面をさらに掘削し、遺構確認・精査を行った。

9月中旬にB区第一面の遺構精査・記録類の作成を終了し、空中写真の撮影を行った。

10月中旬には重機による表土除去をA区で開始し、人力による遺構確認・精査を実施した。下旬にA区に基準杭を打設した。これを基にA区の断面図・平面図等を作成し、写真撮影を行った。

11月上旬にはB区第二面の調査のため、重機による上層土の除去を行った。盛土調査の対象面積は50㎡であった。

12月上旬にB区に基準杭を打設した。B区全面に広がる遺物包含層を全面的に掘り下げたことから、2月上旬に再度B区に基準点を打設した。その後、遺構確認・精査を行った。

2月下旬に調査をほぼ終了し、B区第二面の空中写真の撮影を行った。

3月上旬までに遺構精査・記録作業を終了し、B区の埋め戻しを行った。3月31日にすべての

作業を終了した。

平成24年度（第3次調査）

長竹遺跡第3次の発掘調査は、平成24年4月6日から平成25年3月31日まで実施した。調査対象はA区第二面で、調査面積は3,161㎡であった。

調査は、4月から9月まで北盛土を、10月から翌年3月までは南盛土を中心に行った。

4月中旬に重機で表層土の除去を行い、第二面の遺構検出面を露出した。その後、人力による遺物包含層の掘削を行い、適宜遺構の確認作業を行い、遺構精査を行った。

5月上旬には北盛土の基準点測量を実施した。これを基に遺構の実測と遺物の取り上げを実施し、写真撮影を行った。

遺物包含層の掘削に伴い、一部の基準杭を抜去したため、7月下旬に補足的な基準点測量を実施した。

9月上旬には空中写真の撮影を行い、下旬には北盛土の調査を終了した。

10月上旬に南盛土の基準点測量を実施し、その後、遺物包含層の掘削と遺構の調査に着手した。

1月中旬には、それまでC区の南側に設置していた発掘調査事務所をD区の北側に移設した。下旬には旧事務所および調査を終了した部分の囲柵を撤去した。また、調査の進捗に伴い、補足的な基準点測量を実施した。

3月下旬には発掘器材及び図面・遺物を引き上げ、発掘調査事務所を閉鎖して年度内の作業を終了した。

(2) 整理・報告書作成

本書に係る長竹遺跡の整理・報告書作成作業は、平成30・31年度に実施した。

平成30年度

平成30年4月1日から平成31年3月31日ま

で実施した。

長竹遺跡南盛土の包含層からは27リットル入りコンテナ1300箱分の遺物が出土した。4月上旬からこれらの遺物の水洗・注記作業を行い、3月末までに456箱分を終了した。

4月上旬から遺物の接合と復元作業を開始した。この作業と並行して報告書に掲載する遺物の抽出作業を行った。

抽出した遺物の実測は、4月上旬から開始した。復元した遺物は、3スペース、オルソイメージャー等の遺物実測支援システムを使用して素図を作成し、これを基に遺物の実測図を作成した。

完成した実測図は順次トレースを行い、スキャナーでパソコンに取り込み、遺物版下図の作成に備えた。

また、この作業と並行して抽出した土器片の拓本を採取し、断面実測を行った。断面実測図はトレースを順次行った。完成した拓本・断面実測図のトレースは、遺物の実測図同様スキャナーでパソコンに取り込んだ。その後、画像処理ソフトでゴミ取りを行い、遺物図版の作成に備えた。

遺物を計測して観察表を作成し、原稿執筆に備えた。

4月上旬から遺構原図の修正と照合を行い、第二原図を作成した。

完成した第二原図は9月上旬からスキャナーでパソコンに取り込み、描画ソフトを使用してトレースし、キャプションや土層注記をレイアウトして、印刷用の版下を作成した。

11月下旬には巻頭写真および縄文土器の展開写真の委託撮影を実施した。

2月上旬から遺物の写真撮影を開始した。遺物の量が膨大であったため、数度に分けて撮影を行った。

11月上旬から文字原稿の執筆を開始した。

平成31年度

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで実施した。

4月上旬から前年度に引き続き各種の作業を再開した。

7月末までに844箱分の水洗・注記を終了し、南盛土の包含層から出土した全ての遺物の水洗注記作業が完了した。

遺物の接合復元作業についても7月末までに終了した。

復元した遺物は、3スペース、オルソイメージャー等の遺物実測支援システムを活用して素図を作成することで、遺物を実測する際の効率化を図った。遺物の実測および拓本の採取と断面実測図の作成は10月末までに終了した。

完成した実測図と拓本・断面実測図は順次スキャナーでパソコンに取り込み、11月末までに終了した。取り込んだ画像を描画ソフト上でレイアウトし、キャプションやスケールを貼り込み、遺物版下図を作成し、12月末までに完成した。

遺構原図の第二原図を9月末までに終了した。この作業と並行して順次描画ソフトを使用してトレースをし、印刷用の版下は11月末までに完成した。

10月上旬から遺物の写真撮影を再開し、11月末には全ての遺物の撮影を終了した。12月末には写真図版が完成した。

12月末に全ての文字原稿と版下が完成し、割付・編集作業を行った後、印刷業者に入稿した。その後、3回の校正を経て、令和2年3月23日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第461集『長竹遺跡Ⅳ』（本書）を刊行した。

図面や写真等の記録類や遺物は、3月末に整理・分類のうえ、埼玉県文化財取納施設の取蔵庫へ仮収納した。

3 発掘調査・報告書作成の組織

平成22年度（発掘調査）

理 事 長	藤野 龍 宏	調 査 部	
常務理事兼総務部長	萩本 信 隆	調 査 部 長	小野 美代子
総務部		調 査 部 副 部 長	昼間 孝 志
総務部 副部長	金子 直 行	主幹兼調査第一課長	富田 和 夫
総務課 長	田中 雅 人	主 査	岩瀬 謙 二
		主 査	黒坂 禎 二
		主 査	吉田 道 則
		主 査	大屋 道 則
		主 事	大和田 隆

平成24年度（発掘調査）

理 事 長	中村 英 樹	調 査 部	
常務理事兼総務部長	根本 勝	調 査 部 長	昼間 孝 志
総務部		調 査 部 副 部 長	鱒持 和 夫
総務部 副部長	富田 和 夫	調 査 第 二 課 長	黒坂 禎 二
総務課 長	矢島 将 和	主 査	山本 靖
		主 査	青木 弘
		主 査	大和田 隆
		主 査	高橋 岳
		主 事	高屋敷 飛 鳥

平成30年度（整理・報告書作成）

理 事 長	藤田 栄 二	調 査 部	
常務理事兼総務部長	川目 晴 久	調 査 部 長	瀧瀬 芳 之
総務部		調査部副部長兼整理第二課長	山本 靖
総務部 副部長	田中 広 明	主 査	渡辺 清 志
総務課 長	新井 了 悟	主 任 専 門 員	細田 勝
		主 事	入江 直 毅

令和元年度（整理・報告書作成）

理 事 長	藤田 栄 二	調 査 部	
常務理事兼総務部長	高津 導	調 査 部 長	黒坂 禎 二
総務部		調査部副部長兼整理第一課長	上野 真由美
総務部 副部長	山本 靖	整 理 第 二 課 長	福田 聖
総務課 長	新井 了 悟	主 任 専 門 員	金子 直 行
		主 事	入江 直 毅

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

長竹遺跡は埼玉県の北東部に位置し、東武伊勢崎線加須駅から約7km北方の加須市大字越に所在する。

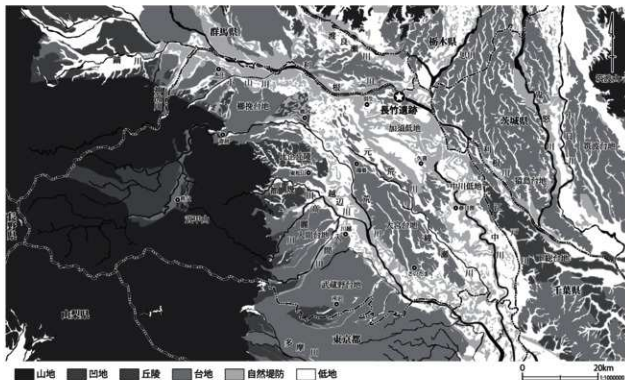
遺跡の北東側には現在の利根川が東流する。堤防からは大河の川面とともに関東地方を縁取る八国の山並みや、屋敷林が点在する利根川右岸の田園風景を見渡すことができる。

現在、遺跡周辺の地形は加須低地に分類されている(第1図)。県土中の河川面積が日本一である埼玉県では、加須低地の他にも東部に妻沼低地・荒川低地・中川低地が広がっている。この三低地は更新世の渡良瀬川・利根川・荒川などによる開析谷が埋積した低地である。上記の低地に対して加須低地は、利根川の氾濫土が基盤の台地を覆った、いわば見かけの低地といえる。

本来、加須市を含む旧北埼玉郡域の大半は、川口市北部から群馬県東毛地域へと連なる大宮・

館林台地の一部であった。しかし、現在の東京湾岸から中川低地に沿うように「関東造盆地運動」が進行し、利根川が流路を東に変えた結果、この一帯に氾濫土が被覆し、河畔砂丘や自然堤防が点在する現在の地形へと変化したとされている。羽生・加須の市境付近では、埋没台地が地表下4mで見つかることもある。

利根川の変遷時期と具体的な流路については未だ定まった見解がない。旧利根川の流路変遷に伴う活発な氾濫・堆積作用を繰り返した痕跡が、加須市志多見・道目や羽生市砂山など、行田・加須・羽生地域で自然堤防として現在でも起伏のある地形を残している。これらの自然堤防の連なりから、羽生市川俣で利根川と分かれ加須市街地を東西に横切る会の川を古代までの本流筋とするのが大勢である。時代が降って、17世紀初頭に実施された徳川幕府による利根川の東遷事業直前に



第1図 埼玉県の地形図

は、長竹遺跡の downstream 約 2 km から南に逸れる浅間川が本流筋であった。ただし、両河川の縮め切り年代（会の川1594年、浅間川1621年）からすると、この段階の両河川は一定の川幅で並流していたと推測できる。

周辺の水系を詳しく見ると、現在の利根大堰を要として、沈降幅の大きい東南東へと流下する多くの分流が小さなデルタを形成している様子がうかがえる。これらの周辺には大小さまざまな自然堤防が形成され、さらに氾濫で刻まれた新たな流路が自然堤防を浸食・分断し、地形を一層複雑にしている。

今回の調査は利根川右岸の堤防拡張に伴う事前調査である。今回の調査に先行して、羽生市村君から久喜市栗橋までの約13kmにわたって埋蔵文化財包蔵地の所在を確認する調査を実施している。その調査結果によると、利根川に沿う長竹遺跡の調査区のうち、最も下流側に位置するC区は、調査区の南東端で急激にローム台地が落ち込む。村君地区から断続的に確認できたローム台地は長竹遺跡を最後に途切れ、遺跡よりも下流側では確認できていない。

2 歴史的環境

長竹遺跡の特徴である環状盛土遺構は、大宮台地を中心とする関東地方内陸の北東部に分布している。その一方で東京湾東岸の環状貝塚群との類似性も指摘されている。

ここでは縄文時代後期から晩期の集落遺跡の分布について広域的に概観していく（第2図）。

加須低地～栃木県南部

長竹遺跡（1）の3km上流には羽生市発戸遺跡（2）が所在する。発掘調査は行われていないものの、土取り工事の際に完形の土面とともに大量の縄文時代後期から晩期の遺物が出土し、同時期の集落跡の存在が推定されている。遺跡の西限を画す現道は、中心と考えられる神社を囲むように

現利根川の左岸に位置する群馬県館林地域では、赤城山南麓に展開する大間々扇状地を回り込み東流する利根川支流の谷田側に沿うように館林一邑築台地が広がっている。これらの台地は、関東造盆運動や利根川による氾濫堆積の影響を大きく受けることなく旧地形をとどめている。

長竹遺跡の下流側は、渡良瀬川の広大な氾濫原となり、多くの輪中やデルタが形成されている。加須市北川辺地区は、渡良瀬川と現在の利根川に挟まれた大きな輪中地帯となっている。北隣には、足尾銅山鉱毒事件で有名な渡良瀬遊水地が広がる。渡良瀬遊水地の西側は栃木県となり、藤岡台地が帯状に繋がる。また、遊水地東側に沿って南流する思川の左岸に位置する栃木県野木町や茨城県古河市には、猿島台地が広がる。

以上のように、今日における長竹遺跡の地形は、足尾山系に端を発し、渡良瀬川をはじめとする南流した河川によって開削された大宮・館林台地を起点とする。この台地が、関東造盆運動による地盤沈降の影響と、利根川の流路を東遷させたことによる沈降部への氾濫土の被覆の結果、現在の複雑な地形が形成されたものと考えられる。

半円を描いており、かつて地表にあった環状盛土遺構を避けて道筋が定まったものと思われる。

利根川を挟んだ対岸の館林台地上には板倉町板倉遺跡（3）が位置する。板倉遺跡は晩期安行式土器の基準資料が採取された遺跡である。出土した土器の文様や土偶・土製品・石製品などに長竹遺跡との類似点が多く認められる。

渡良瀬川を挟んだ藤岡台地上には、谷を取り巻いて環状の遺物包含層を形成する栃木市藤岡神社遺跡（4）が所在する。後期後半では床面に焼土を貼った平式式住居が主体となっている。複数の動物形土製品、特に犬形のものが出土するなど、長竹遺跡との共通点が多い。

さらに10kmほど北の足尾山地南縁に立地する同後藤遺跡(5)には、窪地を巡る直径160mの環状の高まりがかつて存在したという。

渡瀬瀬遊水地に面した藤岡台地の縁辺部には、同中根八幡遺跡が位置し、直径約120mの環状盛土遺構が存在する。湧水に近い斜面側の調査区で、地表下約2mの深さに関東ローム層が残っており、その上に後期中葉から後葉を主体とする黒色土が堆積している。さらに上層には、ローム層が再堆積しており、後期後葉を中心とし、晩期中葉の安行3d式を含む。

思川低地を挟んだ東岸の河岸段丘上に立地する小山市乙女不動原北浦遺跡(6)では、谷に面して4箇所(遺物包含層)が存在する。住居跡群とは占地を別にした晩期の土壇墓群では、覆土中や上面に小型の精製土器が出土するなど、長竹遺跡の土壇墓群との共通性が見受けられる。

さらに約10km北東の鬼怒川と田川に挟まれた結城台地の付け根には、同守野東遺跡(7)が存在する。外径約165mの環状盛土遺構を伴う集落跡とともに、水場遺構などといった周辺の土地利用を一括して把握し、環状盛土研究の嚆矢となった。また、盛土の構築に伴う中央窪地の掘り下げを確認し、それらが自然地形ではなく人為的な構築物であることを証明したことの意味は大きい。

大宮台地

元荒川及びその支流によって開析された台地東半部と、見沼の谷に開析された台地南部を中心に多くの遺跡が知られている。

桶川市後谷遺跡(8)は元荒川筋の右岸谷奥に立地する。台地の平坦面上に環状盛土遺構を伴う集落跡が存在し、後期末から晩期の住居跡が発見されている。これを取り巻く低地部からは遺物包含層とともに後期の水場遺構が確認されている。中空のみみずく土偶や各種土製品、櫛や飾弓といった多量の漆製品が出土した。

後谷遺跡より10kmほど北西の加須低地西端の埋

没台地上には、やはり環状盛土遺構を伴う鴻巣市赤城遺跡が位置する。谷を取り巻く台地上に居住域を形成しており、盛土の一面では後期の水場遺構が発見された。中央窪地からは完形土器が集中する地点と、土偶・石棒などを集積した祭祀遺物が集中する地点が確認された。

綾瀬川右岸に立地する伊奈町本上遺跡(14)では、径が100mを超える環状盛土遺構の存在が指摘されている。平成27年度に伊奈町教育委員会により盛土外縁部の発掘調査が行われている。調査の結果、3軒の住居跡が発見され、多くの土偶を含む大量の遺物が出土した。

元荒川左岸の蓮田支台では、本流に面した台地縁辺部に蓮田市久台遺跡(19)、現在久台遺跡の一部として登録されている同ささら遺跡(20)が所在する。久台遺跡は後期前葉の集落跡と、晩期を主体とする遺物包含層を伴う集落跡の二地点で構成されている。晩期の包含層からは多量の遺物が出土しており、なかでも亀形土製品が出土したことで知られている。晩期の集落跡はささら遺跡に接しており、ささら遺跡はこの集落に伴う谷部の遺物包含層と思われる。

蓮田支台北端部から加須低地へと移行する地域には鳥状の微高地群が点在している。その中のひとつに久喜市小林八東1遺跡(17)・同地獄田遺跡(16)がある。

小林八東1遺跡では後期後葉から晩期後半にかけて盛土が形成され、盛土内からは住居跡や土壇が確認された。盛土の範囲や形態を推定することは困難であるが、調査区の東側に広がっていたと考えられる。盛土調査後の地形を見ると、盛土が形成された範囲には地形的な高まりを確認できた。また、盛土の北側には西側に開口部をもつと思われる谷も存在する。これらの点から、こうした地形を利用しつつ盛土が形成された可能性が指摘されている。また、調査区の北端付近では、中空のみみずく土偶を含む安行3a式から3c式を中心

とした祭祀遺物が集中する地点や同時期の土器が集中する地点が確認された。

地獄田遺跡は埋没したローム台地の縁辺部に立地する遺跡で、谷を囲むように住居跡や竪穴状の遺構が発見された。確認された住居跡は6軒で、曾谷式から晩期安行式土器が出土した。また、土偶や耳飾り・石棒・石剣などの祭祀遺物が集中する場所も存在した。

蓮田支台の南に接続する岩槻支台には、さいたま市真福寺貝塚(21)・同黒谷田端前遺跡(22)が存在する。

真福寺貝塚は西の綾瀬川から入り込む開析谷の谷奥に立地する。大正時代から発掘調査が繰り返され、台地上には主淡貝塚を伴う後期から晩期の集落跡、隣接した低地部には同時期の遺物を含む泥炭層が存在していることで知られている。平成5・6年度に実施された地下レーダー探査では、直径約150mの環状に地点貝塚が分布し、貝層の下面には竪穴住居跡や土壌が存在した。

黒谷田端前遺跡は地点貝塚(黒谷南貝塚)を伴う中期から晩期の集落跡で、元荒川から入り込む開析谷の谷奥に立地する。昭和49年の調査で確認された住居跡はすべて中期のものだが、「谷」と認識された平坦な窪地部分ではローム直上を晩期前半から中葉の遺物包含層が覆っており、安行3b式から3c式期の完形土器が集中する地点が存在した。

蓮田支台と元荒川を挟んで対峙する白岡支台では、南端部の元荒川と日川の合流点から入り込む谷奥に蓮田市雅楽谷遺跡(25)が位置する。後期から晩期の環状盛土遺構を伴う集落跡で、窪地を取り囲む環状の高まりは現地表面でも明瞭に観察できる。確認された環状盛土遺構は、長径160m、短径110mで、中央部に径40~45mの窪地を有する。盛土の東部分を横断する形で行われた第1次調査では後期前葉から晩期に至る住居跡が密集して発見された。盛土南縁を広く対象とした第2次

調査では加曽利B1式期と安行2式期の住居跡が各1軒確認できた程度である。地点ごとの空間利用に違いがあったものとみられる。現在までに中央窪地部分の調査は行われていない。ただし、第2次調査で盛土上層がローム粒子を多く含む土層であり、この層から主に安行3c式期の土器が出土した。このことから、この時期に中央窪地部分への働きかけが強まったものと考えられる。

雅楽谷遺跡から約0.7km北の日川沿いの埋没台地上には白岡市前田遺跡(24)が広がっている。面積約80,000㎡の広大な遺跡だが、詳細は明らかになっていない。白岡町教育委員会(当時)の発掘調査では土壌群と盛土の可能性のある遺物包含層を確認し、晩期中葉の土器群が出土した。

前田遺跡から約2.5km西の元荒川沿いの台地縁辺には同入耕地遺跡(23)・同正福院貝塚が存在する。両者は本来単一の遺跡とみられ、双方にまたがる環状盛土遺構の存在が想定されている。

前田遺跡から日川を挟んで対岸の慈恩寺支台には同清左衛門遺跡(26)が位置する。遺跡は台地に深く入り込んだ低湿地に面している。後期から晩期の集落跡は、台地縁辺部の居住域と低地部の包含層及び水場遺構で構成されている。盛土の存在は確認できていないが、白岡町教育委員会(当時)による発掘調査では遺跡に入り込む谷をローム質土が埋めている様子を観察している。

主台南端の見沼沿岸では、さいたま市馬場小室山遺跡(13)と、同前窪遺跡(12)がきわめて近接して存在する。

馬場小室山遺跡は見沼低地から入り込む開析谷の谷奥に立地する。早期から晩期に至る幅広い時期の遺構・遺物が出土した。なかでも後・晩期安行式期の遺構は直径50m、高低差3mほどの窪地を中心に約100mの範囲に集中し、盛土中に重層的に残っていた。第32次調査で確認した第13・14号土壌は、長径4.28m×短径3.94m、深さ3.20mの大型の土壌で、数度の「掘り返し」

を観察し、完形土器を含む後期後葉から晩期後葉にかけての遺物が層位的に出土した。鈴木正博はこれを数世代にわたり同一地点に追葬行為を繰り返した「積層墓」と定義している。

前窪遺跡は馬場小室山遺跡と隣り合う開析谷の奥に立地する。集落跡は谷状の窪地を巡って占地し、住居跡の時期は大洞A式期まで継続する。

上流右岸の同氷川神社遺跡(10)では近年になって環状盛土遺構の存在が明らかになった。発掘調査では、盛土中に後期から晩期の住居跡が重層的に存在することが明らかになっている。氷川神社遺跡の東にある低地部分には、丸木舟や櫂などが出土し、縄文時代における低地利用のありかたを明らかにした同寿能泥炭層遺跡(11)が位置する。

見沼低地が荒川低地に向けて開口する左岸側で、安行支台の付け根部分には、川口市石神貝塚(15)が所在する。多方向から樹枝状に開析された平坦面上に占地する集落景観は、後出する下総台地周辺の遺跡に近い。主に加曾利B2式期に形成された盛土の上面に後・晩期安行式期の生活面が存在する。第12次調査で確認された第1号住居跡は新旧2面の生活面を有する。このうち新段階の住居跡は大量の焼土によって貼り床されており、時期は安行3c式期と考えられている。また、第9次調査で発見された第3号住居跡は、加曾利B2式の竅穴住居跡で、床面直上には大量の焼土が堆積していた。これに隣接して「焼土遺構」が存在しており、両者は確認面や出土遺物の時期、出土する動物遺存体の種などが一致しており、同時に存在したかと思われる。焼土遺構から出土する骨片はすべて亀裂が入るまで焼かれており、焼土上面からは翡翠製の垂飾が出土した。

類似の焼土遺構は寺野東遺跡でも確認されており、長竹遺跡の焼土住居跡の由来や、焼土の供給源を考えるうえで重要な事例となるだろう。

貝塚の東に入り込む谷部は後期中葉の遺物包含

層で埋まっており、晩期中葉にはほぼ平坦になっていたと考えられる。また、隣接する低地部からは木組みの水場遺構が存在した。

石神貝塚の北約1kmの地点には同宮合貝塚が位置する。第12次調査B地点では中央窪地に該当する部分の発掘調査が行われた。窪地の斜面下方では関東ローム層の第一黒色帯が露出し、この上を晩期中葉の包含層である再堆積ローム層が覆っていた。窪地には安行3c式期の完形遺物が集中する地点が存在する。また、同時期の楕円形の土壌群が窪地の縁を巡っており、その覆土からは完形の土器が出土した。

大宮台地西側の荒川低地沿いでは後期から晩期の大規模な集落跡自体があまり知られていない。

桶川市高井東遺跡(9)は台地内河川である江川の谷奥に立地し、そのほぼ全体が発掘調査された。円形の窪地を挟んで対向するように住居跡を配置し、この窪地が谷に向かって開口する部分に墓域と思われる土壌群が位置している。

高井東遺跡から北西約5kmの荒川本流に面した台地上には、北本市宮岡氷川神社遺跡が所在する。本流から入り込む小支谷の最深部に後期から晩期の包含層が形成されて高まりをなし、発掘調査では晩期前半の一辺11mの大型住居跡が確認された。

霞ヶ浦周辺

この地域の貝塚は、樹枝状に開析された谷津地形の谷頭が集まる台地平坦面を取り巻くようにして斜面貝層が形成される斜面貝塚が主体である。

土器製塩に利用したと思われる大型の炉が存在する土浦市上高津貝塚(45)・美浦村陸平貝塚(47)はともに数箇所の斜面貝層によって構成された環状貝塚である。

下総台地～東京湾沿岸

中川低地に面した下総台地西縁には、流山市三輪野山貝塚(28)が位置する。貝塚と環状盛土遺構・中央窪地が確認されたほか、二群からなる晩期の土壌墓や道路状遺構、水場遺構などが調

査された。

また、やや下流寄りの松戸市貝塚(29)も中央窪地を取り巻く対弧状の貝塚集落である。窪地のローム面直上に晩期の遺物包含層が存在することから、人為的な掘削の可能性が指摘されている。

さらに南方の東京低地に面した台地縁辺の市川市では堀之内貝塚(31)・権現原貝塚(30)・道免き谷津遺跡(32)・曾谷貝塚(33)・姥山貝塚(34)などが分布する。

道免き谷津遺跡は堀之内貝塚の台地直下に立地する低湿地遺跡で、後期を中心とする大量の遺物とともに複数の木組み遺構が発見された。

曾谷貝塚、姥山貝塚はいずれも窪地を囲んで貝層が形成される集落跡で、曾谷貝塚ではロームの再堆積が観察された。

現東京湾に面した房総半島西半の養老川河口付近には、いずれも中央窪地を有する市原市西広貝塚(41)と同祇園原貝塚(40)が所在する。

西広貝塚では中央窪地のローム面直上に晩期の遺物包含層が存在した。

祇園原貝塚の第50号住居跡は加曾利B3式期に属する長軸18.2m×短軸17.6mの大型住居跡で、長軸2.72mの大型の炉跡の他に、床面上に炉状の施設が多数分布し、壁際に焼土が20cmの厚さで堆積していた。炉跡及び壁際焼土中からは二次焼成により発泡し変形した土器が複数出土している。胎土分析の結果、1,200度を超える火熱を長時間受けたものとされ、一部は還元炎によるものとされた。

同様の現象は長竹遺跡でも第111号住居跡出土の土器をはじめ、多数認められ、祇園原例はこれに先行するものとして注目される。

さらに南の小櫃川河口部には、現存する房総半島最南部の大型貝塚である袖ヶ浦山貝塚が位置する。やはり中央窪地を巡って大きく3箇所からなる貝層を有する。集落の中心は堀之内式期か

ら加曾利B式期だが、中央窪地付近では後・晩期安行式が卓越する。貝塚の外縁部北東方向から入り込む谷を埋めるようにしてローム質土が堆積しているのを確認し(報文中では「盛土」と記載)、この部分からは晩期前葉の遺物が出土した。また、中央窪地のトレンチ調査ではローム層が0.2～0.3mほど失われ、上面がソフト化していた。

下総台地中央部の佐倉市では印旛沼南岸に井野長割遺跡(36)・吉見台遺跡(37)・曲輪ノ内貝塚(38)が分布する。いずれも中央窪地と環状盛土遺構を伴っており、阿部芳郎によって「谷奥型環状遺丘集落」として定義された。

井野長割遺跡では中央窪地を囲む環状盛土遺構のほか、斜面盛土や谷の埋め立ても確認された。また、盛土中や集落跡外側の斜面に大量の再堆積ロームが存在し、報文ではその起源として中央窪地の掘削を想定している。また、後期前葉から晩期にかけて使用された2条の「道状遺構」を調査している。うち1条は盛土を横切って中央窪地と繋がっており、もう1条は集落の外側にあって支谷の谷頭へ降りる緩斜面に等高線と直交する方向に残っている。この「道状遺構」を挟んで各時期の墓域や居住域、貯蔵穴群などの空間を画然と配置している。このことから、盛土と窪地を伴う集落跡という以外に、「道」を中心とした空間設計をもつ集落跡と結論づけられている。

吉見台遺跡では1972～1973年のトレンチ調査で中央窪地と、これを囲む高まりにおける遺物包含層の存在が判明した。その後の面的調査で後期から晩期の集落跡のほぼ全体が明らかになった(中央窪地は現状保存)。窪地部分に向かって入り込む支谷の斜面部で発見された第84号住居跡は長軸18.2m×短軸17.5mの大型建物跡で、安行3b式から前浦式を主体とする遺物が出土した。また、床面からは中央の炉跡以外に6箇所の焼土が確認された。また、これに隣接して長径10.9m×短径10.6mの第240号住居跡が存在し、やはり

複数の焼土跡が伴っていた。第240号住居跡は安行2式から3a式を伴っており、第84号住居跡に先行する建物であったと考えられる。

このほか、下総台地内部では学史的に重要な千葉市加曾利南貝塚も後期前葉から中葉を主体とする中央窪地型の集落であり、長径19m×短径16mの大型建物跡が発見され、加曾利B2式期のものとされている。

以上、縄文時代後期から晩期の遺跡について、広域な分布を概観した。ほぼ悉皆的に発掘調査が行われた遺跡がある一方で、調査例数が少なく内容がほとんど明らかにされていない遺跡もある。そのため不明瞭な点が多いが、それでも興味深い傾向を指摘することができる。

低地包含層や水場遺構、さらには谷の埋め立てといった低地経営に関わる事象は、大宮台地に濃密に分布している。これは集落の立地や地形的な制約によるものが大きいものと考えられる。

祭祀遺物が集中する地点や完形土器が集中する地点といった、特定の遺物を集積する物送り場的な施設も大宮台地の個性と捉えることができよう。

また、長竹遺跡で確認された集中的な墓域の形成と、土壌内への完形土器の副葬行為は下総台地に濃密で、さらに大宮台地南端部にも飛び火し、現江戸川～鬼怒川筋を経由して館林台地の乙女不動原遺跡にも出現している。

大宮台地においてこの事象に対応する可能性があるのが、馬場小室山遺跡で確認された「積層

墓」と思われる。現在の中川低地を挟んで、葬・墓制をめぐって異なる系譜が存在した可能性も考えられる。大宮台地北東部に立地する高井東遺跡でも集落の切れ目で土壌群が発見されたが、形態や副葬品など、相違点が多い。

墓域の形成や完形土器の副葬と似た分布を示すのが大型住居跡、さらには長竹遺跡の第43号住居跡に代表される焼土住居である。住居跡の床面で焼土を確認する例は後期から晩期の集落遺跡で広く認められる事象であるが、ここまで執拗な「火」へのこだわりは稀有である。石神貝塚や寺野東遺跡には焼土遺構が存在し、石神貝塚のものは住居床面への焼土の供給源と思われる。

長竹遺跡の第43号住居跡や第536号土壌からは極度の火熱により器面が発泡・変形した土器が出土しており、これと同じものが祇園原貝塚でも出土している。また、長竹遺跡では石棒や石皿・玉類・玉斧など、特定の石器で強い被熱の痕跡を示す例が観察できた。

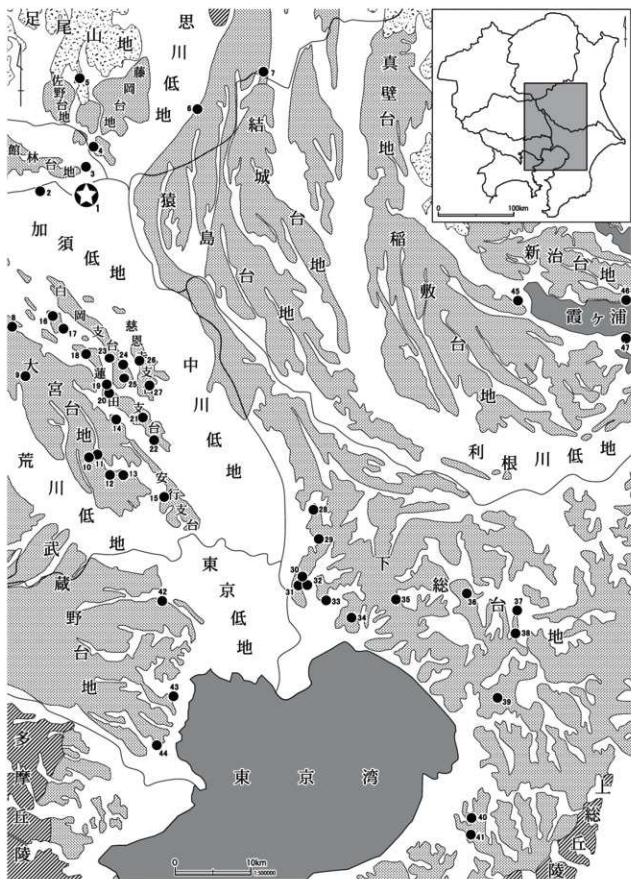
こうした火をめぐる儀礼の系譜はやはり中川低地の東岸を軸として南北に長く連なっているものと考えられる。

以上のように、現中川低地を挟んで中央窪地型集落跡を構成する諸要素において、地域性らしきものの存在が指摘できる。

長竹遺跡の集落跡は、地形的には大宮台地本体と地続きでありながら、北の館林台地、そこから渡良瀬川水系～中川低地東岸を介して接続する下総台地により近い様相を有している可能性がある。

第1表 環状盛土・環状貝塚関連遺跡一覧

1 長竹遺跡	2 壺戸遺跡(羽生市)	3 板倉遺跡(板倉町)	4 藤岡神社遺跡(栃木市)
5 後藤遺跡(栃木市)	6 乙女不動原北浦遺跡(小山市)	7 寺野東遺跡(小山市)	8 後谷遺跡(桶川市)
9 高井東遺跡(桶川市)	10 水川神社遺跡(さいたま市)	11 寿徳院炭層遺跡(さいたま市)	12 前窪遺跡(さいたま市)
13 馬場小室山遺跡(さいたま市)	14 北上遺跡(伊奈町)	15 石神貝塚(川口市)	16 地獄田遺跡(久喜市)
17 小林八束1遺跡(久喜市)	18 井沼遺跡(さいたま市)	19 久台遺跡(蓮田市)	20 さくら遺跡(蓮田市)
21 真福寺貝塚(さいたま市)	22 黒谷田端前遺跡(さいたま市)	23 入船地遺跡(白岡市)	24 前田遺跡(白岡市)
25 雅楽谷遺跡(蓮田市)	26 清久衛門遺跡(白岡市)	27 蕨惠恩寺遺跡(さいたま市)	28 三輪野山貝塚(波田市)
29 貝の花貝塚(松戸市)	30 堀原貝塚(市川市)	31 堀之内貝塚(市川市)	32 道免き谷津遺跡(市川市)
33 曾谷貝塚(市川市)	34 姥山貝塚(市川市)	35 中沢貝塚(鎌ヶ谷市)	36 井野長割遺跡(佐倉市)
37 吉倉台遺跡(佐倉市)	38 曲輪・内貝塚(佐倉市)	39 加曾利貝塚(千葉市)	40 祇園原貝塚(市原市)
41 西広貝塚(市原市)	42 西ヶ原貝塚(北区)	43 伊皿子貝塚(港区)	44 大森貝塚(品川区)
45 上高津貝塚(土浦市)	46 平三坊貝塚(かずさみがうら市)	47 陸平貝塚(美浦村)	



第2図 環状盛り・環状貝塚に関する遺跡の分布図

III 遺跡の概要

長竹遺跡の調査範囲は利根川の堤防に沿って細長い。そのため、調査区を上流から下流に向かってD・A・B・C区と区分した。縄文時代後・晩期の環状盛土遺構は、B区北側の一部とそれに続くA区、さらにA区の西側に接続するD区にまたがっている（第3図）。

「関東造盆地運動」による地盤の沈降と利根川の氾濫の影響で、長竹遺跡における縄文時代以降の堆積土は、最大で厚さ3～4mにも及んでいる。その堆積過程に営まれた縄文時代、古墳時代から古代、中・近世などの文化層は、間層を挟んで重なり合っている。そこで、古墳時代から近世にかけての文化層を第一面として調査し、さらに約1m

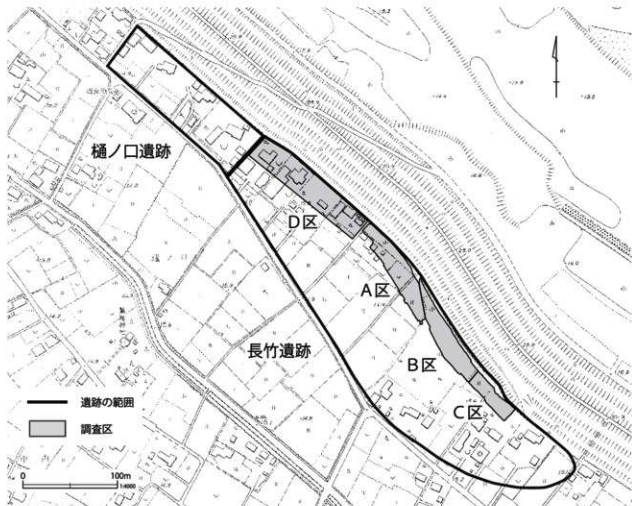
掘り下げた縄文時代の文化層を第二面として調査を実施した。

長竹遺跡の調査面積（表面積）は11,914㎡で、このうち環状盛土遺構の調査面積（表面積）は約8,318㎡である（第4図）。

小さな窪地状の地形の一部を含み調査区を横断する形で盛土遺構を確認した。周辺の地形及び遺物の分布から、推定外径約190m、幅20m以上で、盛土の厚さは平均1.5m、最大1.8mで、周辺地を含めて環状に廻るものと想定できる。

盛土は縄文時代後期後葉から晩期中葉に形成され、帯状の高まりが環状に廻っていた。

発見した環状盛土遺構のうち、A区の窪地と、



第3図 長竹遺跡の位置図

窪地の東側に開口する谷を挟んだ南半部、B区の北側一部を便宜上南盛土と呼称し、A区の北半部とD区南側の低地を除く盛土部分を北盛土と呼称して発掘調査を進めた。

古代、中・近世の文化層である南盛土上層は、発掘調査の結果、地盤の沈降とその後の氾濫堆積によって奈良・平安時代にはほぼ埋没していたことが判明している。そのため、南盛土は後世の開発等による破壊から免れ、きわめて良好な遺存状態で確認することができた。

南盛土の等高線の分布は調査区の中央が最も高く標高14.30mで、ここを頂点とし、盛土の内縁である調査区の北側と、盛土の外縁にあたる調査区の南側に向かって傾斜していた。北側は北西よりの傾斜方向と、西よりの傾斜方向に分かれていた。北西側の窪地に向かっては当初は緩傾斜であったが次第に傾斜角度が急になっていた(第5図)。

調査区を縦断するA区南北ベルトの土層断面を南盛土の基本土層とし、全体の状況を把握した(第6～第8図)。この他に西壁でも土層の堆積状況を確認した(第9～第11図)。

南盛土の等高線と同様、調査区の中央が最も高く、最上層には第I層であるローム質土と縄文時代以降の混土、第II層のローム質土が厚く堆積していた。

中層には第III層として縄文時代晩期中葉を主体とする遺物包含層、第IV層として縄文時代晩期前葉を主体とする遺物包含層が形成されていた。これらの層中及び層位を切って、晩期前葉から中葉の遺構が構築されていた。

下層には第V層として縄文時代後期中葉から後葉にかけての遺物を主体とする包含層、第VI層として縄文時代後期前葉以前の遺物を主体とし、一部ソフトロームとの混土を伴う包含層が形成されていた。

さらに下層には、基盤土壌である第VII層のハー

ドローム層、第VIII層のブラックバンド層、第IX層の下位ハードローム層が堆積していた。

南盛土で確認された遺構は、住居跡29軒・掘立柱建物跡3棟・土壇68基(土壇墓含む)・柱穴列3基・埋堦3基・焼土跡25基・粘土塊3基・グリッドピット1,293基・遺物集中6箇所であった。

後期前葉から晩期中葉にかけての「大形建物址」・住居跡・掘立柱建物跡を主体とする居住域の周囲に、少数の土壇墓・貯蔵穴を含む土壇・多数のグリッドピットなどの遺構が確認された。

南盛土の遺構と比較して、A区の北盛土では後期前葉から晩期中葉にかけての土壇が多く存在した。また、D区の北盛土は環状盛土遺構の最も標高の高い部分から住居跡が多数確認された。その内側及び外側の傾斜面には土壇が多数存在した。

最終的な盛土の形成時期は、晩期中葉である安行3d式期で、盛土の一部をローム質土で覆うように厚く盛り上げられていた。

北側の窪地では、盛土から続く後・晩期の厚い遺物包含層が途切れていた。また、窪地に向かう傾斜面は部分的にハードローム層が露出し、遺構が一部削平された状態で確認された。

盛土における土層断面の調査では、盛土形成は環の最も標高の高い場所から外側の谷地形の斜面に向かって徐々に埋め立てられている状況が観察できた。

また、盛土の層位には後期前葉から晩期中葉までの各時期の遺物を含む土壇で形成された箇所がある。これらの層は土器の他にローム質土や焼土、炭化物が互層となって形成されており、一部では多量の骨片を含む層もあった。また、盛土中には住居跡や土壇などの遺構が重複して構築されていたことや、硬化面の広がり、焼土面も確認できた。

「大形建物址」とした第43号住居跡付近の盛土が小丘状になるなど、不連続に堆積しているものの、それ以外の場所では概ね均一な堆積状況であった。

住居跡は後期前半から晩期前半にかけて、盛土中央の最も標高の高い限られた帯状の範囲に重層的に構築されていた。

次に南盛土で確認した集落をⅥ期にわたって、その変遷を後期前葉から晩期中葉にかけて集落の開始から収束までを概観していく。

集落の開始期である第Ⅰ期は後期前葉の堀之内2式期で、4軒の住居跡が該当する。第59・62号住居跡からは、当該期の土器が出土しており時期を特定できたが、第50・58号住居跡は出土遺物の量が少ないため、他の住居跡との重複関係と住居跡のプランから推定した。

これらの住居跡は、互いに近接または重複しており、特に第59号住居跡は建て替えが行われていた。環状盛土内での位置は、環の内縁側からやや内縁側にかけて纏まっていた。また、円形プランを基調とし、入口方向は内縁側（西側）に向いていた。

第Ⅱ期は後期中葉の加曾利B式期で、7軒が該当し、前時期よりやや増加する。第41・49・60号住居跡は当該期の遺物が出土し、時期を確定できたが、その他の住居跡は、住居跡の重複と上層覆土中の出土遺物、住居跡プランから推定した。

第Ⅱ期に属する7軒の住居跡は大きく3グループに分かれる。これらの中、第44c・49号住居跡は、第Ⅲ期まで継続する建て替え住居跡である。環状盛土内での位置関係は、内縁側から中央にかけて纏まり、全体として外縁側へ範囲が拡張している。この時期から住居跡のプランとして円形基調と「D」字形のタイプが構築されるようになる。また、入口部は内縁側（西-南西）と外縁側（南-南東）を向くものとの2種類に分かれる。

第Ⅲ期は後期後葉前半の曾谷・高井東式期で、6軒が該当し、前時期とほぼ平衡状態である。すべての住居跡から当該期の土器が出土している。

住居跡は大きく3グループに分かれ、第44b・49号住居跡は前時期からの建て替え住居跡であ

る。環状盛土内での位置は、中央に纏まっている。住居跡のプランは「D」字形・隅円方形・方形の3形態が認められ、第Ⅳ期への移行期的な様相を示す。また、入口方向は第Ⅱ期同様、内縁側（西-南西）と外縁側（南-南東）を向くものの2種類に分かれる。

第Ⅳ期は後期後葉後半の安行1・2式期で、7軒が該当する。前時期と軒数は同じで集落内での隆盛期にあたる。すべての住居跡から後期安行式土器が出土している。

7軒の住居跡は大きく3グループに分かれ、「大形堅穴建物跡」に属する第43号住居跡は、第44a・55号住居跡廃絶後、短期間のうちに建てられたものと推察される。また、第44a・47a・55号住居跡は前時期からの建て替え住居跡である。環状盛土内での位置関係はやや内縁側から外縁側にかけての最も高い場所に占地し、各住居跡ともかさ上げが行われていた。特に、第43号住居跡は第Ⅴ期まで継続し、2回以上の拡張建て替えが行われている。住居跡の入口方向は、環の等高線方向に並行する（南西）ものと外縁側（南）を向くものの2種類に分かれる。

第Ⅴ期は晩期前葉前半の安行3a式期で、住居跡5軒と掘立柱建物跡2棟が該当する。住居跡は減少し、代わりに掘立柱建物跡が建てられるようになる。すべての住居跡から安行3a式土器が出土している。

5軒の住居跡は大きく2グループに分かれ、「大形堅穴建物跡」である第43a号住居跡と第38号住居跡廃絶後、短期間のうちに第二の規模となる第40号住居跡が建てられたものと推察される。第40号住居跡は第43号住居跡を埋め立てて建てられており、第Ⅵ期まで継続する建て替え住居跡である。

これとは別に第51号住居跡と掘立柱建物跡2棟が離れて建てられた。住居跡廃絶後に掘立柱建物跡は重複して建てられ、短期間に連続して建て替

えられたものと推察される。

環状盛土内での位置関係は内縁側からやや内縁側にかけての1グループと、中央から外縁側にかけての1グループに分かれる。入口方向は環の等高線に並行（南西）と外縁側（南東）方向の2種類に分かれる。

第VI期は晩期前葉後半から晩期中葉の安行3b式、3c式期で、住居跡3軒と掘立柱建物跡1棟、円形の柱穴列2基が該当し、集落の縮小期にあたる。

第40号住居跡は時期を確定できたが、第64・65号住居跡は他の住居跡との重複関係と層位的状況から推定した。

これとは別に、掘立柱建物跡及び柱穴列からは安行3c式、3d式土器が出土しており、晩期中葉に属すると考えられる。

これらの遺構は大きく3グループに分かれる。第40号住居跡は入口方向を変え、前時期から継続して建て替えられた住居跡である。第64・65号住居跡は小型の住居跡で、柱穴配置、炉跡も不明瞭である。これとは別に、前時期から引き続き重複して亀甲形の第4号掘立柱建物跡と円形柱穴列2基が離れて建てられた。円形柱穴列は重複しており、規模の大きなものから小さなものへ縮小していく。環状盛土内での位置関係は内縁側傾斜面の柱穴列グループと、やや内縁側に位置する掘立柱建物跡、中央から外縁側に位置する3軒の住居跡に分かれる。入口部は外縁側（南東）から内縁側（南西）方向である。

長竹遺跡の環状盛土遺構を構成する遺構群の分布状況に各時期による差異は認められない。しかし、盛土遺構が存続していた時期を通して、外縁側の土壌群、中央の住居跡群、やや内縁側から内縁側にかけての土壌群、内縁側の柱穴群、内縁側緩傾斜面の土壌群はそれぞれ地区を異にして分布していたようである。

今回報告する南盛土の包含層出土土器群は、明瞭な早期の土器群は含まれていなかったが、前期

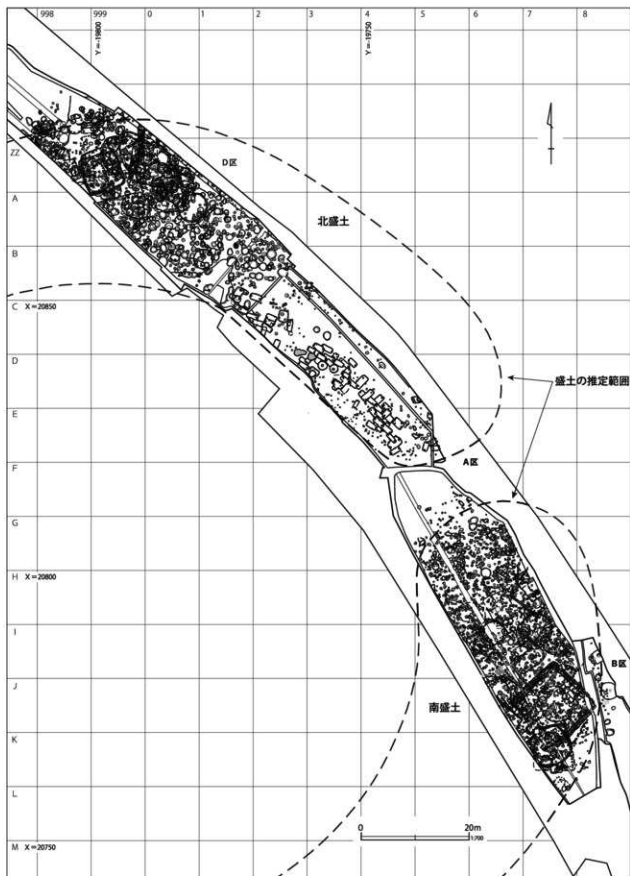
の花積下層式をはじめとして前期の各型式が少量出土しており、中期では後葉の加曾利EⅢ式土器を中心として若干の土器群が出土している。

遺跡の主体となるのは後期からであるが、前葉の称名寺式、堀之内式土器は少なく、加曾利B式においてもB1式は少量であり、遺構が確認され始めるB2式頃から土器量が増えてくる。

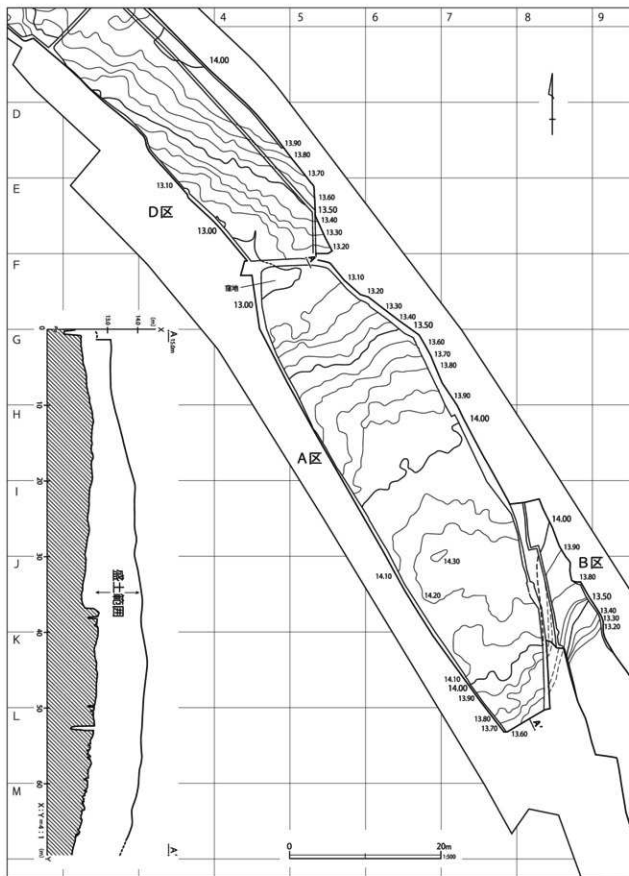
その後、曾谷式、後期・晩期安行各型式を通じて安定して土器群が出土するが、地区によってそれぞれの分布密度が異なる。特に、晩期中葉の安行3c式から安行3d式土器は、南盛土北半部から北盛土壘城群に向けた緩斜面の上層部で主体的に分布している。この地区に当該期の遺構は殆ど確認されていないが、遺物の分布状況や、時期の定まらない多数のピット群が存在することから、当該期の活動の中心地域であったことが想定される。調査区域内での推定であるが、この晩期中葉の主体的活動の場を境にして南盛土の範囲は区切られていたものと想定される。晩期中葉段階では、東北地方の大洞C1式、C2式、北関東の天神原式、東関東の前浦式土器が伴い、広域的で活発な交流が窺える。その中でも地勢的な影響であろうか、豊富な安行3d式と共に、東部関東系前浦式の良好な土器群が出土していることは特筆されよう。

晩期の中葉以降では、大洞A式土器が若干出土しており、この地に足跡が絶えないことを伝えている。その後、弥生時代中期の土器群が少量出土している。

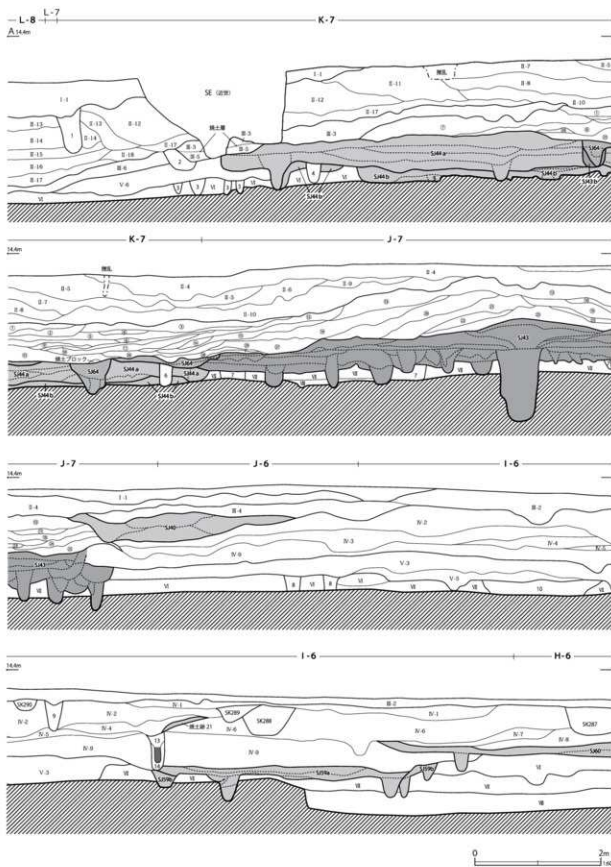
本遺跡で特徴的に出土した土製円盤とした土製品は、主に安行1式、2式土器の口辺部を利用し、打ち欠いて形を整えたものであるが、南盛土の包含層からだけでも1,071点出土しており、出土土製品の一大特徴となっている。円形に磨かれた土製円盤の素材になっているのか、はたまた他の目的で作成されたのか、謎の多い遺物である。大宮台地の当該期の遺跡でも散見されるものである。



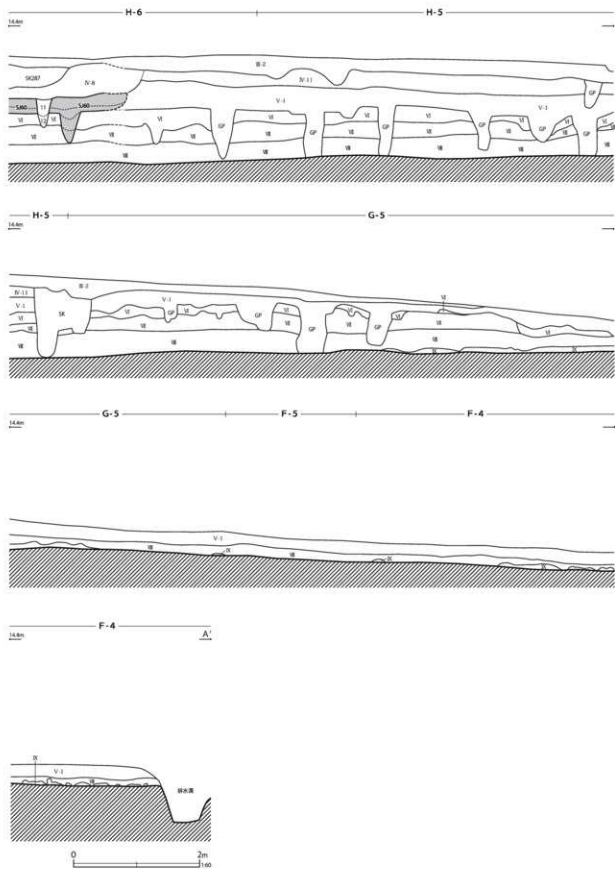
第4図 長竹遺跡の盛土全体図



第5図 長竹遺跡の盛土等高線図



第6図 南盛土における基本土層 (1)



第7図 南盛土における基本土層（2）

南盛土 基本土層

I-1 暗褐色土	粘質 褐色土小ブロック (少) ローム質土ブロック混入 粘質 (多) しまり (中)
I-2 暗褐色土	シルト質 灰黄色粘土を面層状に含む 遺物 (中) しまり (良)
I-3 暗褐色土	粘質 遺物 (少) しまり (中)
I-4 暗褐色土	粘質 (微) しまり (良)
I-5 灰黄粘土	シルト質 灰黄色粘土土小ブロック面状層 しまり (中)
I-6 黒褐色土	粘質 褐色土小ブロック状状に含む 灰色粘土小ブロック面状層 炭化物を含む しまり (欠)
II-1 茶褐色土	粘質 ローム質土ブロック主体 粘質 ローム質土ブロック主体 明黄褐色ローム粒子・炭化物粒子・遺物 (微) しまり (良)
II-2 茶褐色土	粘質 ローム質土ブロック主体 炭褐色土ブロック (少) 遺物 (微) しまり (良)
II-3 灰褐色土	粘質 ローム小ブロック (多) 遺物 (微) しまり (中)
II-4 褐色土	シルト質 ローム質土ブロック主体 粘土粒子・炭化物粒子を含む 遺物 (微) しまり (良)
II-5 灰黄褐色土	粘質 ローム質土ブロック・褐色土との混土 暗褐色土ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子 (少) 炭化物帯状層を含む しまり (良)
II-6 黄褐色土	粘質 ローム質土主体 炭化物粒子・遺物 (微) しまり (良)
II-7 暗黄褐色土	粘質 ローム質土ブロック (多) 暗褐色土ブロック・焼土粒子・炭化物粒子 (少) しまり (良)
II-8 暗褐色土	粘質 暗褐色土主体 ローム質土小ブロック・焼土粒子 (少) しまり (良)
II-9 褐色土	粘質 暗褐色土・ローム土との混土 しまり (良)
II-10 暗褐色土	粘質 暗褐色土主体 ローム質土小ブロック (微) 焼土粒子・炭化物粒子 (少) 骨片を含む しまり (中)
II-11 暗褐色土	粘質 暗褐色土主体 ローム質土小ブロック (少) 炭化物粒子を面状に含む 遺物 (微) しまり (中)
II-12 褐色土	粘質 ローム質土・暗褐色土との混土 焼土粒子・炭化物粒子を含む 遺物 (微) しまり (良)
II-13 暗褐色土	シルト質 灰褐色土ブロック (少) 鉄分沈着 しまり (良)
II-14 灰褐色土	粘質 灰褐色粘土主体 暗褐色土 (少) しまり (良)
II-15 灰褐色土	粘質 灰褐色粘土 (多) 焼土粒子・炭化物粒子 (少) しまり (良)
II-16 暗褐色土	粘質 焼土粒子・炭化物粒子 (径 5mm) (少) 鉄分沈着 しまり (良)
II-17 褐色土	粘質 ローム質土・暗褐色土との混土 しまり (良)
II-18 暗褐色土	粘質 暗褐色土 (中) しまり (中)
III-1 暗灰褐色土	粘質 遺物 (少) しまり (中)
III-2 黒色～黒褐色土	シルト質 炭化物粒子 (径 5mm)・骨片 (多) 焼土粒子 (少) 遺物 (微多) 粘性 (中) しまり (中)
III-3 褐色土	粘質 炭化物粒子 (多) 焼土粒子 (少) 骨片を含む しまり (中)
III-4 黒褐色土	粘質 焼土粒子 (径 1～7mm)・炭化物粒子 (径 1～2mm)・白色骨片 (骨片) 含む 遺物 (多) 粘性 (強) しまり (良)
III-5 黒色土	粘質 炭化物 (多) 灰色粘土を含む 遺物 (少) しまり (欠) 遺物層上の可能性あり
III-6 黒色土	粘質 炭化物 (多) 暗褐色土との混土 遺物 (少) しまり (中)
IV-1 暗褐色土	粘質 暗灰褐色土・褐色土ブロックとの混土 遺物 (微) しまり (良)
IV-2 暗褐色土	粘質 黒褐色土・暗褐色土との混土 焼土粒子・炭化物粒子を含む 骨片 (少) 遺物 (中) しまり (中)
IV-3 暗褐色土	粘質 炭化物粒子 (少) 焼土粒子 (微) 遺物 (中) しまり (中)
IV-4 褐色土	粘質 炭化物粒子・ローム粒子・焼土粒子を含む 骨片 (少) しまり (欠) 遺物層上の可能性あり
IV-5 黒褐色土	シルト質 炭化物 (多) ローム粒子・焼土粒子を含む 遺物 (中) しまり (欠) 遺物層上の可能性あり
IV-6 黒褐色土	シルト質 炭化物粒子 (径 10mm) (多) 焼土粒子 (少) 骨片 (少) 遺物 (多) しまり (中)
IV-7 黒褐色土	粘質 焼土粒子を含む 骨片 (微) 粘性 (中) しまり (中) 遺物層上の可能性あり
IV-8 暗褐色土	粘質 炭化物粒子・焼土粒子・骨片を含む ロームブロック (径 5～20mm) (多) しまり (良)
IV-9 暗褐色土	粘質 褐色土・暗褐色土との混土 炭化物粒子・焼土粒子を含む 遺物 (中) しまり (良)
IV-10 黒褐色土	シルト質 黒褐色土主体 暗褐色土ブロックを含む 炭化物粒子 (多) 遺物 (中) 粘性 (強) しまり (欠)
IV-11 褐色土	粘質 暗褐色土・褐色土ブロックとの混土 粘性 (強) しまり (良)
IV-12 暗褐色土	粘質 炭化物粒子 (少) 粘性 (中) しまり (中)
IV-13 暗褐色土	シルト質 炭化物粒子 (少) 粘性 (中) しまり (良)
V-1 暗褐色土	シルト質 炭化物粒子・遺物 (少) ローム小ブロック (微) しまり (中)
V-2 暗褐色土	粘質 炭化物粒子・ローム小ブロック・遺物 (微) しまり (良)
V-3 灰黄褐色土	シルト質 炭化物粒子 (少) 遺物 (微) しまり (良)
V-4 にぶ～黄褐色土	粘質 炭化物粒子 (少) 焼土粒子 (微) 粘性 (強) しまり (欠)
V-5 褐色土	粘質 炭化物粒子 (微) ロームブロック (少) 底面炭化物帯状層 しまり (中) 遺物層上の可能性あり
V-6 灰黄褐色土	シルト質 炭化物粒子 (少) 遺物 (微) しまり (良)

VI にぶ～黄褐色土	ソフトローム対応
VII 黄褐色土	ハーロー (一) (立川園)
VIII 暗黄褐色土	ブラックバンド
IX 灰黄褐色土	ハードローム
X 灰黄褐色土	武蔵野ローム

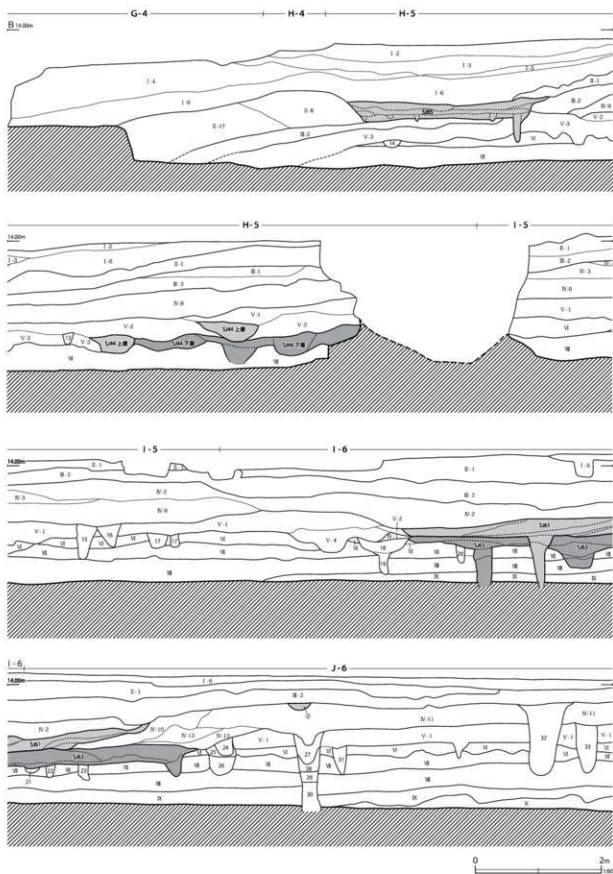
南盛土 盛土土層

① 黒色土	シルト質 炭化物層 遺物 (少) しまり (欠)
② 黒褐色土	粘質 炭化物 (径 10mm) (中) しまり (中)
③ 黒色土	シルト質 炭化物 骨粉 (少) しまり (中)
④ 黒褐色土	粘質 炭化物 (多) 骨粉 (少) しまり (中)
⑤ 黒褐色土	粘質 炭化物 (多) 骨粉 (微) 遺物 (少) しまり (中)
⑥ 暗褐色土	シルト質 焼土 (多) ローム粒子を含む しまり (中)
⑦ 暗褐色土	粘質 炭化物 (中) 焼土・骨片を含む 遺物 (少) しまり (中)
⑧ 黒褐色土	シルト質 炭化物 (中) 炭化物との混土 しまり (欠)
⑨ 暗褐色土	粘質 炭化物 (多) 遺物 (少) しまり (中)
⑩ 黒色土	シルト質 炭化物層 遺物 (微) しまり (中)
⑪ 褐色土	粘質 炭化物 (多) 焼土 (微) 遺物 (少) しまり (中)
⑫ 暗褐色土	シルト質 炭化物層 骨粉 (微) しまり (中)
⑬ 暗褐色土	シルト質 焼土・炭化物との混土 しまり (欠)
⑭ 暗褐色土	粘質 炭化物 (多) しまり (欠)
⑮ 暗褐色土	粘質 炭化物 (多) しまり (欠)
⑯ 暗褐色土	粘質 炭化物 (中) 焼土粒子 (多) 骨粉 (微)
⑰ 暗褐色土	粘質 炭化物 (中) 炭化物 (少) しまり (中)
⑱ 黒色土	シルト質 炭化物層 遺物 (少) しまり (中)
⑲ 暗褐色土	粘質 炭化物 (中) 焼土 (少) 骨粉 (微) しまり (中)
⑳ 暗褐色土	シルト質 炭化物 (中) 遺物 (微) しまり (中)
㉑ 暗褐色土	粘質 炭化物 (中) 焼土 (少) ローム粒子 (多) 骨粉 (少) しまり (良)
㉒ 暗褐色土	粘質 炭化物 (径 5～20mm) (中) ローム粒子・骨粉 (少) しまり (中)
㉓ 暗褐色土	シルト質 炭化物層状層 骨粉 (少) しまり (欠)
㉔ 黒褐色土	粘質 炭化物 (径 20～30mm)・焼土・ローム粒子 (多) 遺物 (少) しまり (中)
㉕ 黒褐色土	粘質 炭化物 (径 20～40mm)・焼土・ローム粒子 (多) しまり (中)
㉖ 黒色土	シルト質 炭化物 (径 20～50mm)・焼土・ローム粒子 (多) しまり (中)
㉗ 暗褐色土	粘質 炭化物粒子・焼土粒子を含む しまり (良)
㉘ 暗褐色土	粘質 炭化物 (多) 焼土粒子 (中)

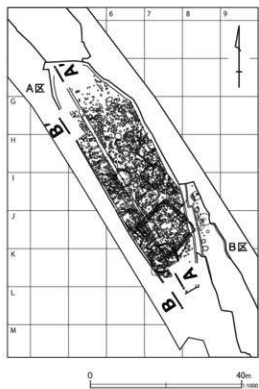
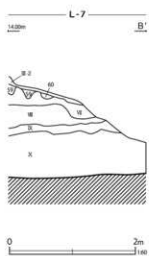
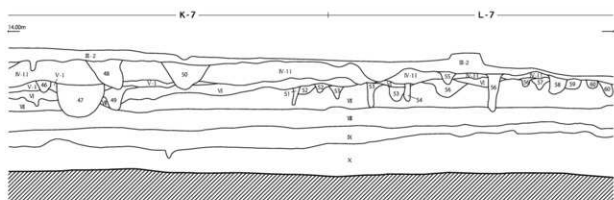
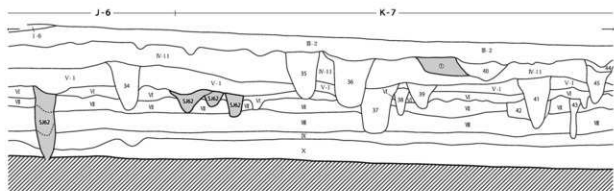
南盛土 グリッドピット土層

1 黒褐色土	粘質 炭化物 (微) 暗灰褐色土小ブロック (少) 遺物 (中) しまり (欠)
2 暗褐色土	粘質 炭化物・遺物 (少) 粘性 (中) しまり (中)
3 暗灰褐色土	ローム粒子 (少) 粘性 (強) しまり (中)
4 黒褐色土	焼土粒子・ローム粒子を含む S 144 の柱穴の可能性あり
5 暗褐色土	粘質 ローム粒子を含む
6 黒褐色土	粘質 焼土粒子を含む ロームブロック・炭化物 (多) 粘性 (強) しまり (中)
7 暗褐色土	粘質 ロームブロックを含む 焼土 (微) 粘性 (中) しまり (中)
8 暗黄褐色土	粘質 ローム粒子 (中) 粘性 (中) しまり (中)
9 黒褐色土	粘質 炭化物 (少) 骨粉・焼土を含む 遺物 (少) 粘性 (中) しまり (中)
10 黒褐色土	粘質 炭化物 (少) 暗褐色土小ブロック (中) 粘性 (中) しまり (中)
11 暗黄褐色土	焼土粒子 (少) ローム小ブロックを含む 粘性 (中) しまり (良)
12 暗黄褐色土	炭化物粒子を含む 粘性 (中) しまり (中)
13 暗黄褐色土	ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を含む 骨片 (少) 炭化物材抽出 しまり (欠)
14 暗黄褐色土	炭化物 (多) ローム粒子・焼土粒子を含む しまり (良)

第8図 南盛土における基本土層 (3)



第9図 南盛土の西壁基本土層(1)



第10図 南盛土の西壁基本土層(2)

南盛土	基本土層
I-2	暗褐色土 シルト質 灰黄色粘土を間層状に含む 遺物 (中) しまり (良)
I-3	暗灰褐色土 粘質 遺物 (少) しまり (中)
I-4	暗灰褐色土 粘質 遺物 (微) しまり (良)
I-5	灰黄色土 シルト質 黄灰色粘質土小ブロック帯状層 しまり (中)
I-6	黒褐色土 粘質 褐色土小ブロック塊状に含む 灰色粘土小ブロック帯状層 炭化物含む しまり (欠)
II-1	茶褐色土 粘質 ローム質土ブロック主体 明黄褐色ローム粒子・炭化物粒子・遺物 (微) しまり (良)
II-7	暗黄褐色土 粘質 ローム質土ブロック (多) 暗褐色土ブロック・焼土粒子・炭化物粒子 (少) しまり (良)
II-8	暗褐色土 粘質 暗褐色土主体 ローム質土小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子 (少) しまり (良)
III-2	暗灰褐色土 粘質 遺物 (少) しまり (中)
III-2	黒色～黒褐色土 シルト質 炭化物粒子 (径5mm)・骨片 (多) 焼土粒子 (少) 遺物 (極多) 粘性 (中) しまり (中)
IV-1	暗褐色土 粘質 暗灰褐色土・褐色土ブロックとの混土 遺物 (微) しまり (良)
IV-2	暗褐色土 粘質 黒褐色土・暗褐色土との混土 焼土粒子・炭化物粒子含む 骨片 (少) 遺物 (中) しまり (中)
IV-3	暗褐色土 粘質 炭化物粒子 (少) 焼土粒子 (微) 遺物 (中) しまり (中)
IV-9	暗褐色土 粘質 褐色土・暗褐色土との混土
IV-10	黒褐色土 シルト質 黒褐色土主体 明褐色土ブロック含む 炭化物粒子 (多) 遺物 (中) 粘性 (弱) しまり (欠)
IV-11	褐色土 粘質 暗褐色土・褐色土ブロックとの混土 粘性 (強) しまり (良)
IV-12	暗褐色土 粘質 炭化物粒子 (少) 粘性 (中) しまり (中)
IV-13	暗褐色土 粘質 炭化物粒子 (少) 粘性 (中) しまり (良)
V-1	暗褐色土 シルト質 炭化物粒子・遺物 (少) ローム小ブロック (微) しまり (中)
V-2	暗褐色土 粘質 炭化物粒子・ローム小ブロック・遺物 (微) しまり (良)
V-4	にふい黄褐色土 ロームブロック (少) 焼土粒子 (微) 粘性 (弱) しまり (欠)
VI	にふい黄褐色土 ソフトローム対応
VII	黄褐色土 ハードローム (立川面)
VIII	暗黄褐色土 ブロックバンド
IX	灰黄褐色土 ハードローム
X	灰黄褐色土 武蔵野ローム

南盛土	グリッドピット土層
15	暗褐色土 ローム粒子(少) 粘性(弱) しまり(欠)
16	黒褐色土 炭化物粒子(微) ローム粒子(少) しまり(中)
17	暗褐色土 ロームブロック(少) 粘性
18	にふい黄褐色土 炭化物粒子・焼土粒子(微) ロームブロック(多)
19	暗褐色土 ロームブロック(中)
20	にふい黄褐色土 シルト質 ローム粒子(少)
21	にふい黄褐色土 シルト質 炭化物粒子(少) ロームブロック(微)
22	にふい黄褐色土 炭化物粒子(極微) ロームブロック(少)
23	にふい黄褐色土 硬角結核(微) 砂質
24	にふい黄褐色土 ロームブロック(少) 炭化物粒子(微)
25	にふい黄褐色土 ローム粒子(微) 粘性
26	暗褐色土 シルト質 炭化物粒子(微) しまり(欠)
27	にふい黄褐色土 ローム粒子(微) 粘性
28	にふい黄褐色土 ローム(少) しまり(欠) 上層より明るい
29	にふい黄褐色土 上層との境界面に灰黄褐色シルトと炭化物粒子が集中する しまり(欠)
30	暗褐色土 炭化物粒子(多) ローム粒子(少) 炭化面は上面を主に分佈する しまり(欠)
31	にふい黄褐色土 ローム粒子(微) しまり(欠)
32	灰褐色土 シルト質 ロームブロック(少) 炭化物(中) 骨片(微) しまり(欠)
33	灰黄褐色土 粘質 炭化物粒子(中) 粘性(強) しまり(欠)
34	暗褐色土 粘質 炭化物粒子(微) 炭化物粒子(微) しまり(良)
35	暗褐色土 粘質 炭化物粒子・焼土粒子 (微) しまり (良)
36	黒褐色土 シルト質 炭化物粒子 (少) しまり (中)
37	にふい黄褐色土 粘質 炭化物・焼土粒子 (微) しまり (良)
38	にふい黄褐色土 ローム粒子 (中) しまり (良)
39	にふい黄褐色土 ローム粒子 (中) ロームブロック (少) しまり (良)
40	暗褐色土 粘質 遺物 (少) しまり (良)
41	にふい黄褐色土 粘質 ロームブロック (中) しまり (良)
42	にふい黄褐色土 しまり (良)
43	黄褐色土 ロームブロック (少) しまり (欠)
44	暗褐色土 ロームブロック (少) しまり (良)
45	暗褐色土 ロームブロック (微) 粘性(強) しまり (良)
46	暗褐色土 ローム粒子 (少) しまり (良)
47	暗褐色土 ローム粒子 (少) 炭化物粒子・骨片 (微) しまり (良)
48	暗褐色土 粘質 ローム粒子 (微) しまり (良)
49	にふい黄褐色土 ロームブロック (中) 炭化物粒子 (微) しまり (良)
50	暗褐色土 粘質 ローム小ブロック (少) しまり (良)
51	にふい黄褐色土
52	にふい黄褐色土 ロームブロック (少) しまり (欠)
53	黄褐色土 しまり (欠)
54	にふい黄褐色土 シルト質
55	にふい黄褐色土 ローム・焼土粒子 (微)
56	にふい黄褐色土 ロームブロック (中)
57	にふい黄褐色土 ローム (中)
58	にふい黄褐色土 ローム粒子 (少)
59	にふい黄褐色土 ローム粒子 (少) 焼土粒子 (微)
60	にふい黄褐色土 ロームブロック (少)

『長竹遺跡Ⅱ』第176図における
グリッドピット土層との対応表

『長竹遺跡Ⅱ』→『長竹遺跡Ⅲ』

35	→	1
36	→	2
37	→	3
38	→	4
39	→	5
40	→	6
41	→	7
42	→	8
43	→	9
44	→	10
45	→	11
46	→	12
47	→	13
48	→	14
49	→	15
50	→	16
51	→	17
52	→	18
53	→	19
54	→	20
55	→	21
56	→	22
57	→	23
58	→	24
59	→	25
60	→	26

第11図 南盛土の西壁基本土層(3)

IV 出土遺物の分類

1 縄文土器の分類

長竹遺跡の盛土層中からは、後・晩期を中心として早期から晩期までの土器群、石器類、土偶、土製品などの多量の遺物群が出土している。長竹遺跡出土遺物の全体を網羅できるようそれぞれ時期で群別し、各型式レベルで類別を行った。個々の土器群について逐一説明を加えることが困難であることから、まとめて概略を記し、大枠の時期と器種分類について表示した。

出土遺物は土器類、ミニチュア土器、土製円盤、土製品、土偶の順で通し番号を付けて提示した。さらに番号の下には出土グリッド名と出土小グリッド（2m四方の小グリッド番号①～㉔）を表示した。出土層位については土層ベルトの層序（第6～11図）を参考にして、調査時において認識された層位を表に示した。

また、各グリッドに既報告の遺構も記載し、時期ごとに色別で表示した。さらに、中期後半から晩期の土器群についても型式別に出土量と、分布傾向を色分けで表示した。これにより、確認された遺構群とその周囲から出土した土器群の関係性を把握することが可能となった。

出土土器群については、以下のように分類した。

第Ⅰ群土器…早期の土器群を一括する。

- 第1類…燃糸文系土器群を一括する
- 第2類…沈線文系土器群を一括する
- 第3類…条痕文系土器群を一括する
- 第4類…その他の土器群を一括する

第Ⅱ群土器…前期の土器群を一括する。

- 第1類…花積下層式土器を一括する
- 第2類…関山式土器を一括する
- 第3類…黒浜式土器を一括する
- 第4類…諸磯a式土器を一括する
- 第5類…諸磯b式土器を一括する
- 第6類…諸磯c式土器を一括する

第7類…十三菩提式土器を一括する

第8類…浮島式土器を一括する

第9類…興津式土器を一括する

第10類…その他の土器群を一括する

第Ⅲ群土器…中期の土器群を一括する。

- 第1類…阿玉台式系土器群を一括する
- 第2類…勝坂式系土器を一括する
- 第3類…加曾利EⅠ式土器を一括する
- 第4類…加曾利EⅡ式土器を一括する
- 第5類…加曾利EⅢ式土器を一括する
- 第6類…加曾利EⅣ式土器を一括する
- 第7類…その他の土器群を一括する

第Ⅳ群土器…後期前葉の土器群を一括する。

- 第1類…称名寺1式土器を一括する
- 第2類…称名寺2式土器を一括する
- 第3類…堀之内1式土器を一括する
- 第4類…堀之内2式土器を一括する

第Ⅴ群土器…後期中葉の土器群を一括する。

- 第1類…加曾利B1式土器を一括する
- 第2類…加曾利B2式土器を一括する
- 第3類…加曾利B3式土器を一括する
- 第4類…曾谷式・高井東式土器を一括する
- 第5類…その他の土器群を一括する

第Ⅵ群土器…後期後葉の安行式を中心とした土器群を一括する。

- 第1類…安行1式土器を一括する
- 第2類…安行2式土器を一括する
- 第3類…新地式土器を一括する
- 第4類…その他の土器群を一括する

第Ⅶ群土器…晩期前葉の安行式を中心とした土器群を一括する。

- 第1類…安行3a式土器を一括する
- 第2類…安行3b式土器を一括する
- 第3類…姥山Ⅱ式土器を一括する

- 第4類…大洞B式土器を一括する
- 第5類…大洞BC式土器を一括する
- 第6類…滋賀里式（樞原式）を一括する
- 第7類…細密沈線文土器を一括する
- 第8類…その他の土器群を一括する

第Ⅷ群土器…晩期中葉の安行式を中心とした土器群を一括する。

- 第1類…安行3c式土器を一括する
- 第2類…安行3d式土器を一括する
- 第3類…姥山Ⅲ式土器を一括する
- 第4類…天神原式土器を一括する
- 第5類…前浦式土器を一括する
- 第6類…大洞C1式土器を一括する
- 第7類…大洞C2式土器を一括する
- 第8類…その他の土器群を一括する

第Ⅸ群土器…晩期後葉の土器群を一括する。

- 第1類…千網・荒海式土器を一括する
- 第2類…大洞A式土器を一括する
- 第3類…大洞A'式土器を一括する
- 第4類…その他の土器群を一括する

第Ⅹ群土器…無文土器など、所属時期不明な土器群を一括する。

- 第1類…口縁部破片を一括する
- 第2類…胴部破片を一括する
- 第3類…底部破片を一括する

2 土製円盤の分類

土製円盤の分類については、既報告の遺構編（埼玉県埋蔵文化財調査事業団編2018a・b）における分類基準に準拠し、製作技術の違いから2つに分類し、さらにそれぞれを土器片の部位やその他の属性に基づいて細分した。

I類：磨製

土器片を打ち欠いて円形に成形した後、周縁部に研磨を施して整形し、円盤状に再加工したもの。従来の定義での「土製円盤」である。

Ⅱ類：打製

器種について以下のように分類した。

A：深鉢形土器

- 1：波状口縁深鉢形土器で口縁部が開くもの
- 2：平口縁深鉢形土器で口縁部が開くもの
- 3：波状口縁深鉢形土器で胴部が括れるもの
- 4：平口縁深鉢形土器で胴部が括れるもの
- 5：口縁部が内湾する深鉢形土器
- 6：条線文系土器
- 7：紐線文系土器

B：台付鉢形土器

- 1：口縁部が外反して胴部で括れるもの
- 2：口縁部が内湾しながら開くもの

C：鉢形土器

- 1：口縁部が外反して胴部で括れるもの
- 2：口縁部が内湾しながら開くもの

D：浅鉢形土器

- 1：口縁部が外反して開くもの
- 2：口縁部が内湾しながら開くもの
- 3：胴部が屈曲するもの

E：皿形土器

F：壺形土器

- 1：広口壺
- 2：長頸壺
- 3：両耳壺

G：注口土器

土器片の周縁部から中央部に向かう複数回の打撃が観察できるもの。

突起・隆帯などを打撃により人為的に取り除いたと判断できるものや、肥厚した口縁部の裏側を欠き取ったとみられるものも含まれる。

I類とは異なり、必ずしも形態が「円形」であることを認定基準としない。

このI・Ⅱ類の土製円盤を、素材となっている土器片の部位、その他の属性により以下のように細分する。

A：口縁部

ア：突起を有する口縁

イ：隆帯を巡らせる口縁・折返口縁

ウ：断面肥厚する口縁

エ：その他の口縁

B：胴部

ア：突起を有する胴部

イ：隆帯を有する胴部

ウ：その他の胴部

C：底部

D：その他・部位不明

3 耳飾りの分類

土製の耳飾りについても、既報告の遺構編（埼玉県埋蔵文化財調査事業団編2018a・b）に従い以下の分類に基づいて整理した。

I：臼形

A：装着部が凹まないもの

ア：無文のもの

イ：有文のもの

B：装着部が凹むもの

ア：無文のもの

イ：有文のもの

II：栓形

A：貫通孔が無いもの

ア：無文のもの

イ：有文のもの

B：貫通孔を有するもの

ア：無文のもの

イ：有文のもの

III：環状

A：断面形が長方形または丸棒状を呈すもの

ア：無文のもの

イ：有文のもの

B：断面形が三角形を呈すもの

ア：無文のもの

イ：有文のもの

C：断面形が「く」の字状または弧状を呈すもの

ア：無文のもの

イ：有文のもの

D：断面形が鉤状を呈すもの

ア：無文のもの

イ：有文のもの

IV：台形

A：上面に透かしが無いもの

ア：無文のもの

イ：有文のもの

B：上面に透かしを有するもの

V：「干網型」

4 石器の分類

南盛土の包含層から出土した石器の総数は、2,710点である。出土した石器を狭義の石器、石器製作に関わる工程品、石製品に分類した。

出土した石器の時期は、B区で出土した旧石器時代の尖頭器1点を除き、大半が縄文時代である。南盛土内で確認された遺構や盛土の包含層から出土した土器の大半は縄文時代後期前葉から晩期中葉である。出土した縄文時代の石器の多くも同時期のものであると思われる。以下では掲載した資

料のうち、狭義の石器と石製品を対象にした分類について記す。

< 狭義の石器 >

尖頭器

二次加工による面的な調整と縁辺への微細な調整により、器体の一端に尖頭部を作り出した石器。

石鏃

二次加工により先端部と基部を作り出し、平面形が三角形を呈する石器。茎の有無により2つに

細分した。

I類：無茎石鏃

基部に抉りを加えて内湾部を作り出したもの。

II類：有茎石鏃

基部の左右に抉りを加え、基部の中央に茎を作り出したもの。

石錐

棒状の尖頭部を有し、断面形が三角形あるいは四角形を呈する石器。摘まみ部と錐部との関係により2つに細分した。

I類：摘まみ部と錐部が明瞭に区分できるもの。

II類：摘まみ部と錐部が明瞭に区分できないもの。

石匙

両側縁から加工を施すことによって作り出した摘まみ部と、刃部と判断できる縁辺を有する石器。南盛土の包含層からは摘まみ部に対して刃部が縦に付く縦型石匙のみが出土した。

スクレイパー

素材剥片の縁辺に二次加工による連続的な調整が認められる石器。刃部の位置によって2つに分類した。

I類：サイドスクレイパー

素材剥片の長辺2分の1以上に直線的で連続的な二次加工が施されているもの。

II類：エンドスクレイパー

素材剥片の一端に直線的で急斜度な二次加工が施されているもの。

楔形石器

両極剝離の痕跡が認められる石器。

打製石斧

二次加工により平面形が斧形を呈する石器。器体の平面形状により3つに分類した。

I類：分銅形

器体中央の両側縁が内反し、この抉りを中心として上下両端にほぼ均等に加工が施されているもの。

II類：撥形

基部の幅に対して刃部の幅が長いもの。

III類：短冊形

分銅形・撥形以外のもの。

礫器

加工により礫の一端あるいは周縁に刃部を作り出した石器。平面形状及び原礫面の有無により3つに分類した。

I類：平面形が長楕円を呈し、両面または片面全体に加工が施されているもの。

II類：平面形が不定形で、両面全体に加工が施されているもの。

III類：平面形が不定形で、両面または片面の一部に原礫面が残るもの。

磨製石斧

直接打撃・敲打・研磨により平面形が斧形を呈する石器。全体的な形状によって3つに分類した。

I類：定角式

断面形が隅丸長方形を呈し、正面裏面と側縁が明瞭に区分できるもの。

II類：乳棒状

断面形が楕円形を呈し、正面裏面と側縁の区分が不明瞭なもの。

III類：小型

斧としての機能を果たせないほど極端に小さいもの。

環状石斧

平面形が円盤状を呈し、中央に貫通孔があり、外周縁に刃部を有する磨製石斧。

スタンプ形石器

扁平または棒状の礫を素材とし、その礫を半割するように折り取り、打割された平坦な切断部を使用面とした石器。

敲石

棒状あるいは扁平な礫を素材とし、敲打痕を有する石器。敲打痕に加え、擦痕の有無で2つに分類した。

I類：敲打痕に加え、擦痕が明瞭なもの。

II類：敲打痕を有し、擦痕が不明瞭なもの。

凹石

円形または楕円形、不整形の礫を素材とした磨石のうち、敲打や穿孔により凹痕を有する石器。凹痕に加え、擦痕の面数によって3つに分類した。

I類：凹痕に加え、磨り面が正面と裏面のもの。

II類：凹痕に加え、磨り面が三面のもの。

III類：凹痕に加え、磨り面が四面以上のもの。

磨石

円形または楕円形、不整形の礫を素材とし、擦痕を面的に有する石器。擦痕に加え、敲打痕の有無により2つに分類した。

I類：擦痕に加え、敲打痕が明瞭なもの。

II類：擦痕を有し、敲打痕が不明瞭なもの。

石皿

大形の扁平礫を素材とし、平坦面に擦痕や敲打痕などの使用痕を有する石器。脚部と使用痕によって3つに分類した。

I類：脚部を有するもの。

II類：脚部が無く、作業面に凹痕を有するもの。

III類：脚部が無く、作業面に凹痕が無いもの。

砥石

扁平な礫を素材とし、平坦面に擦痕を有する石器。溝状の砥ぎ面の有無と面数により3つに分類した。

I類：溝状の砥ぎ面を有し、砥ぎ面が正面と裏面だけでなく、多面的なもの。

II類：溝状の砥ぎ面を有し、砥ぎ面が正面と裏面のみのもの。

III類：溝状の砥ぎ面が無く、砥ぎ面が正面と裏面のみのもの。

石錘

小形の扁平礫を素材とし、両端部に挟入部を作り出した石器。擦痕の有無により2つに分類した。

I類：正面と裏面に溝状の擦痕を有するもの。

II類：溝状の擦痕が無く、両端部に挟入部のみを有するもの。

軽石類

軽石を素材とし、擦痕や凹痕などの使用痕を有する石器。使用痕の種類によって3つに分類した。

I類：凹穴を有するもの。

II類：素材の一端に穿孔を有し、浮子として使用されていたと思われるもの。

III類：擦痕や敲打痕を有するもの。

< 石製品 >

石棒類

棒状または刀剣状を呈し、敲打や研磨など複合的な加工技術で製作された石製品。大型石棒・小型石棒・石剣・石刀を一括して石棒類とした。身の断面形によって3つに分類した。

I類：石棒

側縁を走る稜が無く、断面形が円形または円形に近似したもの。大型石棒と小型石棒を一括して石棒とした。

II類：石剣

側縁を走る稜が両側縁にあるもの。

III類：石刀

側縁を走る稜が1側縁にあるもの。

独鈷石

中央部に挟りまたは2帯1対の突帯が巡り、両端が石斧状もしくは石槌状に整形された石製品。

石冠

上面が盛り上がった直方体状に球頭形・斧形・山形などを呈する上部の付いた石製品。

岩版

板状または楕円形状の礫の平坦面に幾何学的な文様を施した石製品。

垂飾

敲打・研磨によって成形及び整形された石製品で、穿孔を有する。平面形状には勾玉状や白玉状、小判状のものがある。

V 調査区出土遺物

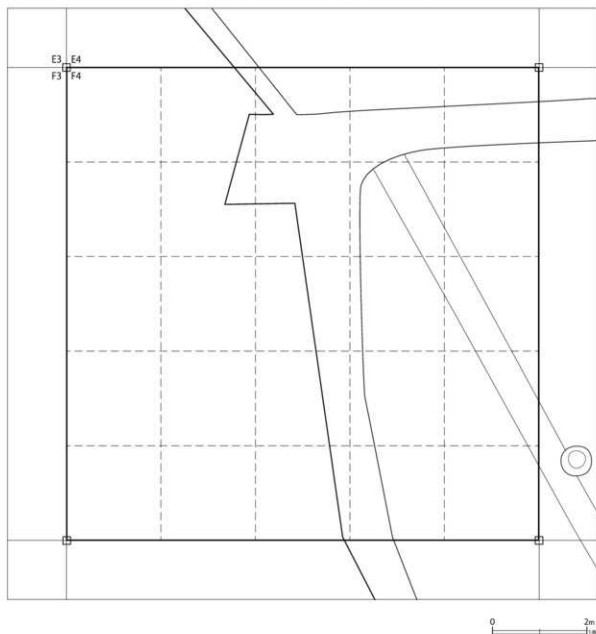
1 F-4グリッド出土遺物

概要（第12図、第13図）

A区の最北西端にあたる調査区である。南盛土の北西端で、北盛土の墓域にかけて南西方向に緩く傾斜する斜面にあたる。

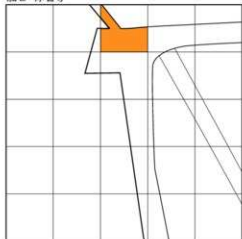
グリッド内に検出された遺構はなく、グリッド全体を覆うⅢ層中に、多くの第Ⅶ群第1類、第2類の安行3c式、3d式土器が集中して分布し

ていた。これらの土器群の下層であるⅣ層中には、第Ⅵ群の安行1式、2式及び第Ⅶ群の安行3a式土器が殆ど含まれず、その下層に少量の第Ⅳ群、第Ⅴ群土器が出土している状況であった。本遺跡における層序的な遺物の出土傾向と明らかに異なり、第Ⅶ群安行3a式期あたりのいずれかの段階で、地面の削平が行われた可能性が考えられ

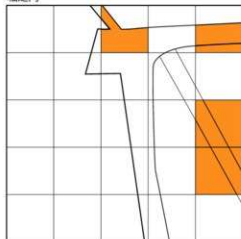


第12図 F-4グリッド検出遺構

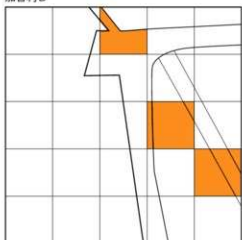
加 E・称名寺



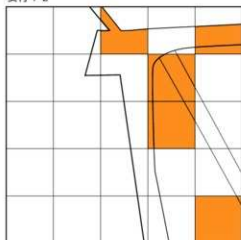
堀之内



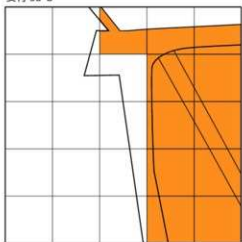
加 曾利 B



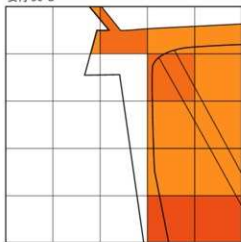
安行 1・2



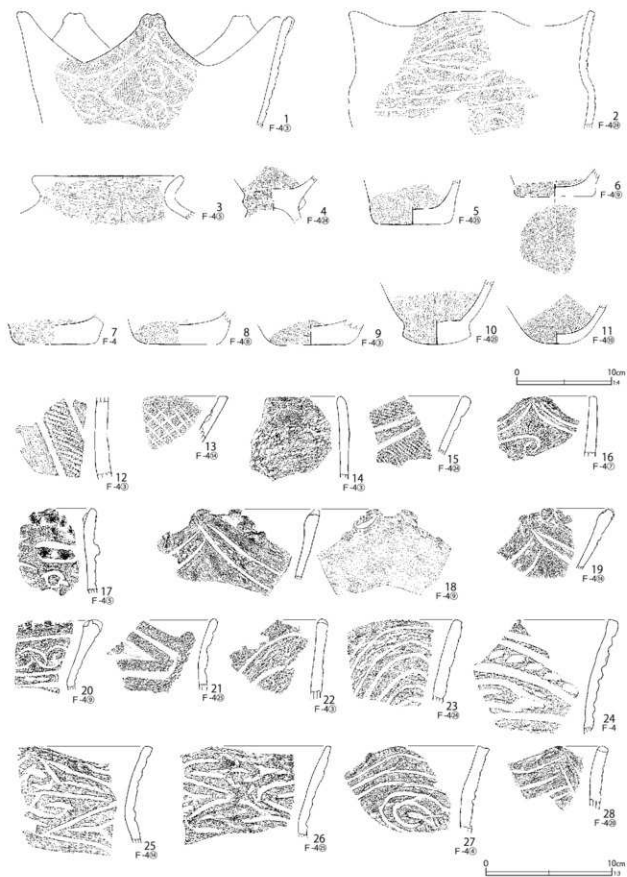
安行 3a・b



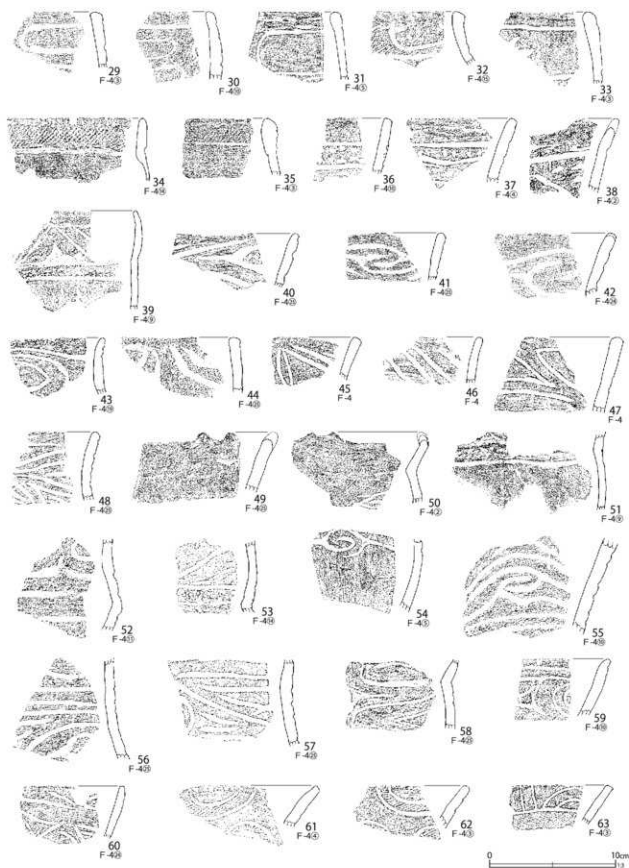
安行 3c・d



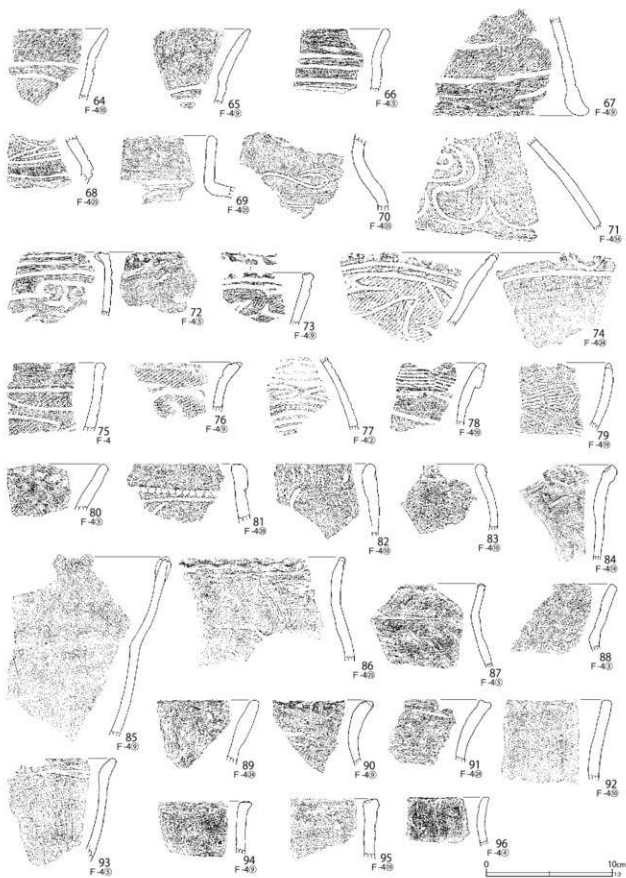
第 13 図 F-4 グリッド時期別濃淡図



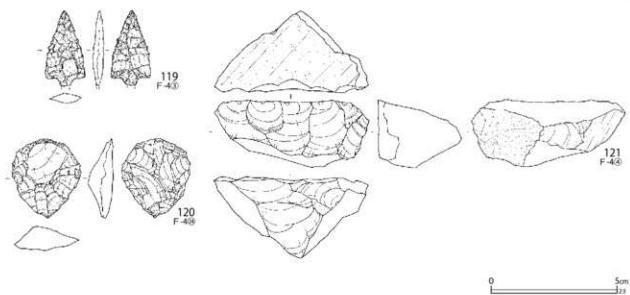
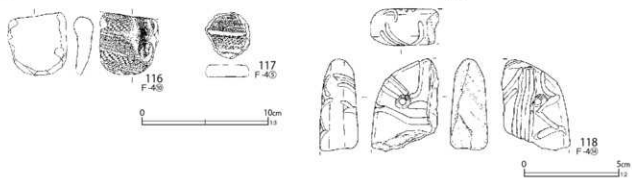
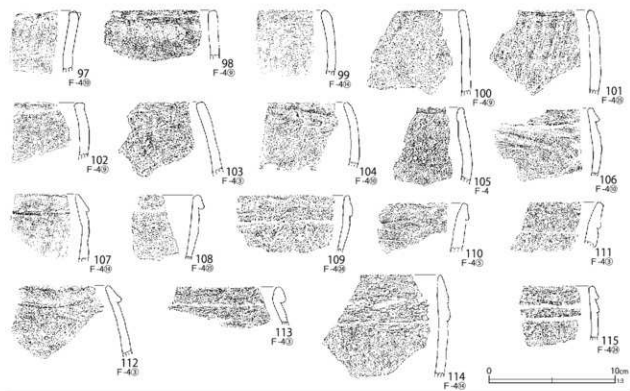
第14図 F-4グリッド出土遺物(1)



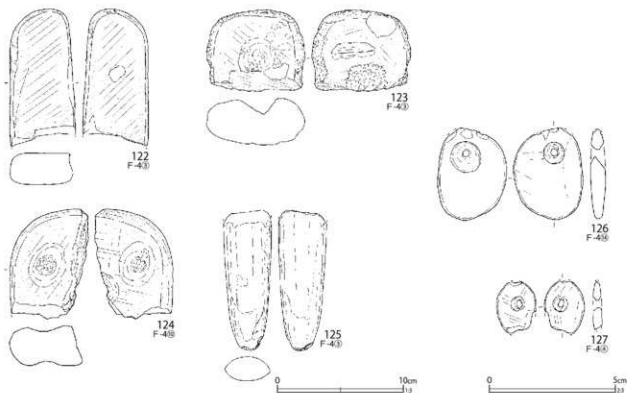
第15図 F-4グリッド出土遺物(2)



第16図 F-4グリッド出土遺物(3)



第17図 F-4グリッド出土遺物(4)



第18図 F-4グリッド出土遺物(5)

第2表 F-4グリッド出土復元土器観察表(第14図)

番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類
1	VI	[11.9]	(29.0)	(29.0)	-	Ⅴ2~Ⅴ1-A3
2	V-1	[12.3]	(26.0)	(26.1)	-	Ⅴ2-A3
3	Ⅲ-2	[4.0]	(16.0)	(18.5)	-	Ⅴ-F1
4	V-1	[4.0]	-	(8.7)	-	Ⅴ-B
5	Ⅲ-2	[4.7]	-	(10.2)	(8.1)	X3
6	Ⅲ-2	[2.3]	-	(9.4)	(8.3)	X3
7	-	[2.2]	-	(10.1)	(8.4)	X3
8	Ⅲ-2	[2.6]	-	(10.8)	(8.1)	X3
9	Ⅲ-2	[2.2]	-	(11.3)	(8.0)	X3
10	IV	[6.7]	-	(12.0)	(7.2)	X3
11	-	[4.1]	-	(10.6)	(4.0)	X3

第3表 F-4グリッド出土破片土器観察表(第14~第17図)

番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類
12	VI	IV 1-A1	38	Ⅲ-2	Ⅴ1-A4	64	-	Ⅴ1-C1	90	Ⅲ-2	IX-A5
13	Ⅲ-2	V 2-A3	39	Ⅲ-2	Ⅴ1-A4	65	Ⅲ-2	Ⅴ1-C1	91	V-1	Ⅴ1-A4
14	-	V-A2	40	V-1	Ⅴ2-A4	66	Ⅲ-2	Ⅴ1-C1	92	Ⅲ-2	Ⅴ1-A4
15	V-1	Ⅴ2~Ⅴ1-A3	41	V-1	Ⅴ2-A4	67	VI	Ⅴ1-B	93	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2
16	VI	Ⅴ1-A3	42	V-1	Ⅴ2-A4	68	V-1	Ⅴ1~2-F	94	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2
17	Ⅲ-2	Ⅴ1-A3	43	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	69	V-1	Ⅴ1~2-F	95	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2
18	Ⅲ-2	Ⅴ1-A3	44	V-1	Ⅴ2-A4	70	V-1	Ⅴ1~2-F	96	VI	Ⅴ1-A4
19	VI	Ⅴ1-A3	45	-	Ⅴ2-A4	71	VI	Ⅴ1~2-F	97	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2
20	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2	46	-	Ⅴ2-A4	72	Ⅲ-2	Ⅴ6-C1	98	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2
21	-	Ⅴ4-A3	47	-	Ⅴ2-A4	73	Ⅲ-2	Ⅴ6-C1	99	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5
22	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	48	V-1	Ⅴ2-A4	74	V-1	Ⅴ6-C1	100	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5
23	V-1	Ⅴ2-A3	49	V-1	Ⅴ2-A4	75	-	Ⅴ7-C1	101	V-1	Ⅴ1-A5
24	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	50	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	76	Ⅲ-2	Ⅴ5-A4	102	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5
25	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	51	Ⅲ-2	Ⅴ4-A	77	Ⅲ-2	IX 2-D	103	VI	Ⅴ1-A5
26	V-1	Ⅴ2-A3	52	VI	Ⅴ4-A	78	Ⅲ-2	IX 2-A4	104	-	Ⅴ1-A5
27	-	Ⅴ2-A3	53	V-1	Ⅴ2-A4	79	Ⅲ-2	IX 2-C2	105	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5
28	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	54	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	80	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	106	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5
29	Ⅲ-2	Ⅴ3-A5	55	V-1	Ⅴ2-A4	81	Ⅲ-2	Ⅴ1-A7	107	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5
30	VI	Ⅴ3-A5	56	V-1	Ⅴ2-A4	82	Ⅲ-2	Ⅴ1-A7	108	V-1	Ⅴ1-A5
31	Ⅲ-2	Ⅴ3-A5	57	V-1	Ⅴ2-A4	83	-	Ⅴ1-A7	109	V-1	Ⅴ1-A2
32	VI	Ⅴ1-A5	58	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	84	Ⅲ-2	Ⅴ1-A3	110	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2
33	VI	Ⅴ3-A5	59	Ⅲ-2	Ⅴ1-C2	85	Ⅲ-2	Ⅴ1-A3	111	VI	Ⅴ1-A2
34	VI	Ⅴ2-A5	60	V-1	Ⅴ1-C2	86	V-1	IX-A5	112	VI	Ⅴ1-A5
35	VI	Ⅴ2-A5	61	VI	Ⅴ1-C1	87	Ⅲ-2	Ⅴ1-A4	113	VI	Ⅴ1-A5
36	-	Ⅴ1-A4	62	VI	Ⅴ1-C1	88	Ⅲ-2	Ⅴ1-A4	114	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2
37	-	Ⅴ1-A4	63	VI	Ⅴ1-C1	89	V-1	Ⅴ1-A4	115	V-1	Ⅴ1-A2

第4表 F-4グリッド出土土製品観察表 (第17図)

番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ	番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ
118	Ⅲ-2	土版	(4.8)	[3.6]	2.0						

第5表 F-4グリッド出土土製円盤観察表 (第17図)

番号	層位	最大径	重量	分類	番号	層位	最大径	重量	分類
116	Ⅲ-2	4.6	39.5	Ⅱ-A-ア	117	Ⅵ	3.6	15.5	Ⅰ-B-イ

第6表 F-4グリッド出土石器観察表 (第17図、第18図)

番号	層位	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重量
119	Ⅵ	石磯	Ⅱ	チャート	[3.0]	1.6	0.4	1.6
120	V-1	石磯	-	チャート	3.1	2.7	1.0	6.5
121	Ⅵ	石核	-	チャート	2.7	6.1	3.2	45.4
122	Ⅵ	磨石	Ⅱ	砂岩	[11.0]	5.3	2.7	252.6
123	Ⅲ-2	磨石	-	安山岩	6.5	7.9	4.0	146.1
124	Ⅲ-2	磨石	-	緑色岩	[8.8]	6.3	3.3	287.1
125	Ⅵ	石棒頭	Ⅱ	緑泥片岩	[11.1]	[3.8]	2.1	124.6
126	-	垂飾	-	安山岩	3.6	2.7	0.6	8.3
127	Ⅲ-4	垂飾	-	滑石	[2.1]	1.6	0.4	1.6

る。出土石器は破片が多く、南盛土中央から南側地区に比べると復元可能な土器が少ない。地盤の削平等が行われていたとすると、土器廃棄のパターンが異なっていたことが想起される。

第13図に見られるように、出土土器は中期後半から晩期中葉の第Ⅵ群第1類の称名寺1式からⅧ群第2類安行3 d式土器まで継続的に出土しているが、第Ⅲ群から第Ⅵ群、第Ⅶ群第1類の安行3 a式までが少量でまばらに分布する状況は、上記したとおりである。その中で、③小グリッドは各時期の土器群が途切れず出土しており、通時的な場としての活用が想定される。また、晩期中葉である第Ⅶ群第2類安行3 b式以降第Ⅷ群第1類安行3 c式、第2類安行3 d式土器は、本グリッド内全体に満遍なく分布しており、特に②、⑤小グリッドで多く出土する傾向にあった。

縄文土器 (第14図1～第17図115)

第14図12は第Ⅳ群第1類の称名寺1式土器である。本区では最も古い段階の土器群である。

13、14は第Ⅴ群第2類の加曾利B2式土器である。13は斜線文系の5単位波状口縁土器で、内面に沈線が巡り、押玉状の円形沈文が施文される。

1と15は同一個体と思われる、第Ⅶ群第2類安行3 b式から第Ⅷ群第1類安行3 c式にかけての波状口縁深鉢形土器である。波頂下には沈線で菱形文が構成され、区画内や連結部に円形文が施文されている。地文には、縄文LRが施文される。

16、17は胴部で括れる波状口縁深鉢形土器で、沈線のみで文様が描かれる。16は波頂下に入組渦巻文が施文される。17は波頂部に鉢巻状の貼付文が施文される。18、19は波状口縁を呈し、波頂部に双頭状の突起が施文される。口縁部に沿って2本沈線が施文され、列点文列が充填施文されている。20は平口縁土器で、口縁部に上下入組弧線文が施文される。以上は第Ⅷ群第1類の安行3 c式に比定される。

21、52は同一個体で波状口縁を呈し、太くて深い沈線で区画文と三叉文が施文される。区画外には細かな刺突文が密に充填施文されている。52、53は胴部破片であるが、区画並行沈線内にランダムで細かな刺突文が施文されている。第Ⅷ群第4類の天神原式系土器である。

22～24は波状口縁、36～39は平口縁で、沈線文間に列点文が施文される土器である。22は大きな波状モチーフの中に、条線状の細密沈線文が充填施文されるもので、23は同様に2列の細長い列点文列が施文されている。24は太い1列の列点文が施文される。36～38は列点文を挟む沈線でモチーフが描かれており、39は沈線内に2列の刺突文が施文され、三角区画内に三角印刻が施される。22～24は第Ⅷ群第2類安行3 d式、36～39は第Ⅷ群第1類安行3 c式に比定される。

2、25～28は波状口縁、40～50は平口縁、54～58は胴部破片で、いずれも沈線のみで文様が

施文される第Ⅷ群第2類安行3d式土器である。2は波状口縁部に沈線の菱形状文を構成し、中に足の長い沈線の入組三叉文が施文される。胴下半部には上向きの連続弧線文が施文されている。

25は、上下に二分された区画内にそれぞれ入組三叉文が施文される。26も同様に、上下の菱形区内に粗い入組三叉文が施文される。27は波頂部下に平行沈線の渦巻文が施文されており、28は波状口縁に沿って、斜沈線が施文されている。

40～48は口縁部が外反する平口縁深鉢形土器で、太くて浅い沈線で入組三叉文や曲線文、三角形文等が施文される。48は口縁部から頸部にかけて2段重ねのモチーフ構成となっている。

49、50は口唇部に双頭突起を有し、口縁部を無文とする深鉢形土器で、50は頸部以下に沈線のモチーフが描かれる。

29～31、33は口縁部が内湾して、胴部が膨らむ深鉢形土器で、口縁部に1～2段の楕円区画文を施文する第Ⅷ群第3類嵯峨山Ⅲ式系の土器群である。32も同様のものと思われるが、区画外の地文として単節LRが施文されている。

34、35は口縁部が肥厚し、縄文が施文される紐線文系統上の土器である。第Ⅷ群の土器と思われる。いずれも縄文は単節LRである。

59、60は口縁部が内湾して開く鉢形土器、61～66は口縁部が外反する鉢形土器である。59は玉抱三叉文状のモチーフを描き、沈線間に縄文LRが施文されている。60は沈線で菱形区画文が描かれているものであろうか。61～63は外反する口縁部に2本沈線で弧状の半円文が描かれるもので、61、62は弧線区内に縄文LRを、63は口縁部の区画沈線下に縄文LRが施文されている。

64～66は口縁部が外反する鉢形土器で、台付鉢になる可能性もある。67は台付鉢の脚部であり、縄文LRを地文とする。

68～71は壺形土器で、68は胴部モチーフの沈線間に刺突文列が施文される。69は短い無文の

口縁が立つ器形で、70は波頭文状の沈線文、71は連続弧線文に連結する沈線渦巻文が描かれる。

72～75は大洞C1式からC2式にかけての鉢形土器で、73、74には崩れた雲形文が描かれる。

76は前浦式土器で、太くて深い沈線で「の」字状文を描き、口唇上と内面に凹線が施文されている。地文は縄文LRである。

77は浮線の変形工字文が描かれる鉢もしくは皿と思われ、第IX群第2類の大洞A式に比定されよう。78は折返状の口縁部に、79は口縁部から撚糸文Rが施文されるもので、78は甕、79は鉢の可能性が高い。第Ⅷ群第7類の大洞C2式から第IX群第2類の大洞A式にかけての土器群と思われる。

80は細密沈線の斜線文が施文される第Ⅶ群第2類の安行3b式に、81～83は第Ⅷ群第1類安行3c式の紐線文系土器群である。

84～96は無文土器で、84、85は波状口縁の山形把手頂部に隆帯の巻き付けが見られる。86、90は口縁部が内湾して開く甕形の深鉢で、口唇上に指頭の握みによる刻みを施している。77～79はいずれも大洞A式段階の組成とみることもできよう。

土製品類 (第17図116～118)

第17図116、117は土製円盤、118は4分の1ほどが現存する土版である。円孔が穿たれ、合わせ沈線でモチーフが描かれる。

石器 (第17図119～第18図127)

第17図119は有茎の石鏃で基部が欠損している。120は周縁から器体中央に向けて剥離が施されており、石鏃よりも一回り大きいことから石鏃の未完成品と判断した。123、124はともに凹石の欠損部を転用した磨石である。125は石剣の基部片である。

その他、121が石核、122が磨石Ⅱ類、126と127が垂飾である。

2 F-5グリッド出土遺物

概要 (第19図、第20図)

A区としては最北端の調査区になる。F-4区と同様に、検出された遺構は少なく、小グリッド⑩区に晩期前葉と思われるSK310の墓壇1基が存在する。北盛土との間には浅い谷が存在するが、SK310墓壇は北盛土の墓壇群と一連の関係性を捉えられる可能性もある。墓壇内からは大洞BC式から大洞C1式にかけての注口土器が出土した。

本区でも、第Ⅶ群第1類安行3a式期あたりのいずれかの段階で、地面の削平が行われた可能性について追認することができた。

出土土器は第Ⅶ群第2類の安行3b式から数量が増え、第Ⅶ群第1類、第2類の安行3c式、3d式ではSK310の所在する南東部で出土量が急激に増えてくる。SK310周辺のピット群等も、この時期に構築された蓋然性が高い。

縄文土器 (第21図1～第36図457)

第24図53～55は加曾利B2式の斜線文土器である。56、57は大波状口縁で2段の豚鼻状、もしくは舌状の瘤を有し、60、61のように地文縄文の菱形区画内に、入組渦巻文などが施文されている。第Ⅶ群第2類安行3b式に比定される。

97～103は安行3b式に伴うであろう細密沈線文土器で、97～100は縦位区画と半楕円状文が施文される深鉢形土器である。102は安行3c式段階になるものと思われ、104は安行3d段階の前浦式に施文された例となろう。

第Ⅶ群第1類の安行3c式では、121、122のように大波状口縁部に鉢巻状の隆帯が巻かれ、波頂下に縦位沈線や120のように蛇行沈線が垂下されて、菱形区画文が縦位に2分割されるものが多い。120～127のように2本沈線間に刺突文を施文するものや、116～119、平口縁では148～157のように刺突文を施文しないものもある。

6は平口縁で、安行3b式系の帯状入組文が2

段に施文され、刺突文が充填される深鉢形土器である。安行3c式でも前半段階の土器であろうか。

口縁部に沈線の楕円区画文を施文する第Ⅶ群第3類の姥山皿式系である146、147は、安行3c式に伴うものと思われる。

1は5単位の波状を呈するものと思われ、胴部の括れ部より上に帯状入組文で鋸歯状文が描かれている。帯状入組文の1本の足が左右に連結されて、鋸歯状区画文が構成されている。安行3d式への移行期か、その古段階の土器と思われる。

2、3は括れ部を境とせず、比較的崩れの少ない入組三叉文が横位展開で2段に施文され、胴部の弧線文も、3は消失、2は退化しており、安行3d式に比定される。

180～207は波状口縁、208～247は平口縁の沈線のみで入組渦巻文、入組三叉文、三叉文等が描かれる安行3d式の口縁部破片である。

10は直線的に口縁部が開く台付鉢で、刻みを有する平行沈線帯で胴部の区画と蛇行波状文が描かれ、区画内に入組三叉文が施文されている。安行3d式の典型的な文様構成である。

19～23、338～348は安行3d式並行期の東関東系の第Ⅶ群第5類の前浦式土器である。23は胴部に「X」状の縄文突帯で横位連結された楕円区画文内に、「の」字状文が施文される皿である。口縁部裏面に凹線状の沈線が巡る。19は鉢、21は広口壺である。また、328～337の細かな刺突文や、円形貼付文は第Ⅶ群第4類の天神原式系の要素である。

さらに、302～327は東北系の土器群で、302～304は口縁部に刻目帯が施文される鉢、305は入組羊歯状文、313は口縁部に刻目帯、胴部に雲形文が施文される第Ⅶ群第6類の大洞C1式に比定される土器である。

また、崩れた雲形文の314、口縁部に列点文を有する315、「X」字状文を有する316、レンズ



遺構	小グリッド	所属時期	遺構	小グリッド	所属時期	遺構	小グリッド	所属時期
S K 310	2025	晩期前葉	S K 311	20	不明			

第19図 F-5グリッド検出遺構

状文を有する317～320は第Ⅷ群第7類の大洞C 2式に比定されよう。山形の把手を有する浅鉢24、長頸壺25、網目状襷糸文の壺26も大洞C 2式に比定されよう。25はC 2式系統の壺の頸部に安行3 d式の入組渦巻文が施文されるものである。

無文土器は多量に出土しており、口縁部が内湾したり、胴部で括れたりするものが多く、428

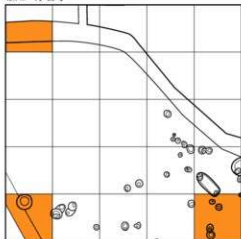
～457は折返口縁状を呈するもので、輪積痕を残すものである。口唇部に指頭押圧を加える369、403は東海系土器との関係で注目される。

土製品類 (第36図458～第37図466)

第36図458～460は土製円盤である。460は断面を磨って円形に整えている。

土偶は4点出土した。461は頭部のみ現存する

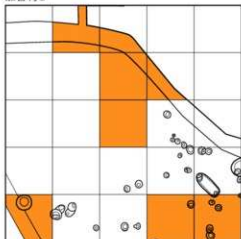
加E・称名寺



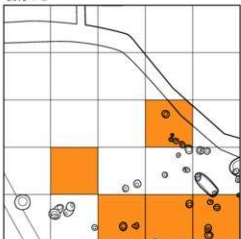
堀之内



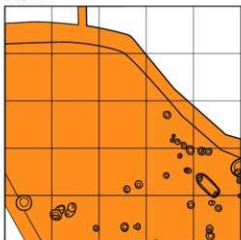
加曾利B



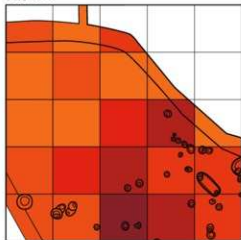
安行 1・2



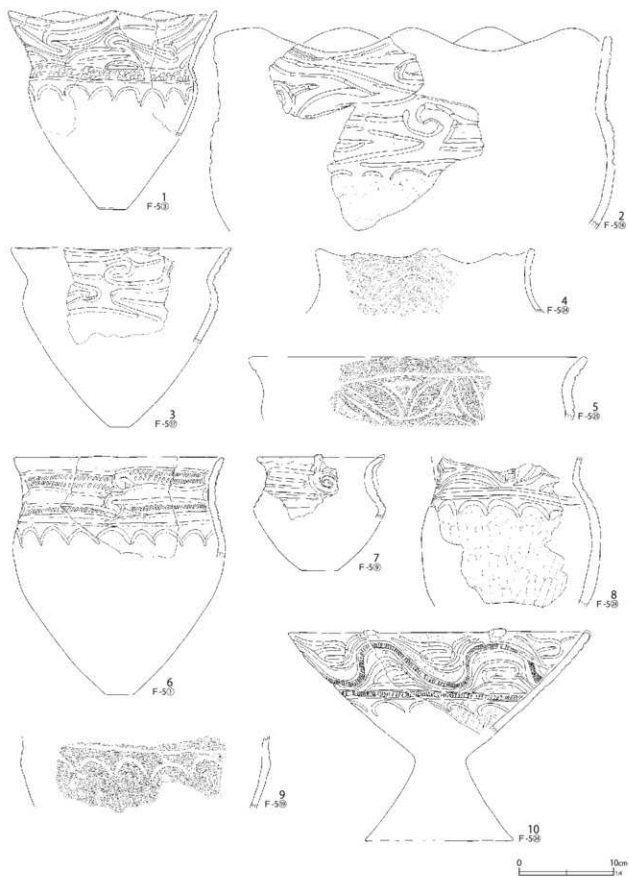
安行 3a・b



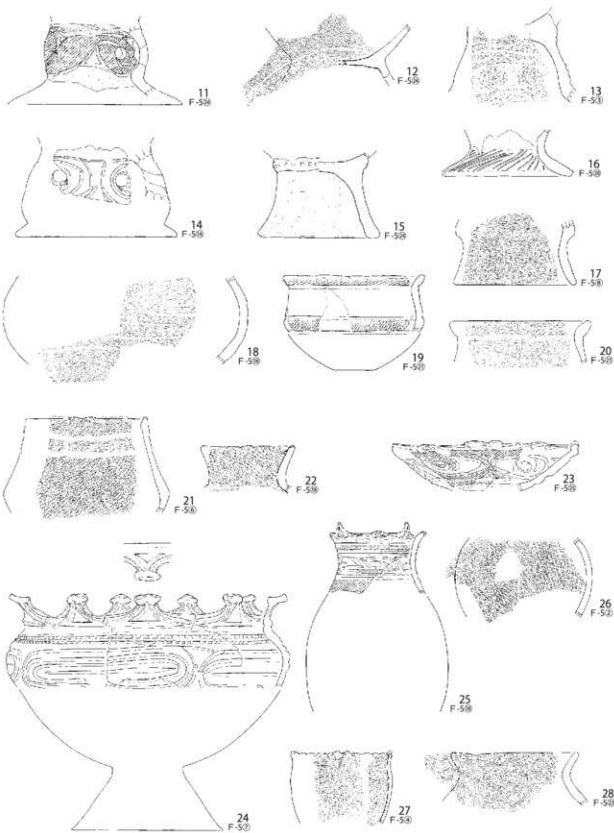
安行 3c・d



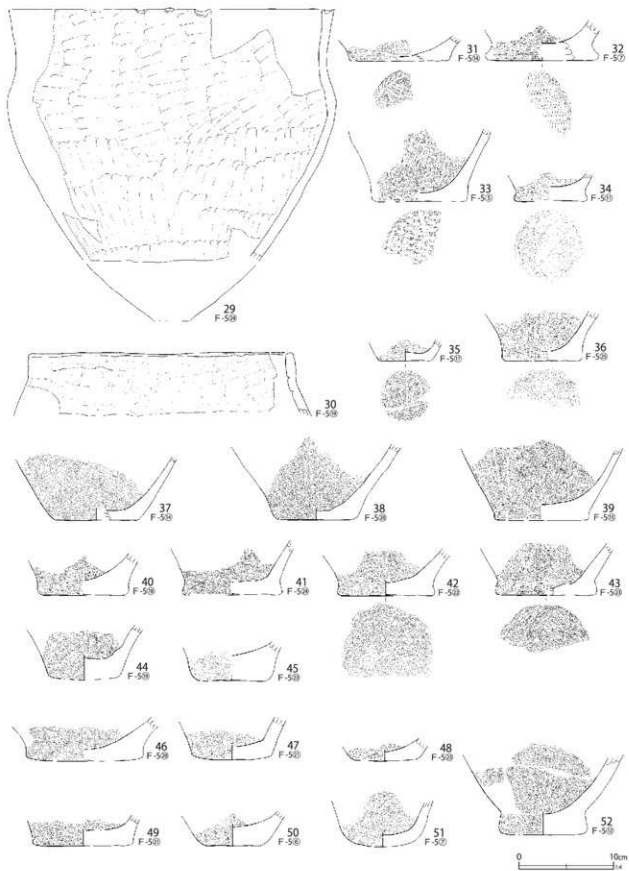
第20図 F-5グリッド時系列別濃淡図



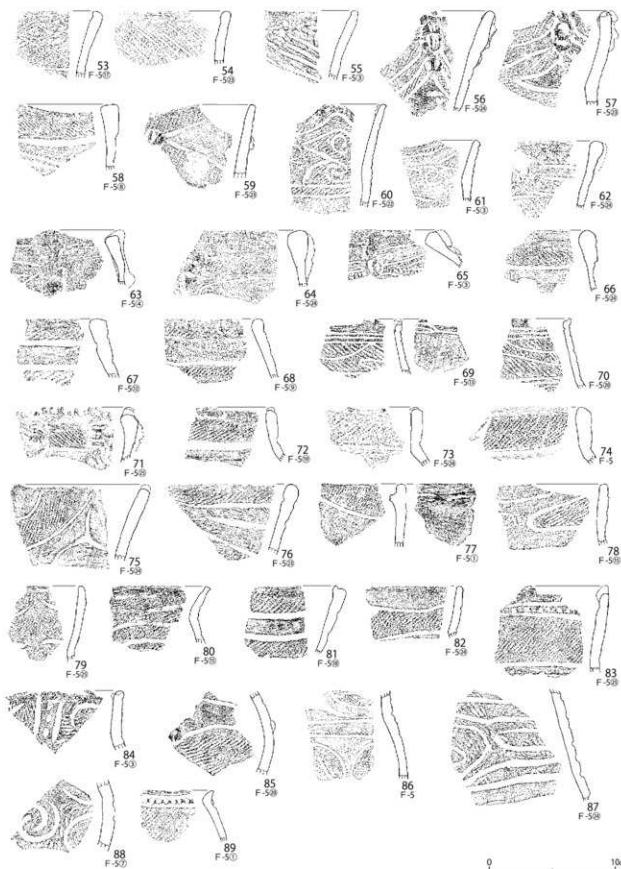
第21図 F-5グリッド出土遺物(1)



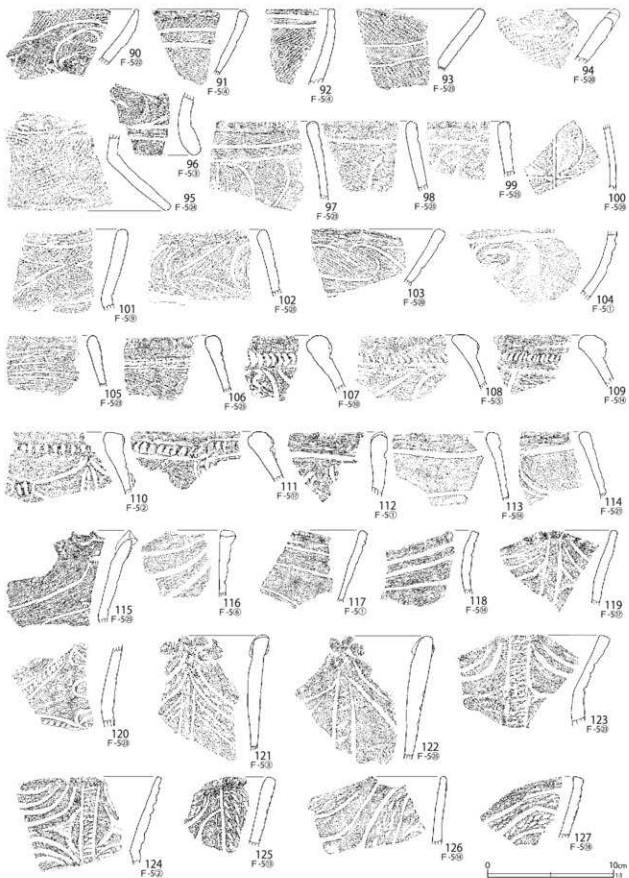
第22図 F-5グリッド出土遺物(2)



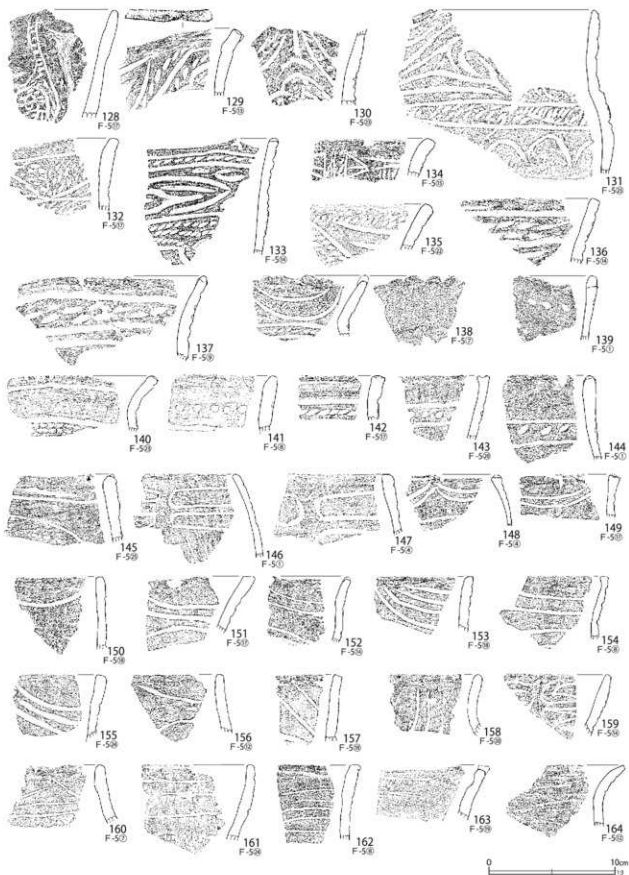
第23図 F-5グリッド出土遺物(3)



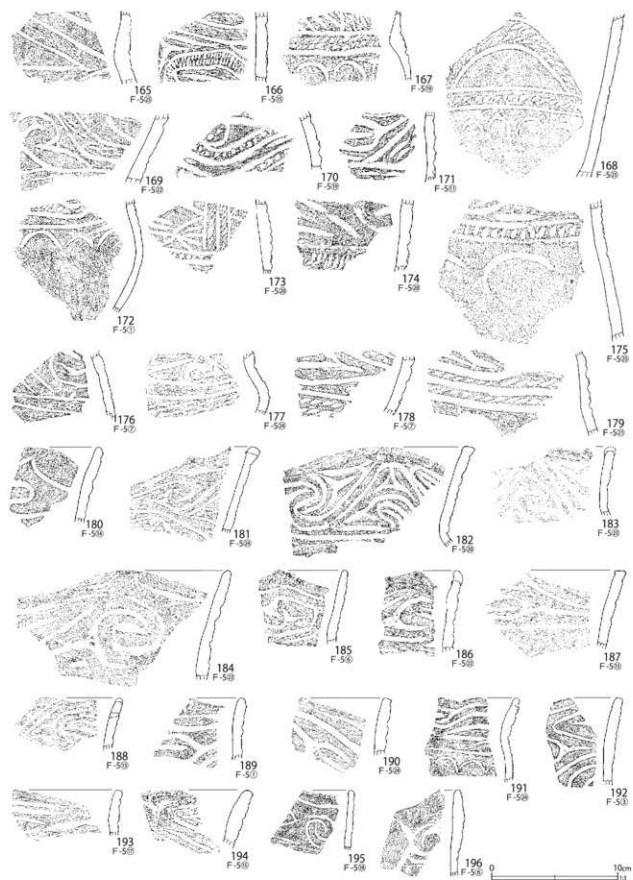
第24図 F-5グリッド出土遺物(4)



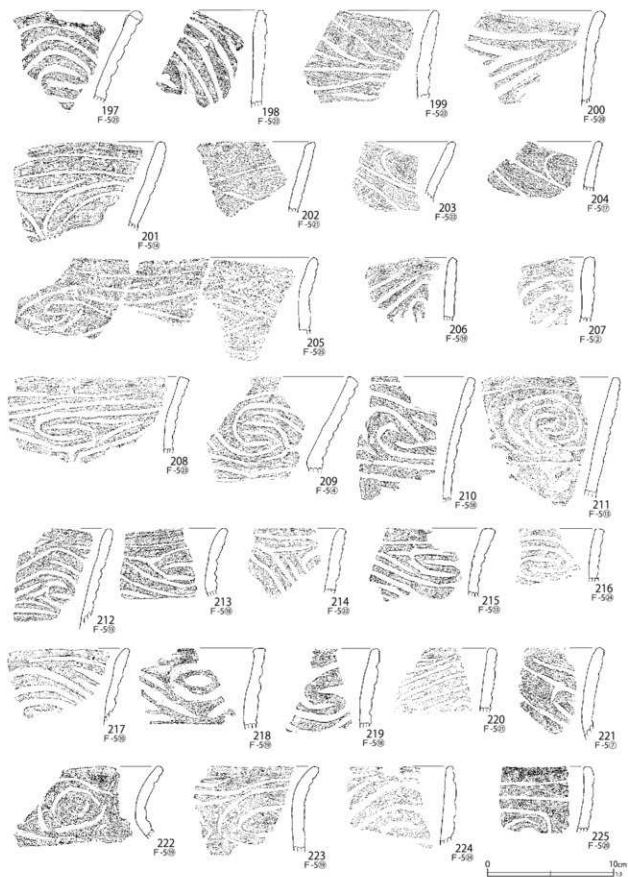
第25図 F-5グリッド出土物(5)



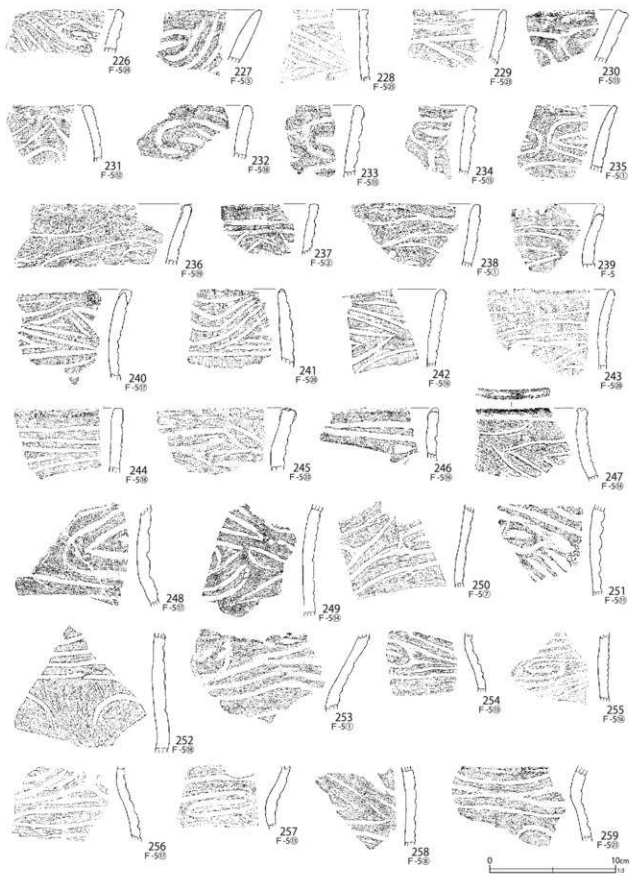
第26図 F-5グリッド出土遺物(6)



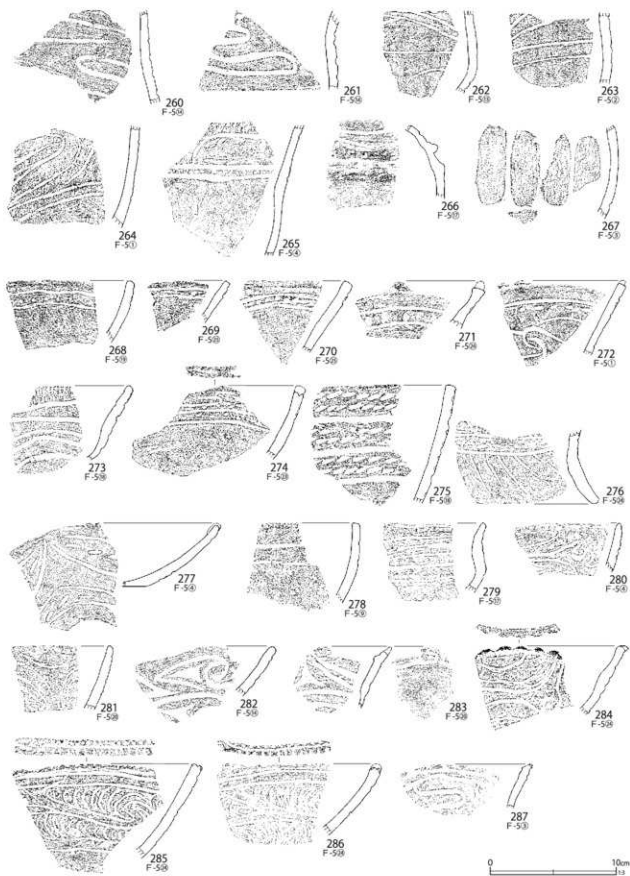
第27図 F-5グリッド出土遺物(7)



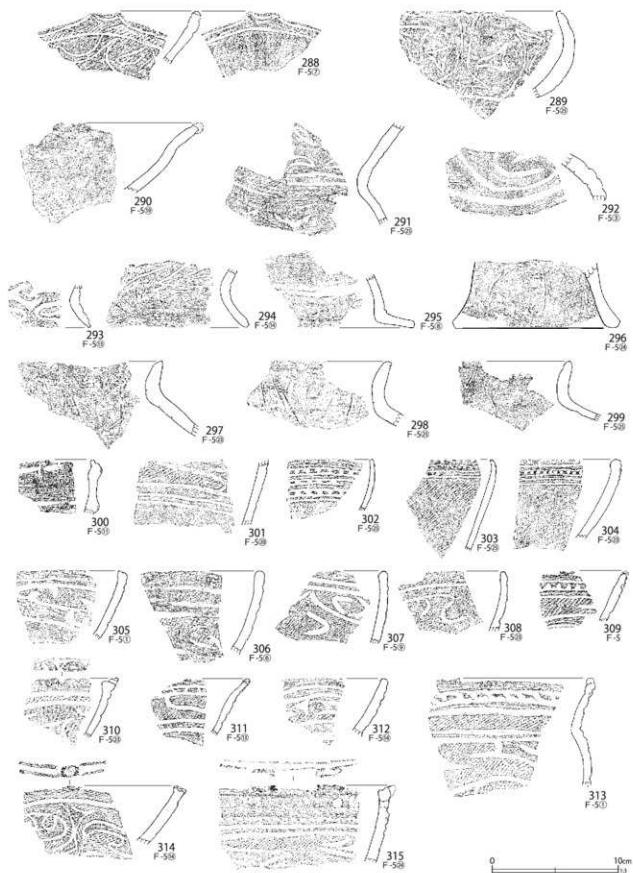
第28図 F-5グリッド出土遺物(8)



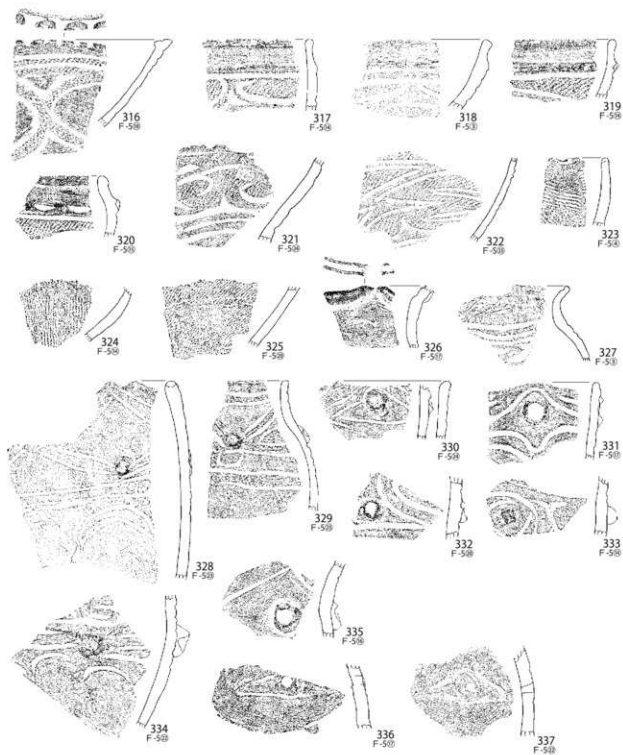
第29図 F-5グリッド出土遺物(9)



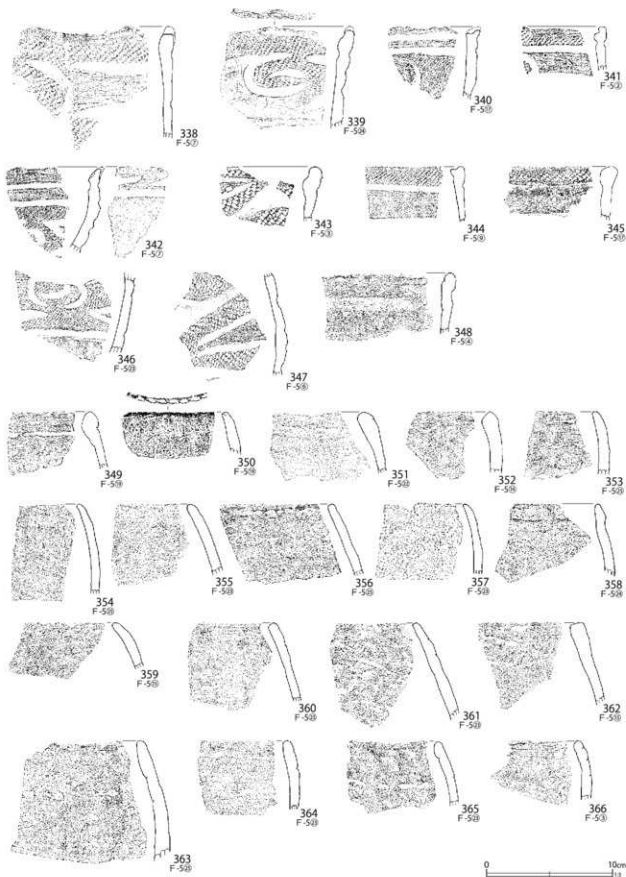
第30図 F-5グリッド出土遺物(10)



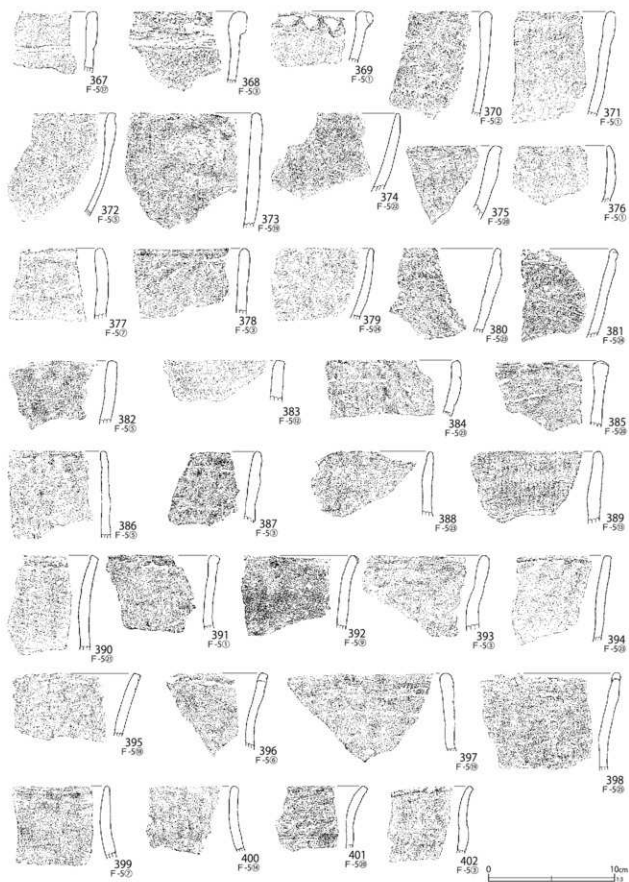
第31図 F-5グリッド出土遺物(11)



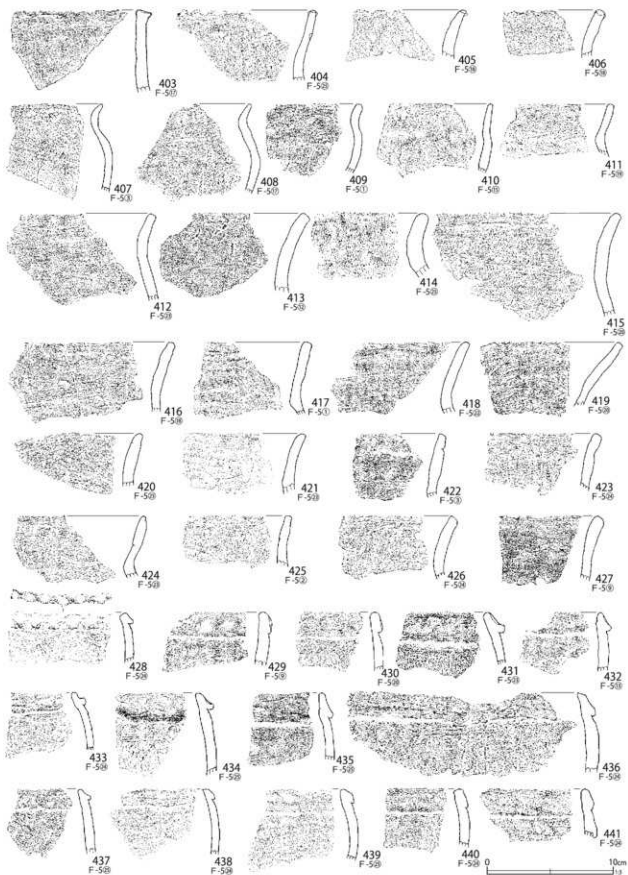
第32図 F-5グリッド出土遺物(12)



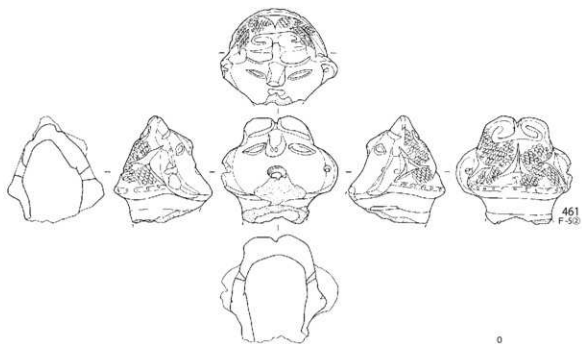
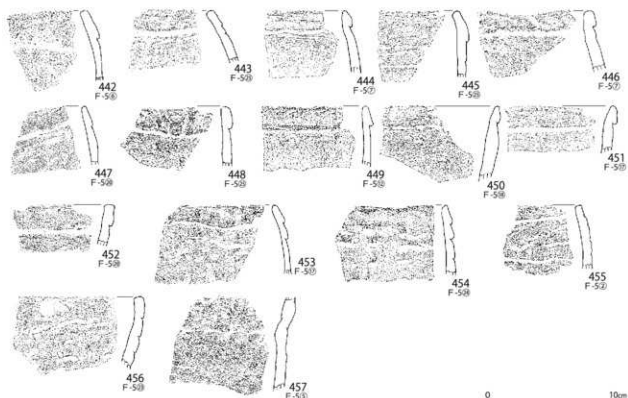
第33図 F-5グリッド出土遺物(13)



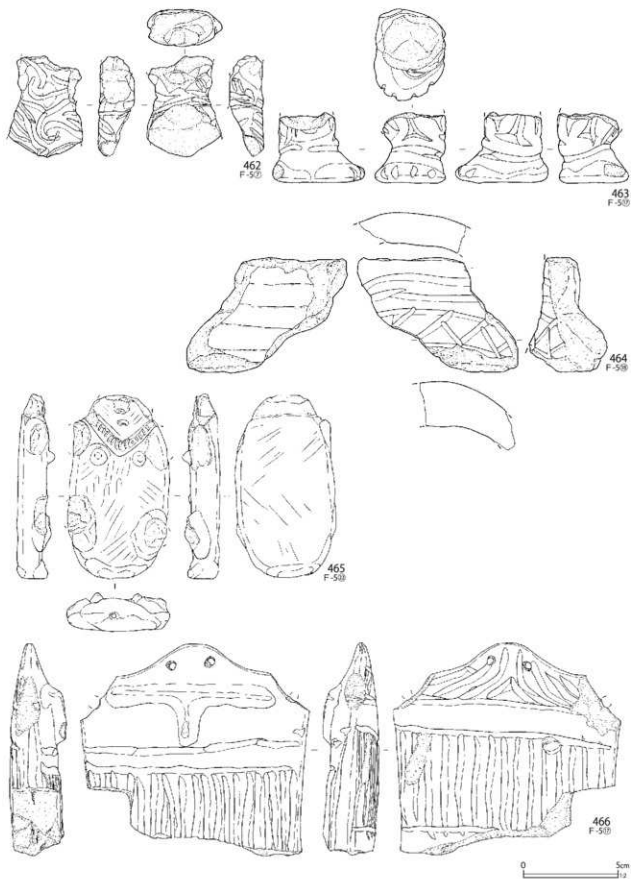
第34図 F-5グリッド出土遺物(14)



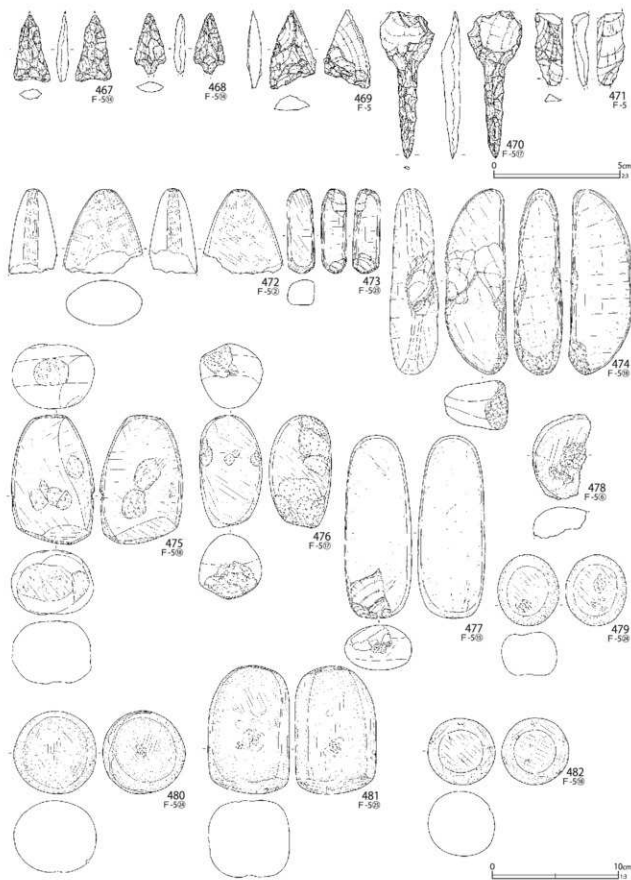
第35図 F-5グリッド出土遺物 (15)



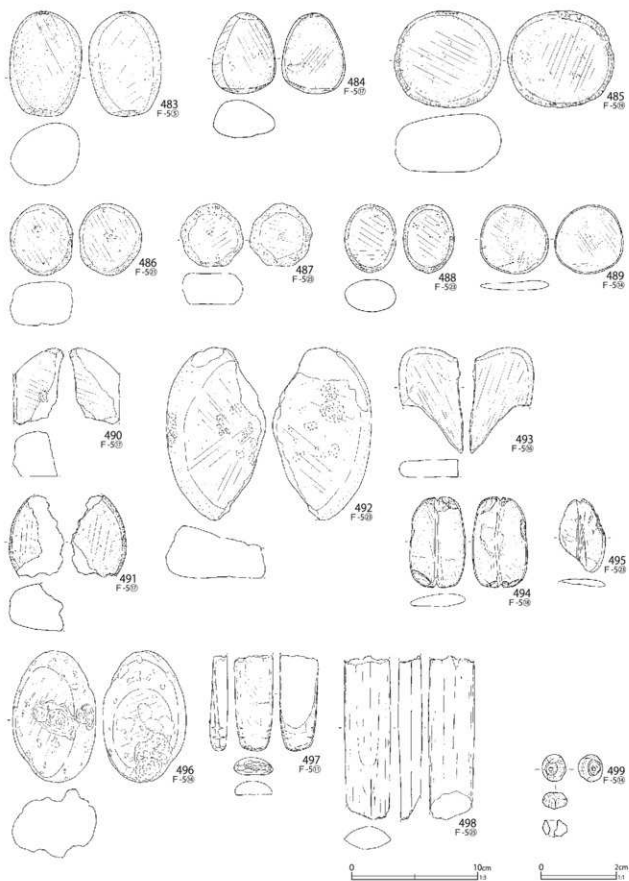
第36図 F-5グリッド出土遺物 (16)



第37図 F-5グリッド出土遺物 (17)



第38図 F-5グリッド出土遺物 (18)



第39図 F-5グリッド出土遺物(19)

第7表 F-5グリッド出土復元土器観察表 (第21～第23図)

番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類	番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類
1	Ⅲ-2	[13.2]	(22.0)	(22.0)	-	Ⅷ 2-A3	27	Ⅵ	[7.7]	(10.7)	(10.8)	-	Ⅷ-A4
2	Ⅲ-2	[20.3]	(42.0)	(43.0)	-	Ⅷ 2-A3	28	V-1	[5.3]	(13.5)	(15.5)	-	Ⅷ-F
3	Ⅲ-2	[10.2]	(23.2)	(23.2)	-	Ⅷ 2-A4	29	V-1	[27.2]	(29.4)	(29.8)	-	Ⅷ-A4
4	V-1	[6.8]	(23.2)	(25.3)	-	Ⅷ 2-A3	30	Ⅲ-2	[6.7]	-	(31.5)	-	Ⅷ-A5
5	V-1	[6.7]	(35.8)	(35.8)	-	Ⅷ 1-A4	31	Ⅲ-2	[2.2]	-	(13.0)	-	X 3
6	Ⅲ-2	[10.6]	(22.2)	(22.4)	-	Ⅷ 2-A4	32	Ⅲ-2	[3.2]	-	(12.1)	-	X 3
7	Ⅲ-2	[6.5]	(13.4)	(14.0)	-	Ⅷ 1-A4	33	Ⅵ	[7.5]	-	(15.0)	-	X 3
8	V-1	[19.0]	-	(15.9)	-	Ⅷ 1-A4	34	Ⅲ-2	[2.8]	-	(9.0)	-	X 3
9	Ⅲ-2	[7.6]	-	(26.3)	-	Ⅷ-A	35	Ⅲ-2	[1.9]	-	(7.6)	-	X 3
10	V-1	[11.2]	(32.0)	(32.0)	-	Ⅷ 2-B2	36	V-1	[5.0]	-	(12.0)	-	X 3
11	V-1	[7.0]	-	(13.0)	-	Ⅷ 2-B	37	Ⅲ-2	[6.5]	-	(17.0)	-	X 3
12	V-1	[4.6]	-	(15.4)	-	Ⅷ 2-B	38	Ⅲ-2	[7.6]	-	(18.0)	-	X 3
13	Ⅲ-2	[6.9]	-	(13.6)	-	Ⅷ～Ⅷ-B	39	Ⅲ-4	[7.6]	-	(17.2)	-	X 3
14	Ⅲ-2	[6.2]	-	(17.2)	-	Ⅷ～Ⅷ-B	40	Ⅲ-2	[3.7]	-	(11.6)	-	X 3
15	V-1	[8.6]	(13.0)	(13.0)	-	Ⅷ～Ⅷ-B	41	V-1	[4.9]	-	(13.0)	-	X 3
16	Ⅲ-2	[4.9]	-	(14.0)	(14.0)	Ⅷ～Ⅷ-B	42	V-1	[4.2]	-	(13.4)	-	X 3
17	Ⅲ-2	[6.9]	-	(12.6)	(13.0)	Ⅷ～Ⅷ-B	43	V-1	[4.9]	-	(14.0)	-	X 3
18	Ⅲ-2	[9.4]	-	(25.8)	-	Ⅷ 2-F	44	Ⅲ-2	[6.3]	-	(12.3)	-	X 3
19	V-1	[6.0]	(15.0)	(15.0)	-	Ⅷ 5-C2	45	V-1	[3.6]	-	(10.4)	-	X 3
20	Ⅲ-2	[4.4]	(15.0)	(15.0)	-	Ⅷ 5-C2	46	Ⅲ-2	[3.7]	-	(15.5)	-	X 3
21	Ⅲ-2	[10.1]	(12.9)	(17.6)	-	Ⅷ 5-F	47	V-1	[4.1]	-	(11.4)	-	X 3
22	Ⅲ-2	[4.4]	(9.4)	(9.4)	-	Ⅷ 5-F	48	V-1	[1.5]	-	(9.0)	-	X 3
23	V-1	[5.3]	(19.6)	(19.8)	(7.0)	Ⅷ 5-E	49	V-1	[2.7]	-	(11.8)	-	X 3
24	Ⅲ-2	[9.8]	(29.4)	(30.0)	-	Ⅷ 7-D	50	Ⅲ-2	[3.1]	-	(10.9)	-	X 3
25	Ⅲ-2	[6.6]	(10.0)	(10.0)	-	Ⅷ 7-E2	51	Ⅲ-2	[4.9]	-	(10.8)	-	X 3
26	Ⅲ-2	[8.4]	-	(14.5)	-	Ⅷ 7-F	52	Ⅲ-2	[8.0]	-	(17.1)	-	X 3

第8表 F-5グリッド出土破片土器観察表 (第24～第36図)

番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類
53	Ⅲ-2	V 2-A4	96	Ⅲ-2	Ⅷ～Ⅷ-B	139	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A4	182	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
54	V-1	V 2-A4	97	V-1	Ⅷ 7-A	140	V-1	Ⅷ 1-A4	183	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
55	Ⅲ-2	V 2-A4	98	V-1	Ⅷ 7-A	141	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A4	184	V-1	Ⅷ 2-A3
56	V-1	Ⅷ 2-A3	99	V-1	Ⅷ 7-A	142	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A4	185	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
57	V-1	Ⅷ 2-A3	100	Ⅲ-2	Ⅷ 7-A	143	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A4	186	V-1	Ⅷ 2-A3
58	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3	101	Ⅵ	Ⅷ 7-A	144	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A4	187	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
59	V-1	Ⅷ 2-A3	102	V-1	Ⅷ 7-A	145	V-1	Ⅷ 1-A5	188	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
60	V-1	Ⅷ 2-A3	103	Ⅲ-2	Ⅷ 7-A	146	Ⅲ-2	Ⅷ 3-A5	189	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
61	Ⅵ	Ⅷ 2-A3	104	Ⅲ-3	Ⅷ 2-A	147	Ⅵ	Ⅷ 3-A5	190	V-1	Ⅷ 2-A3
62	V-1	Ⅷ 1-A2	105	V-1	Ⅷ 2-A6	148	Ⅲ-2	Ⅷ 4-A	191	V-1	Ⅷ 2-A3
63	Ⅵ	Ⅷ 1-A5	106	V-1	Ⅷ 2-A6	149	Ⅲ-2	Ⅷ 4-A	192	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
64	V-1	Ⅷ 2-A5	107	Ⅲ-2	Ⅷ～Ⅷ-A7	150	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A5	193	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
65	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A5	108	Ⅵ	Ⅷ～Ⅷ-A7	151	Ⅲ-2	Ⅷ 4-A	194	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
66	V-1	Ⅷ 2-A5	109	Ⅲ-2	Ⅷ～Ⅷ-A7	152	Ⅲ-2	Ⅷ 4-A	195	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
67	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A4	110	Ⅲ-2	Ⅷ～Ⅷ-A7	153	Ⅲ-2	Ⅷ 4-A	196	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
68	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A4	111	Ⅲ-2	Ⅷ～Ⅷ-A7	154	Ⅲ-2	Ⅷ 4-A	197	V-1	Ⅷ 2-A3
69	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A4	112	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A5	155	V-1	Ⅷ 4-A	198	V-1	Ⅷ 2-A3
70	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A4	113	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A5	156	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A5	199	V-1	Ⅷ 2-A3
71	V-1	Ⅷ 1-A4	114	X II	Ⅷ 1-A5	157	Ⅲ-2	Ⅷ 4-A	200	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
72	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A4	115	Ⅲ-2	Ⅷ 4-A3	158	Ⅲ-2	Ⅷ 4-A	201	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
73	V-1	Ⅷ 2-A4	116	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A3	159	Ⅲ-2	Ⅷ 4-A	202	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
74	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A4	117	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A3	160	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A5	203	V-1	Ⅷ 2-A3
75	V-1	Ⅷ 1-A4	118	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A3	161	V-1	Ⅷ 4-A	204	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
76	V-1	Ⅷ 1～2-A4	119	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A3	162	Ⅲ-2	Ⅷ 4-A	205	V-1	Ⅷ 2-A3
77	Ⅲ-2	Ⅷ 1～2-A4	120	V-1	Ⅷ 1-A3	163	Ⅲ-2	Ⅷ 4-A	206	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
78	Ⅲ-2	Ⅷ 1～2-A4	121	Ⅵ	Ⅷ 1-A3	164	Ⅲ-2	Ⅷ 4-A	207	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3
79	V-1	Ⅷ 1～2-A4	122	V-1	Ⅷ 1-A3	165	V-1	Ⅷ 1～2-A3～4	208	V-1	Ⅷ 2-A4
80	Ⅲ-2	Ⅷ 1～2-A4	123	V-1	Ⅷ 1-A3	166	Ⅲ-2	Ⅷ 1～2-A3～4	209	V-1	Ⅷ 2-A4
81	Ⅲ-2	Ⅷ 1～2-A4	124	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A3	167	Ⅲ-2	Ⅷ 1～2-A3～4	210	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A4
82	V-1	Ⅷ 1～2-A4	125	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A3	168	V-1	Ⅷ 1～2-A3～4	211	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A4
83	V-1	Ⅷ 1～2-A4	126	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A3	169	V-1	Ⅷ 1～2-A3～4	212	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A4
84	Ⅵ	Ⅷ 1-A5	127	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A3	170	Ⅲ-2	Ⅷ 1～2-A3～4	213	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A4
85	Ⅲ-2	Ⅷ-F1	128	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A3	171	Ⅲ-2	Ⅷ 1～2-A3～4	214	V-1	Ⅷ 2-A4
86	-	Ⅷ 1-A5	129	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A3	172	Ⅵ	Ⅷ 1～2-A3～4	215	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A4
87	V-1	Ⅷ 1-A5	130	V-1	Ⅷ 2-A3	173	Ⅲ-2	Ⅷ 1～2-A3～4	216	V-1	Ⅷ 2-A4
88	Ⅲ-2	Ⅷ-F1	131	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3	174	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3～4	217	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A4
89	Ⅲ-2	Ⅷ-F1	132	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A4	175	V-1	Ⅷ 1～2-A3～4	218	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A4
90	V-1	Ⅷ 1-D1	133	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A4	176	Ⅲ-2	Ⅷ 1～2-A3～4	219	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A4
91	Ⅵ	Ⅷ 2-C2	134	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A4	177	V-1	Ⅷ 1～2-A3～4	220	V-1	Ⅷ 2-A4
92	Ⅵ	Ⅷ 2-C2	135	V-1	Ⅷ 1-A4	178	Ⅲ-2	Ⅷ 1～2-A3～4	221	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A4
93	V-1	Ⅷ 2-C1	136	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A4	179	V-1	Ⅷ 1～2-A3～4	222	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A4
94	Ⅲ-2	Ⅷ 2-C1	137	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A4	180	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A3	223	Ⅲ-2	Ⅷ 2-A4
95	V-1	Ⅷ～Ⅷ-B	138	Ⅲ-2	Ⅷ 1-A4	181	V-1	Ⅷ 2-A3	224	V-1	Ⅷ 2-A4

225	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	284	V-1	ⅤⅡ 2-D1	343	Ⅲ-2	ⅤⅡ 5-A4	402	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A4
226	V-1	ⅤⅡ 2-A4	285	V-1	ⅤⅡ 1-D1	344	Ⅲ-2	ⅤⅡ 5-A4	403	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5
227	ⅤⅠ	ⅤⅡ 2-A4	286	V-1	ⅤⅡ 1-D1	345	Ⅲ-2	ⅤⅡ 5-A4	404	V-1	ⅤⅡ-A4
228	V-1	ⅤⅡ 2-A4	287	ⅤⅠ	ⅤⅡ 2-D1	346	V-1	ⅤⅡ 5-A4	405	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A4
229	V-1	ⅤⅡ 2-A4	288	Ⅲ-2	ⅤⅡ 1-D1	347	Ⅲ-2	ⅤⅡ 5-A4	406	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A4
230	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	289	V-1	ⅤⅡ 2-D2	348	ⅤⅠ	ⅤⅡ 5-A4	407	ⅤⅠ	ⅤⅡ-A4
231	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	290	Ⅲ-2	ⅤⅡ-C	349	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5	408	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A4
232	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	291	V-1	ⅤⅡ 2-B	350	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5	409	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A4
233	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	292	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-F	351	V-1	ⅤⅡ-A5	410	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A4
234	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	293	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-B	352	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5	411	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A4
235	ⅤⅠ	ⅤⅡ 2-A4	294	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-B	353	V-1	ⅤⅡ-A5	412	V-1	ⅤⅡ-A4
236	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	295	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-B	354	V-1	ⅤⅡ-A5	413	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A4
237	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	296	V-1	ⅤⅡ 2-B	355	V-1	ⅤⅡ-A5	414	V-1	ⅤⅡ-A4
238	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	297	V-1	ⅤⅡ 2-F1	356	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5	415	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A4
239	V-1	ⅤⅡ 2-A4	298	V-1	ⅤⅡ 2-F1	357	V-1	ⅤⅡ-A5	416	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A4
240	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	299	V-1	ⅤⅡ 2-F1	358	V-1	ⅤⅡ-A5	417	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A4
241	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	300	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-F	359	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5	418	V-1	ⅤⅡ-A4
242	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	301	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-F	360	V-1	ⅤⅡ-A5	419	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A4
243	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	302	V-1	ⅤⅡ 6-C2	361	V-1	ⅤⅡ-A5	420	V-1	ⅤⅡ-A4
244	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	303	V-1	ⅤⅡ 6-C2	362	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5	421	V-1	ⅤⅡ-A4
245	V-1	ⅤⅡ 2-A4	304	V-1	ⅤⅡ 6-C2	363	V-1	ⅤⅡ-A5	422	ⅤⅠ	ⅤⅡ-A4
246	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	305	ⅤⅠ	ⅤⅡ 6-C2	364	V-1	ⅤⅡ-A5	423	V-1	ⅤⅡ-A4
247	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A4	306	Ⅲ-2	ⅤⅡ 6-C2	365	V-1	ⅤⅡ-A5	424	V-1	ⅤⅡ-A4
248	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	307	Ⅲ-2	ⅤⅡ 6-C2	366	ⅤⅠ	ⅤⅡ-A5	425	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A4
249	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	308	V-1	ⅤⅡ 6-C2	367	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5	426	V-1	ⅤⅡ-A4
250	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	309	Ⅲ-2	ⅤⅡ 6-D1	368	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A7	427	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A4
251	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	310	V-1	ⅤⅡ 6-D1	369	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A7	428	V-1	ⅤⅡ-A5
252	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	311	Ⅲ-2	ⅤⅡ 6-D1	370	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2	429	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5
253	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	312	Ⅲ-2	ⅤⅡ 6-D1	371	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2	430	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5
254	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	313	Ⅲ-2	ⅤⅡ 6-A4	372	ⅤⅠ	ⅤⅡ-A2	431	V-1	ⅤⅡ-A5
255	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	314	Ⅲ-2	ⅤⅡ 7-D1	373	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2	432	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5
256	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	315	V-1	ⅤⅡ 7-C2	374	V-1	ⅤⅡ-A2	433	V-1	ⅤⅡ-A5
257	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	316	Ⅲ-2	ⅤⅡ 7-D1	375	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2	434	V-1	ⅤⅡ-A5
258	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	317	Ⅲ-2	ⅤⅡ 7-C2	376	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2	435	V-1	ⅤⅡ-A5
259	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	318	Ⅲ-2	ⅤⅡ 7-C2	377	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2	436	V-1	ⅤⅡ-A5
260	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	319	Ⅲ-2	ⅤⅡ 7-C2	378	ⅤⅠ	ⅤⅡ-A2	437	V-1	ⅤⅡ-A5
261	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	320	Ⅲ-2	ⅤⅡ 7-C2	379	V-1	ⅤⅡ-A2	438	V-1	ⅤⅡ-A5
262	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	321	V-1	ⅤⅡ 7-C	380	V-1	ⅤⅡ-A2	439	V-1	ⅤⅡ-A5
263	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	322	V-1	ⅤⅡ 7-C	381	V-1	ⅤⅡ-A2	440	V-1	ⅤⅡ-A5
264	ⅤⅠ	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	323	ⅤⅠ	ⅤⅡ 7-A2	382	ⅤⅠ	ⅤⅡ-A2	441	V-1	ⅤⅡ-A5
265	ⅤⅠ	ⅤⅡ 2-A3 ~ 4	324	Ⅲ-2	ⅤⅡ 7-C	383	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2	442	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5
266	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-A5	325	Ⅲ-2	ⅤⅡ 7-C	384	V-1	ⅤⅡ-A2	443	V-1	ⅤⅡ-A5
267	Ⅲ-2	ⅤⅡ 7-A5	326	Ⅲ-2	ⅤⅡ 7-F2	385	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2	444	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5
268	Ⅲ-2	ⅤⅡ 1-C1	327	ⅤⅠ	ⅤⅡ 7-F1	386	ⅤⅠ	ⅤⅡ-A2	445	V-1	ⅤⅡ-A5
269	Ⅲ-2	ⅤⅡ 1-C1	328	V-1	ⅤⅡ 4-A1	387	ⅤⅠ	ⅤⅡ-A2	446	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5
270	V-1	ⅤⅡ 1-C1	329	V-1	ⅤⅡ 4-A4	388	V-1	ⅤⅡ-A2	447	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5
271	V-1	ⅤⅡ 1-C1	330	V-1	ⅤⅡ 4-A1	389	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2	448	V-1	ⅤⅡ-A2
272	ⅤⅠ	ⅤⅡ 1-C1	331	Ⅲ-2	ⅤⅡ 4-A1	390	V-1	ⅤⅡ-A2	449	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2
273	Ⅲ-2	ⅤⅡ 1-C1	332	Ⅲ-2	ⅤⅡ 4-A	391	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2	450	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2
274	V-1	ⅤⅡ 1-C1	333	Ⅲ-2	ⅤⅡ 4-A	392	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2	451	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2
275	Ⅲ-2	ⅤⅡ 1-C1	334	V-1	ⅤⅡ 4-A	393	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2	452	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2
276	V-1	ⅤⅡ-B	335	Ⅲ-2	ⅤⅡ 4-A	394	V-1	ⅤⅡ-A2	453	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5
277	ⅤⅠ	ⅤⅡ 1-D1	336	Ⅲ-2	ⅤⅡ 4-A	395	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2	454	V-1	ⅤⅡ-A5
278	Ⅲ-2	ⅤⅡ 1-D1	337	V-1	ⅤⅡ 4-A	396	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A2	455	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5
279	Ⅲ-2	ⅤⅡ 1-D1	338	Ⅲ-2	ⅤⅡ 5-A3	397	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5	456	V-1	ⅤⅡ-C2
280	ⅤⅠ	ⅤⅡ 2-D1	339	V-1	ⅤⅡ 5-A3	398	V-1	ⅤⅡ-A4	457	ⅤⅠ	ⅤⅡ-A
281	Ⅲ-2	ⅤⅡ 1-D1	340	Ⅲ-2	ⅤⅡ 5-A4	399	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5			
282	Ⅲ-2	ⅤⅡ 1-D1	341	Ⅲ-2	ⅤⅡ 5-A4	400	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A5			
283	Ⅲ-2	ⅤⅡ 2-D1	342	Ⅲ-2	ⅤⅡ 5-C2	401	Ⅲ-2	ⅤⅡ-A4			

第9表 F-5 グリッド出土土製品観察表 (第36図、第37図)

番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ	番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ
461	Ⅲ-2	土偶	[5.7]	[6.2]	[5.1]	464	Ⅲ-2	土偶	[6.1]	[8.4]	[4.2]
462	Ⅲ-2	土偶	[5.3]	[4.0]	[2.0]	465	V-1	動物形土製品	[9.8]	[5.5]	[2.0]
463	Ⅲ-2	土偶	[3.8]	[3.8]	[4.9]	466	Ⅲ-2	土版	[11.2]	[12.0]	[2.9]

第10表 F-5 グリッド出土土製品観察表 (第36図)

番号	層位	最大径	重量	分類	番号	層位	最大径	重量	分類	番号	層位	最大径	重量	分類
458	-	5.2	35.1	Ⅱ-A-ア	459	Ⅲ-2	2.9	6.0	I-B-イ	460	Ⅲ-2	3.7	15.1	I-B-ウ

第11表 F-5グリッド出土石器観察表 (第38図、第39図)

番号	層位	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重量
467	Ⅲ-2	石鏃	I	チャート	[2.6]	1.4	0.5	1.4
468	Ⅲ-2	石鏃	I	チャート	[2.4]	1.2	0.5	0.9
469	-	石鏃	-	チャート	3.1	1.9	0.6	2.9
470	Ⅲ-2	石鏃	I	黒色頁岩	5.8	2.2	0.8	4.7
471	Ⅲ-2	石鏃	Ⅱ	チャート	[2.9]	1.1	0.7	2.0
472	Ⅲ-2	磨製石斧	I	緑色岩	[6.7]	[6.3]	[3.8]	194.3
473	V-1	蔽石	I	安山岩	6.7	2.2	2.0	52.7
474	Ⅲ-2	蔽石	I	頁岩	14.7	5.0	3.8	402.6
475	Ⅲ-2	蔽石	I	安山岩	10.2	6.5	5.1	441.0
476	Ⅲ-2	蔽石	I	安山岩	9.0	5.0	5.1	261.1
477	Ⅲ-2	蔽石	Ⅱ	安山岩	14.5	5.4	3.6	434.0
478	Ⅲ-2	凹石	I	安山岩	[6.8]	[4.6]	[2.6]	85.0
479	V-1	凹石	I	安山岩	5.6	4.9	3.5	140.7
480	V-1	磨石	I	安山岩	6.5	6.5	5.7	324.9
481	V-1	磨石	I	安山岩	10.2	6.4	6.2	588.1
482	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	5.3	5.3	5.2	180.4
483	Ⅵ	磨石	Ⅱ	安山岩	8.3	5.7	5.0	298.8
484	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	6.4	5.0	3.1	127.6
485	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	7.7	8.4	4.7	420.3
486	I	磨石	Ⅱ	安山岩	5.6	4.9	3.5	91.5
487	V-1	磨石	Ⅱ	安山岩	5.0	5.0	2.5	80.3
488	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	5.5	4.1	2.6	69.2
489	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	砂岩	5.5	5.4	0.8	34.1
490	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	[6.1]	[4.0]	3.6	100.3
491	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	[6.5]	[4.4]	[3.8]	129.1
492	V-1	石皿	Ⅱ	安山岩	[13.7]	[7.9]	4.2	494.6
493	Ⅲ-2	砥石	Ⅲ	砂岩	[8.4]	[5.1]	[1.4]	82.9
494	Ⅲ-2	石鏃	I	頁岩	7.2	4.4	1.1	52.1
495	V-1	石鏃	I	頁岩	[5.9]	[3.7]	[0.6]	13.7
496	Ⅲ-2	軽石類	I	軽石	10.5	6.7	5.6	123.8
497	Ⅲ-2	石棒類	Ⅱ	緑泥片岩	[7.6]	3.1	1.4	54.4
498	V-1	石棒類	Ⅱ	片岩	[13.0]	3.7	1.9	135.2
499	Ⅲ-2	垂飾	-	ヒスイ	0.7	0.6	0.4	0.3

もので、頭部は中空の造りで、円錐形状である。目は沈線で描かれ、低い貼付の鼻には2穴の鼻孔が表現され、穴を穿った耳が両側に均等に付けられている。頭部には三叉印刻が3箇所に分けられ、縄文LRが施文され、襟足部分に刺突が巡っている。晩期中葉あたりに位置付けられよう。

462は小型の中実土偶で、頭部と四肢が欠損する。土偶背面には沈線の入組渦巻文が施文されており、晩期中葉あたりに位置付けられよう。

463は中実土偶の短い左足部で、体部との接合面が凹面状に窪み、三叉文が施される足には5本の指が表現されている。464は土偶の体部としたが、詳細は不明である。

465は扁平な土製品である。頭上半部と4脚を欠損する。鼻が剥落し、口が刺突文で表現され、胸に2個の乳房が付き、首に刻みのある「V」字状隆の加飾がある。尻部には円孔が空く。乳幼児の土偶である可能性がある。晩期中葉と思われる。

466は大型の土版で、下半部を欠損する。土版の

上部は山形状に薄くなり、2穴が穿たれる。表裏面とも2本沈線で区画され、縦位の集合沈線が施される。上部に貼り付けられた「T」字状の隆帯が、顔面のようにも見える。晩期中葉と思われる。

石器 (第38図467～第39図499)

第38図467～469は石鏃である。467は先端が僅かに欠損した無茎の石鏃、468が基部を欠く有茎の石鏃、469が未成品である。470は摘み部が僅かに欠損したI類の石鏃で、471が基部と鏃部を欠くII類の石鏃である。472は定角式の磨製石斧の基部片である。蔽石は5点出土し、477がII類、その他がI類である。478、479はI類の凹石である。磨石は12点出土し、480、481がI類、482～489がII類である。480、482は円形を呈しており、全面を磨いている。481、483、484は正面裏面に加え、上面下面にも磨り面が認められる。

497、498は石剣の破片で、特に497は両側面に各2つ、計4つの刻みを有している。499は白形を呈する垂飾である。

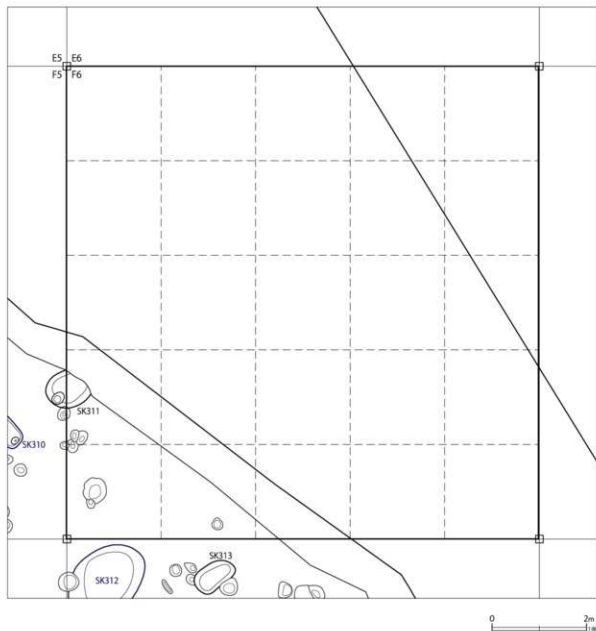
3 F-6グリッド出土遺物

概要 (第40図、第41図)

A区の中では、北東端の調査区になる。南盛土と北盛土の中間地点に当たるが、南盛土内に位置しており、北東側の調査区際の標高が高く、南西側に緩く傾斜する。盛土はさらに北東側に広がるものと思われる。

本グリッドは調査範囲が狭く、遺構は時期不詳のSK311がF-5グリッドにまたがって存在する程度である。周囲にもいくつかのピットが存在するが、所属時期は不明である。

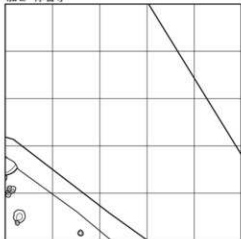
遺物の出土状況もF-4・5グリッドと同様であり、第Ⅷ群第1類、第2類の安行3c式、3



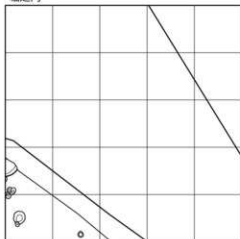
遺構	小グリッド	所属時期	遺構	小グリッド	所属時期	遺構	小グリッド	所属時期
SK311	16	不明						

第40図 F-6グリッド検出遺構

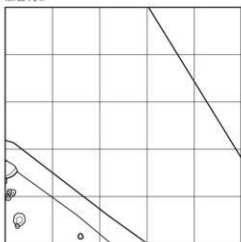
加E・称名寺



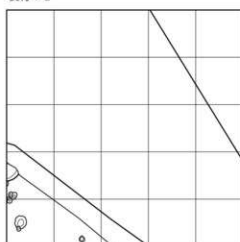
堀之内



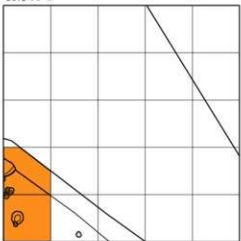
加曾利B



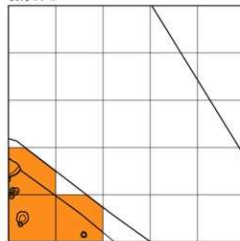
安行 1・2



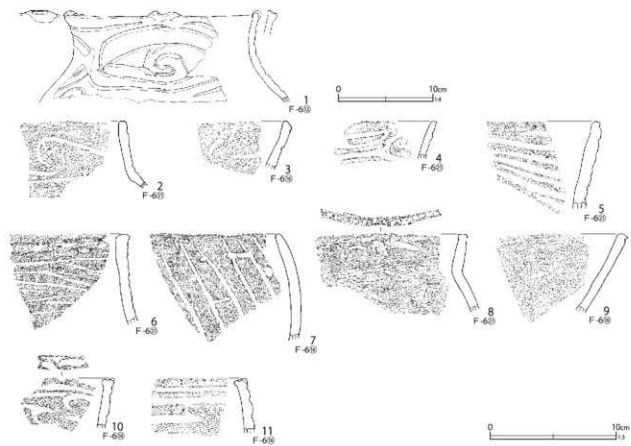
安行 3a・b



安行 3c・d



第41図 F-6グリッド時期別濃淡図



第42図 F-6グリッド出土遺物

第12表 F-6グリッド出土復元土器観察表 (第42図)

番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類
1	Ⅲ-2	[9.7]	(20.5)	(26.4)	-	Ⅳ2-A5

第13表 F-6グリッド出土破片土器観察表 (第42図)

番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類
2	V-1	Ⅳ2-A5	5	V-1	Ⅳ2-A4	8	Ⅲ-2	Ⅳ-A4	11	Ⅲ-2	Ⅳ6-7-C2
3	Ⅲ-2	Ⅳ2-C2	6	Ⅲ-2	Ⅳ2-A5	9	Ⅲ-2	Ⅳ-D1			
4	Ⅵ	Ⅳ2-A4	7	Ⅲ-2	Ⅳ2-A5	10	Ⅲ-2	Ⅳ6-7-C2			

第14表 F-6グリッド出土土製品観察表 (第42図)

番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ	番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ
12	-	土偶	[5.0]	[6.0]	[3.4]						

d式土器が覆うように分布していた。また、第VII群第2類の安行3b式土器の出土割合が、若干多くなる傾向にある。

縄文土器（第42図1～11）

第42図2は胴部に括れる平口縁土器で、口縁部に沈線の入組渦巻文が施文される。第VII群第2類の安行3b式に比定される。

3は鉢形土器と思われ、内面に丁寧なミガキが施される。口縁部には横「L」字状の沈線文と横位沈線文が組み合わさったモチーフが描かれ、地文に縄文LRが施文される。第VII群第2類の安行3b式辺りに位置付けられよう。

1は外反する口縁部が大きく括れ、胴部に最大径を有する深鉢形土器で、双頭突起と上面皿状突起が交互に4単位で付く。胴部に沈線の楕円形渦巻文が施文されて、中央部で渦巻文の先端部が入組三叉文が描かれる。胴部の最大径部分で文様帯が区画されるものではなく、胴下半部にまでモチーフが及んでおり、安行3d式の新しい段階の傾向と言えよう。また、大きな楕円渦巻文は横位に連結すると「X」字状のモチーフと類似した構成となり、太い凹線状沈線でモチーフを描く前浦式と類似する。器形も前浦式と類似し、安行3d

式との相互影響下にできた土器と思われる。

4は口縁部が開く器形で、口縁部に横位の入組三叉文が施文される。5、6は多重の沈線が流れるように重複し、全体として入組三叉文の構成になるものであろう。7は内湾する口縁部に、太い斜沈線を何本も垂下施文するもので、イレギュラーであるが安行3d式に位置付けられよう。

8は頭部で括れる無文の深鉢形土器で、口唇部には連続刺突列が施文されている。9は口縁部が直線的に開く、無文の浅鉢である。両者とも第VIII群の晩期中葉の土器群と思われる。

10、11はいずれも鉢と思われ、10は雲形文の崩れたモチーフ、11は「π」字状の単位文が施文される第VIII群第6類から第7類の大洞式C1式からC2式にかけての土器と思われる。

土製品類（第42図12）

第42図12は中実土器の右肩部分の破片で、脇から先の腕を欠損する。肩部には背面から前面にかけて2本沈線が巡り、細かな刺突列が施文されている。また、肩の上部には沈線の3重円文が施文されている。沈線は角が立つような角状を呈し、深くしっかりと施文されている。第VIII群でも安行3d式近くに位置付けられよう。

4 G-4グリッド出土遺物

概要（第43図、第44図）

F-4グリッドの南側に位置し、狭小な調査区であり、遺構は検出されていない。出土土器はV層中で第VIII群晩期中葉土器群の混じる割合が増え、III層中で第VII群晩期前葉土器群の出土量が優勢になるという層位の逆転現象がみられた。なんらかの地表面の改変が行われた可能性が窺える。

第V群加曾利B式土器及び第VIII群安行3c式、3d式土器は、⑤小グリッドから比較的纏まって出土している。

縄文土器（第45図1～第47図79）

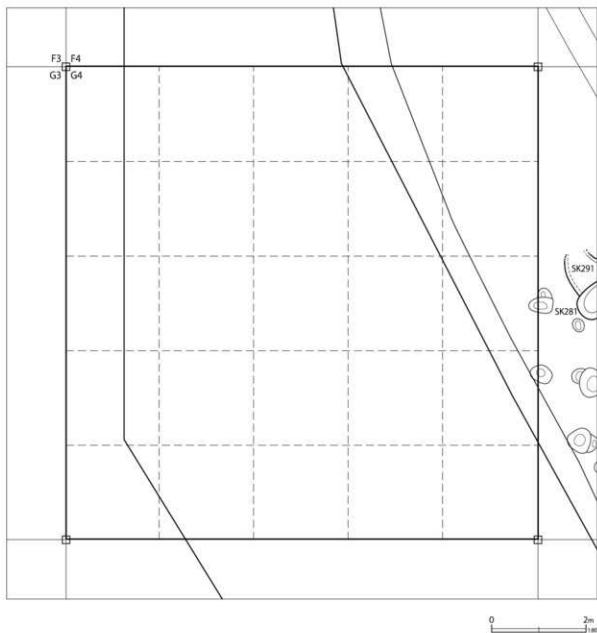
第45図4～6は第IV群第4類の堀之内2式土

器である。7は第V群第2類の加曾利B2式の遠部式系土器で、口縁部に押玉隆帯を巡らし、地文縄文上に横位弧状の条線文が施文されている。

10～13は第VI群から第VII群の口縁部が内湾する安行式の深鉢形土器で、11は注口土器の可能性が高い。10は縦位2連の縦瘤が付き、刻み等は施されない。11、12は中央部が窪む瘤が付けられる。13は区画内に三角印刻が施される。11、13は安行3a式に比定されよう。

14、15は台付鉢の脚部と思われ、底部付近が平行沈線で区画される。第VII群土器と思われる。

16は第VII群第7類の細密沈線土器である。



第43図 G-4グリッド検出遺構

弧状の区画文内に細密沈線文が充填施文される。

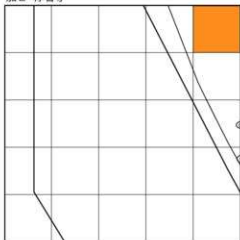
17、18は第Ⅵ群から第Ⅶ群にかけての紐線文系土器で、地文に条線文が施文される。

19は第Ⅸ群の東海系の突帯文系土器と思われる、口縁部に押圧を施す隆帯を巡らせている。灰白色を呈し、他の土器群とは胎土、色調が異なる。

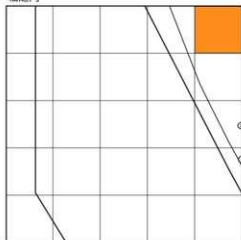
20～40は第Ⅷ群土器で、20～24は沈線区画内に刺突文が施文される第1類安行3c式、25～35は沈線文のみが施文される第2類安行3d式土器である。

36、37は緩く内湾する器形で、口縁部に沈線が施文される第Ⅷ群第1類の安行3c式土器と思われる、38は口縁部が折返状を呈し、沈線モチーフが施文されている。39、40は胴部で括れる器形で、沈線の弧線文が描かれている。安行3c式であろうか。41～45は沈線文のみ施文される鉢形土器で、41は内湾、43～45は大きく開く器形である。1は入組三叉文が2段に施文され、モチーフの間に縄文LRが施文されている。46～50は壺形土器で、46は口縁部が外折し、47、48は

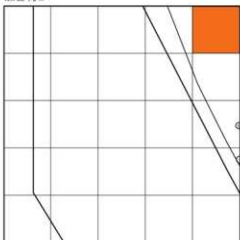
加E・称名寺



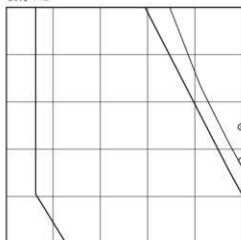
堀之内



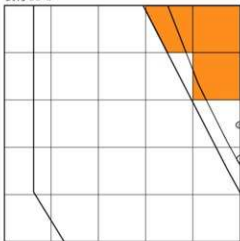
加曾利B



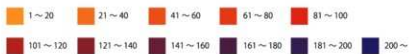
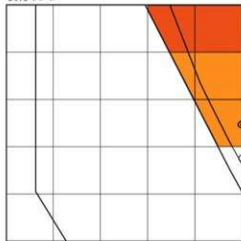
安行 1・2



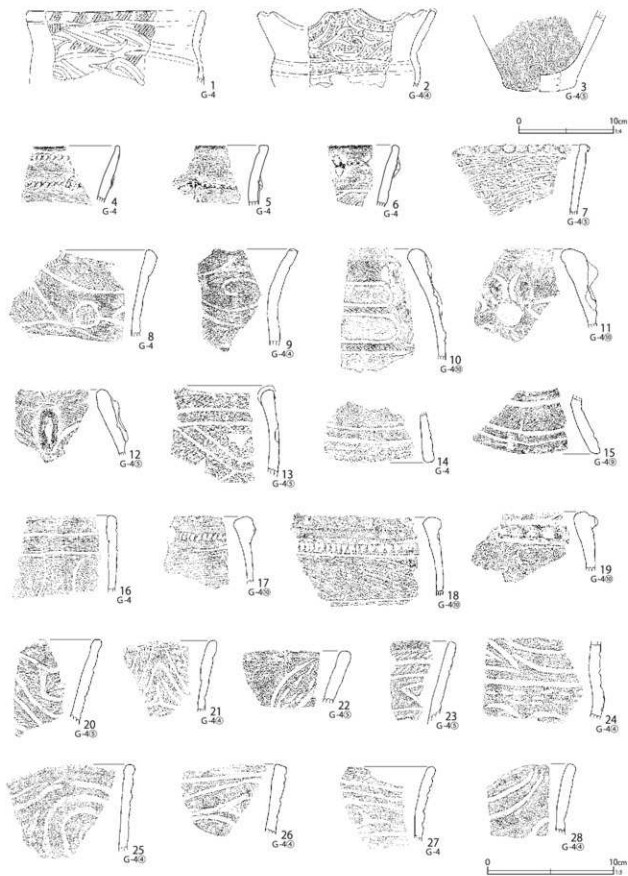
安行 3a・b



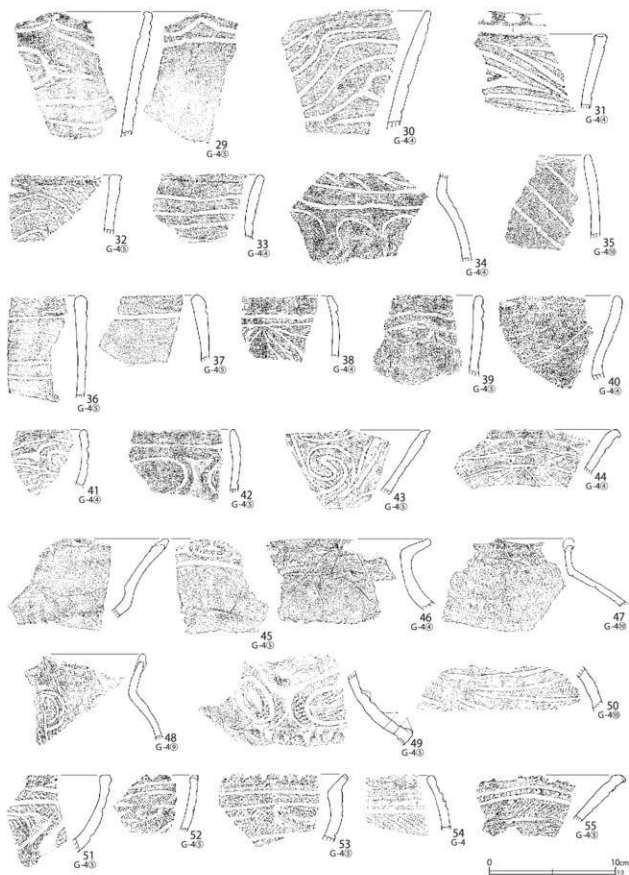
安行 3c・d



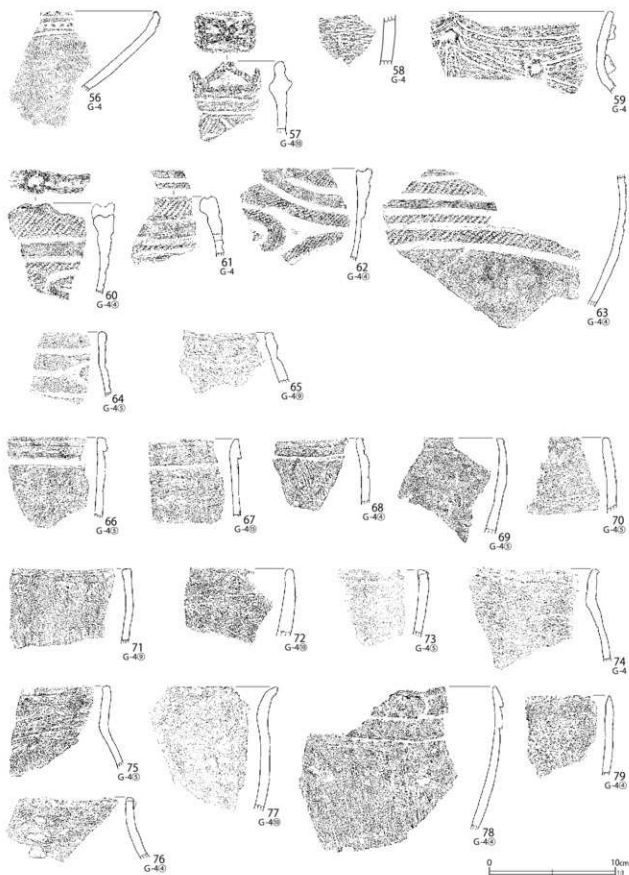
第44図 G-4グリッド時期別濃淡図



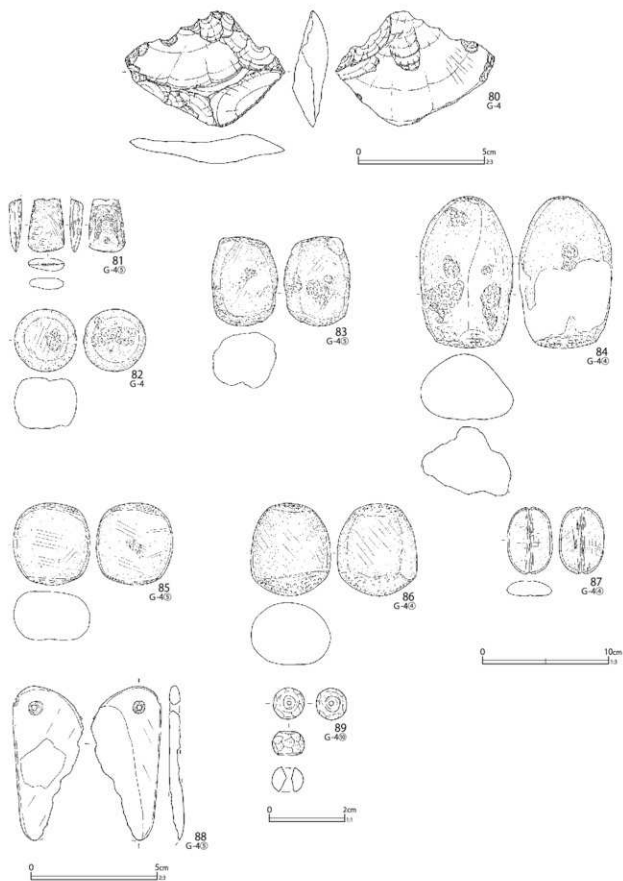
第45図 G-4グリッド出土遺物(1)



第46図 G-4グリッド出土遺物(2)



第47図 G-4グリッド出土遺物(3)



第48図 G-4グリッド出土遺物(4)

第15表 G-4グリッド出土復元土器観察表 (第45図)

番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類
1	-	[7.9]	(18.8)	(18.8)	-	Ⅷ1-A4
2	V-1	[8.4]	(18.9)	(18.9)	-	Ⅷ4-A3

第16表 G-4グリッド出土破片土器観察表 (第45～47図)

番号	層位	分類	番号	層位	分類
4	-	Ⅳ4-A1	23	V-1	Ⅷ1-A4
5	-	Ⅳ4-A1	24	V-1	Ⅷ1-A4
6	-	Ⅳ4-A1	25	Ⅳ-1	Ⅷ2-A3
7	Ⅲ-2	V2-A7	26	V-1	Ⅷ2-A3
8	Ⅲ-2	Ⅷ2～Ⅷ1-A3	27	-	Ⅷ2-A3
9	V-1	Ⅷ2～Ⅷ1-A3	28	V-1	Ⅷ2-A3
10	Ⅲ-2	Ⅵ1-A5	29	V-1	Ⅷ2-A3
11	Ⅲ-2	Ⅷ1-G	30	V-1	Ⅷ2-A3
12	Ⅲ-2	Ⅵ2～Ⅷ1-A5	31	V-1	Ⅷ2-A4
13	V-1	Ⅷ1-A4	32	V-1	Ⅷ2-A4
14	-	Ⅷ-B	33	V-1	Ⅷ2-A4
15	V-1	Ⅷ-B	34	V-1	Ⅷ2-A
16	-	Ⅷ7-A2	35	V-1	Ⅷ2-A2
17	Ⅲ-2	Ⅵ2～Ⅷ1-A7	36	Ⅲ-2	Ⅷ1-A5
18	Ⅲ-2	Ⅵ2～Ⅷ1-A6	37	V-1	Ⅷ1-A5
19	Ⅲ-2	Ⅸ4-A5	38	V-1	Ⅷ1-A5
20	V-1	Ⅷ1-A4	39	V-1	Ⅷ1-A4
21	V-1	Ⅷ1-A4	40	V-1	Ⅷ1-A4
22	V-1	Ⅷ1-A4	41	V-1	Ⅷ-C
42	V-1	Ⅷ-C	61	-	Ⅷ5-A4
43	V-1	Ⅷ-C	62	V-1	Ⅷ5-A4
44	V-1	Ⅷ-C	63	V-1	Ⅷ5-A4
45	V-1	Ⅷ-C	64	Ⅲ-2	Ⅷ5-A4
46	V-1	Ⅷ-F	65	V-1	Ⅷ5-A4
47	V-1	Ⅷ-F	66	V-1	Ⅷ5-A5
48	V-1	Ⅷ-F	67	V-1	Ⅷ5-A5
49	V-1	Ⅷ-F	68	V-1	Ⅷ5-A5
50	V-1	Ⅷ-F	69	V-1	Ⅷ5-A4
51	Ⅲ-2	Ⅷ6～7-C	70	Ⅲ-2	Ⅷ5-A4
52	V-1	Ⅷ6～7-C	71	V-1	Ⅷ5-A4
53	Ⅲ-2	Ⅷ6～7-C	72	V-1	Ⅷ5-A4
54	-	Ⅷ7-C	73	V-1	Ⅷ5-A4
55	V-1	Ⅷ6-E	74	-	Ⅷ5-A4
56	-	Ⅷ6-D1	75	Ⅲ-2	Ⅷ5-A4
57	V-1	Ⅷ7-F2	76	V-1	Ⅷ5-F1
58	-	Ⅷ7-A	77	V-1	Ⅷ5-A4
59	-	Ⅷ4-A4	78	V-1	Ⅷ5-A2
60	V-1	Ⅷ5-A4	79	V-1	Ⅷ5-A1

第17表 G-4グリッド出土石器観察表 (第48図)

番号	層位	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重量
80	V-1	二次加工剥片	-	頁岩	4.6	6.3	1.4	27.3
81	V-1	磨製石斧	I	トレモク閃石器	[4.2]	2.9	1.0	20.6
82	-	磨石	I	安山岩	5.0	4.9	4.1	117.4
83	V-1	磨石	I	安山岩	7.1	5.2	4.5	152.1
84	V-1	磨石	I	安山岩	12.0	[7.3]	[5.6]	491.5
85	V-1	磨石	Ⅱ	安山岩	6.5	6.0	3.8	221.3
86	Ⅳ-1	磨石	Ⅱ	安山岩	7.4	6.3	5.2	340.9
87	V-1	石錘	I	頁岩	5.4	3.6	1.4	40.9
88	Ⅲ-2	垂飾	-	安山岩	[6.1]	[2.8]	0.6	8.9
89	V-1	垂飾	-	滑石	0.9	0.8	0.7	0.6

頸部が括れる器形である。51～58は第Ⅷ群の大洞式系土器で、52～54は鉢、55は皿、56は浅鉢、57は壺の口縁部である。58は燃糸文Lが施文される。54、57、58は大洞C2式であろう。

2、59は細かな刺突文を有する第4類の天神原式系の深鉢で、59は円形貼付文が施文されている。

60～63は凹線状の沈線でモチーフが描かれ、60、61の口縁部裏面には沈線が巡っている。第5類の前浦式系土器で、64、65はその影響を受けているものと思われる。

66～78は無文土器で、66～68は折返状口縁で、78は2段の輪積痕を残す折返状を呈する。

79は器壁が薄く、良く被熱しており、製塩土

器と思われる。

石器 (第48図80～89)

第48図81は定角式の磨製石斧の刃部片である。上半部が欠損しているため、全体の大きさを推定することが困難であるが、小型の磨製石斧の可能性もある。82～86は磨石で、82は周縁を研磨によって整形し、正面と裏面を使用面としている。85、86は磨石Ⅱ類で、ともに正面裏面に加え、上面下面にも磨り面を有する。88、89は垂飾で、89は白形を呈し、88は長楕円形を呈するものと思われる。

その他、80の二次加工剥片、87の石錘Ⅰ類が出土している。

5 G-5グリッド出土遺物

概要 (第49図、第50図)

本グリッドからは、時期は確定できないが円形にピットが巡る後期後葉から晩期前葉にかけての第4号柱穴列、第5号柱穴列が検出されている。住居跡であれば、円形の配列であることから後期段階の可能性が高い。これらの柱穴列が存在する本グリッド南東部には第V群、第VII群土器が多く分布する傾向にあることも、柱穴列がこれらの時期と近いことを推測させる。また、グリッド北東部の④⑤⑨⑩小グリッド周辺で第VIII群土器が集中して出土している。この地区に明瞭な遺構は検出されていないが、安行3c式、3d式期のなんらかの遺構が存在していた可能性もある。

本グリッド全体では、III層中で第VIII群の安行3c式、3d式土器が主体的に分布する傾向は変わらないが、第VII群安行3b式以前の土器群も一定量出土している。しかし、下層のIV層中では第VIII群土器は殆ど出土せず、第VIII群以前の土器群が存在していた。さらに、下層のV層では再び第VIII群の安行3c式、3d式土器が出土するようになる。ここでも、層序の逆転現象がみられた。

この層序の逆転現象は、最初に安行3c式、3d式期に地表面の大幅な改変が行われ、安行3b式以前の土器群が堆積土と共に他所に移動した。その後しばらくの間、安行3c式、3d式期の堆積層が形成される。そして、なんらかの理由で他所に移動した土器を含む土が戻り、埋め戻される。さらに、最終的にまた第VIII群である安行3c式、3d式土器の廃棄場所となるという、盛土内での土の移動が想定される。盛土形成システムの一要因になることを示唆する例となろう。

縄文土器 (第51図1～第67図458)

出土土器は前期から晩期に及んでいる。第54図47、48は第II群第3類の繊維土器である黒浜式土器である。49～51は第4類の無繊維土器である諸磯a式土器である。49、50は横位多段区

面に鋸歯状文が、51は変形木葉文が施文される。

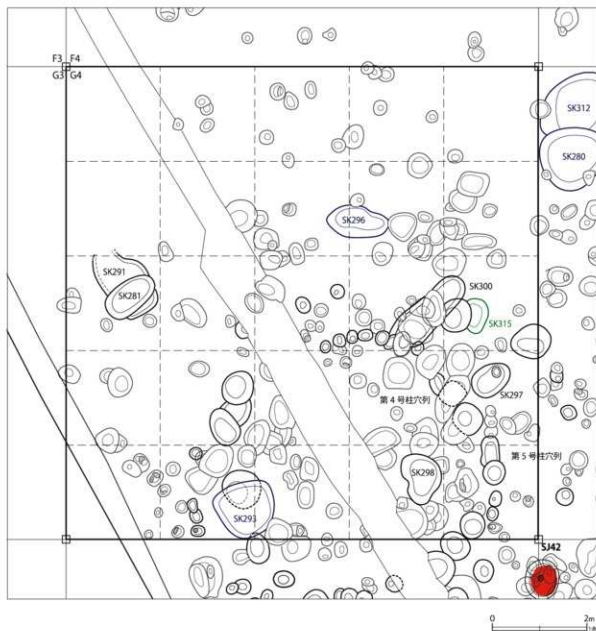
1、52は第III群第5類の加曾利EⅢ式土器である。1は沈線で口縁部を区画する鉢で、縄文RLが横位施文される。52は深鉢形土器の胴部破片で、幅広の磨消懸垂文が垂下する。

53～56は第IV群第3類堀之内1式の深鉢形土器である。55は称名寺2式に系譜するモチーフが施文される。57～60は口縁の開く深鉢形土器で、60は口縁部に刻みを有する隆線が巡らされ、扁平な球形状の突起が付く。57は口縁部が沈線で区画され、58、59は条線文が施文される。57、60は堀之内2式、58、59は加曾利B式に比定されよう。

2～5、61～86は第V群の加曾利B式土器である。3、62、63は口縁部の開く斜線文土器で、62は斜格子目文、3、63は胴部に横羽状斜線文が施文される。2は口縁部が直線的に開く器形で、口縁部の沈線区画下に横位の沈線が施文される斜線文土器である。4、66は胴部に屈曲する深鉢で、上向き弧線が施文される。67、68は格子目沈線文が施文される。以上は加曾利B2式からB3式である。64、65は5単位波状口縁土器で、縄文LRが施文される。加曾利B3式と思われる。

69～84は遠部式系の土器群で、口縁部に押圧隆帯文を有し、地文縄文斜線文を施文する。85、86は地文縄文のない条線文土器である。以上、加曾利B2式からB3式に比定されるが、85、86は曾谷式になる可能性もある。5は口縁部が内湾する鉢で、沈線で区画された胴部に、縄文RLが施文されている。加曾利B3式であろうか。

6～8、87～112は第V群第4類の曾谷式土器である。6、87～90は大波状口縁土器で、6、88、89は同一個体である。波状部に刺突文を挟む横位弧線を施文し、波底部に双頭小突起を有する。87は波頂部から刻目隆帯が2本垂下され、口縁に沿って4本の沈線が施文される。地文縄文



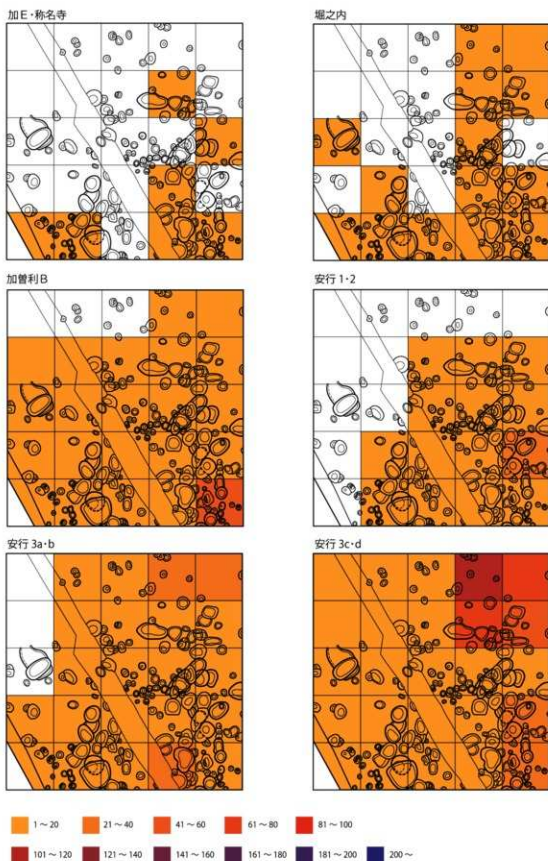
遺構	小グリッド	所属時期	遺構	小グリッド	所属時期	遺構	小グリッド	所属時期
SK281	11	不明	SK297	20	不明	第4号柱穴列	13 14 17~20	後期中葉以降、 晩期中葉以前
SK291	11	不明	SK298	24	不明		22~25	
SK293	22 23	晩期中葉	SK300	14 15	不明	第5号柱穴列	12~15 20	晩期中葉以前
SK296	8 9	晩期前葉から晩期中葉	SK315	15	後期後葉			

第49図 G-5グリッド検出遺構

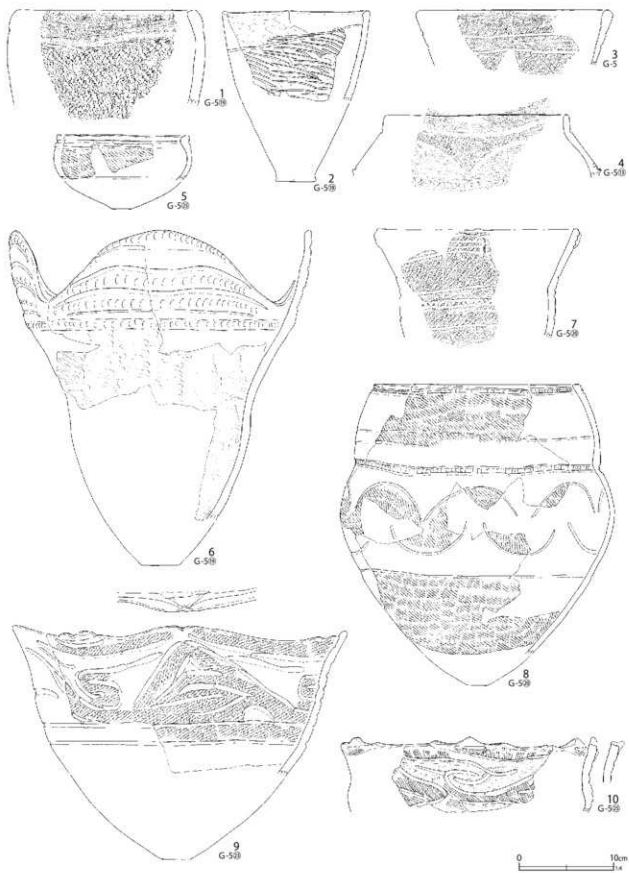
は単節L Rである。90は波頂部から刻目突帯が1本垂下し、口縁部に3本沈線が施文される。

7、95~97は平口縁深鉢形土器で、7は胴部が緩く括れる深鉢形土器で、口縁部に短い縦瘤が施文され、内面に緩い陵を有する。縄文帯で口縁

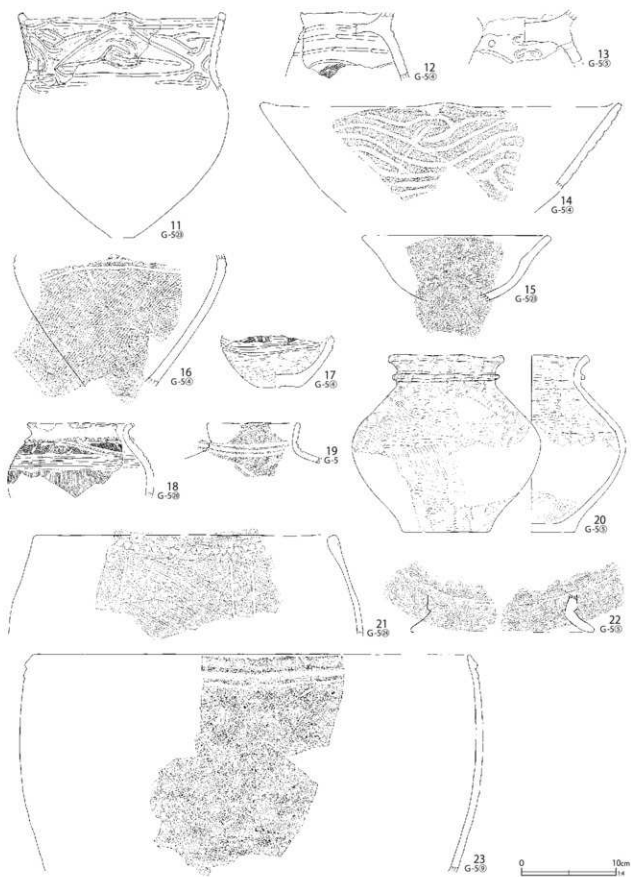
部と胴部が区画され、縄文L Rが施文される。地文は縄文L Rである。95は無文の口縁部が内湾して開く器形で、刻目帯で口縁部が区画され、胴部に縄文L Rが施文される。96も口縁部が押し状の刻目帯で区画される。



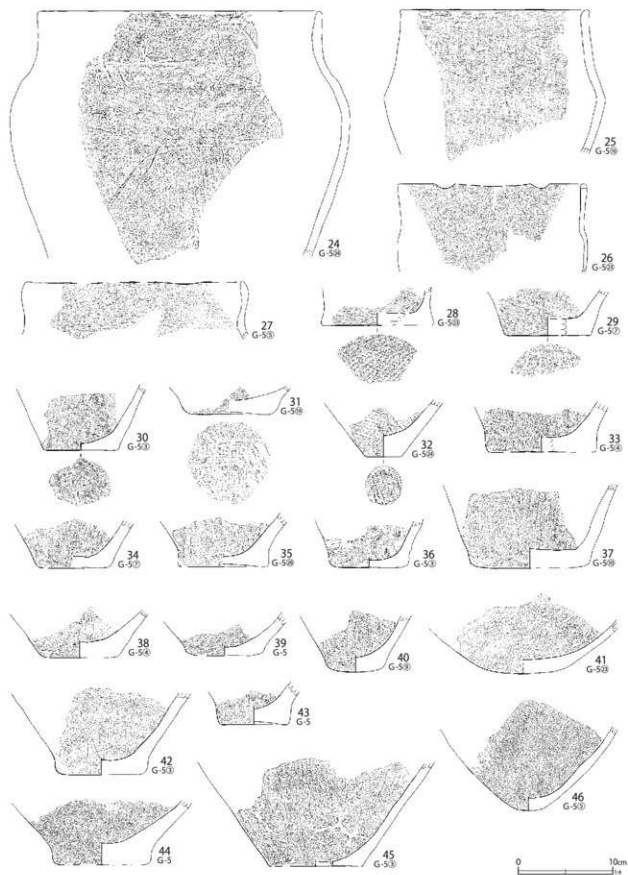
第50図 G-5グリッド時別濃淡図



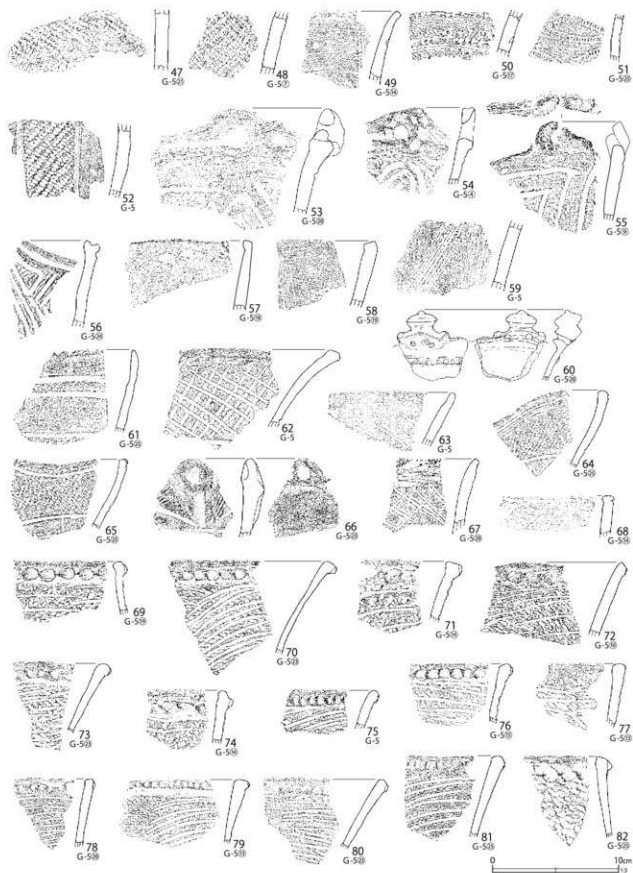
第51図 G-5グリッド出土遺物(1)



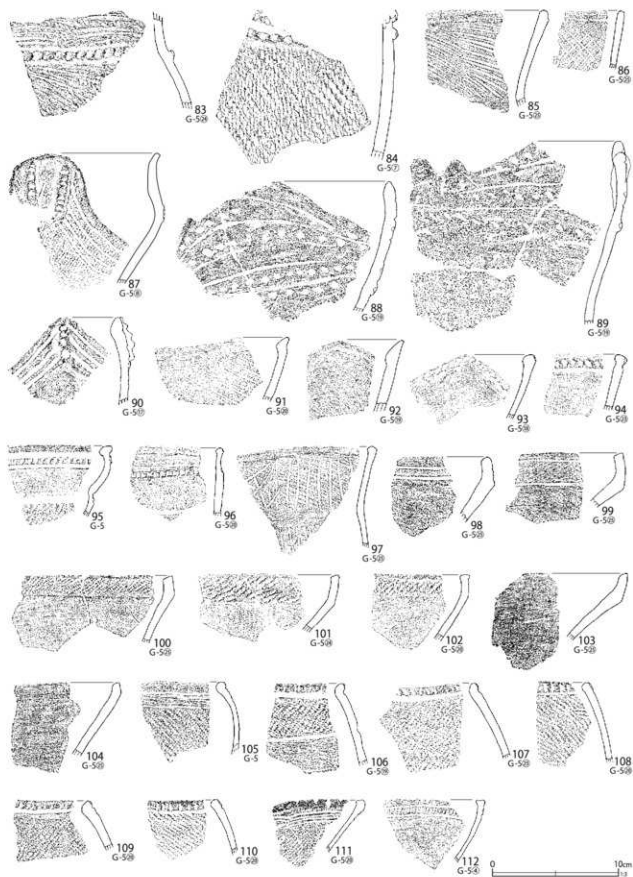
第52図 G-5グリッド出土遺物(2)



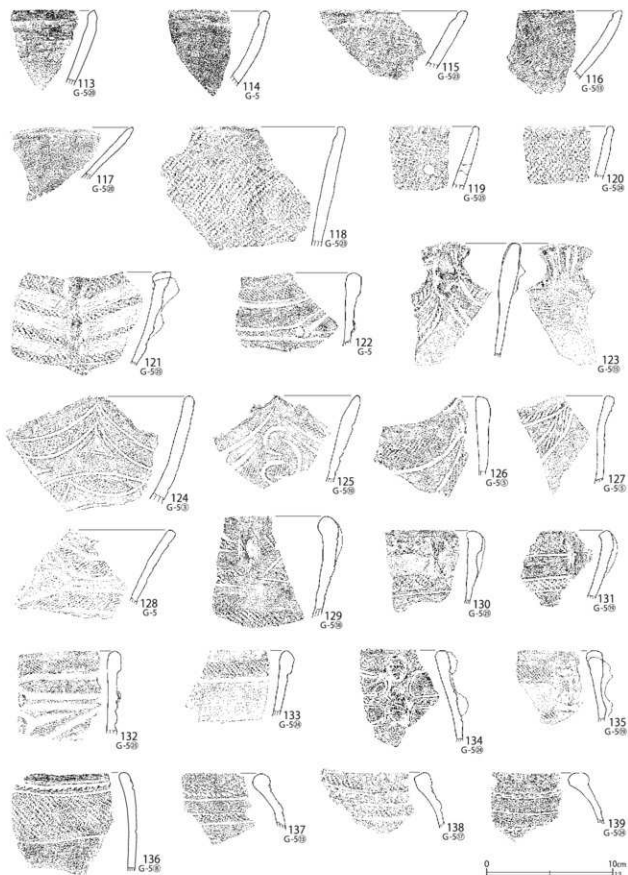
第53図 G-5グリッド出土遺物(3)



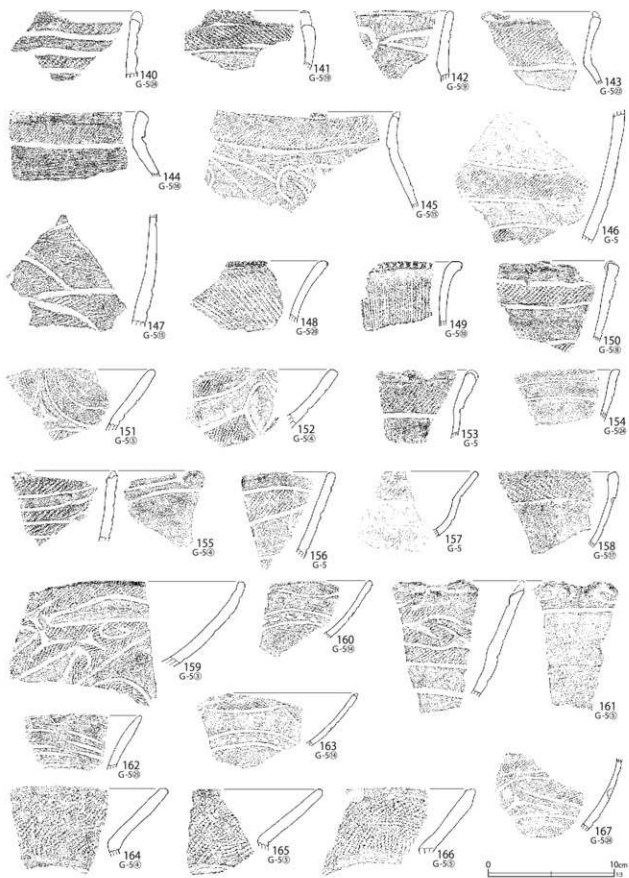
第54図 G-5グリッド出土遺物(4)



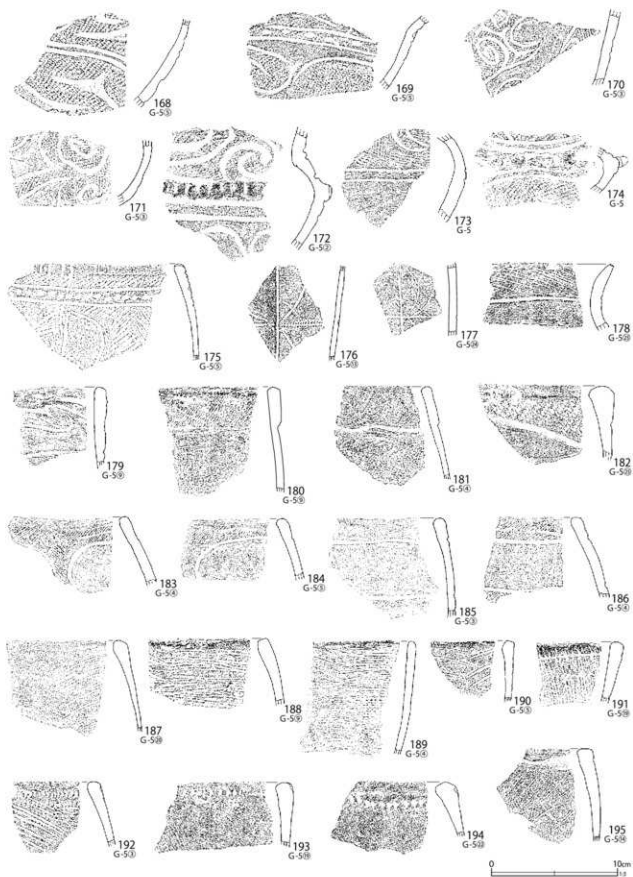
第55図 G-5グリッド出土遺物(5)



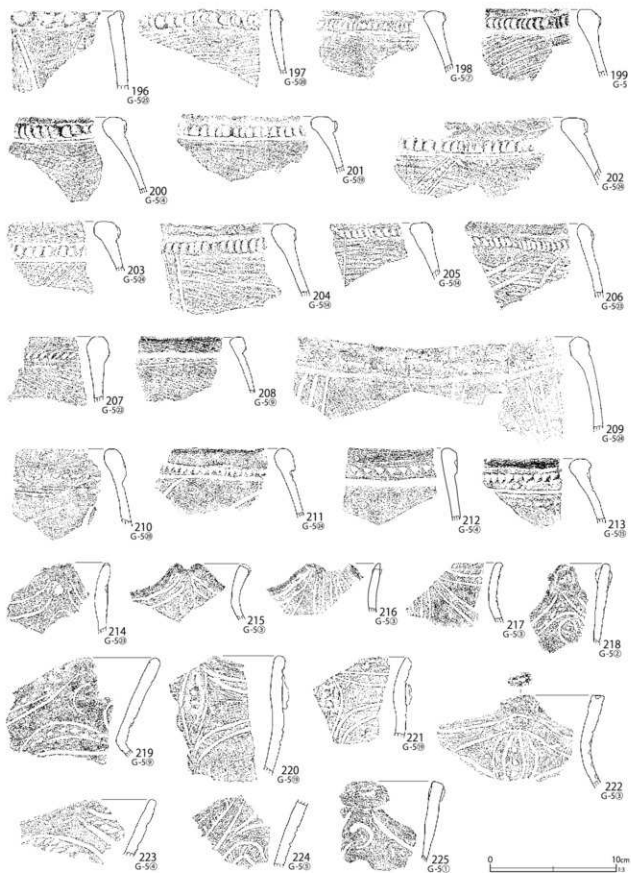
第56図 G-5グリッド出土遺物(6)



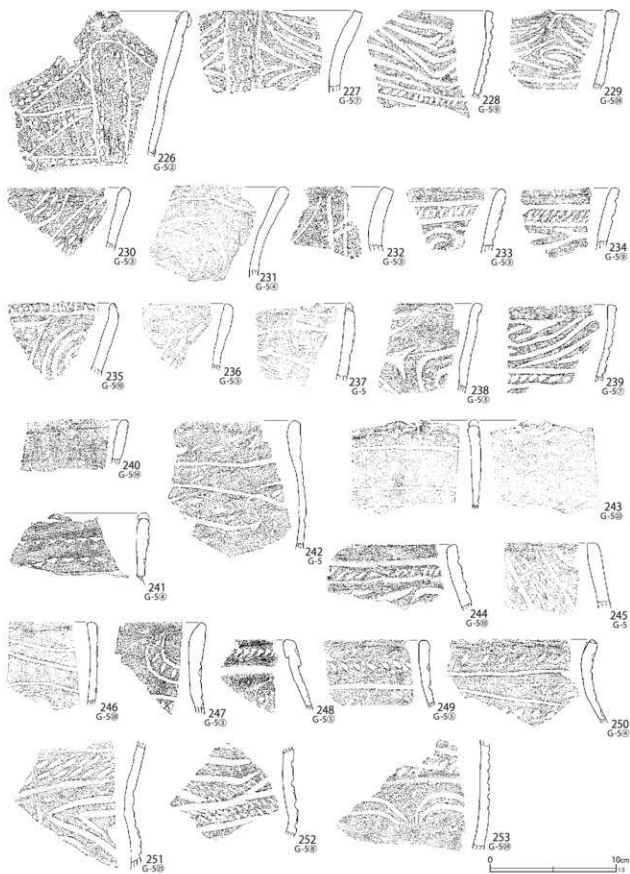
第57図 G-5グリッド出土遺物(7)



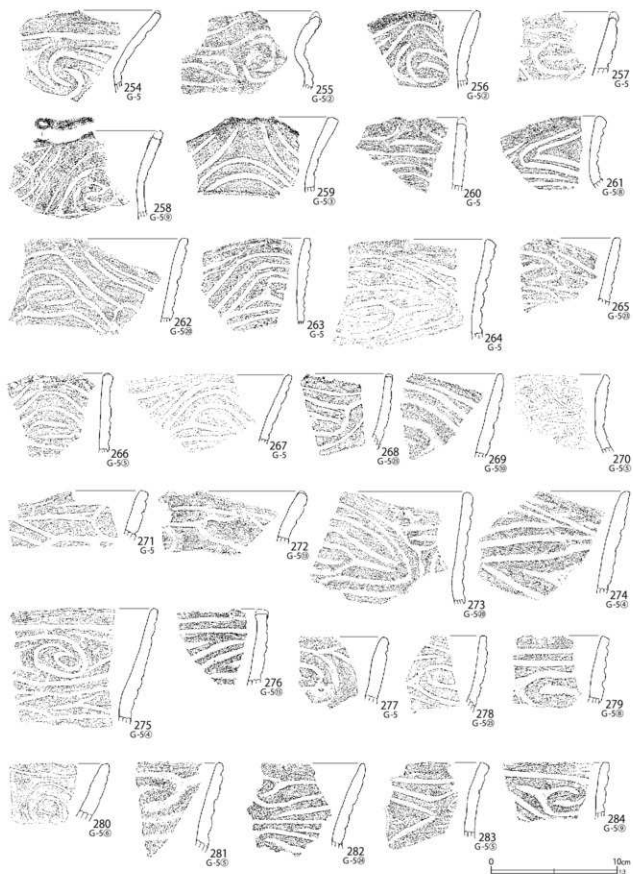
第58図 G-5グリッド出土遺物(8)



第59図 G-5グリッド出土遺物(9)



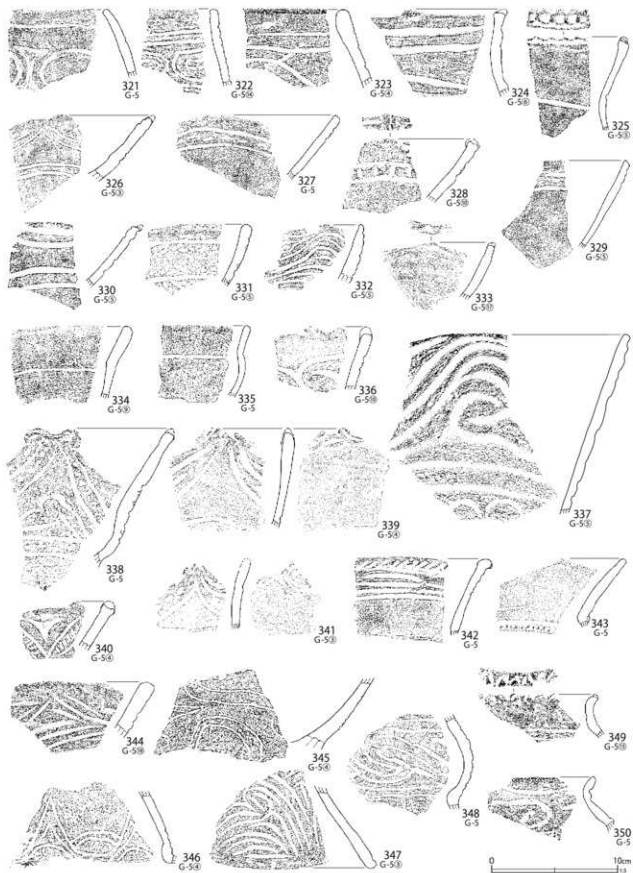
第60図 G-5グリッド出土遺物 (10)



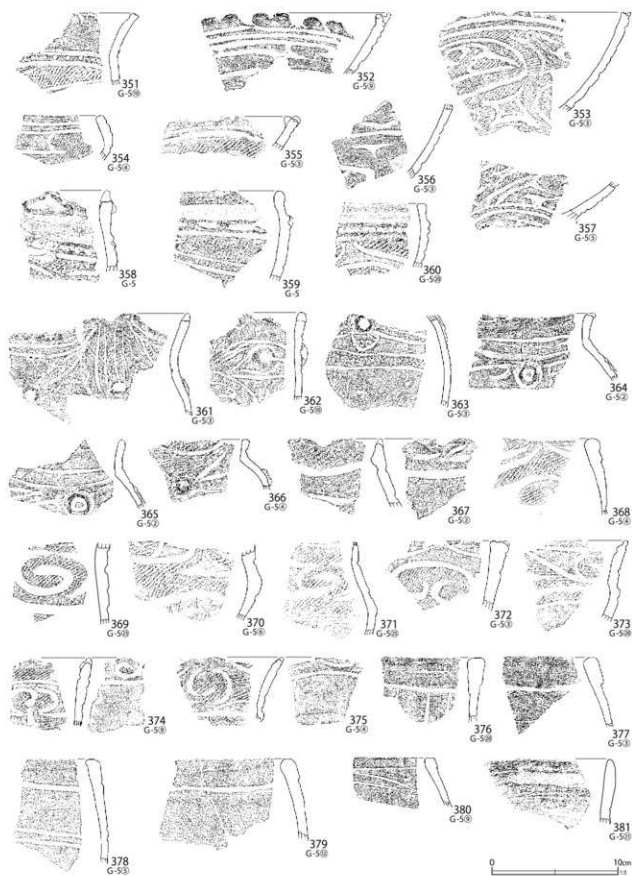
第61図 G-5グリッド出土遺物(11)



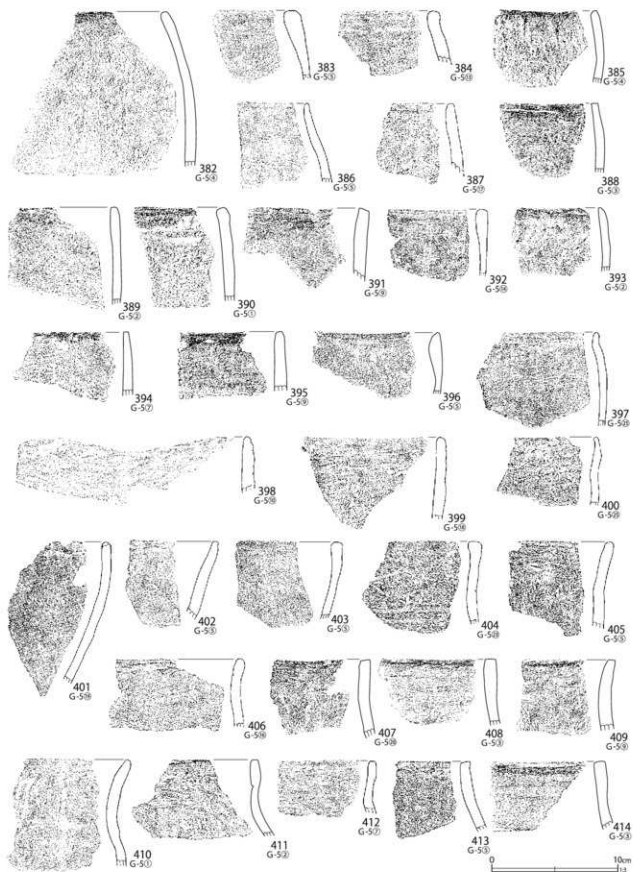
第62図 G-5グリッド出土遺物 (12)



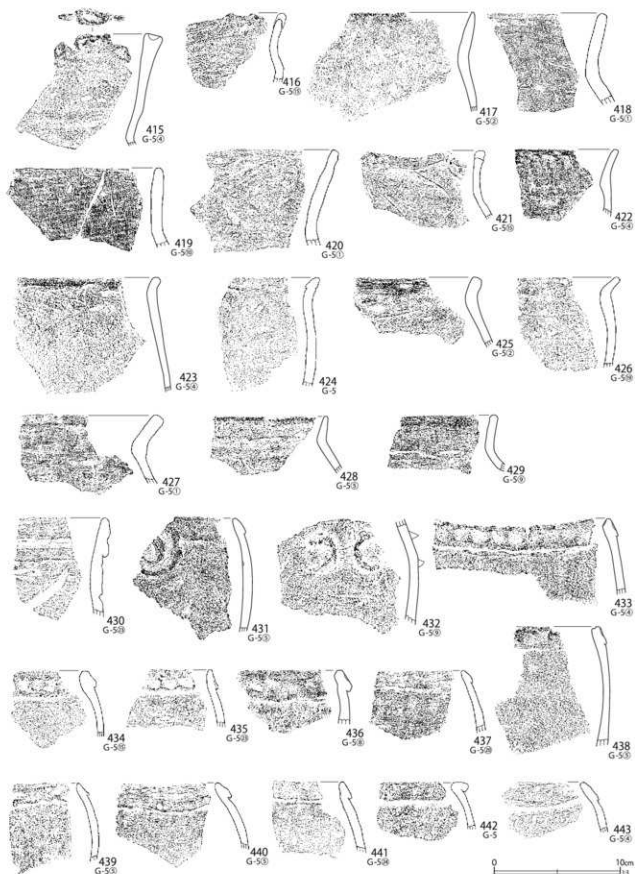
第63図 G-5グリッド出土物(13)



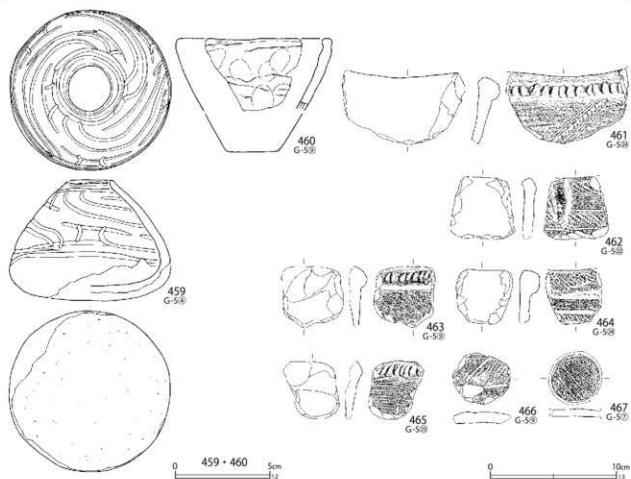
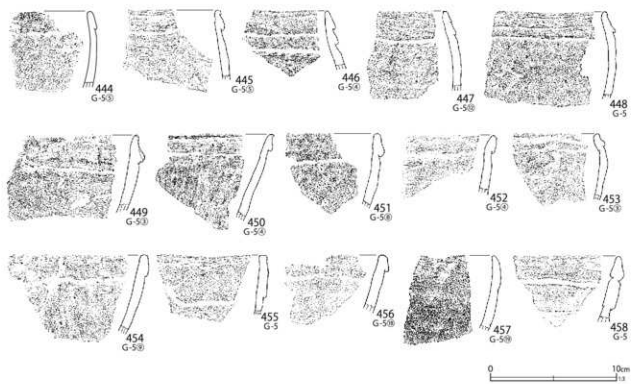
第64図 G-5グリッド出土遺物 (14)



第65図 G-5グリッド出土物(15)



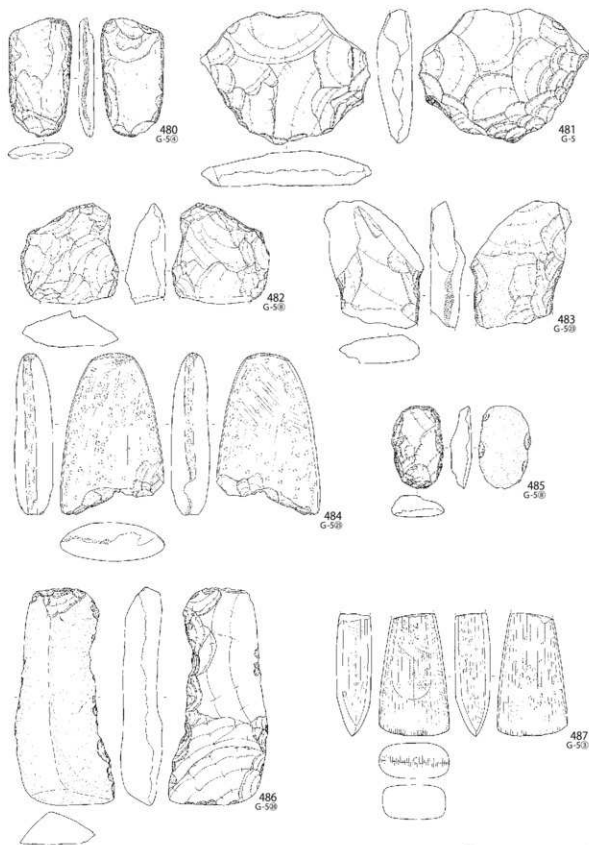
第66図 G-5グリッド出土遺物 (16)



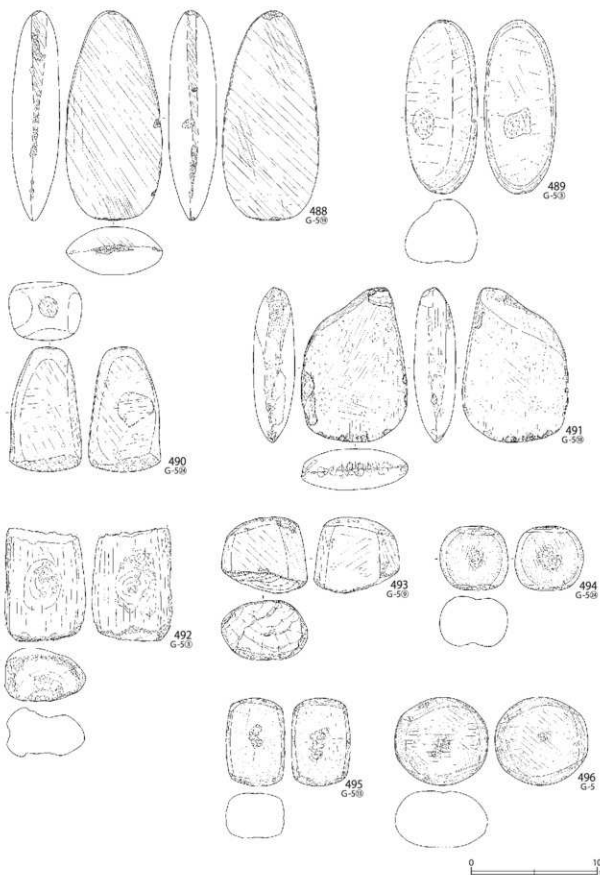
第67図 G-5グリッド出土遺物 (17)



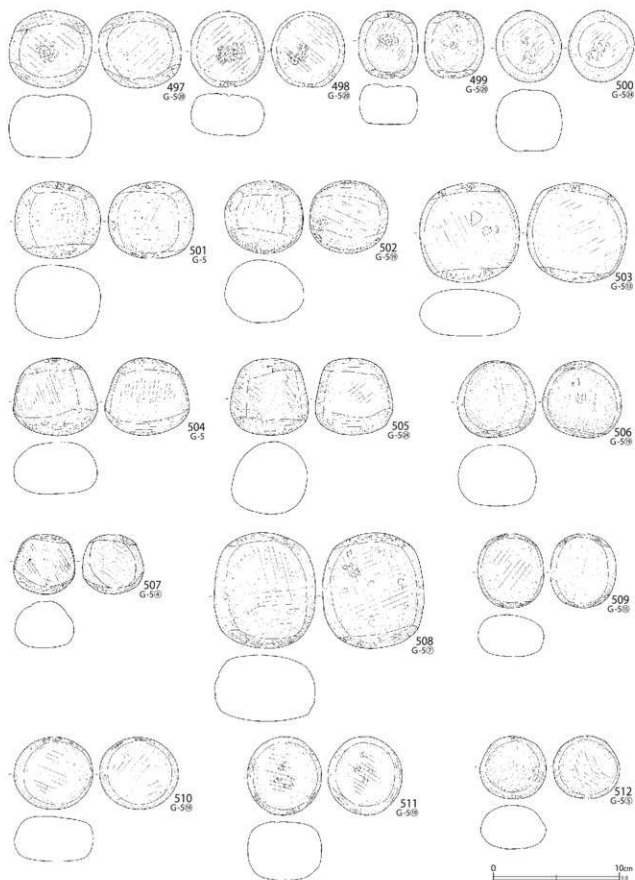
第68図 G-5グリッド出土遺物 (18)



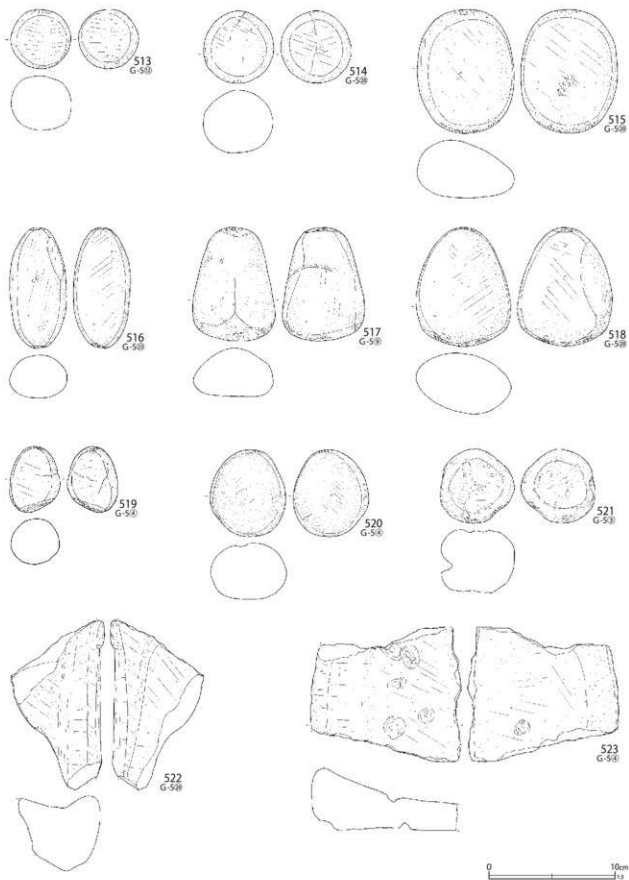
第69図 G-5グリッド出土遺物(19)



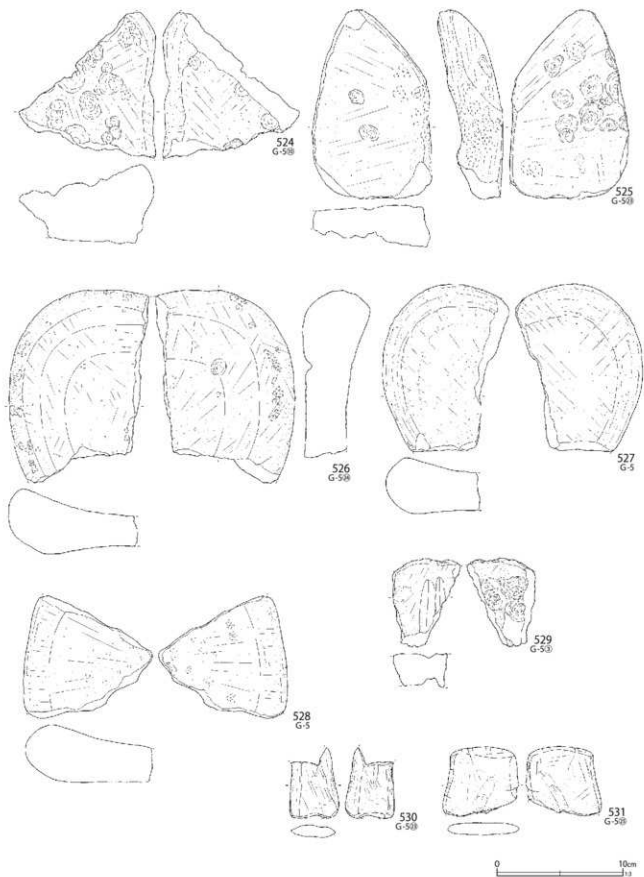
第70図 G-5グリッド出土遺物 (20)



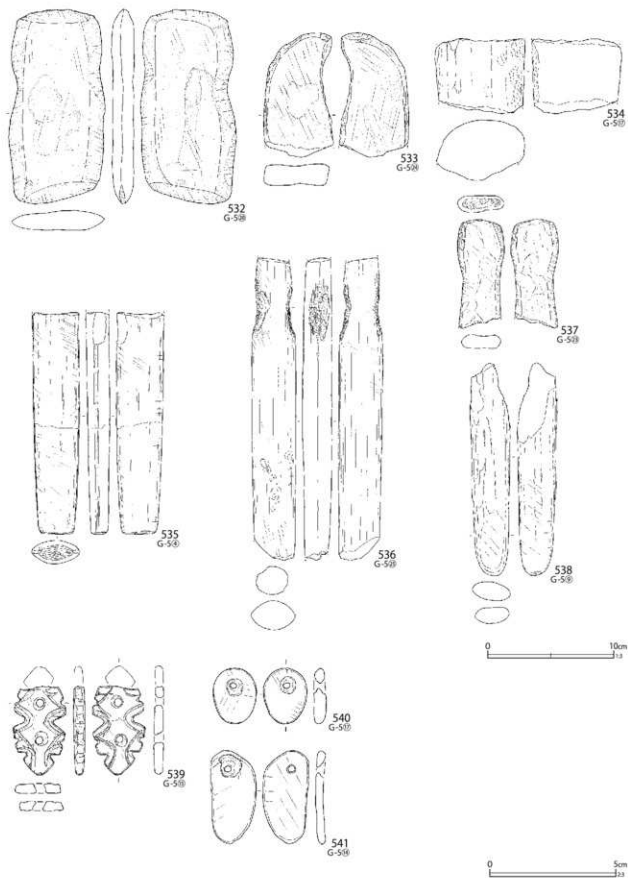
第71図 G-5グリッド出土遺物 (21)



第72図 G-5グリッド出土遺物 (22)



第73図 G-5グリッド出土遺物(23)



第74図 G-5グリッド出土遺物 (24)

第18表 G-5グリッド出土復元土器観察表 (第51～第53回)

番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類	番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類
1	IV	[10.1]	(19.4)	(21.0)	-	III 5-A4	24	III-2	[26.0]	(30.0)	(36.0)	-	VI-A4
2	III-2	[9.5]	(15.6)	(15.6)	-	V 2-A2	25	III-2	[13.3]	(20.0)	(23.4)	-	VI-A4
3	III-2	[5.9]	(20.8)	(20.8)	-	V 2-A2	26	III-2	[9.3]	(20.0)	(20.0)	-	VI-A4
4	III-2	[6.5]	(19.5)	(25.8)	-	V 2-A4	27	III-2	[5.6]	(23.3)	(24.0)	-	VI-A4
5	IV	[5.2]	(14.0)	(14.6)	-	V 3-C2	28	III-2	[4.1]	-	(11.8)	(11.8)	X 3
6	III-2	[30.8]	(32.0)	(32.0)	-	V 4-A1	29	-	[4.6]	-	(12.8)	(9.2)	X 3
7	IV	[11.6]	(21.4)	(21.7)	-	V 4-A4	30	V-1	[6.5]	-	(13.7)	(8.0)	X 3
8	IV	[28.5]	(21.8)	(29.0)	-	V 4-A5	31	III-2	[2.8]	-	(12.8)	9.3	X 3
9	III-2	[15.5]	(35.4)	(35.4)	-	VI 5-C1	32	IV	[5.7]	-	(12.6)	3.7	X 3
10	IV	[8.0]	(27.0)	(27.0)	-	VI 2-C1	33	III-2	[4.8]	-	(14.2)	(11.6)	X 3
11	III-2	[7.9]	(21.5)	(21.5)	-	VI 2-A4	34	-	[4.7]	-	(12.6)	(7.6)	X 3
12	V-1	[6.8]	-	(13.3)	-	VI 2-B	35	IV	[4.8]	-	(13.4)	(9.6)	X 3
13	V-1	[4.7]	-	(11.5)	-	VI 1-B	36	V-1	[5.2]	-	(11.5)	(8.0)	X 3
14	III-2	[9.1]	(38.2)	(38.2)	-	VI 2-C1	37	III-2	[8.8]	-	(18.6)	(12.5)	X 3
15	III-2	[7.0]	(20.0)	(20.0)	-	VI-C1	38	V-1	[4.6]	-	(14.6)	(8.0)	X 3
16	V-1	[14.0]	-	(22.5)	-	VI-F	39	-	[3.6]	-	(13.0)	(8.2)	X 3
17	V-1	[5.5]	-	(11.9)	4.6	VI-F	40	V-1	[6.0]	-	(12.0)	(5.3)	X 3
18	III-2	[7.9]	(11.1)	(15.4)	-	VI 6-F1	41	III-2	[4.8]	-	(20.0)	(8.0)	X 3
19	III-2	[3.8]	(9.9)	(14.6)	-	VI-F	42	V-1	[8.6]	-	(19.0)	(9.0)	X 3
20	III-2	[14.2]	12.2	(20.0)	-	VI 7-F1	43	-	[3.5]	-	(9.6)	(7.4)	X 3
21	IV	[10.7]	(32.2)	(37.6)	-	VI 1-A7	44	-	[6.5]	-	(19.0)	(10.0)	X 3
22	III-2	[4.0]	-	(19.8)	-	VI 2-B	45	V-1	[11.0]	-	(25.0)	(10.0)	X 3
23	V-1	[23.0]	(46.5)	(47.9)	-	VI-A5	46	III-2	[8.5]	-	(18.8)	(2.7)	X 3

第19表 G-5グリッド出土破片土器観察表 (第54～第67回)

番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類
47	IV	II 3-A	90	IV	V 4-A3	133	-	VI 1-A2	176	-	VI 2-A5
48	-	II 3-A	91	IV	V 4-A3	134	IV	VI 2-A5	177	VI	VI 2-A5
49	III-2	II 4-A2	92	III-2	V 4-A3	135	IV	VI 1-A5	178	IV	VI 2～VI 1-A3
50	III-2	II 4-A	93	III-2	V 4-A3	136	VI	V 3～4-A5	179	V-1	VI 1-A2
51	III-2	II 4-A	94	III-2	V 4-A4	137	-	VI 1-A5	180	VI	VI 2～VI 1-A5
52	-	III 5-A	95	V-1	V 4-A4	138	III-2	VI 1-A5	181	V-1	VI 2～VI 1-A5
53	IV	IV 3-A4	96	III-2	V 4-A4	139	III-2	VI 1-A5	182	III-2	VI 1-A5
54	III-2	IV 3-A4	97	IV	V 4-A4	140	III-2	VI-A	183	V-1	VI 2～VI 1-A5
55	V-1	IV 3-A4	98	IV	V 4-A4	141	III-2	VI-A5	184	V-1	VI 2～VI 1-A5
56	III-2	IV 3-A1	99	IV	V 4-A4	142	III-2	VI 2-A4	185	V-1	VI 2～VI 1-A5
57	VI	IV 4-A1	100	IV	V 4-A4	143	III-2	VI 2-A4	186	V-1	VI 2～VI 1-A5
58	III-2	V 1-A4	101	III-2	V 4-A4	144	-	VI 2-A4	187	IV	VI 2-A6
59	III-2	V 1-A	102	IV	V 4-A4	145	III-2	VI 2-A4	188	V-1	VI 2-A6
60	III-2	IV 4-A1	103	IV	V 4-A4	146	III-2	VI 2-A	189	V-1	VI 2-A6
61	IV	V 2-A1	104	IV	V 4-A4	147	III-2	VI 2-A	190	V-1	VI 2-A6
62	III-2	V 2-A4	105	-	V 4-A5	148	IV	VI 1-B2	191	V-1	VI 2-A6
63	-	V 2-A4	106	IV	V 4-A5	149	V-1	VI 1-B2	192	V-1	VI 2-A6
64	IV	V 3-A3	107	IV	V 4-A5	150	IV	VI-C1	193	III-2	VI 1-A6
65	IV	V 3-A3	108	IV	V 4-A5	151	V-1	VI 1-C1	194	III-2	VI 1-A6
66	III-2	V 2-A5	109	IV	V 4-A5	152	V-1	VI 2-C2	195	III-2	VI 1-A6
67	V-1	V 2-A2	110	IV	V 4-A5	153	-	VI-C1	196	IV	V 3-A7
68	IV	V 2-A2	111	IV	V 4-C1	154	V-1	VI-C1	197	IV	VI 2～VI 1-A7
69	V-1	V 2-A7	112	III-2	V 4-C1	155	III-2	VI-C1	198	-	VI 2～VI 1-A7
70	III-2	V 2-A7	113	IV	V-C1	156	-	VI-C1	199	V-1	VI 2～VI 1-A7
71	III-2	V 2-A7	114	III-2	V-C1	157	-	VI-C1	200	V-1	VI 2～VI 1-A7
72	IV	V 2-A7	115	III-2	V-C1	158	IV	VI-C2	201	V-1	VI 2～VI 1-A7
73	III-2	V 2-A7	116	III-2	V-C1	159	V-1	VI 1-C1	202	III-2	VI 2～VI 1-A7
74	III-2	V 2-A7	117	IV	V-E	160	III-2	VI 2～VI 1-C1	203	III-2	VI 2～VI 1-A7
75	-	V 2-A7	118	III-2	V-A2	161	III-2	VI 1～2-C1	204	III-2	VI 2～VI 1-A7
76	III-2	V 2-A7	119	IV	V-A2	162	IV	V-C1	205	III-2	VI 2～VI 1-A7
77	III-2	V 2-A7	120	IV	V-A2	163	III-2	VI 2～VI 1-C1	206	III-2	VI 2～VI 1-A7
78	III-2	V 2-A7	121	IV	VI 1-A3	164	III-2	VI 2～VI 1-C1	207	IV	VI 2～VI 1-A7
79	III-2	V 2-A7	122	III-2	VI 1-A3	165	V-1	VI 2～VI 1-C1	208	V-1	VI 2～VI 1-A7
80	III-2	V 2-A7	123	III-2	VI 2-A3	166	III-2	VI 2～VI 1-C1	209	IV	VI 2～VI 1-A7
81	III-2	V 2-A7	124	V-1	VI 2-A3	167	III-2	VI 1-C	210	III-2	VI 1～2-A7
82	IV	V 2-A7	125	III-2	VI 2-A3	168	V-1	VI 1～VI 1-C	211	V-1	VI 1～2-A7
83	-	V 2-A7	126	V-1	VI 2-A3	169	V-1	VI 2～VI 1-C	212	VI	VI 1～2-A7
84	V-1	V 2-A7	127	III-2	VI 2-A3	170	V-1	VI 1-C	213	V-1	VI 1～2-A7
85	IV	V 2-A6	128	III-2	VI 2-A3	171	V-1	VI 1-C	214	III-2	VI 1-A3
86	IV	V 2-A6	129	-	VI 1-A2	172	V-1	VI 1-C	215	V-1	VI 1-A3
87	VI	V 4-A3	130	V-1	VI 1-A2	173	-	VI 1-F	216	VI	VI 1-A3
88	III-2	V 4-A3	131	III-2	VI 1-A2	174	III-2	VI 1-F	217	V-1	VI 1-A3
89	III-2	V 4-A3	132	III-2	VI 1-A2	175	V-1	VI 2-A5	218	V-1	VI 1-A3

219	V-1	Ⅲ 1-A3	279	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	339	Ⅲ-2	Ⅲ 1-C1	399	Ⅲ-2	Ⅲ-A2
220	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A3	280	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	340	V-1	Ⅲ 1-C1	400	Ⅲ-2	Ⅲ-A2
221	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A3	281	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	341	V-1	Ⅲ 1-C1	401	Ⅲ-2	Ⅲ-A2
222	V-1	Ⅲ 1-A3	282	-	Ⅲ 2-A4	342	Ⅲ-2	Ⅲ 7-C1	402	Ⅲ-2	Ⅲ-A2
223	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A3	283	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	343	Ⅲ-2	Ⅲ 7-C1	403	Ⅲ-2	Ⅲ-A2
224	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A3	284	V-1	Ⅲ 2-A4	344	Ⅲ-2	Ⅲ 2-C1	404	Ⅲ-2	Ⅲ-A4
225	-	Ⅲ 1-A3	285	V-1	Ⅲ 2-A4	345	V-1	Ⅲ 1-B	405	Ⅲ-2	Ⅲ-A4
226	V-1	Ⅲ 1-A3	286	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	346	-	Ⅲ 1-B	406	Ⅲ-2	Ⅲ-A4
227	V-1	Ⅲ 1-A3	287	V-1	Ⅲ 2-A4	347	Ⅳ	Ⅲ 2-B	407	V-1	Ⅲ-A4
228	V-1	Ⅲ 2-A3	288	V-1	Ⅲ 2-A4	348	V-1	Ⅲ 2-B	408	V-1	Ⅲ-A4
229	-	Ⅲ 1-A3	289	-	Ⅲ 2-A4	349	V-1	Ⅲ-F	409	V-1	Ⅲ-A4
230	V-1	Ⅲ 1-A4	290	-	Ⅲ 2-A4	350	V-1	Ⅲ-F	410	-	Ⅲ-A4
231	V-1	Ⅲ 1-A4	291	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	351	Ⅳ	Ⅲ 6-C1	411	V-1	Ⅲ-A4
232	V-1	Ⅲ 1-A4	292	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	352	V-1	Ⅲ 6 ~ 7-D1	412	-	Ⅲ-A4
233	V-1	Ⅲ 1-A4	293	V-1	Ⅲ 2-A4	353	V-1	Ⅲ 6 ~ 7-D1	413	Ⅲ-2	Ⅲ-A4
234	-	Ⅲ 1-A4	294	V-1	Ⅲ 2-A4	354	V-1	Ⅲ 6-C2	414	V-1	Ⅲ-A4
235	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A4	295	V-1	Ⅲ 2-A4	355	V-1	Ⅲ 6 ~ 7-D1	415	V-1	Ⅲ-A4
236	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A4	296	V-1	Ⅲ 2-A4	356	V-1	Ⅲ 6 ~ 7-D1	416	Ⅲ-2	Ⅲ-A4
237	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A4	297	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	357	V-1	Ⅲ 7-B	417	V-1	Ⅲ-A4
238	V-1	Ⅲ 1-A4	298	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	358	Ⅲ-2	Ⅲ 7-C2	418	-	Ⅲ-A4
239	-	Ⅲ 2-A4	299	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	359	Ⅲ-2	Ⅲ 7-C2	419	Ⅲ-2	Ⅲ-A4
240	Ⅳ	Ⅲ 1-A4	300	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	360	Ⅲ-2	Ⅲ 7-C2	420	-	Ⅲ-A4
241	V-1	Ⅲ 1-A4	301	Ⅳ	Ⅲ 2-A4	361	V-1	Ⅲ 4-A3	421	Ⅲ-2	Ⅲ-A4
242	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A4	302	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	362	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A3	422	V-1	Ⅲ-A4
243	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A4	303	V-1	Ⅲ 2-A4	363	V-1	Ⅲ 4-A3	423	V-1	Ⅲ-A4
244	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A4	304	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	364	V-1	Ⅲ 4-F1	424	Ⅲ-2	Ⅲ-A4
245	V-1	Ⅲ 1-A4	305	V-1	Ⅲ 2-A4	365	V-1	Ⅲ 4-F1	425	V-1	Ⅲ-A4
246	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A4	306	Ⅴ	Ⅲ 2-A4	366	V-1	Ⅲ 4-F1	426	Ⅲ-2	Ⅲ-A4
247	V-1	Ⅲ 1-A4	307	V-1	Ⅲ 2-A4	367	V-1	Ⅲ 5-A4	427	-	Ⅲ-A4
248	V-1	Ⅲ 1-A4	308	V-1	Ⅲ 2-A4	368	V-1	Ⅲ 5-A4	428	V-1	Ⅲ-A4
249	V-1	Ⅲ 1-A4	309	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	369	Ⅴ	Ⅲ 5-A4	429	V-1	Ⅲ-A4
250	V-1	Ⅲ 1-A4	310	Ⅴ	Ⅲ 2-A4	370	Ⅲ-2	Ⅲ 5-A4	430	Ⅲ-2	Ⅲ-A5
251	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A4	311	-	Ⅲ 1-A4	371	Ⅲ-2	Ⅲ 5-A4	431	V-1	Ⅲ-A5
252	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A4	312	V-1	Ⅲ 1-A4	372	V-1	Ⅲ 5-A4	432	V-1	Ⅲ-A5
253	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A4	313	V-1	Ⅲ 7-A2	373	Ⅲ-2	Ⅲ 5-C1	433	V-1	Ⅲ-A5
254	-	Ⅲ 2-A3	314	Ⅳ	Ⅲ 7-A2	374	V-1	Ⅲ 5-C1	434	Ⅲ-2	Ⅲ-A5
255	-	Ⅲ 2-A3	315	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A4	375	Ⅲ-2	Ⅲ 5-C1	435	Ⅲ-2	Ⅲ-A5
256	V-1	Ⅲ 2-A3	316	-	Ⅲ 1-A4	376	Ⅲ-2	Ⅲ-A5	436	Ⅴ	Ⅲ-A5
257	-	Ⅲ 2-A3	317	Ⅲ-2	Ⅲ 1-A4	377	V-1	Ⅲ-A5	437	V-1	Ⅲ-A5
258	V-1	Ⅲ 2-A3	318	Ⅲ-2	Ⅲ 3-A5	378	Ⅲ-2	Ⅲ-A5	438	V-1	Ⅲ-A5
259	V-1	Ⅲ 2-A3	319	V-1	Ⅲ 3-A5	379	-	Ⅲ-A5	439	V-1	Ⅲ-A5
260	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A3	320	Ⅳ	Ⅲ 3-A5	380	V-1	Ⅲ-A5	440	V-1	Ⅲ-A5
261	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A3	321	-	Ⅲ 7-A5	381	Ⅴ	Ⅲ-A2	441	Ⅳ	Ⅲ-A5
262	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A3	322	Ⅲ-2	Ⅲ 7-A5	382	V-1	Ⅲ-A5	442	-	Ⅲ-A5
263	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A3	323	V-1	Ⅲ 7-A5	383	Ⅲ-2	Ⅲ-A5	443	Ⅲ-2	Ⅲ-A5
264	-	Ⅲ 2-A3	324	Ⅲ-2	Ⅲ 7-A5	384	-	Ⅲ-A5	444	V-1	Ⅲ-A5
265	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A3	325	V-1	Ⅲ-A3	385	V-1	Ⅲ-A5	445	Ⅲ-2	Ⅲ-A5
266	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A3	326	V-1	Ⅲ 1-D1	386	Ⅲ-2	Ⅲ-A5	446	V-1	Ⅲ-A5
267	-	Ⅲ 2-A3	327	-	Ⅲ 1-D1	387	Ⅲ-2	Ⅲ-A5	447	-	Ⅲ-A5
268	Ⅳ	Ⅲ 2-A3	328	Ⅲ-2	Ⅲ 1-D1	388	V-1	Ⅲ-A5	448	Ⅲ-2	Ⅲ-A5
269	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A3	329	Ⅲ-2	Ⅲ 1-D1	389	V-1	Ⅲ-A2	449	V-1	Ⅲ-A2
270	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A3	330	V-1	Ⅲ 1-D1	390	Ⅴ	Ⅲ-A2	450	V-1	Ⅲ-A2
271	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A3	331	V-1	Ⅲ 1-D1	391	V-1	Ⅲ-A2	451	Ⅲ-2	Ⅲ-A2
272	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A3	332	Ⅲ-2	Ⅲ 2-D1	392	Ⅳ	Ⅲ-A2	452	Ⅲ-2	Ⅲ-A2
273	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A3	333	Ⅲ-2	Ⅲ 1-D1	393	V-1	Ⅲ-A2	453	V-1	Ⅲ-A2
274	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A3	334	V-1	Ⅲ-C1	394	V-1	Ⅲ-A2	454	V-1	Ⅲ-A2
275	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	335	Ⅲ-2	Ⅲ-C1	395	V-1	Ⅲ-A2	455	Ⅲ-2	Ⅲ-A2
276	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	336	Ⅲ-2	Ⅲ 1-C1	396	V-1	Ⅲ-A2	456	-	Ⅲ-A2
277	-	Ⅲ 2-A4	337	-	Ⅲ 2-C1	397	Ⅳ	Ⅲ-A2	457	Ⅲ-2	Ⅲ-A2
278	Ⅲ-2	Ⅲ 2-A4	338	V-1	Ⅲ 1-C1	398	Ⅲ-2	Ⅲ-A2	458	-	Ⅲ-A2

第20表 G-5グリッド出土土製品観察表 (第67図、第68図)

番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ	番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ
459	Ⅲ-2	ミニチュア	[6.4]	8.5	-	470	Ⅳ	土偶	[4.2]	[2.9]	[3.0]
460	Ⅴ	ミニチュア	[3.8]	(8.3)	-	471	Ⅳ	土偶	[4.0]	[2.0]	[2.3]
469	Ⅳ	土偶	[3.0]	[3.6]	[2.3]	472	Ⅳ	土偶	[6.4]	[3.4]	[2.6]

第21表 G-5グリッド出土土製円盤観察表 (第67図、第68図)

番号	層位	最大径	重量	分類	番号	層位	最大径	重量	分類	番号	層位	最大径	重量	分類
461	IV	9.3	92.6	II-A-イ	464	IV	5.0	32.5	II-A-イ	467	V-1	3.9	12.9	I-B-ウ
462	IV	5.9	32.2	II-A-ア	465	IV	5.4	17.9	II-A-イ					
463	-	5.2	34.6	II-A-イ	466	V-1	4.5	18.2	I-B-ウ					

第22表 G-5グリッド出土土師器観察表 (第68図)

番号	層位	径1	径2	高さ	重量	分類	番号	層位	径1	径2	高さ	重量	分類
468	IV	(8,2)	(8,0)	1.8	5.1	III-D-ア							

第23表 G-5グリッド出土石器観察表 (第68～第74図)

番号	層位	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重量
473	VI	石鏝	I	黒曜石	[1.4]	1.2	0.3	0.5
474	-	石錐	I	チャート	2.9	1.8	0.5	1.7
475	III-2	石錐	II	チャート	[1.9]	0.8	0.5	0.5
476	III-2	二次加工刮片	-	チャート	2.3	2.7	0.8	4.1
477	III-2	二次加工刮片	-	黒色頁岩	4.9	5.3	1.2	21.8
478	III-2	二次加工刮片	-	チャート	2.8	[4.3]	1.1	11.0
479	IV	石核	-	チャート	2.9	3.1	3.1	27.0
480	V-1	打製石斧	III	緑泥片岩	9.4	5.1	1.2	85.9
481	-	打製石斧	-	頁岩	[10.6]	13.6	2.8	460.6
482	III-2	打製石斧	-	頁岩	[8.0]	7.8	3.2	203.7
483	III-2	打製石斧	-	頁岩	[10.1]	[8.0]	2.8	222.0
484	III-2	打製石斧	-	緑色岩	12.9	8.3	3.1	476.5
485	III-2	礫器	I	頁岩	6.6	4.2	1.7	56.1
486	IV	礫器	III	頁岩	17.2	7.9	3.3	443.7
487	V-1	磨製石斧	I	蛇紋岩	[9.7]	5.6	2.8	284.5
488	III-2	磨製石斧	II	緑色岩	16.6	7.7	3.8	750.2
489	V-1	礫石	I	安山岩	13.7	5.7	5.0	458.2
490	IV	礫石	I	安山岩	9.9	5.8	4.6	399.8
491	-	礫石	-	緑色岩	12.3	8.4	3.3	536.7
492	V-1	礫石	-	緑泥片岩	[8.9]	[6.4]	4.2	375.3
493	V-1	礫石	-	安山岩	6.1	6.8	4.7	297.5
494	-	礫石	III	安山岩	5.1	5.4	3.9	185.9
495	-	礫石	I	安山岩	7.0	4.6	3.7	212.2
496	III-2	礫石	I	安山岩	6.9	7.3	4.5	340.0
497	IV	礫石	I	輝閃岩	6.1	6.6	5.0	317.6
498	IV	礫石	I	安山岩	6.0	5.9	3.4	180.1
499	III-2	礫石	I	安山岩	5.3	4.7	3.3	114.2
500	III-2	礫石	I	安山岩	5.7	5.2	5.1	198.2
501	III-2	礫石	II	安山岩	6.1	6.8	5.9	349.8
502	III-2	礫石	II	安山岩	5.8	6.2	4.9	263.9
503	-	礫石	II	礫岩	7.9	8.0	3.8	368.8
504	III-2	礫石	II	安山岩	6.1	6.7	4.2	265.1
505	III-2	礫石	II	安山岩	6.1	6.2	5.7	302.1
506	III-2	礫石	II	安山岩	6.1	6.2	5.0	255.1
507	III-2	礫石	II	安山岩	4.8	4.9	3.8	107.8
508	-	礫石	II	安山岩	9.2	8.0	5.3	576.9
509	III-2	礫石	II	安山岩	5.9	5.2	3.4	139.4
510	III-2	礫石	II	安山岩	5.8	6.3	3.6	200.9
511	III-2	礫石	II	安山岩	6.2	5.8	4.7	240.3
512	V-1	礫石	II	安山岩	5.0	5.3	3.5	122.8
513	-	礫石	II	安山岩	4.7	4.8	4.3	105.1
514	IV	礫石	II	安山岩	5.8	5.6	5.0	199.1
515	III-2	礫石	II	安山岩	8.8	7.7	4.6	534.7
516	III-2	礫石	II	安山岩	9.5	4.6	3.5	189.7
517	V-1	礫石	II	砂岩	9.0	6.6	3.9	322.2
518	III-2	礫石	II	安山岩	9.4	7.6	4.8	419.9
519	III-2	礫石	II	安山岩	5.3	4.1	3.7	96.5
520	V-1	礫石	II	安山岩	6.9	6.0	4.5	254.5
521	V-1	礫石	II	安山岩	5.9	5.9	5.0	136.3
522	IV	石皿	I	安山岩	[13.5]	[7.4]	6.4	499.2
523	VI	石皿	II	安山岩	[10.7]	[12.0]	5.6	570.0
524	V-1	石皿	II	安山岩	[11.6]	[10.9]	7.0	533.5
525	III-2	石皿	II	安山岩	[15.0]	[9.5]	5.2	496.0
526	III-2	石皿	II	安山岩	[15.4]	[11.1]	5.1	1018.6
527	III-2	石皿	III	安山岩	[13.3]	[10.1]	5.3	759.8
528	-	石皿	III	安山岩	[9.7]	[10.2]	4.9	472.5
529	VI	砥石	II	安山岩	[7.0]	[5.4]	3.1	72.8
530	V-1	砥石	II	砂岩	[5.6]	[3.9]	1.1	26.2
531	IV	砥石	II	砂岩	[5.5]	6.1	1.0	37.8
532	V-1	砥石	III	砂岩	15.5	7.6	1.8	250.1
533	III-2	砥石	III	砂岩	[9.8]	[5.5]	2.1	131.1
534	VI	石棒類	I	片岩	[5.9]	7.1	[4.8]	299.2

番号	層位	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重量
535	V-1	石棒類	II	片岩	[17.5]	3.8	1.9	193.1
536	III-2	石棒類	II	頁岩	[23.9]	3.6	2.3	313.2
537	III-2	石棒類	-	緑泥片岩	[8.6]	3.7	1.3	70.1
538	VI	石棒類	-	片岩	[16.8]	3.2	1.6	124.9
539	III-2	垂飾	-	頁岩	[3.6]	2.1	0.5	4.6
540	III-2	垂飾	-	滑石	2.2	1.7	0.5	2.6
541	IV	垂飾	-	頁岩	3.7	1.8	0.4	2.9

97は無文の区画帯で括れる上半部と下半部に、縦位と斜線で地文条線上にモチーフが描かれる。

91～93は5単位波状口縁土器で、91、92は斜線文が、93は口唇部に刻みが施される。

98～104は口縁部が内折して立つ深鉢形土器で、口縁部に平行沈線文や縄文が施文され、無文のものもある。

8は瓢形土器で、口縁部と胴部が押し状の刻目帯で区画され、胴下半部の上下対弧間に縄文RLが施文される。105～110、136も瓢形土器と思われる。

111～117は鉢形土器で、111は口縁部に条線文、112は刻目帯が施文され、113～116は無文である。117は鉢というよりも皿状を呈する。

118～120は第V群の縄文施文の深鉢形土器である。

121～128は大波状口縁土器で、121は第VI群第1類の安行1式、122は第VII群第1類の安行3a式、123～128は第VII群第2類の安行3b式に比定されよう。121は無刻2連の縦瘤、122は低い帯縄文に豚鼻状の小瘤、123は扁平な把手に2段の舌状瘤が施文されている。124～128は波状部に磨消縄文のモチーフを描くもので、124は浅い三角印刻、125は菱形区画文内の縦位対弧文、126～128は波頂部から三角区画状に垂下するモチーフが描かれる。

129～133は口縁部が外反する平口縁深鉢形土器で、129～131は無刻の縦瘤が施文される安行1式、132、133は三叉文が描かれる安行3a式と思われる。

134～139は口縁部が内湾する平口縁深鉢形土器で、134は横刻縦瘤が2段に施文される第VI

群第2類の安行2式、135は縦瘤の中央部に縦位の窪みを有する縦瘤が施文される第VII群第1類の安行3a式に位置付けられよう。137～139は第VI群の瓢形土器である。

140～147は頸部が括れる深鉢形土器で、140、141は口縁部に突起を有し、口縁部が横位沈線で区画され、地文縄文が施文される第VII群土器であろう。142は口縁部に沈線で円形文と三角区画文が描かれ、143～145は沈線もしくは段帯で口縁部が区画される。145は大きく膨らむ胴部に、入組三叉文が施文され、区画内に縄文LRが施文される。146、147は胴部破片である。いずれも第VII群第2類の安行3b式に比定されよう。

148～172は鉢、浅鉢類である。148、149は口縁部が外反する第VII群第1類の台付鉢である。

150～158は口縁部が開く第VII群の縄文施文の鉢類と思われる。151は三叉文が施文され、150、155は口唇部に小突起を有する。167、168は胴部破片で、いずれも安行3a式と思われる。他は安行3b式であろう。

159～161、163、169～172は第VII群から第VIII群の縄文施文の浅鉢、鉢類である。159、170、171は複雑で曲線的なモチーフを磨消縄文で描かれる安行3c式、160、163、169は胴部が列点を挟む並行沈線で区画され、弧状モチーフや入組三叉文が施文され、区画内に縄文が施文される安行3b式から3c式にかけてのものと思われる。161は縄文が施される入組三叉文が施文される鉢で、安行3c式から3d式に位置付けられよう。172は胴部に刻みを施した隆帯が巡る鉢と思われ、安行3c式であろうか。164～166は口縁部が大きく開き、球形の胴部を有する鉢と思われる。

175～181は細密沈線文土器で、175～177は木葉状区画内に細密沈線文が施文される安行3b式、179は帯状入組文内に施文される安行3c式、口縁部に施文される178、180、181は安行3b式から3c式にかけてのものであろう。

内湾する口縁部に楕円区画文を施す183～186は区画外に縄文を施文するもので、安行3b式から3c式にかけてのものであろう。

187～195は条線文土器であり、191は口縁部がやや外反し、縦位の条線文が施文される第Ⅵ群第1類の安行1式土器である。187～190は内湾する口縁部に横位弧状の条線文が施文される第Ⅵ群第2類、192～194は口端部に刻みを有し、条線文が施文されるもので、192は安行2式、193～195は第Ⅶ群第1類の安行3a式であらう。

197～209は地文に条線文を施文する紐線文系土器で、196は無肥厚の口縁部に押圧隆帯を施文する第Ⅴ群の紐線文土器である。21、198、199、204～207は口縁部の押圧隆帯下部に沈線区画のないもので、204～206は沈線文が施文されている。200～203、208、209は肥厚口縁部が沈線で区画されるもので、202、203は列点を挟む平行沈線、209は3本の垂下沈線が施文される。21は胴部の沈線間が無文状になるように条線文が施文されている。安行3a式にならうか。大半は後期末から晩期初頭にかけての土器群と思われる。

210～213は地文に条線文が施文されない無地文の紐線文土器で、210は口縁部に沈線区画が無いもの、211～213は沈線区画されている。第Ⅶ群第1類から第2類土器であらう。

214～310は第Ⅷ群土器で、214～229は列点文が施文される波状口縁深鉢形土器、230～250は平口縁深鉢形土器である。刺突文を施すものは大半が第Ⅷ群第1類の安行3c式であるが、区画線に刺突文が施文される228、239などは第2類の安行3d式に比定されよう。

254～274は緩い波状口縁を呈し、10、11、275

～308は平口縁の沈線文のみが施文される第Ⅷ群第2類安行3d式の深鉢形土器である。入組渦巻文や入組三叉文が施文されており、11、302のようにモチーフが重層化するものがある。10は3個対の山形突起が付き、入組三叉文内に細密沈線文が施文されている。11は双頭突起下の三角区画文内に入組三叉文が施文され、三角区画の連結部上下にも入組三叉文が重層的に施文される。

311～316は口縁部が外反する深鉢形土器で、沈線でモチーフが施文されるものである。311、312、315、316は第Ⅷ群第1類で口縁部に沈線帯が巡る。313、314は第7類の大洞C2式段階であらう。

318～324は第Ⅷ類の口縁部が内湾する深鉢形土器で、318～320は第Ⅷ群第3類、322は第Ⅷ群第7類の大洞C2式の影響を受けたものと思われる。325は頸部で括れ口縁部が外反する器形で、口唇上に押圧を施す隆帯が巡る。

12、13、22、345～348は台付鉢の脚部である。12、22は安行3b式、13、345、346は安行3c式、347、348は安行3d式であらう。

14、15、334～344は第Ⅷ群の鉢形土器で、338～341は第1類安行3c式、14、337、344は第2類の安行3d式である。無文の15、334、335は安行3c式であらうか。342、343は口縁部が大きく外反する鉢で、342は平行沈線が施文され、大洞C2式の影響を受けているものであらうか。

16～20、349、350は第Ⅷ群の壺形土器である。16、17、19は地文に縄文LRが施文され、18は摠糸文Rが施文される。18は間延びした羊歯状文系のモチーフが施文される大洞C1式と思われる。20は頸部に突帯が巡る無文の壺で、大洞C2式段階に比定されようか。349、350は沈線の区画や渦巻文を施文する安行式の壺である。

351～357は大洞式系の鉢及び台付鉢である。351～356は第Ⅷ群第6類から第7類の大洞C1式からC2式にかけての鉢で、358～360は大洞

C 2 式の鉢、357は大洞C 2式の台付鉢である。

361～366は第Ⅷ群第4類の天神原式系土器で、細かな刺突や円形貼付文を有するものである。

367～375は第Ⅷ群第5類の前浦式土器である。口縁部裏面に沈線が巡らされ、大きく湾曲する胴部には凹線状の太沈線で「の」字状文が描かれている。

376～380は紐線文系土器からの変化である第Ⅷ群の深鉢形土器である。口縁部が沈線で区画される。430は2段の折返状口縁部が外反し、凹線状の沈線で紐線文系のモチーフが施文される。431、432は内湾する口縁部や胴部に、隆帯の渦巻文や、対括弧状文が施文される。

無文土器は多量に出土しており、382～388は口縁部が内湾する無文土器、24、26、381、389～403は口縁部が緩く開くか、立つ器形のもの、25、27、404～429は頸部や胴部が括れるもので、427～429は壺の可能性もある。401は口唇部に押圧状の刻みが施され、415は小突起の上面に押圧状の窪みを有している。

28～46は各時期、各器種の底部破片である。28、29、33～35、42は第V群から第VI群の底部と思われる。また、32は条線文が施文されるVI群土器であろう。

23、433～458は折返状口縁で、輪積成形の残る無文土器である。433～436は口縁部に指頭圧痕が残る、23、446～448は2～3段の段帯部を有する。449～458は口縁部が開く器形である。

土製品類（第67図459～第68図472）

土製品はミニチュア土器が2点、土製円盤が7点、耳飾りが1点出土した。第67図459は円錐形をした小型壺で、口縁部が小さく、安定した底部を有する。胴部に沈線の崩れた雲形文が描かれる。第Ⅷ群第7類大洞C 2式系の土器であろう。460は無文の鉢で、指頭圧痕が残る。

461～467は土製円盤で、467は割れ面が良く研

磨されている。他は、剥離痕の残る四角い形状をしている。

468はリング状の耳飾りの一部が現存する。

土偶は腕部が1点、脚部が3点出土している。469は左肩から上腕部にかけての破片、470は右足、471、472は左足である。470は大腿部上側に刻みのある細長い瘤を貼り付けている。後期終末から晩期初頭のものであろう。

石器（第68図473～第74図541）

第68図473は石鏃Ⅰ類で、正面裏面の基部に擦痕を有する局部磨製石鏃である。474は石鏃Ⅰ類、475は基部を欠く石鏃Ⅱ類である。480は打製石斧のⅢ類である。481～483は打製石斧の破片で、481が刃部片、482が基部片、483が括れ部の破片である。484は磨製石斧から打製石斧へ転用したものである。485は礫器Ⅰ類、486は礫器Ⅲ類である。487は定角式の磨製石斧の下半部で、488は乳棒状の磨製石斧である。

489、490は擦痕を有する敲石である。491は磨製石斧の欠損部を転用した敲石で、欠損部に擦痕と敲打痕が認められ、器体の変形も確認できる。492が凹石の、493が磨石の欠損面を使用面とした敲石である。494は凹石Ⅲ類である。495～500が磨石Ⅰ類で、500は周縁を研磨によって整形している。501～521は磨石Ⅱ類である。522～528が石皿で、特に522は脚部を有している。529～533は砥石で、529は裏面に凹痕を有する。

534は石棒類のⅠ類で、大型石棒の破片と思われる。535は石剣の基部片である。底面に擦痕が認められる。536も石剣の破片で、上部の両側面は敲打により括れている。537は石棒類の頭部片、538は石棒類の基部片である。垂飾は3点出土した。539は垂飾で、左右それぞれに5つの括れを有し、上下に貫通孔を有する。中央の括れが最も深く括れており、ここを基点に上下左右対象となっている。その他、2点の垂飾が出土した。

6 G-6グリッド出土遺物

概要 (第75図、第76図)

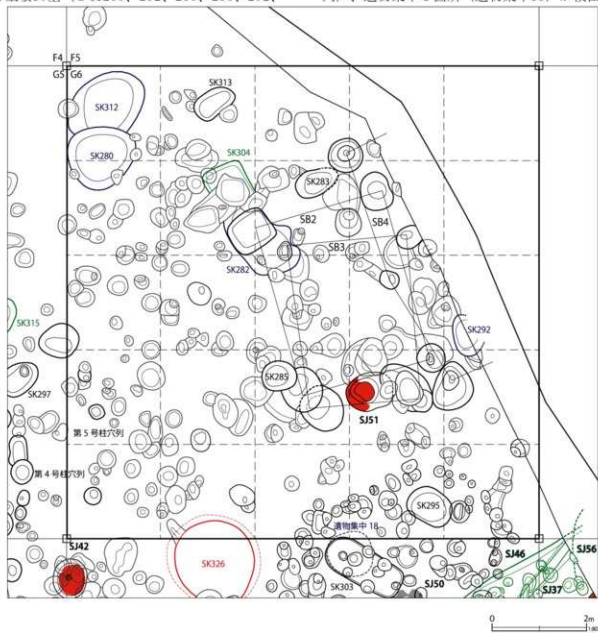
295、304、312、313、326)、掘立柱建物跡3基

本グリッドからは住居跡2軒 (S J 50、51)

(S B 2、3、4)、柱穴列1列 (第5号柱穴

と土塼10基 (S K 280、282、283、285、292、

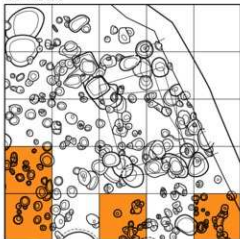
列)、遺物集中1箇所 (遺物集中18) が検出さ



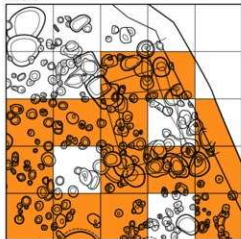
遺構	小グリッド	所属時期	遺構	小グリッド	所属時期	遺構	小グリッド	所属時期
S J 50	23 ~ 25	後期中葉以前	S K 292	15 20	晩期前葉	遺物集中 18	23 24	晩期中葉
S J 51	8 9 12 ~ 14 17 ~ 20 22 24 25	不明	S K 295	24 25	不明	S B 2	7 ~ 9 14 18 19	晩期前葉以前
S K 280	1 6	晩期中葉	S K 304	7	後期後葉	S B 3	9 18 19	晩期前葉以前
S K 282	7 8 12 13	晩期前葉	S K 312	1	晩期中葉	S B 4	3 4 8 9 14 19 20	晩期中葉以前
S K 283	8	不明	S K 313	2	不明	第5号柱穴列	11 16 21	晩期中葉以前
S K 285	18	不明	S K 326	22	後期前葉			

第75図 G-6グリッド検出遺構

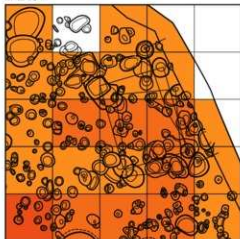
加 E・称名寺



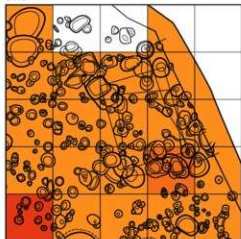
堀之内



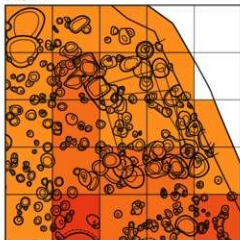
加曾利日



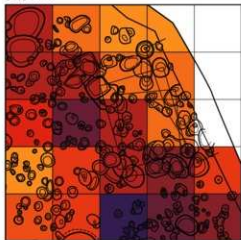
安行 1・2



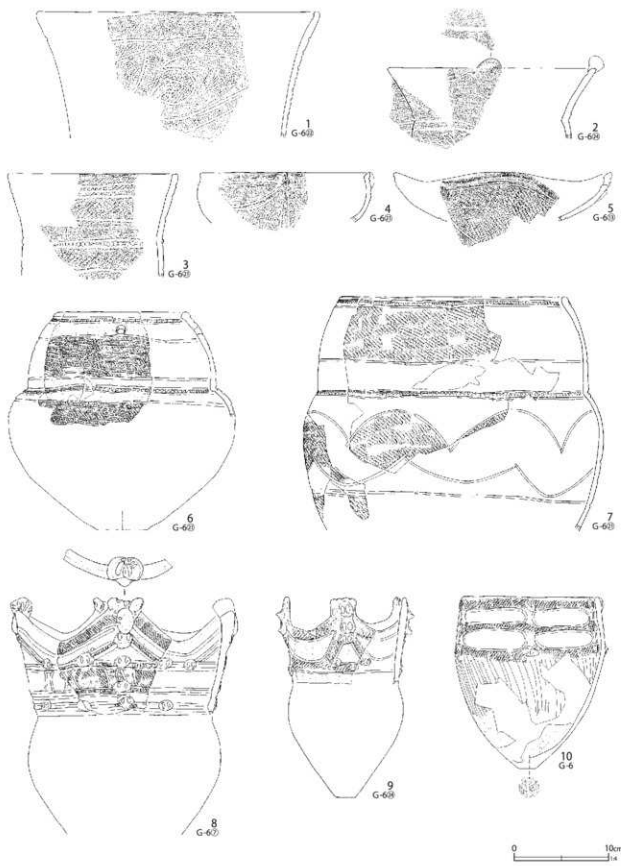
安行 3a-b



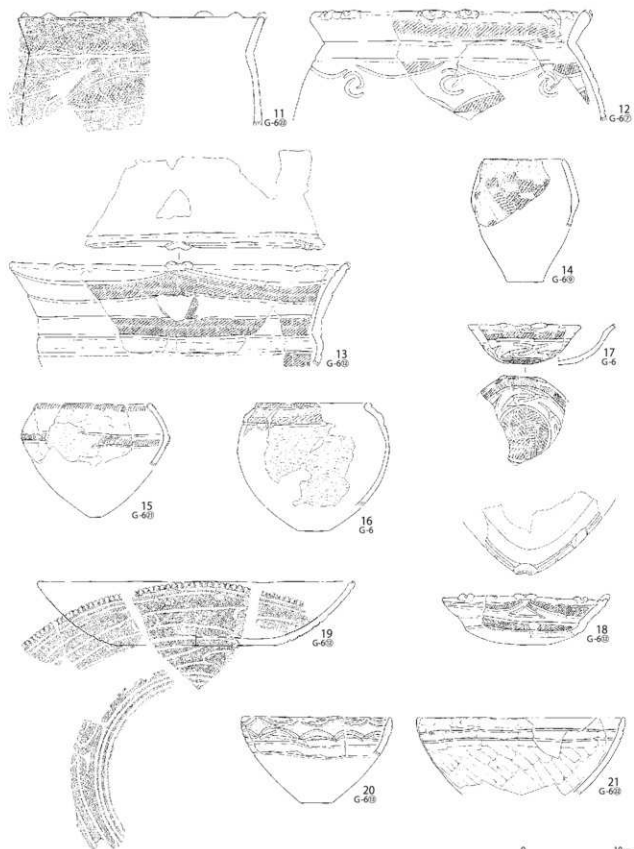
安行 3c-d



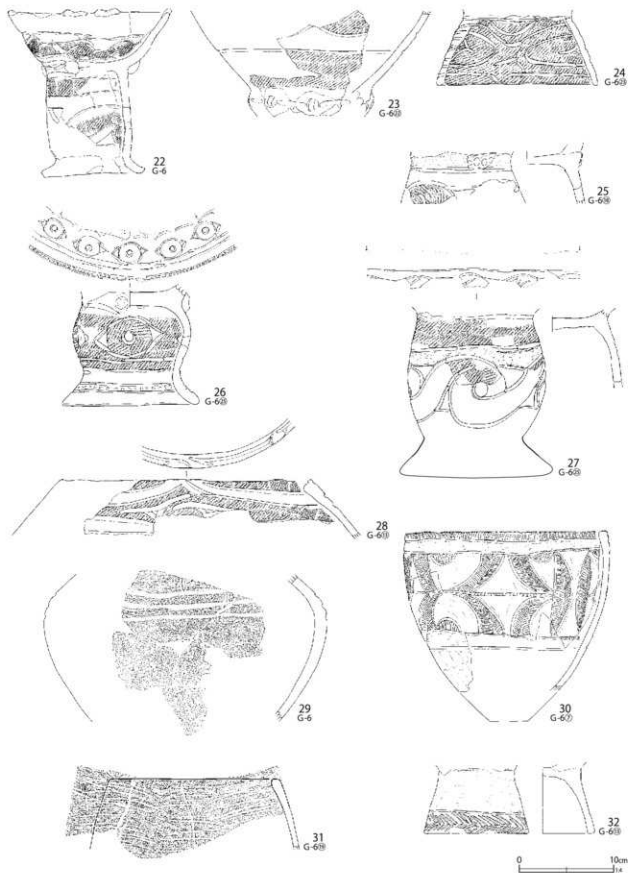
第 76 図 G-6 グリッド時間別濃淡図



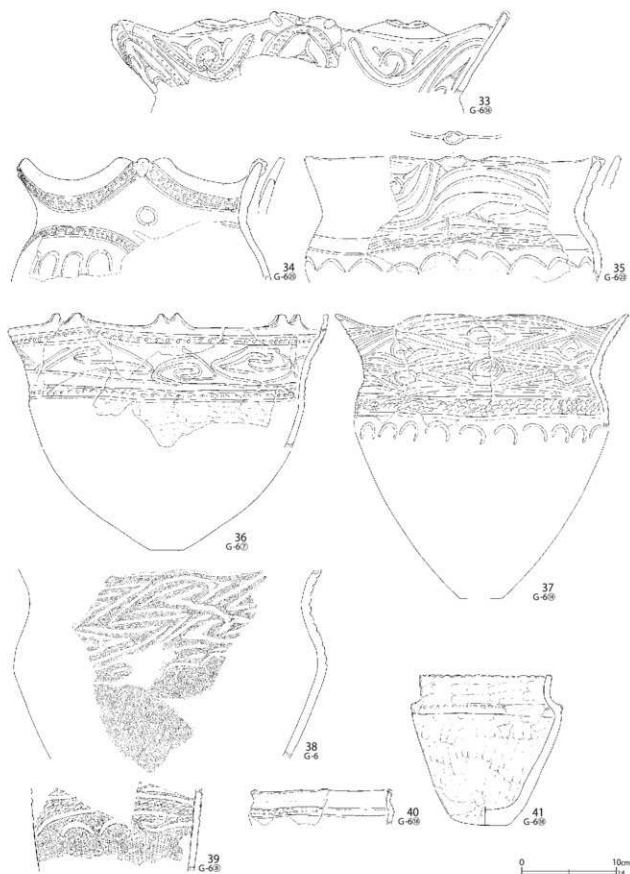
第77図 G-6グリッド出土遺物(1)



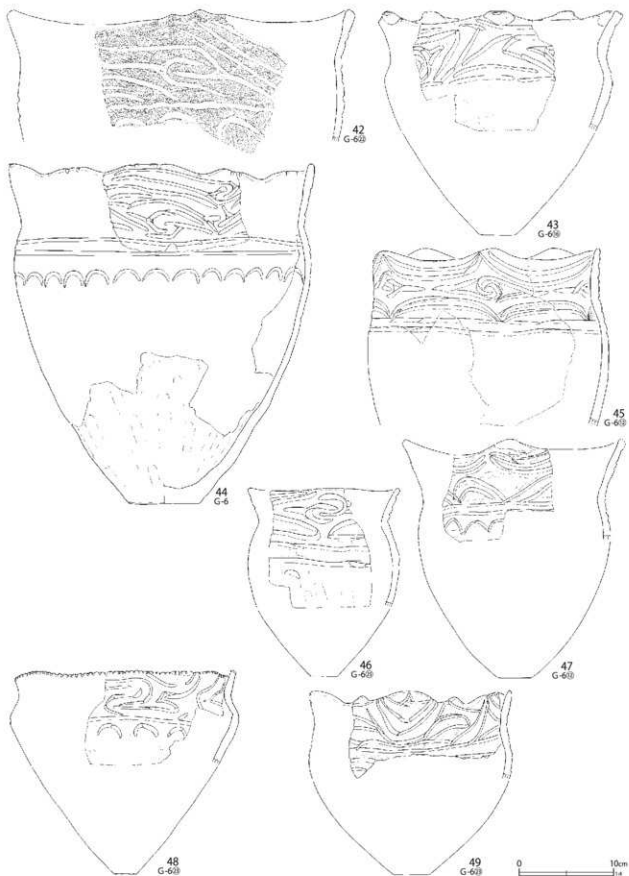
第78図 G-6グリッド出土遺物(2)



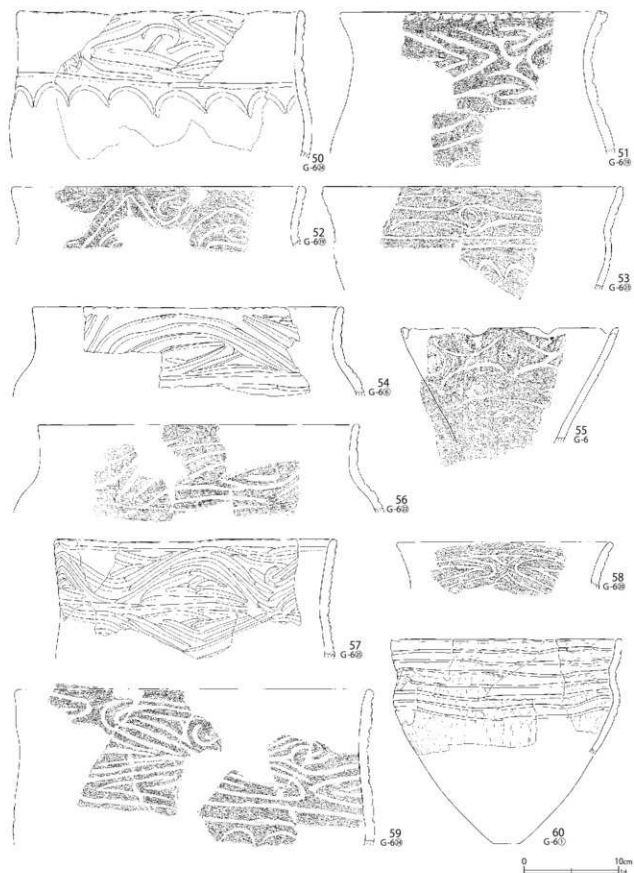
第79図 G-6グリッド出土遺物(3)



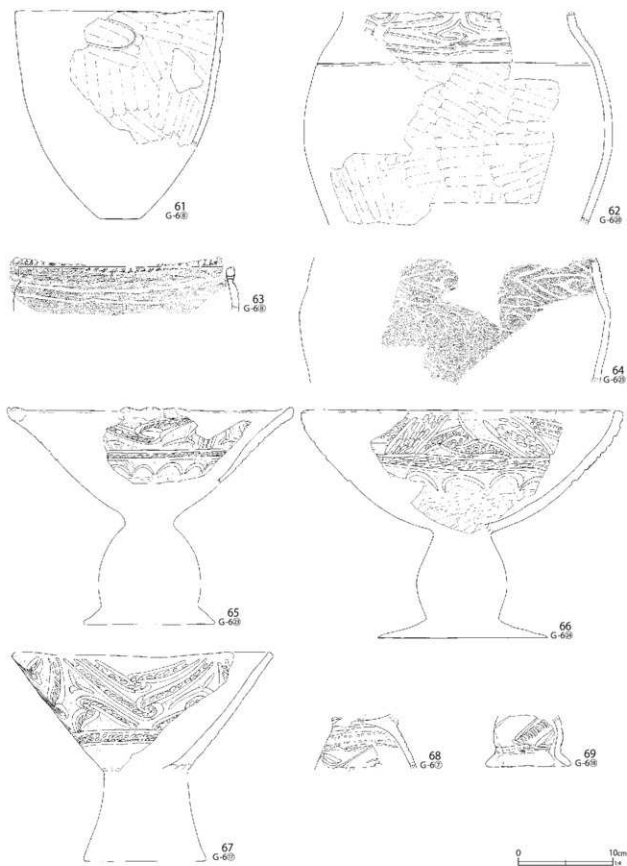
第80図 G-6グリッド出土遺物(4)



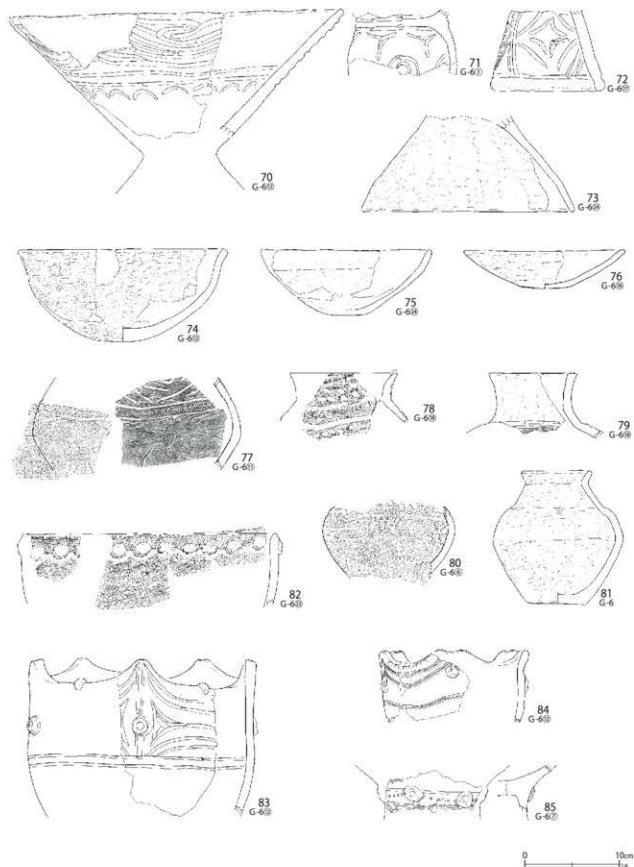
第81図 G-6グリッド出土遺物(5)



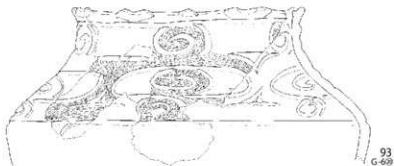
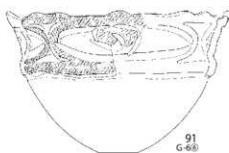
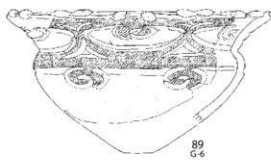
第82図 G-6グリッド出土遺物(6)



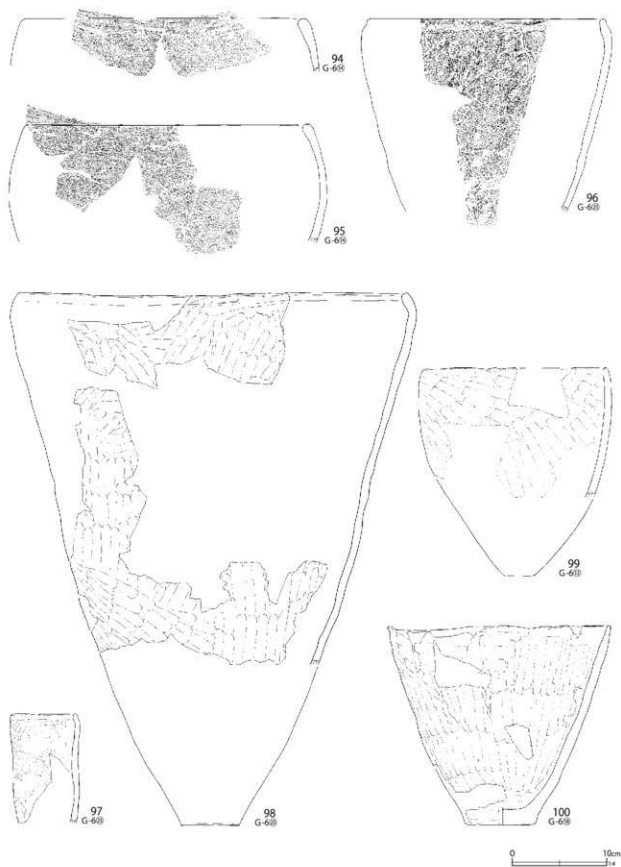
第83図 G-6グリッド出土遺物(7)



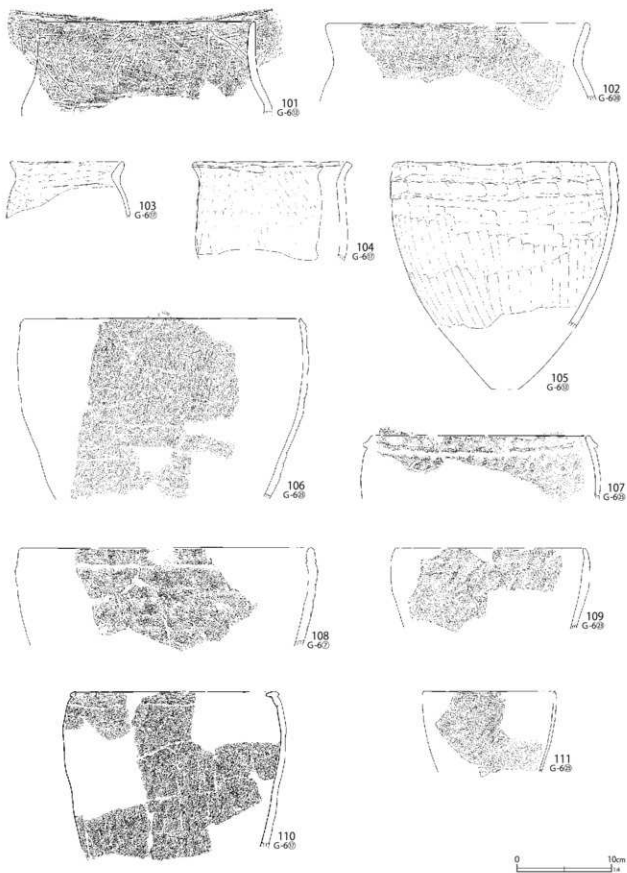
第84図 G-6グリッド出土遺物(8)



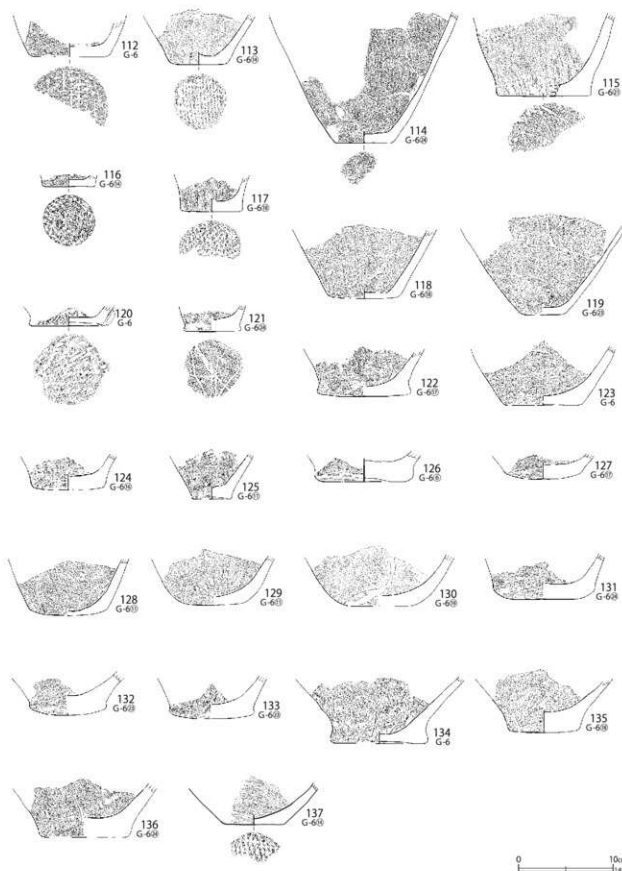
第85図 G-6グリッド出土遺物(9)



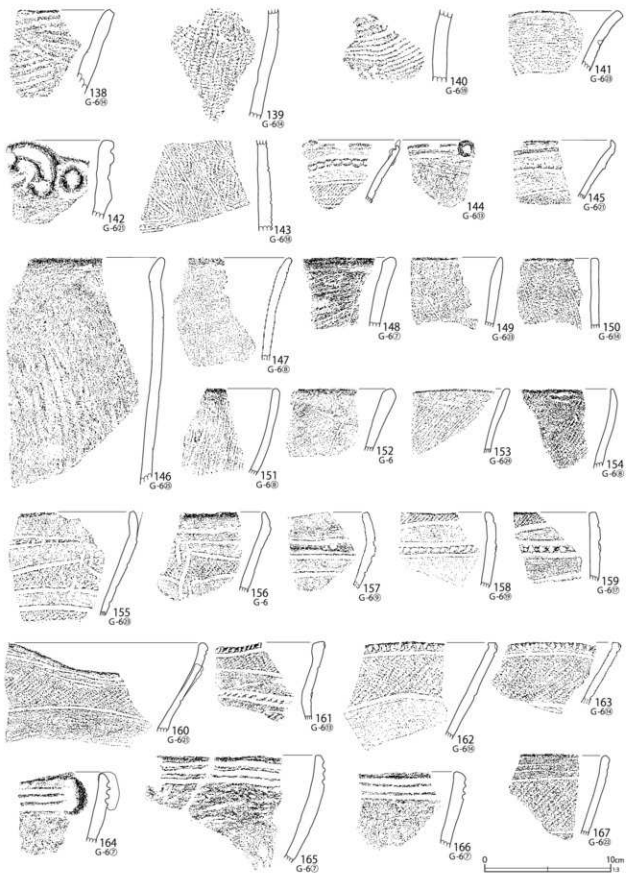
第86図 G-6グリッド出土遺物 (10)



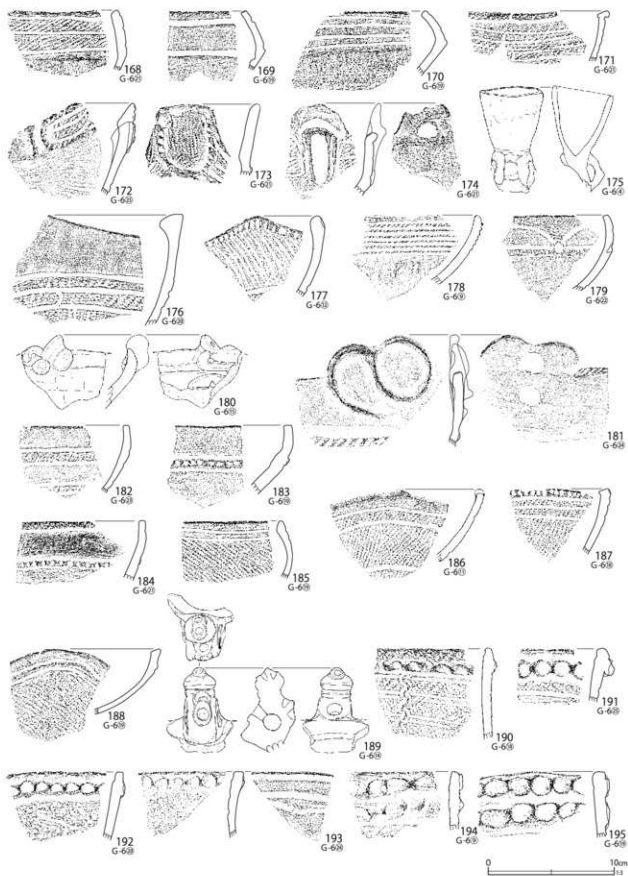
第87図 G-6グリッド出土遺物 (11)



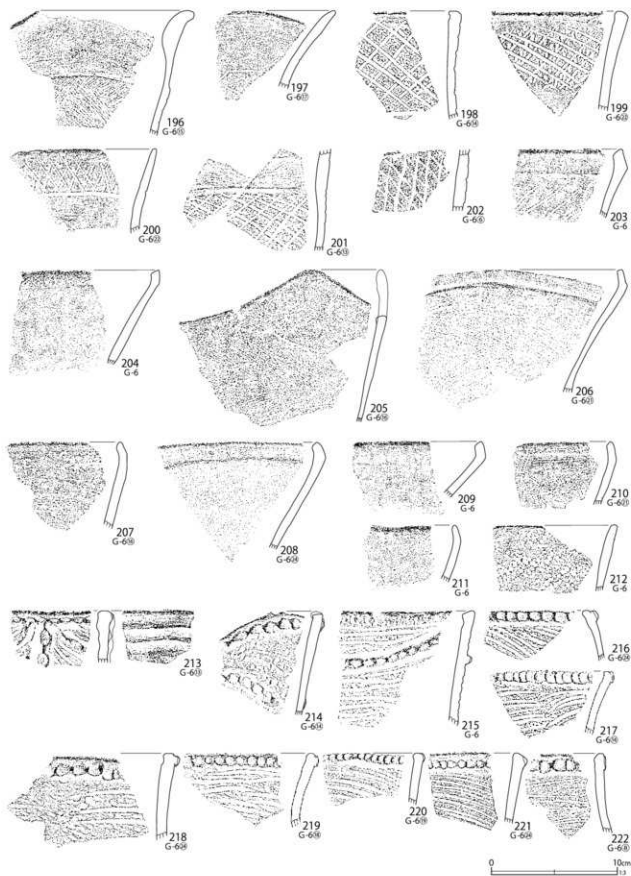
第88図 G-6グリッド出土遺物 (12)



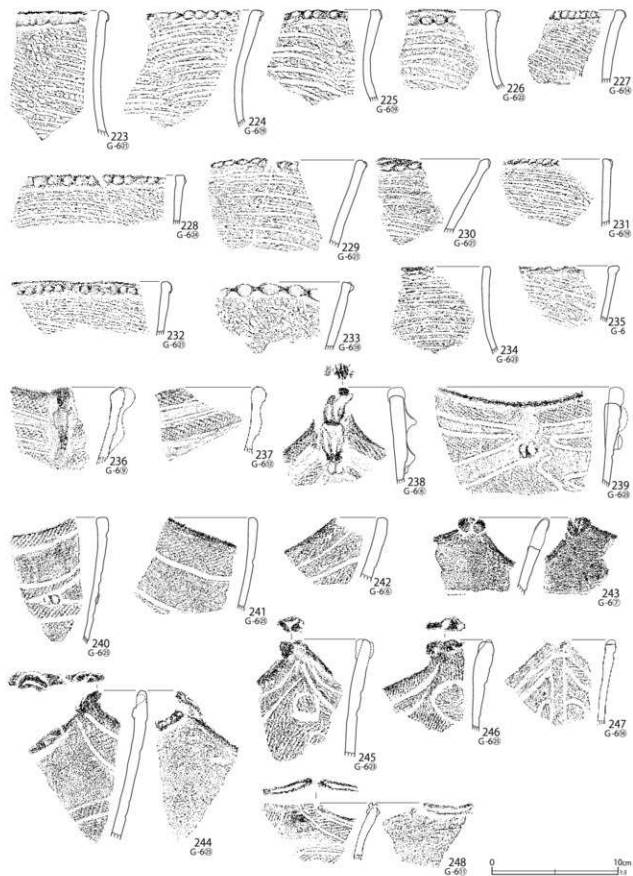
第89図 G-6グリッド出土遺物(13)



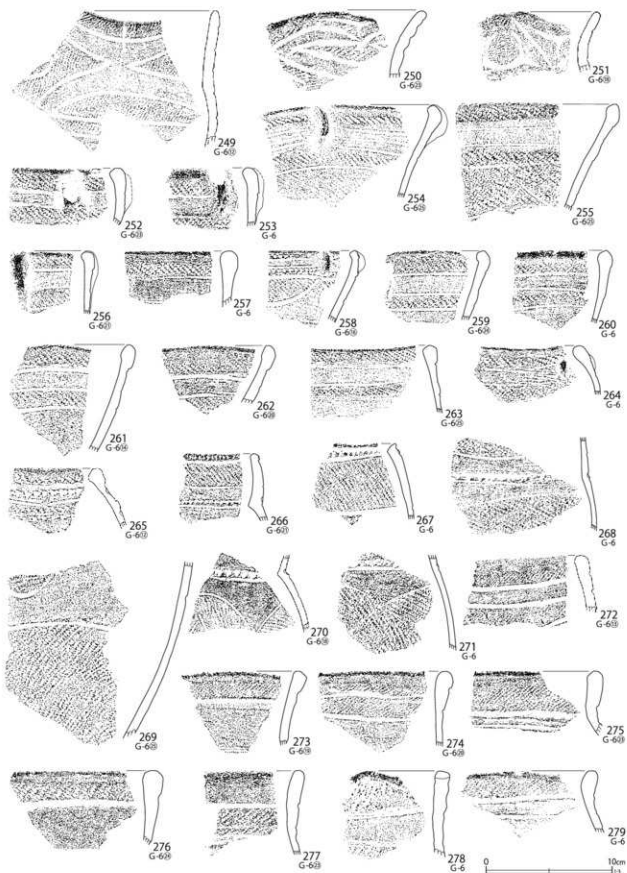
第90図 G-6グリッド出土遺物 (14)



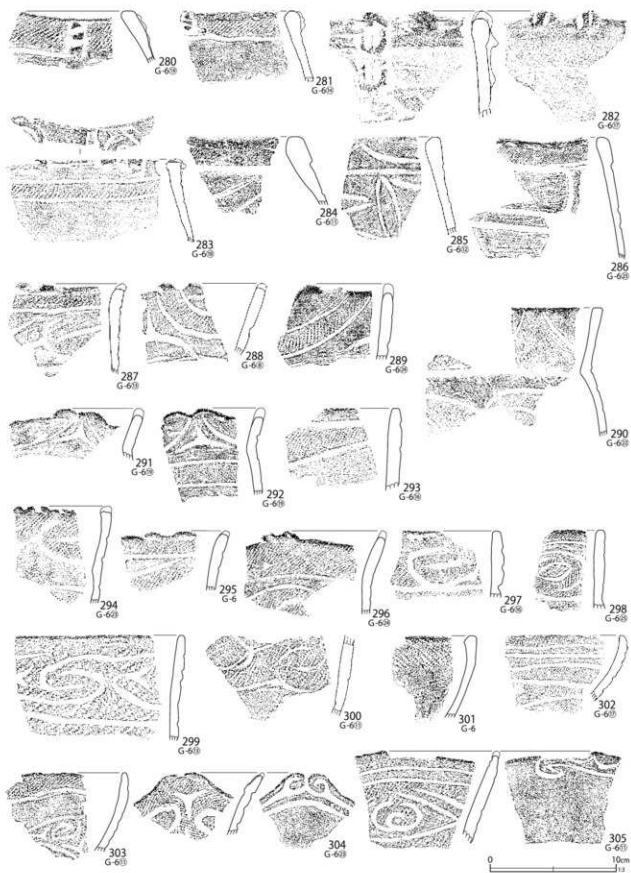
第91図 G-6グリッド出土遺物 (15)



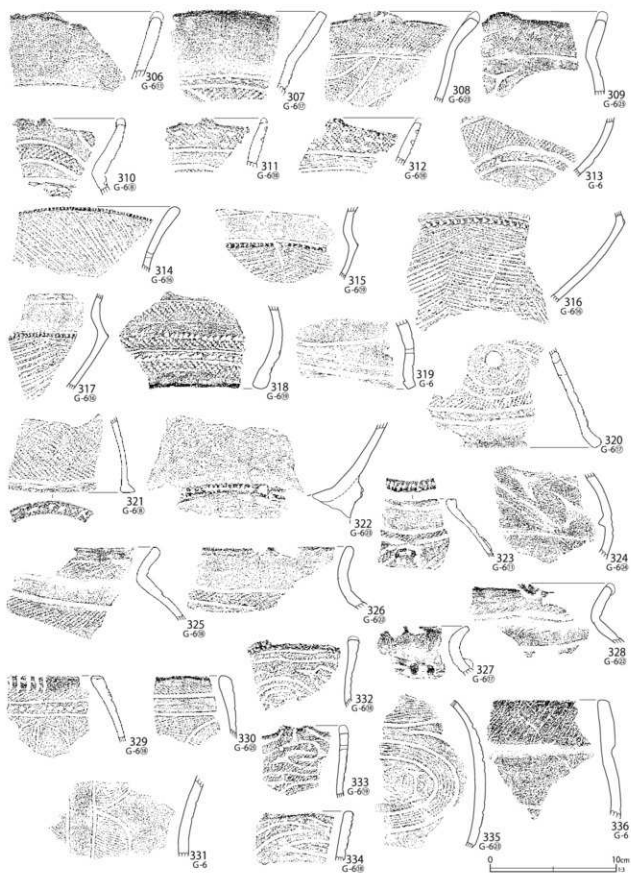
第92図 G-6グリッド出土遺物 (16)



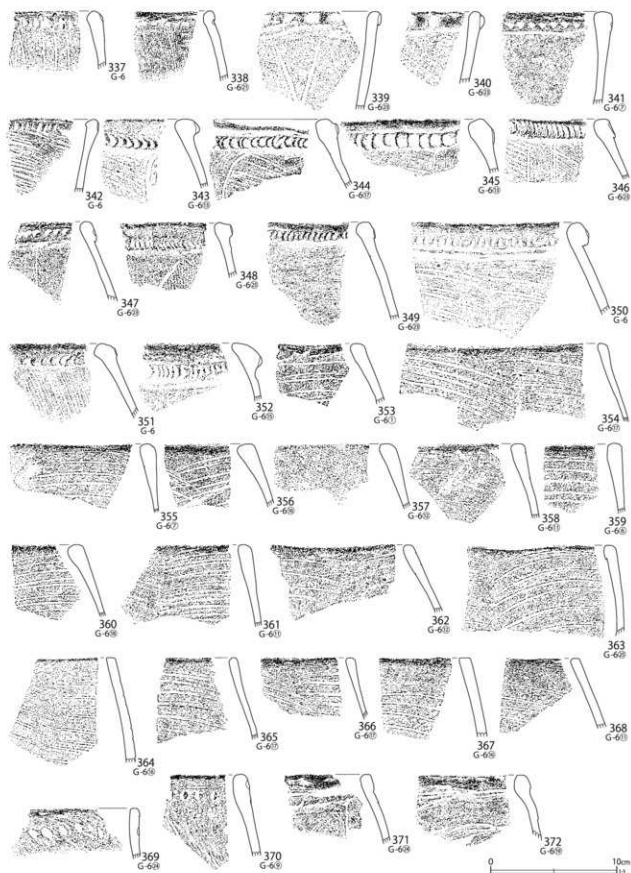
第93図 G-6グリッド出土遺物(17)



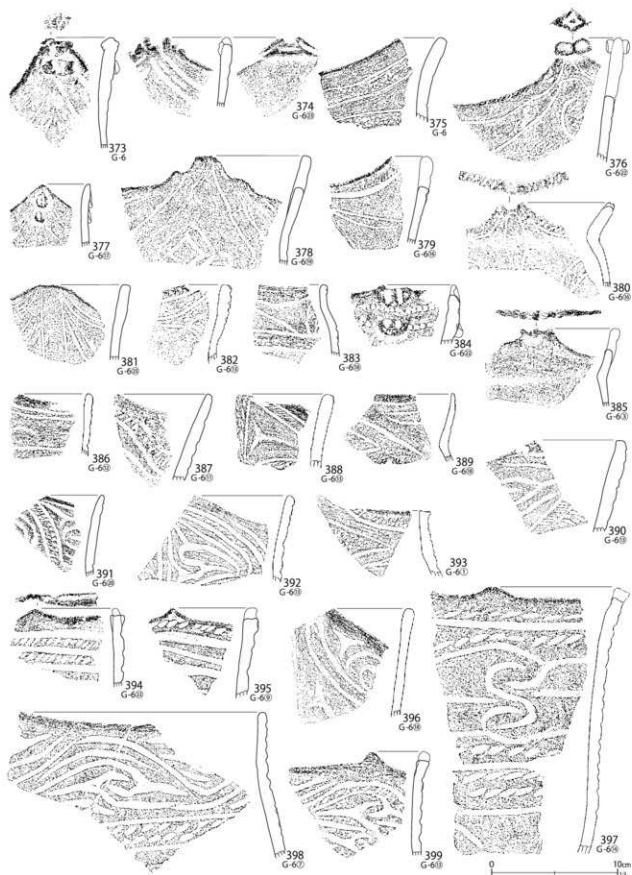
第94図 G-6グリッド出土遺物 (18)



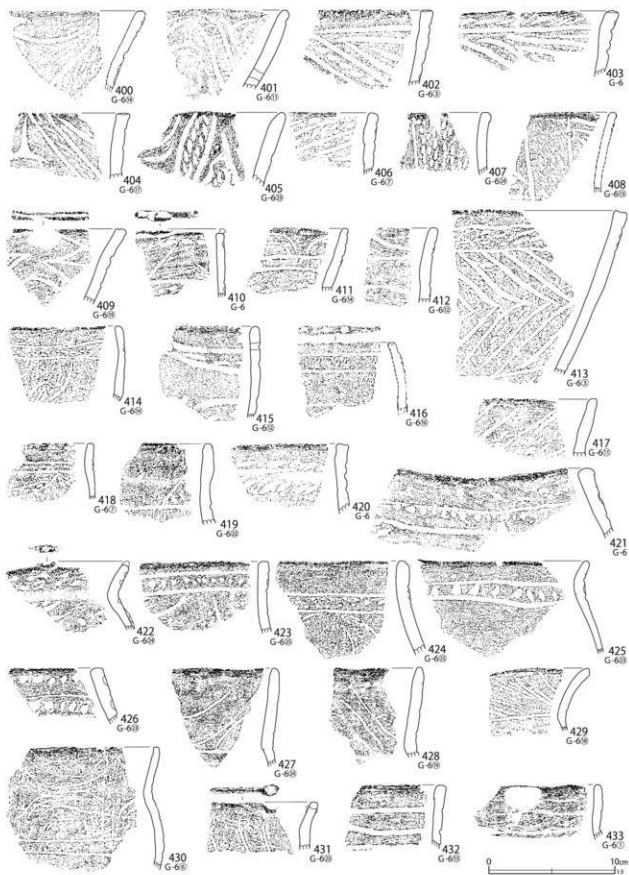
第95図 G-6グリッド出土遺物 (19)



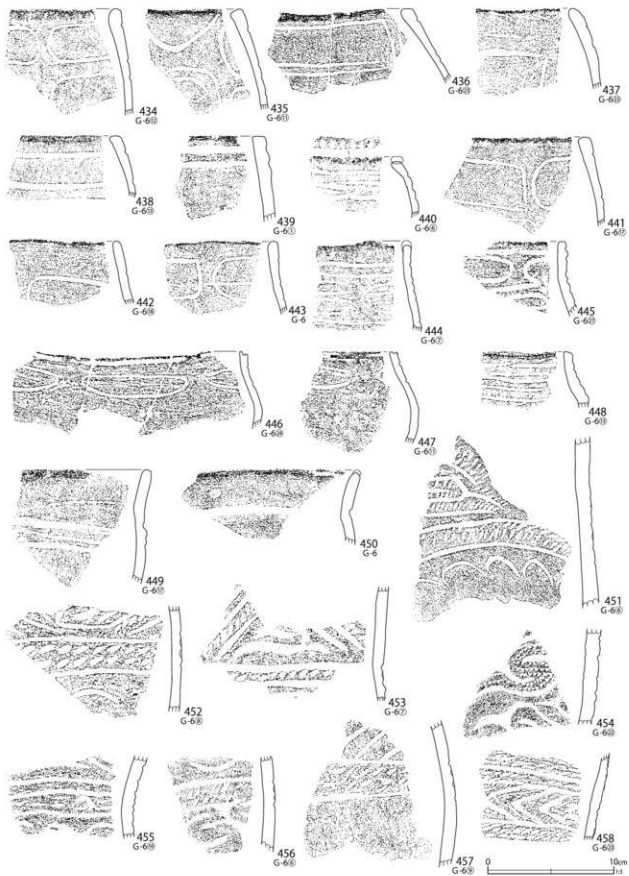
第96図 G-6グリッド出土遺物(20)



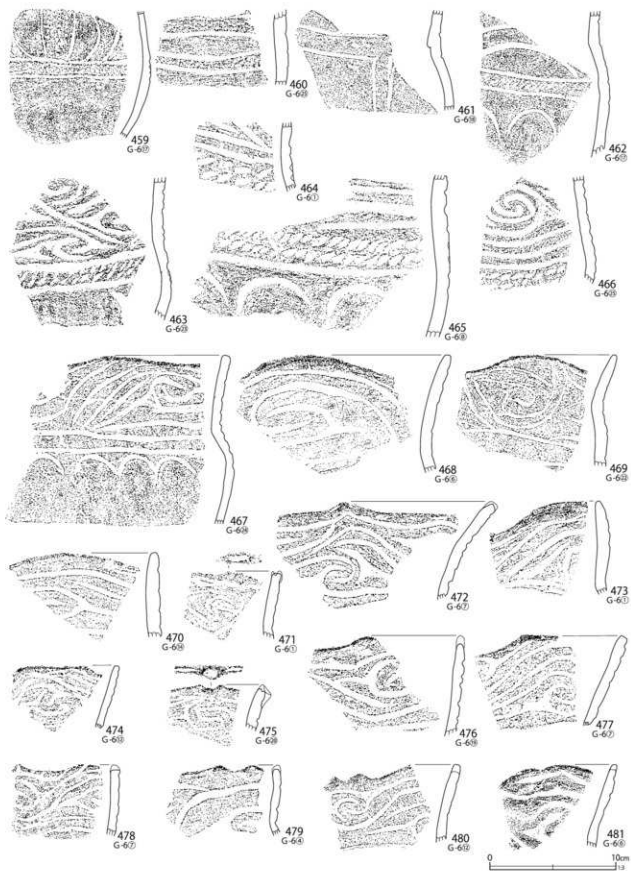
第97図 G-6グリッド出土遺物(21)



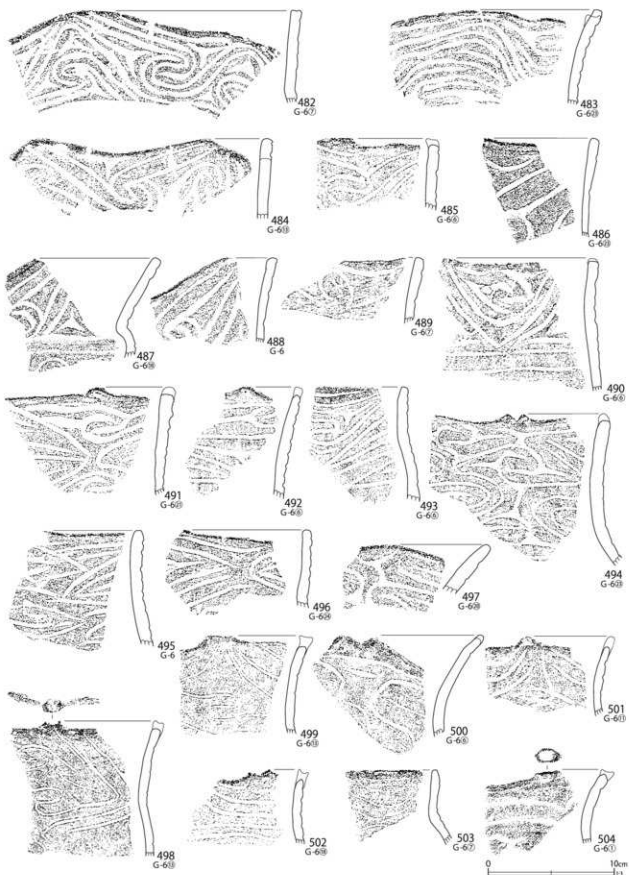
第98図 G-6グリッド出土遺物 (22)



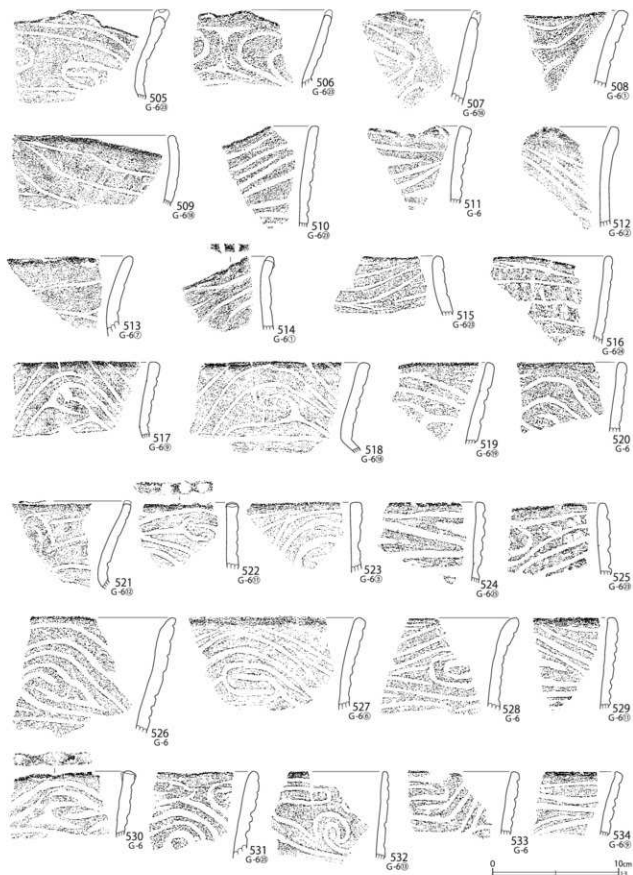
第99図 G-6グリッド出土遺物 (23)



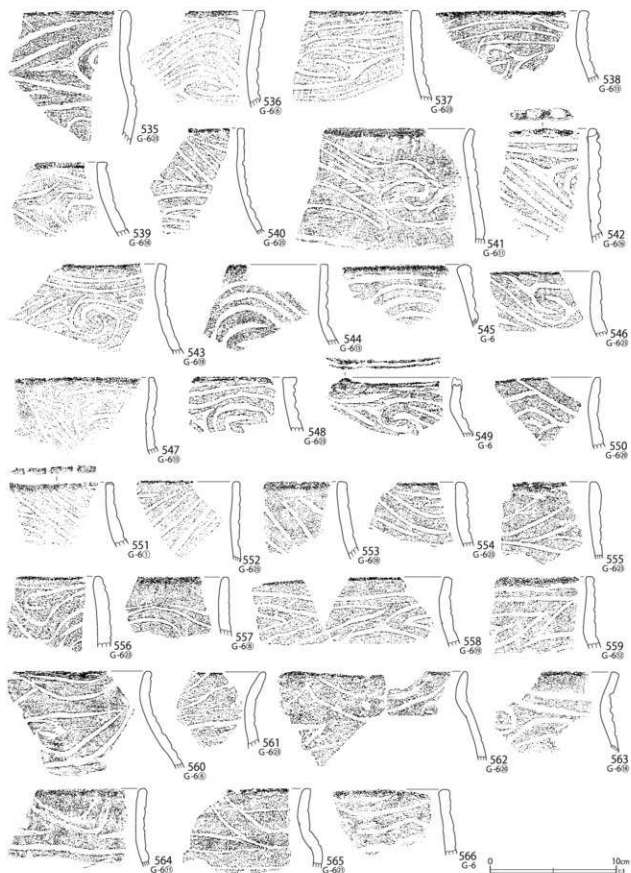
第100図 G-6グリッド出土遺物(24)



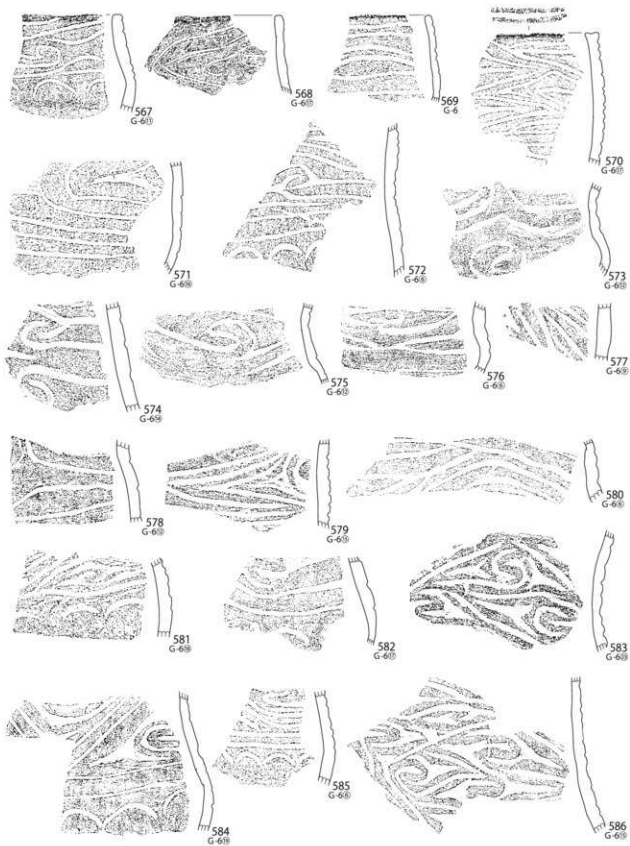
第101図 G-6グリッド出土遺物(25)



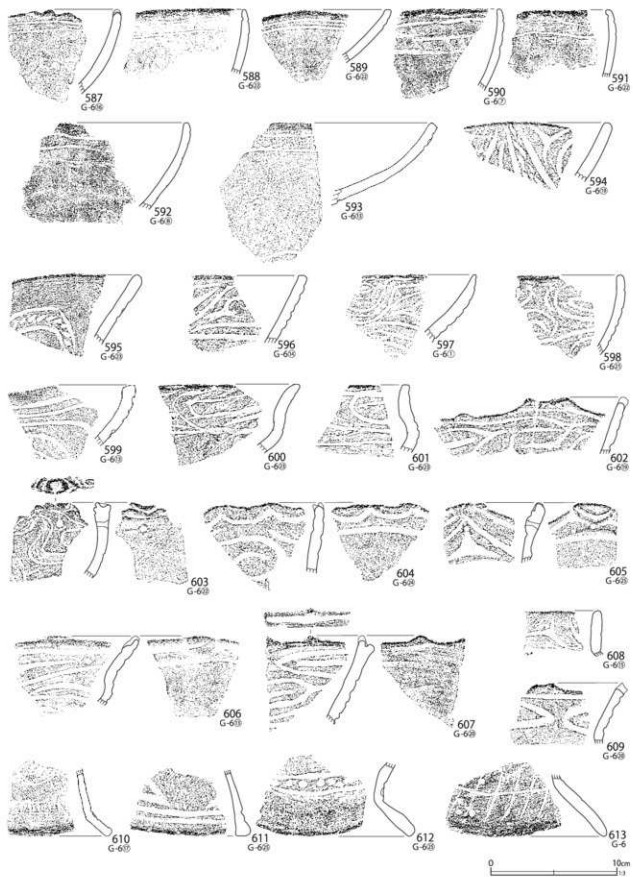
第102図 G-6グリッド出土遺物(26)



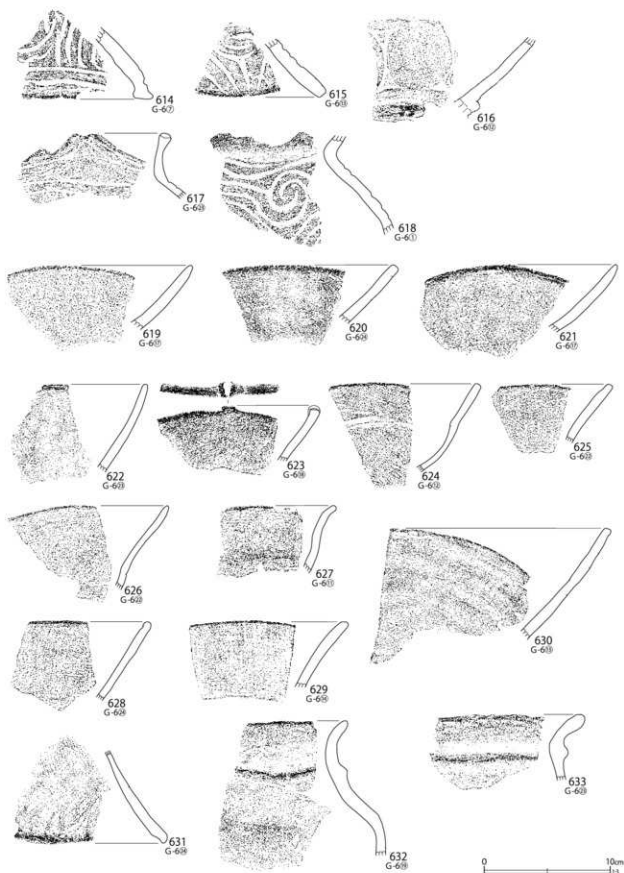
第103図 G-6グリッド出土遺物(27)



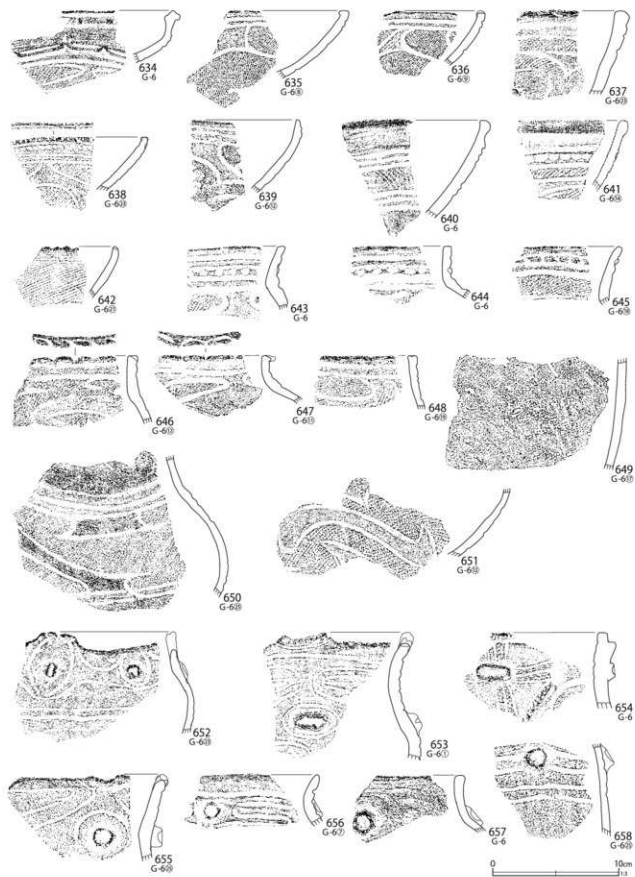
第104図 G-6グリッド出土遺物(28)



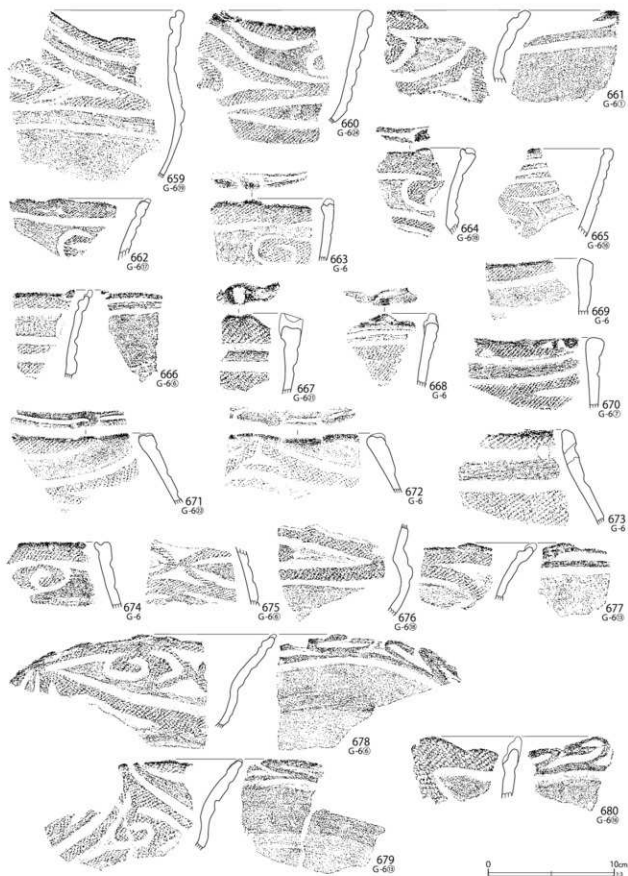
第105図 G-6グリッド出土遺物(29)



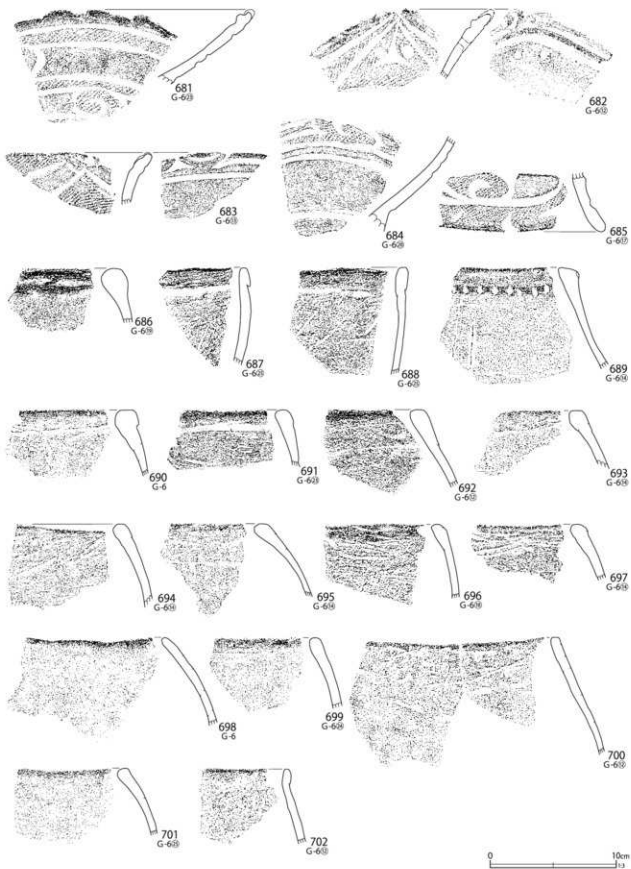
第106図 G-6グリッド出土遺物(30)



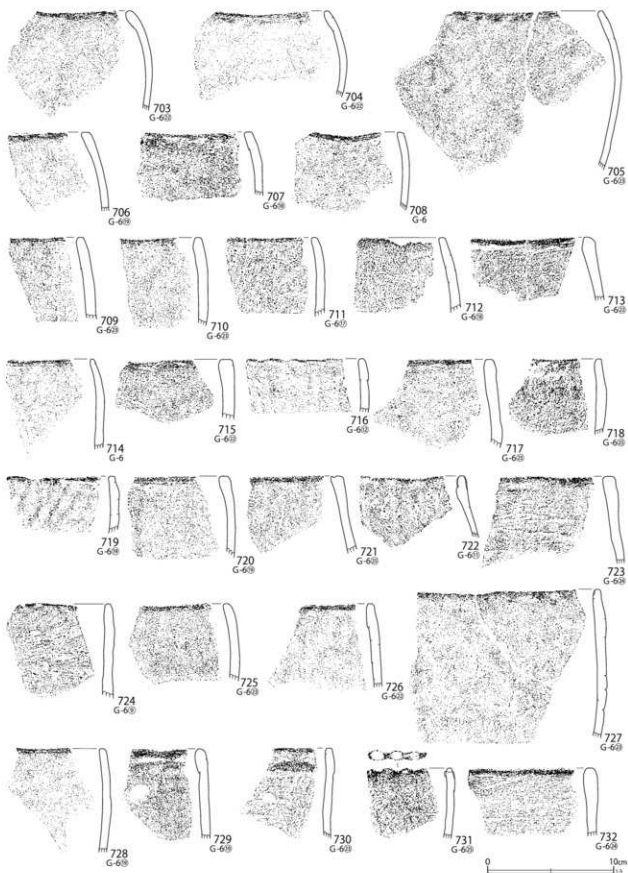
第107図 G-6グリッド出土遺物(31)



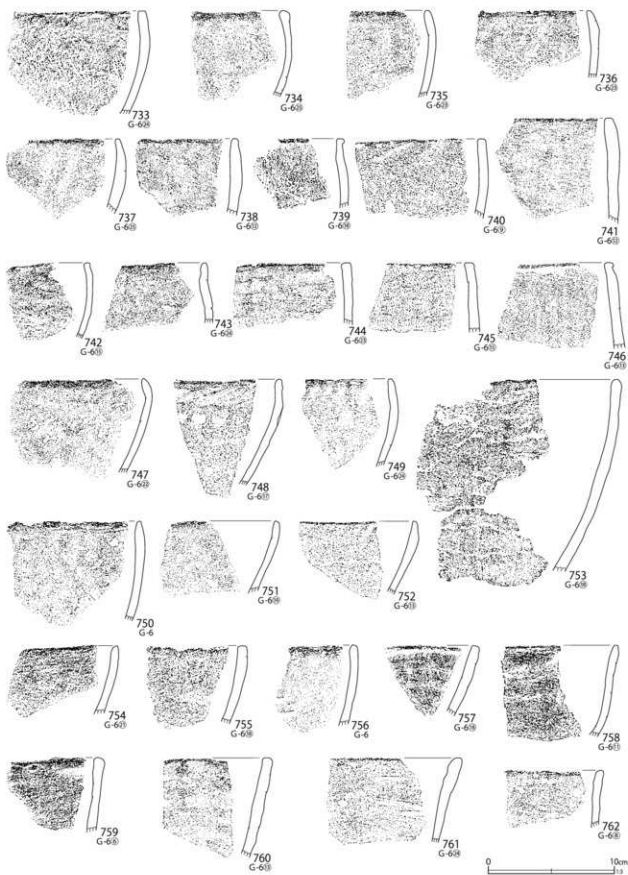
第108図 G-6グリッド出土遺物(32)



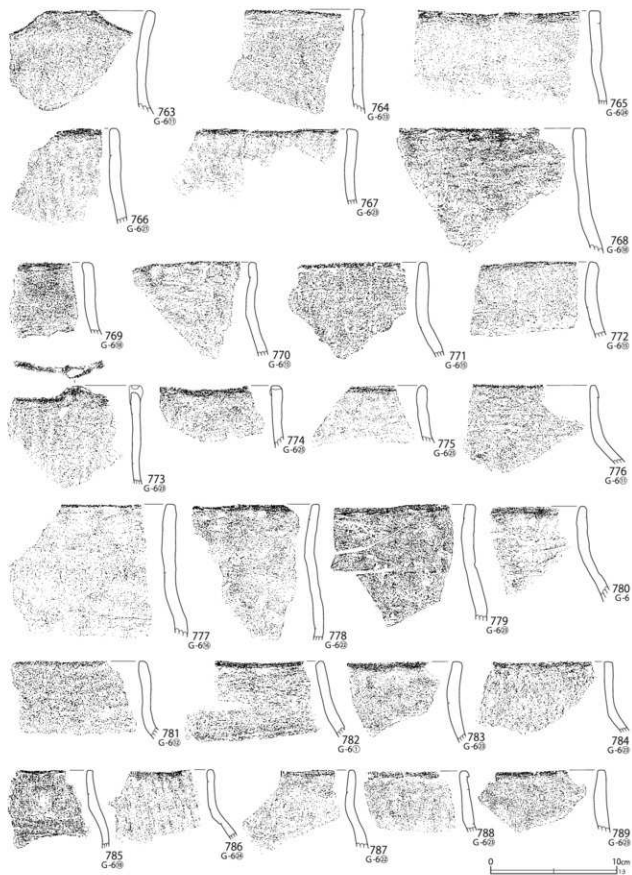
第109図 G-6グリッド出土遺物(33)



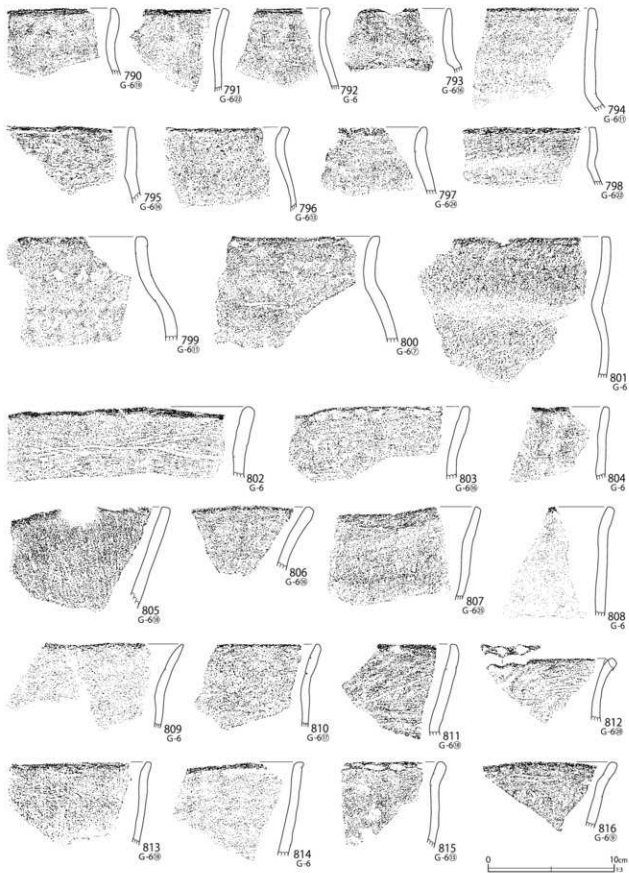
第110図 G-6グリッド出土遺物(34)



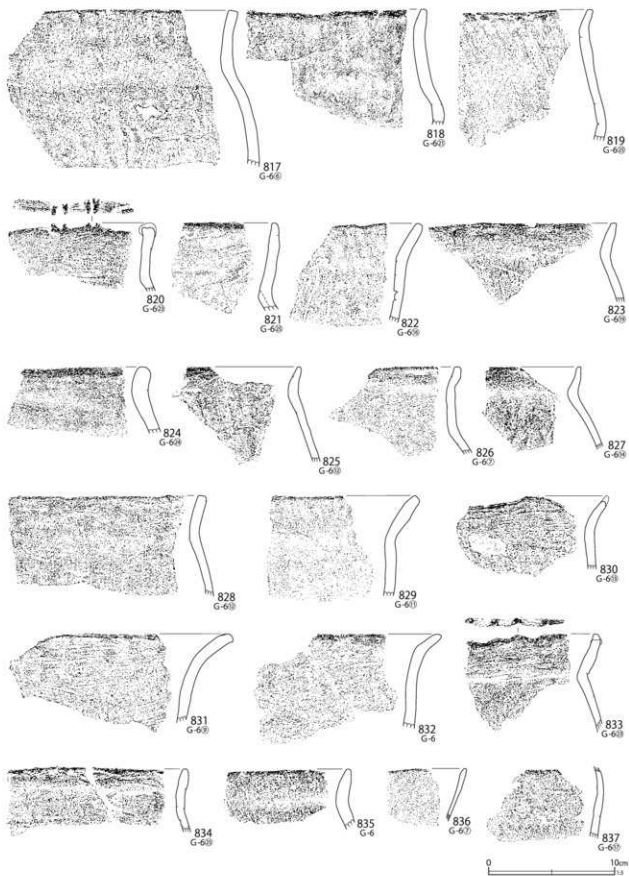
第111図 G-6グリッド出土遺物(35)



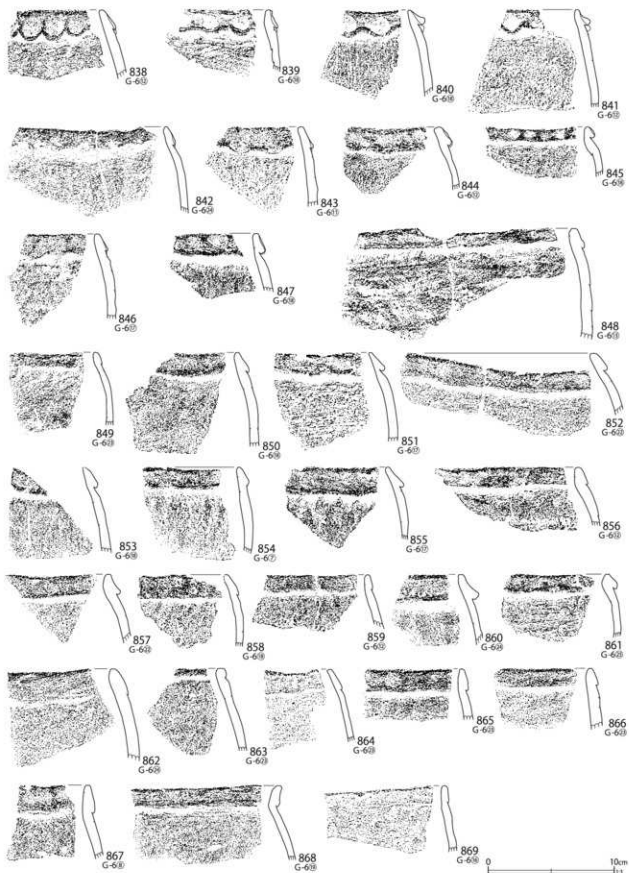
第112図 G-6グリッド出土遺物(36)



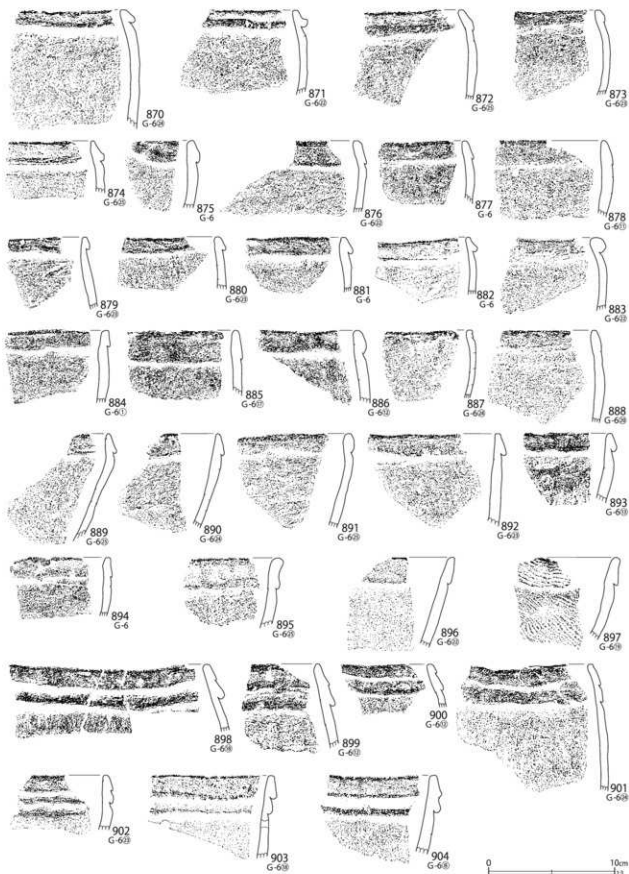
第113図 G-6グリッド出土遺物(37)



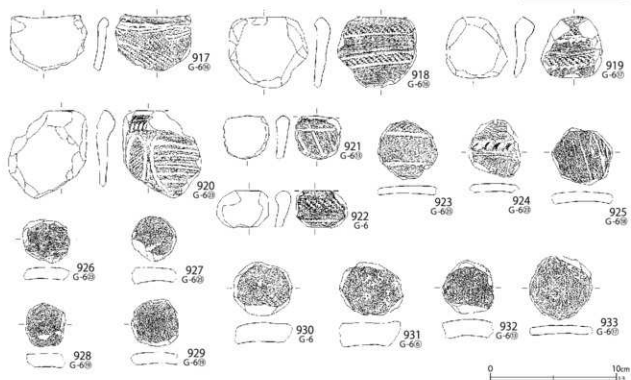
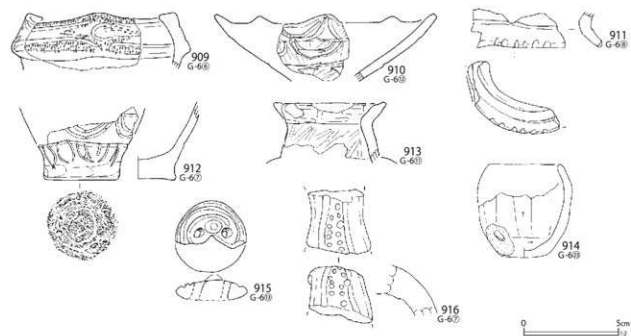
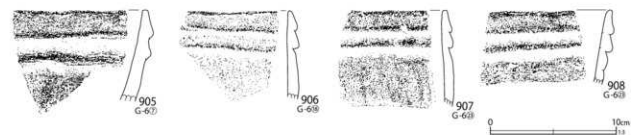
第114図 G-6グリッド出土遺物(38)



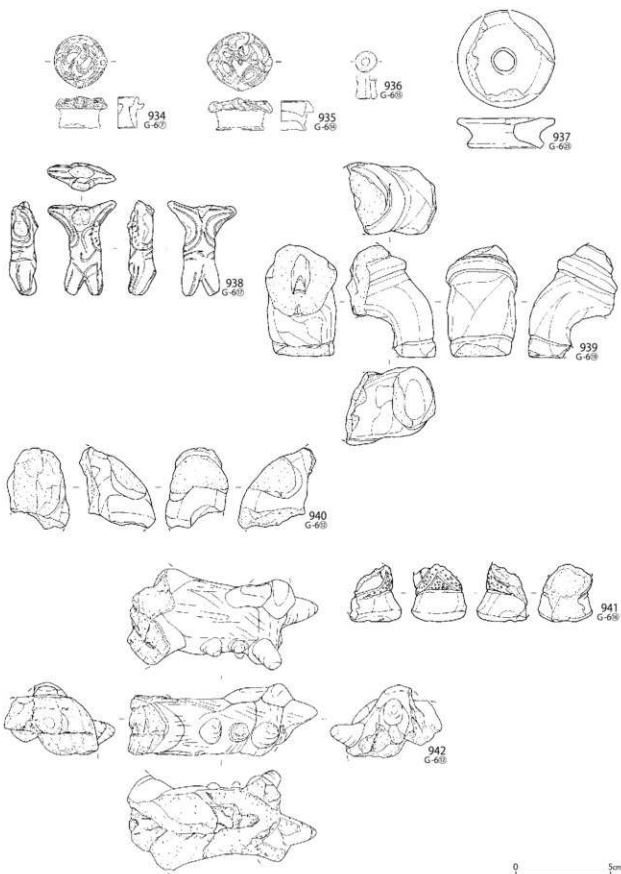
第115図 G-6グリッド出土遺物(39)



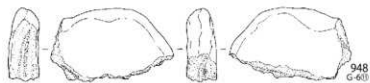
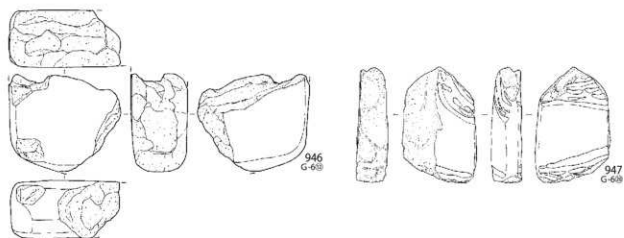
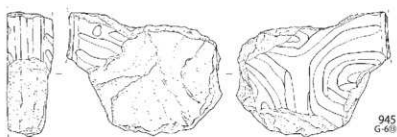
第116図 G-6グリッド出土遺物(40)



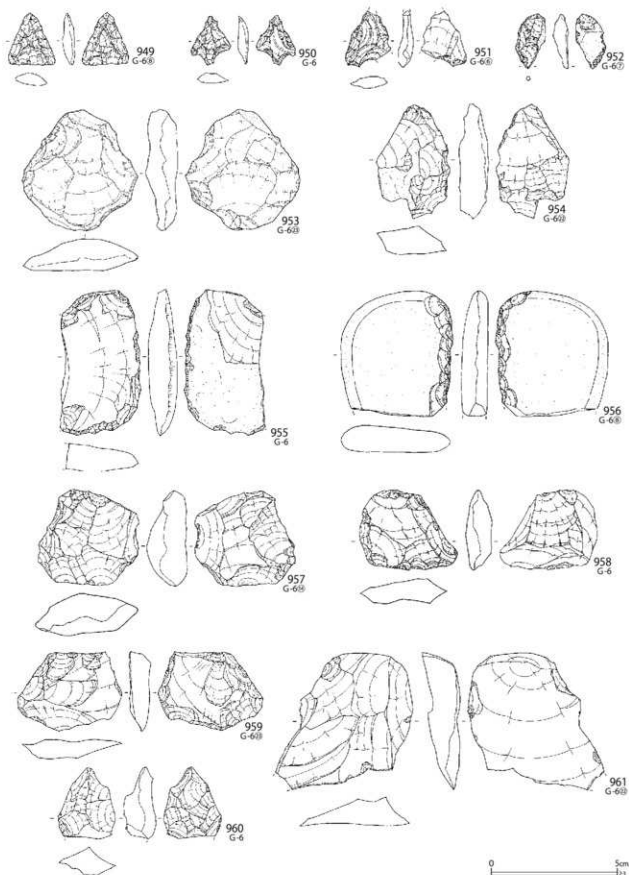
第117図 G-6グリッド出土遺物(41)



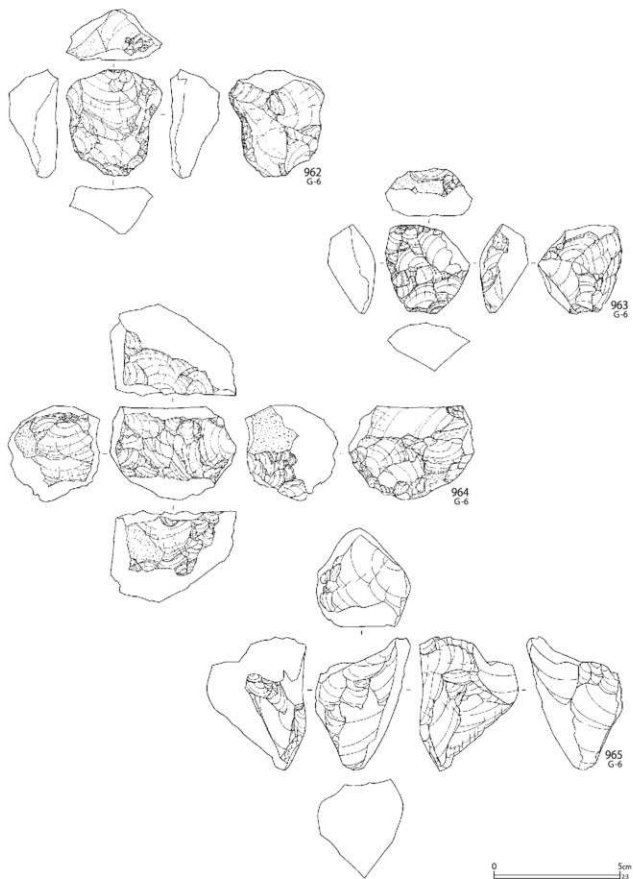
第118図 G-6グリッド出土遺物(42)



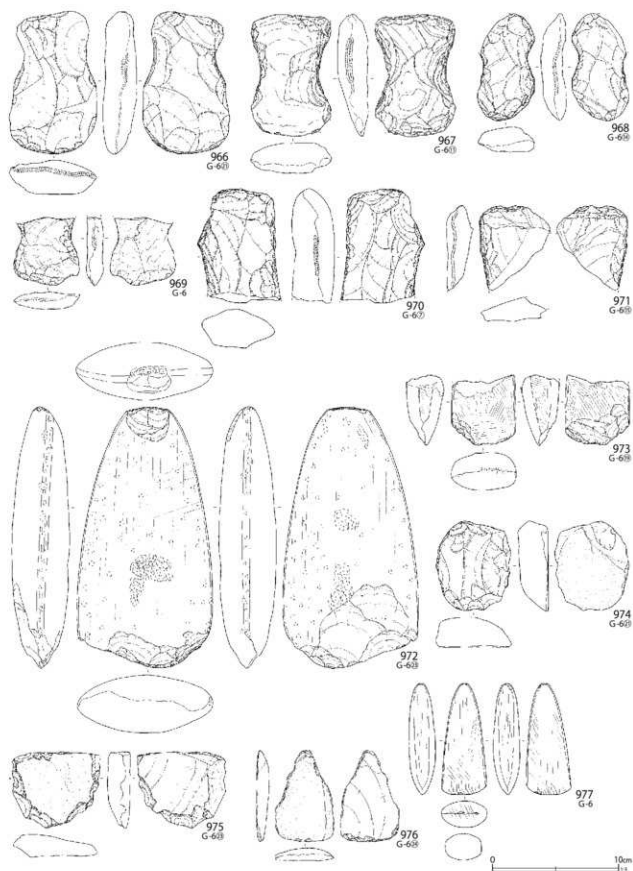
第119図 G-6グリッド出土遺物(43)



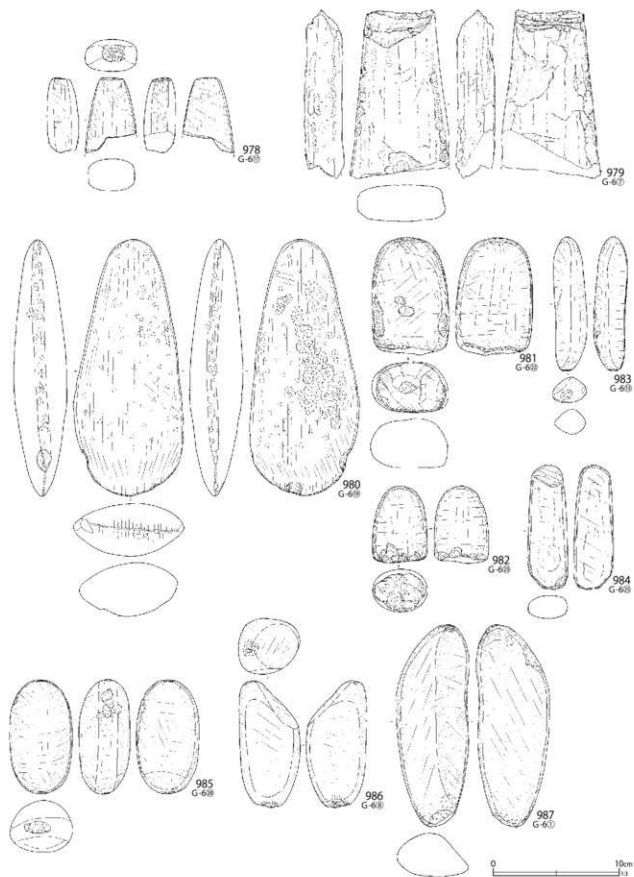
第120図 G-6グリッド出土遺物(44)



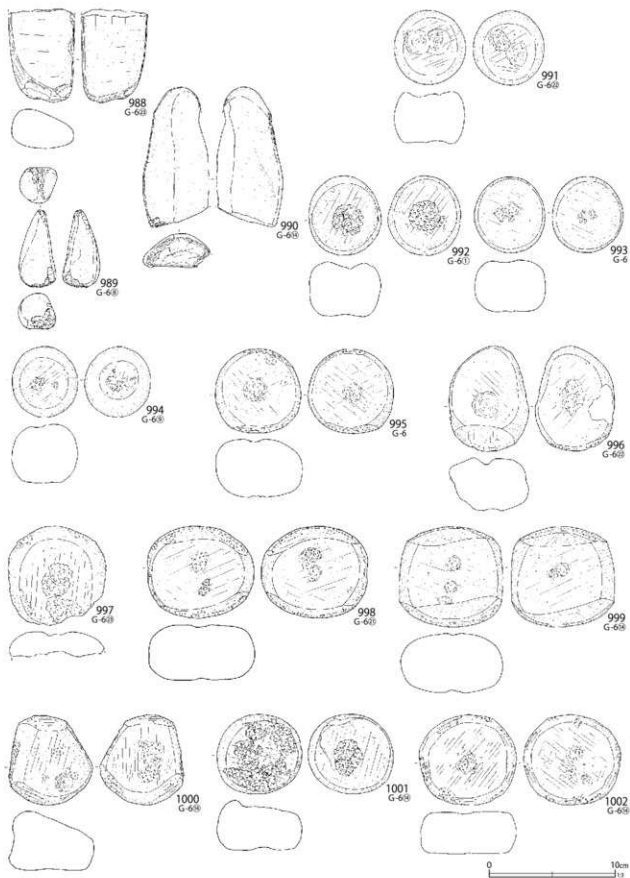
第121図 G-6グリッド出土遺物(45)



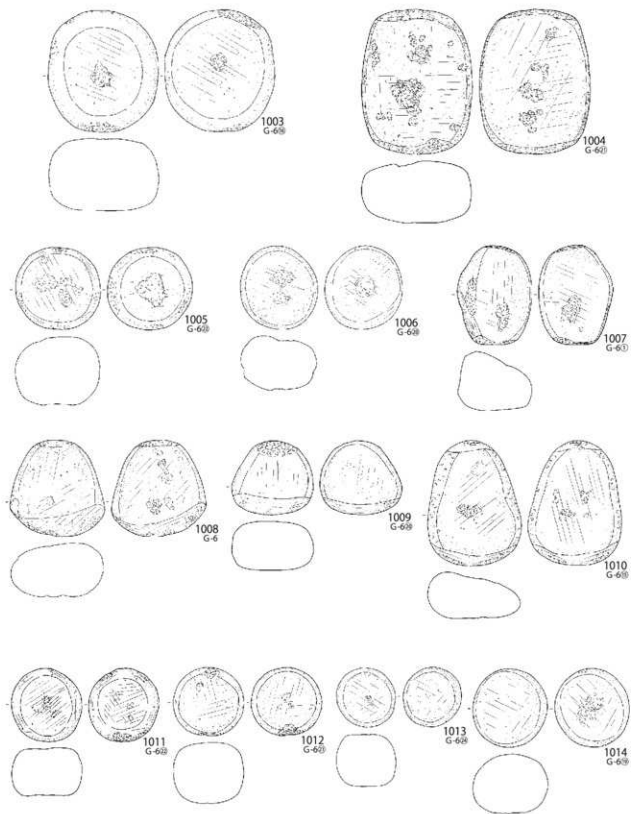
第122図 G-6グリッド出土遺物(46)



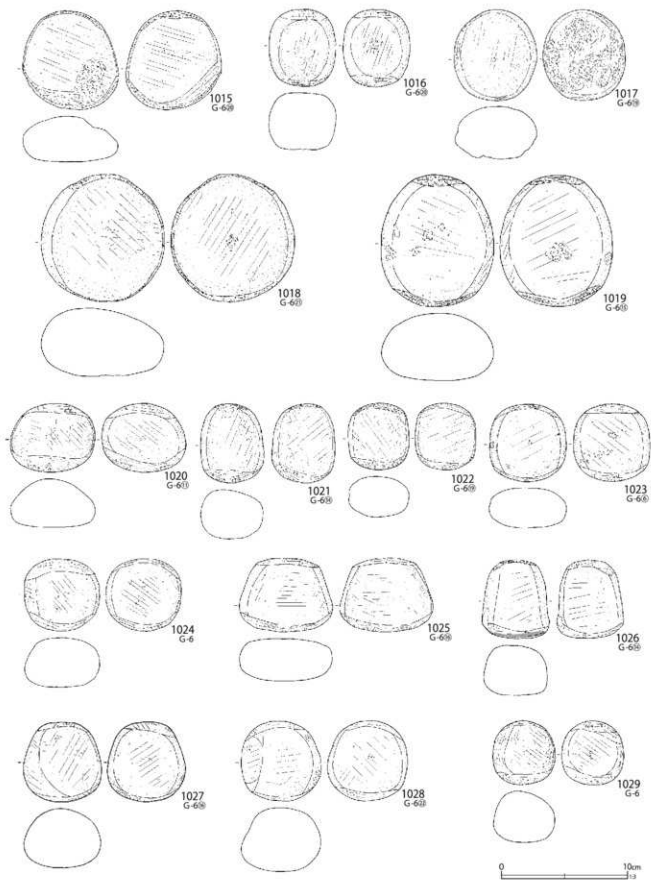
第123図 G-6グリッド出土遺物(47)



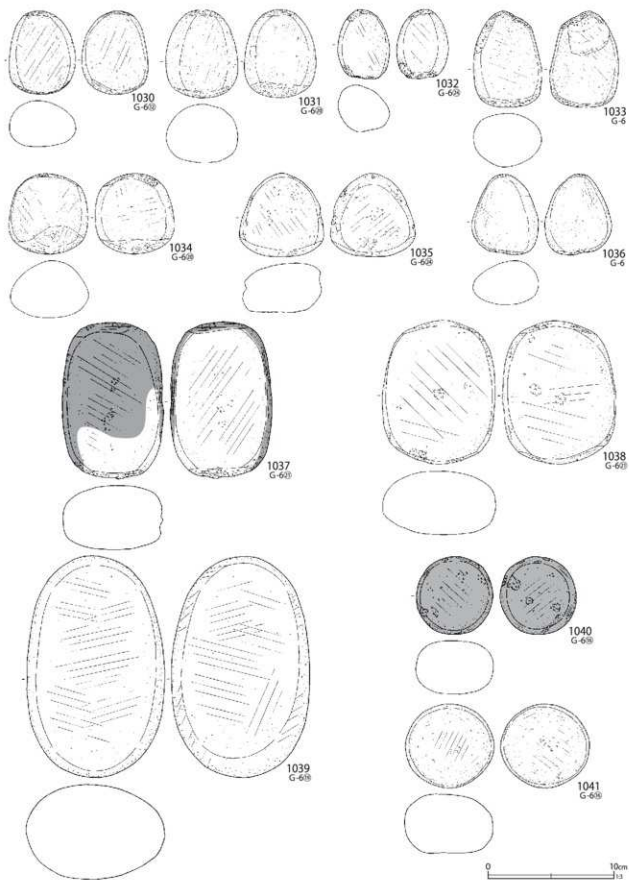
第124図 G-6グリッド出土遺物(48)



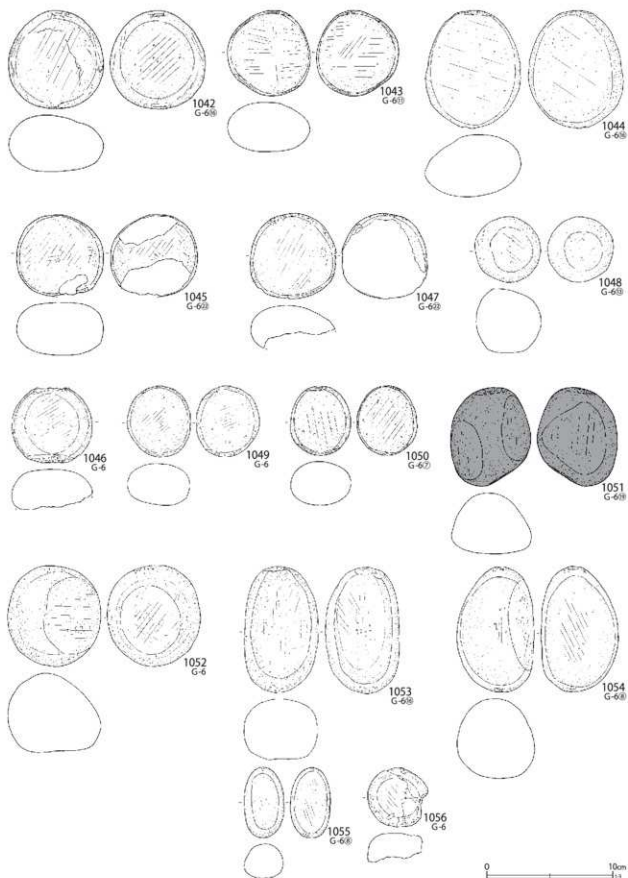
第125図 G-6グリッド出土遺物(49)



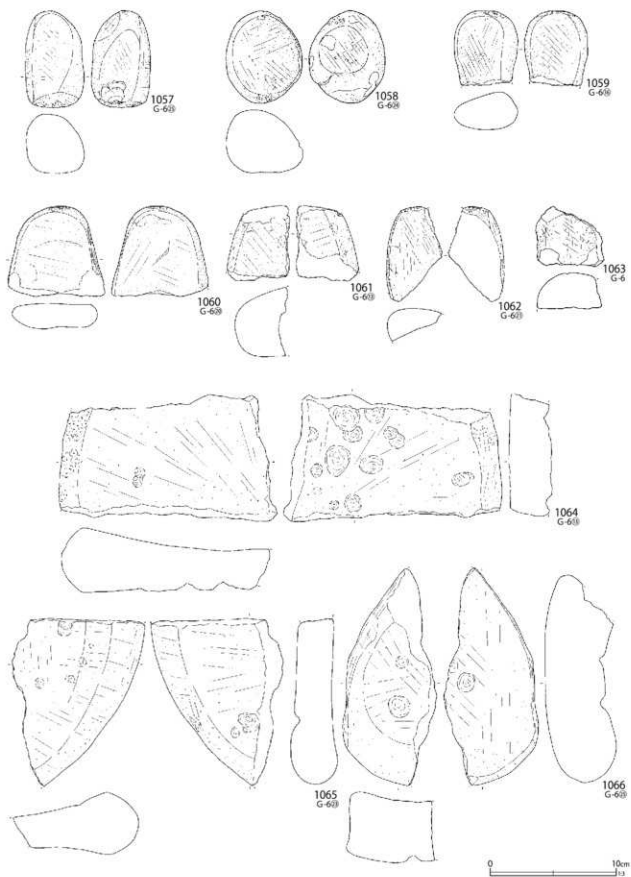
第126図 G-6グリッド出土遺物(50)



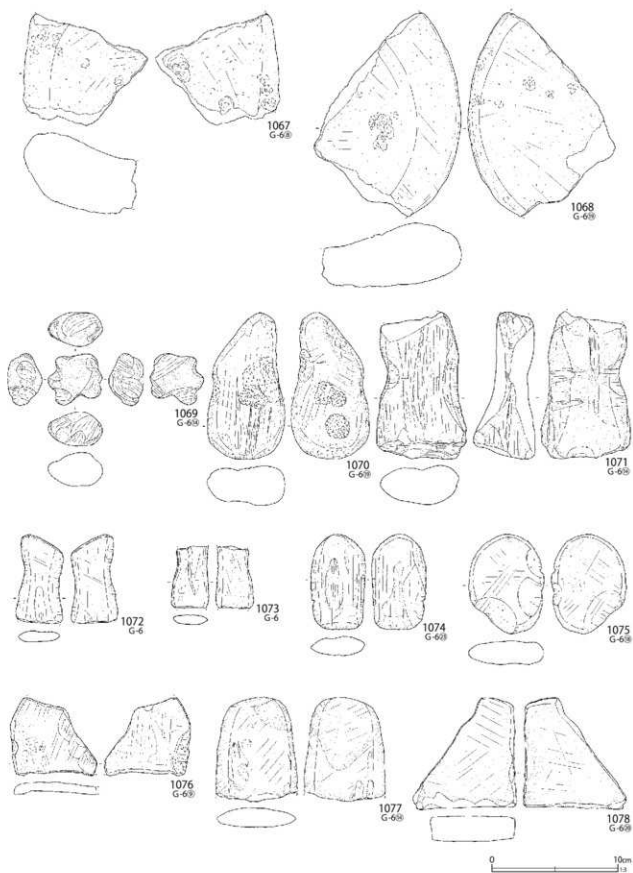
第127図 G-6グリッド出土遺物(51)



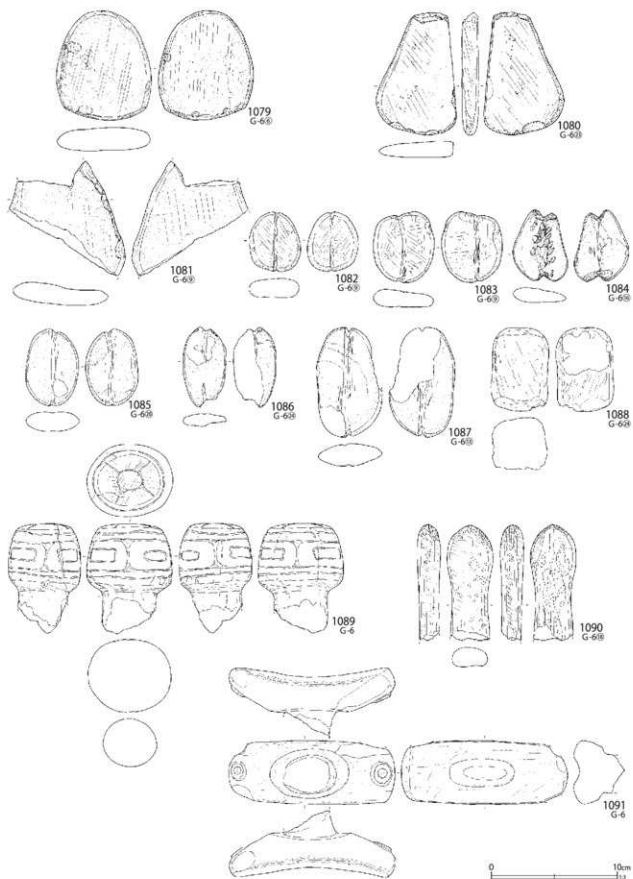
第128図 G-6グリッド出土遺物(52)



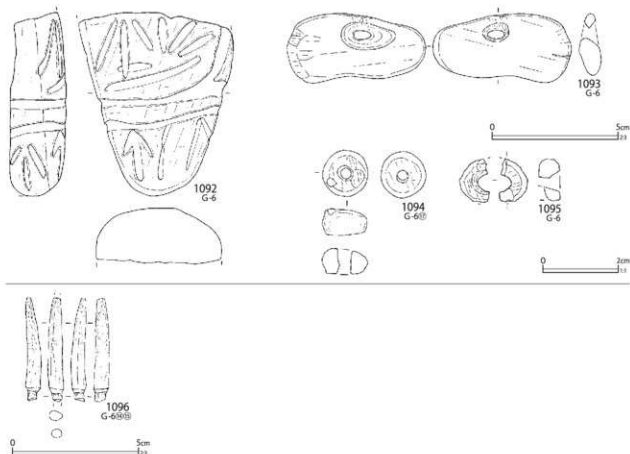
第129図 G-6グリッド出土遺物(53)



第130図 G-6グリッド出土遺物(54)



第131図 G-6グリッド出土遺物(55)



第132図 G-6グリッド出土遺物(56)

第24表 G-6グリッド出土復元土器観察表 (第77~第88図)

番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類	番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類
1	V-1	[10.4]	(31.2)	(32.0)	-	IV 4-A2	31	III-2	[7.5]	(18.0)	(22.0)	-	VI 2-A6
2	IV	[8.9]	(22.0)	(22.0)	-	V 2-A4	32	V-1	[7.0]	-	(18.0)	-	V 2-B
3	IV	[10.9]	(18.0)	(18.0)	-	V 4-A4	33	III-2	[8.8]	(42.6)	(42.6)	(18.0)	VI 1-A3
4	IV	[5.3]	(13.0)	(18.3)	-	V 4-A4	34	III-2	[13.1]	25.2	(27.6)	-	VI 4-A3
5	V-1	[5.2]	(23.0)	(23.0)	-	V 4-B1	35	III-2	[13.4]	(31.8)	(31.8)	-	VI 2-A3
6	IV	[12.0]	(14.3)	(24.0)	-	V 4-A5	36	III-2	[14.1]	(23.8)	(23.8)	-	VI 1-A4
7	IV	[24.7]	(24.2)	(31.8)	-	V 4-A5	37	III-2	[12.0]	(31.0)	(31.0)	-	VI 2-A3
8	III-2	[12.3]	(23.3)	(23.3)	-	VI 2-A3	38	III-2	[20.0]	-	(33.0)	-	VI 2-A
9	III-2	[9.3]	(13.0)	(13.0)	-	VI 2-A3	39	III-2	[8.8]	-	(18.0)	-	VI 2-A
10	III-2	18.2	14.5	15.9	2.1	VI 1-A5	40	III-2	[3.8]	(14.8)	(14.8)	-	VI 1-A4
11	IV	[12.0]	(26.0)	(26.0)	-	VI 2-A4	41	III-2	[15.8]	(14.0)	(16.1)	(5.4)	VI 1-A4
12	III-2	[11.6]	(29.8)	(33.2)	-	VI 2-A4	42	IV	[14.0]	(36.4)	(36.8)	-	VI 2-A3
13	III-2	[11.1]	(36.0)	(36.0)	-	VI 5-B1	43	III-2	[12.7]	(25.6)	(25.6)	-	VI 2-A3
14	III-2	[7.2]	(8.8)	(11.3)	-	VI -A5	44	IV	35.8	(32.2)	(37.7)	7.7	VI 2-A3
15	III-2	[6.7]	(12.1)	(15.8)	-	VI -C	45	III-2	[18.8]	(23.2)	(25.4)	-	VI 2-A3
16	III-2	[10.8]	(12.1)	(16.0)	-	VI -C	46	III-2	[12.5]	(16.1)	(16.1)	-	VI 2-A4
17	-	[4.4]	(12.0)	(12.0)	丸底	VI 1~2-D1	47	III-2	[10.6]	(23.4)	(23.4)	-	VI 2-A3
18	III-2	[4.6]	(17.5)	(17.5)	-	VI 5-D1	48	III-2	[10.0]	(23.3)	(24.1)	-	VI 2-A4
19	III-2	6.8	(33.6)	(33.6)	(17.0)	VI 6~7-E	49	IV	[9.3]	(21.3)	(21.4)	-	VI 2-A3
20	III-2	[4.2]	(15.8)	(16.0)	-	VI 1-C1	50	III-2	[15.7]	(30.3)	(32.1)	-	VI 2-A4
21	III-2	[8.2]	(22.0)	(22.0)	-	VI -C1	51	III-2	(15.0)	(38.2)	(36.0)	-	VI 2-A4
22	III-2	17.3	(17.1)	(17.3)	(11.0)	VI 2-B2	52	III-2	[15.2]	(31.0)	(31.0)	-	VI 2-A4
23	III-2	[11.1]	-	(25.3)	-	VI 2-B	53	III-2	(11.0)	(31.8)	(32.0)	-	VI 1-A4
24	III-2	[7.4]	-	(17.0)	(17.0)	VI 2-B	54	III-2	[9.4]	(33.0)	(37.3)	-	VI 2-A4
25	III-2	[6.5]	-	(19.4)	-	VI 2-B	55	III-2	(12.2)	(33.0)	(32.0)	-	VI 1-A4
26	IV	[11.9]	-	14.5	14.5	VI 2-B	56	III-2	[9.3]	(34.0)	(39.2)	-	VI 2-A4
27	IV	[7.1]	-	(14.5)	-	VI 2-B	57	III-2	(12.6)	(29.8)	(29.8)	-	VI 2-A4
28	III-2	[5.9]	(26.5)	(37.0)	-	VI 2-F1	58	III-2	[5.0]	(22.8)	(23.0)	-	VI 1-A4
29	III-2	[15.6]	-	(30.0)	-	VI 2-F	59	III-2	[16.5]	(38.0)	(38.2)	-	VI 2-A4
30	III-2	[11.4]	21.6	(21.8)	-	VI 7-A2	60	VI	[12.2]	(24.3)	(24.3)	-	VI 2-A4

番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類	番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類
61	Ⅲ-2	[14.4]	(22.0)	(22.0)	-	Ⅱ-A4	100	Ⅲ-2	21.0	23.6	23.6	(7.1)	Ⅱ-A2
62	Ⅲ-2	[22.5]	-	(32.6)	-	Ⅱ-A	101	Ⅲ-2	[10.0]	(23.0)	(26.4)	-	Ⅱ-A5
63	Ⅲ-2	[4.7]	(22.8)	(23.8)	-	Ⅱ-A5	102	Ⅳ	[8.2]	(28.0)	(29.2)	-	Ⅱ-A4
64	Ⅲ-2	[13.2]	-	(33.0)	-	Ⅱ-A	103	Ⅲ-2	[6.0]	(12.0)	(13.2)	-	Ⅱ-A4
65	Ⅲ-2	[8.2]	(31.0)	(31.0)	-	Ⅱ-B	104	Ⅲ-2	[10.4]	(16.9)	(16.9)	-	Ⅱ-A4
66	Ⅲ-2	[13.0]	(34.0)	(34.0)	-	Ⅱ-B	105	Ⅲ-2	[17.7]	(23.5)	(23.8)	-	Ⅱ-A2
67	Ⅲ-2	[12.2]	(27.5)	(27.5)	-	Ⅱ-B	106	Ⅳ	[19.1]	(29.2)	(30.8)	-	Ⅱ-A2
68	Ⅲ-2	[5.7]	-	(10.8)	-	Ⅱ-B	107	Ⅲ-2	[6.8]	(23.2)	(25.8)	-	Ⅱ-A5
69	Ⅲ-2	[5.4]	-	(9.0)	(9.0)	Ⅱ-B	108	Ⅳ	[13.4]	(30.0)	(30.0)	-	Ⅱ-A2
70	Ⅲ-2	[13.2]	(35.2)	(35.2)	-	Ⅱ-B	109	Ⅲ-2	[8.4]	(20.0)	(21.0)	-	Ⅱ-A2
71	Ⅲ-2	[7.3]	-	(11.5)	-	Ⅱ-B	110	Ⅲ-2	[16.5]	(22.0)	(23.6)	-	Ⅱ-A5
72	Ⅲ-2	[8.3]	-	(12.0)	(12.0)	Ⅱ-B	111	Ⅳ	[8.6]	(14.0)	(14.0)	-	Ⅱ-A2
73	Ⅲ-2	[10.1]	-	(22.4)	(22.4)	Ⅱ-Ⅱ-B	112	Ⅲ-2	[4.4]	-	(12.0)	(8.0)	X 3
74	Ⅲ-2	9.8	(22.2)	(22.2)	丸底	Ⅱ-C1	113	Ⅲ-2	[5.1]	-	(11.8)	6.0	X 3
75	Ⅳ	[6.9]	(18.0)	(18.0)	(4.5)	Ⅱ-C1	114	Ⅳ	[13.5]	-	(20.0)	(6.2)	X 3
76	Ⅳ	[4.2]	(17.1)	(17.1)	(5.1)	Ⅱ-D2	115	Ⅲ-2	[8.4]	-	(15.0)	(10.0)	X 3
77	Ⅲ-2	[9.9]	-	(22.0)	-	Ⅱ-F	116	Ⅲ-2	[1.2]	-	(6.0)	5.8	X 3
78	Ⅲ-2	[5.0]	(11.4)	(13.6)	-	Ⅱ-F	117	V-1	[3.8]	-	(8.0)	(6.6)	X 3
79	Ⅲ-2	[6.4]	(9.8)	(14.6)	-	Ⅱ-F2	118	Ⅲ-2	[7.3]	-	(15.2)	(7.4)	X 3
80	Ⅲ-2	[7.2]	-	(14.0)	-	Ⅱ-F	119	Ⅳ	[9.1]	-	(17.4)	(5.0)	X 3
81	-	14.1	(7.5)	13.8	5.8	Ⅱ-F	120	-	[2.0]	-	(9.6)	(8.2)	X 3
82	Ⅲ-2	[7.4]	(26.8)	(28.0)	-	Ⅱ-C	121	Ⅲ-2	[2.7]	-	(7.0)	(6.0)	X 3
83	Ⅲ-2	[16.8]	(23.7)	(23.7)	-	Ⅱ-A1	122	Ⅲ-2	[5.1]	-	(12.8)	(10.0)	X 3
84	Ⅲ-2	[7.6]	(15.8)	(15.8)	-	Ⅱ-A1	123	Ⅲ-2	[5.8]	-	(15.3)	(8.4)	X 3
85	V-1	[4.5]	-	(14.5)	-	Ⅱ-A	124	Ⅲ-2	[3.5]	-	(10.2)	(7.4)	X 3
86	Ⅳ	[9.5]	(19.2)	(19.2)	-	Ⅱ-B2	125	Ⅲ-2	[4.6]	-	(8.8)	(4.2)	X 3
87	V-1	[10.7]	(32.2)	(32.4)	-	Ⅱ-C2	126	Ⅲ-2	[2.8]	-	(12.0)	(10.5)	X 3
88	Ⅲ-2	[5.2]	-	(9.8)	(6.4)	Ⅱ-F	127	Ⅲ-2	[2.5]	-	(11.0)	(7.6)	X 3
89	V-1	[12.1]	(28.0)	(28.0)	-	Ⅱ-C1	128	Ⅲ-2	[6.1]	-	(12.8)	(13.2)	X 3
90	Ⅲ-2	[12.5]	(29.4)	(30.2)	-	Ⅱ-A3	129	Ⅲ-2	[4.9]	-	(13.0)	(6.6)	X 3
91	Ⅲ-2	[7.3]	(23.2)	(23.2)	-	Ⅱ-C1	130	Ⅲ-2	[5.1]	-	(15.8)	(7.0)	X 3
92	Ⅲ-2	[9.8]	-	(18.2)	-	Ⅱ-A	131	Ⅲ-2	[4.4]	-	(12.6)	(8.1)	X 3
93	Ⅲ-2	[16.7]	(24.5)	(38.9)	-	Ⅱ-A5	132	Ⅲ-2	[3.9]	-	(11.8)	(8.0)	X 3
94	Ⅳ	[5.6]	(30.0)	(32.8)	-	Ⅱ-A5	133	Ⅲ-2	[4.2]	-	(11.6)	(8.5)	X 3
95	Ⅲ-2	[12.5]	(30.0)	(33.6)	-	Ⅱ-A5	134	Ⅲ-2	[6.7]	-	(17.8)	(10.3)	X 3
96	Ⅳ	[20.3]	(25.3)	(26.4)	-	Ⅱ-A2	135	Ⅲ-2	[5.7]	-	(14.6)	(7.6)	X 3
97	Ⅲ-2	[11.1]	(7.1)	(7.4)	-	Ⅱ-A2	136	Ⅲ-2	[5.2]	-	(15.2)	(9.3)	X 3
98	Ⅳ	[49.3]	(41.6)	(42.9)	-	Ⅱ-A2	137	-	[3.8]	-	(13.1)	(6.4)	X 3
99	Ⅲ-2	[14.3]	(20.4)	-	-	Ⅱ-A2							

第25表 G-6 グリッド出土破片土器観察表 (第89～第117図)

番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類
138	Ⅳ	Ⅰ 3-A2	167	Ⅳ	V 4-A4	196	Ⅳ	V 2-A3	225	Ⅳ	V-A7
139	Ⅳ	Ⅱ 1-A	168	Ⅲ-2	V 4-C2	197	Ⅳ	V 2-A3	226	Ⅳ	V-A7
140	Ⅳ	Ⅱ 4-A2	169	Ⅳ	V 3-C2	198	Ⅳ	V 2-A4	227	Ⅳ	V-A7
141	Ⅳ	Ⅱ 4-A2	170	Ⅳ	V 4-C2	199	Ⅳ	V 2-A4	228	Ⅳ	V-A7
142	Ⅲ-2	Ⅳ 3-A4	171	Ⅳ	V 4-C1	200	V-1	V 2-A4	229	Ⅳ	V-A7
143	Ⅳ	Ⅳ 3-A	172	Ⅳ	V 4-A3	201	Ⅳ	V 2-A4	230	V-1	V-A7
144	Ⅳ	Ⅳ 4-A2	173	Ⅲ-2	V 4-A3	202	Ⅲ-2	V 2-A4	231	Ⅲ-2	V-A7
145	Ⅳ	Ⅳ 4-A2	174	Ⅳ	V 4-A3	203	Ⅲ-2	V 4-A4	232	Ⅳ	V-A7
146	Ⅲ-2	V-A2	175	V-1	V 4-A3	204	Ⅲ-2	V 4-A4	233	Ⅳ	V-A7
147	Ⅲ-2	V-A2	176	Ⅳ	V 2-A3	205	Ⅳ	V 4-A3	234	Ⅲ-2	V-A7
148	-	V-A2	177	Ⅳ	V 2-A3	206	Ⅳ	V 4-A4	235	Ⅲ-2	V-A7
149	V-1	V-A2	178	Ⅲ-2	V 1-B1	207	Ⅳ	V 4-A4	236	Ⅲ-2	Ⅱ 1-A3
150	Ⅳ	V-A2	179	Ⅳ	V 2-C2	208	Ⅳ	V 4-A4	237	Ⅲ-2	Ⅱ 1-A3
151	Ⅲ-2	V-A2	180	Ⅳ	V 2-C1	209	Ⅲ-2	V 4-A4	238	V-1	Ⅱ 2-A3
152	Ⅲ-2	V-A2	181	Ⅳ	V 2-C1	210	Ⅳ	V 4-A4	239	Ⅳ	Ⅱ 2-A3
153	Ⅳ	V-A2	182	Ⅳ	V 2-C1	211	-	V 4-A4	240	Ⅲ-2	Ⅱ 2-A3
154	V-1	V-A2	183	Ⅳ	V 2-C1	212	Ⅳ	V-A2	241	Ⅲ-2	Ⅱ 2-A3
155	Ⅳ	V 2-A4	184	V-1	V 2-C1	213	Ⅳ	V-A7	242	V-1	Ⅱ 2-A3
156	Ⅲ-2	V 2-A4	185	Ⅳ	V 3-C2	214	Ⅳ	V-A7	243	Ⅲ-2	Ⅱ 2-C1
157	Ⅲ-2	V 2-A4	186	Ⅲ-2	V 3-C1	215	Ⅳ	V-A7	244	Ⅲ-2	Ⅱ 3-C1
158	Ⅳ	V 2-A4	187	Ⅳ	V 3-C1	216	Ⅳ	V-A7	245	Ⅲ-2	Ⅱ 3-A3
159	Ⅳ	V 2-A4	188	Ⅳ	V 3-D1	217	Ⅲ-2	V-A7	246	Ⅲ-2	Ⅱ 3-A3
160	Ⅳ	V 3-A3	189	Ⅳ	V 1-6	218	Ⅳ	V-A7	247	Ⅲ-2	Ⅱ 3-A3
161	V-1	V 3-A3	190	Ⅲ-2	V 1 ~ 2-A7	219	Ⅲ-2	V-A7	248	Ⅲ-2	Ⅱ 2-C1
162	Ⅳ	V 3-A3	191	Ⅳ	V 1 ~ 2-A7	220	Ⅳ	V-A7	249	Ⅲ-2	Ⅱ 3-A3
163	Ⅲ-2	V 3-A3	192	Ⅳ	V 1 ~ 2-A7	221	Ⅳ	V-A7	250	Ⅲ-2	Ⅱ 3-A3
164	V-1	V 4-A4	193	Ⅳ	V 1 ~ 2-A7	222	Ⅳ	V-A7	251	Ⅲ-2	Ⅱ 1-C1
165	V-1	V 4-A4	194	Ⅲ-2	V 1 ~ 2-A7	223	Ⅳ	V-A7	252	Ⅲ-2	Ⅱ 1-A4
166	V-1	V 4-A4	195	Ⅳ	V 1 ~ 2-A7	224	Ⅳ	V-A7	253	Ⅲ-2	Ⅱ 1-A4

番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類
254	IV	VI 1-A4	325	III-2	VII-F	396	III-2	VIII 1-A3	467	III-2	VIII 2-A3
255	III-2	VI 1-A4	326	III-2	VII-F	397	III-2	VIII 2-A3	468	III-2	VIII 2-A3
256	III-2	VI 1-A4	327	III-2	VII-F	398	III-2	VIII 2-A3	469	III-2	VIII 2-A3
257	-	VI 1-A4	328	III-2	VII-F	399	III-2	VIII 2-A3	470	III-2	VIII 2-A3
258	IV	VI 1-A4	329	III-2	VII 7-A5	400	III-2	VIII 1-A4	471	III-2	VIII 2-A3
259	IV	VI 1-A4	330	III-2	VII 7-A5	401	III-2	VIII 1-A4	472	III-2	VIII 2-A3
260	III-2	VI 1-A4	331	III-2	VII 7-A5	402	III-2	VIII 1-A4	473	III-2	VIII 2-A3
261	IV	VI 1-A4	332	III-2	VII 2-A4	403	IV	VIII 1-A4	474	III-2	VIII 2-A3
262	III-2	VI 1-A4	333	III-2	VII 2-A4	404	III-2	VIII 1-A4	475	III-2	VIII 2-A3
263	IV	VI 1-A5	334	III-2	VII 2-A4	405	III-2	VIII 1-A4	476	III-2	VIII 2-A3
264	IV	VI 1-A5	335	III-2	VII 7-F	406	III-2	VIII 1-A4	477	III-2	VIII 2-A3
265	III-2	VI 1-A5	336	III-2	VII 1-A5	407	III-2	VIII 1-A4	478	III-2	VIII 2-A3
266	IV	VI 1-A5	337	III-2	VI 2-A6	408	III-2	VIII 1-A4	479	IV	VIII 2-A3
267	III-2	VI 1-A5	338	III-2	VI 2-A6	409	III-2	VIII 4-A4	480	III-2	VIII 2-A3
268	-	VI 1-A5	339	IV	V-A2	410	-	VIII 1-A4	481	V-1	VIII 2-A3
269	IV	VI 1-A5	340	IV	V-A2	411	III-2	VIII 1-A4	482	III-2	VIII 2-A3
270	III-2	VI 1-A5	341	V-1	VII 1-A6	412	III-2	VIII 1-A4	483	III-2	VIII 2-A3
271	-	VI 1-A5	342	V-1	V-A7	413	IV	VIII 1-A4	484	III-2	VIII 2-A3
272	III-2	VII 1-A5	343	IV	VI 2 ~ VII 1-A7	414	IV	VIII 1-A4	485	III-2	VIII 2-A3
273	III-2	VII-A4	344	III-2	VI 2 ~ VII 1-A7	415	III-2	VIII 1-A4	486	III-2	VIII 2-A3
274	IV	VII-A4	345	V-1	VII 1-A7	416	III-2	VIII 4-A5	487	III-2	VIII 2-A3
275	III-2	VII-A4	346	III-2	VII 1-A7	417	III-2	VIII 1-A4	488	III-2	VIII 2-A3
276	III-2	VII-A4	347	III-2	VII 1-A7	418	III-2	VIII 1-A5	489	III-2	VIII 2-A3
277	III-2	VII-A4	348	IV	VII 1-A7	419	III-2	VIII 1-A5	490	III-2	VIII 2-A3
278	III-2	VII-A4	349	III-2	VI 2 ~ VII 1-A7	420	III-2	VIII 1-A5	491	III-2	VIII 2-A3
279	III-2	VII-A4	350	III-2	VI 2 ~ VII 1-A7	421	III-2	VIII 1-A5	492	III-2	VIII 2-A3
280	III-2	VII 1-A5	351	III-2	VI 2 ~ VII 1-A7	422	III-2	VIII 1-A4	493	III-2	VIII 2-A3
281	III-2	VII 1-A5	352	-	VI 2 ~ VII 1-A7	423	III-2	VIII 1-A5	494	III-2	VIII 2-A3
282	III-2	VII 1-A5	353	III-2	VI 2-A6	424	III-2	VIII 1-A5	495	III-2	VIII 2-A3
283	III-2	VII-A5	354	III-2	VI 2-A6	425	III-2	VIII 1-A4	496	III-2	VIII 2-A3
284	III-2	VII-A5	355	III-2	VI 2-A6	426	III-2	VIII 1-A5	497	III-2	VIII 2-A3
285	III-2	VII-A5	356	III-2	VI 2-A6	427	III-2	VIII 1-A4	498	III-2	VIII 2-A3
286	III-2	VII-A5	357	III-2	VI 2-A6	428	III-2	VIII 1-A4	499	III-2	VIII 2-A3
287	III-2	VII 2 ~ VIII 1-A4	358	III-2	VI 2-A6	429	IV	VIII 1-A4	500	III-2	VIII 2-A3
288	III-2	VII 2 ~ VIII 1-A4	359	V-1	VI 2-A6	430	III-2	VIII 1-A4	501	III-2	VIII 2-A3
289	III-2	VII 2 ~ VIII 1-A4	360	III-2	VI 2-A6	431	III-2	VIII 1-A4	502	III-2	VIII 2-A3
290	III-2	VII 2 ~ VIII 1-A4	361	III-2	VI 2-A6	432	III-2	VIII 1-A4	503	III-2	VIII 2-A3
291	III-2	VII 2 ~ VIII 1-A4	362	III-2	VI 2-A6	433	VI	VIII 1-A4	504	V-1	VIII 2-A3
292	III-2	VII 2 ~ VIII 1-A4	363	III-2	VI 2-A6	434	III-2	VIII 3-A5	505	III-2	VIII 2-A3
293	IV	VII 2 ~ VIII 1-A4	364	IV	VI 2-A6	435	III-2	VIII 3-A5	506	III-2	VIII 2-A3
294	III-2	VII 2 ~ VIII 1-A4	365	III-2	VI 2-A6	436	III-2	VIII 3-A5	507	III-2	VIII 2-A3
295	IV	VII 2 ~ VIII 1-A4	366	III-2	VI 2-A6	437	III-2	VIII 3-A5	508	III-2	VIII 2-A3
296	III-2	VII 2 ~ VIII 1-A4	367	III-2	VI 2-A6	438	III-2	VIII 3-A5	509	III-2	VIII 2-A3
297	III-2	VII 1 ~ 2-A2	368	III-2	VI 2-A6	439	III-2	VIII 3-A5	510	III-2	VIII 2-A3
298	III-2	VII 1 ~ 2-A2	369	III-2	VII 1-A6	440	III-2	VIII 3-A5	511	-	VIII 2-A3
299	III-2	VII 1 ~ 2-A2	370	IV	VII 1-A6	441	IV	VIII 3-A5	512	III-2	VIII 2-A3
300	III-2	VII 2 ~ VIII 1-A4	371	III-2	VII-A7	442	IV	VIII 3-A5	513	III-2	VIII 2-A3
301	-	VI 1-C2	372	III-2	VII-A7	443	-	VIII 3-A5	514	VI	VIII 2-A3
302	III-2	VII 2-C2	373	III-2	VII 1-A3	444	III-2	VIII 3-A5	515	III-2	VIII 2-A3
303	III-2	VII 1-C2	374	III-2	VII 1-A3	445	III-2	VIII 3-A5	516	III-2	VIII 2-A3
304	III-2	VII 2-C2	375	III-2	VII 4-A3	446	III-2	VIII 3-A5	517	III-2	VIII 2-A4
305	III-2	VII 2-C2	376	III-2	VII 2-A3	447	III-2	VIII 3-A5	518	III-2	VIII 2-A4
306	III-2	VII 2 ~ VIII 1-C1	377	IV	VII 2-A3	448	III-2	VIII 1-A5	519	III-2	VIII 2-A4
307	III-2	VII 2 ~ VIII 1-C1	378	III-2	VII 1-A3	449	III-2	VIII 1-A4	520	-	VIII 2-A4
308	IV	VII 2 ~ VIII 1-C1	379	IV	VII 1-A3	450	III-2	VIII 1-A4	521	III-2	VIII 2-A4
309	III-2	VII 2 ~ VIII 1-C1	380	III-2	VII 1-A3	451	III-2	VII 1 ~ 2-A4	522	III-2	VIII 2-A4
310	III-2	VII 2 ~ VIII 1-C1	381	III-2	VII 1-A3	452	III-2	VII 1 ~ 2-A4	523	III-2	VIII 2-A4
311	III-2	VII 2 ~ VIII 1-C1	382	III-2	VII 1-A3	453	III-2	VII 1 ~ 2-A4	524	III-2	VIII 2-A4
312	III-2	VII 2 ~ VIII 1-C1	383	III-2	VII 1-A3	454	III-2	VII 1-A4	525	III-2	VIII 2-A4
313	IV	VII 2 ~ VIII 1-C1	384	IV	VII 2-A3	455	III-2	VII 1 ~ 2-A4	526	III-2	VIII 2-A4
314	IV	VI-B1	385	III-2	VII 1-A3	456	III-2	VII 1 ~ 2-A4	527	IV	VIII 2-A4
315	IV	VI-B1	386	III-2	VII 4-A3	457	III-2	VII 1 ~ 2-A4	528	IV	VIII 2-A4
316	IV	VI-B1	387	III-2	VII 2-A3	458	III-2	VII 1 ~ 2-A4	529	III-2	VIII 2-A4
317	IV	VI-B1	388	III-2	VII 1-A3	459	III-2	VII 4-A4	530	IV	VIII 2-A4
318	III-2	VI-B1	389	III-2	VII 4-A3	460	III-2	VII 4-A4	531	IV	VIII 2-A4
319	III-2	VII 2-B	390	III-2	VII 2-A3	461	III-2	VII 1 ~ 2-A4	532	III-2	VIII 2-A4
320	III-2	VII 2-B	391	III-2	VII 2-A3	462	III-2	VII 1 ~ 2-A4	533	IV	VIII 2-A4
321	III-2	VII-B	392	III-2	VII 2-A3	463	III-2	VII 1 ~ 2-A4	534	III-2	VIII 2-A4
322	III-2	VII-B	393	III-2	VII 1-A3	464	III-2	VII 1 ~ 2-A4	535	III-2	VIII 2-A4
323	III-2	VII-F	394	III-2	VII 1-A3	465	III-2	VII 1 ~ 2-A4	536	III-2	VIII 2-A4
324	III-2	VII-F	395	III-2	VII 1-A3	466	III-2	VII 1 ~ 2-A4	537	III-2	VIII 2-A4

番号	層位	分類
538	III-2	VII-2-A4
539	III-2	VII-2-A4
540	III-2	VII-2-A4
541	III-2	VII-2-A4
542	III-2	VII-2-A4
543	III-2	VII-2-A4
544	III-2	VII-2-A4
545	III-2	VII-2-A4
546	III-2	VII-2-A4
547	III-2	VII-2-A4
548	III-2	VII-2-A4
549	III-2	VII-2-A4
550	III-2	VII-2-A4
551	III-2	VII-2-A4
552	III-2	VII-2-A4
553	III-2	VII-2-A4
554	III-2	VII-2-A4
555	III-2	VII-2-A4
556	III-2	VII-2-A4
557	III-2	VII-2-A4
558	III-2	VII-2-A4
559	III-2	VII-2-A4
560	III-2	VII-2-A4
561	IV	VII-2-A4
562	III-2	VII-2-A4
563	III-2	VII-2-A4
564	III-2	VII-2-A4
565	III-2	VII-2-A4
566	III-2	VII-2-A4
567	III-2	VII-2-A4
568	III-2	VII-2-A4
569	III-2	VII-2-A4
570	III-2	VII-2-A4
571	IV	VII-2-A
572	III-2	VII-2-A
573	III-2	VII-2-A
574	III-2	VII-2-A
575	III-2	VII-2-A
576	III-2	VII-2-A
577	IV	VII-2-A
578	III-2	VII-2-A
579	III-2	VII-2-A
580	III-2	VII-2-A
581	III-2	VII-2-A
582	III-2	VII-2-A
583	III-2	VII-2-A
584	III-2	VII-2-A
585	III-2	VII-2-A
586	III-2	VII-2-A
587	IV	VII-1-C2
588	III-2	VII-1-C2
589	III-2	VII-1-D2
590	III-2	VII-1-C2
591	III-2	VII-1-C2
592	III-2	VII-1-C2
593	III-2	VII-1-D2
594	IV	VII-1-C1
595	III-2	VII-1-C1
596	III-2	VII-2-C2
597	III-2	VII-2-C2
598	III-2	VII-2-C2
599	III-2	VII-2-C2
600	III-2	VII-2-C1
601	III-2	VII-2-C1
602	III-2	VII-2-C1
603	III-2	VII-2-C2
604	III-2	VII-2-C1
605	III-2	VII-2-C1
606	III-2	VII-2-C1
607	III-2	VII-2-C1
608	-	VII-2-C1

番号	層位	分類
609	III-2	VII-2-C1
610	III-2	VII-2-B
611	III-2	VII-1-B
612	IV	VII-1-B
613	III-2	VII-1-B
614	III-2	VII-2-B
615	III-2	VII-2-B
616	III-2	VII-7-B
617	III-2	VII-1-F1
618	III-2	VII-2-F1
619	III-2	VII-VII-D2
620	III-2	VII-VII-D2
621	III-2	VII-VII-D2
622	III-2	VII-VII-D2
623	III-2	VII-VII-C1
624	III-2	VII-VII-C1
625	IV	VII-VII-C1
626	IV	VII-VII-C1
627	III-2	VII-VII-C1
628	IV	VII-VII-C1
629	III-2	VII-VII-C1
630	III-2	VII-VII-D2
631	IV	VII-VII-B
632	IV	VII-2-F1
633	IV	VII-2-F1
634	IV	VII-7-D1
635	IV	VII-7-C2
636	III-2	VII-7-C2
637	III-2	VII-7-C2
638	III-2	VII-7-C2
639	III-2	VII-7-C2
640	-	VII-7-C2
641	III-2	VII-7-C2
642	III-2	VII-7-C2
643	-	VII-7-F1
644	III-2	VII-7-F1
645	III-2	VII-6-F1
646	III-2	VII-7-F1
647	III-2	VII-7-F1
648	III-2	VII-7-F1
649	III-2	VII-7-F1
650	III-2	VII-7-F1
651	III-2	VII-7-F1
652	III-2	VII-4-A4
653	III-2	VII-4-A4
654	-	VII-4-A4
655	III-2	VII-4-A4
656	III-2	VII-4-A4
657	III-2	VII-4-A4
658	III-2	VII-4-A4
659	III-2	VII-5-A3
660	III-2	VII-5-A3
661	III-2	VII-5-A3
662	III-2	VII-5-A3
663	III-2	VII-5-A3
664	III-2	VII-5-A3
665	III-2	VII-5-A3
666	III-2	VII-5-A3
667	III-2	VII-5-A3
668	III-2	VII-5-A3
669	III-2	VII-5-A3
670	V-1	VII-5-A3
671	III-2	VII-5-A3
672	III-2	VII-5-A3
673	III-2	VII-5-A3
674	III-2	VII-5-A3
675	III-2	VII-5-A3
676	III-2	VII-5-A3
677	III-2	VII-5-A4
678	III-2	VII-5-A4
679	III-2	VII-5-A4

番号	層位	分類
680	III-2	VII-5-A4
681	III-2	VII-5-D2
682	III-2	VII-5-D1
683	III-2	VII-5-D1
684	III-2	VII-5-B
685	III-2	VII-5-B
686	V-1	VII-A7
687	III-2	VII-A7
688	III-2	VII-A7
689	IV	VII-A7
690	III-2	VII-A7
691	III-2	VII-A5
692	III-2	VII-A5
693	III-2	VII-A5
694	III-2	VII-A5
695	III-2	VII-A5
696	III-2	VII-A5
697	III-2	VII-A5
698	-	VII-A5
699	III-2	VII-A5
700	III-2	VII-A5
701	III-2	VII-A5
702	III-2	VII-A5
703	III-2	VII-A5
704	III-2	VII-A5
705	III-2	VII-A5
706	III-2	VII-A5
707	III-2	VII-A5
708	III-2	VII-A5
709	III-2	VII-A5
710	III-2	VII-A5
711	III-2	VII-A5
712	III-2	VII-A5
713	III-2	VII-A5
714	III-2	VII-A5
715	III-2	VII-A5
716	III-2	VII-A5
717	III-2	VII-A5
718	IV	VII-A5
719	III-2	VII-A5
720	III-2	VII-A5
721	III-2	VII-A5
722	III-2	VII-A5
723	III-2	VII-A5
724	III-2	VII-A2
725	III-2	VII-A2
726	III-2	VII-A2
727	III-2	VII-A2
728	III-2	VII-A2
729	III-2	VII-A2
730	III-2	VII-A2
731	III-2	VII-A2
732	III-2	VII-A2
733	IV	VII-A2
734	III-2	VII-A2
735	III-2	VII-A2
736	III-2	VII-A2
737	III-2	VII-A2
738	III-2	VII-A2
739	III-2	VII-A2
740	III-2	VII-A2
741	III-2	VII-A2
742	IV	VII-A2
743	III-2	VII-A2
744	III-2	VII-A2
745	III-2	VII-A2
746	III-2	VII-A2
747	III-2	VII-A2
748	III-2	VII-A2
749	III-2	VII-A2
750	III-2	VII-A2

番号	層位	分類
751	III-2	VII-A2
752	III-2	VII-A2
753	III-2	VII-A2
754	IV	VII-A2
755	III-2	VII-A2
756	III-2	VII-A2
757	III-2	VII-A2
758	III-2	VII-A2
759	III-2	VII-A2
760	III-2	VII-A2
761	IV	VII-A2
762	III-2	VII-A2
763	III-2	VII-A4
764	III-2	VII-A4
765	III-2	VII-A4
766	III-2	VII-A4
767	III-2	VII-A4
768	III-2	VII-A4
769	III-2	VII-A4
770	III-2	VII-A4
771	III-2	VII-A4
772	III-2	VII-A4
773	III-2	VII-A4
774	III-2	VII-A4
775	III-2	VII-A4
776	III-2	VII-A4
777	III-2	VII-A4
778	III-2	VII-A4
779	III-2	VII-A4
780	III-2	VII-A4
781	III-2	VII-A4
782	VI	VII-A4
783	III-2	VII-A4
784	III-2	VII-A4
785	III-2	VII-A4
786	III-2	VII-A4
787	III-2	VII-A4
788	III-2	VII-A4
789	III-2	VII-A4
790	III-2	VII-A4
791	III-2	VII-A4
792	III-2	VII-A4
793	III-2	VII-A4
794	III-2	VII-A4
795	V-1	VII-A4
796	III-2	VII-A4
797	III-2	VII-A4
798	III-2	VII-A4
799	III-2	VII-A4
800	III-2	VII-A4
801	IV	VII-A4
802	III-2	VII-A4
803	III-2	VII-A4
804	III-2	VII-A4
805	III-2	VII-A4
806	III-2	VII-A4
807	IV	VII-A4
808	III-2	VII-A4
809	III-2	VII-A4
810	III-2	VII-A4
811	III-2	VII-A4
812	IV	VII-A4
813	III-2	VII-A4
814	-	VII-A4
815	III-2	VII-A4
816	III-2	VII-A4
817	III-2	VII-A4
818	III-2	VII-A4
819	III-2	VII-A4
820	III-2	VII-A4
821	III-2	VII-A4

822	Ⅲ-2	Ⅴ-A4	844	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	866	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	888	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
823	Ⅲ-2	Ⅴ-A4	845	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	867	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	889	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
824	Ⅲ-2	Ⅴ-A4	846	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	868	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	890	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
825	Ⅲ-2	Ⅴ-A4	847	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	869	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	891	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
826	Ⅲ-2	Ⅴ-A4	848	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	870	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	892	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
827	Ⅲ-2	Ⅴ-A4	849	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	871	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	893	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
828	Ⅲ-2	Ⅴ-A4	850	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	872	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	894	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
829	Ⅲ-2	Ⅴ-A4	851	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	873	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	895	Ⅳ	Ⅴ-A5
830	Ⅲ-2	Ⅴ-A4	852	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	874	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	896	Ⅳ	Ⅴ-A5
831	Ⅲ-2	Ⅴ-A4	853	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	875	Ⅵ	Ⅴ-A5	897	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
832	Ⅲ-2	Ⅴ-A4	854	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	876	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	898	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
833	Ⅲ-2	Ⅴ-A4	855	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	877	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	899	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
834	Ⅲ-2	Ⅴ-A4	856	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	878	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	900	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
835	Ⅳ	Ⅴ-A4	857	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	879	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	901	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
836	Ⅲ-2	Ⅴ-A4	858	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	880	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	902	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
837	Ⅲ-2	Ⅴ-A4	859	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	881	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	903	Ⅳ	Ⅴ-A5
838	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	860	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	882	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	904	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
839	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	861	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	883	Ⅳ	Ⅴ-A5	905	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
840	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	862	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	884	V-1	Ⅴ-A5	906	Ⅳ	Ⅴ-A5
841	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	863	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	885	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	907	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
842	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	864	Ⅳ	Ⅴ-A5	886	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	908	Ⅲ-2	Ⅴ-A5
843	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	865	Ⅲ-2	Ⅴ-A5	887	Ⅲ-2	Ⅴ-A5			

第26表 G-6グリッド出土土製品観察表(第117~第119図)

番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ	番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ
909	Ⅲ-2	ミニチュア	[3.0]	(9.6)	-	940	Ⅲ-2	土偶	[4.3]	[4.0]	[3.3]
910	Ⅲ-2	ミニチュア	[3.5]	(11.8)	-	941	Ⅲ-2	土偶	[3.0]	[2.9]	[2.7]
911	Ⅲ-2	ミニチュア	[1.8]	-	-	942	Ⅲ-2	動物形土製品	[10.0]	[5.1]	[3.9]
912	Ⅲ-2	ミニチュア	[3.8]	(6.6)	-	943	Ⅲ-2	土版	[8.5]	[5.8]	2.3
913	Ⅲ-2	ミニチュア	[2.9]	(6.0)	-	944	Ⅲ-2	土版	[7.1]	[4.2]	1.6
914	Ⅲ-2	ミニチュア	4.9	(4.8)	-	945	Ⅲ-2	土版	[6.6]	[8.2]	[2.5]
915	V-1	ミニチュア	[1.3]	(3.7)	-	946	Ⅲ-2	土版	[5.1]	[5.9]	3.0
916	Ⅲ-2	鈎手土器	[3.4]	[3.4]	[1.5]	947	Ⅲ-2	土版	[6.1]	[3.9]	1.7
938	Ⅳ	土偶	[5.0]	3.6	[1.5]	948	Ⅳ	土版	[3.9]	[6.5]	1.6
939	Ⅳ	土偶	[5.9]	[4.8]	[3.8]						

第27表 G-6グリッド出土土製皿観察表(第117図)

番号	層位	最大径	重量	分類	番号	層位	最大径	重量	分類	番号	層位	最大径	重量	分類
917	Ⅲ-2	6.1	26.3	Ⅱ-A-イ	923	Ⅲ-2	4.7	17.1	I-B-ウ	929	Ⅳ	3.9	17.8	I-B-ウ
918	Ⅲ-2	6.3	44.4	Ⅱ-A-イ	924	Ⅳ	4.5	15.1	I-B-イ	930	-	4.6	39.8	I-B-ウ
919	Ⅲ-2	5.4	24.8	Ⅱ-A-イ	925	Ⅳ	4.8	24.0	I-B-ウ	931	Ⅲ-2	5.0	46.6	I-B-ウ
920	Ⅳ	7.6	48.0	Ⅱ-A-イ	926	Ⅳ	3.9	12.7	I-B-ウ	932	Ⅲ-2	4.2	29.4	I-B-ウ
921	Ⅲ-2	3.8	17.1	Ⅱ-A-イ	927	Ⅲ-2	3.5	18.5	I-B-ウ	933	Ⅲ-2	5.0	22.6	I-B-ウ
922	Ⅲ~Ⅳ	4.1	17.1	Ⅱ-A-イ	928	Ⅳ	3.5	15.7	I-B-ウ					

第28表 G-6グリッド出土土耳飾り観察表(第118図)

番号	層位	径1	径2	高さ	重量	分類	番号	層位	径1	径2	高さ	重量	分類
934	Ⅲ-2	2.7	2.0	1.6	7.0	Ⅳ-B	936	-	2.3	1.8	[2.1]	8.4	Ⅲ-A-ア
935	Ⅳ	3.4	2.3	1.6	6.0	Ⅳ-B	937	Ⅲ-2	(5.2)	3.6	1.5	23.0	Ⅲ-C-ア

第29表 G-6グリッド出土石器観察表(第120~第132図)

番号	層位	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重量
949	-	石鏃	I	チャート	2.1	1.8	0.5	1.5
950	-	石鏃	II	チャート	2.0	1.6	0.4	0.9
951	Ⅲ-2	石鏃	-	チャート	[2.3]	[1.8]	0.6	2.0
952	Ⅲ-2	石鏃	II	チャート	2.2	1.2	0.6	1.4
953	Ⅲ-2	スクレイパー	I	頁岩	4.8	4.6	1.3	24.8
954	Ⅲ-2	スクレイパー	I	チャート	4.5	2.9	1.2	14.9
955	Ⅳ	スクレイパー	I	チャート	5.8	[3.2]	[1.1]	26.6
956	Ⅲ-2	スクレイパー	II	頁岩	[5.0]	4.5	1.1	39.0
957	Ⅲ-2	スクレイパー	I	チャート	3.8	4.0	1.6	24.5
958	Ⅲ-2	二次加工剥片	-	黒色安山岩	3.2	3.9	1.1	12.2
959	Ⅲ-2	二次加工剥片	-	黒色頁岩	[3.1]	4.1	0.9	11.4
960	Ⅲ-2	二次加工剥片	-	チャート	[2.8]	2.3	1.3	6.9
961	Ⅲ-2	二次加工剥片	-	黒色頁岩	[5.4]	[5.5]	1.5	29.3
962	Ⅲ-2	石核	-	チャート	4.3	3.8	2.0	27.2
963	Ⅲ-2	石核	-	チャート	3.5	3.4	1.9	20.1
964	Ⅲ-2	石核	-	チャート	3.8	5.0	3.6	81.3
965	Ⅲ-2	原石	-	黒曜石	5.3	3.7	3.9	57.2
966	Ⅳ	打製石斧	I	安山岩	11.3	6.9	2.7	243.7

番号	層位	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重量
967	Ⅲ-2	打製石斧	I	頁岩	9.6	6.4	2.5	188.1
968	Ⅲ-2	打製石斧	I	ホルンフェルス	8.5	[4.5]	2.0	83.5
969	Ⅲ-2	打製石斧	I	チャート	[5.4]	[5.2]	1.4	48.3
970	Ⅲ-2	打製石斧	Ⅲ	頁岩	[9.1]	[6.7]	3.7	247.3
971	Ⅲ-2	打製石斧	-	頁岩	[6.7]	[5.6]	[2.1]	68.3
972	Ⅲ-2	打製石斧	-	緑色岩	20.7	10.8	4.6	1483.8
973	Ⅳ	打製石斧	-	頁岩	[5.6]	5.1	[3.0]	118.5
974	Ⅲ-2	礮器	I	頁岩	7.1	6.0	2.4	144.0
975	Ⅲ-2	礮器	Ⅲ	ホルンフェルス	6.0	7.0	1.9	96.1
976	Ⅲ-2	礮器	Ⅲ	頁岩	7.3	4.6	1.1	40.4
977	Ⅳ	磨製石斧	I	緑色岩	8.8	3.6	2.1	105.2
978	Ⅲ-2	磨製石斧	I	砂岩	[6.0]	[4.1]	2.5	79.5
979	Ⅲ-2	磨製石斧	I	片岩	[13.4]	[7.9]	3.1	492.6
980	-	磨製石斧	-	緑色岩	20.3	8.8	4.2	897.0
981	Ⅳ	スタンプ形石器	-	安山岩	9.4	6.1	4.0	401.3
982	Ⅳ	スタンプ形石器	-	安山岩	6.1	4.4	3.4	146.9
983	Ⅳ	礮石	I	砂岩	10.6	2.7	2.0	76.0
984	Ⅳ	礮石	I	緑泥片岩	9.9	3.1	1.8	93.3
985	Ⅳ	礮石	I	安山岩	9.0	5.0	4.1	253.6
986	Ⅲ-2	礮石	I	安山岩	10.0	4.9	4.4	244.9
987	-	礮石	I	砂岩	16.0	5.9	3.8	432.6
988	Ⅳ	礮石	I	砂岩	[7.4]	5.3	3.1	180.6
989	Ⅲ-2	礮石	Ⅱ	頁岩	6.1	3.0	2.8	62.1
990	Ⅲ-2	礮石	Ⅱ	砂岩	11.1	[5.3]	2.7	188.6
991	Ⅲ-2	回石	I	安山岩	6.0	5.7	4.4	164.1
992	Ⅲ-2	回石	I	安山岩	6.3	5.7	4.4	213.1
993	Ⅳ	回石	I	安山岩	6.1	5.7	4.1	192.2
994	Ⅲ-2	回石	I	安山岩	5.6	5.2	4.7	187.0
995	Ⅲ-2	回石	Ⅱ	安山岩	6.7	6.8	4.6	295.8
996	Ⅲ-2	回石	Ⅱ	安山岩	8.4	6.3	4.5	153.8
997	Ⅲ-2	回石	I	安山岩	[7.9]	[7.8]	[3.1]	184.0
998	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	7.4	8.5	4.5	424.2
999	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	8.0	8.3	4.9	489.9
1000	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	7.1	6.7	4.6	262.3
1001	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	6.3	6.7	4.0	214.7
1002	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	7.1	7.7	3.3	290.4
1003	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	9.7	8.7	5.7	789.4
1004	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	11.5	8.8	5.0	828.7
1005	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	6.5	6.8	5.5	316.1
1006	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	6.6	6.2	4.4	239.3
1007	-	磨石	I	安山岩	7.9	5.9	4.9	272.0
1008	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	7.7	7.5	4.3	354.2
1009	Ⅳ	磨石	I	安山岩	5.9	6.5	3.9	215.7
1010	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	10.0	7.5	3.8	416.7
1011	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	5.8	5.6	3.8	192.1
1012	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	5.4	5.6	4.9	238.0
1013	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	4.8	4.7	4.1	125.6
1014	Ⅳ	磨石	I	安山岩	6.3	6.0	4.8	227.0
1015	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	7.9	7.6	3.9	301.5
1016	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	6.1	5.3	4.5	214.3
1017	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	7.2	6.5	4.2	283.7
1018	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	10.2	9.8	5.4	845.4
1019	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	10.4	9.0	5.4	694.6
1020	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	5.5	6.7	3.9	201.5
1021	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	6.3	5.0	4.0	175.4
1022	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	5.3	4.8	3.3	110.5
1023	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	6.2	6.2	3.3	184.9
1024	Ⅳ	磨石	Ⅱ	安山岩	5.7	6.0	4.0	210.4
1025	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	5.8	7.4	3.4	230.6
1026	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	6.2	5.4	4.0	197.5
1027	Ⅳ	磨石	Ⅱ	安山岩	6.4	6.2	4.8	254.6
1028	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	6.4	6.4	5.2	287.8
1029	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	5.1	4.9	4.1	138.6
1030	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	6.6	5.3	3.7	166.4
1031	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	7.0	5.7	4.6	260.3
1032	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	5.5	4.2	3.7	117.4
1033	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	7.7	5.5	4.2	228.5
1034	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	6.4	6.3	4.6	241.7
1035	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	6.6	6.7	4.0	139.2
1036	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	6.4	5.3	3.6	109.2
1037	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	12.4	8.1	5.1	870.0
1038	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	11.5	9.1	5.0	736.3
1039	Ⅳ	磨石	Ⅱ	閃緑岩	17.6	11.0	7.7	2221.5
1040	Ⅳ	磨石	Ⅱ	安山岩	6.2	6.1	4.3	237.3

番号	層位	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重量
1041	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	閃緑岩	6.6	7.0	4.7	315.1
1042	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	7.8	7.6	4.5	380.9
1043	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	6.8	6.5	3.9	218.6
1044	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	9.4	7.6	4.9	446.5
1045	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	6.5	6.9	4.2	253.5
1046	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	[5.9]	6.4	[3.4]	172.1
1047	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	6.8	6.8	[3.4]	147.3
1048	-	磨石	Ⅱ	安山岩	5.2	5.2	5.1	170.5
1049	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	5.6	5.0	3.4	115.0
1050	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	5.5	4.8	3.5	118.0
1051	Ⅳ	磨石	Ⅱ	安山岩	7.8	6.4	4.9	304.9
1052	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	閃緑岩	8.0	7.4	6.4	552.4
1053	Ⅳ	磨石	Ⅱ	閃緑岩	10.0	5.9	5.3	462.2
1054	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	10.0	6.1	6.3	542.0
1055	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	5.6	3.1	2.8	68.0
1056	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	[4.7]	[4.8]	[2.6]	50.9
1057	Ⅳ	磨石	Ⅱ	安山岩	7.7	4.7	4.8	253.2
1058	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	7.3	6.1	5.0	149.7
1059	Ⅳ	磨石	Ⅱ	安山岩	[5.9]	5.0	3.1	123.2
1060	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	砂岩	[7.2]	7.7	2.5	176.1
1061	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	[6.0]	[4.9]	[5.6]	191.0
1062	Ⅳ	磨石	Ⅱ	安山岩	[7.5]	[4.4]	[3.0]	96.6
1063	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	[4.8]	[5.4]	[3.0]	51.8
1064	Ⅲ-2	石皿	Ⅱ	安山岩	[17.3]	[10.1]	5.5	1096.7
1065	Ⅳ	石皿	Ⅱ	安山岩	[13.3]	[10.5]	5.3	548.1
1066	Ⅲ-2	石皿	Ⅱ	安山岩	[17.2]	[7.5]	6.4	887.8
1067	Ⅲ-2	石皿	Ⅱ	安山岩	[8.9]	[9.8]	6.4	409.9
1068	Ⅳ	石皿	Ⅱ	安山岩	[16.2]	[11.6]	5.0	1034.1
1069	Ⅳ	砥石	I	砂岩	4.2	4.3	2.7	45.8
1070	Ⅳ	砥石	I	安山岩	11.6	6.2	3.7	171.1
1071	Ⅲ-2	砥石	I	砂岩	[11.7]	7.1	4.9	390.1
1072	Ⅳ	砥石	I	砂岩	[7.1]	3.8	1.1	28.7
1073	Ⅵ	砥石	Ⅲ	砂岩	[4.9]	3.0	0.8	14.0
1074	Ⅴ-1	砥石	Ⅲ	砂岩	7.5	4.3	1.5	57.3
1075	Ⅲ-2	砥石	Ⅲ	安山岩	7.9	6.0	1.9	76.6
1076	Ⅳ	砥石	Ⅲ	砂岩	[6.2]	[6.9]	1.0	41.9
1077	Ⅳ	砥石	Ⅲ	安山岩	[8.3]	6.5	1.6	91.2
1078	Ⅲ-2	砥石	Ⅲ	砂岩	8.9	8.2	2.1	170.6
1079	Ⅵ	砥石	Ⅲ	砂岩	8.7	7.6	2.0	168.5
1080	Ⅲ-2	砥石	Ⅲ	砂岩	9.7	6.3	1.3	120.5
1081	Ⅲ-2	砥石	Ⅲ	砂岩	[9.0]	[9.2]	2.1	123.5
1082	Ⅳ	石鏝	I	安山岩	4.8	4.1	1.6	38.7
1083	Ⅳ	石鏝	I	頁岩	5.6	4.9	1.5	50.9
1084	Ⅲ-2	石鏝	I	頁岩	5.7	4.4	1.2	34.6
1085	Ⅲ-2	石鏝	I	安山岩	6.1	4.2	1.7	63.3
1086	Ⅳ	石鏝	I	頁岩	[6.4]	3.4	1.1	25.8
1087	Ⅲ-2	石鏝	I	頁岩	8.8	5.3	1.8	86.3
1088	Ⅲ-2	軽石類	Ⅲ	軽石	6.7	4.6	4.3	53.9
1089	Ⅲ-2	石棒類	I	片岩	[8.7]	6.8	5.8	450.7
1090	Ⅲ-2	石棒類	-	緑泥片岩	[9.2]	3.7	1.9	107.3
1091	-	石冠	-	安山岩	[5.0]	13.2	[5.3]	298.7
1092	Ⅲ-2	岩版	-	凝灰岩	[7.3]	[6.2]	[2.2]	62.7
1093	-	垂飾	-	砂岩	2.8	5.5	1.0	18.7
1094	-	垂飾	-	滑石	1.2	1.2	0.7	1.7
1095	Ⅲ-2	垂飾	-	ヒスイ	[1.1]	[0.8]	[0.6]	0.6

第30表 G-6グリッド出土骨製品観察表(第133図)

番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
1096	Ⅲ~Ⅳ	鏝	4.1	0.7	0.6	1.9

番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量

れている。時期不明な遺構も多いが、時期の判明している遺構では晩期所産のものが多い。住居跡と土壌は後期全般に互っているが、掘立柱建物跡は全て晩期中葉以前のものである。

これらの遺構と、土器の出土状況の関係をみると、Ⅲ層では安行3c式、3d式が大勢を占めていることは変わりないが、①~⑤小グリッドで

安行3d式が主体を占め、⑩~⑫小グリッドで安行3c式が優勢であった。掘立柱建物跡群の東側を中心として安行3d式、南側を中心として安行3c式が主体となって分布していたことになる。

また、これらの土器群の出土が多い⑭~⑯小グリッドは、遺物集中18と重なり、南側のH-6グリッドと住居跡等が重複する場所でもあり、

注目される地点である。

IV層では加曾利B式から後期安行式土器が主体となって分布するが、②小グリッドでは曾谷式土器を中心とした土器群が纏まって出土している。集中的な廃棄場所であったのか、遺構が存在していたかのいずれかであろう。

縄文土器 (第77図1～第117図908)

第89図138は第I群第3類の条痕文土器である。139は第II群第1類繊維土器の花積下層式土器で、0段多条と思われる縄文R Lが施文され、内面には条痕整形が施される。140、141は第4類の諸磯a式土器である。141は多段の平行沈線帯間に波状文が施文される。

142、143は第IV群第3類の堀之内1式土器で、1、144、145は第4類の堀之内2式土器である。

146～153は第V群の条線文が施文される粗製の深鉢形土器で、154は縄文が施文される。

155～159は第V群第2類の加曾利B 2式の胴部が括れる深鉢形土器で、169は口縁部が内折する深鉢、160～163、176は加曾利B 2式からB 3式の5単位波状口縁土器、2、177、196、197は斜線文土器の遠部第2類土器、198～202は遠部第4類の斜格子目文土器である。213～235は口縁部に押王隆帯文を巡らせ、地文縄文上に条線状の集合沈線文を施文する遠部第1類土器である。

190～195は口縁部に押王隆帯を1～2本巡らせ、地文縄文上に平行沈線を施文する、加曾利B 2式を中心とした土器である。

178～188は鉢や浅鉢類で、178は加曾利B 1式、179は加曾利B 2式の鉢である。180は耳状突起、181は板状の突起が付く大型の鉢で、182～187は鉢、188は浅鉢である。加曾利B 2式からB 3式の鉢類である。184は深鉢の可能性もある。189は加曾利B 1式の注口土器の把手である。

164～166は口縁部に3本沈線を巡らせ、沈線帯に耳状貼付文を垂下する第V群第4類の曾谷式土器である。167は口縁部に沈線帯を設けて、縄

文帯が施文される。3は括れる胴部を無文帯で区画し、口縁部の縄文L R上に沈線帯が巡らされる。4は胴部が大きく括れる器形と思われ、口縁部に縦瘤が施文され、沈線の連弧状文が施文される。

172～175は高井東式土器で、172～174は大波状口縁に板状の山形把手が付けられる。175は筒形状の把手が付けられる。

6、7は曾谷式の瓢形土器で、6は縄文R L上に横位の連続弧線文が描かれ、7は縄文帯と上下連続対弧文帯内と底部に縄文が施される。

205は口縁部が大きく開く曾谷式の波状口縁土器で、浅い横羽状沈線が施文される。203、204、206～211は口縁部が短く内折する口縁部が外反し、203、204は横羽状沈線文、204は口縁部に縄文L Rが施文され、他は無文の深鉢形土器である。212は縄文のみ施文される深鉢である。

5は波状口縁部が大きく開く浅鉢で、口縁部に2本沈線と、胴部に縄文R Lが施される。

8、9、236、250は安行式の縄文が施文される波状口縁土器である。236、237は第VI群第1類の安行1式土器で、8は第2類の安行2式土器である。9、238～242は豚鼻状の小瘤が付く、第VII群第2類の安行3b式土器である。244～247、249、250は姥山II式である。

252～262は口縁部が開き胴部で括れる平口縁深鉢形土器で、縦瘤を有する土器群である。252～254、256、258は口縁部に小さな縦瘤を有する第VI群第1類の安行1式である。瘤のない255～262も安行1式であろう。地文縄文は全てR Lである。258は曾谷式になる可能性もある。

263～271は口縁部が内湾する平口縁深鉢形土器の瓢形土器である。曾谷式段階のものも含まれている可能性がある。地文縄文は全てR Lである。

273～279は口縁部が外反する深鉢形土器で、口縁部に縄文を施すものである。第VII群土器と思われ、縄文は全てL Rが施文されている。

10、280～282は口縁部が内湾し、瘤状貼付文

を有する土器群である。10は口縁部が内湾する砲弾形の深鉢で、底部まで存在する。口縁部に2段の楕円文帯を有し、豚鼻状貼付文が付けられている。晩期前葉であろうか。

280、281は横刻みの縦瘤を、282は舌状の2段瘤を施文する第VII群土器で、安行3a式から3b式と思われる。283～286も口縁部が内湾する深鉢で、同時期のものであろう。14は口縁部が内湾する小型の深鉢で、縄文LRのみ施文される。

11、12、289～296、300は胴部で括れて口縁部が外反する深鉢形土器で、磨消縄文のモチーフや三叉文等が施文されるものである。突起の付くものが多く、288、291、292は三叉文を、287、290、294、300は入組三叉文が施文される。

11、12は頸部が括れる深鉢で、11は磨消縄文のモチーフ、12は上下の対弧線文で区画された菱形区画文内に入組渦巻文が施文される。第VII群第2類の安行3b式を中心とした土器群である。297～299は口縁部が緩く開く深鉢で、口縁部に渦巻文や楕円文、299は縄文LR上に入組渦巻文が施文される。第VIII群第1類から第2類にかけての土器群であろう。

13、15～17、301～313は鉢、浅鉢類である。15は口縁部が内湾し、胴部で屈曲する鉢で、口縁部と胴部に刻目帯が巡る。16は口縁部と頸部に縄文帯が巡る鉢で、体部が大きく内湾する器形を呈する。第VI群第1類の安行1式あたりであろうか。301～305は口縁部が内湾気味に開く鉢で、301は口縁部に縄文RLが施文される第VI群第1類安行1式の浅鉢であろう。302は第VII群第2類の安行3b式、303は第VIII群第1類の安行3c式、304、305は前浦式の影響を受けた安行3d式に比定されよう。

306～313は口縁部が外反する鉢形土器で、306、308、309は口縁部に縄文が施文され、311、312は地文縄文上に刺突文が施される。安行3b式から3c式にかけての土器群である。17は口縁部

と底部に縄文が、胴部に入組三叉文が施文される安行3c式から3d式と思われる。

22～27、32、314～322は台付鉢である。32は加曾利B2式の台付鉢脚部である。314～318は第VI群の台付鉢で、大半が安行1式であると思われる。319～322は第VII群の台付鉢で、安行3b式あたりであろうか。22は筒形の脚部が、24、25は開く脚部が、26、27は中膨れする脚部が付き、22、25～27は三角透かしが彫られている。23は大きく開く鉢が付く。いずれも安行3b式であろう。

28、29、323～328は壺形土器である。28は無頸壺で、胴部の菱形区画内に入組三叉文が施文される第VIII群第2類の安行3d式である。29は凹線状の太い沈線が2本巡る壺の胴部で、安行3d式であろう。323は無頸壺で低平な瘤を帯縄文でつなぐモチーフを有し、324は胴部に対向の三叉文が描かれる。第VIII群第1類であろうか。325～328は口縁部が外反する壺で、325、326は頸部に平行沈線が施文される。327は頸部に2個対の小瘤が、328は口唇部に貼付文が付く。いずれも第VIII群の壺と思われる。

30、329～331は細密沈線文が施文される一群である。30、329～331は口縁部が内湾気味に開く深鉢で、弧状の区画文内に細密沈線が施文される第VII群第7類の細密沈線文土器である。安行3b式に比定されよう。332～334は安行3d式土器にやや粗い細密沈線文が施文されている。335は第VIII群第7類の大洞C2式に類似するモチーフ内に細密沈線文が施文される壺の胴部と思われる。336は深鉢の内湾する口縁部に斜位の細密沈線文が施文される。安行3c式であろうか。

337、338、341、369、370は口縁部に連続刻みを施す条線文土器で、337、338は安行2式、341、369、370は安行3a式であろうか。31、353～368は口縁部が内湾し、横位弧状の条線文が施文される条線文土器で、後期後葉から晩期前葉にか

けてのものであろう。

342～352は地文条線上に沈線文を施文する紐線文土器で、342は第Ⅴ群土器であらう。345～347は沈線文間が磨消もしくは無文となっている安行3a式で、沈線間に縄文を施文する348も安行3a式であらう。他は安行2式から3a式にかけてのものであろう。371、372は紐線文系の土器で、垂下沈線や蛇行沈線が施文される第Ⅷ群土器であらう。

33、35、37、373～397は波状口縁土器で、376、377、384は第Ⅶ群第2類であらう。373、374、378～383、385、388、394～396は刺突文のあるものと無いものがあるが、第Ⅷ群第1類の安行3c式と思われる。33はモチーフが単位文化しており、安行3c式である。

また、沈線間に刺突文が施される35、37、387、390～392、397、398は、流れるような波状区画文や菱形区画文内に人組三叉文、渦巻文などを施文するものが多く、第2類の安行3d式に比定されよう。

36、40、41、400～408、410～415、417～426は沈線区画内に刺突文が施される第Ⅷ群第1類の安行3c式の平口縁土器である。36は三角区画文がまだ単位文化しており、安行3c式段階であらう。口縁部が開く器形が多いが、内湾するものや、40、41、422、425のように頸部で括れるものがある。

39、451～453、455～458、461～466は刺突文を施す土器の胴部破片である。単純モチーフのものは安行3c式、入り組んでいるものは安行3d式であらう。

50～61、63、427～433、448～450は沈線文のみの平口縁深鉢形土器で、安行3c式から安行3d式である。平口縁の場合、文様帯幅が狭く単段のモチーフを描くものが多い傾向にある。53は入組渦巻文、55は上下弧状連結の菱形文、58は楕円文連結の「X」字状文、60は口縁部と胴部

に横位7本の並行沈線が施文されている。安行3c式であらう。50～52、54、56、57、59は沈線の波状区画内に入組文が施文される安行3d式である。

42～49、467～516は緩やかな波状口縁を呈し、沈線文のみでモチーフを描く第Ⅷ群第2類の安行3d式深鉢形土器である。胴部の括れ付近で文様帯が区画され、比較的幅狭な文様帯では単段のモチーフが、幅広の文様帯には人組三叉文や入組渦巻文などの重層的なモチーフが描かれている場合が多い。

62、64、517～586は胴部破片で、51、57、59、583、586のように大型土器では複段に重層するモチーフが描かれる場合がある。

65～76、587～616、619～631は鉢、浅鉢、台付鉢類である。587、588、590～592は口縁部が内湾して開き、2本沈線を巡らす第Ⅷ群第1類の安行3c式の浅鉢であらう。589、593は同様な浅鉢である。594、595は口縁部が開く有文の鉢である。

596～599、603は内湾する口縁部が開く鉢、600～602、604～609は口縁部が外反して胴部で括れる鉢で、いずれも安行3d式である。

74、75、623～629は口縁部の外反する第ⅦからⅧ群の無文の鉢、76、619～622、630は口縁部が内湾して開く浅鉢である。

65～67、69、611～613は第Ⅷ群第1類安行3c式の台付鉢、68、70～72、614、615は安行3d式、610は細密沈線文が施される第Ⅶ群第2類であらう。73、631は第Ⅶ群から第Ⅷ群台付鉢の無文の脚部である。

77、78、80、617、618は有文の、81、632、633は無文の壺形土器である。77、78、80は刺突文が施されており、617、618は沈線のモチーフが描かれる。77と80の細かな刺突文は天神原式の影響であらう。81は口縁部が外折し、胴部と頸部の間に明瞭な肩部が作り出されている。第Ⅷ

群の東北系とも西日本系ともとれる器形の壺である。632、633は頸部に突帯が巡るもので、東海系の壺と思われる。

434、436～438、441、442、446、447は、口縁が内湾する深鉢で、口縁部に単段か複段の楕円区画文が描かれる第Ⅷ群第3類の姥山Ⅲ式系土器である。435、443は楕円区画文と安行系のモチーフが複合している可能性がある。

439は凹線状の沈線に挟まれた1本の低平な隆起線が口縁部に描かれる深鉢で、大洞C2式以降の土器群である可能性がある。同様に、444、445は大洞C2式系の工字文系モチーフと融合して変形した可能性が高い。

446、447の口唇上の突起間で途切れる沈線も、大洞C2式からA式への過渡期の様相を表しているものと思われる。

79、86～88、616、634～651は晩期中葉の大洞式系の土器群である。86は脚部を欠損する台付鉢で、雲形文を描く大洞C1式、616は鉢部の破片であるが「I」字文類似の文様を有する大洞C2式であろう。

87、635～641は鉢、634は浅鉢で、いずれも大洞C2式であろう。87、640、641は口縁部下の頸部に無文帯を有するものである。634は頸部無文帯下の区画にメガネ状突帯が施文されている。大洞A式に近い段階のものと思われる。642は口縁部が内湾しながら開く鉢で、体部に条痕文が施文され、口唇部に刻みが施される。A式段階か。

79、88、643～651は壺形土器で、88、645は大洞C1式、他は雲形文の崩れなどからC2式に位置付けられよう。

34、80、83～85、375、386、389、393、409、416、454、459、460、652～658は第Ⅷ群第4類の天神原式及びその要素を有する土器群である。83～85、652～658は円形の貼付文が施文される。安行3c式から3d式までに対応する。

89～93、659～685は第Ⅷ群第5類の前浦式土

器である。90、678のような深鉢や、89、91のような鉢、684、685のような台付鉢があり、甕形の93では縄文の代わりに天神原式の細かな刺突文が施文されている。

82、94～110、686～908は文様が施文されない無文土器である。

686～690は肥厚する口縁部が区画される紐線文系の無文土器である。口唇部が外側に肥厚し、口縁部が内湾するものが多い。94、95、110、691～723は口縁部が内湾する器形で、口唇部が若干肥厚するものや、内側に肥厚するものが含まれる。724～746は口縁部が直行して立つ器形で、96～100、747～762は口縁部が内湾気味に開く器形である。96～98、747は口縁部が短く内折して開く。731は口縁部に押玉状の刻みが施される。

101～104、763～816は胴部で括れ口縁部が開く器形で、817～835は頸部の括れが強い器形である。802には小突起が、812は部分的に、833は全周に刻みが施される。

106～109、838～908は輪積成形痕の残る無文土器で、殆どが折返状口縁部を有する。897は折返口縁部及び胴部に捺糸文が施文される。898～908は折返状口縁部が2段になっている。

111、836、837は器壁が薄く、良く被熱した製塩土器である。

112～137は各時期、各器種の底部破片である。115～117は安定した底部で、第V群から第VI群の可能性が高い。

土製品類 (第117図909～第119図948)

第117図909～915はミニチュア土器である。90は口縁部の内折する深鉢形土器で、天神原式の影響を受けた安行3c式、910は台付鉢の鉢部、911は脚部、912が深鉢の底部である。いずれも安行3c式であろう。913は壺の口縁部、914は小鉢、915は蓋のミニチュアである。916は釣手土器の把手部分である。

土製円盤は917～933の17点が出土した。⑥、

⑬、⑯～⑲、㉓、㉕小グリッドで、2～3個が出土している。

耳飾りは4点出土した。934は台形状で上面に透かし彫を有するもの、936、937は環状である。

土偶は4点出土した。938は小型の中実土偶で、頭部を欠損する。両手両足を広げた形態で、沈線で文様を描く晩期中葉の土偶である。940は中実土偶の右肩、939、941は中実土偶の左足である。

942は形態の不明な動物形土製品で、頭部と思われる部分に角状の突起が、体部には手足、乳房と思われる突起が付く。腰部以下を欠損する。

土版は6点が出土した。943～945、947は表裏面に沈線の入組文や沈線文が描かれ、946、948は無文である。⑩～⑭小グリッドを中心に、出土している。

石器 (第120図949～第132図1095)

949は平基の無茎の石鏃である。950は有茎の石鏃である。951は石鏃の未成品である。製作途中で先端と片方の脚部が欠損したものと思われる。

952は摘まみ部と錐部との区別が不明瞭なため、II類と判断した。

953～956はサイドスクレイパーである。特に955は刃部に摩擦痕が観察できる。957はエンドスクレイパーである。

966～968は分銅形の打製石斧である。969からは打製石斧の破片で、969が打製石斧I類の刃部片、970が打製石斧III類の基部片、971が打製石斧の基部片である。972、973はともに磨製石斧から転用された打製石斧で、972が乳棒状からの、973が定角式からの転用と思われる。

974は礫器I類、975、976が礫器II類である。

977～980は磨製石斧で、977と980は刃部に刃こぼれが認められる。977が定角式で、980が乳棒状である。978、979は磨製石斧I類の基部片である。

981、982は長楕円形の礫を素材としたスタンブ形石器である。

983～988が蔽石I類、989、990が蔽石II類である。

991～994、997は凹石I類で、995、996は凹石II類である。991～996は正面と裏面に凹痕が認められる。

998～1019は磨石I類で、998～1007は正面と裏面に敲打痕を有する。1020～158は磨石II類である。そのうち1026、1037、1040、1051には赤色顔料が認められる。特に1040、1051では全面で確認できる。1059～1063は磨石II類の破片である。

1064～1068は石皿III類である。

1069～1071は砥石I類で、特に1069は骨角器または貝製品を製作する際に使用した砥石であろうか。1072、1073が砥石II類、1074～1081が砥石III類である。

1082～1087は石錘I類である。

1089は石棒類I類の頭部片である。頭部の上下に沈線を施す。正面裏面、左右両面の中央に「I」字文風のモチーフを描き、沈線内を四等分に区画し、区画内に長方形が描かれている。頭部上面には中央に円を描き、円から四隅へと沈線が伸びる。正面は被熱により一部黒色化している。1090は石棒類の頭部片である。

1091は石冠である。基底部の上面中央に段を作り出し、頸部と連結する。さらに上面の左右両端には中央が窪んだ円形の突起を配す。基底部の底面には溝状の窪みを有する。

1092は岩版の下半部で正面のみが残存している。

1093～1095は垂飾で、1093は貫通孔の上部に紐擦れ痕と思われる擦痕が観察できる。

その他、958～961の二次加工剥片、962～964の石核、965の黒曜石の原石、1088の軽石類III類が出土した。

骨製品 (第132図1096)

骨角器は1点出土した。第132図1096は鏃で、鏃身部と基部が段により明確に区分できる。鏃身部はやや湾曲する。

7 G-7グリッド出土遺物

概要 (第133図、第134図)

非常に狭小な調査区で、出土遺物も少ない。隣接するグリッドと各時期の住居跡が重複する地点であるが、関連するピット等は検出されていない。

土器は第V群から第VIII群土器が少量出土しているが、中でも第VII群土器の出土量が少ない。土製品は土製円盤が3点出土しているのみである。

縄文土器 (第135図1～第136図37)

第135図2、3は第V群第2類の胴部が括れ、口縁部が緩く開く器形の加曾利B 2式で、地文縄文上に斜格子目文が施文される遠部第四類系の土器である。

4、12は加曾利B 2式からB 3式の条線文土器である。12は口唇端部に連続刻みが施され、胴部も連続刺突文で区画されている。

5は加曾利B 2式の紐線文土器である。口縁部に押圧隆帯文が巡り、地文縄文L R上に隆帯が施文される。口縁部裏面に沈線が巡る。

6～8は胴部で括れて口縁部が開く、第VI群第1類の安行1式平口縁深鉢形土器である。口縁部に2～3帯の帯縄文を施文し、6は口唇部から短い縦帯を垂下している。地文は全てRLである。

13、14は条線文土器で、口唇外端部に連続刻みが施され、縦位からやや斜位にかけての条線文が施文されている。安行1式である。

10は水平の帯縄文が施文される平口縁の鉢形土器で、口唇部内端に稜を有する。安行1式の鉢形土器である。

1、11は同一個体と思われる。1は平口縁の台付鉢形土器と思われ、外反する口縁部に縄文L Rが施文される。胴部には沈線の上下対弧文で描かれる緩い連弧文間に、縄文L Rが施文される。口縁部は明瞭な段を形成するものではなく、口唇部も丸頭状を呈し、稜を有さない。地文縄文も密ではなく、2段の帯状に施文されている。器面は良く磨かれている。第VII群第1類安行3 a式あた

りであろうか。

9は口縁がやや開きながら立つ器形で、若干肥厚して丸頭状を呈する口縁部が沈線で区画され、頸部が無文となる深鉢形土器である。口縁部には縄文L Rが施文されている。第VII群第1類の安行3 a式に比定されよう。

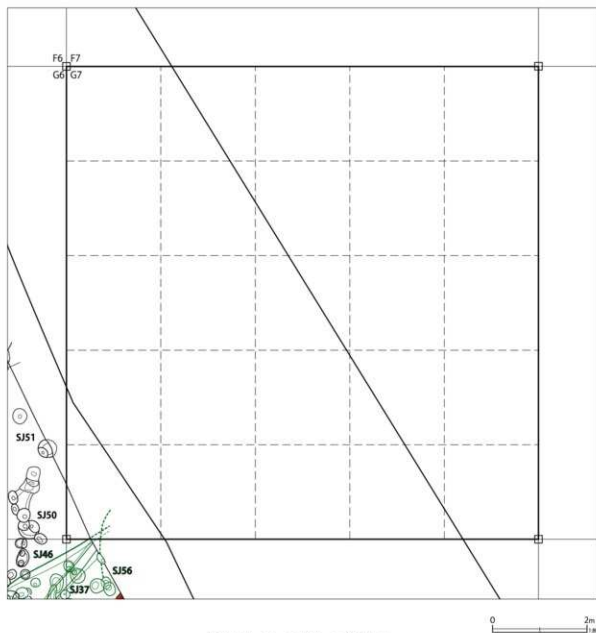
15は内湾する口縁部が開く波状口縁深鉢形土器で、口縁に沿って刺突列を施す沈線帯が巡っている。第VIII群第1類の安行3 c式土器である。16は口縁部が外反する波状口縁深鉢で、沈線の区画帯内に刺突列が施される。17は内湾する口縁部が開く緩い波状口縁深鉢で、刺突文を挟む沈線帯で口縁部が区画され、胴部には沈線の曲線文が施文されている。いずれも安行3 c式土器である。

18、19は胴部で括れ、口縁部が開く平口縁深鉢形土器である。18は口縁部に横位弧状の沈線文が施文されている。19は口唇部が角頭状を呈し、口唇部直下から2本の沈線文が垂下する。安行3 c式である。

20～23は口縁部が内湾する平口縁深鉢形土器である。20は口縁部が沈線で区画され、胴部に紐線文土器のモチーフと同様の、三日月状の沈線文が施文されている。21は折返状口縁部が沈線で区画され、瘤状貼付文が貼付されている。22は頸部の括れ部が2本沈線で区画され、その下に沈線の長方形区画文が施文される。以上は、第VIII群第1類の安行3 c式に比定されよう。

23は紐線文系土器で、肥厚する口唇部がナデ状の削り出しで区画されている。口縁部には連続刺突文が施文され、胴部には横位の浅い条線文が施文されている。安行3 a式辺りであろうか。

24、25は胴部で括れ、口縁部が開く深鉢形土器か、あるいは台付鉢形土器である。24は沈線の波状区画文内に、弧線文や入組三叉文を施文する安行3 d式土器である。25は幅狭な口縁部に、大洞C 2式の影響を有する変形した雲形状のモ

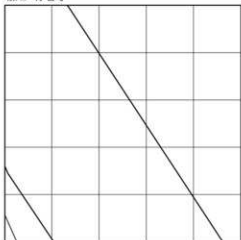


第133図 G-7グリッド検出遺構

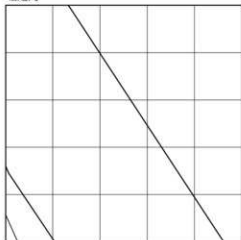
チーフが施文されている。安行3 d式であろう。
 26、27は円形貼付文が施文される第Ⅷ群第4類天神原式の要素を有する土器である。26は角頭状口唇部が外反する器形で、口唇部上に双頭の小突起が付き、楕円区画内の印刻菱形文の中に円形貼付文が施文される。また、把手下の右脇には上下左右背合わせの対弧文で、湾曲した長方形区画文が施文される。地文には縄文LRが施されているが、文様帯内では磨消されている。27は2本沈線で区画された縦長の菱目文に、上下2対の

円形貼付文が施文されている。菱形文内にも縄文が施文されている。安行3 c式段階であろうか。
 28、29は凹線状の太い沈線でモチーフが描かれる第Ⅷ群第5類の前浦式土器である。28は口縁部が大きく外反する深鉢形土器で、口唇上と口唇内面に沈線が巡らされる。29は胴部の屈曲する鉢形土器と思われ、沈線で浮彫状となった半隆帯で「の」字状文や三叉文等が施文される。隆帯上には縄文LRが施文されている。
 30～37は無文土器で、30、31は口縁部が内湾

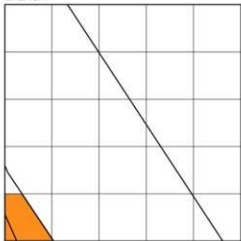
加E・称名寺



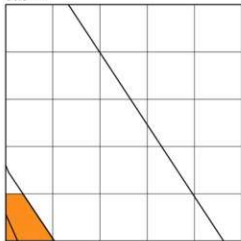
堀之内



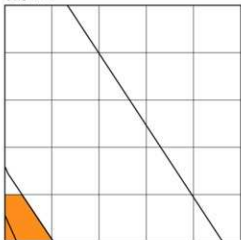
加曾利B



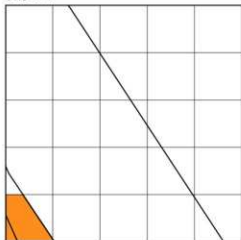
安行 1・2



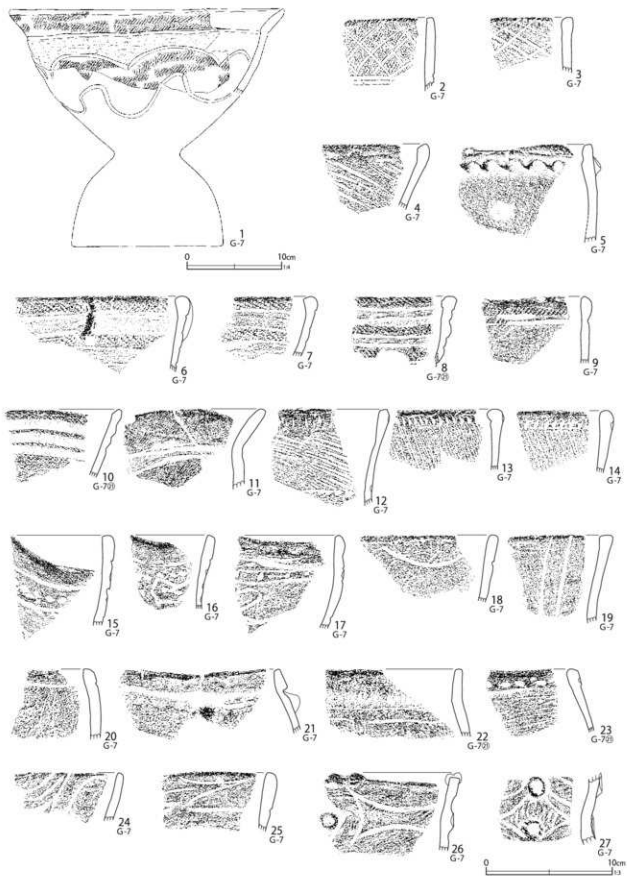
安行 3a・b



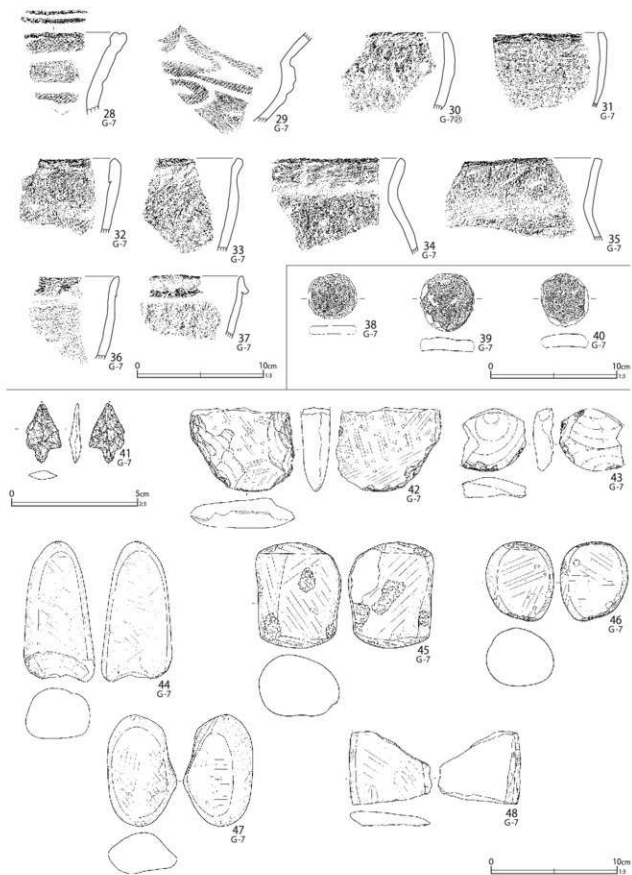
安行 3c・d



第 134 図 G-7 グリッド 時期別濃淡図



第 135 図 G-7 グリッド出土遺物 (1)



第136図 G-7グリッド出土遺物(2)

第31表 G-7グリッド出土復元土器観察表 (第135図)

番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類
1	Ⅲ-2	(9.0)	(28.9)	(28.9)	-	ⅤB-1B1

第32表 G-7グリッド出土破片土器観察表 (第135図、第136図)

番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類
2	-	V 2-A4	11	Ⅲ-2	ⅤB-1B1	20	-	ⅤB-1-A4	29	-	ⅤB-5-C1
3	-	V 2-A4	12	Ⅲ-2	V 2-A4	21	Ⅲ-2	ⅤB-1-A4	30	Ⅲ-2	ⅤB-A5
4	Ⅲ-2	V 2-A4	13	-	ⅤI-1-A6	22	Ⅲ-2	ⅤB-1-A4	31	-	ⅤB-A5
5	Ⅲ-2	V 2-A7	14	Ⅲ-2	ⅤI-1-A6	23	Ⅲ-2	ⅤB-1-A4	32	Ⅲ-2	ⅤB-A4
6	Ⅲ-2	ⅤI-1-A4	15	Ⅲ-2	ⅤB-1-A3	24	Ⅲ-2	ⅤB-2-A4	33	Ⅲ-2	ⅤB-A4
7	-	ⅤI-1-A4	16	-	ⅤB-1-A3	25	Ⅲ-2	ⅤB-2-A4	34	Ⅲ-2	ⅤB-A4
8	Ⅳ	ⅤI-1-A4	17	Ⅲ-2	ⅤB-1-A3	26	Ⅲ-2	ⅤB-4-A3	35	Ⅲ-2	ⅤB-A4
9	Ⅲ-2	ⅤB-1-A4	18	-	ⅤB-1-A4	27	Ⅲ-2	ⅤB-4-A3	36	Ⅲ-2	ⅤB-A2
10	Ⅳ	ⅤI-1-C2	19	Ⅲ-2	ⅤB-1-A4	28	-	ⅤB-5-A4	37	Ⅲ-2	ⅤB-A2

第33表 G-7グリッド出土土製円盤観察表 (第136図)

番号	層位	最大径	重量	分類	番号	層位	最大径	重量	分類	番号	層位	最大径	重量	分類
38	Ⅲ-2	3.9	14.1	I-B-ウ	39	Ⅲ-2	4.6	24.5	I-B-ウ	40	-	4.2	20.9	I-B-ウ

第34表 G-7グリッド出土石器観察表 (136図)

番号	層位	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重量
41	-	石鏃	Ⅱ	黒曜石	[2.4]	1.4	0.5	0.9
42	Ⅲ-2	打製石斧	-	緑色岩	[6.7]	8.3	2.4	175.1
43	Ⅲ-2	礮器	Ⅱ	頁岩	5.0	[5.1]	1.6	44.7
44	Ⅲ-2	礮石	I	安山岩	11.1	5.7	4.0	351.3
45	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	8.4	6.9	4.9	396.9
46	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	6.4	5.4	4.6	242.3
47	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	8.9	5.5	3.8	215.8
48	Ⅲ-2	砥石	Ⅲ	砂岩	[5.8]	[6.6]	1.2	47.7

する器形、32は口縁部がやや開く器形、34、35は頸部で括れ口縁部が開く器形を呈する。

36、37は輪積成形痕を残す折返状口縁の深鉢で、口縁部が直線的にやや開く器形を呈する。

土製品類 (第136図38~40)

土製円盤は3点出土した。第136図38~40は無文土器の胴部破片を利用したもので、ほぼ正円形である。38、40は周辺に細かな剝離加工を施して成形しているが、39は円周の一部に研磨を施

し始めており、最終的には円周の割れ面を研磨した円盤になるものと思われる。

石器 (第136図41~48)

第136図41は有茎の石鏃で、先端が僅かに欠損している。

42は磨製石斧を再利用した打製石斧の刃部片である。43は両面に加工が施された礮器である。

その他、44は礮石I類、45が磨石I類、46、47は磨石II類、48が砥石III類である。

8 H-5グリッド出土遺物

概要 (第137図、第138図)

本グリッド内には、後期中葉前後の住居跡3軒(SJ42、60、62)、柱穴2列(第4、5号)、土壇2基(SK294、299)、焼土跡2基(焼土跡18、19)が検出されている。各住居跡の中心である炉は、いずれも本グリッドから外れており、隣接のグリッドにある。時期の確認された遺構の大半が後期中葉前後のもので、第42号住居跡の位置する⑤小グリッドでは、曾谷式から安行1式にかけての破片が多く出土している。

全体的にⅢ層からは第Ⅴ群の安行3c式、3d式が多く出土しており、Ⅳ層以下では第Ⅴ群土器が多く出土する傾向にある。土製品が少ないのも、Fライン、Gライングリッドと同様である。

縄文土器 (第139図1~第158図498)

出土土器では、第144図71~74が第Ⅱ群第1類の織維土器である花積下層式土器、76、77が第2類の関山式土器、75が第3類の黒浜式土器である。78~80は無織維土器の第5類諸磯b2式土器である。

81～84は第Ⅲ群土器第5類の加曾利EⅢ式土器、85が第Ⅳ群第1類の称名寺1式土器である。1、86～92は第Ⅳ群第3類の堀之内1式土器、93～99、102は第4類の堀之内2式土器である。100、101は後期中葉の縄文施文土器であろう。290は堀之内2式の注口土器の把手である。

103～105は第Ⅴ群第2類加曾利B2式の波状口縁深鉢形土器で、106～116は第2類から第3類の平口縁深鉢形土器であり、胴部の括れが強く、117～123は括れの弱い深鉢形土器である。108は3単位把手の付く深鉢と思われる。

124～127は第2類の口縁部が内湾もしくは内折する深鉢形土器で、125は列点帯で、126は縄文帯で胴部を区画する大森タイプの深鉢である。

128～147は第2類から第3類の斜線文系土器で、128、130～140は斜格子目文が施文され、139、140は地文に縄文が施文される遠部第四類相当である。131、132、137、138は無文帯で胴部が区画される。129、141～147は斜線文土器で、129は口縁部に耳状突起が付き、142～244は無文帯で胴部が区画される。

148～154は第2類から第3類の5単位波状口縁深鉢形土器と思われる。148～150は沈線を伴う刻目帯で口縁部が区画され、152は突起が付き、153、154は無文である。

155、156は第2類の口縁部に2本の押圧隆帯が巡るもので、地文縄文上に沈線の弧線文等が施文される。183は1本の押圧隆帯が巡り、胴部に沈線の格子目文が描かれる。157～162は口縁部の開く深鉢形土器で、161、162は条線文を有する。

2、3、163～181は第Ⅴ群第4類曾谷式の胴部が括れ、口縁が開く深鉢形土器で、2、3、163、164は山形の波状口縁、166～181は平口縁である。164は波頂部とその下部に対になる瘤が貼付され、165～168は屈曲する口縁部に165、166、168は縦瘤、167、179は円形の貼付文が施文される。2は5単位波状口縁土器で、波底部に

小突起が貼付される。

4、6、8、182は瓢形土器で、第Ⅴ群第4類や第Ⅵ群第1類との区分が難しい土器である。いずれも無文帯で胴部が区画されている。182は横帯区画の平行線上に貼付される瘤を起点として上下で対抗する弧線文のレンズ状文が描かれる。

19～23、184～197は第2類から第4類の鉢、浅鉢、皿類である。20～23、191～196は鉢で、191、196は加曾利B2式、192はB3式、20～23、193～195は曾谷式になろうか。184、185はB2式の、19は曾谷式の浅鉢である。186～190はB3式から曾谷式の皿である。197はB2式の台付鉢の脚である。198は注口土器である。

44、45、199～226は口縁部に押圧隆帯を有する加曾利B2式から曾谷式にかけての紐線文系土器である。地文縄文上に条線状の沈線文を施文する一群で、遠部第一類相当の土器である。199、200は押圧隆帯でモチーフが描かれ、201、224、225は地文縄文上に粗い沈線が施文される。221、223は沈線文が施文されていない。226は胴部に条線文が施文される紐線文土器である。

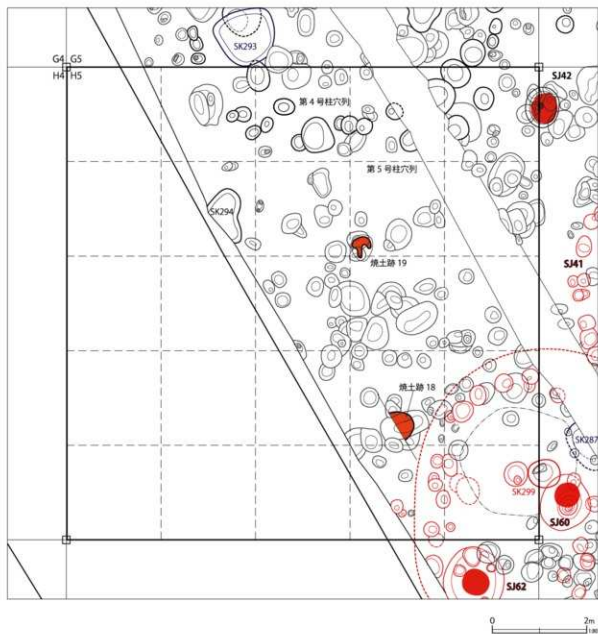
46、227～229は第Ⅴ群第4類の条線文土器である。46、227、228は口縁部が沈線で区画される。

230～234は第Ⅴ群の縄文のみ施文される粗製土器で、235は無文土器である。

236～244、246、247は晩期安行式の大波状口縁深鉢形土器等で、後期安行式の波状口縁土器は殆ど出土していない。大半が第Ⅶ群第2類の安行3b式に比定されよう。

248～256、271、275は第Ⅵ群第1類の胴部が括れて口縁部が開く平口縁深鉢形土器である。248、249は口縁部に縦瘤が施文される。

257～260は内湾する平口縁深鉢形土器で、257～259は第Ⅵ群第2類の安行2式、260は安行3a式か3b式であろう。261～263、273、274は第Ⅶ群第1類安行1式の瓢形土器で、曾谷式も含まれている。



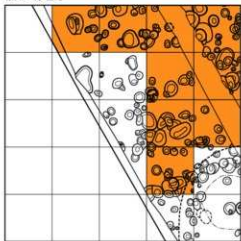
遺構	小グリッド	所属時期	遺構	小グリッド	所属時期	遺構	小グリッド	所属時期
S J 42	5	後期後葉から晩期前葉	S K 294	7	不明	第4号柱穴列	2~5	後期後葉以降、 晩期中葉以前
S J 60	20 24 25	後期前葉から後期中葉	S K 299	25	後期中葉	第5号柱穴列	3~5	晩期中葉以前
S J 62	24 25	後期前葉から後期中葉	焼土跡 18	19	不明			
			焼土跡 19	9 14	不明			

第137図 H-5グリッド検出遺構

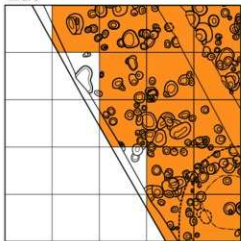
5、7、264~269、272は縄文が施文される晩期の深鉢形土器で、7は口縁部が立つ器形、264~266は内湾する器形、267~269は頸部が括れる器形である。7は胴部に入組渦巻文が施文される第VII群第2類安行3b式、264~269は口縁部が

沈線で区画される安行3b式から3c式にかけての土器である。264は姥山II式系のモチーフが、266、268、269は口縁部に縄文が施文される。5は胴部破片である。272は内湾気味に口縁部が立つ小型の深鉢で、頸部に大洞系の横流れのクラン

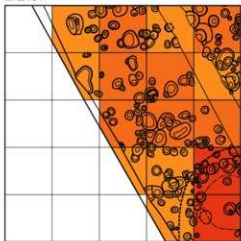
加 E・称名寺



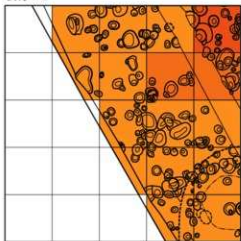
堀之内



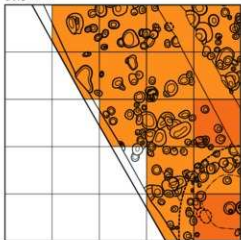
加曾利日



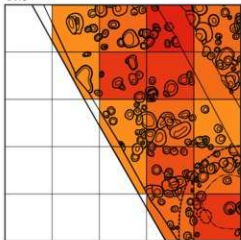
安行 1・2



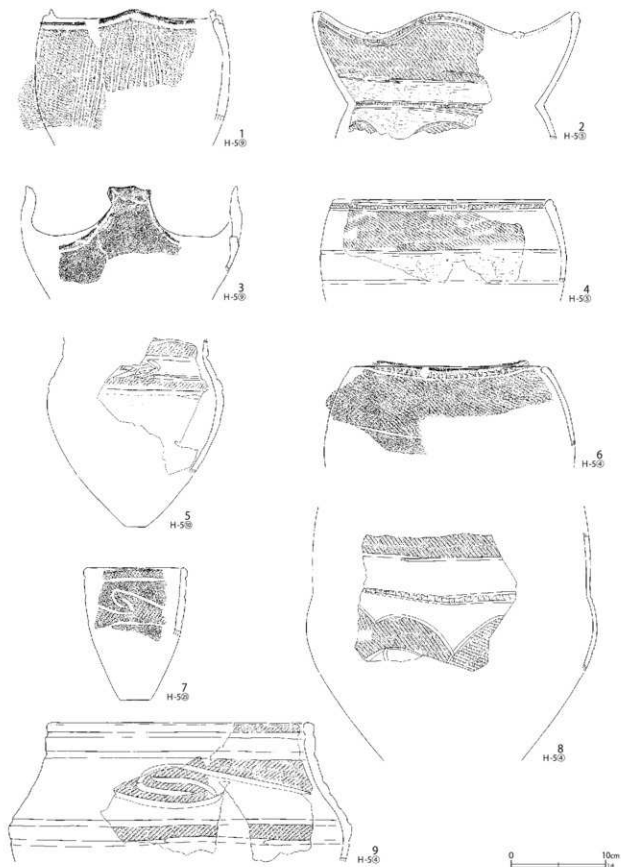
安行 3a・b



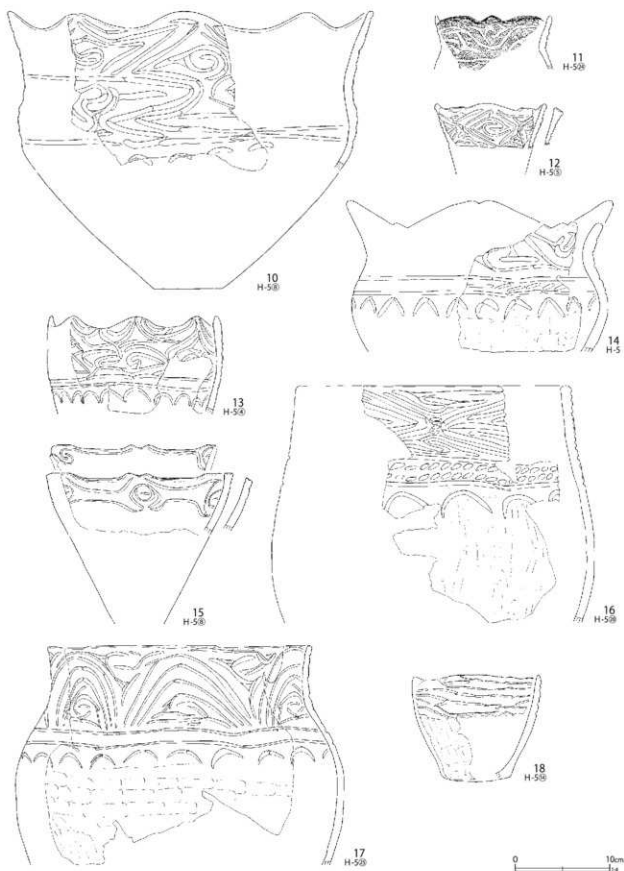
安行 3c・d



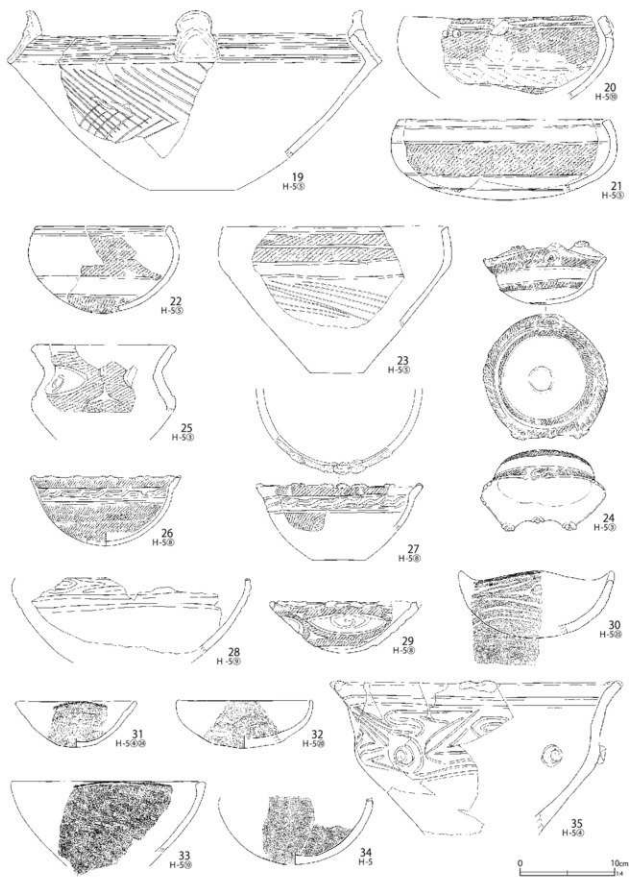
第 138 図 H-5 グリッド 時期別濃淡図



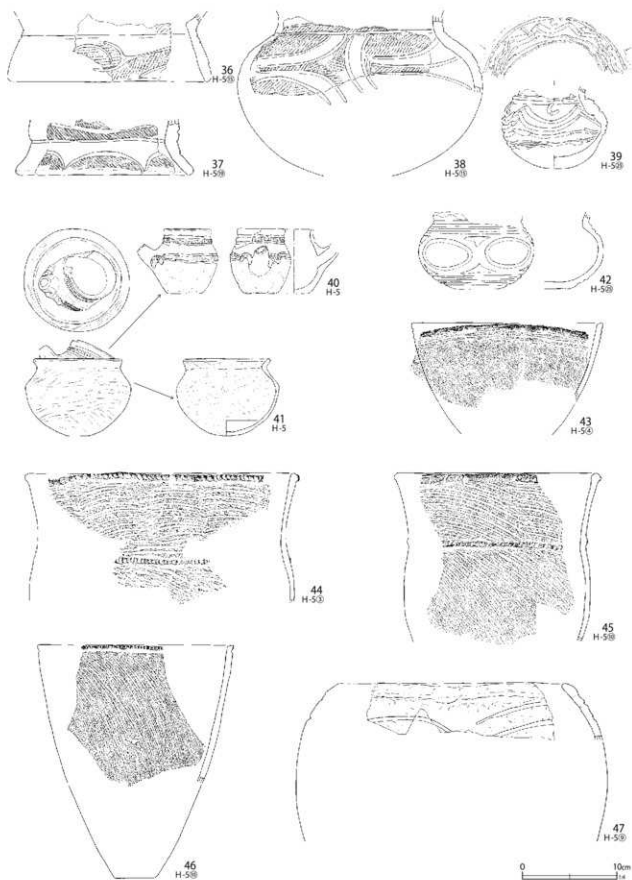
第139図 H-5グリッド出土遺物(1)



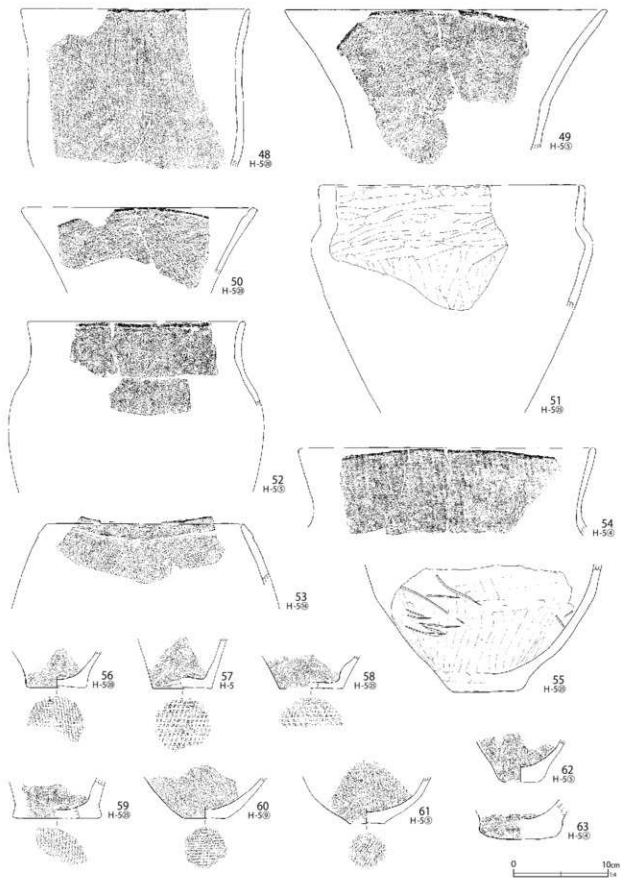
第140図 H-5グリッド出土遺物(2)



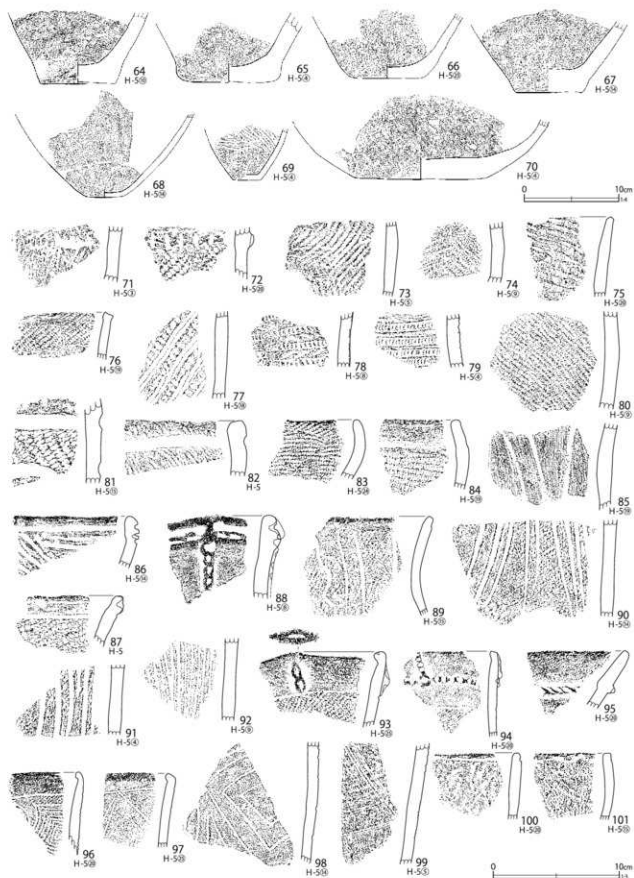
第141図 H-5グリッド出土遺物(3)



第142図 H-5グリッド出土遺物(4)



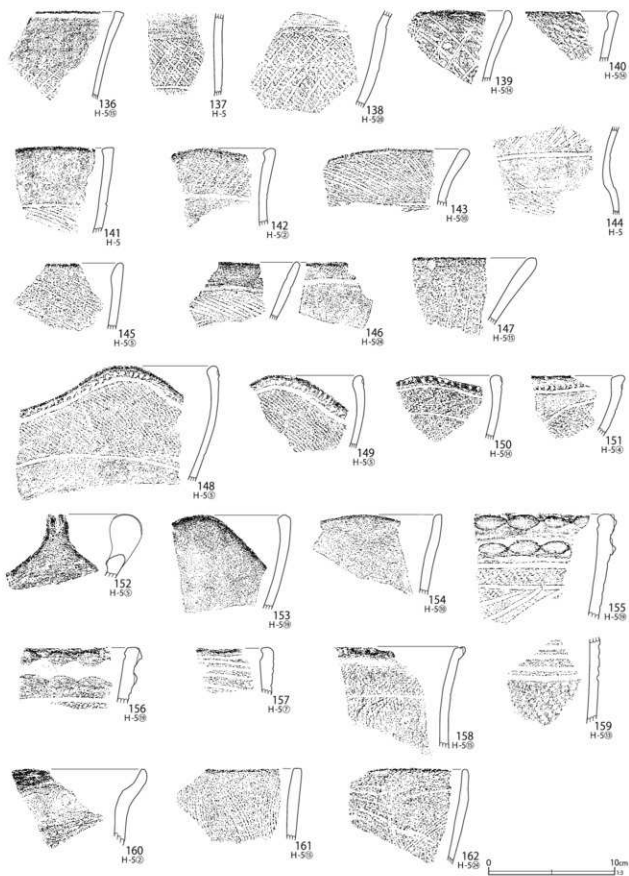
第143図 H-5グリッド出土遺物(5)



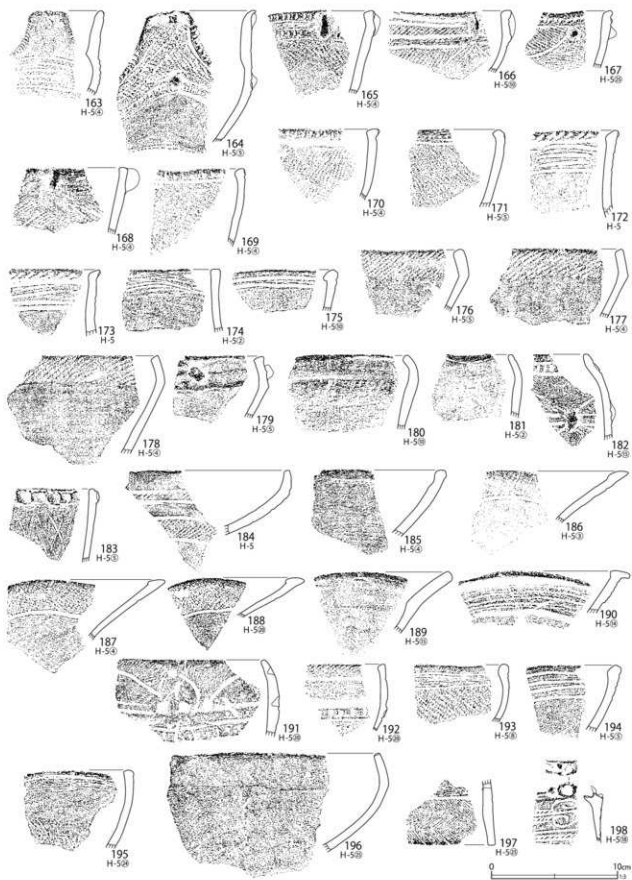
第144図 H-5グリッド出土遺物(6)



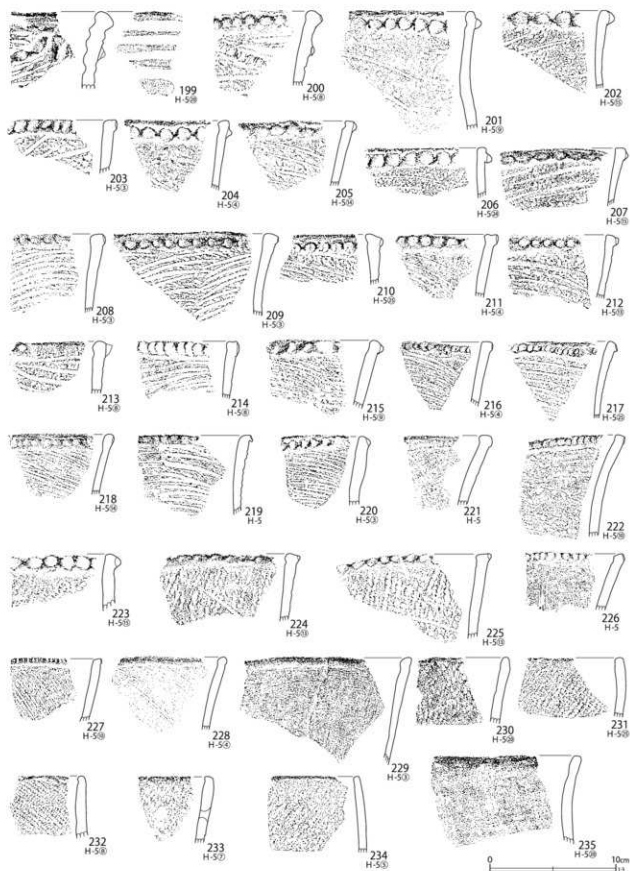
第145図 H-5グリッド出土遺物(7)



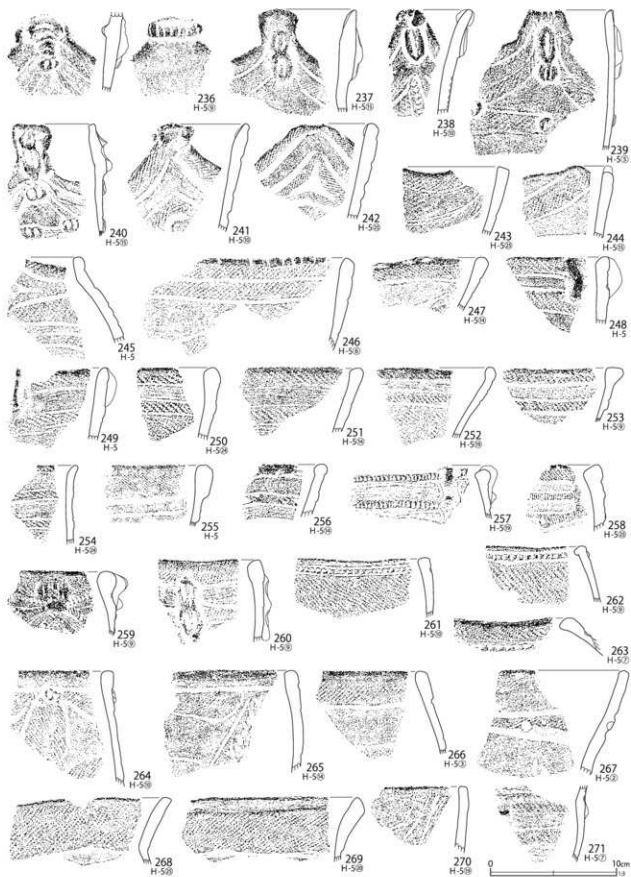
第146図 H-5グリッド出土遺物(8)



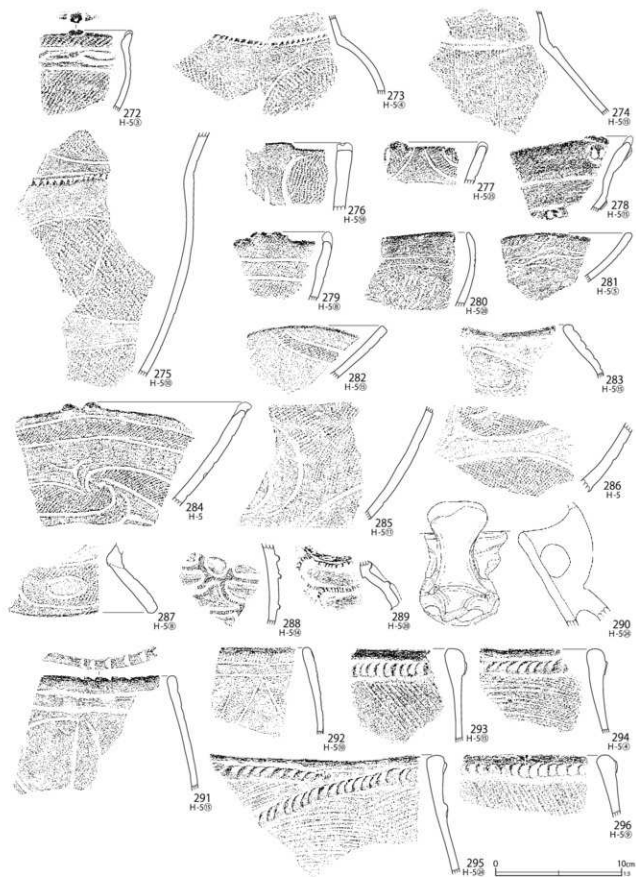
第147図 H-5グリッド出土遺物(9)



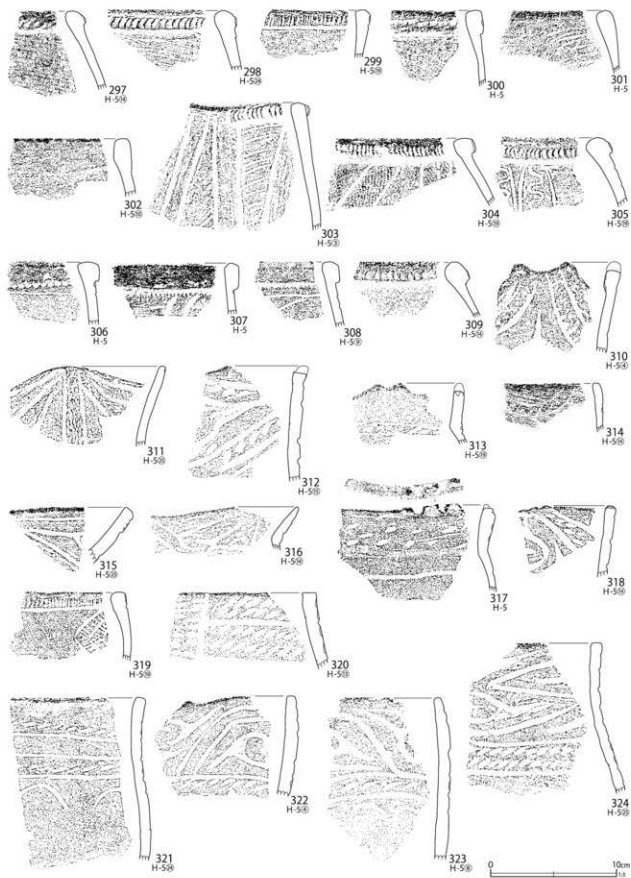
第148図 H-5グリッド出土遺物(10)



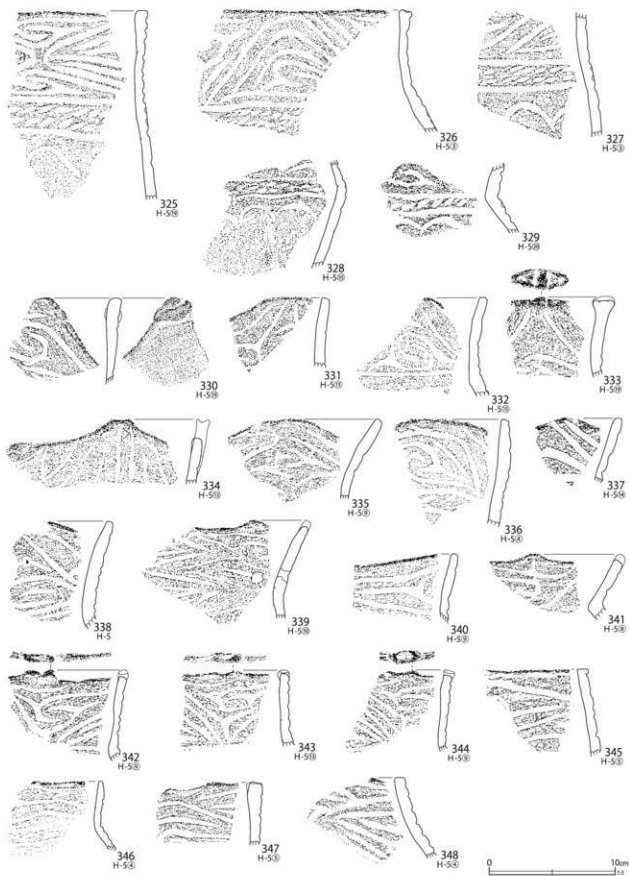
第149図 H-5グリッド出土遺物(11)



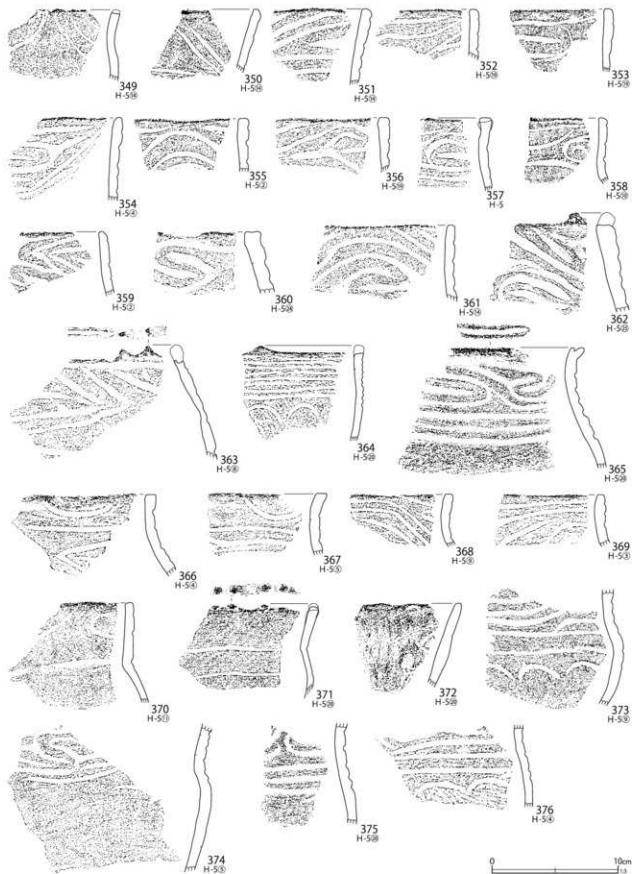
第150図 H-5グリッド出土遺物(12)



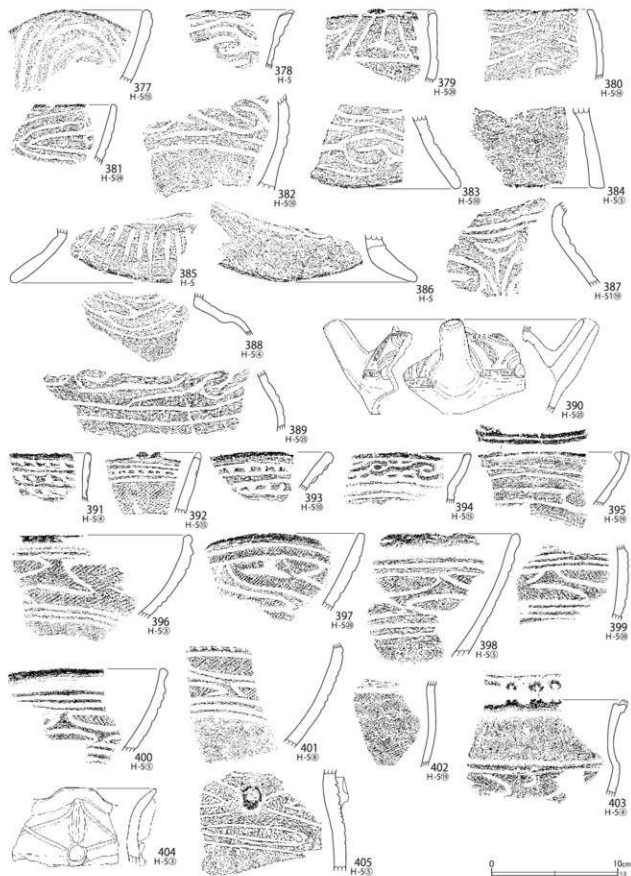
第161図 H-5グリッド出土遺物(13)



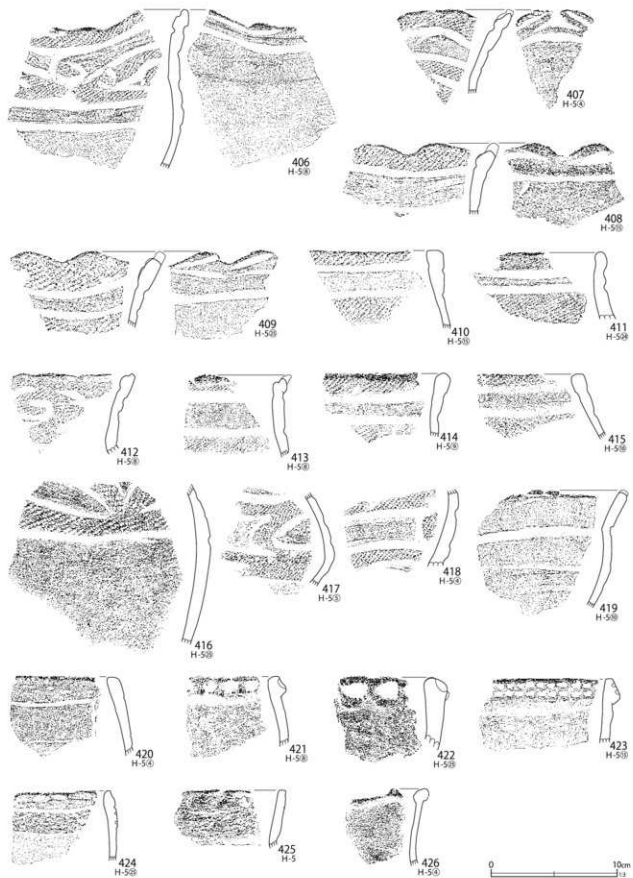
第152図 H-5グリッド出土遺物(14)



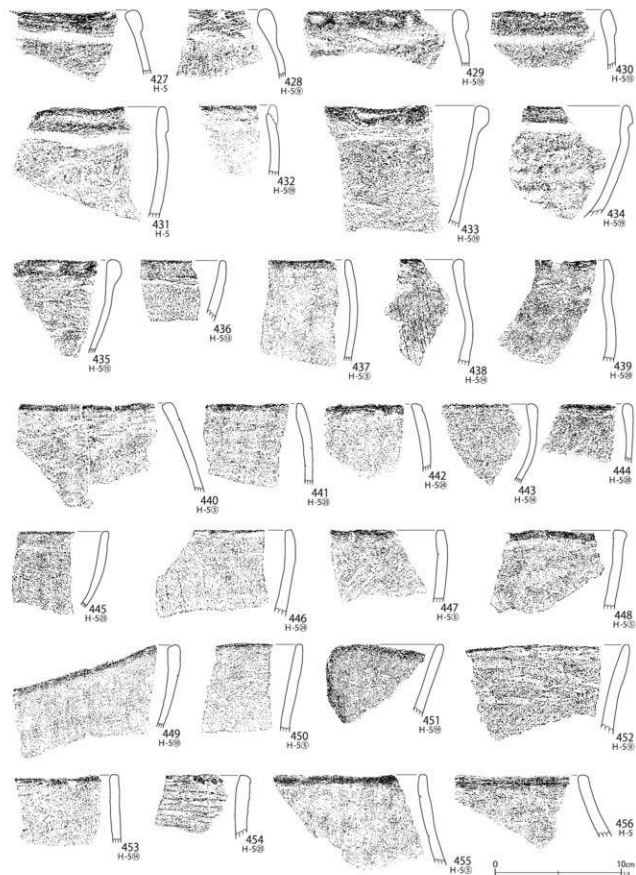
第153図 H-5グリッド出土遺物(15)



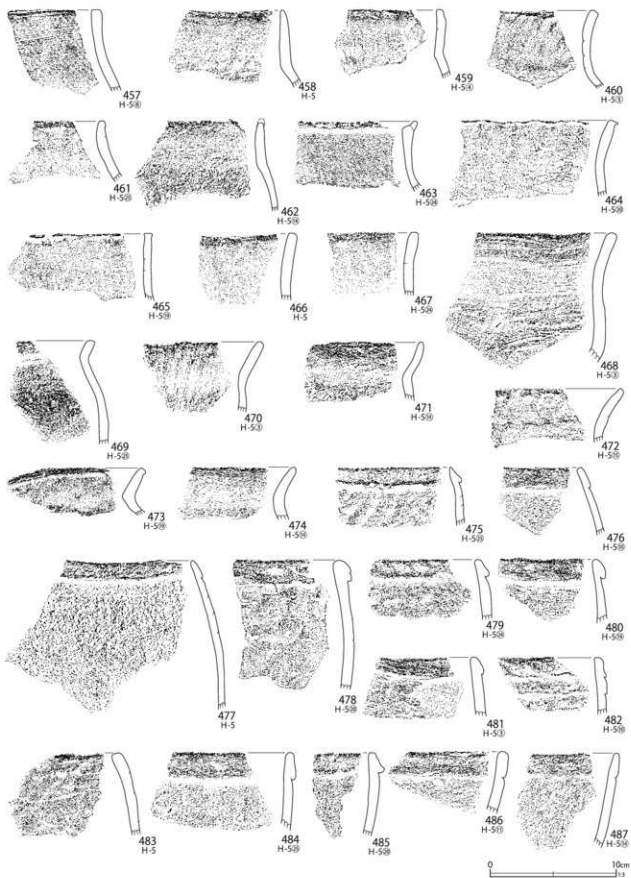
第154図 H-5グリッド出土遺物(16)



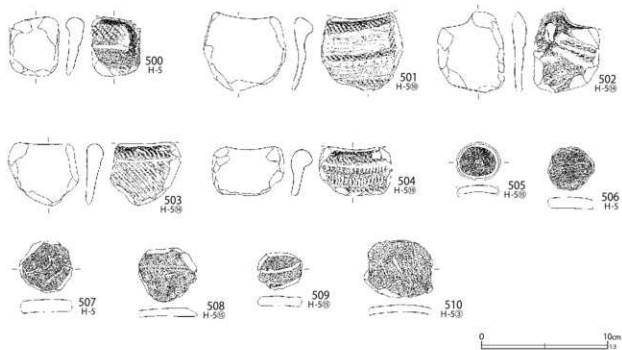
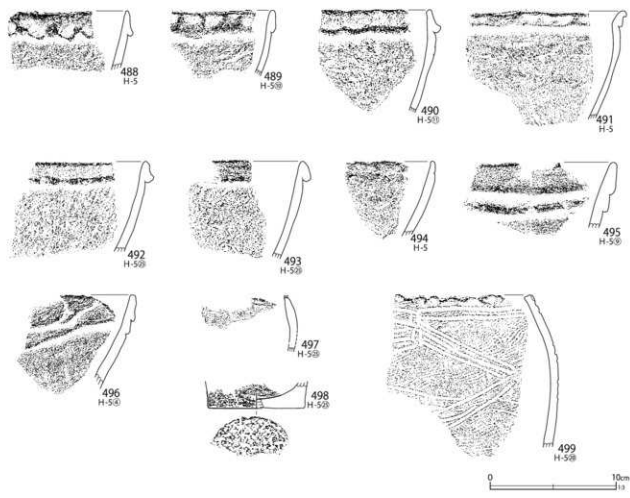
第155図 H-5グリッド出土遺物(17)



第156図 H-5グリッド出土遺物(18)



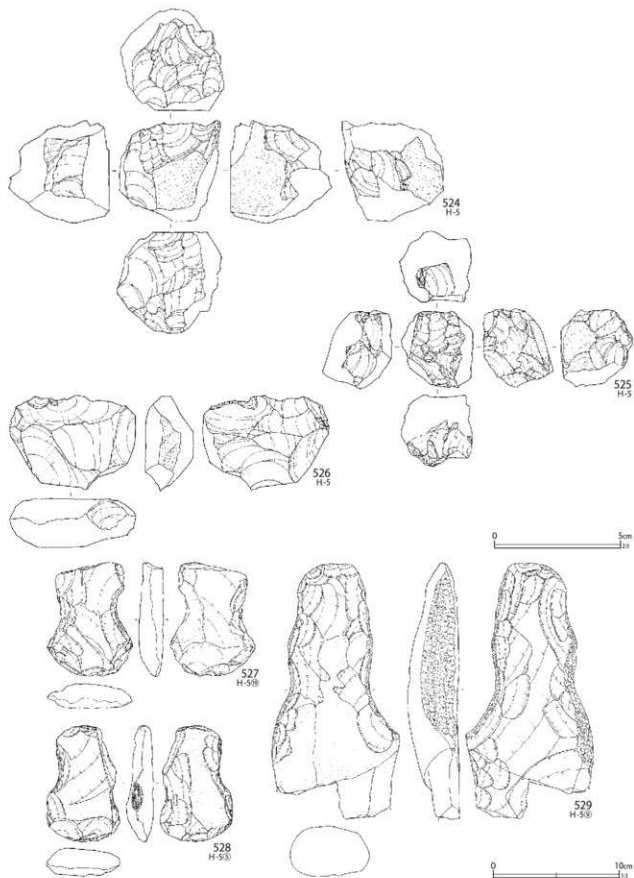
第157図 H-5グリッド出土遺物(19)



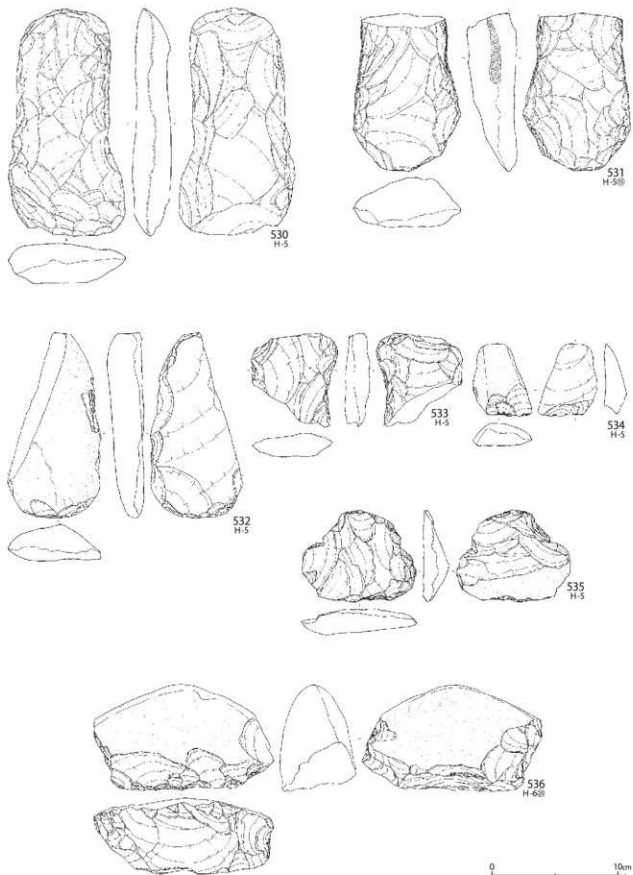
第158図 H-5グリッド出土遺物(20)



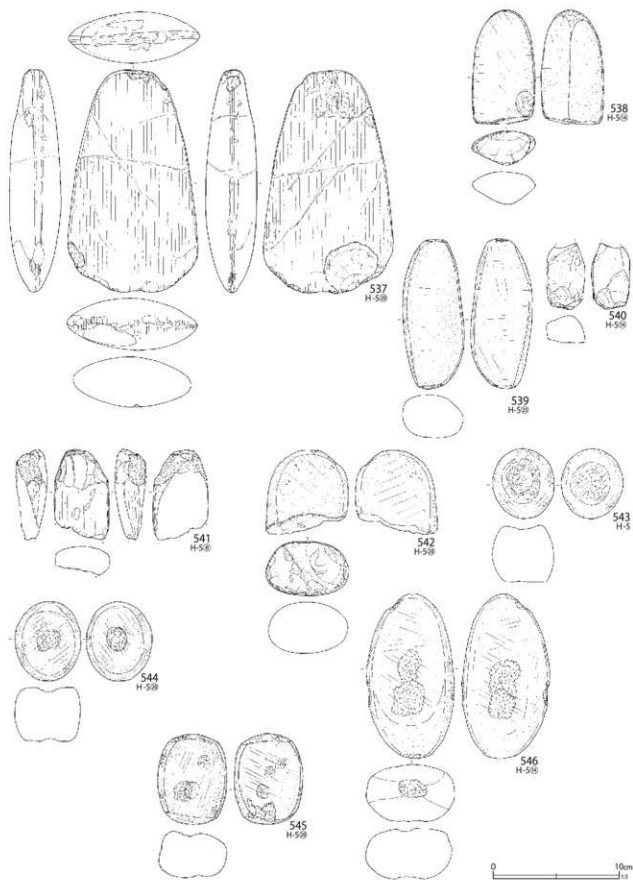
第159図 H-5グリッド出土遺物(21)



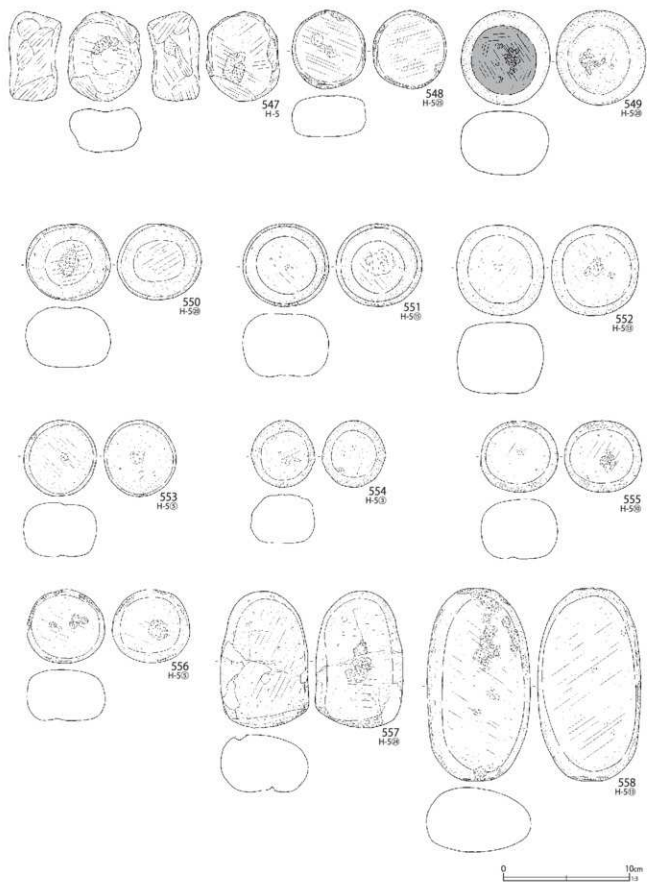
第160図 H-5グリッド出土遺物(22)



第161図 H-5グリッド出土遺物(23)



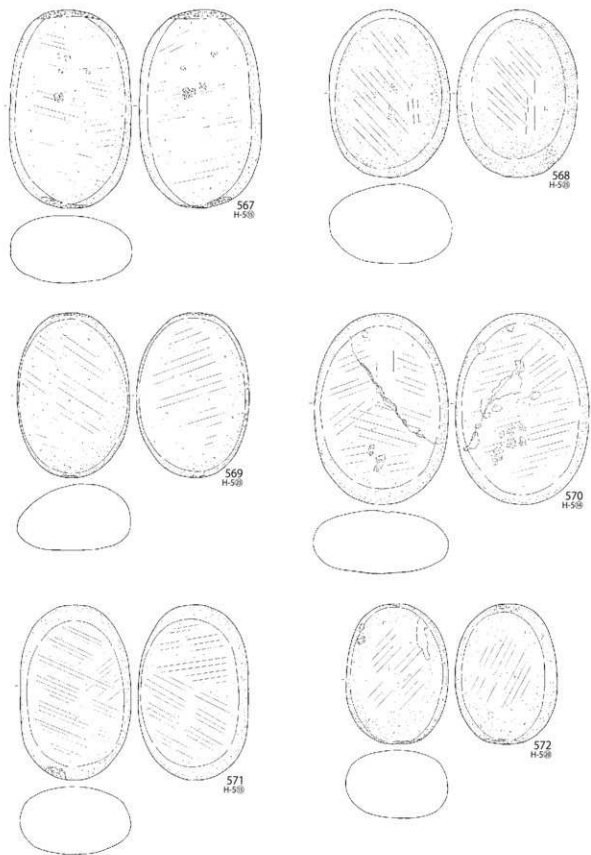
第162図 H-5グリッド出土遺物(24)



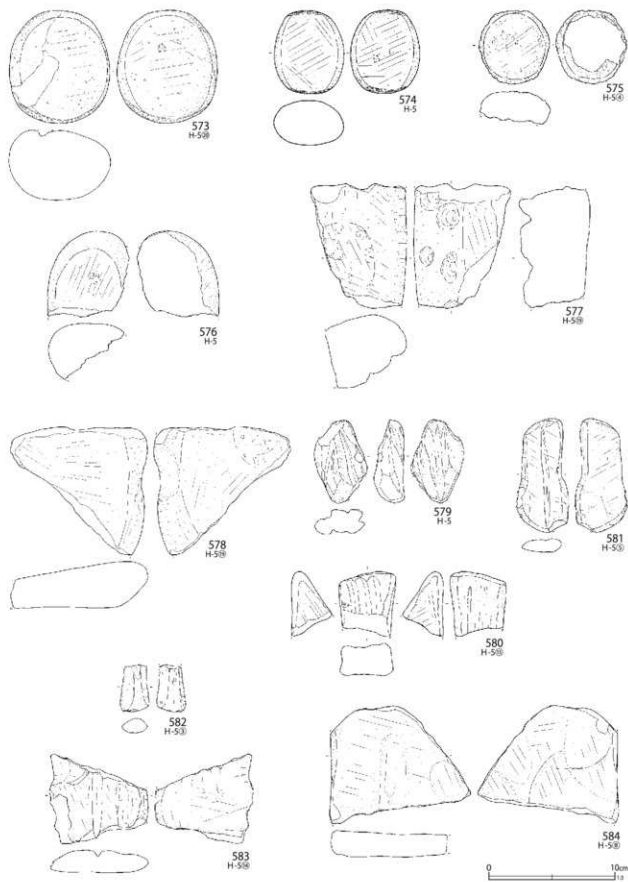
第163図 H-5グリッド出土遺物(25)



第164図 H-5グリッド出土遺物(26)



第165図 H-5グリッド出土遺物(27)



第166図 H-5グリッド出土遺物(28)



第167図 H-5グリッド出土遺物(29)

第35表 H-5グリッド出土土器観察表 (第139~第144図)

番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類	番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類
1	IV	[11.9]	(17.5)	(30.6)	-	IV 3-A5	19	IV	[15.6]	(36.8)	(39.4)	-	V 4-B3
2	IV	[13.5]	(28.0)	(28.2)	-	V 4-A3	20	IV	[8.8]	(21.2)	(22.8)	-	V 4-C2
3	V-1	[9.2]	(21.8)	(23.3)	-	V 4-A3	21	IV	[7.7]	(22.2)	(23.8)	-	V 4-C2
4	IV	[8.7]	(23.6)	(26.0)	-	V 4-A5	22	IV	[9.2]	(14.4)	(16.0)	-	V 4-C2
5	III-2	[14.3]	(15.3)	(18.6)	-	VI-A	23	IV	[10.7]	(24.0)	(24.6)	-	V 4-C2
6	III-2	[8.3]	(20.8)	(26.6)	-	V 4-A5	24	III-2	6.6	13.0	13.0	2.2	VI 2-C1
7	III-2	[7.4]	(11.0)	(11.0)	-	VI 2-A2	25	III-2	[7.1]	(15.6)	(15.4)	-	VI 2-C1
8	IV	[14.0]	-	(30.8)	-	V 4-A5	26	IV	7.5	15.8	15.8	丸底	VI 2-C
9	III-2	[14.7]	(28.2)	(36.2)	-	VI 5-A4	27	III-2	[5.0]	(17.6)	(17.6)	-	VI 2-C2
10	III-2	[16.8]	(39.6)	(39.6)	-	VI 2-A3	28	III-2	[8.0]	-	(25.2)	-	VI 2-C2
11	IV	[5.6]	(12.4)	(12.6)	-	VI 2-A3	29	III-2	5.5	(16.0)	(16.0)	5.2	VI 5-D1
12	III-2	[4.8]	(11.8)	(11.8)	-	VI 2-A3	30	IV	[6.8]	(16.6)	(16.6)	-	VI 2-C2
13	III-2	[10.4]	(17.6)	(18.6)	-	VI 2-A3	31	III-2	4.8	(12.8)	(12.8)	(4.0)	VI-D1
14	III-2	[13.6]	(26.0)	(27.0)	-	VI 2-A3	32	V-1	[4.5]	(14.5)	(14.5)	-	VI-D2
15	III-2	[6.5]	(19.8)	(19.8)	-	VI 2-A3	33	IV	[7.3]	(20.6)	(20.6)	-	VI-C2
16	III-2	[25.1]	(29.0)	(34.0)	-	VI 2-A4	34	III-2	[7.1]	-	(16.2)	-	VI-C
17	III-2	[23.1]	(28.0)	(34.8)	-	VI 2-A4	35	III-2	[16.3]	(30.6)	(30.6)	-	VI 2-B
18	III-2	[11.2]	(13.2)	(13.7)	(7.2)	VI 2-A2	36	III-2	[6.7]	-	(21.4)	(21.4)	VI 2-B

番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類	番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類
37	VI	[5.9]	-	(18.8)	(18.8)	ⅤB-0	54	Ⅲ-2	[9.3]	(31.6)	(31.6)	-	ⅤB-A4
38	IV	[8.0]	-	(26.0)	-	ⅤB-2	55	Ⅲ-2	[13.5]	-	(25.0)	7.2	X 3
39	Ⅲ-2	[18.6]	-	(11.2)	2.4	ⅤB-1	56	IV	[3.8]	-	(9.5)	6.2	X 3
40	-	6.8	(5.1)	6.5	3.5	ⅤB-6	57	-	[5.3]	-	(9.4)	6.2	X 3
41	-	8.2	9.2	10.8	九底	ⅤB-F1	58	IV	[3.5]	-	(10.4)	(6.8)	X 3
42	Ⅲ-2	[8.2]	-	(2.2)	6.4	ⅤB-F	59	IV	[3.8]	-	(10.2)	(9.4)	X 3
43	Ⅲ-2	[8.8]	(20.2)	(20.2)	-	ⅤB-A2	60	-	[4.3]	-	(13.0)	4.5	X 3
44	Ⅲ-2	[13.7]	(28.9)	(28.9)	-	V 2-A1	61	IV	[5.0]	-	(13.6)	3.8	X 3
45	IV	[17.9]	(22.0)	(22.0)	-	V 4~VI-A4	62	Ⅲ-2	[4.3]	-	(9.4)	3.9	X 3
46	Ⅲ-2	[14.6]	(20.8)	(20.8)	-	V 4-A2	63	Ⅲ-2	[3.0]	-	(9.6)	8.4	X 3
47	Ⅲ-2	[6.0]	(24.5)	(31.9)	-	ⅤB 2-A5	64	Ⅲ-2	[7.5]	-	(14.8)	(8.0)	X 3
48	Ⅲ-2	[16.7]	(24.4)	(24.4)	-	ⅤB-A4	65	Ⅲ-2	[6.1]	-	(15.4)	10.0	X 3
49	IV	[14.7]	(33.8)	(33.8)	-	ⅤB-A2	66	Ⅲ-2	[6.5]	-	(16.0)	7.8	X 3
50	IV	[7.2]	(25.0)	(25.0)	-	ⅤB-A2	67	IV	[7.2]	-	(16.6)	7.0	X 3
51	V	[13.2]	(28.2)	(29.8)	-	ⅤB-A4	68	Ⅲ-2	[8.8]	-	(19.0)	4.0	X 3
52	Ⅲ-2	[8.9]	(23.0)	(26.4)	-	ⅤB-A4	69	Ⅲ-2	[5.4]	-	(8.8)	3.1	X 3
53	IV	[5.6]	(21.4)	(26.4)	-	ⅤB-A5	70	IV	[6.1]	-	(27.2)	14.0	X 3

第36表 H-5グリッド出土破片土器観察表 (第144~第158図)

番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類
71	IV	Ⅱ1-A	121	IV	V 2~3-A4	171	Ⅲ-2	V 4-A4	221	Ⅲ-2	V 2~3-A7
72	IV	Ⅱ1-A	122	IV	V 2~3-A4	172	Ⅲ-2	V 4-A4	222	Ⅲ-2	V 2~3-A7
73	IV	Ⅱ1-A	123	Ⅲ-2	V 2~3-A4	173	-	V 4-A4	223	IV	V 2~3-A7
74	VI	Ⅱ1-A	124	IV	V 2-A5	174	Ⅲ-2	V 4-A4	224	Ⅲ-2	V 2~3-A7
75	IV	Ⅱ3-A	125	IV	V 2-A5	175	IV	V 4-A4	225	IV	V 2~3-A7
76	V-1	Ⅱ2-A	126	Ⅲ-2	V 2-A5	176	IV	V 4-A4	226	Ⅲ-2	V 2~3-A7
77	VI	Ⅱ2-A	127	V-1	V 2-A5	177	Ⅲ-2	V 4-A4	227	IV	V 4-A6
78	IV	Ⅱ5-A	128	Ⅲ-2	V 2~3-A5	178	IV	V 4-A4	228	Ⅲ-2	V 4-A6
79	Ⅲ-2	Ⅱ5-A	129	Ⅲ-2	V 2~3-A4	179	Ⅲ-2	V 4-A4	229	Ⅲ-2	V 4-A6
80	IV	Ⅱ5-A	130	IV	V 2~3-A4	180	V-1	V 4-A4	230	IV	V-A2
81	V-1	Ⅲ5-A	131	IV	V 2~3-A4	181	Ⅲ-2	V 4-A4	231	IV	V-A2
82	Ⅲ-2	Ⅲ5-A	132	Ⅲ-2	V 2~3-A4	182	IV	V 4-A5	232	IV	V-A2
83	VI	Ⅲ5-A	133	Ⅲ-2	V 2~3-A4	183	IV	V 2-A5	233	Ⅲ-2	V-A2
84	V-1	Ⅲ5-A	134	IV	V 2~3-A4	184	-	V 2-D2	234	IV	V-A5
85	VI	IV 1-A	135	IV	V 2~3-A4	185	IV	V 2-D2	235	Ⅲ-2	V-A4
86	IV	IV 3-A4	136	V-1	V 2~3-A4	186	Ⅲ-2	V 3~4-E	236	-	ⅤB 2-A3
87	Ⅲ-2	IV 3-A4	137	Ⅲ-2	V 2~3-A4	187	IV	V 3~4-E	237	Ⅲ-2	ⅤB 2-A3
88	IV	IV 3-A4	138	IV	V 2~3-A4	188	IV	V 3~4-E	238	Ⅲ-2	ⅤB 2-A3
89	IV	IV 3-A4	139	VI	V 2~3-A4	189	Ⅲ-2	V 3~4-E	239	Ⅲ-2	ⅤB 2-A3
90	IV	IV 3-A4	140	V-1	V 2~3-A4	190	V-1	V 3~4-E	240	Ⅲ-2	ⅤB 2-A3
91	V-1	IV 3-A4	141	Ⅲ-2	V 2~3-A4	191	IV	V 2~4-C1	241	Ⅲ-2	ⅤB 2-A3
92	V-1	IV 3-A4	142	Ⅲ-2	V 2~3-A4	192	V-1	V 2~4-C1	242	Ⅲ-2	ⅤB 2-A3
93	VI	IV 4-A1	143	IV	V 2~3-A4	193	Ⅲ-2	V 2~4-C1	243	Ⅲ-2	ⅤB 2-A3
94	IV	IV 4-A1	144	Ⅲ-2	V 2~3-A4	194	IV	V 2~4-C1	244	Ⅲ-2	ⅤB 2-A3
95	V-1	IV 4-A1	145	IV	V 2~3-A4	195	IV	V 2~4-C1	245	-	ⅤB 2-A5
96	V-1	IV 4-A1	146	IV	V 2~3-A4	196	IV	V 2~4-C1	246	Ⅲ-2	ⅤB 2-A4
97	IV	IV 4-A1	147	IV	V 2~3-A4	197	IV	V 2-B	247	VI	ⅤB 2-A4
98	IV	IV 4-A1	148	IV	V 2~3-A3	198	V-1	V 2-G	248	Ⅲ-2	ⅤB 1-A4
99	VI	IV 4-A1	149	IV	V 2~3-A3	199	IV	V 2~3-A7	249	Ⅲ-2	ⅤB 1-A4
100	V-1	IV~V-A1	150	V-1	V 2~3-A3	200	Ⅲ-2	V 2~3-A7	250	IV	ⅤB 1-A4
101	V-1	IV~V-A1	151	IV	V 2~3-A3	201	Ⅲ-2	V 2~3-A7	251	Ⅲ-2	ⅤB 1-A4
102	V-1	IV 4-A3	152	IV	V 2~3-A3	202	V-1	V 2~3-A7	252	V-1	ⅤB 1-A4
103	Ⅲ-2	V 2-A3	153	IV	V 2~3-A3	203	IV	V 2~3-A7	253	IV	ⅤB 1-A4
104	-	V 2-A3	154	IV	V 2~3-A3	204	Ⅲ-2	V 2~3-A7	254	IV	ⅤB 1-A4
105	IV	V 2-A3	155	Ⅲ-2	V 2-A7	205	Ⅲ-2	V 2~3-A7	255	Ⅲ-2	ⅤB 1-A4
106	IV	V 2~3-A4	156	V-1	V 2-A7	206	IV	V 2~3-A7	256	V-1	ⅤB 1-A4
107	IV	V 2~3-A4	157	VI	V 2~3-A2	207	V-1	V 2~3-A7	257	IV	ⅤB 2-A5
108	V-1	V 2~3-A4	158	V-1	V 2~3-A2	208	Ⅲ-2	V 2~3-A7	258	IV	ⅤB 2-A5
109	V-1	V 2~3-A4	159	V-1	V 2~3-A2	209	Ⅲ-2	V 2~3-A7	259	IV	ⅤB 2-A5
110	IV	V 2~3-A4	160	Ⅲ-2	V 2-A4	210	IV	V 2~3-A7	260	Ⅲ-2	ⅤB 2-A5
111	IV	V 2~3-A4	161	IV	V 2~3-A2	211	Ⅲ-2	V 2~3-A7	261	IV	V 4-A5
112	IV	V 2~3-A4	162	IV	V 2~3-A2	212	Ⅲ-2	V 2~3-A7	262	-	V 4-A5
113	VI	V 2~3-A4	163	Ⅲ-2	V 4-A3	213	IV	V 2~3-A7	263	VI	ⅤB 1-A5
114	VI	V 2~3-A4	164	IV	V 4-A3	214	Ⅲ-2	V 2~3-A7	264	Ⅲ-2	ⅤB 2~ⅤB 1-A5
115	IV	V 2~3-A4	165	IV	V 4-A4	215	V-1	V 2~3-A7	265	Ⅲ-2	ⅤB 2~ⅤB 1-A5
116	V-1	V 2~3-A4	166	IV	V 4-A4	216	IV	V 2~3-A7	266	Ⅲ-2	ⅤB 2~ⅤB 1-A5
117	Ⅲ-2	V 2~3-A4	167	IV	V 4-A4	217	IV	V 2~3-A7	267	Ⅲ-2	ⅤB 2~ⅤB 1-A4
118	-	V 2~3-A4	168	Ⅲ-2	V 4-A4	218	Ⅲ-2	V 2~3-A7	268	Ⅲ-2	ⅤB 2~ⅤB 1-A4
119	Ⅲ-2	V 2~3-A4	169	Ⅲ-2	V 4-A4	219	Ⅲ-2	V 2~3-A7	269	Ⅲ-2	ⅤB 2~ⅤB 1-A4
120	IV	V 2~3-A4	170	Ⅲ-2	V 4-A4	220	Ⅲ-2	V 2~3-A7	270	Ⅲ-2	ⅤB 1-A4

番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類
271	Ⅵ	Ⅴ1-A	329	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	387	Ⅲ-2	Ⅴ2-F	445	Ⅳ	Ⅴ2-A2
272	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	330	Ⅳ	Ⅴ2-A5	388	Ⅲ-2	Ⅴ2-F	446	Ⅳ	Ⅴ2-A2
273	Ⅳ	V 4～Ⅴ1-A5	331	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	389	Ⅳ	Ⅴ2-F	447	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2
274	Ⅳ	V 4～Ⅴ1-A5	332	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	390	Ⅳ	Ⅴ1-G	448	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2
275	Ⅳ	Ⅴ1-A5	333	V-1	Ⅴ2-A3	391	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	449	Ⅲ-2	Ⅴ2-A1
276	Ⅲ-2	Ⅴ2-B1	334	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	392	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	450	Ⅳ	Ⅴ2-A2
277	Ⅳ	Ⅴ2-B1	335	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	393	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	451	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2
278	Ⅲ-2	Ⅴ2-C1	336	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	394	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	452	Ⅳ	Ⅴ2-A2
279	Ⅲ-2	Ⅴ2-B1	337	Ⅳ	Ⅴ2-A3	395	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	453	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5
280	V-1	Ⅴ2-C2	338	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	396	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	454	Ⅳ	Ⅴ2-A5
281	Ⅳ	Ⅴ2-D2	339	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	397	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	455	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5
282	Ⅲ-2	Ⅴ2-D2	340	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	398	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	456	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5
283	Ⅲ-2	Ⅴ2-C	341	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	399	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	457	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5
284	-	Ⅴ2-C2	342	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	400	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	458	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5
285	Ⅲ-2	Ⅴ2-C	343	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	401	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	459	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5
286	-	Ⅴ2-C	344	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	402	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	460	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5
287	Ⅲ-2	Ⅴ2-B	345	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	403	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	461	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5
288	Ⅳ	Ⅴ2-G	346	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	404	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	462	Ⅴ1	Ⅴ2-A5
289	V-1	Ⅴ2-G	347	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	405	Ⅳ	Ⅴ2-A4	463	Ⅳ	Ⅴ2-A5
290	Ⅳ	Ⅳ+G	348	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	406	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	464	Ⅳ	Ⅴ2-A4
291	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5	349	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	407	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	465	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4
292	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5	350	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	408	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	466	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4
293	Ⅲ-2	Ⅴ2～Ⅴ1-A7	351	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	409	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	467	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4
294	Ⅲ-2	Ⅴ2～Ⅴ1-A7	352	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	410	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	468	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4
295	Ⅳ	Ⅴ2～Ⅴ1-A7	353	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	411	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	469	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4
296	Ⅴ1	Ⅴ2～Ⅴ1-A7	354	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	412	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	470	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4
297	V-1	Ⅴ2～Ⅴ1-A7	355	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	413	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	471	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4
298	Ⅳ	Ⅴ2～Ⅴ1-A7	356	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	414	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	472	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4
299	Ⅳ	Ⅴ1～Ⅴ2-A7	357	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	415	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	473	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4
300	Ⅲ-2	Ⅴ1～Ⅴ2-A7	358	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	416	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	474	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4
301	Ⅲ-2	Ⅴ2-A6	359	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	417	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	475	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5
302	Ⅳ	Ⅴ1～Ⅴ2-A7	360	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	418	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	476	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5
303	Ⅲ-2	Ⅴ1～Ⅴ2-A7	361	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	419	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	477	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5
304	Ⅲ-2	Ⅴ1～Ⅴ2-A7	362	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	420	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	478	Ⅳ	Ⅴ2-A5
305	Ⅳ	Ⅴ1～Ⅴ2-A7	363	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	421	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	479	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5
306	Ⅳ	Ⅴ1～Ⅴ2-A7	364	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	422	Ⅳ	Ⅴ2-A4	480	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5
307	-	Ⅴ1～Ⅴ2-A7	365	Ⅴ1	Ⅴ2-A4	423	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	481	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5
308	Ⅳ	Ⅴ1～Ⅴ2-A7	366	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	424	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	482	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5
309	Ⅴ1	Ⅴ1～Ⅴ2-A7	367	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	425	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	483	-	Ⅴ2-A5
310	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	368	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	426	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	484	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2
311	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	369	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	427	-	Ⅴ2-A4	485	Ⅳ	Ⅴ2-A2
312	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	370	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	428	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	486	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2
313	Ⅲ-2	Ⅴ2-A3	371	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	429	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	487	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2
314	V-1	Ⅴ2-A4	372	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	430	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	488	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2
315	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	373	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	431	-	Ⅴ2-A4	489	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2
316	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	374	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	432	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	490	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2
317	-	Ⅴ2-A4	375	V-1	Ⅴ2-A4	433	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	491	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2
318	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	376	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	434	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	492	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2
319	Ⅳ	Ⅴ2-A4	377	Ⅲ-2	Ⅴ2-C2	435	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	493	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2
320	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	378	Ⅲ-2	Ⅴ2-C1	436	Ⅳ	Ⅴ2-A4	494	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2
321	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	379	Ⅲ-2	Ⅴ2-C2	437	Ⅴ-1	Ⅴ2-A4	495	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2
322	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2	380	Ⅲ-2	Ⅴ2-C2	438	V-1	Ⅴ2-A5	496	Ⅲ-2	Ⅴ2-C2
323	Ⅲ-2	Ⅴ2-A2	381	Ⅲ-2	Ⅴ2-C2	439	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5	497	Ⅲ-2	Ⅴ2-F
324	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	382	Ⅲ-2	Ⅴ2-C	440	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5	498	Ⅴ1	X 3
325	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	383	Ⅲ-2	Ⅴ2-B	441	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5	499	Ⅲ-2	赤生
326	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	384	Ⅳ	Ⅴ2-B	442	Ⅲ-2	Ⅴ2-A5			
327	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	385	-	Ⅴ2-B	443	Ⅳ	Ⅴ2-A2			
328	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	386	-	Ⅴ2-B	444	V-1	Ⅴ2-A2			

第37表 H-5 グリッド出土土製品観察表 (第159図)

番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ	番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ
511	Ⅲ-2	釣手土器	[4.3]	[4.0]	[1.1]	514	Ⅲ-2	ミニチュア	4.5	8.2	-
512	Ⅳ	ミニチュア	[1.0]	[3.7]	-	516	Ⅲ-2	土俵	[6.8]	[6.9]	[4.6]
513	Ⅲ-2	ミニチュア	3.2	(4.7)	-						

第38表 H-5 グリッド出土土製円盤観察表 (158図)

番号	層位	最大径	重量	分類	番号	層位	最大径	重量	分類	番号	層位	最大径	重量	分類
500	Ⅴ1	5.6	26.9	Ⅱ-A-ア	504	Ⅴ1	5.9	32.8	Ⅱ-A-ウ	508	V	4.5	17.4	Ⅰ-B-ウ
501	Ⅴ1	6.8	5.5	Ⅱ-A-イ	505	V	3.3	6.5	Ⅰ-B-ウ	509	V	3.5	11.3	Ⅰ-B-ウ
502	Ⅴ1	6.5	41.6	Ⅱ-A-ア	506	V	3.6	14.9	Ⅰ-B-ウ	510	Ⅴ1	8.8	22.8	Ⅰ-B-ウ
503	Ⅴ1	5.9	37.7	Ⅱ-A-イ	507	V	4.2	24.5	Ⅰ-B-ウ					

第39表 H-5グリッド出土土師器観察表 (第159図)

番号	層位	径 1	径 2	高さ	重量	分類
515	Ⅲ-2	3.9	3.5	2.6	36.0	IV-Aイ

第40表 H-5グリッド出土土器観察表 (第159～第167図)

番号	層位	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重量
517	Ⅲ-2	尖頭器	Ⅱ	黒色頁岩	[3.0]	2.2	0.9	6.0
518	Ⅲ-2	石鏝	Ⅱ	黒色頁岩	[3.3]	1.9	0.5	1.5
519	Ⅲ-2	石鏝	Ⅱ	チャート	[2.4]	1.7	0.5	1.4
520	-	石鏝	Ⅱ	チャート	3.1	1.0	0.7	1.5
521	Ⅳ	スクレイパー	-	チャート	3.1	2.9	1.2	10.9
522	Ⅲ-2	二次加工剥片	Ⅱ	チャート	6.1	4.5	1.6	38.7
523	Ⅲ-2	二次加工剥片	-	ホルンフェルス	[4.4]	4.2	1.3	31.0
524	Ⅲ-2	石核	-	チャート	4.0	4.1	4.0	80.7
525	-	石核	-	チャート	3.1	2.8	2.8	27.3
526	Ⅲ-2	石核	-	チャート	3.8	5.1	1.9	37.5
527	Ⅲ-2	打製石斧	I	頁岩	9.1	6.8	2.0	136.0
528	Ⅳ	打製石斧	Ⅱ	頁岩	9.2	5.8	2.2	129.8
529	Ⅲ-2	打製石斧	Ⅱ	頁岩	[20.3]	10.2	4.3	881.5
530	Ⅲ-2	打製石斧	Ⅱ	ホルンフェルス	18.0	9.3	3.2	646.5
531	Ⅲ-2	打製石斧	Ⅱ	頁岩	[12.6]	8.5	3.9	482.6
532	Ⅲ-2	打製石斧	Ⅱ	頁岩	14.7	7.4	2.9	304.9
533	Ⅲ-2	打製石斧	Ⅱ	頁岩	[7.4]	6.9	2.0	103.2
534	Ⅲ-2	礫器	Ⅲ	頁岩	5.8	4.7	1.8	47.7
535	-	礫器	Ⅲ	ホルンフェルス	7.3	9.0	2.1	109.5
536	Ⅲ-2	礫器	Ⅲ	頁岩	8.5	14.2	6.0	848.5
537	Ⅲ-2	磨製石斧	Ⅱ	頁岩	17.6	10.4	4.1	1050.2
538	V-1	礫石	I	砂岩	9.1	5.0	2.7	168.2
539	Ⅲ-2	礫石	I	緑色岩	11.9	4.9	3.9	365.5
540	Ⅲ-2	礫石	I	頁岩	[5.3]	3.0	2.3	51.3
541	Ⅲ-2	礫石	-	緑色岩	[7.2]	4.4	[2.5]	102.5
542	Ⅲ-2	礫石	-	安山岩	6.7	6.6	4.4	273.2
543	-	凹石	I	安山岩	5.6	4.9	4.5	172.1
544	V-1	凹石	Ⅱ	安山岩	6.3	5.2	4.3	214.1
545	Ⅲ-2	凹石	Ⅲ	安山岩	7.2	5.5	4.1	218.4
546	-	凹石	-	安山岩	13.0	7.0	4.5	473.1
547	Ⅲ-2	凹石	I	安山岩	7.1	5.8	4.1	108.5
548	Ⅳ	磨石	I	安山岩	6.2	5.9	3.4	194.8
549	Ⅳ	磨石	I	安山岩	7.5	7.1	5.2	421.5
550	Ⅳ	磨石	I	安山岩	6.1	6.7	4.8	284.9
551	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	6.7	6.9	5.1	369.7
552	Ⅳ	磨石	I	安山岩	7.2	7.0	5.7	429.3
553	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	6.1	5.9	4.3	210.6
554	Ⅳ	磨石	I	安山岩	5.4	5.1	3.9	137.0
555	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	5.7	6.1	4.7	242.9
556	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	5.9	6.2	4.1	211.3
557	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	10.9	7.0	4.6	535.8
558	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	15.3	8.3	5.1	1039.9
559	Ⅲ-2	磨石	I	安山岩	13.8	9.2	5.0	962.1
560	Ⅵ	磨石	I	安山岩	17.3	9.8	3.0	633.2
561	Ⅲ-2	磨石	I	砂岩	10.0	8.3	6.1	732.8
562	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	[6.6]	[6.1]	[5.0]	189.4
563	-	磨石	Ⅱ	砂岩	7.2	7.0	4.5	353.4
564	Ⅳ	磨石	Ⅱ	安山岩	7.1	5.7	4.1	243.4
565	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	8.5	5.6	5.0	282.4
566	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	13.3	9.5	5.9	1255.3
567	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	閃緑岩	15.8	9.8	5.7	1374.9
568	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	13.3	9.7	6.4	1153.6
569	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	13.1	9.1	5.3	954.6
570	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	15.2	10.8	5.0	1247.3
571	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	13.9	8.9	5.5	1125.7
572	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	11.2	8.2	5.4	806.9
573	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	9.1	8.0	5.7	549.7
574	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	6.7	5.6	3.6	177.2
575	Ⅲ-2	磨石	Ⅱ	安山岩	5.9	5.6	[2.9]	67.3
576	-	磨石	Ⅱ	安山岩	[6.8]	[6.6]	[4.9]	226.4
577	Ⅳ	石皿	Ⅱ	安山岩	[9.9]	[7.7]	6.6	418.5
578	V-1	石皿	Ⅲ	砂岩	[10.1]	[10.9]	3.0	355.2
579	Ⅲ-2	砥石	I	安山岩	6.6	4.2	2.5	29.0
580	Ⅲ-2	砥石	I	安山岩	[5.1]	4.5	[3.3]	73.7
581	Ⅲ-2	砥石	Ⅱ	砂岩	9.0	[4.2]	1.2	45.6
582	Ⅲ	砥石	Ⅱ	砂岩	[3.8]	2.3	1.2	9.8
583	Ⅳ	砥石	Ⅱ	砂岩	[7.1]	[7.9]	1.9	98.2
584	Ⅲ-2	砥石	Ⅱ	砂岩	[9.4]	[11.2]	2.2	310.8
585	Ⅲ-2	砥石	Ⅲ	砂岩	7.2	6.1	1.8	78.7

番号	層位	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重量
586	V-1	硖石	Ⅲ	砂岩	[9.1]	[6.4]	1.2	107.7
587	Ⅲ-2	硖石	Ⅲ	砂岩	[8.5]	[8.3]	3.9	300.8
588	Ⅲ-2	硖石	Ⅲ	砂岩	[3.3]	[4.6]	1.1	18.3
589	Ⅲ-2	石鐘	I	頁岩	3.8	4.1	1.1	24.3
590	Ⅲ-2	石鐘	I	頁岩	6.6	3.9	1.7	69.9
591	Ⅲ-2	石鐘	I	頁岩	[5.3]	3.8	[0.7]	17.8
592	V-1	石鐘	Ⅱ	安山岩	4.3	3.5	1.2	27.0
593	Ⅳ	石鐘	Ⅱ	安山岩	7.6	5.6	1.7	97.3
594	V-1	石鐘	Ⅱ	頁岩	7.4	4.5	2.1	87.2
595	Ⅳ	石鐘	-	頁岩	7.3	5.7	1.8	84.3
596	V-1	壺飾	-	緑泥片岩	4.1	1.7	0.5	6.1

ク状入組文が施文される安行3b式であろう。

24、276～287は晩期安行式で縄文が施文される鉢類である。24、278は口縁部が外折して開く鉢で、24は3単位の突起が付く。裏側にして、3突起を合わせて正面として見ると、カメカムササビ形の動物形容器にも見える。36、37は台付鉢の脚部で、276、277、279、287は第Ⅷ群第2類の台付鉢の可能性が高い。280、283～286は鉢、281、282は浅鉢である。38は壺であろう。いずれも安行3b式であろう。288、289は第Ⅵ群第2類安行2式の注口土器である。40、41は入れ子の土器で、41の広口壺の中に、40の小型の注口土器が入っていた。安行3b式であろうか。

291、292は安行3b式の細密沈線文土器である。293～300、303～309は紐線文系土器で、地文条線文のもの、沈線間の条線を磨消すもの、地文が無文のものなど、およそ第Ⅵ群第2類から第Ⅶ群第2類の土器群が含まれる。301は晩期の条線文土器である。

14、16、310～329は沈線文と刺突文が施文される土器群で、晩期中葉の第Ⅷ群土器である。14、310～313は波状口縁、16、314～326は平口縁深鉢形土器である。およそ310～323は安行3c式、14、16、324～326は安行3d式となるうか。

10～13、15、43、47、330～376は沈線文のみ施文される第Ⅷ群土器の深鉢形土器で、第2類安行3d式である。10～15、330～349は波状口縁、17、18、43、47、270、350～372は平口縁である。420、425、426は第Ⅷ群の深鉢形土器である。

28、30、377～381は安行3d式の鉢で、383～386は台付鉢の脚部、39、387～389は壺形土器、390は注口土器である。31～34は第Ⅷ群の無文の鉢形土器である。

391～403は晩期大洞系の土器群で、391、392、402は深鉢土器と思われる。26、27、393～401、403は鉢形土器である。26、27は佐野式系のクランク状の入組文を有する鉢である。391、393、394は大洞BC式、392、395、397は大洞C1式、396、398～401、403は大洞C2式であろう。

35、404、405、424は細かな刺突文や円形貼付文を施文する第Ⅷ群第4類の天神原式系の土器群である。35は安行3d式並行の台付鉢であろうか。

29、42、406～418は第5類の前浦式土器で、419もその影響を受けているものと思われる。

421～423は第Ⅷ群の紐線文系土器で、肥厚口唇部に押圧文や刺突文が施される。

427～436は第Ⅷ群の紐線文系土器である。口縁部が凹線状の沈線で区画されるものや、ケズリで段状に整形されるものもある。

53、437～442、453～463は口縁部が内湾するもの、48、443～449は口縁部が緩く開くか、立ち気味のもの、49、50、450～452は口縁部が強く開くもの、51、52、54、464～474は胴部が括れ、口縁部が開く器形の無文土器である。

53、475～495は折返状の有段口縁部を有する無文土器で、482、495は2段の段帯部を有する。口縁部に指頭状圧痕を残すものや、輪積成形痕を残すものもある。496は2段の段帯部を有する鉢である。

497は無文の小型の壺である。55～70、498は各時期の各器種の底部である。

弥生土器（第158図499）

第158図499は変形片工文系のモチーフを有する弥生中期の深鉢形土器である。

土製品類（第158図500～第159図511～516）

第158図512が後期前葉と思われる蓋、513、514がミニチュアの鉢形土器で、513が晩期、514が後期末葉と思われる。511は後期中葉の釣手土器の把手の破片である。土製円盤は11点出土した。505は小型であるが、丁寧な研磨が施されている。

515は白形有文タイプの耳飾りであり、中央部に1個、周囲に5個の瘤状貼付文が付く。

516は頭部が現存する中実土偶で、顔面が斜めに付き、目より上部が欠損する。鬘状の頭髪は残り、左右に円孔が空く。あごのラインは列点で縁取られ、うなじ部分に縦位の集合沈線が施文される。晩期中葉と思われる。

石器（第159図517～第167図596）

第159図517は下半部の欠損した尖頭器で、両面加工が施されている。

518、519は有茎の石鏃で、ともに先端と基部が欠けている。

520は柳葉形を呈した石鏃で、摘まみ部と鏃部の区別が不明瞭なため、Ⅱ類と判断した。

521は台形を呈したエンドスクレイパーである。

527～533が打製石斧である。527は平面形が分銅形を呈する。528、529は楕形の打製石斧で、529は刃部が欠損している。530～532は短冊形の打製石斧で、531が基部を、532が正面左側面を欠く。533は打製石斧の基部片である。

534～536は原礫面を残す礫器で、特に536は両面加工を施すことで刃部を作り出している。

537は乳棒状を呈した磨製石斧で、刃部に刃こぼれが認められる。

538～540は擦痕を有する蔽石である。いずれも長楕円形の礫を素材に用いている。541は磨製石斧の基部を転用した蔽石である。542は長楕円形の磨石が欠損した後、欠損部を使用面として蔽石に転用している。

543、544は凹石Ⅰ類で、周縁が研磨によって整形されている。545は凹石Ⅲ類で、正面裏面に加え、上面と下面にも磨り面が認められる。

548～561が磨石Ⅰ類、562～576が磨石Ⅱ類である。特に、549の正面には赤色顔料が認められる。

577は石皿Ⅱ類で、縁に凹痕を有する。578は石皿Ⅲ類である。

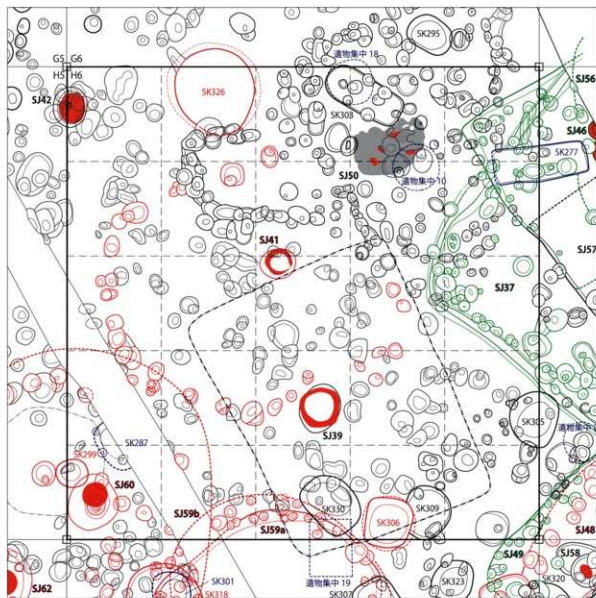
579～588は砥石で、特に579、580は複数の面を砥ぎ面として利用している。581～584は溝状の砥ぎ面を有する。

589～595は石錘で、589～591が器体中央に溝状の擦痕が走るⅠ類、592～594が上下両端を打ち欠いて袂りを作り出したⅡ類である。595は上下両端を打ち欠いてはいるものの、袂りを作り出すに至っていないことから石錘の未成品と判断した。

垂飾は1点出土した。596は両側面及び上下両端に刻みを有する。正面裏面ともに上部と下部の2箇所凹穴を有するが、ともに貫通するまでには至っていない。また、下部の凹穴が同じ軸で穿孔されているのに対し、上部の凹穴は軸がずれて穿孔されている。

その他、二次加工剥片が2点（522、523）、石核が3点（524～526）出土した。

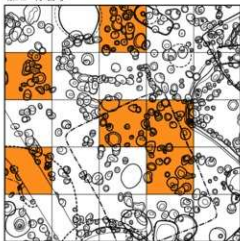
9 H-6グリッド出土遺物



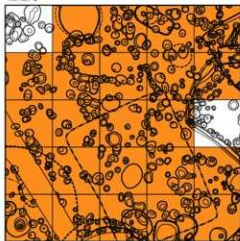
遺構	小グリッド	所属時期	遺構	小グリッド	所属時期	遺構	小グリッド	所属時期
S J 37	5 9 10 14 15 20	後期後葉	S J 58	20 24 25	不明	S K 305	20 25	前期中葉の可能性がある
S J 39	18	後期後葉以降	S J 59 a	22 23	後期前葉	S K 306	24	後期前葉
S J 41	3 5~8 11 13 14 16~19	後期中葉	S J 59 b	22 23	後期前葉	S K 309	24 25	不明
S J 42	1	後期後葉から晩期前葉	S J 60	16 21 22	後期前葉から後期中葉	S K 326	2	後期前葉
S J 46	5 10	後期中葉から後期後葉	S J 62	21	後期前葉から後期中葉	S K 330	23 24	不明
S J 49	25	後期中葉から後期後葉	S K 277	5 10	晩期前葉から晩期中葉	遺物集中 10	4 9	晩期前葉から中葉
S J 50	2~5 7~10 14 15	後期中葉以前	S K 287	16	晩期前葉から晩期中葉	遺物集中 18	3 4	晩期中葉
S J 56	5 10	後期中葉から後期後葉	S K 299	21	後期中葉	遺物集中 19	23 24	晩期前葉
S J 57	10 15	後期後葉以前	S K 303	3 4	不明			

第168図 H-6グリッド検出遺構

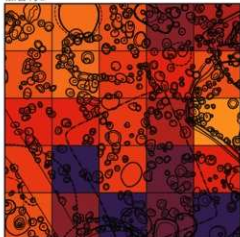
加E・称名寺



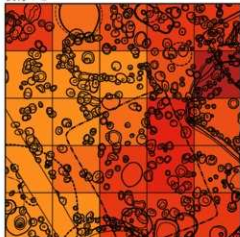
堀之内



加曾利日



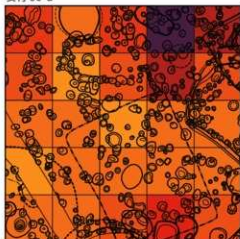
安行 1・2



安行 3a・b



安行 3c・d



第169図 H-6グリッド時期別濃淡図

概要 (第168図、第169図)

本グリッド内には、後期中葉前後の住居跡3軒 (S J 42、60、62)、柱穴列2列 (第4、5号)、土壇2基 (S K 294、299)、焼土跡2基 (焼土跡18、19) が検出されている。各住居跡の中心である炉は、いずれも本グリッドから外れており、隣接のグリッド内に位置する。時期の確認された遺構の大半が後期中葉前後のもので、第42号住居跡の位置する⑤小グリッドでは、曾谷式から安行1式にかけての破片が多く出土している。

全体的にⅢ層からは第Ⅷ群の安行3c式、3d式が多く出土しており、Ⅳ層以下では第Ⅴ群の加曾利B2式から曾谷式土器が多く出土する傾向にある。土製品が少ないのも、Fライン、Gライングリッドと同様である。

土製円盤は合計112点が出土している。全体から満遍なく出土しているが、グリッド北東側の④⑤⑨⑩⑭⑮小グリッドからはそれぞれ7点以上出土しており、特に⑩小グリッドからは20点が出土している。円盤は第Ⅵ群安行1式から2式の土器片を使用していることから、この地区にある後期後葉のS J 37、57あたりとの関係が窺われる。

縄文土器 (第170図1～第248図1808)

出土土器は第Ⅴ群と第Ⅷ群が中心となっている。

第Ⅱ群土器は少数ではあるが、各型式が出土している。第195図300はRとLの側面圧痕を施す繊維土器の第1類花積下層式土器である。301～304は第2類の開山式土器である。305～307は無繊維土器で第4類の諸磯a式土器、308は第5類の諸磯b式土器である。309～317は諸磯b式に平行する東関東系の貝殻ロッキング文を特徴とする浮島式土器である。

318、319は沈線間に列点文が施文される第Ⅳ群第2類の称名寺2式土器である。320～336は第Ⅳ群第3類の堀之内1式土器である。334以外は全て地文縄文上に文様が施文される。337～361は第4類の堀之内2式土器である。337～345

は口縁部に1～3本の隆帯が巡るもので、344は口縁部裏面に内文を有する。354、355、359は胴部で括れ、「8」字状貼付文を起点に放射状の沈線が垂下される。

3、362～369は第Ⅴ群第2類加曾利B2式の3単位把手の深鉢形土器である。3、362～366は把手中央部に円窓が空く。372は3と同一個体である。1、373～389は口縁部が内折し、胴部が括れる深鉢形土器である。2は口縁部が直線的に開く深鉢である。390～396は内湾する口縁部が開く器形で、390、391は口縁部が球形状を呈し、菱形区画文が施される。397～402、820は外反する口縁部が大きく開き、403～405は口縁部が内湾する。

406～411はB2式の内湾しながら大きく開く波状口縁深鉢で、波頂下及び波底部の縄文帯を縦線状沈線で区切っている。

4、414～421は胴部が屈曲するB2式からB3式の大森タイプの深鉢で、4、418～421は同一個体と思われる、肩部が縄文帯で区画され、胴部が沈線で区画されて稜線状沈線が施文される。

422～432はB2式から曾谷式の斜線土器で、422～425は5単位波状口縁、426～428は平口縁深鉢で、羽状沈線が施文される。429、430、432は浅くて細い斜行沈線が施文されている。曾谷式と思われる。431、433、434は口縁部が無文の5単位波状口縁土器で、沈線で胴部が区画されるものと思われる。B3式であろうか。

5、29、31、435～453はB2式から曾谷式の格子目沈線土器である。438～447は地文に縄文を施文するB2式の遠部第四類系の土器で、他は地文に縄文を施文しないものである。452は格子目文ではなく斜線文が施文される。448～450は浅い沈線で格子目文が描かれ、29、31は粗い格子目文が全面に施文される曾谷式であろう。

6、7、454～461、464は縄文施文の5単位波状口縁深鉢で、口縁部に刻みが巡るものが多く、

6は胴部に沈線の逆「コ」字状のモチーフが描かれる加曾利B 3式、7は胴部に縄文施文される上下対弧文が描かれるB 3式から曾谷式であろう。466は波状口縁部下が膨らむ器形で、467は口縁部が開く波状口縁土器である。462、463、465は平口縁深鉢であるが、胴部には磨消縄文の文様が描かれるものと思われる。

468～479は口縁部が内湾する深鉢形土器で、大半がB 3式から曾谷式の土器群である。

25、27、481～507は口縁部に押圧隆帯を巡らせる深鉢で、27、481～493は胴部の地文縄文上に平行沈線を施文するものである。27、481～483は押圧隆帯から蛇行沈線が垂下するもので、加曾利B 1式からB 2式にかけて位置付けられよう。他はB 2式である。494～502は胴部が縄文のみの深鉢で、25、503～507は沈線や条線の垂下モチーフが描かれる。508～510は条線文のみの深鉢で、510は地文に縄文を有する。

11～13、511～519、521～527、553は第V群第4類曾谷式、高井東式の波状口縁深鉢形土器で、517、521、522は緩い波状を呈する。12、13、516～519は高井東式の大波状口縁土器である。波頂部から垂下する刻目隆帯、円柱状の把手、波底部への隆帯貼付、円形貼付文などを特徴とする。

8～10、520、528～552、554～558は曾谷式の平口縁深鉢である。8～10、554～558は胴部で括れ、口縁部が内湾しながら開く器形で、8、9は頸部に弧線文、胴部にも磨消縄文や弧線文が、10は頸部に縄文帯が施文される。9の口縁部には耳状の貼付文が付き、安行1式との区分が難しい土器である。528～540は短く内折する口縁部が大きく開く器形で、口縁部に平行沈線や弧線文、円形貼付文などが施文されることを特徴とする。529、532は大森タイプ系の弧線文が施文されており、532は口縁部が短い、大森タイプの可能性もある。541～547は胴部に斜線文が施文されるもので、548～552は無文の深鉢である。559、

560は口縁部に多条の平行沈線が施文される。

561、562は平口縁の斜線文土器で、561は羽状沈線、562は斜線が施文され、561の口縁部には縦位の貼付文が付く。563～567は5単位波状口縁深鉢形土器で、564は浅く細い沈線の格子目文が描かれ、565には部分的な縄文が施文され、566、567は無文である。

14、15、480は曾谷式の瓢形土器で、14の口縁部付近には円孔が穿たれている。

16、18～21、568～588、590～592、594～603は加曾利B式から曾谷式の口縁部が内湾して開く鉢形土器である。568は地文縄文上に横位の沈線帯が施文されるB 1式、16、569～575、578～583はB 2式、584～588、590～592はB 2式からB 3式、18～21、577、594は曾谷式であろう。596、597は縄文が施文され、他は無文土器である。内折する口縁部との肩部に段又は稜を有するものはB 2式、平坦になるのはB 3式から曾谷式であろう。

604～608は浅鉢で、604は内文を有し、605、606は縄文施文、607は無文である。608は逆「の」字文を伴う平行沈線帯の内文を有し、口縁部裏面に小さな円形刺突文列が施文される。

23、24、105は加曾利B 2式の台付鉢の胴部と脚部であり、609は注口土器と思われる。口縁部の区画に三角状の刻列が使用されていることから、曾谷式もしくは安行1式になる可能性もある。

26、28、30、610～649は口縁部や胴部に押圧隆帯を巡らす第V群第2類加曾利B 2式から第4類曾谷式の紐線文土器である。胴部で括れて口縁部が開き、横位弧状の沈線文を施文するものが古く、口縁部が内傾気味になり沈線文が斜位から縦位方向へと変化するものは新しい傾向にある。また、地文に縄文を施文するものは遠部第一類系の土器で、多くは加曾利B 2式である。

650は条線文上に、651、652は粗い縄文の上に粗い斜線文が施文されるものである。

653～669、671は縄文のみ施文される粗製の深鉢形土器である。670は無文土器である。672～674は口縁部が大きく開く無文深鉢形土器である。

675～725は安行式の大波状口縁土器を中心とした、縄文施文の波状口縁深鉢形土器である。

675～683は第VI群1類の安行1式の波状口縁深鉢形土器である。675～678は把手部に円孔が空く。684～686は横刻縦瘤を有する第2類安行2式である。685は刻目隆帯で区画を行っている。

32～35、687、689、690は第VII群第1類の安行3a式から第2類の3b式の深鉢である。36～41、688、691～705は2段の舌状の豚鼻瘤を施文する第2類安行3b式である。把手は扁平化し、三角区画文が単純化する傾向にある。

42～45は波状口縁を利用した菱形文等が施文される第3類の姥山II式系の土器群である。44には天神原式系の円形貼付文が付けられ、胴部が刺突文帯で区画されていることから安行3c式段階まで降る可能性がある。45は裏慈悲寺式系モチーフに縄文が施文されおり、安行3c式段階まで新しくなる可能性もあるが、胴部が縄文帯で区画されていることから、まだ安行3b式段階と捉えた。

707～725は波状部に三叉文、円形文、貼付文、渦巻文などに天神原式系のやや新しい要素も見られ、第2類の安行3b式から3c式にかけての土器であろう。

46～62、726～878は安行式の縄文施文の各種平口縁深鉢形土器である。

726～760、762～764、766は胴部で括れ口縁部が開く第VI群第1類安行1式の深鉢形土器である。口縁部に726～745は1瘤、746～750は縦位2瘤が付き、726は曾谷式になる可能性もある。748は瘤の間に押圧状の割痕があることから安行2式にならうか。767は刻目隆帯で文様帯が区画され、沈線の三角文が施文される、安行2式であろうか。

50、761、765、768～795は口縁部が内湾し、胴部が膨らむ深鉢形土器である。716、765、768

～775は安行1式で、771、773、774は晩期の可能性もある。776、781、782は安行2式、50、777、780、783～795は安行3b式を中心とした晩期の土器群にならう。

51、54、796～809は口縁部が内湾する深鉢で、多くは瓢形土器であろう。51、796～806は安行1式、807、808は安行2式から安行3a式、54、809は安行3b式あたりであろう。

60～62、810、811は口縁部が直線的に開く深鉢である。810、811は玉抱入組文が施文される安行3a式と思われる。60は入組文が施文される安行3b式である。812～819、821～827は胴部が緩く括れる深鉢で、磨消縄文でモチーフが描かれるもので、安行3b式を中心とするものであろう。

46～49、828～847は頸部付近で強く括れる器形で、46～49は口唇部に2個対の突起を有し、46、47は外反する口縁部が縄文帯となり、胴部に入組文が施文される。48は頸部に弧線文と三叉文が、49は頸部にステッキ状文が施文され、それぞれ縄文が施文される。安行3b式である。

828～836は入組文、三叉文、入組渦巻文、弧線文などを施文し、837～847はステッキ状文や三日月文等を施文する安行3b式土器である。

52、53、55～56、58、848～855は口縁部が内傾して胴部が膨らむ器形である。57、59、856～867は短く外反する口縁部が内傾して胴部が大きく膨らむ深鉢で、口縁部に縄文帯を有することを特徴とする。55、56、848～851は姥山II式系のモチーフの影響を受けており、安行3b式から3c式にかけての土器群であろう。58は口縁部に、860、861は沈線間に刺突文が施文されており、やはり安行3b式から3c式にかけての土器群と思われる。860、861、863～867は胴部の張りが強く、壺の可能性もある。

63、64、868～878は胴部破片で、64、870は安行1式、868、869は安行2式から3a式あたり、

他は安行3 b式であろう。

71~115、879~951は安行式の鉢、浅鉢、台付鉢、壺、注口土器で、縄文施文の土器群である。

879~883は安行1式の台付鉢形土器、936~938は脚である。106は安行2式の脚部であろう。

89~104は晩期安行3 b式の台付鉢である。脚部には2~3段の透かしが見られる。101は台の接合部にレンズ状の突帯文が施文されており、やや新しくなる可能性がある。

71は第VI群第1類安行1式の鉢である。口縁部に縦瘤が施文される。884~887は貼付文系の鉢で、安行2式から3 a式にかけてのものである。

72、73、75~81、84~86、888~932晩期安行式の鉢であるが、台付鉢も含まれている。大半が安行3 b式である。84~86、888~899は口縁部が内湾気味に開く鉢で、76、77は内湾する器形である。72~75、78~81、900~932は頸部で括れ口縁部が外反する鉢である。各種の器形に三叉文、入組三叉文、入組文、弧線文、ステッキ状文、帯縄文などが施文されている。

74、82、83、88は浅鉢形土器で、74、83は多角形の弧線文と三叉文を組み合わせたモチーフが描かれ、82は豚鼻状の貼付文が付き、88は縄文と結節回転文が施文されている。87は皿形土器で、口唇部に貼付文と胴部に縄文帯が施文されている。

110~115、940~946は壺形土器である。110、111、113、114、941~944、946は安行3 b式、112は羊歯状文の要素が組み合わさった3 b式、115、940は列点を挟む沈線帯で口縁部が区画される、3 b式から3 c式にかけての壺である。

945は瘤付土器系の壺口縁部で、後期安行式に伴うものであろう。

107~109、947~951は安行3 b式の注口土器であろう。注口部が付くのは950のみで、他は想定である。

65~70、952、953は安行式の底部であり、65

~67は安行3 b式の底部と思われる。952、953は角底であり、晩期安行式に伴うものであろう。

116~120、954~998は細密沈線文土器である。954~957は大波状口縁土器、116~118、958~961、963~967は口縁部が内湾気味に立つ深鉢形土器、962、968~971、973、974、976~979、982~991はやや胴部が括れ、口縁部が開く深鉢形土器、972は瓢形土器、975は口縁部が内湾する深鉢形土器、119、994~996、998は鉢形土器、997は浅鉢形土器、120は壺形土器に細密沈線文が施文されている。大半は安行3 b式であるが、965、976、口縁部の屈曲する983~985などは安行3 c式段階、973、996、997は安行3 d式段階に位置付けられよう。

125~129、999~1044は条線文系土器である。999~1002は胴部で括れ、肥厚しない口縁部が開く器形で、口端部に刻みを巡らし、横位弧状の条線文を施文するもので、第V群第4類曾谷式から第VI群第1類安行1式にかけてのものであろう。125、1003、1012、1013、1017~1019、1020は胴部が括れ、肥厚する口縁部が外反する器形で、条線文が斜位から縦位方向へと変化するものである。口端部に刻みを施さない1003は珍しく、他は条線文を施文し、口縁部を沈線で区画して、最後に口端部に刻列を施す。1017~1023は口端部ではなく、沈線区画部分に沈線の代わりに連続刺突文が施文される。変化の方向性であろうか、口端部刻みと口縁部区画沈線が融合化しているようである。1014~1019、1021、1022~1024は口縁部が内湾するもので、沈線部分に刺突列が施される。第VI群第1類の安行1式から第2類安行2式であろう。

126は口縁部の刻みが口唇部より下位に施文され、沈線で区画される。条線文も短く粗雑な施文である。安行2式から3 a式にかけてであろう。127~129、1025~1044は口縁部が内湾する器形で、口縁部への刻みや沈線区画文が消失し、条線

文も粗雑な施文や間隔の広いものとなる。第Ⅶ群から第Ⅷ群の晩期安行式の条線文土器である。

121、1045～1085は紐線文系土器である。1045～1048は胴部で括れ口縁部が開く器形で、肥厚しない口縁部に押圧隆帯を巡らすもので、横位弧状の条線文を施文する。曾谷式から安行1式であろうか。1049は口縁部に刻列を施す。1050～1060は口縁部が内湾し胴部が張る器形で、肥厚口唇外端部に押圧隆帯を巡らし、横位弧線状の比較的密な条線文を施文する。

1052、1061は口縁部が沈線区画されるが、隆帯を貼付する部分にあらかじめ溝を削り出し、その溝に隆帯を貼付し、押圧で圧着させている。沈線は隆帯貼付前に施文されている。安行2式から安行3a式であろう。

1062～1064は口縁の肥厚部末端に刻列と沈線を施文するもので、条線文の手法が紐線文系土器へ影響を与えている。1065のような口縁端部への連続刻みも押圧隆帯の退化というよりも、条線文土器との関係で捉えられよう。比較的条線文も密であることから、安行2式から安行3a式に位置付けられよう。口縁部を無文にし、粗い条線文を描く1067、1068はさらに新しく、晩期の中葉位まで存在しよう。

121、1069～1078は地文に条線文が施文されており、平行沈線を施文するものでは、沈線間が磨消されて無文化するものもある。安行2式から安行3a式であろう。

地文条線がなくなる1079、1081～1085は沈線間に縄文を施文しており、安行3a式以降と思われる。押圧隆帯は殆ど刻み状の加飾となっている。1066は地文に条線が残るが、1086～1094は口縁部及び胴部区画内に縄文が施文されている。安行3a式から3b式にかけてであろう。1094は列点が施文されることから、安行3c式まで下がる可能性がある。

122は紐線文系の土器であるが、口縁部に加飾

はなく、胴部が刻み帯で区画される。

132、133、135、137、138、143～146、150、154～156、1095～1177は沈線間に刺突文が施文され、縄文施文のない第Ⅷ群土器で、第1類安行3c式を中心とする深鉢形土器である。

132、133、135、137、138、1095～1101は波状口縁深鉢、143、145、146、150は平口縁深鉢である。波状口縁深鉢では132、133、135、1096、1098、1099は縦位区画＋菱形区画文のような姥山Ⅲ式系のモチーフが施文される。入組三叉文や入組三角形文は少ない傾向にあり、1100や1101のように刺突文を挟む沈線帯で、三角形区画や褶曲文区画を施すものは安行3d式にかけてのものである。

平口縁深鉢でも143、1109、1112、1118のように縦位区画文や、1119、1120のように楕円区画文のモチーフは姥山Ⅲ式系のモチーフである。平口縁で姥山系のモチーフを有する土器は、複列の細かな刺突文が施されるのが特徴的で、天神原式との関係も考慮される。

144のように胴部の区画のみに列点文施文するものは、安行3d式に多い。1150～1164のように口縁部が内傾する紐線文土器では、口縁部に列点を有するものが多い。

123、124、134、136、139～142、144、148、149、151、152、1178～1295は沈線のみで施文される第Ⅷ群土器で、主に第2類安行3d式を中心とする土器群である。全体的に波状口縁は山が低くなる傾向にあり、平口縁化する土器が多いようである。各種のタイプが存在するが、胴部が括れるものや口縁部が内湾する土器では、胴部の張りが強くなる傾向がある。

144は頸部が括れて胴部の膨らみ、やや丸底に近い器形である。胴部が刻みを挟む沈線帯で区画され、上半部に大きな円形渦巻文の中に入組三叉文が5単位で施文されており、その間の上下の区画に入組渦巻文が施文されている。下半部には上

向きの連結弧線文が施文される。

1178～1202は胴部で括れ、緩い波状口縁が開く器形が多く、波状下に入組渦巻文や入組三叉文等を施文し、横位に展開するモチーフを描くものが多い。波状口縁では幅広の文様帯を有するものは少ない。

1203～1228の平口縁で入組文系のモチーフを施文する土器群は波状口縁土器と同様なモチーフを構成するが、1224のように内湾する口縁部に幅広の文様帯を有する土器は大型化し、モチーフを重層させるものが多い。他に、安行3b式に系譜する菱形文、入組渦巻文、ステッキ状文を単純化したものや、姥山Ⅲ式系の楕円区画文が存在する。沈線文のみでは安行3c式段階なのか判然としないが、楕円区画文等は安行3d式まで系譜する可能性がある。また、口縁部が無文となる紐線文系土器では、時期判定は難しいが、同様なモチーフを沈線のみで施文するものがある。

157～184、1309～1314、1317～1328は第Ⅷ類の台付鉢、鉢、浅鉢、皿類である。166～173、1335、1950は台付鉢である。鉢類で列点文を有するものは安行3c式、167もクランク文を有する安行3c式であろう。他の有文土器は安行3c式から3d式、無文の大半は安行3d式であろう。1329～1334は壺形土器で、1334は注口土器の可能性もある。185は小型の鉢、186、187は小壺である。

188～197、1337～1368は大洞系の土器群である。188、189、1339、1341は第Ⅷ群第5類の大洞B C式の深鉢である。188は頸部の区画文に、189は口縁部の文様として羊歯状文が施文される。1339、1341の口縁部の「二溝間の截痕」にはミガキがかけられている。190、191、1337、1338、1340は鉢類で、胴部の羊歯状文は大きく入組状を呈しており、新しい様相を示す。1360は壺で、まだ大洞B C式段階であると判断される。

1342、1344は第Ⅷ群第6類大洞C 1式の深

鉢で、1342の口縁部の「二溝間の截痕」は刺突文状を呈しており、影響を受けていると思われる1344は刺突文列を施文する。192～194、196、197、1343、1345～1353は鉢類である。1348、1349は安行3b式に近いモチーフが施文されており、大洞C 1式でも古段階の様相を示している。192～194は比較的細かな雲形文が施文されており、196、197は雲形文が大型化している。1361～1364は大洞C 1式からC 2式にかけての壺である。

1367、1368は第Ⅷ群第7類大洞C 2式の格子目縷糸文が施文される深鉢、195、1354～1359は鉢類、1361は縷糸文施文の壺である。1354は口縁部に刺突列を施し、1355～1358は口唇部下に無文帯を有する鉢で、大柄の雲形文が施文されている。

203、204、1315、1316、1369～1387は第Ⅷ群第5類の前浦式土器で、1315、1316はブレ前浦式となろうか。1384、1386、1387は削り出し状の縄文帯で「の」字状文等が施文されているが、この縄文帯はモチーフが削り出された後に、さらに隆帯が貼付されて盛り上がりを見せているもので、剥落部分から隆帯の貼付が確認される。

198～202、1388～1390は円形貼付文が施文される第4類の天神原式系土器群である。198～200、1388～1390は波状口縁深鉢形土器で、198、199は波頂部下に姥山系の菱形区画文が施文されている。202は対向弧線間に縄文を施文するもので、円形貼付文を起点に菱形を構成している。器形から曾谷式の注口土器の可能性もある。

1392～1411は地文から条線文が消失した紐線文系土器で、第Ⅷ群第1類安行3a式の後半位から第Ⅷ群第1類安行3c式の前半にかけての土器群であろう。

205～246、1412～1806は第Ⅷ群の粗製土器である無文深鉢形土器である。本グリッドからは無文土器が多量に出土していることから、簡潔に分

類しておく。

A) 口縁部が肥厚するもの

A 1 : 外側に肥厚するもの

A 2 : 内側に肥厚するもの

B) 口縁部が内湾するもの

B 1 : 内湾するもの

B 2 : 外反状に内傾するもの

C) 頸部で括れるもの

C 1 : 括れの強いもの

C 2 : 内湾状に括れるもの

D) 段帯状の口縁部のもの

E) 輪積成形痕を残すもの

E 1 : 折返状口縁になるもの

E 2 : 折返状口縁にならないもの

F) 製塩土器

に分けられる。その他に、ほぼ同じ特徴を有する鉢類や、壺がある。

深鉢には少数ではあるが波状口縁があり、頸部が括れるタイプの深鉢では口縁部に押圧状の刻みを施すものが散見される。

A) の口縁部が肥厚するものは、内湾する器形が殆どである。外側に肥厚する A 1 は 230、236、1421～1525 のように、紐線文系の無文土器が多い。内側に肥厚する A 2 は 212、1426～1434、1623～1629、1633、1635 に見られ、粗い造りの土器に多く見られる。

B) の口縁部が内湾するものは、大半の無文土器が該当する。B 1 は 213～215、1440～1535、B 2 は 1567～1577 が該当する。

C) の頸部が括れるものでは、226～229、1578～1585、1599～1617 は強い括れの C 1 である。220、221、1586～1598 は内湾状に括れる C 2 である。

D) の段帯状口縁部のもは造りのしっかりとした土器で、輪積成形痕が残る折返状口縁土器との識別が難しいが、ケズリなどの整形がしっかりと施され、輪積痕が残らないものである。231

～235、237～243、1637～1688 が相当する。

E) の輪積成形痕が残るものは、大半が 1 段の折返状口縁部を有する。折返状口縁は輪積成形痕を残す粗製土器に多く見られる。1689～1750、1754～1767 は E 1 で、244～246、1751 は折返状口縁のない E 2 である。

F) の製塩土器は非常に薄い土器で、口縁部が削ぎ落したような角頭状を呈するものが多い。強く被熱しており、橙赤褐色を呈し、脆いものが多い。1799～1808 が相当する。

深鉢形土器には少数ではあるが波状口縁土器があり、頸部が括れる C 類では口唇部に押圧状の刻みを施すものが散見される。

深鉢形土器の他に、同様な特徴を有する鉢形土器や壺形土器がある。

247～299、1807、1808 は各時期各器種の底部である。様々な形態があり、後期中葉から晩期中葉までの底部が含まれている。

土製品類 (第248図1809～第254図1958)

第248図1809は鉢の、1810、1811は壺の、1812は台付鉢のミニチュア土器で、1813が釣手土器の把手部分の破片、1814が小型の土器片錘である。

土製円盤は1815～1926の112点で、1882は方形状に研磨されており、仕上がり段階で円形と方形の2形態があったことが想起される。

耳飾りは15点出土した。1927、1928、1936～1939、1941は環状形、1929～1931は台形、1932、1940は白形、1933～1955は千網型である。千網型の耳飾りは精選された土で作られ、透かし彫りの秀品であるが、完形品はなかった。

人面付土器は1点、土偶は8点出土した。1942は人面付土器の顔面の破片で、目と鼻が現存する。眉と鼻が一連の背の高い隆帯で表現されており、目は抉られている。

1943は右胸部の破片で、中実土偶である。右乳房から右脇まで現存し、背面は欠損する。胸中央部に凹線状の幅広の窪みが垂下する。晩期中葉か。

1944はみみずく形土偶の頭髪部分である。晩期前葉か。

1945は遮光器土偶の右腕である。接合部分に隙間が空く。大洞C1式か。

1946は中実土偶の左腕、1947は中実土偶の右腕である。1948は中実土偶の右足で、横位の刻み状の沈線が施文される。1949はみみずく土偶の左足である。足首まで縄文が施文され、2本沈線が垂下する。

1952は中実土偶の右足で、太腿部あたりに羽状沈線帯が巡る。羽状沈線は粗い集合鋸歯状に施文されている。後期の加曾利B2式からB3式あたりの土偶であろう。

土版は7点出土した。いずれも破片で、表裏面に沈線のモチーフが描かれている。1953、1955、1957には細かな刺突文が充填施文され、1956には「I」字文状の印刻が施されている。晩期中葉の土版である。

石器 (第255図1959～第272図2160)

第255図1959～1961は両面加工の尖頭器で、平面形が概ね左右対称形を呈している。1961は著しく風化している。

1962～1967は石鏃で、1962～1964が無茎の石鏃、1965～1967が有茎の石鏃である。1967は逆刺がなく、平面形が木葉形を呈する。1963は先端を欠いており、欠損面には極状剥離が認められる。その他、1964が上半部を、1967が基部先端を欠いている。

1968、1969は石錐である。1968は摘まみ部と錐部の間に括れがあることからI類と判断した。1969は摘まみ部と錐部の境が不明瞭なため、II類に分類した。

1970はスクレイパーI類である。正面は器体中央の一部に原礫面を残すものの、ほぼ全面に加工が及んでいる。一方、裏面は大半を原礫面が占めており、周縁を僅かに加工しているに過ぎない。1971はスクレイパーII類で、両面加工によって

整形されている。

1980～1983は分銅形の打製石斧である。特に1980、1982はともに刃部に縦位方向の擦痕が認められる。また、括れ部にも擦痕が確認できるが、両者で様相が異なる。1980は正面右側面にのみ縦位方向の擦痕が観察できる。1982は両側面に横位方向の擦痕が認められる。1982は裏面中央にも一部横位方向の擦痕を有する。1984は打製石斧の胴部で、正面左側面に括れ部が認められることから、I類と判断した。1985は短冊形を呈する打製石斧である。

1985、1987、1988は基部の一部を欠く打製石斧、1989～1991が打製石斧における各部の破片資料である。1992は乳棒状の磨製石斧を転用した打製石斧である。

1993が礫器I類、1994が礫器II類、1995～1999が礫器III類である。1993～1995、1997、1999が両刃、1996、1998が片刃である。

2000～2003は定角式の磨製石斧で、2000が刃部片、2001～2003が基部片である。2004は乳棒状の磨製石斧で、刃部に刃こぼれが確認できる。また、刃部を除く全面で敲打痕の後に擦痕が付けられている状況が観察でき、当時の製作工程の一部を読み取ることができる。2005は磨製石斧の刃部片で、2006、2007は定格式の小型の磨製石斧である。

2008～2016が擦痕を有する敲石で、2017～2020が擦痕のない敲石である。いずれも長楕円形の礫を素材としている。大半が短辺の一方あるいは両方に敲打痕を有しているが、2017は素材となる礫の長辺に敲打痕を有する。2020は素材となる礫の短辺と長辺に敲打痕を有する。

2021～2030が凹石I類で、中でも2021～2027は正面と裏面の両面に凹痕を有する。2031～2033、2035～2037は凹石III類で、2031～2033が円形の礫を、2035～2037が楕円形の礫をそれぞれ素材に用いている。2031、2032、2035、2036

は、正面と裏面の両面に凹痕を有する。2040は石皿が欠損した後、底部を使用面として凹石に再利用している。

2041～2065が磨石Ⅰ類、2066～2094が磨石Ⅱ類である。特に2066は正面と裏面の両面に赤色顔料が確認できる。また、2052、2053、2084、2086、2087では被熱によるヒビや剥落を観察することができる。2095～2099は欠損した磨石の欠損部を使用面として再利用している。

2108は石皿Ⅱ類の完形品である。正面と裏面を使用面としており、両面に凹痕を有する。2109と2110は正面と裏面に凹痕を有する石皿Ⅱ類の破片である。2111、2112は底部に凹痕を有する石皿Ⅱ類の破片である。2113、2114は石皿Ⅲ類である。

2115は砥石Ⅰ類で、器体中央を横断するかたちで擦痕が巡る。2116～2120は溝状の擦痕を有する砥石である。2116は正面の縁辺に溝状の擦痕を有するが、平坦部では溝状の擦痕を確認できない。2117と2118は正面と裏面の器体中央に溝状の擦痕を有する。2121～2129は砥石Ⅲ類である。

2130～2134が石錘Ⅰ類、2135～2137が石錘Ⅱ類である。2130は長軸方向だけでなく、短軸方向にも抉りと溝状の擦痕を有する。

2138は上部に貫通孔を有していることから、軽石類のⅡ類に分類した。貫通孔の上部には紐擦れ痕と思われる擦痕が観察できる。

2140～2144は石棒類Ⅰ類で、大型石棒の破片と思われる。2140が頭部片、2141、2142が胴部片、2143、2144が基部片である。2140、2141、2143は被熱により器面の一部が黒色化してい

る。2145～2147は石棒類Ⅱ類の破片で、両側面の中央だけでなく、正面と裏面の中央にも稜が走る。2145は石剣の頭部片で、頭部に文様を有する。頭部の上段と下段に各2条の沈線が巡り、区画を構成している。沈線で区画された中には2条の沈線が器面を斜めに横断するかたちで巡り、正面と裏面の中央でそれぞれ一度交差する。また、両側面には2条の弧線で楕円形の文様を描いている。2146は基部末端の両側面に各2つの刻みを有する。2148～2153は石棒類の各種破片である。2148、2149が頭部片、2150～2153が基部片である。2149は、上段、中段、下段にそれぞれ1条の沈線が巡り、上段の沈線より上に刻みを数条有する。

2154～2156が岩版の破片である。2154は正面と裏面で異なる文様を有する。2155、2156は岩版の一部しか残存していないため、どのような文様が施されていたのかははっきりしないが、2155が渦巻文の、2156が三叉文の一部と思われる。

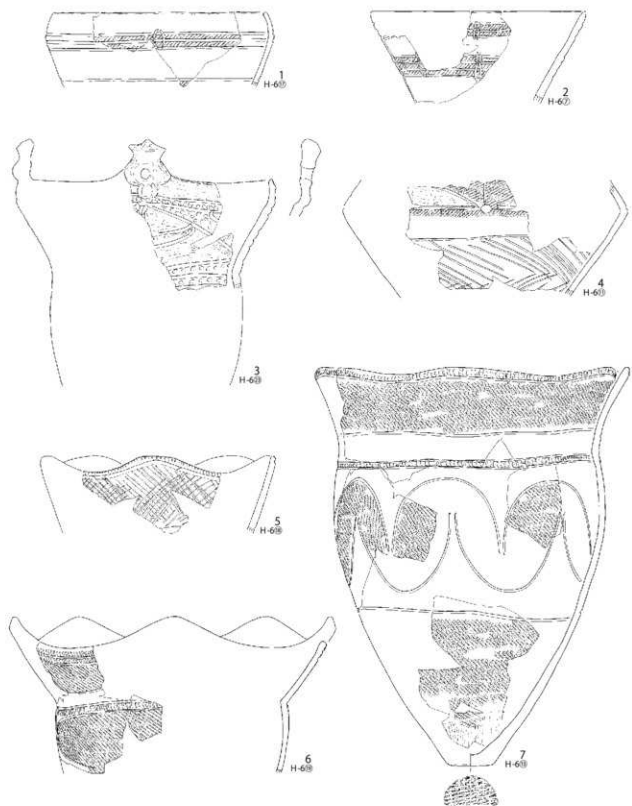
2157～2160が垂飾である。2159は完形品で、小判形を呈する。2157、2158、2160は一部が欠損している。

その他、1972～1976が二次加工剥片、1977～1979が石核、2139が軽石類Ⅲ類である。

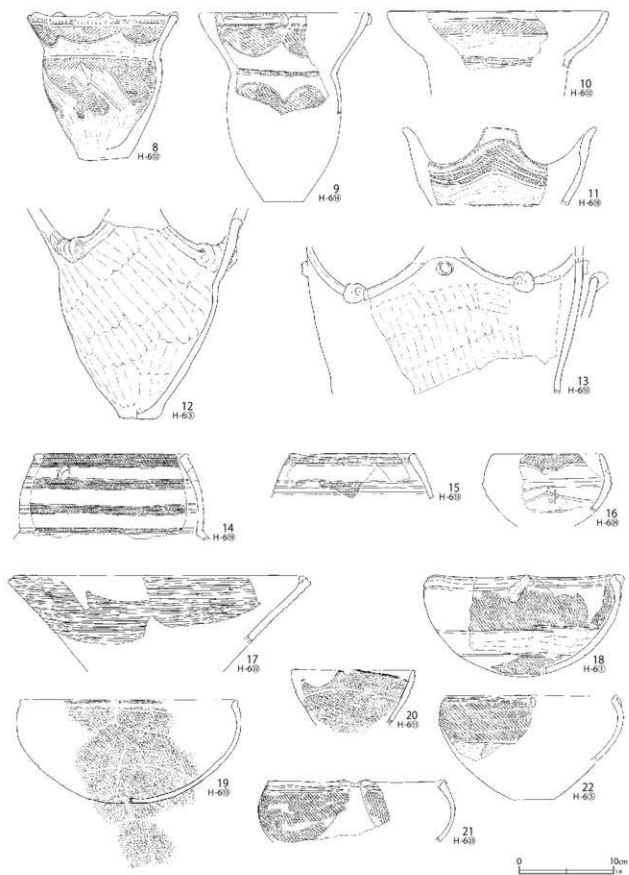
骨製品 (第272図2161～2163)

骨製品は3点出土している。第272図2161は筭の頂部片で、先端部が欠損している。横位方向に溝状の窪みを最低でも3条有する。

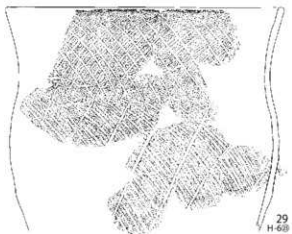
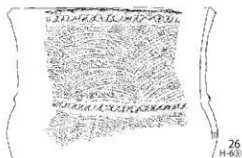
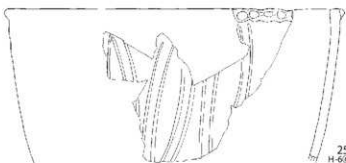
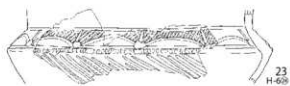
2162、2163は加工痕のある骨角で、主に縦位方向の擦痕が認められる。ともに細身かつやや湾曲していることから筭などの先端部と考えられる。



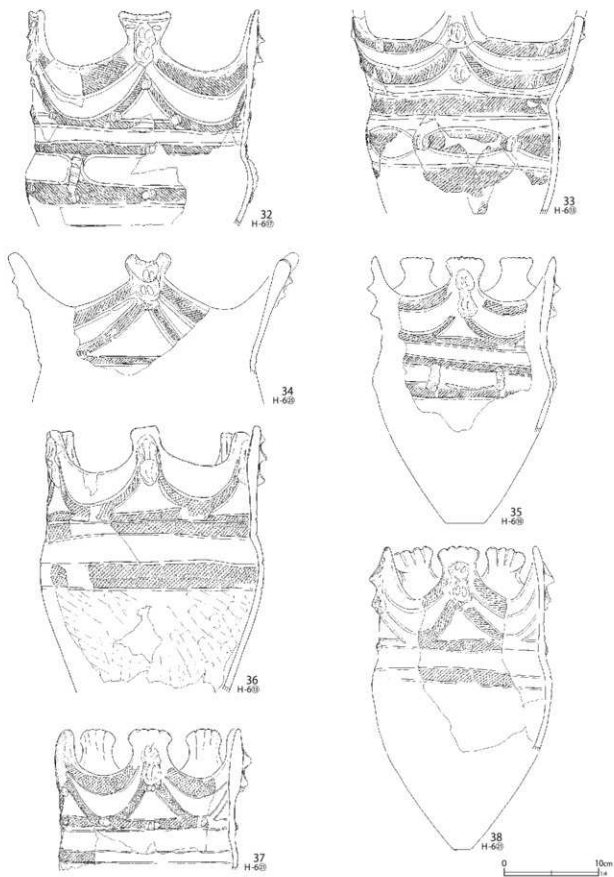
第170図 H-6グリッド出土遺物(1)



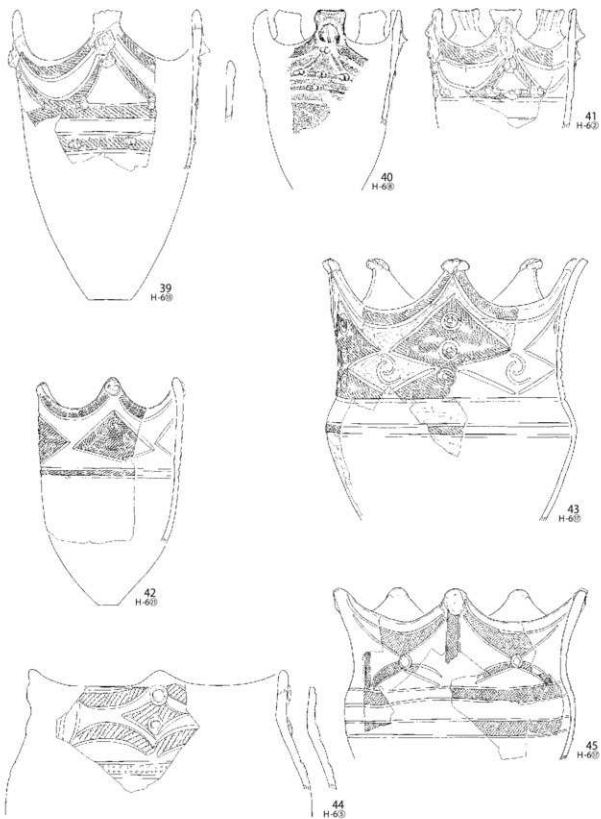
第171図 H-6グリッド出土遺物(2)



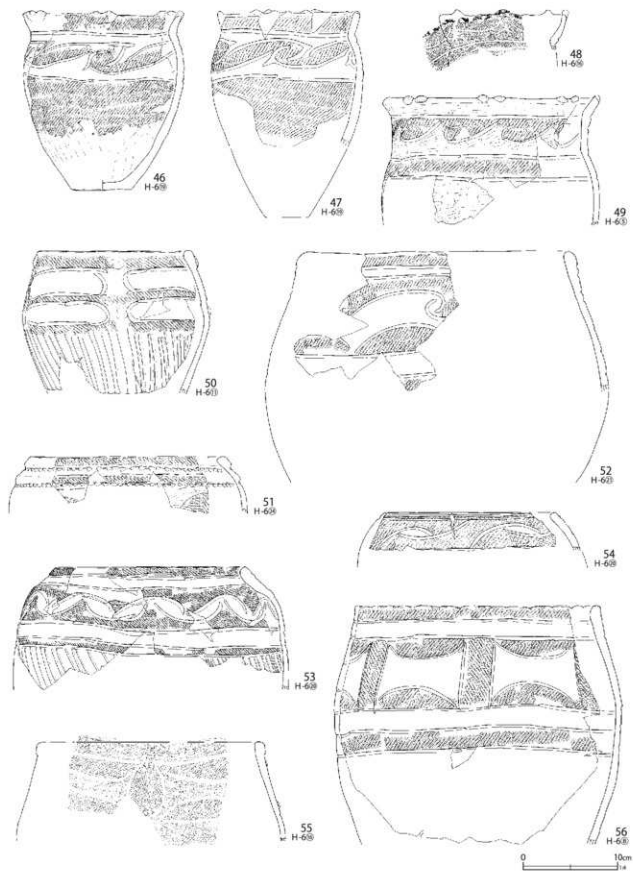
第172図 H-6グリッド出土遺物(3)



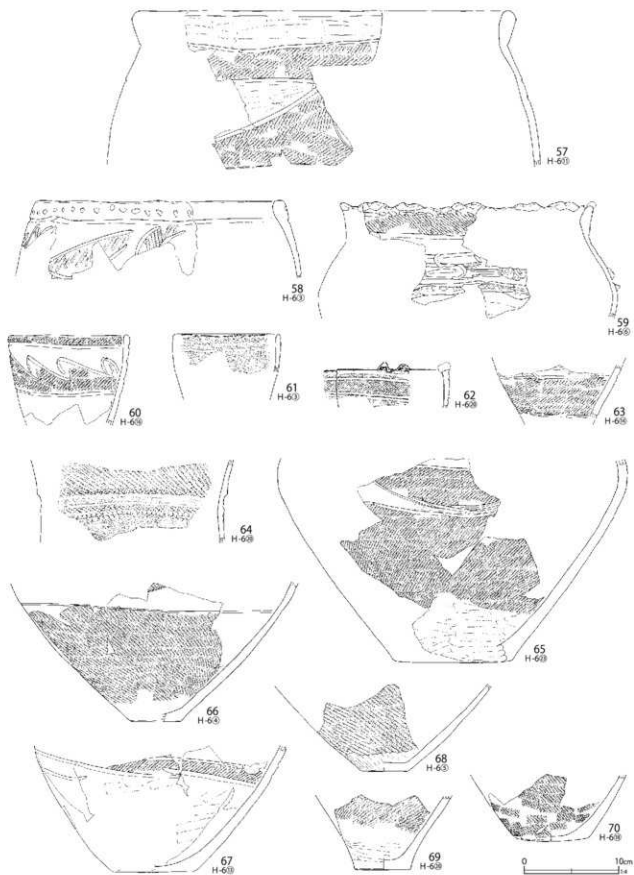
第173図 H-6グリッド出土遺物(4)



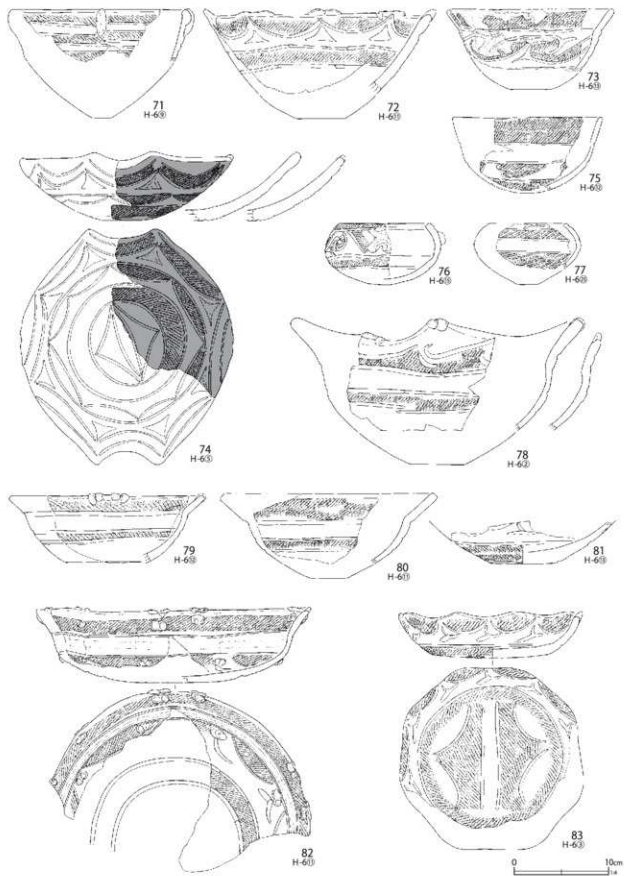
第174図 H-6グリッド出土遺物(5)



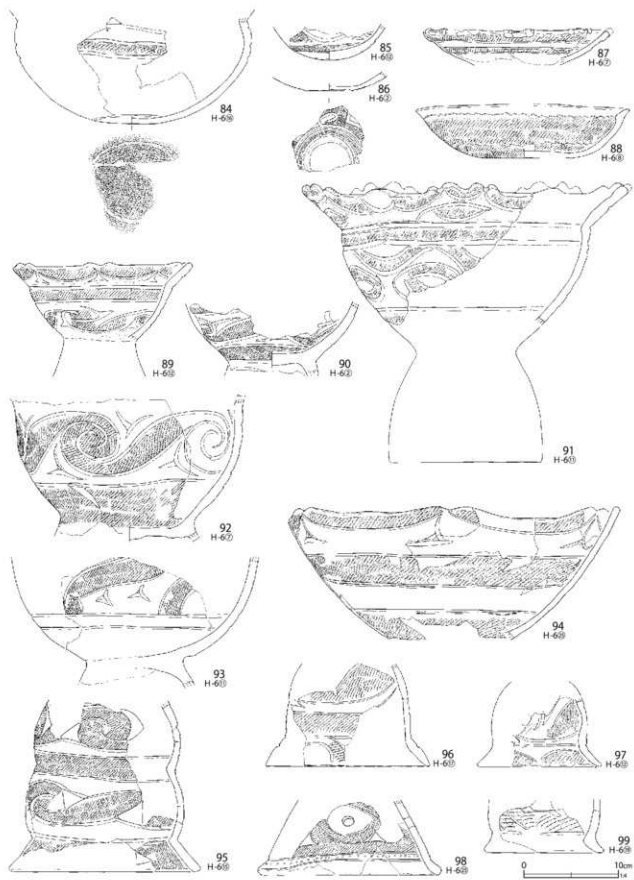
第175図 H-6グリッド出土遺物(6)



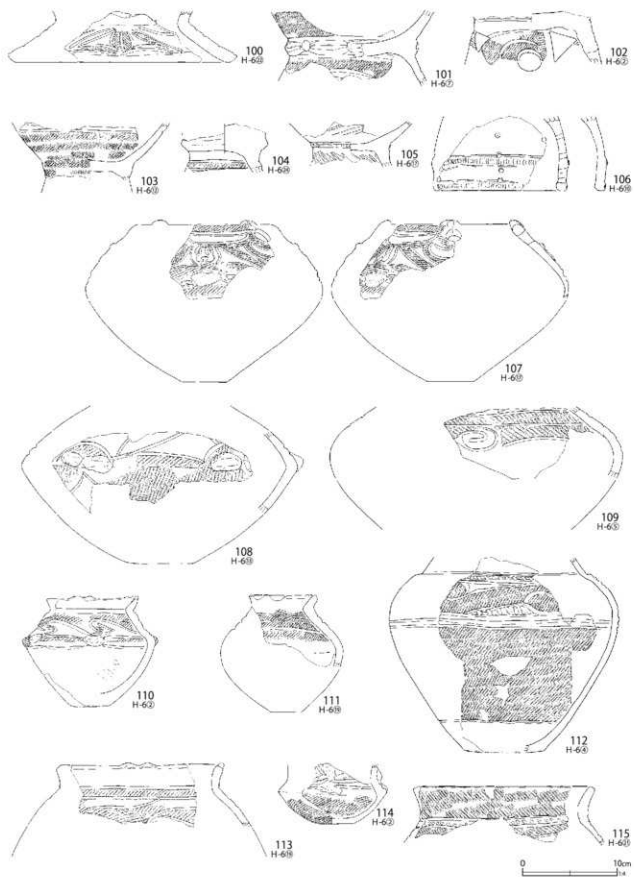
第176図 H-6グリッド出土遺物(7)



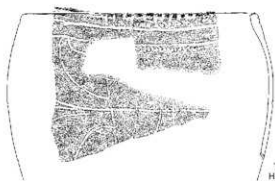
第177図 H-6グリッド出土遺物(8)



第178図 H-6グリッド出土遺物(9)



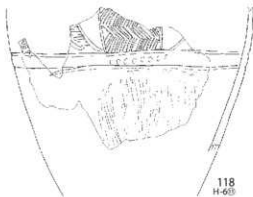
第179図 H-6グリッド出土遺物(10)



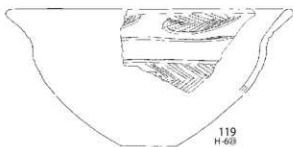
116
H-6⑧



117
H-6⑧



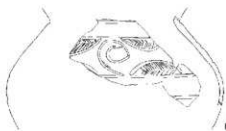
118
H-6⑧



119
H-6⑧



121
H-6⑧



120
H-6⑧



122
H-6⑧



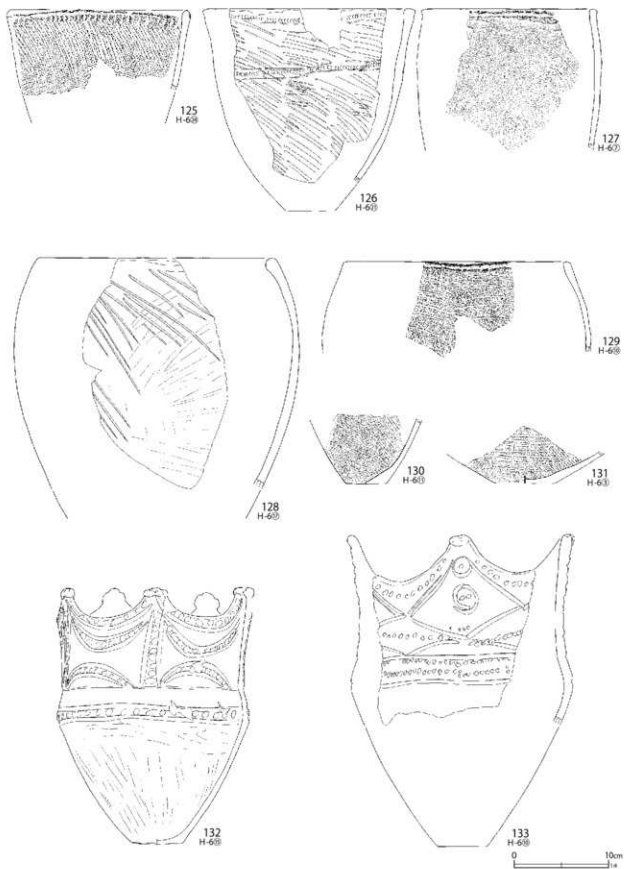
123
H-6⑧



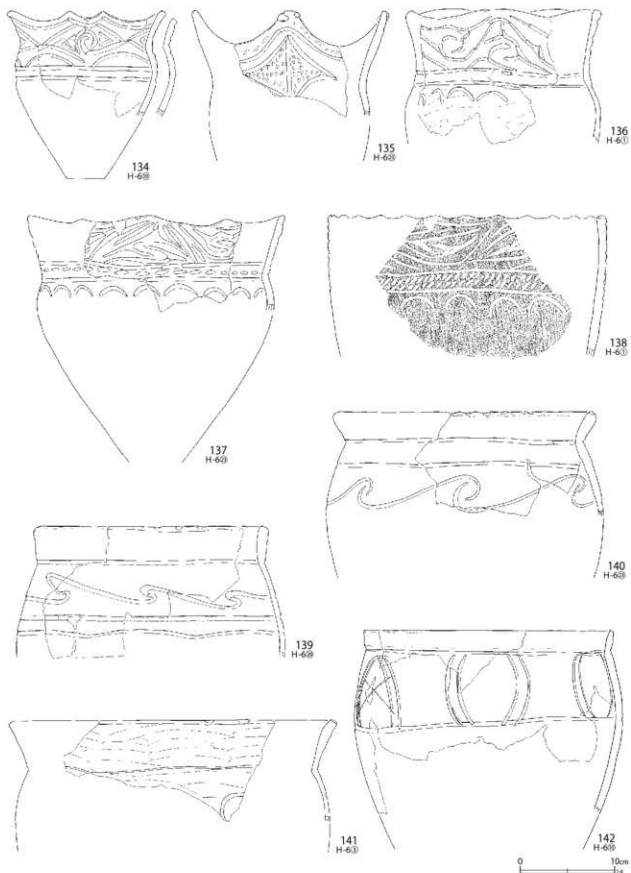
124
H-6⑧

0 10cm
1x

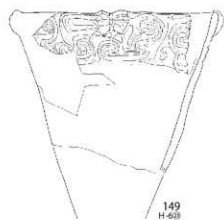
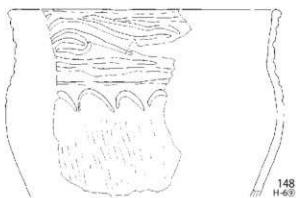
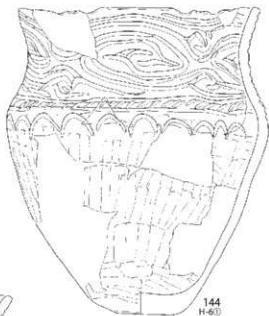
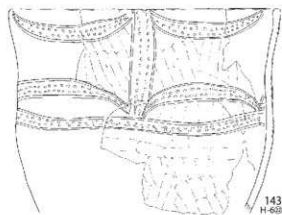
第180図 H-6グリッド出土遺物(11)



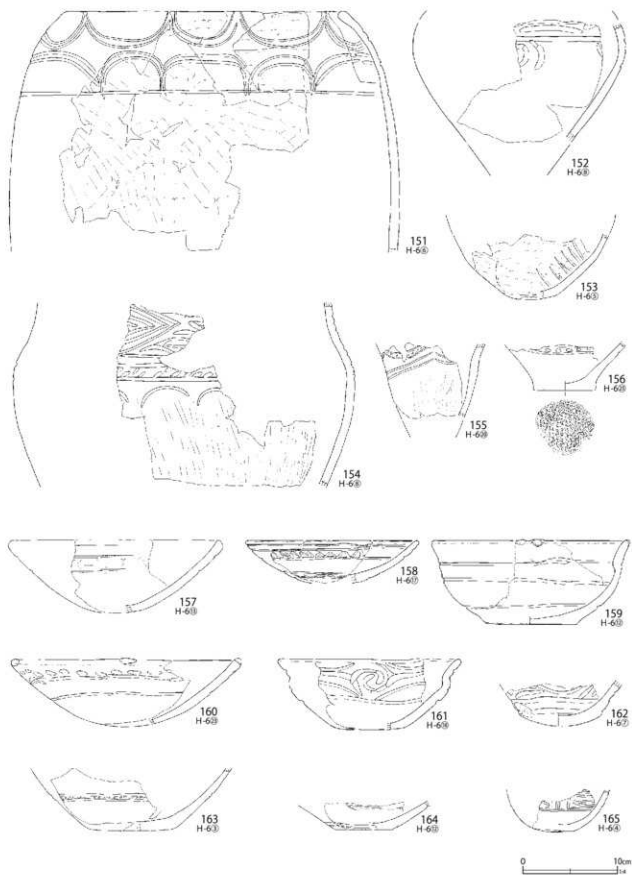
第181図 H-6グリッド出土遺物(12)



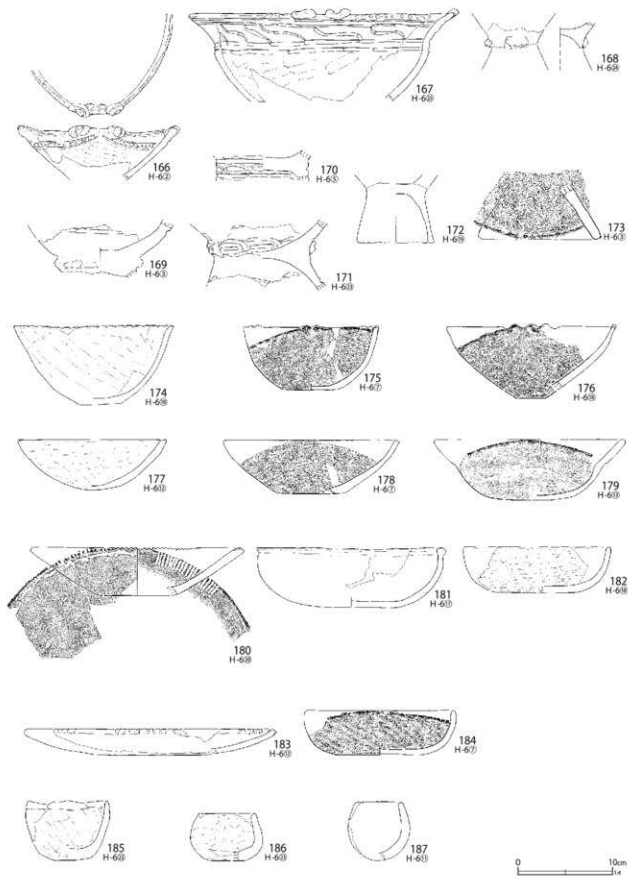
第182図 H-6グリッド出土遺物(13)



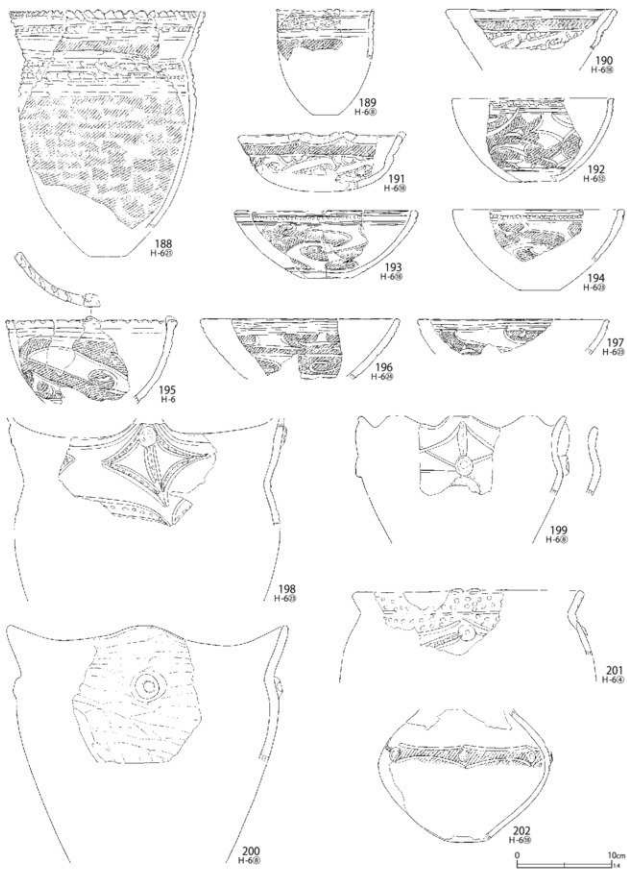
第183図 H-6グリッド出土遺物(14)



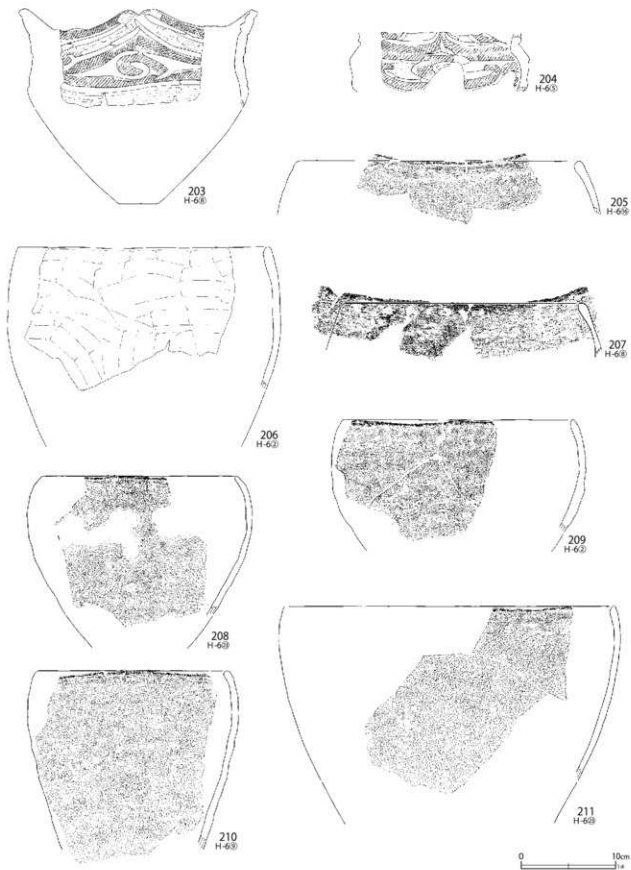
第184図 H-6グリッド出土遺物(15)



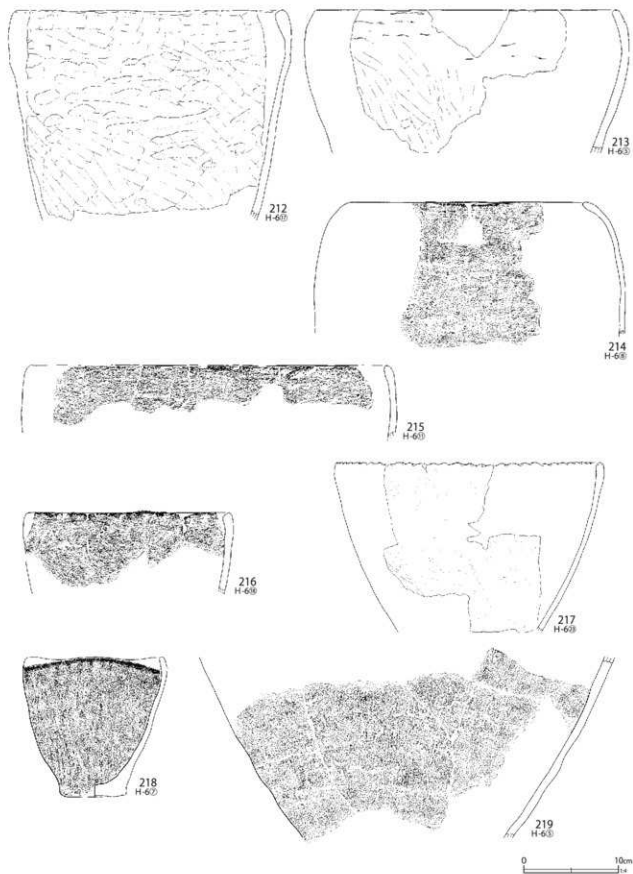
第185図 H-6グリッド出土遺物(16)



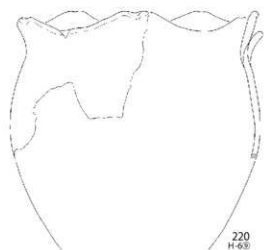
第186図 H-6グリッド出土遺物(17)



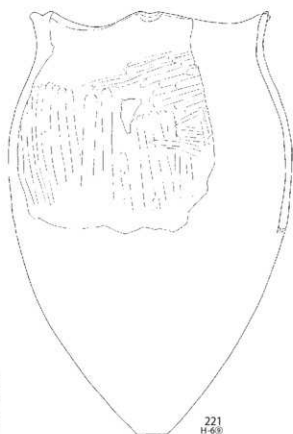
第187図 H-6グリッド出土遺物(18)



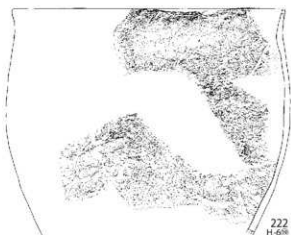
第188図 H-6グリッド出土遺物(19)



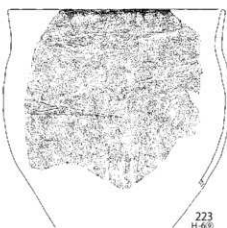
220
H-69



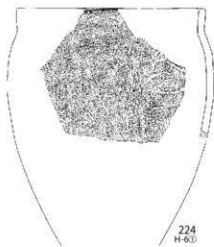
221
H-69



222
H-68



223
H-68



224
H-60



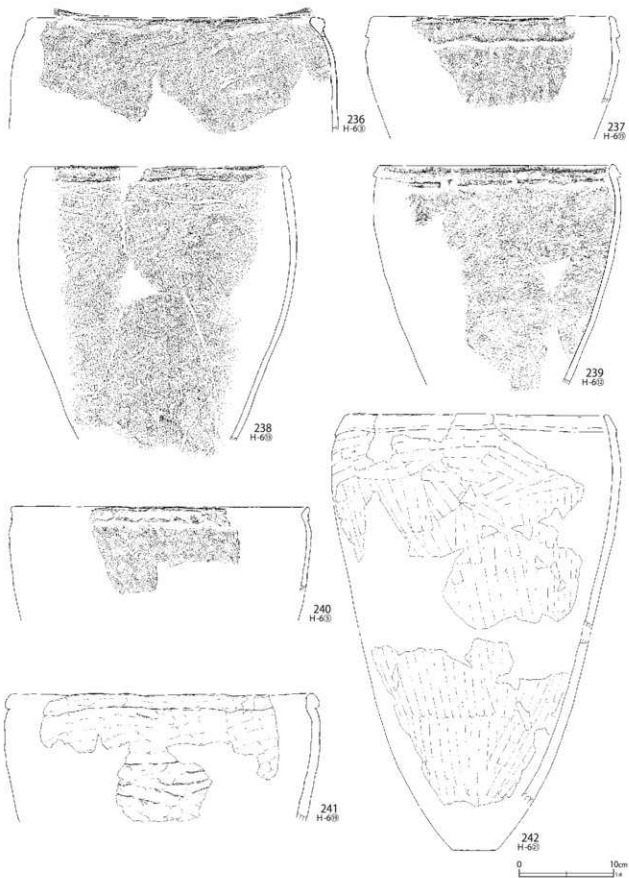
225
H-60



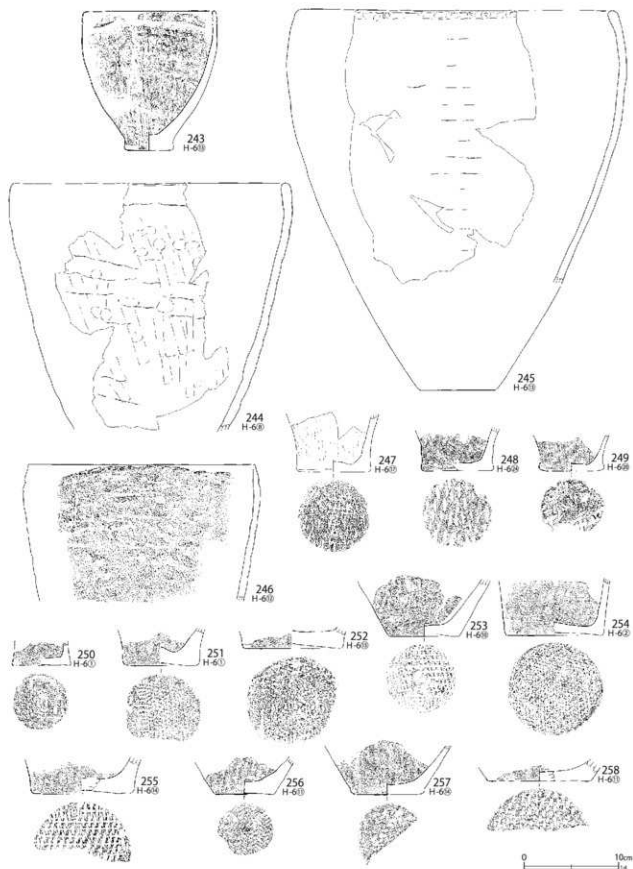
第189図 H-6グリッド出土遺物(20)



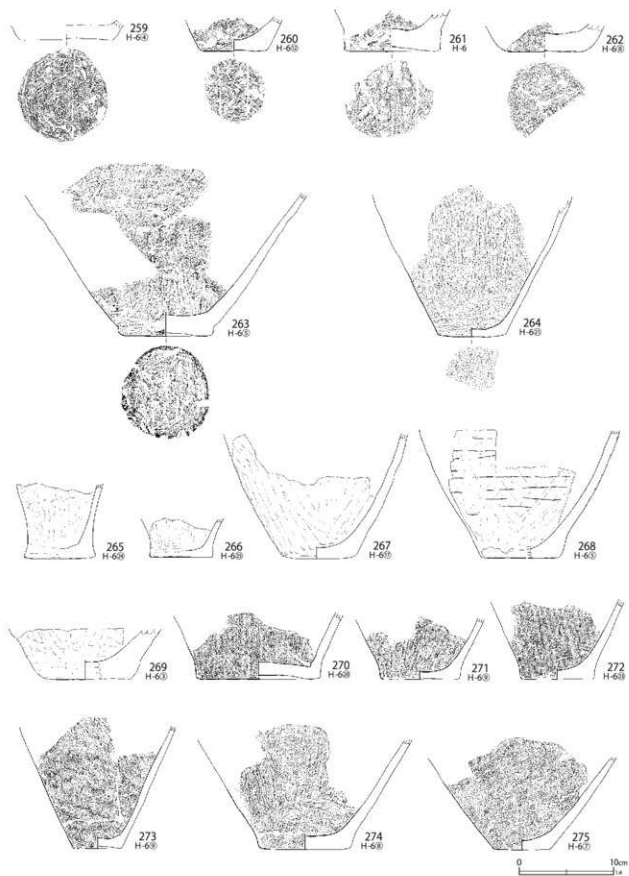
第190図 H-6グリッド出土遺物(21)



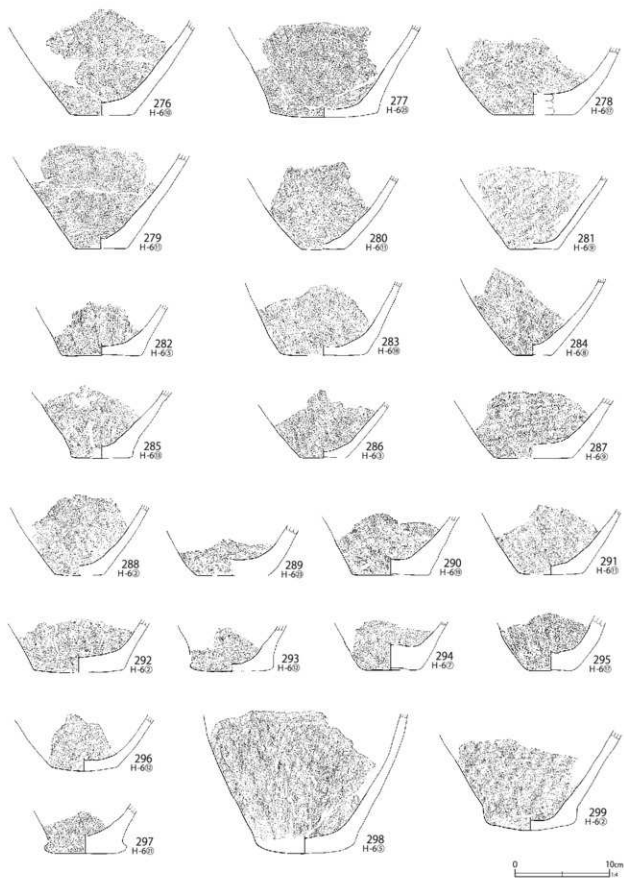
第191図 H-6グリッド出土遺物(22)



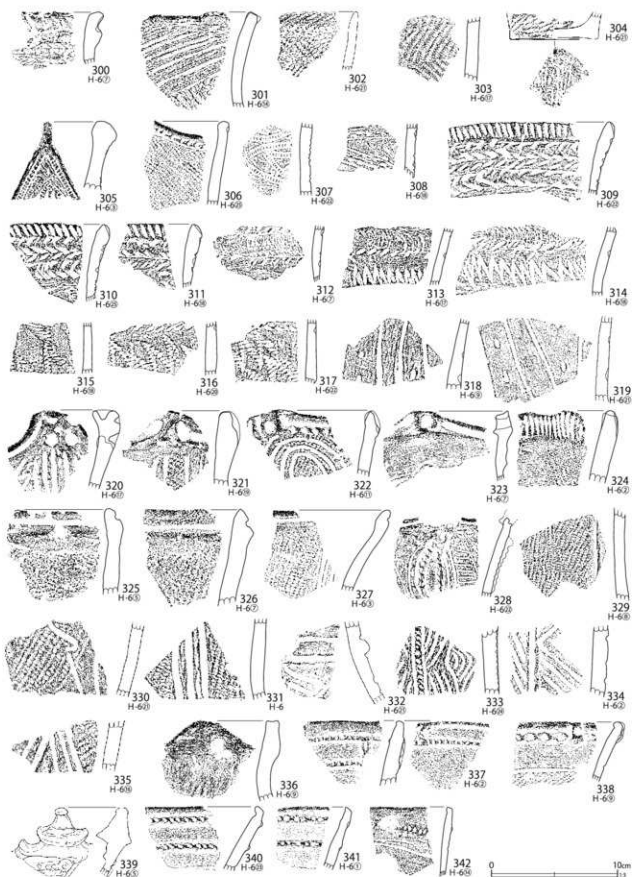
第192図 H-6グリッド出土遺物(23)



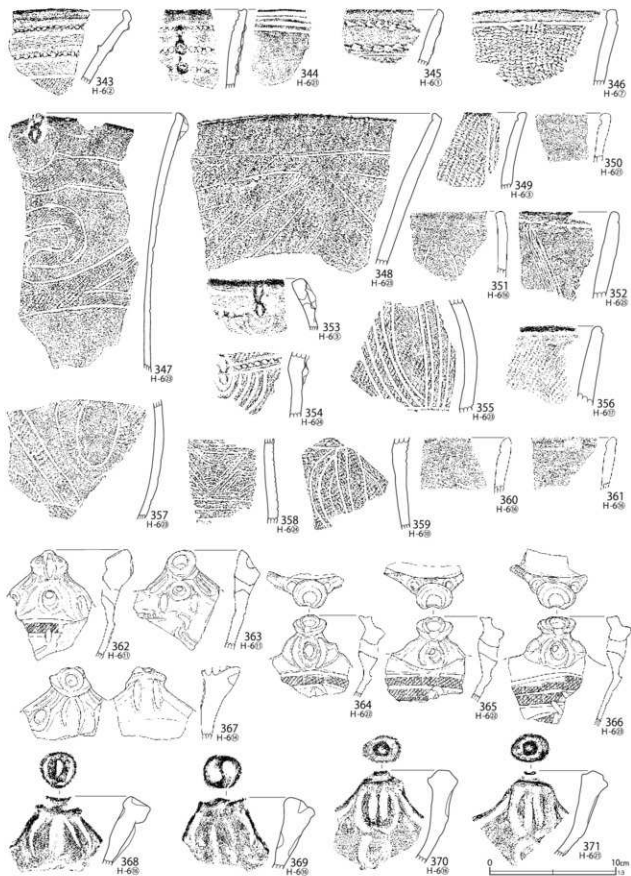
第193図 H-6グリッド出土遺物(24)



第194図 H-6グリッド出土遺物(25)



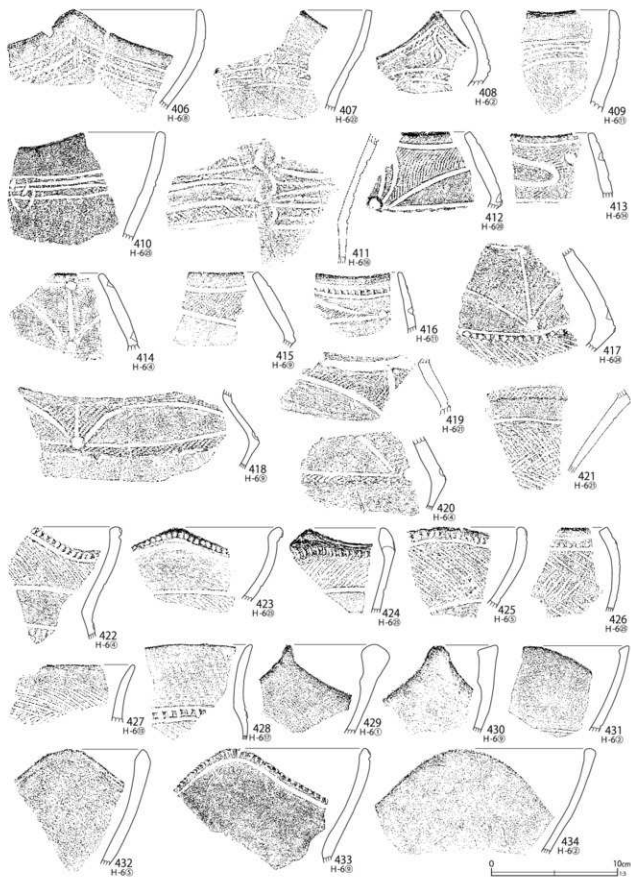
第195図 H-6グリッド出土遺物(26)



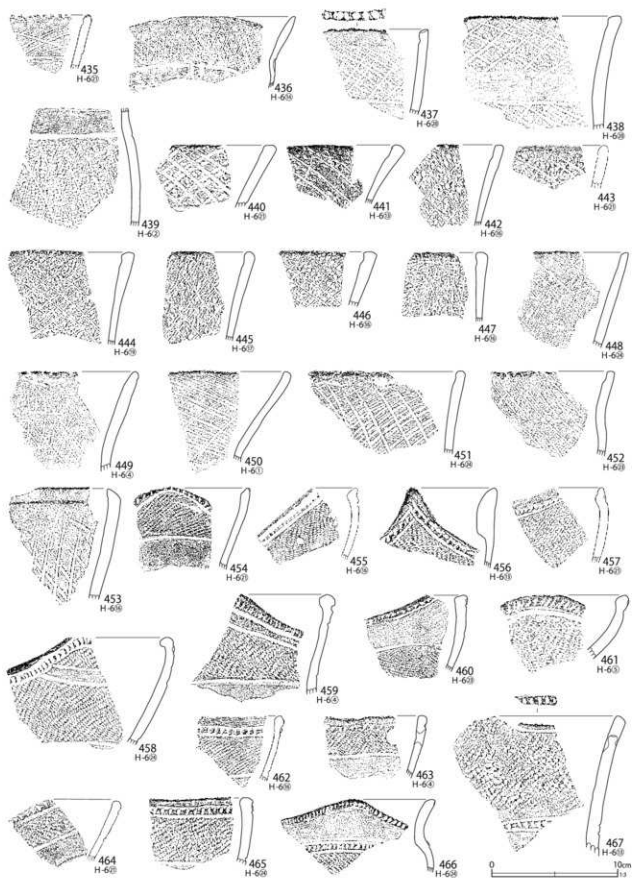
第196図 H-6グリッド出土遺物(27)



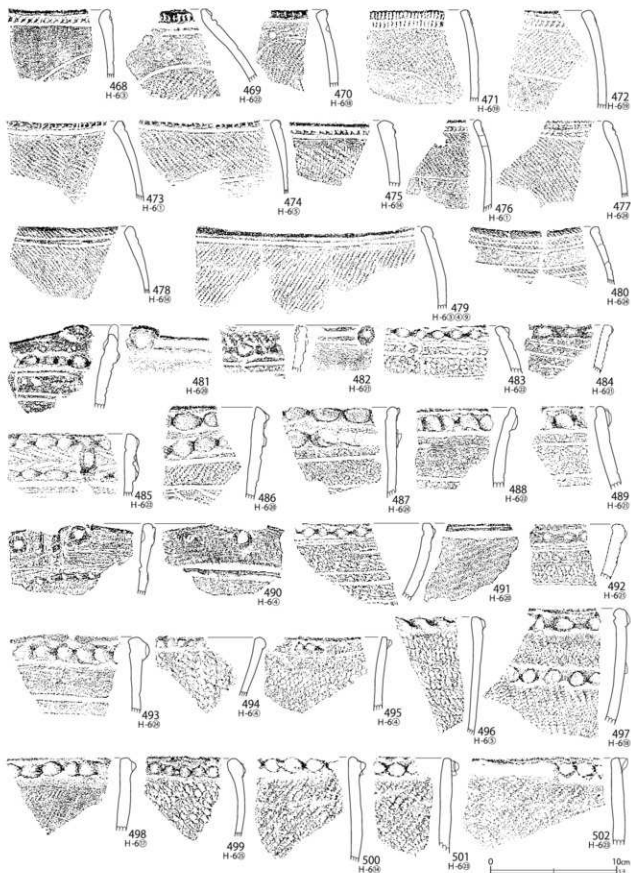
第197図 H-6グリッド出土遺物(28)



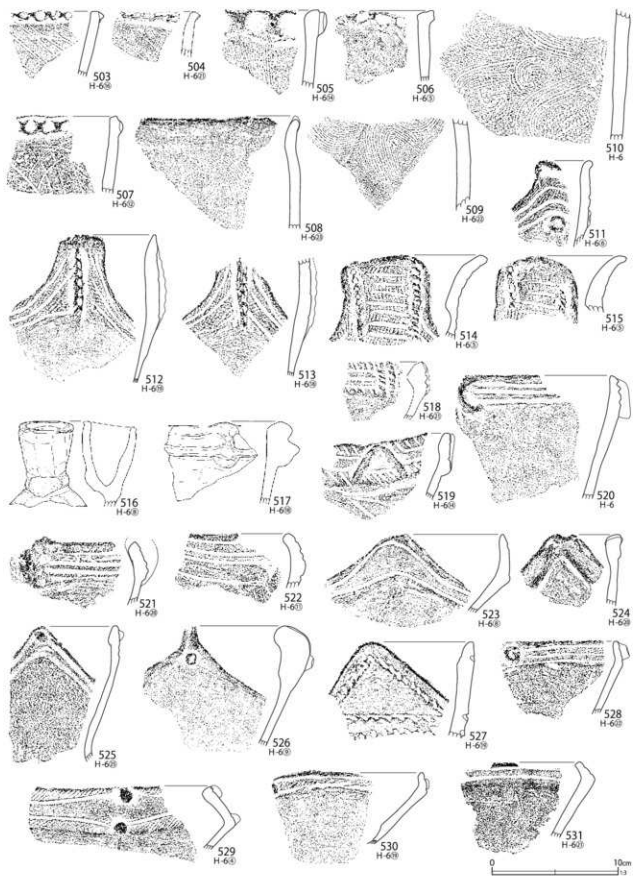
第198図 H-6グリッド出土遺物(29)



第199図 H-6グリッド出土遺物(30)



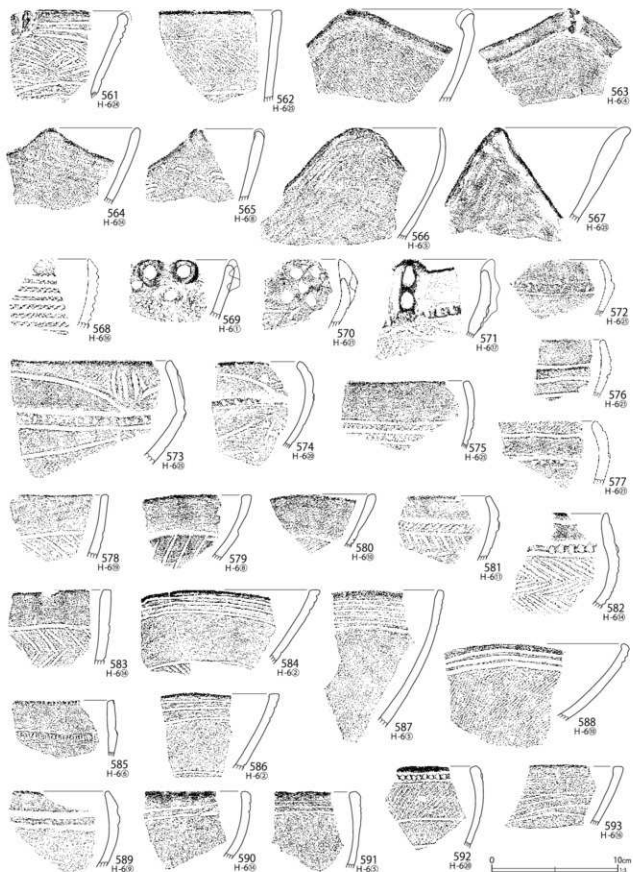
第200図 H-6グリッド出土遺物(31)



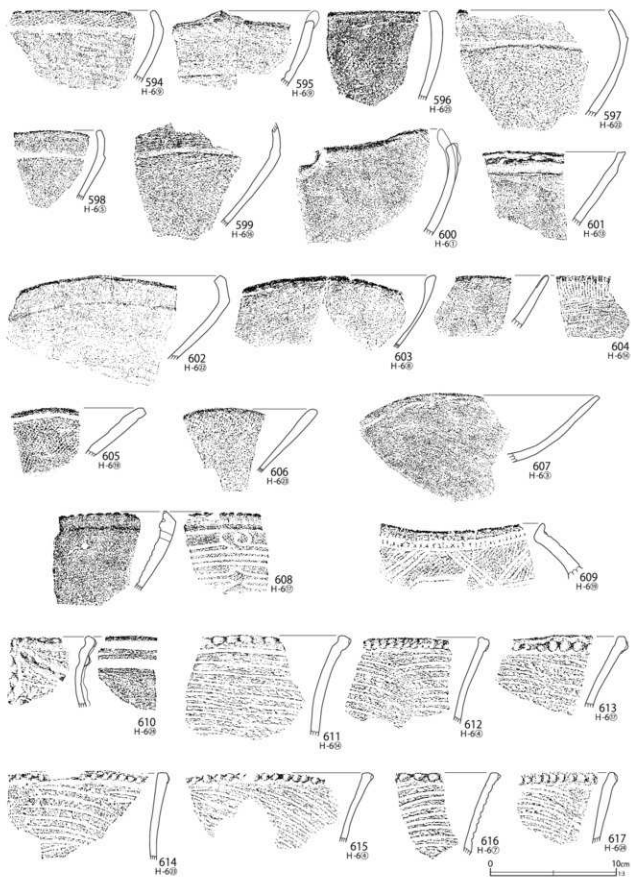
第201図 H-6グリッド出土遺物(32)



第202図 H-6グリッド出土遺物(33)



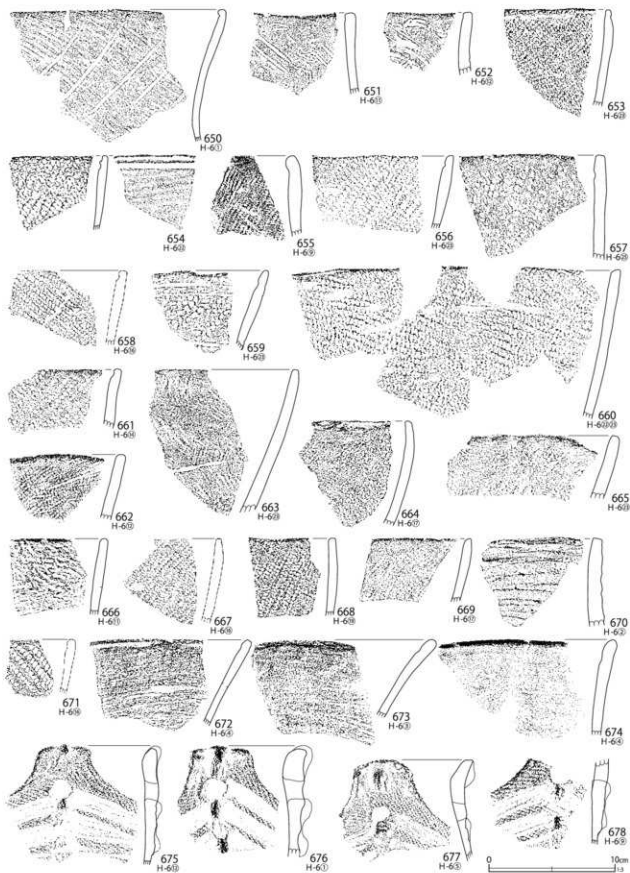
第203図 H-6グリッド出土遺物(34)



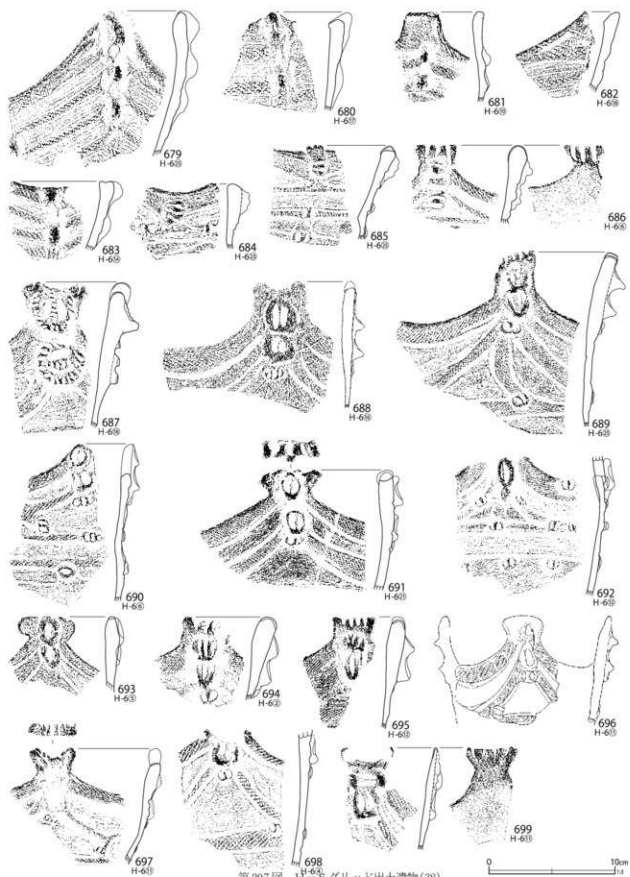
第204図 H-6グリッド出土遺物(35)



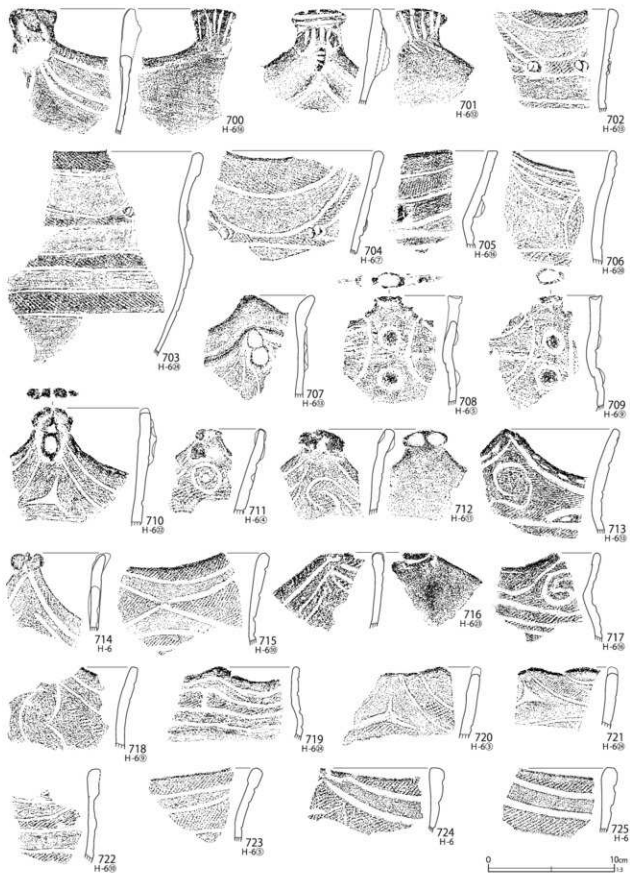
第205図 H-6グリッド出土遺物(36)



第206図 H-6グリッド出土遺物(37)



第207図 H-6グリッド出土遺物(38)



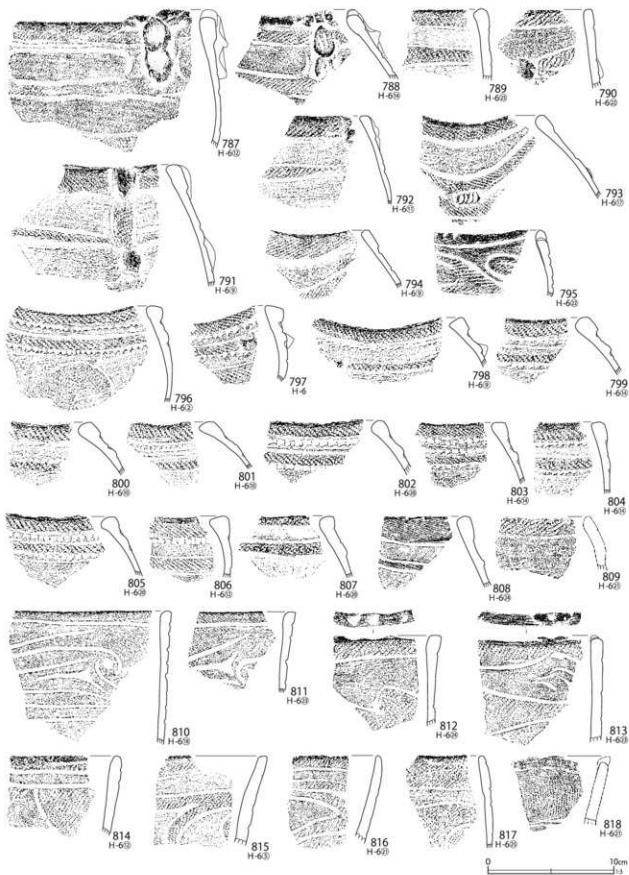
第208図 H-6グリッド出土遺物(39)



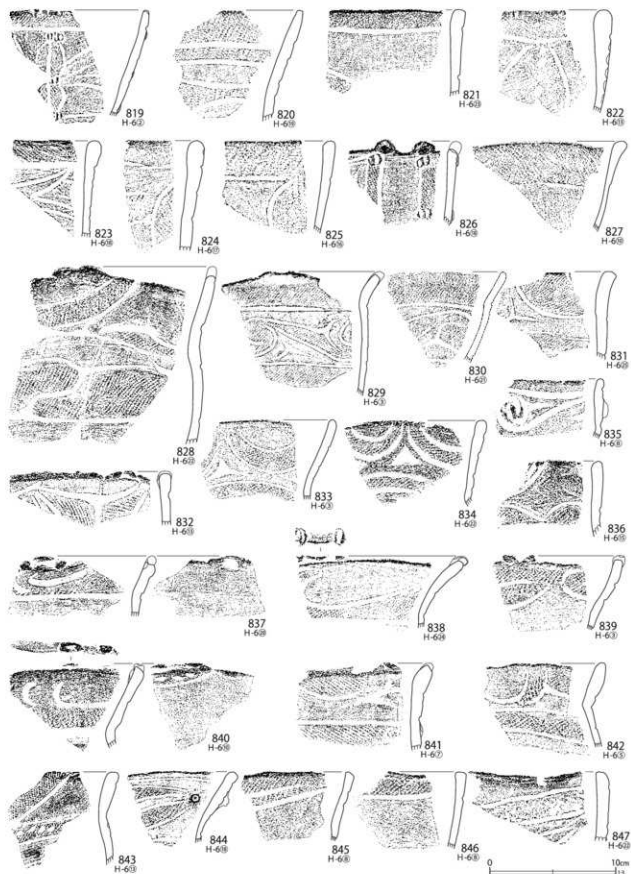
第209図 H-6グリッド出土遺物(40)



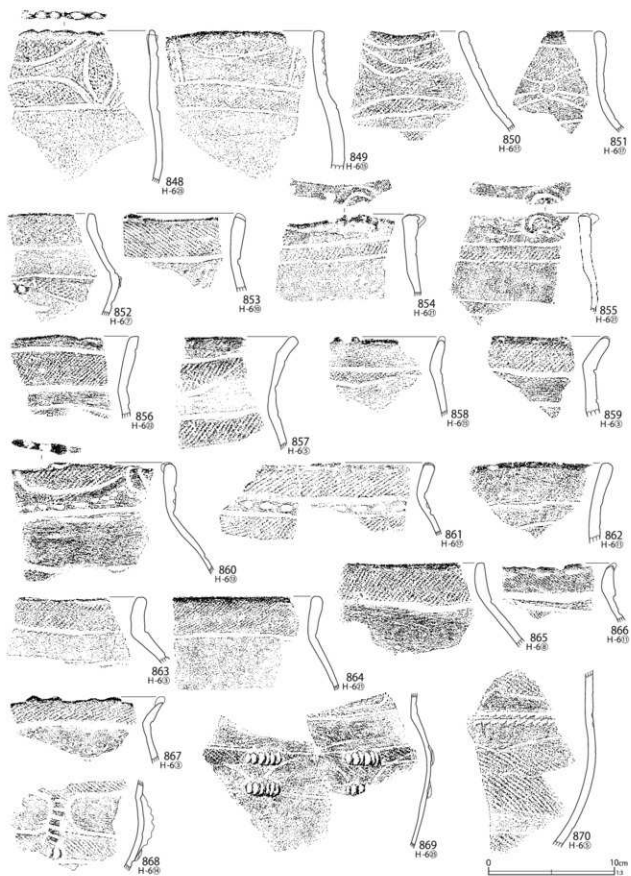
第210図 H-6グリッド出土遺物(41)



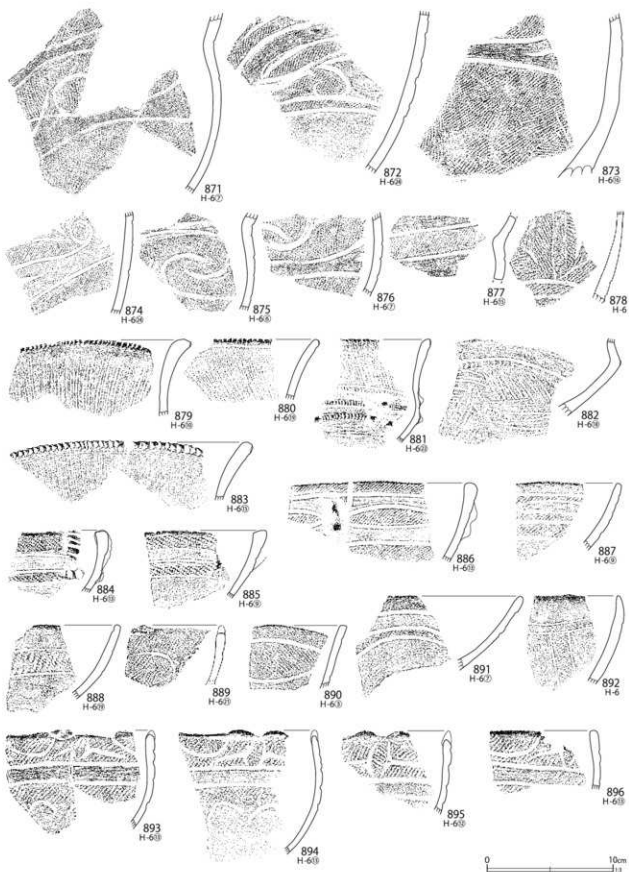
第211図 H-6グリッド出土遺物(42)



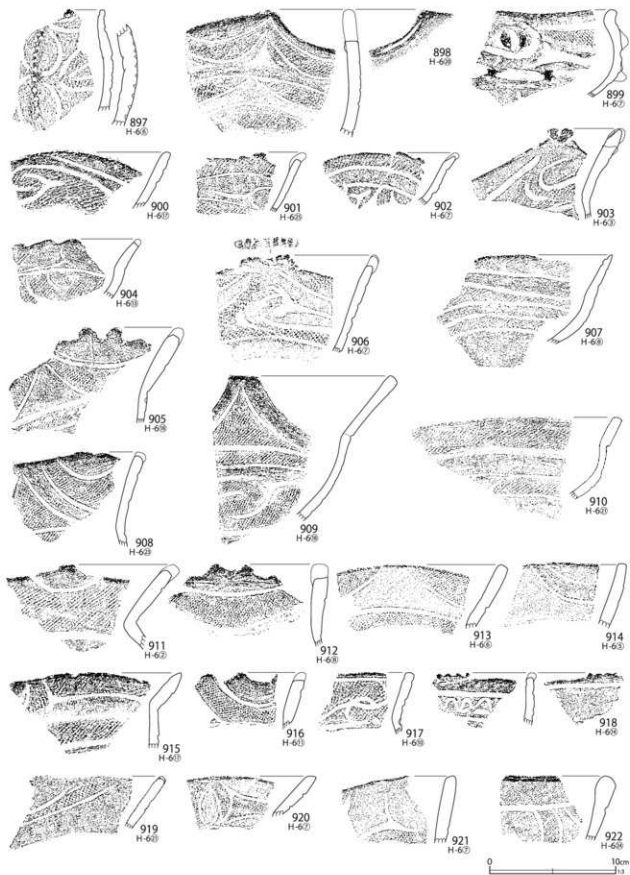
第212図 H-6グリッド出土遺物(43)



第213図 H-6グリッド出土遺物(44)



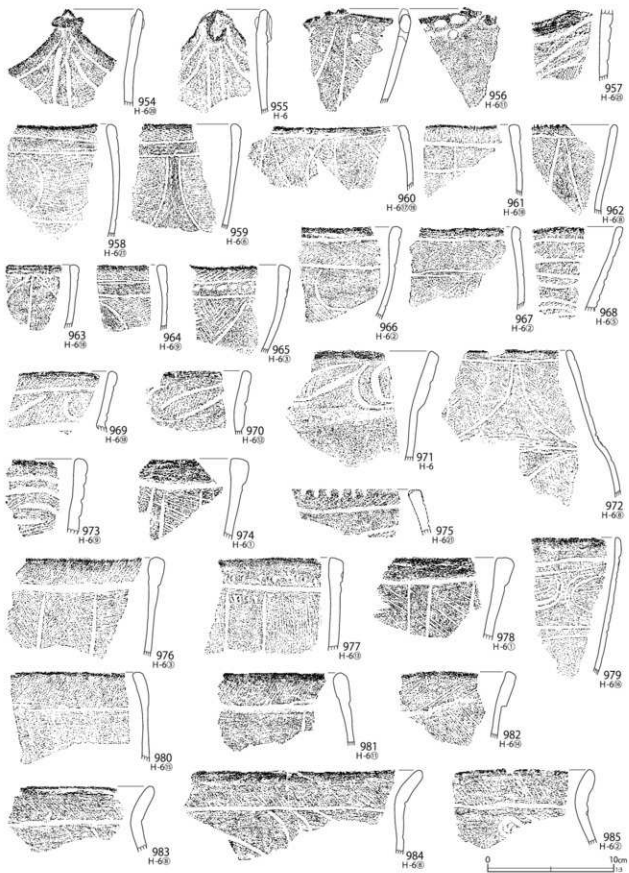
第214図 H-6グリッド出土遺物(45)



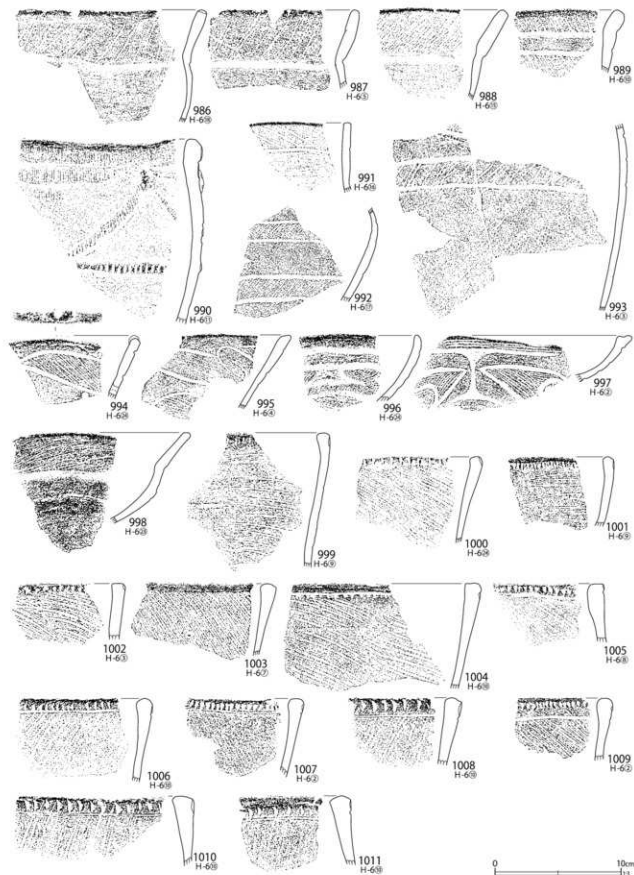
第215図 H-6グリッド出土遺物(46)



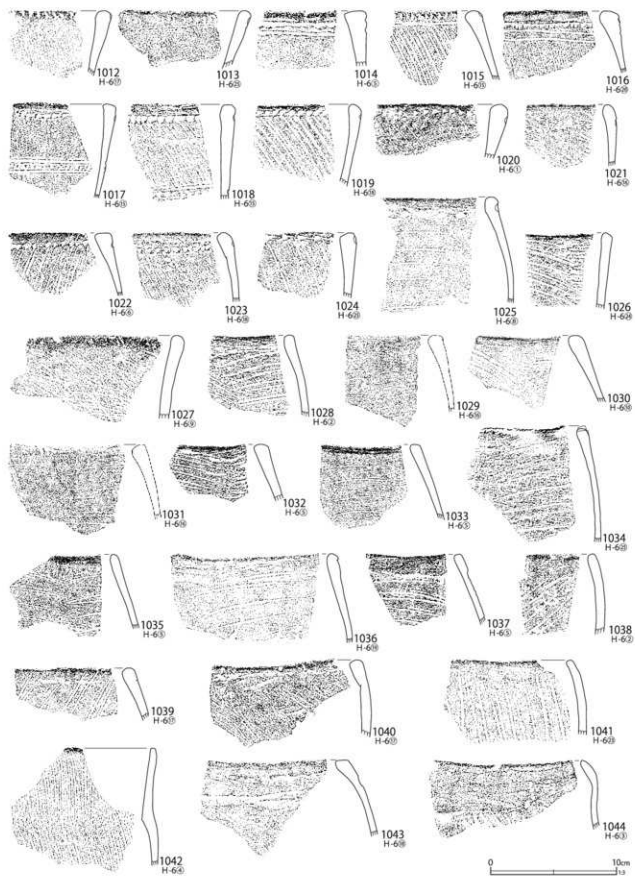
第216図 H-6グリッド出土遺物(47)



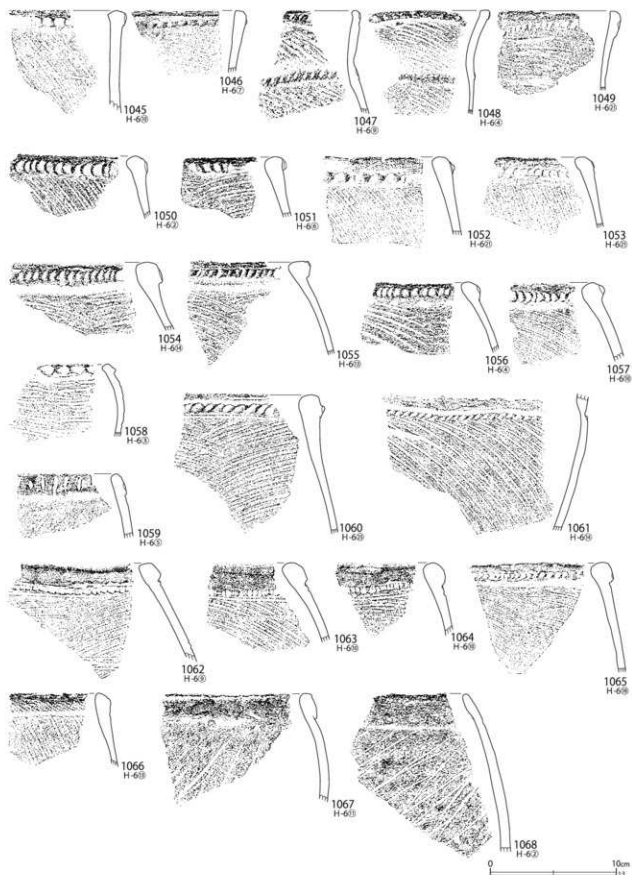
第217図 H-6グリッド出土遺物(48)



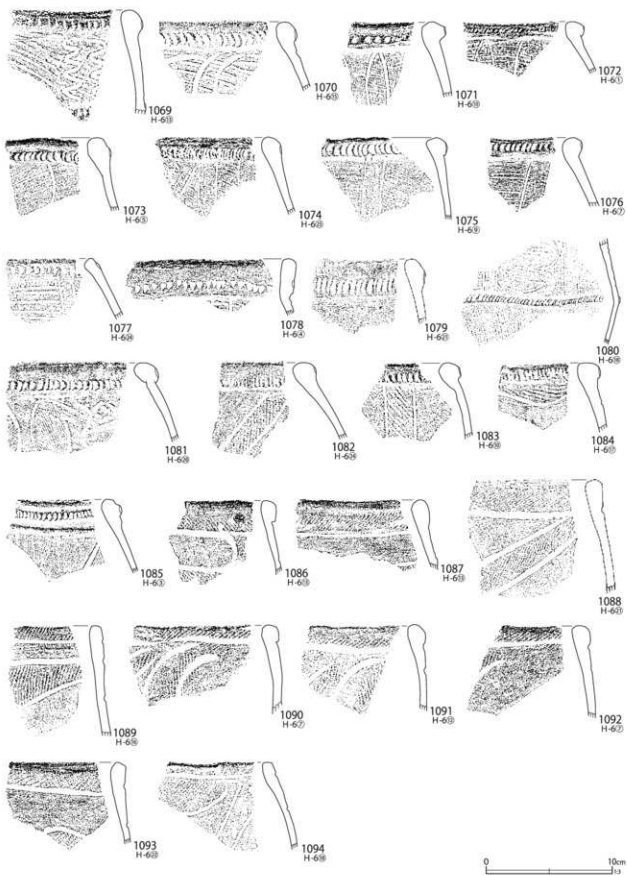
第218図 H-6グリッド出土遺物(49)



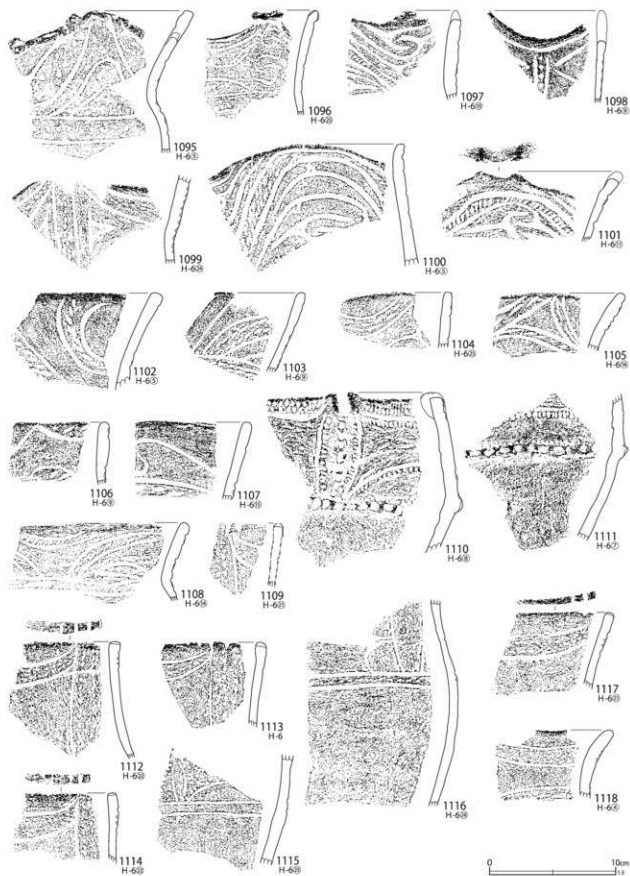
第219図 H-6グリッド出土遺物(50)



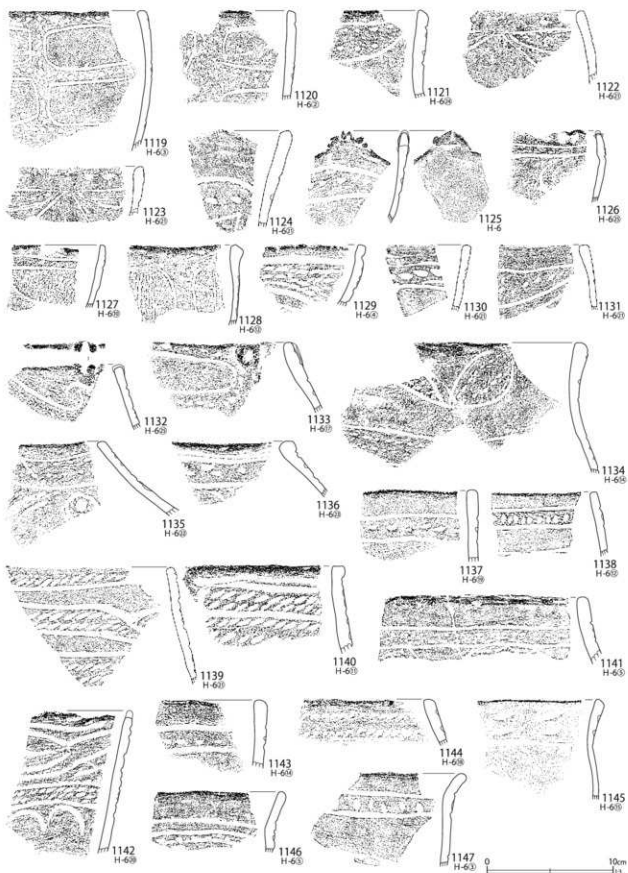
第220図 H-6グリッド出土遺物(51)



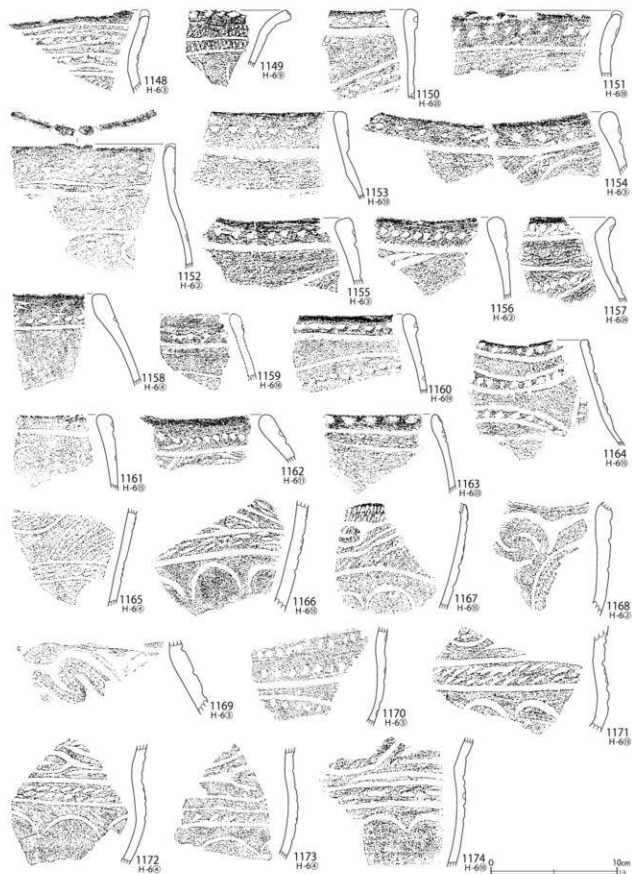
第221図 H-6グリッド出土遺物(52)



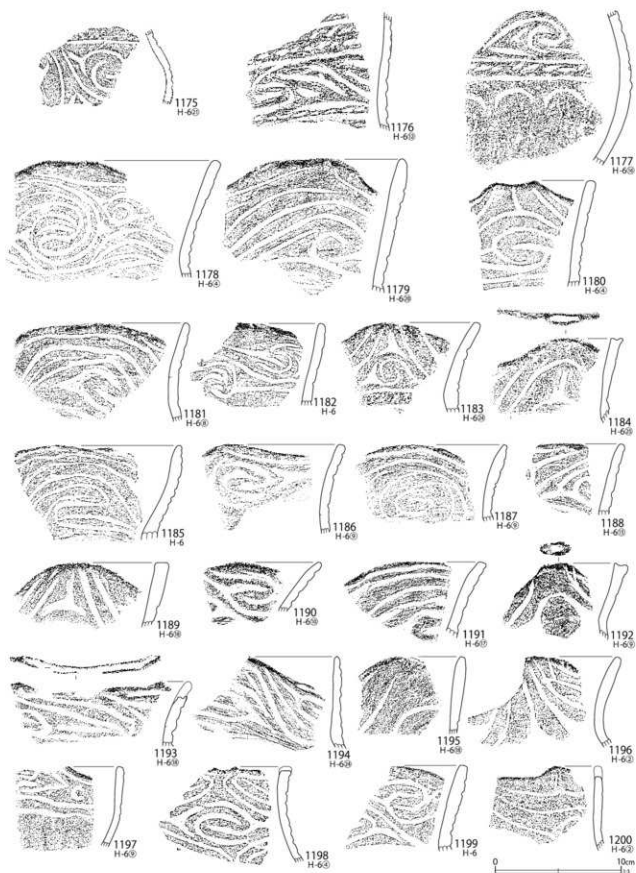
第222図 H-6グリッド出土遺物(53)



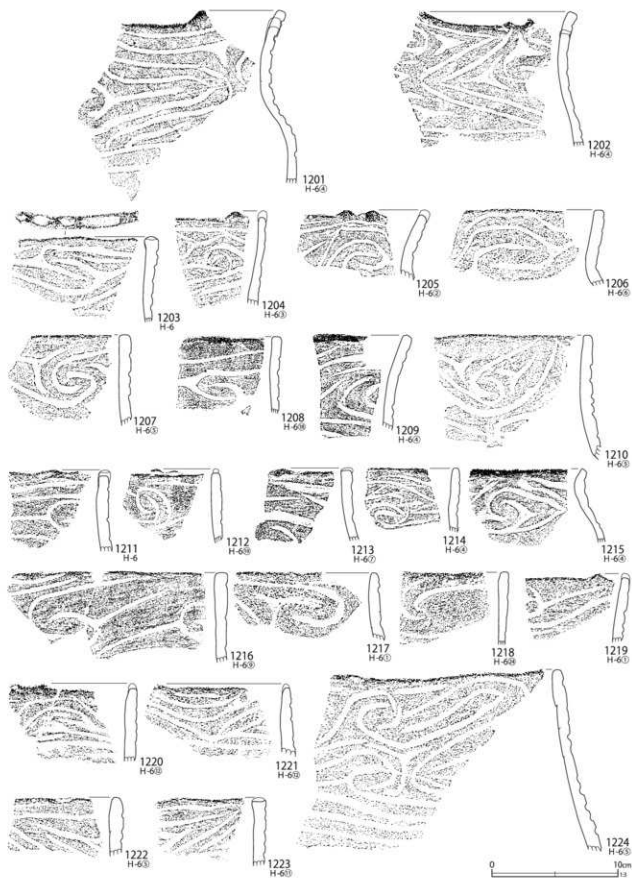
第223図 H-6グリッド出土遺物(54)



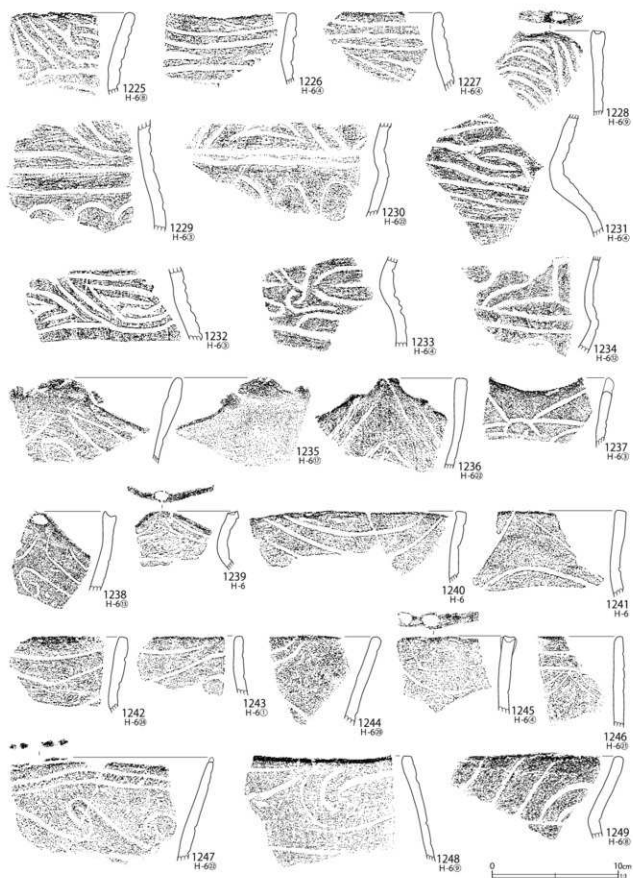
第224図 H-6グリッド出土遺物(55)



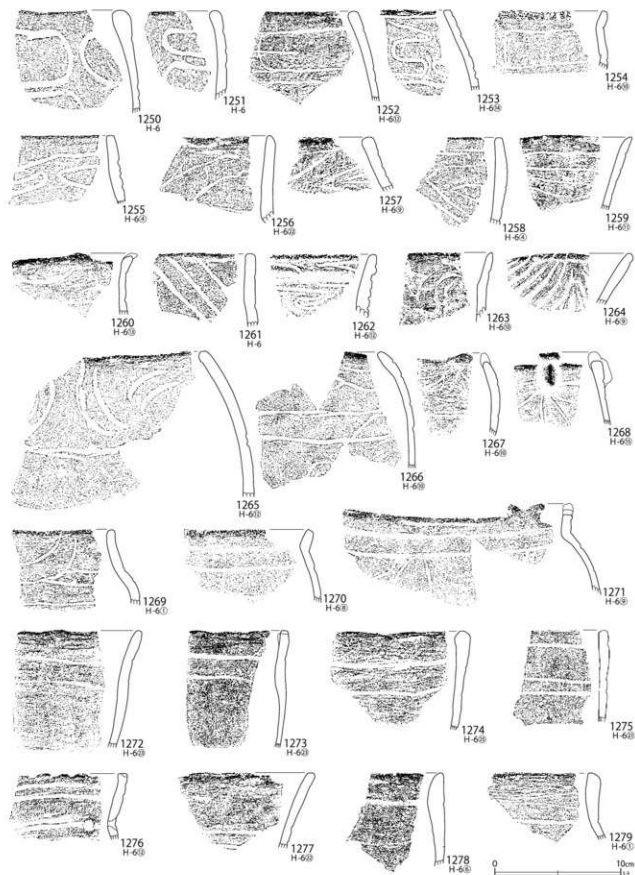
第225図 H-6グリッド出土遺物(56)



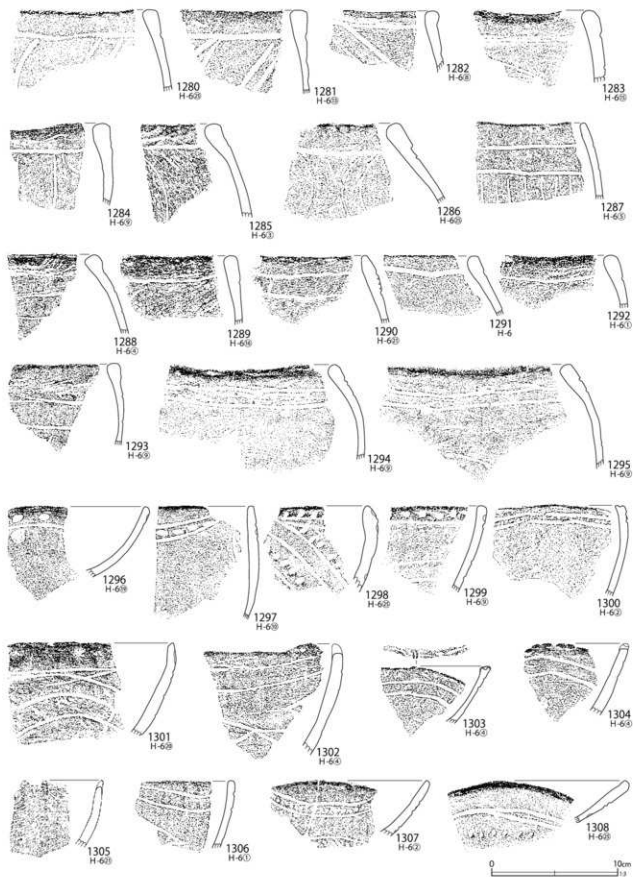
第226図 H-6グリッド出土遺物(57)



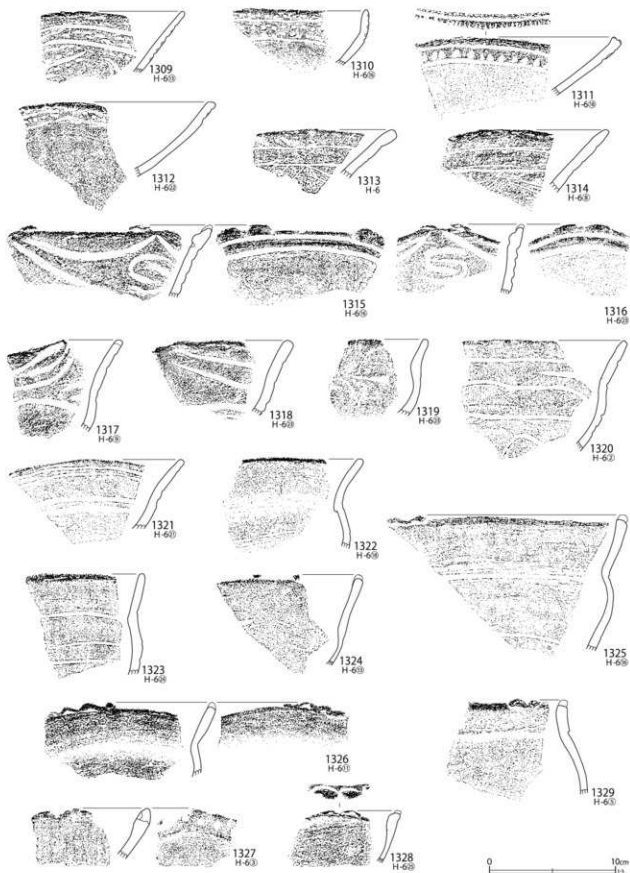
第227図 H-6グリッド出土遺物(58)



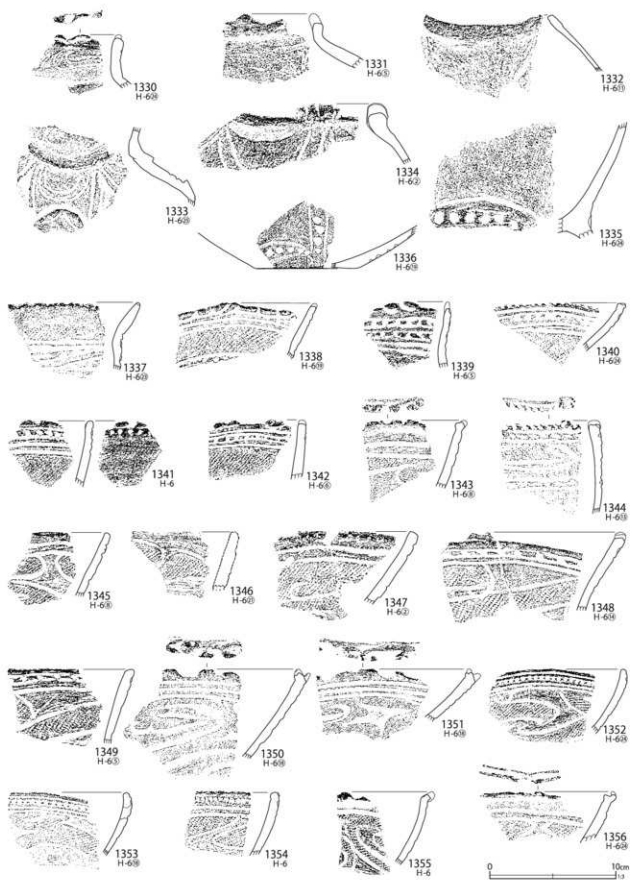
第228図 H-6グリッド出土遺物(59)



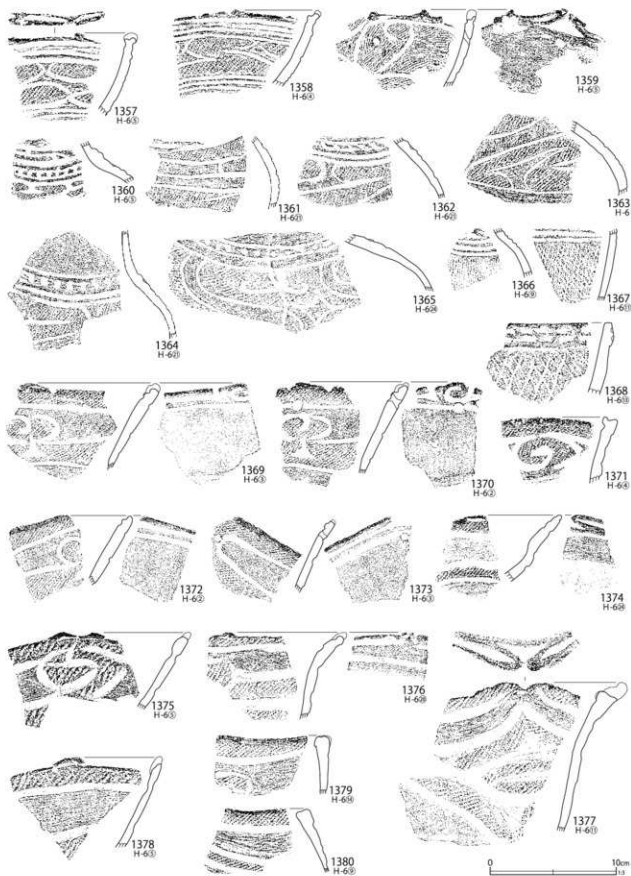
第229図 H-6グリッド出土遺物(60)



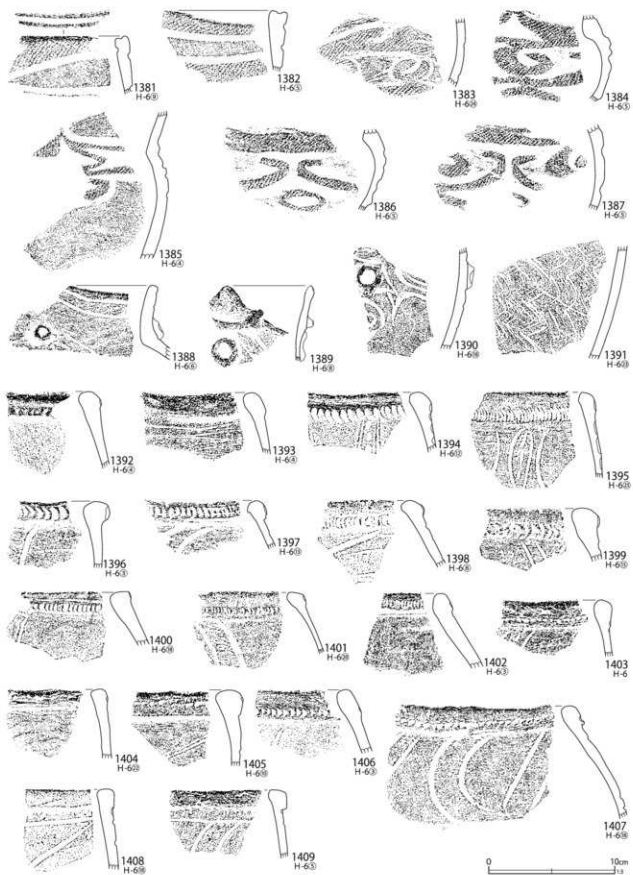
第230図 H-6グリッド出土遺物(61)



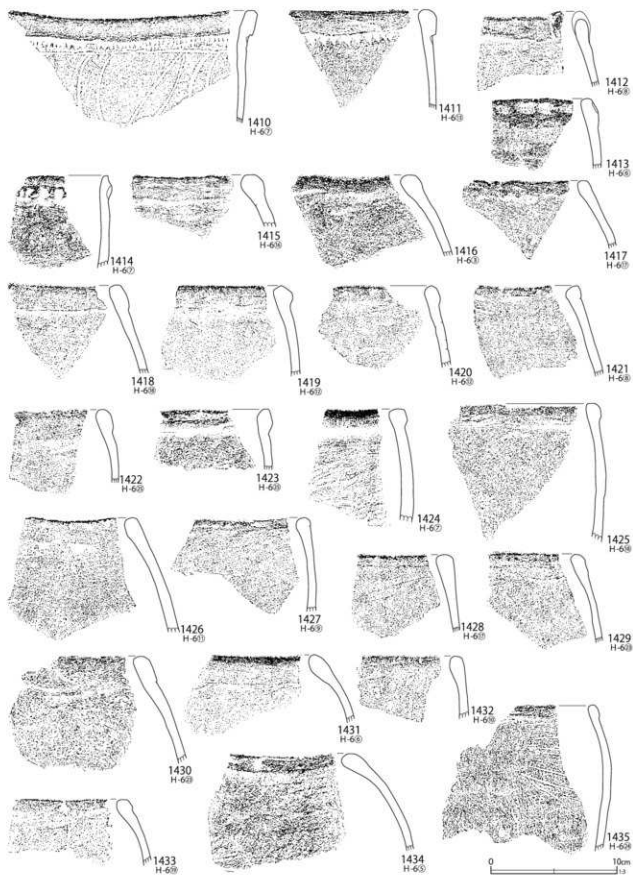
第231図 H-6グリッド出土遺物(62)



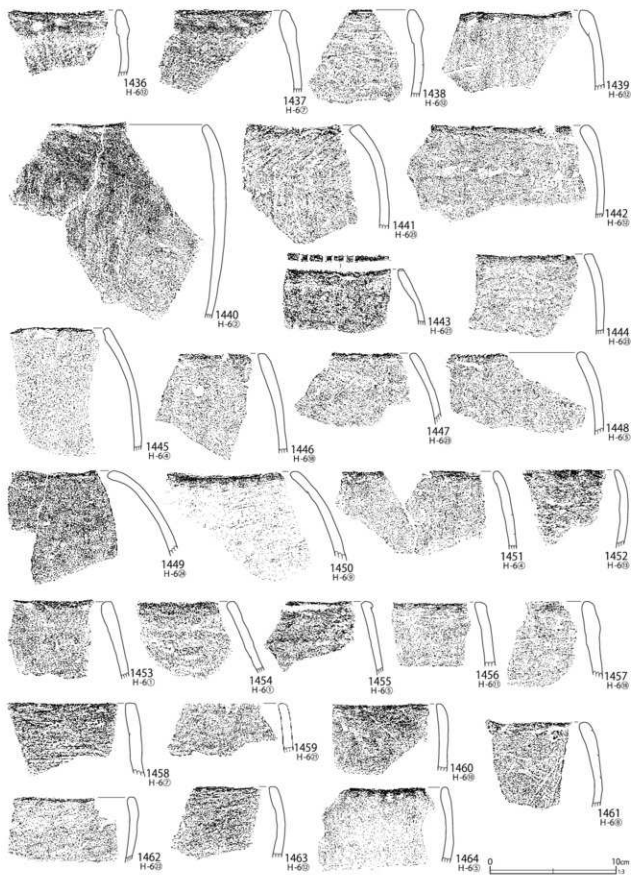
第232図 H-6グリッド出土遺物(63)



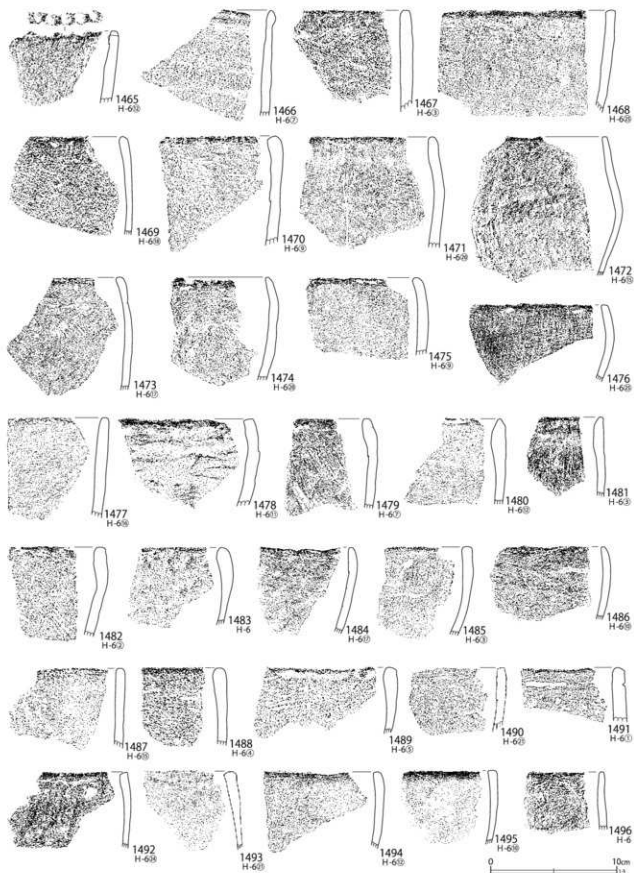
第233図 H-6グリッド出土遺物(64)



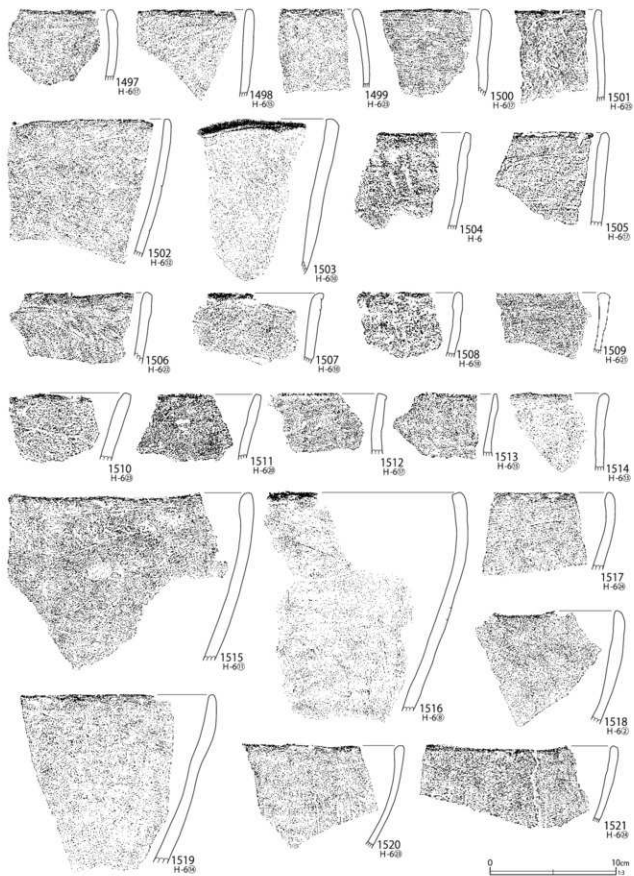
第234図 H-6グリッド出土遺物(65)



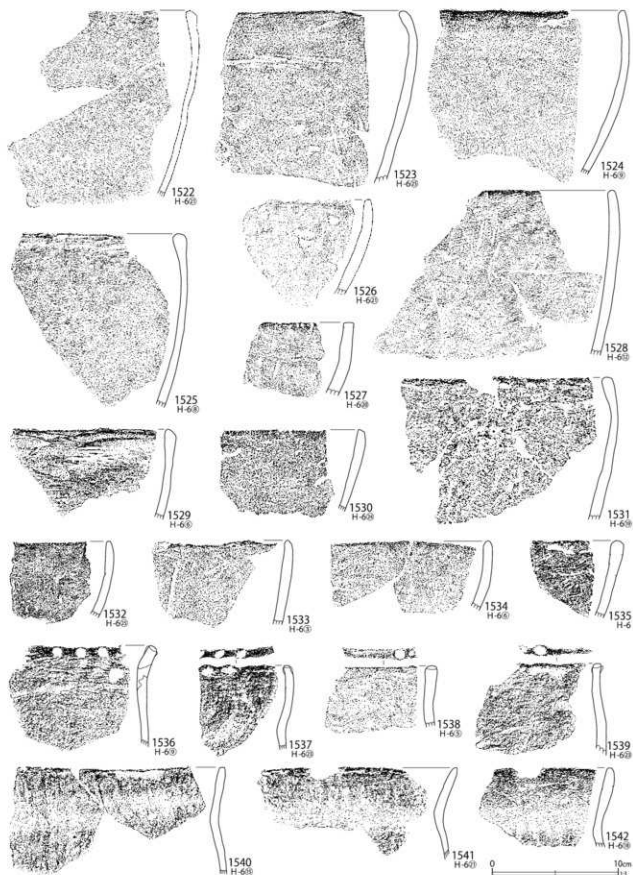
第235図 H-6グリッド出土遺物(66)



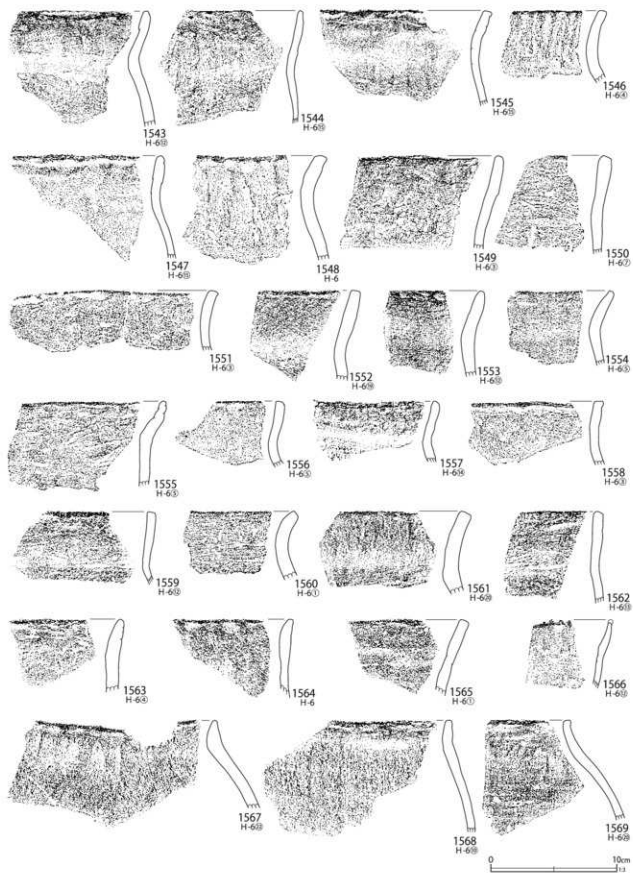
第236図 H-6グリッド出土遺物(67)



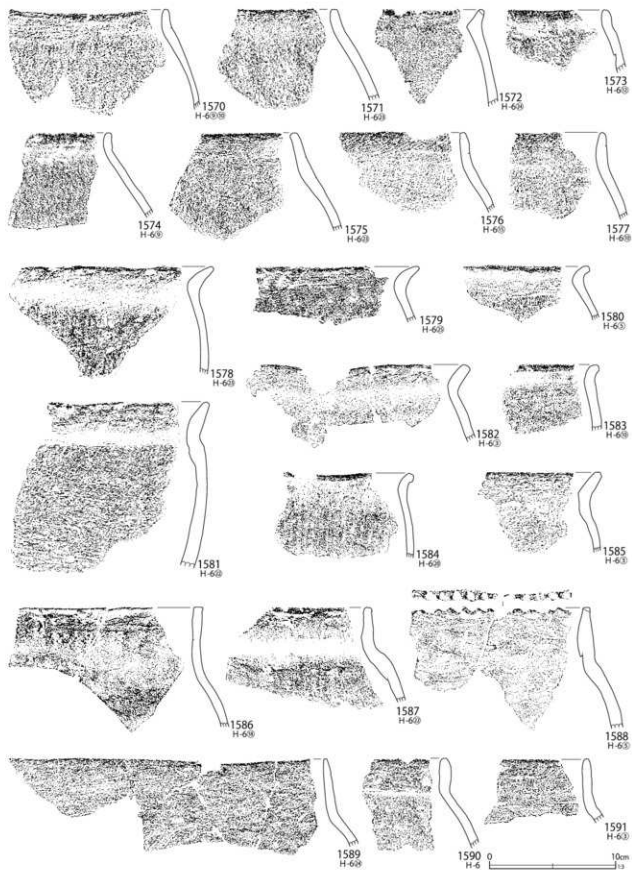
第237図 H-6グリッド出土遺物(68)



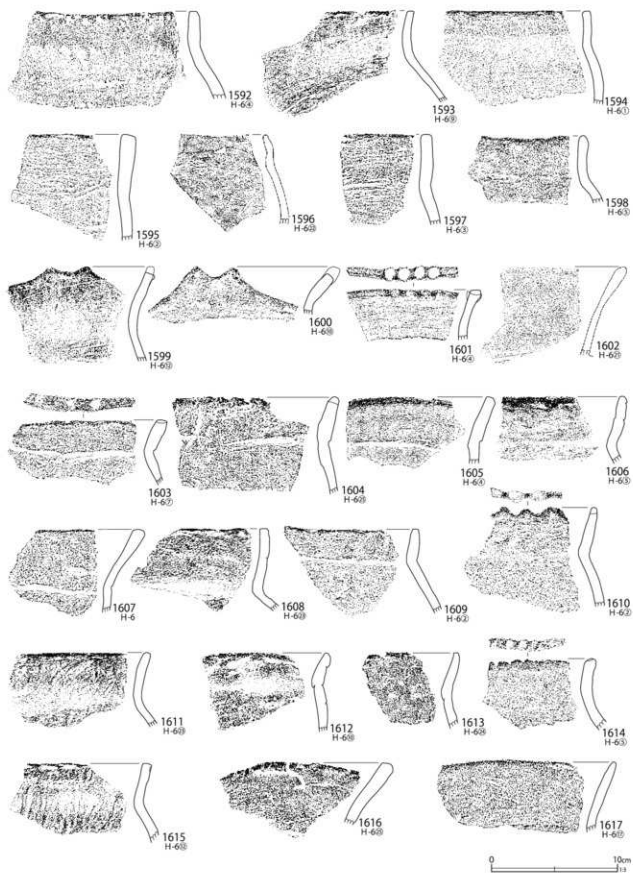
第238図 H-6グリッド出土遺物(69)



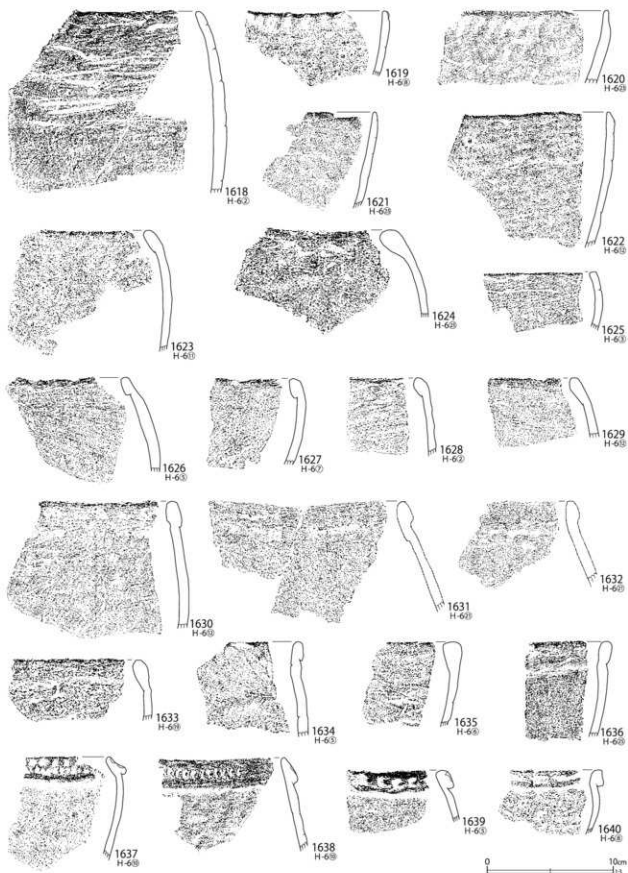
第239図 H-6グリッド出土遺物(70)



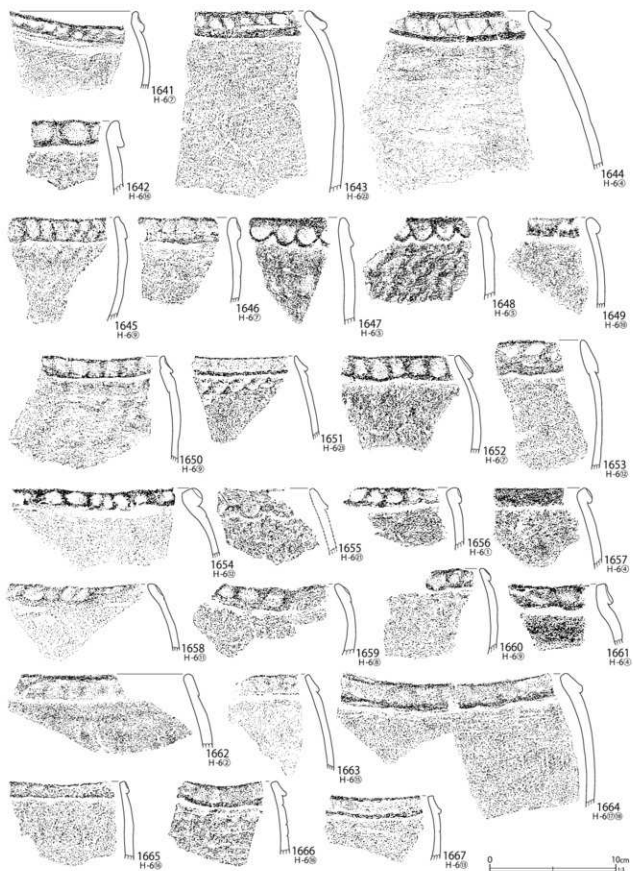
第240図 H-6グリッド出土遺物(71)



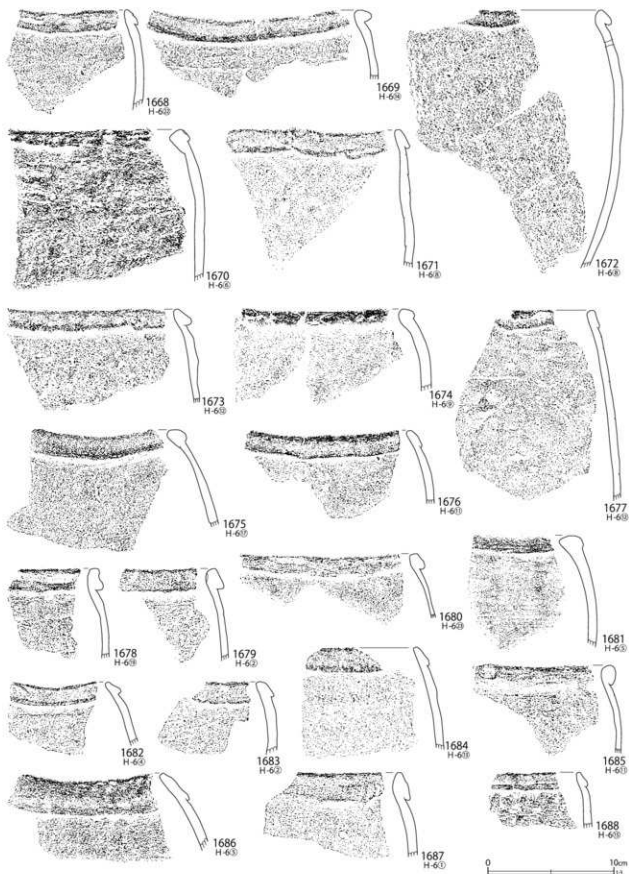
第241図 H-6グリッド出土遺物(72)



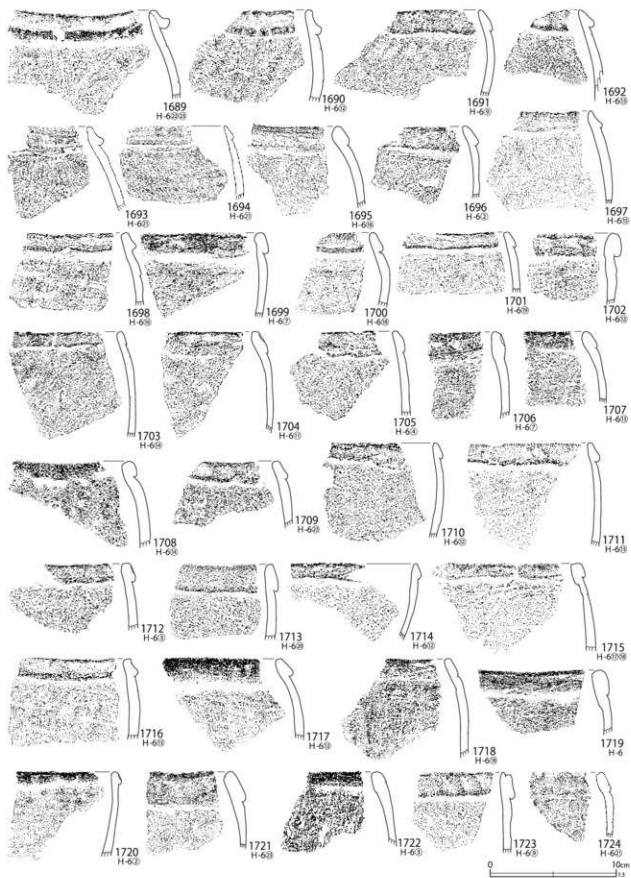
第242図 H-6グリッド出土遺物(73)



第243図 H-6グリッド出土遺物(74)



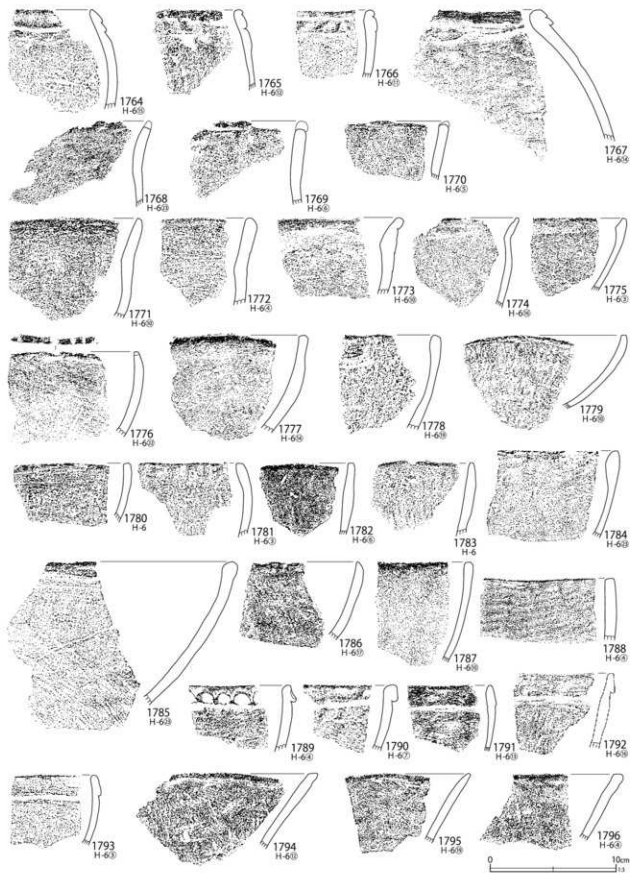
第244図 H-6グリッド出土遺物(75)



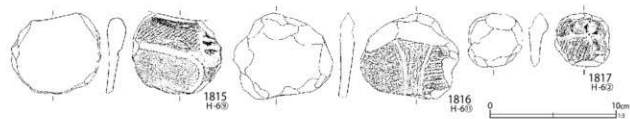
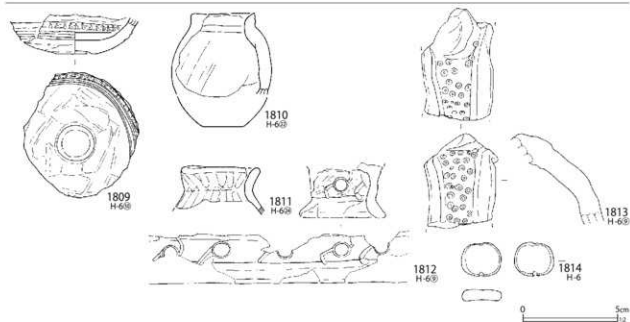
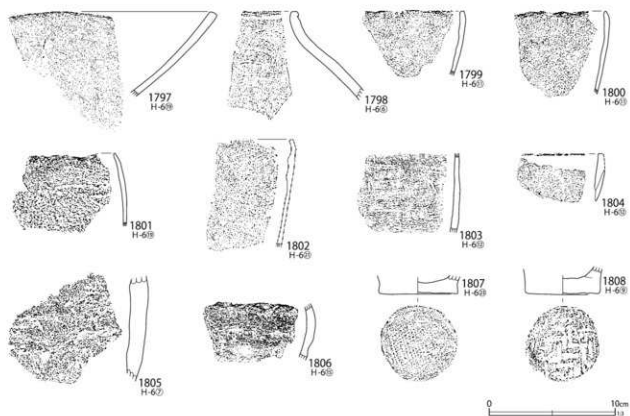
第245図 H-6グリッド出土遺物(76)



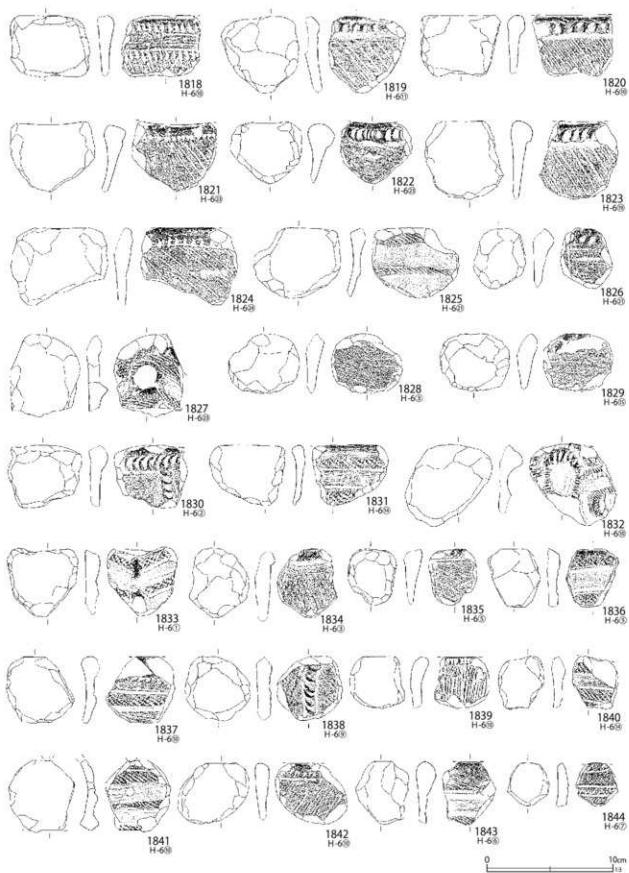
第246図 H-6グリッド出土遺物(77)



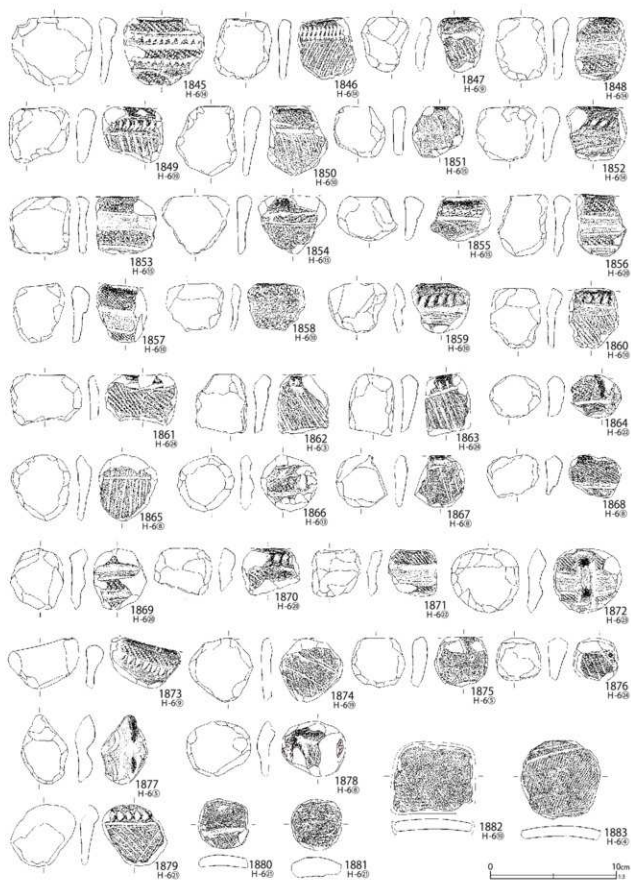
第247図 H-6グリッド出土遺物(78)



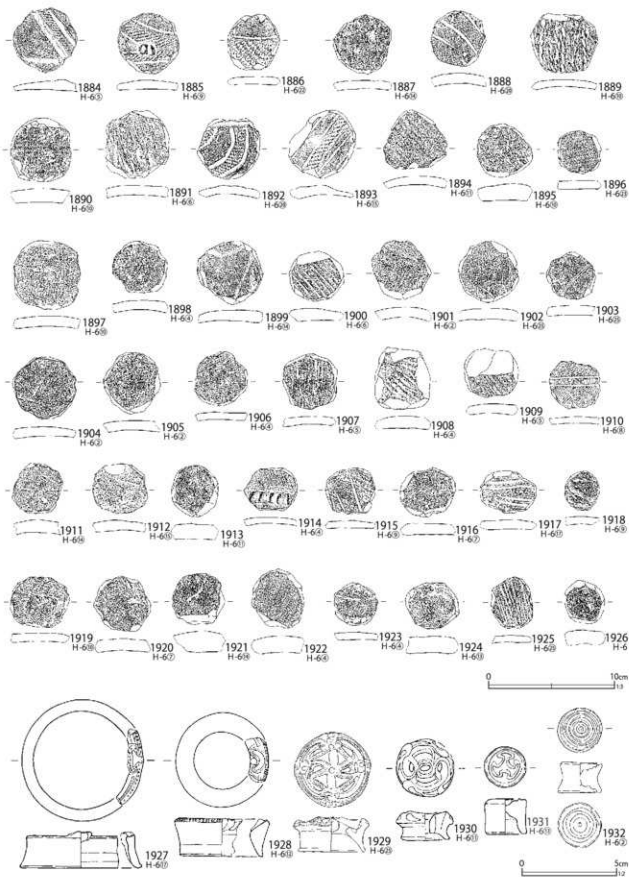
第248図 H-6グリッド出土遺物(79)



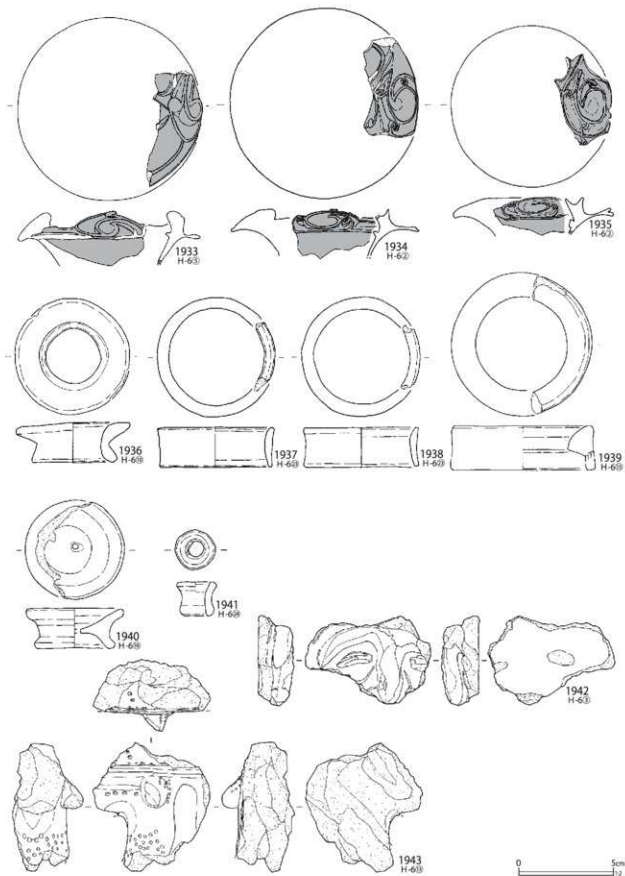
第249図 H-6グリッド出土遺物(80)



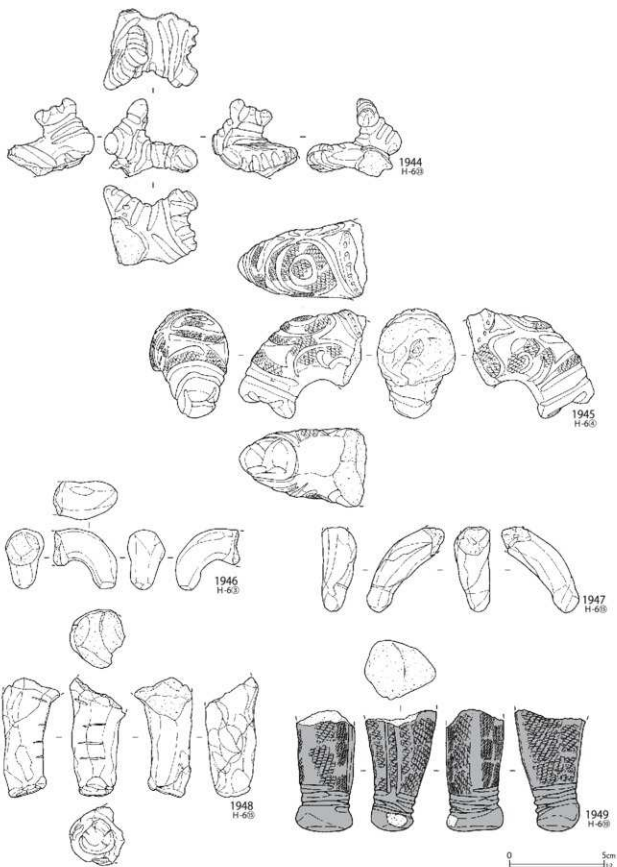
第250図 H-6グリッド出土遺物(81)



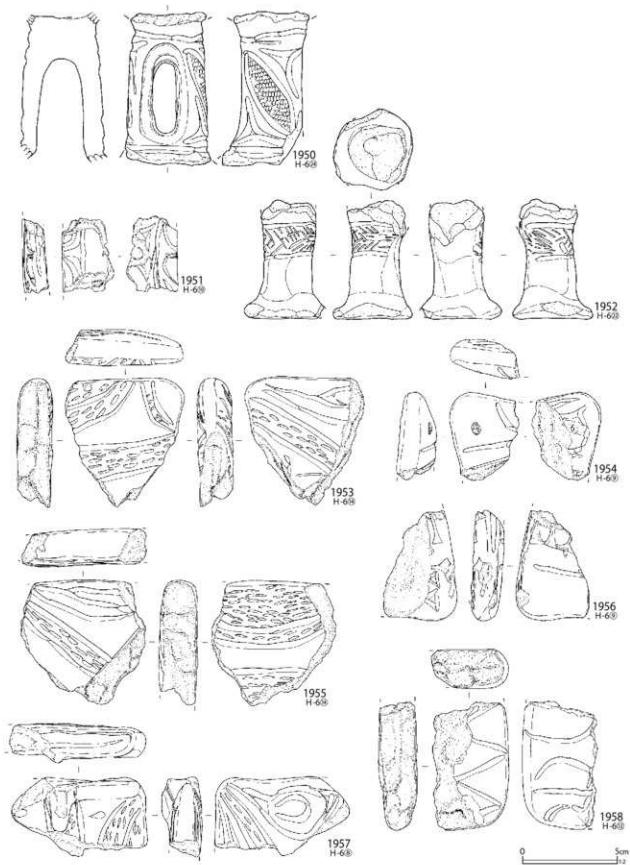
第251図 H-6グリッド出土遺物(82)



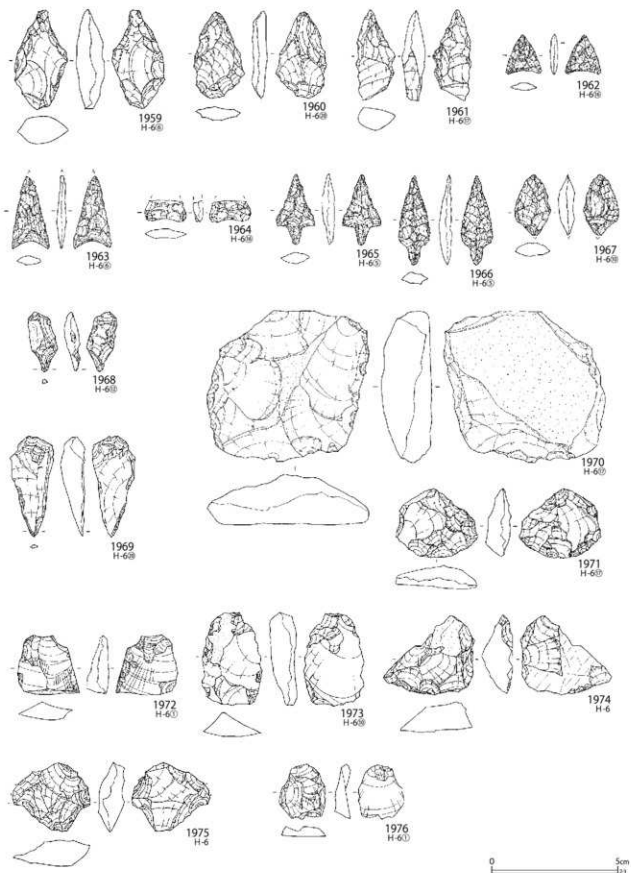
第252図 H-6グリッド出土遺物(83)



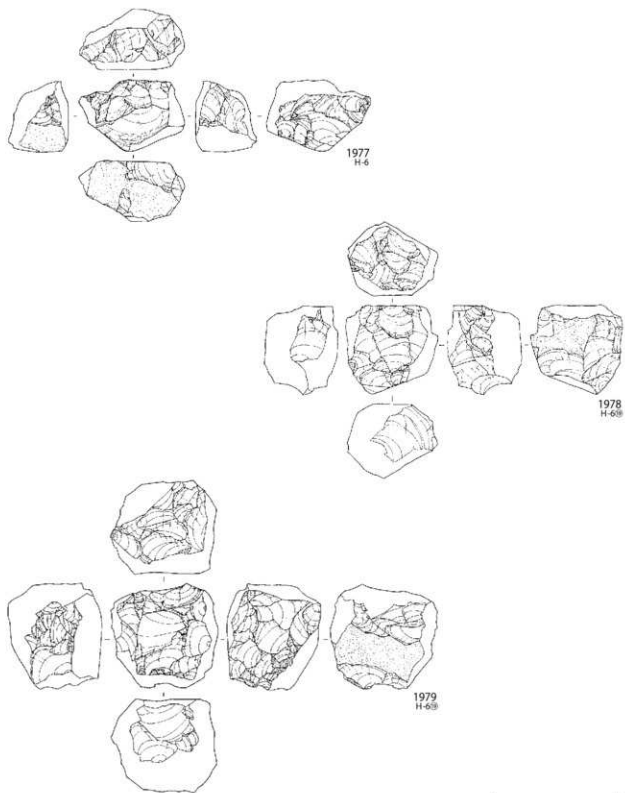
第253図 H-6グリッド出土遺物(84)



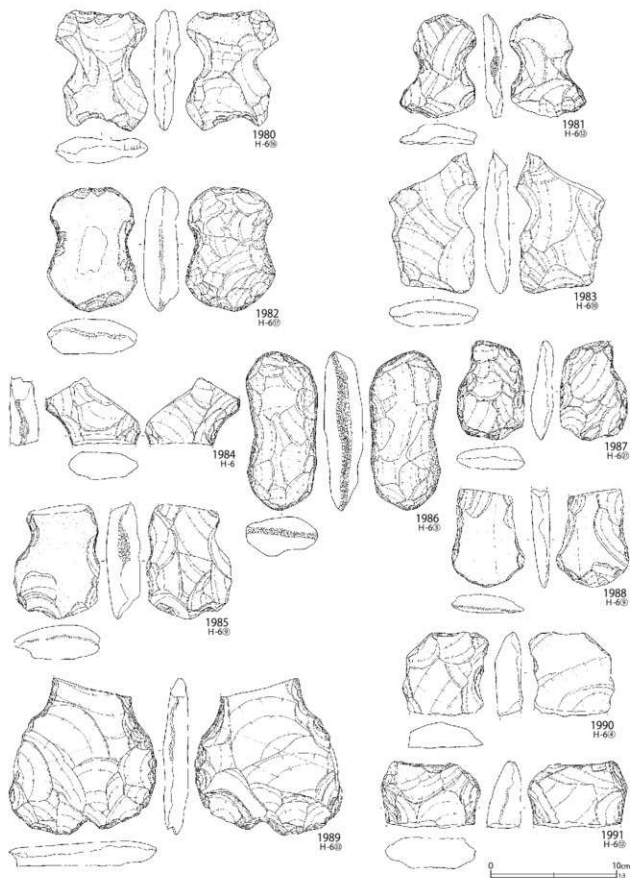
第254図 H-6グリッド出土遺物(85)



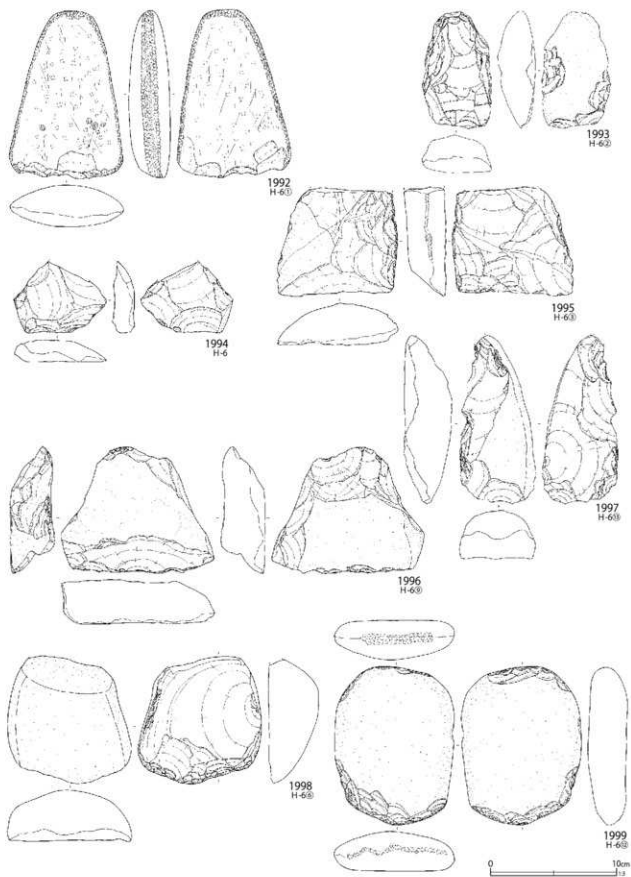
第255図 H-6グリッド出土遺物(86)



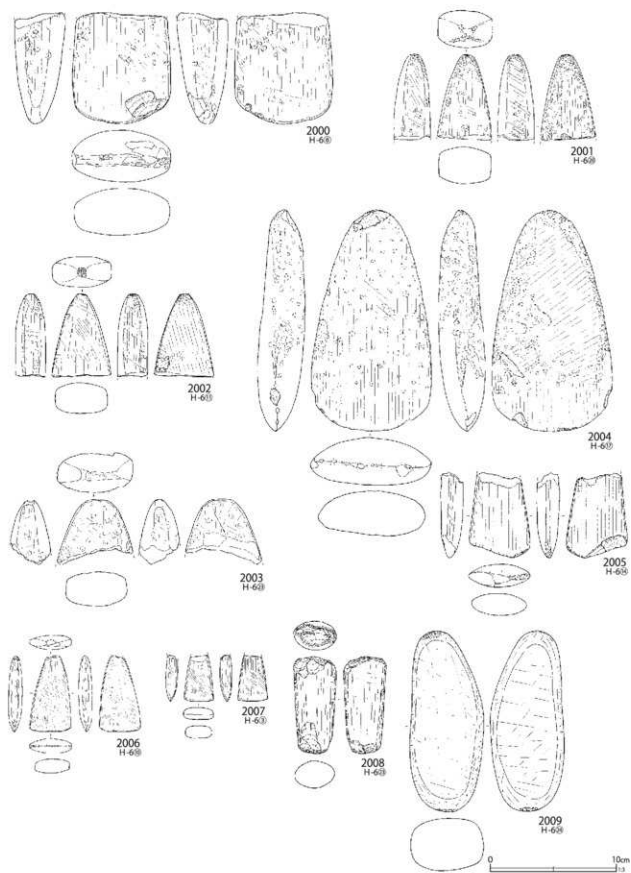
第256図 H-6グリッド出土遺物(87)



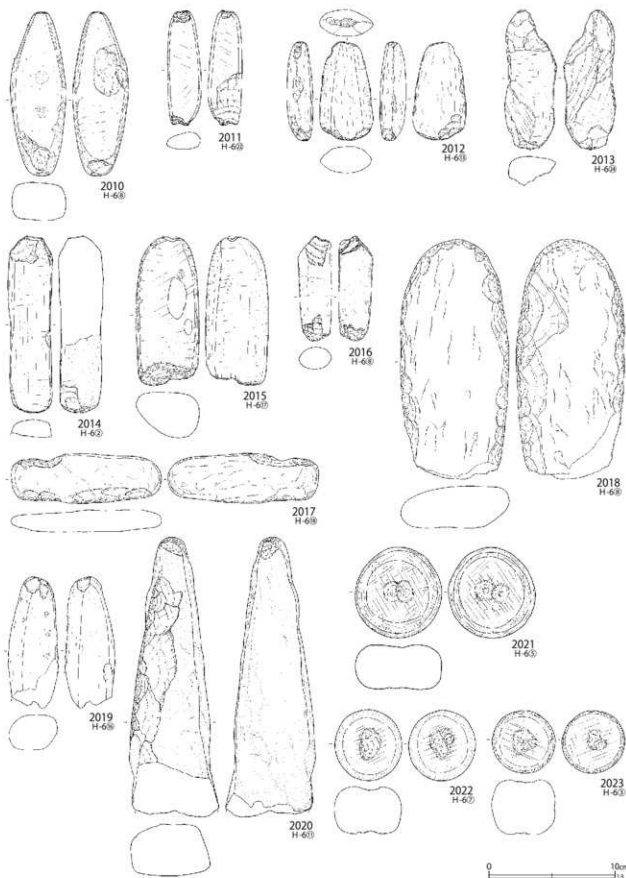
第257図 H-6グリッド出土遺物(88)



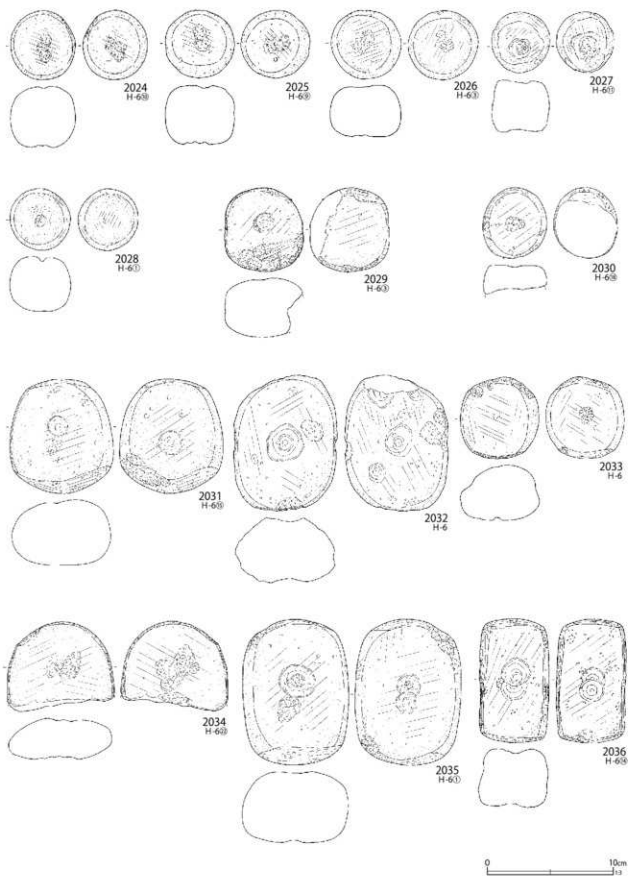
第258図 H-6グリッド出土遺物(89)



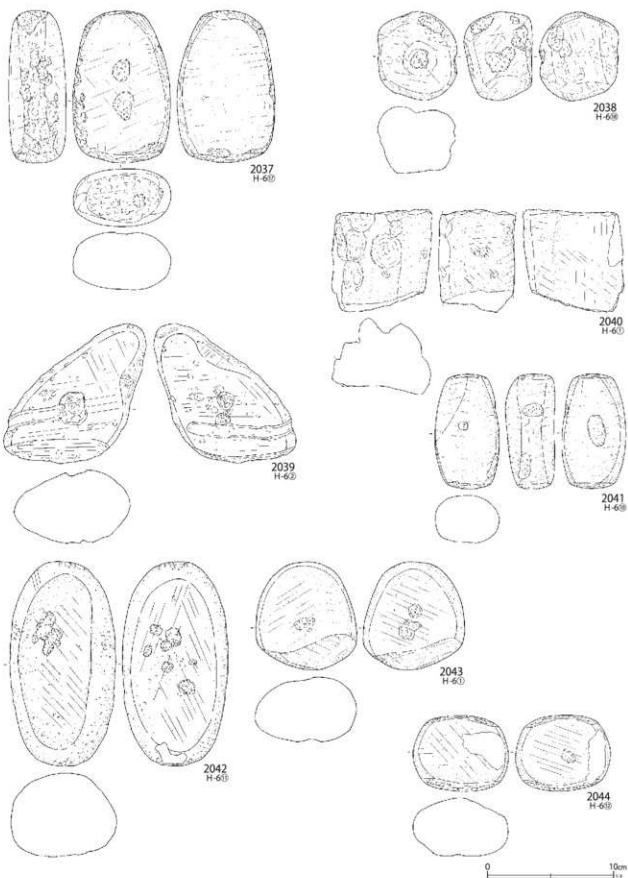
第259図 H-6グリッド出土遺物(90)



第260図 H-6グリッド出土遺物(91)



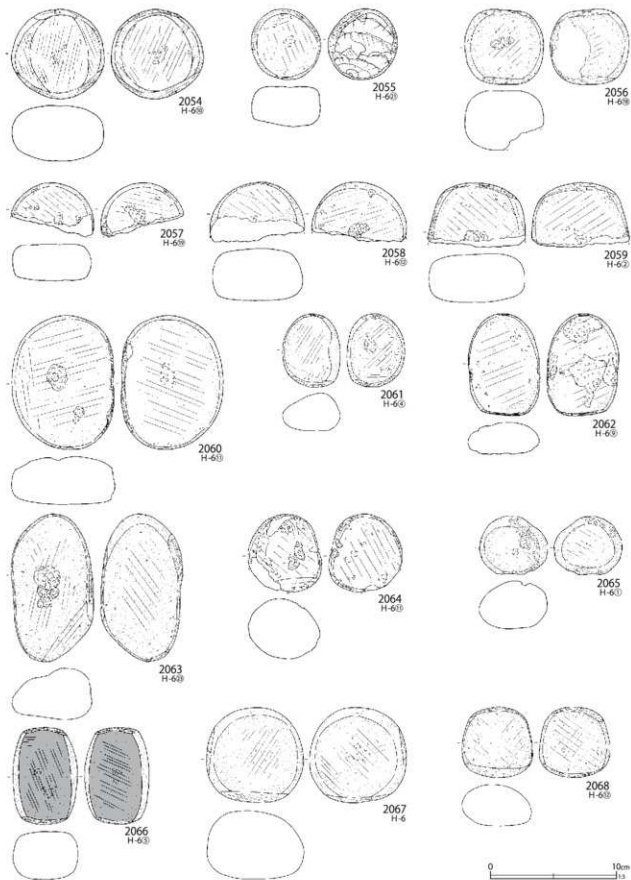
第261図 H-6グリッド出土遺物(92)



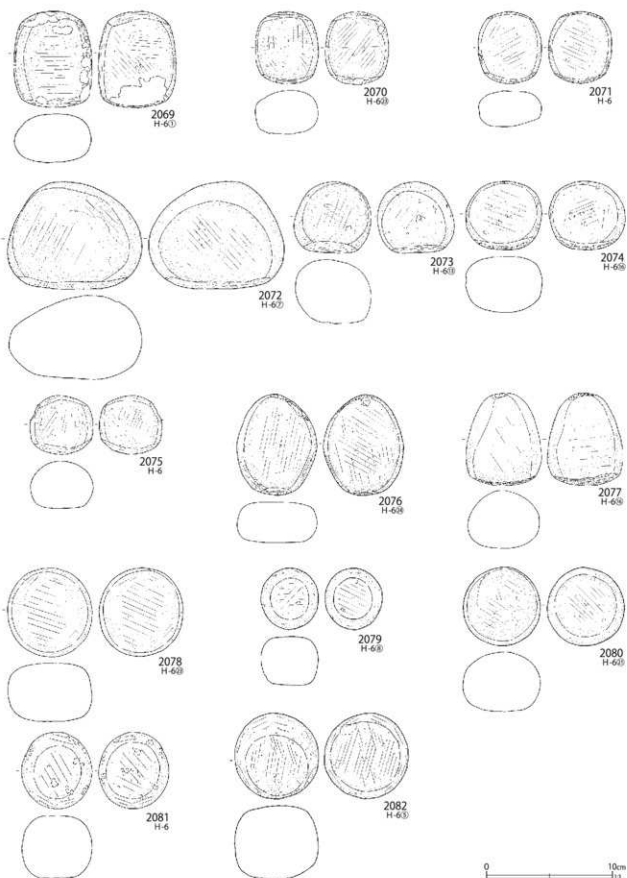
第262図 H-6グリッド出土遺物(93)



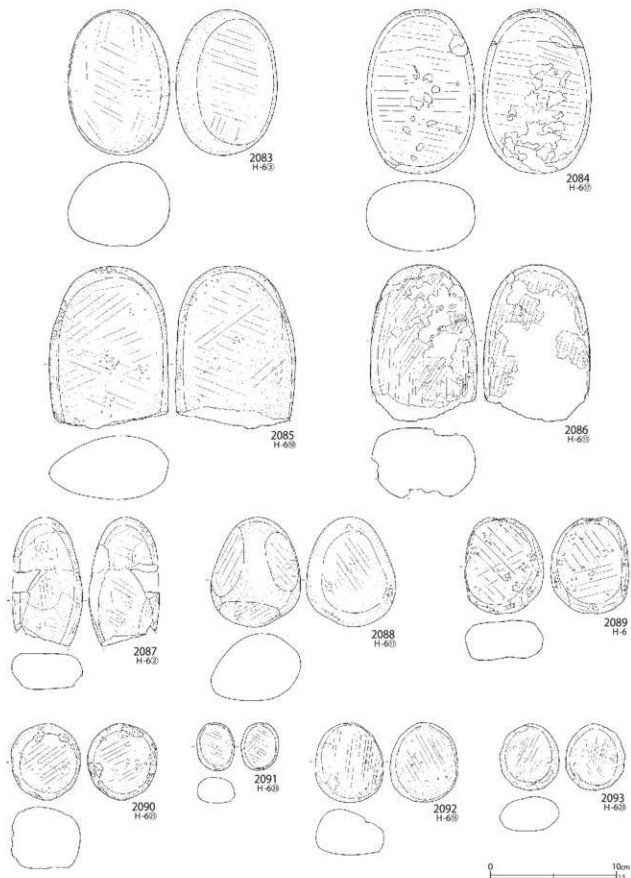
第263図 H-6グリッド出土遺物(94)



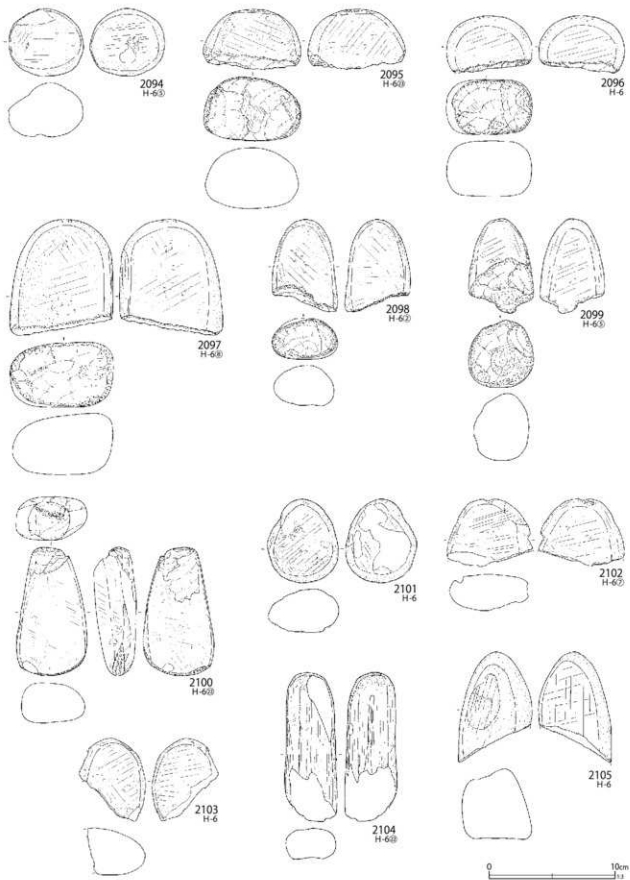
第264図 H-6グリッド出土遺物(95)



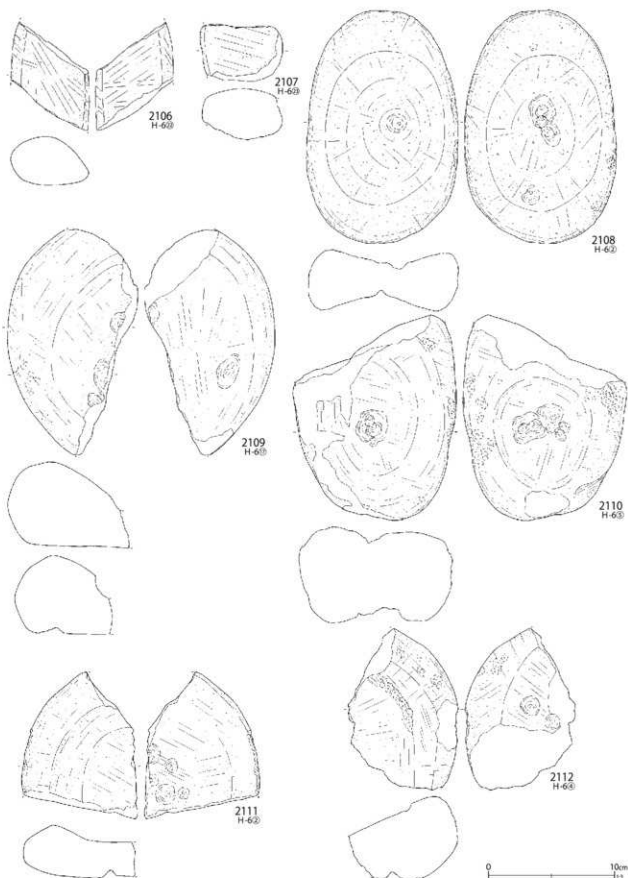
第 265 図 H-6 グリッド出土遺物 (96)



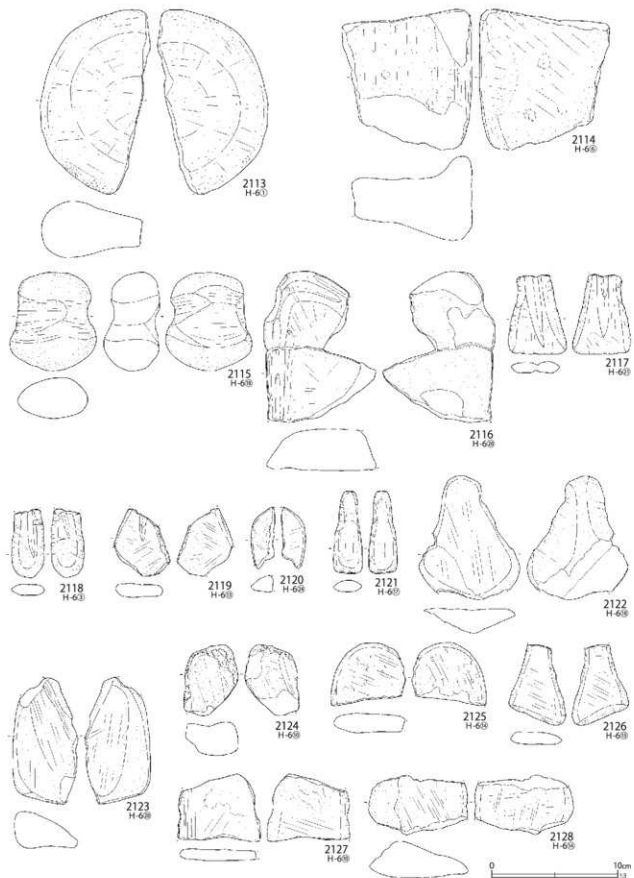
第266図 H-6グリッド出土遺物(97)



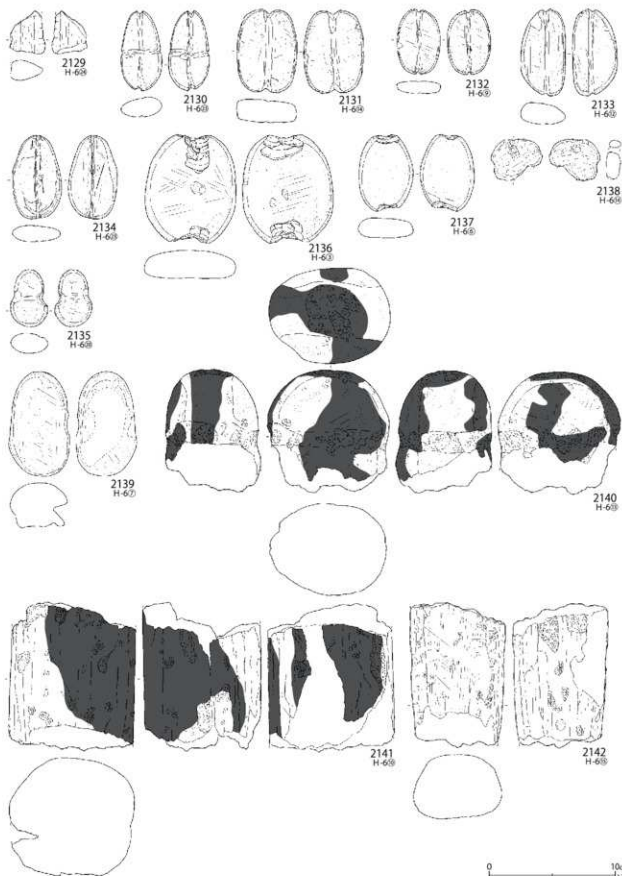
第267図 H-6グリッド出土遺物(98)



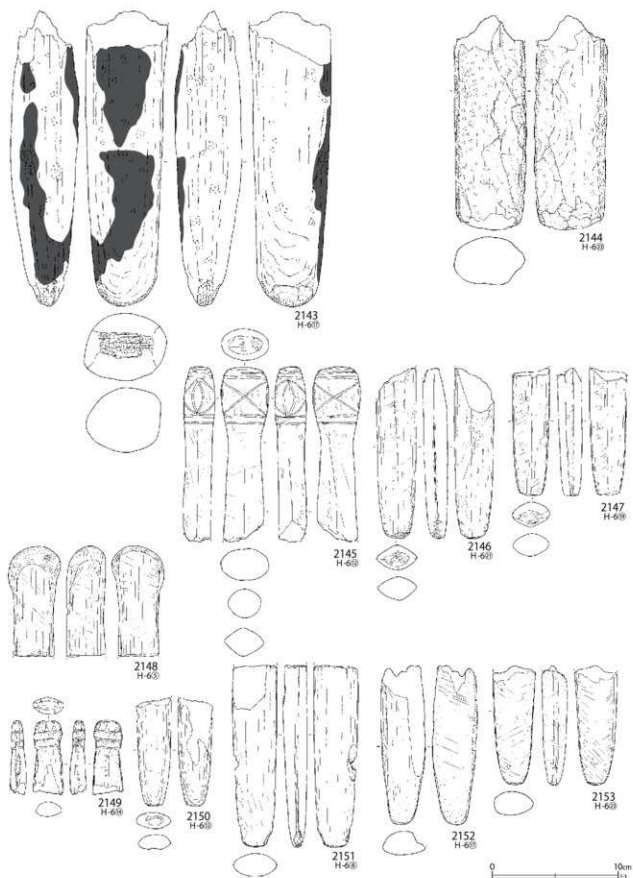
第268図 H-6グリッド出土遺物(99)



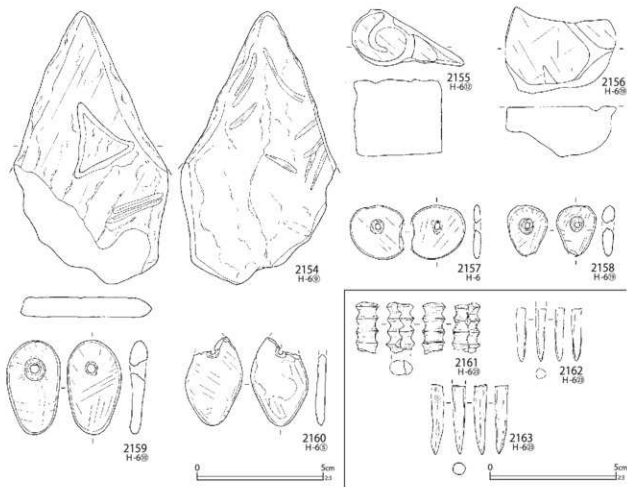
第269図 H-6グリッド出土遺物(100)



第270図 H-6グリッド出土遺物(101)



第271図 H-6グリッド出土遺物 (102)



第272図 H-6グリッド出土遺物(103)

第41表 H-6グリッド出土復元土器観察表(第170~第194図)

番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類	番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類
1	IV	[7.9]	(22.6)	(24.2)	-	V 2-A4	29	IV	[23.7]	(29.4)	(29.4)	-	V 4-A6
2	IV	[9.8]	(22.8)	(22.8)	-	V 2-A2	30	IV	[9.3]	(20.0)	(20.0)	-	V 2~4-A7
3	V-1	[15.9]	(26.6)	(27.5)	-	V 2-A3	31	IV	[12.9]	(22.0)	(22.0)	-	V 4-A6
4	V-1	[12.3]	-	(30.0)	-	V 2~3-A5	32	III-2	[22.9]	(24.2)	(24.2)	-	VI 1~2-A3
5	V-1	[8.2]	(24.8)	(24.8)	-	V 2~4-A3	33	III-2	[20.9]	(24.3)	(24.3)	-	VI 1~2-A3
6	IV	[14.0]	(32.6)	(32.6)	-	V 3-A3	34	IV	[12.6]	(30.6)	(30.6)	-	VI 1~2-A3
7	V-1	42.1	(33.3)	(33.3)	(5.0)	V 3~4-A3	35	IV	[18.5]	(19.2)	(19.2)	-	VI 1~2-A3
8	V-1	15.7	15.8	15.8	5.4	V 4-M4	36	III-2	[22.6]	(22.6)	(22.6)	-	VI 2-A3
9	V-1	[10.8]	(18.0)	(18.0)	-	V 4-M4	37	III-2	[14.9]	(19.9)	(19.9)	-	VI 2-A3
10	IV	[6.2]	(23.4)	(23.4)	-	V 4-M4	38	IV-6	[21.6]	(16.1)	(19.0)	-	VI 2-A3
11	V-1	[8.4]	(20.4)	(20.4)	-	V 4-A3	39	IV	[15.4]	-	(20.0)	-	VI 2-A1
12	IV	21.2	(22.2)	(22.2)	3.8	V 4-A3	40	IV	[12.3]	(15.4)	(15.4)	-	VI 2-A1
13	IV	[14.4]	-	(29.0)	-	V 4-A3	41	III-2	[12.6]	(15.0)	(15.0)	-	VI 2-A1
14	IV	[9.0]	(16.2)	(20.7)	-	V 4-A5	42	IV-6	[17.5]	(14.7)	(15.2)	-	VI 3-A3
15	V-1	[4.7]	(13.2)	(17.2)	-	V 4-A5	43	III-2	[27.7]	(27.9)	(27.9)	-	VI 3-A3
16	IV	[6.3]	(11.8)	(13.6)	-	V 2-C2	44	III-2	[11.2]	(27.6)	(32.2)	-	VI 3-A3
17	IV	[7.1]	(33.0)	(33.0)	-	V 4-D1	45	III-2	[17.8]	(26.6)	(26.6)	-	VI 3-A3
18	IV	[10.5]	(20.6)	(20.8)	-	V 4-C2	46	IV	19.0	(17.0)	(17.0)	6.2	VI 2-A4
19	V-1	[10.9]	(22.0)	(23.6)	(4.0)	V 4-C2	47	III-2	[14.3]	(15.4)	(16.1)	-	VI 2-A4
20	IV	[5.8]	(13.0)	(13.0)	-	V 4-C2	48	III-2	[4.3]	(13.4)	(13.4)	-	VI 2-A4
21	V-1	[6.6]	(18.7)	(20.8)	-	V 4-C2	49	IV	[13.6]	(22.8)	(23.0)	-	VI 2-A4
22	IV	[7.0]	(18.2)	(19.4)	-	V 4-C2	50	III-2	[15.2]	16.2	(19.5)	-	VI 2-A5
23	IV	[7.9]	-	(28.0)	-	V 2-B	51	IV	[6.0]	(20.8)	(25.2)	-	VI 1~2-A5
24	IV	[10.8]	-	(20.5)	-	V 2-B	52	IV	[14.8]	(29.0)	(36.4)	-	VI 2-A5
25	V-1	[16.2]	(36.0)	(36.0)	-	V 2-A2	53	IV	[13.0]	20.0	(29.2)	-	VI 1~2-A5
26	IV	[13.9]	(22.0)	(22.2)	-	V 2~4-A7	54	IV	[4.1]	(18.2)	(23.2)	-	VI 2-A5
27	IV	[15.1]	(31.4)	(33.6)	-	V 1~2-A7	55	III-2	[10.5]	(24.0)	(28.4)	-	VI 2-A5
28	V-1	[7.8]	(28.6)	(28.6)	-	V 2~4-A7	56	IV	[25.2]	(25.8)	(30.4)	-	VI 2-A5

序号	部位	器高	口径	最大径	底径	分 类	序号	部位	器高	口径	最大径	底径	分 类
57	III-2	[16.2]	(40.1)	(45.8)	-	VI 2~VII 1-A5	127	IV	[15.0]	(18.6)	(19.6)	-	VII~VIII-A6
58	III-2	[8.2]	(26.1)	(30.2)	-	VI 2~VII 1-A5	128	IV	[24.3]	(25.0)	(30.2)	-	VII~VIII-A6
59	III-2	[12.3]	(27.0)	(31.6)	-	VI 2~VII 1-A5	129	III-2	[9.8]	(24.0)	(28.4)	-	VII~VIII-A6
60	III-2	[9.6]	12.9	12.9	-	VI 2-A2	130	IV	[6.7]	-	(12.0)	4.2	X 3
61	III-2	[4.1]	(11.2)	(11.4)	-	VI 2-A2	131	-	[3.2]	-	(16.8)	6.2	X 3
62	IV	[4.8]	(12.0)	(12.0)	-	VI 2-A2	132	IV	27.0	20.5	20.6	5.4	VII 1-A3
63	IV	[5.7]	-	(13.6)	-	VI 2-A	133	III-2	[20.1]	(23.4)	(23.4)	-	VII 3-A3
64	IV	[8.8]	-	(21.4)	-	VI 1-A	134	III-2	[11.2]	(16.8)	(16.8)	-	VII 1-A3
65	III-2	[21.4]	-	(37.0)	(12.5)	VI 2-A	135	I	[11.2]	(20.5)	(20.8)	-	VII 3-A3
66	IV	[14.7]	-	(30.4)	(5.4)	VI 2-A	136	III-2	[14.1]	(20.8)	(20.8)	-	VII 2-A3
67	III-2	[13.3]	-	(26.5)	(8.5)	VI 2-A	137	III-2	[10.1]	(27.2)	(27.2)	-	VII 1-A3
68	IV	[9.0]	-	(22.8)	4.8	VII~VIII-A	138	III-2	[14.9]	(29.6)	(29.6)	-	VII 1-A3
69	IV	[7.9]	-	(14.4)	6.0	VII~VIII-A	139	III-2	[13.9]	(24.8)	(28.2)	-	VII 1-A4
70	IV	[7.1]	-	(16.3)	8.0	VII~VIII-A	140	III-2	[10.9]	(27.8)	(29.4)	-	VII 2~VII 1-A4
71	IV	[5.5]	(19.2)	(19.3)	-	VI 1-C2	141	III-2	[10.8]	(34.4)	(34.4)	-	VII-A4
72	IV	[9.0]	(23.6)	(23.6)	-	VI 2-C2	142	IV	[19.3]	(25.8)	(28.4)	-	VII 1-A4
73	III-2	[6.6]	(17.8)	(17.8)	-	VI 2-C1	143	III-2	[21.5]	(28.8)	(28.8)	-	VII 4-A4
74	III-2	7.3	(22.4)	(22.4)	-	VI 2-D2	144	III-2	32.4	25.5	(27.6)	6.6	VII 2-A4
75	III-2	[8.1]	(16.0)	(16.0)	-	VI 2-C1	145	III-2	[9.1]	(37.6)	(37.6)	-	VII 4-A4
76	IV	6.5	(9.7)	(12.3)	-	丸底	146	I	[6.2]	(10.8)	(10.8)	-	VII 1-A2
77	IV	[6.5]	(8.6)	(11.3)	-	VI 2-C2	147	IV	[7.2]	(8.0)	(9.2)	-	VII 2-A5
78	III	[11.9]	(31.0)	(31.0)	-	VI 2-C1	148	III-2	[19.2]	(29.0)	(29.4)	-	VII 2-A4
79	III-2	[7.3]	(20.6)	(20.6)	-	VI 2-C1	149	IV	[17.2]	(22.6)	(22.6)	-	VII 2-A2
80	IV	[7.4]	(23.0)	(23.0)	-	VI 2-C1	150	III-2	[6.3]	(34.4)	(35.1)	-	VII 2-A5
81	IV-9	[4.6]	-	(19.6)	7.2	VI 2-C	151	III-2	[25.4]	(30.0)	(41.0)	-	VII 1-A5
82	IV	[8.0]	(28.8)	(28.8)	-	VI 2-D1	152	III-2	[12.6]	-	(22.6)	-	VII-A
83	IV	-4.9	19.4	19.4	12.4	VI 2-D2	153	III-2	[6.8]	-	(16.7)	-	丸底
84	III-2	[11.2]	-	(25.0)	(5.0)	VI 2-C1	154	III-2	[19.5]	-	(36.0)	-	VII 2-A4
85	IV	[3.5]	-	(11.8)	丸底	VI 2-C	155	IV	[7.9]	-	(11.7)	-	VII 1-A
86	III-2	[1.6]	-	(12.0)	5.2	VI 2-C	156	V-1	[4.7]	-	(12.8)	6.6	VII 1-A
87	III-2	[3.9]	(19.6)	(19.6)	-	VI 2-E	157	III-2	[7.7]	(22.7)	(22.7)	-	VII-D2
88	IV-9	5.8	22.5	22.5	9.6	VI 2-D2	158	III-2	[4.5]	(18.4)	(18.4)	-	VII 1-D2
89	III-2	[8.3]	(19.1)	(19.1)	-	VI 2-B1	159	IV	9.0	(20.8)	(20.8)	10.0	VII 1-C1
90	III-2	[7.5]	-	(18.2)	-	VI 2-B	160	I	[7.0]	(24.2)	(24.2)	-	VII 1-D2
91	V	[14.9]	(34.8)	(34.8)	-	VI 2-B1	161	III-2	[7.5]	(19.4)	(19.4)	7.6	VII 2-C1
92	III-2	[14.5]	-	(24.3)	-	VI 2-B	162	III-2	[4.5]	-	(13.0)	8.8	VII 2-C
93	III-2	[13.5]	-	(26.2)	-	VI 2-B	163	III-2	[6.6]	-	(21.2)	(9.0)	VII 1-C
94	IV	[14.0]	(35.6)	(35.6)	-	VI 2-B2	164	III-2	[3.0]	-	(14.0)	(6.1)	VII-C
95	IV	[18.2]	-	(20.3)	(20.3)	VI 2-B	165	V-1	[5.0]	-	(10.8)	3.0	VII 1-C
96	IV	[10.8]	-	(17.6)	(17.6)	VI 2-B	166	IV	[5.7]	(16.8)	(16.8)	-	VII 1-B2
97	III-2	[7.4]	-	(13.1)	(13.1)	VI 2-B	167	I	[9.8]	(28.2)	(28.2)	-	VII 1-B1
98	I	[8.0]	-	(19.4)	(19.4)	VI 2-B	168	I	[2.7]	-	(7.4)	-	VII-B
99	III-2	[4.4]	-	(12.6)	(12.6)	VI 2-B	169	III-2	[5.6]	-	(15.4)	-	VII-B
100	III-2	[5.2]	-	(24.0)	(24.0)	VII-B	170	IV	[2.6]	-	(10.0)	-	VII-B
101	III-2	[7.3]	-	(17.2)	-	VII-B	171	III-2	[7.5]	-	(14.5)	-	VII-B
102	IV	[5.1]	-	(14.5)	-	VII-B	172	V-1	[5.7]	-	(8.1)	8.1	VII-B
103	III-2	[6.0]	-	(16.7)	-	VII-B	173	III-2	[5.8]	-	(13.0)	(13.0)	VII-B
104	III-2	[4.1]	-	9.2	-	VII-B	174	III-2	8.4	16.9	16.9	4.5	VII-C1
105	III-2	[4.6]	-	(13.0)	-	V 2-B	175	III-2	6.8	(14.4)	(14.4)	(6.0)	VII-C2
106	IV	[7.8]	-	(14.5)	(14.0)	VI 2-B	176	III-2	[7.0]	(17.8)	(17.8)	-	VII-C2
107	III-2	[8.4]	(13.2)	(25.0)	-	VI 2-G	177	V-1	5.3	15.8	15.8	-	VII-C2
108	III-2	[8.6]	-	(29.0)	-	VI 2-G	178	IV	[5.7]	(18.5)	(18.5)	(7.2)	VII-C2
109	III-2	[7.7]	-	(30.8)	-	VI 2-G	179	III-2	6.4	(20.2)	(20.2)	(8.6)	VII-C1
110	III-2	11.7	(9.6)	14.4	4.0	VI 2-F1	180	IV	[5.1]	(22.5)	(22.5)	(9.0)	VII-D2
111	III-2	[7.6]	(7.2)	(13.0)	-	VI 2-F1	181	III-2	6.4	(20.0)	(20.0)	8.4	VII-D2
112	III-2	[20.6]	-	(24.4)	(8.4)	VI 2-F	182	IV	[4.9]	(15.6)	(15.6)	(10.0)	VII-B2
113	III-2	[6.9]	(17.6)	(23.6)	-	VI 2-F	183	III-2	[2.8]	(26.6)	(26.6)	-	VII-E
114	III-2	[6.5]	-	(11.4)	3.6	VI 2-F	184	III-2	4.7	(16.0)	(16.0)	(9.0)	VII-D2
115	III-2	[5.9]	(19.2)	(21.2)	-	VI 2~VII 1-F	185	IV	6.3	(8.6)	(8.9)	4.4	VII-A2
116	III-2	[15.6]	(24.4)	(28.2)	-	VI 7-A5	186	VI	5.0	(6.2)	7.7	(4.2)	VII-F
117	III-2	[11.6]	(22.6)	(23.4)	-	VI 7-A5	187	V-1	[6.2]	(5.0)	(6.5)	-	丸底
118	III-2	[15.0]	-	(26.2)	-	VI 7-A	188	IV	[23.0]	(20.6)	(20.6)	-	VII 5-A4
119	IV	[8.9]	(30.3)	(30.3)	-	VI 7-C1	189	III-2	[5.5]	(10.4)	(10.4)	-	VII 5-A2
120	IV	[9.3]	-	(23.0)	-	VI 7-F	190	IV	[4.3]	(18.0)	(18.0)	-	VII 5-C1
121	IV-9	[8.5]	(16.2)	(17.0)	-	VI~VII-A7	191	III-2	[6.1]	(17.6)	(17.6)	-	VII 5-C1
122	IV	[9.4]	(25.0)	(26.2)	-	VII~VIII-A5	192	III-2	8.8	(17.0)	(17.0)	-	VII 6-C2
123	III-2	[11.3]	(22.0)	(23.6)	-	VII 1-A5	193	III-2	7.2	(19.4)	(19.4)	(5.2)	VII 6-C2
124	IV	[14.9]	(27.0)	(30.9)	-	VII-A5	194	III-2	[5.5]	(18.2)	(18.2)	-	VII 7-C2
125	IV	[8.4]	(19.4)	(19.4)	-	VI-A6	195	III-2	[9.2]	(18.0)	(18.0)	-	VII 7-C2
126	IV	[18.4]	(22.4)	(22.4)	-	VI 2~VII 1-A6	196	I	[6.4]	(21.2)	(21.2)	-	VII 6~7-C2

番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類	番号	層位	器高	口径	最大径	底径	分類
197	Ⅱ-2	[3.7]	(20.0)	(20.2)	-	Ⅴ6~7-C2	249	Ⅳ	[3.7]	-	(8.0)	6.9	X3
198	Ⅱ-2	[10.9]	-	(29.0)	-	Ⅴ4-A3	250	V-1	[2.6]	-	(6.2)	6.2	X3
199	Ⅱ-2	[8.3]	(22.0)	(22.0)	-	Ⅴ4-A3	251	Ⅲ-2	[3.9]	-	(9.2)	8.0	X3
200	Ⅱ-2	[14.5]	(29.9)	(29.9)	-	Ⅴ4-A3	252	Ⅳ	[1.8]	-	(11.3)	10.4	X3
201	Ⅱ-2	[7.1]	(24.4)	(26.4)	-	Ⅴ4-A4	253	V-1	[5.8]	-	(14.0)	7.4	X3
202	Ⅳ	[13.9]	-	(18.2)	-	Ⅴ4-F	254	Ⅳ	[5.8]	-	(11.8)	10.2	X3
203	Ⅱ-2	[10.3]	(25.4)	(25.4)	-	Ⅴ5-A3	255	Ⅳ	[3.6]	-	(12.2)	11.0	X3
204	Ⅱ-2	[6.3]	-	(19.0)	-	Ⅴ5-A	256	V-1	[3.3]	-	(10.4)	6.2	X3
205	Ⅱ-2	[5.7]	(30.0)	(34.0)	-	Ⅴ-A	257	V-1	[8.2]	-	(13.4)	7.8	X3
206	Ⅳ	[15.1]	(26.8)	(29.0)	-	Ⅴ-A	258	Ⅲ-2	[1.4]	-	(12.8)	11.0	X3
207	Ⅳ-9	[5.7]	(25.6)	(29.0)	-	Ⅴ-A	259	Ⅲ-2	[1.6]	-	(12.0)	9.8	X3
208	Ⅳ	[14.6]	(23.8)	(23.8)	-	Ⅴ-A	260	Ⅳ	[3.3]	-	(10.2)	7.2	X3
209	Ⅲ-2	(12.0)	(24.6)	(27.0)	-	Ⅴ-A	261	Ⅲ-2	[4.4]	-	(12.2)	10.2	X3
210	Ⅳ	[19.0]	(20.4)	(22.2)	-	Ⅴ-A	262	Ⅲ-2	[2.7]	-	(12.6)	8.2	X3
211	Ⅳ	[18.5]	(35.0)	(36.0)	-	Ⅴ-A	263	Ⅳ	[14.9]	-	(30.0)	9.8	X3
212	Ⅲ-2	(22.2)	(28.9)	(29.8)	-	Ⅴ-A	264	Ⅲ-2	[15.0]	-	(21.0)	(7.1)	X3
213	Ⅲ-2	(15.1)	(32.1)	(34.2)	-	Ⅴ-A	265	Ⅳ	[8.0]	-	(9.0)	7.5	X3
214	Ⅲ-2	[14.2]	(26.4)	(33.0)	-	Ⅴ-A	266	Ⅳ	[4.1]	-	(8.8)	6.7	X3
215	Ⅲ-2	[7.2]	(38.0)	(38.6)	-	Ⅴ-A	267	Ⅲ-2	[13.2]	-	(19.3)	7.8	X3
216	Ⅲ-2	[8.6]	(21.8)	(22.2)	-	Ⅴ-A	268	Ⅲ-2	[13.5]	-	(21.1)	(8.3)	X3
217	Ⅲ-2	(18.0)	(28.2)	(28.4)	-	Ⅴ-A	269	Ⅲ-2	[5.3]	-	(16.2)	(8.8)	X3
218	Ⅲ-2	14.8	15.2	15.2	7.0	Ⅴ-A	270	V-1	[6.7]	-	(18.0)	13.0	X3
219	Ⅲ-2	(19.0)	-	(44.0)	-	Ⅴ-A	271	V-1	[6.2]	-	(13.4)	8.4	X3
220	Ⅲ-2	[15.6]	(26.2)	(27.0)	-	Ⅴ-A	272	V-1	[8.1]	-	(14.2)	7.6	X3
221	Ⅳ	[23.4]	(25.0)	(30.0)	-	Ⅴ-A	273	Ⅳ	[12.8]	-	(16.6)	5.2	X3
222	Ⅲ-2	[24.0]	(28.8)	(30.0)	-	Ⅴ-A	274	Ⅲ-2	[11.6]	-	(22.6)	(9.8)	X3
223	Ⅲ-2	(19.0)	(23.0)	(24.0)	-	Ⅴ-A	275	Ⅳ	[9.7]	-	(20.0)	5.9	X3
224	Ⅲ-2	[13.9]	(20.0)	(22.0)	-	Ⅴ-A	276	Ⅲ-2	[9.3]	-	(19.6)	6.6	X3
225	Ⅲ-2	[5.8]	(26.4)	(27.0)	-	Ⅴ-A	277	I	[9.5]	-	(20.4)	10.8	X3
226	I	[8.1]	(31.4)	(34.6)	-	Ⅴ-A	278	Ⅲ-2	[7.1]	-	(18.3)	(8.4)	X3
227	Ⅲ-2	[20.0]	(24.1)	(24.4)	-	Ⅴ-A	279	Ⅳ	[9.8]	-	(18.8)	5.8	X3
228	Ⅲ-2	[7.3]	(24.8)	(26.2)	-	Ⅴ-A	280	Ⅲ-2	[7.5]	-	(16.0)	4.5	X3
229	Ⅲ-2	[5.4]	14.8	(15.0)	-	Ⅴ-A	281	Ⅳ	[7.5]	-	(15.6)	5.0	X3
230	Ⅳ	[13.8]	(23.0)	(29.4)	-	Ⅴ-A	282	Ⅲ-2	[5.2]	-	(14.0)	8.4	X3
231	Ⅳ	[7.5]	(26.0)	(27.2)	-	Ⅴ-A	283	Ⅲ-2	[7.7]	-	(16.0)	9.0	X3
232	Ⅲ-2	[25.1]	(24.4)	(31.2)	-	Ⅴ-A	284	Ⅲ-2	[8.1]	-	(15.3)	4.0	X3
233	Ⅲ-2	[27.4]	(30.0)	(36.8)	-	Ⅴ-A	285	Ⅲ-2	[7.0]	-	(14.8)	6.4	X3
234	I	[9.2]	(20.8)	(23.8)	-	Ⅴ-A	286	Ⅲ-2	[5.6]	-	(13.8)	4.8	X3
235	Ⅲ-2	[12.5]	(25.6)	(28.6)	-	Ⅴ-A	287	Ⅵ	[6.1]	-	(17.0)	8.0	X3
236	Ⅲ-2	[12.1]	(31.4)	(34.6)	-	Ⅴ-A	288	Ⅲ-2	[7.2]	-	(14.6)	5.2	X3
237	Ⅲ-2	[9.2]	(26.0)	(26.8)	-	Ⅴ-A	289	Ⅳ	[4.8]	-	(13.9)	7.5	X3
238	Ⅲ-2	[29.0]	(27.0)	(29.2)	-	Ⅴ-A	290	Ⅲ-2	[6.2]	-	(14.6)	8.0	X3
239	Ⅲ-2	[23.3]	(25.2)	(26.2)	-	Ⅴ-A	291	Ⅲ-2	[6.5]	-	(14.8)	7.0	X3
240	Ⅲ-2	[9.0]	(31.6)	(31.9)	-	Ⅴ-A	292	Ⅲ-2	[5.3]	-	(15.0)	9.4	X3
241	Ⅲ-2	[13.5]	(33.2)	(33.3)	-	Ⅴ-A	293	Ⅲ-2	[4.9]	-	(11.4)	8.8	X3
242	Ⅲ-2	(45.7)	(27.8)	(29.8)	(4.7)	Ⅴ-A	294	Ⅲ-2	[5.1]	-	(12.0)	6.1	X3
243	Ⅲ-2	14.8	(14.0)	(14.2)	(5.1)	Ⅴ-A	295	Ⅲ-2	[5.2]	-	(11.4)	4.2	X3
244	Ⅳ-9	[26.0]	(29.4)	(30.0)	-	Ⅴ-A	296	Ⅲ-2	[5.4]	-	(14.6)	6.8	X3
245	Ⅳ	[28.9]	(34.0)	(36.0)	-	Ⅴ-A	297	Ⅲ-2	[4.5]	-	(11.0)	(8.4)	X3
246	Ⅲ-2	[14.5]	(24.0)	(25.0)	-	Ⅴ-A	298	Ⅲ-2	[14.8]	-	(21.6)	(10.2)	X3
247	V-1	[6.4]	-	(9.8)	7.8	X3	299	Ⅲ-2	[11.0]	-	(19.2)	9.0	X3
248	Ⅳ	[4.4]	-	(8.9)	7.5	X3							

第42表 H-6グリッド出土破片土器観察表 (第195~第248図)

番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類
300	Ⅳ	Ⅱ 1-A2	316	V-1	Ⅱ 8-A1	332	-	Ⅳ 3-A	348	V-1	Ⅳ 4-A2
301	V-1	Ⅱ 2-A3	317	V-1	Ⅱ 8-A1	333	Ⅵ	Ⅳ 3-A	349	Ⅲ-2	Ⅳ 4-A2
302	-	Ⅱ 2-A2	318	V-1	Ⅳ 2-A4	334	Ⅳ	Ⅳ 3-A	350	-	Ⅳ 4-A2
303	Ⅳ	Ⅱ 2-A2	319	Ⅳ-6	Ⅳ 2-A4	335	Ⅳ-6	Ⅳ 3-A	351	Ⅳ-6	Ⅳ 4-A2
304	-	Ⅱ 2-A2	320	Ⅳ	Ⅳ 3-A3	336	Ⅲ-2	Ⅳ 3-A3	352	Ⅵ	Ⅳ 4-A2
305	V-1	Ⅱ 4-A1	321	V-1	Ⅳ 3-A3	337	Ⅳ	Ⅳ 4-A2	353	Ⅳ-9	Ⅳ 4-A5
306	Ⅳ	Ⅱ 4-A1	322	V-1	Ⅳ 3-A3	338	Ⅳ	Ⅳ 4-A2	354	V-1	Ⅳ 4-A4
307	Ⅳ	Ⅱ 4-A1	323	V-1	Ⅳ 3-A3	339	Ⅳ	Ⅳ 4-A2	355	V-1	Ⅳ 4-A4
308	V-1	Ⅱ 5-A1	324	Ⅵ	Ⅳ 3-A3	340	V-1	Ⅳ 4-A2	356	Ⅳ	Ⅳ 4-A2
309	V-1	Ⅱ 8-A1	325	V-1	Ⅳ 3-A4	341	Ⅲ-2	Ⅳ 4-A2	357	Ⅲ-2	Ⅳ 4-A4
310	V-1	Ⅱ 8-A1	326	V-1	Ⅳ 3-A4	342	V-1	Ⅳ 4-A2	358	V-1	Ⅳ 4-A4
311	V-1	Ⅱ 8-A1	327	Ⅲ-2	Ⅳ 3-A4	343	V-1	Ⅳ 4-A2	359	V-1	Ⅳ 4-A4
312	Ⅳ	Ⅱ 8-A1	328	Ⅳ	Ⅳ 3-A	344	Ⅲ-2	Ⅳ 4-A2	360	-	Ⅳ 4-A2
313	V-1	Ⅱ 8-A1	329	V-1	Ⅳ 3-A	345	Ⅲ-2	Ⅳ 4-A2	361	-	Ⅳ 4-A2
314	V-1	Ⅱ 8-A1	330	Ⅳ-6	Ⅳ 3-A	346	V-1	Ⅳ 4-A2	362	Ⅳ	V 2-A3
315	V-1	Ⅱ 8-A1	331	-	Ⅳ 3-A	347	Ⅵ	Ⅳ 4-A2	363	Ⅳ	V 2-A3

番号	層位	分類
364	V-1	V 2-A3
365	IV	V 2-A3
366	V-1	V 2-A3
367	IV	V 2-A3
368	IV	V 2-A3
369	IV	V 2-A3
370	IV	Ⅱ 2 ~ Ⅲ 3-A3
371	IV	Ⅱ 2 ~ Ⅲ 3-A3
372	IV	V 2-A3
373	IV	V 2-A4
374	V-1	V 2-A4
375	IV	V 2-A4
376	V-1	V 2-A4
377	V-1	V 2-A4
378	V-1	V 2-A4
379	V-1	V 2-A4
380	-	V 2-A4
381	V-1	V 2-A4
382	V-1	V 2-A4
383	IV	V 2-A4
384	IV	V 2-A4
385	IV-6	V 2-A4
386	IV	V 2-A4
387	V-1	V 2-A4
388	IV	V 2-A4
389	V-1	V 2-A4
390	Ⅲ-2	V 2-A4
391	V-1	V 2-A4
392	IV	V 2-A4
393	IV	V 2-A4
394	IV	V 2-A4
395	IV	V 2-A4
396	V-1	V 2-A4
397	V-1	V 2-A4
398	IV	V 2-A4
399	IV	V 2-A4
400	V-1	V 2-A4
401	V-1	V 2-A4
402	V-1	V 2-A4
403	IV	V 2-A5
404	IV	V 2-A5
405	Ⅲ-2	V 2-A5
406	IV	V 2-A3
407	IV	V 2-A3
408	IV	V 2-A3
409	IV	V 2-A3
410	V-1	V 2-A3
411	-	V 2-A3
412	IV	V 2-A5
413	V-1	V 2-A5
414	V-1	V 2 ~ 3-A5
415	IV	V 2 ~ 3-A5
416	IV	V 2 ~ 3-A5
417	IV	V 2 ~ 3-A5
418	IV	V 2 ~ 3-A5
419	-	V 2 ~ 3-A5
420	IV	V 2 ~ 3-A5
421	-	V 2 ~ 3-A5
422	IV	V 2 ~ 3-A3
423	IV	V 2 ~ 3-A3
424	IV	V 2 ~ 3-A3
425	IV	V 2 ~ 3-A3
426	V-1	V 2-A5
427	IV	V 2 ~ 3-A4
428	IV	V 2 ~ 3-A4
429	IV	V 4-A3
430	IV	V 4-A3
431	IV	V 3 ~ 4-A3
432	V-1	V 4-A3
433	IV	V 3 ~ 4-A3

番号	層位	分類
434	IV	V 3 ~ 4-A3
435	IV-6	V 2 ~ 4-A4
436	IV	V 2 ~ 4-A4
437	IV	V 2 ~ 4-A4
438	IV	V 2 ~ 4-A4
439	IV	V 2 ~ 4-A4
440	IV	V 2 ~ 4-A4
441	Ⅲ-2	V 2 ~ 4-A4
442	IV	V 2 ~ 4-A4
443	-	V 2 ~ 4-A4
444	IV	V 2 ~ 4-A4
445	IV	V 2 ~ 4-A4
446	IV	V 2 ~ 4-A4
447	IV	V 2 ~ 4-A4
448	IV	V 2 ~ 4-A4
449	IV	V 2 ~ 4-A4
450	IV	V 2 ~ 4-A4
451	IV	V 2 ~ 4-A4
452	V-1	V 2 ~ 4-A4
453	IV	V 2 ~ 4-A4
454	Ⅲ-2	V 3 ~ 4-A3
455	-	V 3 ~ 4-A3
456	V-1	V 3 ~ 4-A3
457	-	V 3 ~ 4-A3
458	IV	V 3 ~ 4-A3
459	Ⅵ	V 3 ~ 4-A3
460	V-1	V 3 ~ 4-A3
461	IV	V 3 ~ 4-A3
462	IV-6	V 3 ~ 4-A4
463	Ⅲ-2	V 3 ~ 4-A4
464	-	V 3 ~ 4-A3
465	V-1	V 3 ~ 4-A4
466	IV	V 3 ~ 4-A3
467	Ⅵ	V 3 ~ 4-A3
468	V-1	V 3 ~ 4-A5
469	IV	V 3 ~ 4-A5
470	IV	V 3 ~ 4-A5
471	IV	V 3 ~ 4-A5
472	IV	V 3 ~ 4-A5
473	IV	V 3 ~ 4-A5
474	IV	V 3 ~ 4-A5
475	IV	V 3 ~ 4-A5
476	IV	V 3 ~ 4-A5
477	IV	V 3 ~ 4-A5
478	IV	V 3 ~ 4-A5
479	IV	V 3 ~ 4-A5
480	IV	V 4-A5
481	IV	V 1 ~ 2-A7
482	-	V 1 ~ 2-A7
483	IV	V 1 ~ 2-A7
484	IV-6	V 2-A7
485	IV	V 2-A7
486	IV	V 2-A7
487	IV	V 2-A7
488	V-1	V 2-A7
489	IV	V 2-A7
490	V-1	V 2-A7
491	IV	V 2-A7
492	IV-6	V 2-A7
493	IV	V 2-A7
494	Ⅵ	V 2-A7
495	V-1	V 2-A7
496	IV	V 2-A7
497	V-1	V 2-A7
498	V-1	V 2-A7
499	IV	V 2-A7
500	IV	V 2-A7
501	IV	V 2-A7
502	V-1	V 2-A7
503	IV	V 2-A7

番号	層位	分類
504	-	V-A7
505	V-1	V-A7
506	V-1	V-A7
507	V-1	V-A7
508	Ⅲ-2	V 2 ~ 3-A2
509	IV	V 2 ~ 3-A2
510	-	V 2 ~ 3-A2
511	IV	V 4-A3
512	IV	V 4-A3
513	IV	V 4-A3
514	IV	V 4-A3
515	IV	V 4-A3
516	V-1	V 4-A3
517	IV	V 4-A3
518	-	V 4-A3
519	IV	V 4-A3
520	-	V 4-A3
521	IV	V 4-A3
522	V-1	V 4-A3
523	IV	V 4-A3
524	IV	V 4-A3
525	IV	V 4-A3
526	IV	V 4-A3
527	IV	V 4-A3
528	IV	V 4-A4
529	IV	V 4-A4
530	IV	V 4-A4
531	IV	V 4-A4
532	IV	V 4-A4
533	IV	V 4-A4
534	IV	V 4-A4
535	IV	V 4-A4
536	IV	V 4-A4
537	IV	V 4-A4
538	IV	V 4-A4
539	V-1	V 4-A4
540	V-1	V 4-A4
541	IV	V 4-A4
542	IV	V 4-A4
543	IV	V 4-A4
544	IV	V 4-A4
545	IV	V 4-A4
546	IV	V 4-A4
547	IV	V 4-A4
548	IV	V 4-A4
549	-	V 4-A4
550	V-1	V 4-A4
551	-	V 4-A4
552	Ⅲ-2	V 4-A4
553	IV	V 4-A3
554	IV	V 4-A4
555	IV-6	V 4-A4
556	-	V 4-A4
557	Ⅲ-2	V 4-A4
558	-	V 4-A4
559	V-1	V 4-A2
560	-	V 4-A2
561	IV	V 4-A4
562	IV	V 4-A4
563	IV	V 4-A3
564	IV	V 4-A3
565	IV	V 4-A3
566	IV	V 4-A3
567	V-1	V 4-A3
568	-	V 1-C2
569	IV	V 2-C2
570	IV-6	V 2-C2
571	IV	V 2-C2
572	-	V 2-C2
573	IV	V 2-C2

番号	層位	分類
574	IV	V 2-C2
575	V-1	V 2-C2
576	-	V 2 ~ 4-C2
577	-	V 4-C2
578	IV	V 2-C2
579	Ⅲ-2	V 2-C2
580	V-1	V 2-C2
581	V-1	V 2-C2
582	V-1	V 2-C2
583	V-1	V 2-C2
584	IV	V 2 ~ 3-C2
585	IV	V 2 ~ 3-C2
586	IV	V 2 ~ 3-C2
587	IV	V 2 ~ 3-C2
588	Ⅲ-2	V 2 ~ 3-C2
589	-	Ⅱ-C2
590	Ⅲ-2	V 2 ~ 3-C2
591	IV	V 2 ~ 3-C2
592	IV	V 2 ~ 3-C2
593	IV	Ⅱ-C2
594	IV	V 4-C2
595	IV	V 2 ~ 4-C2
596	V-1	V 2 ~ 4-C2
597	V-1	V 2 ~ 4-C2
598	IV	V 2 ~ 4-C2
599	IV	V 2 ~ 4-C2
600	IV	V 2 ~ 4-C2
601	IV	V 2 ~ 4-C2
602	IV	V 2 ~ 4-C2
603	IV	V 2 ~ 4-C2
604	IV	V 2 ~ 4-D2
605	Ⅲ-2	V 2 ~ 4-D2
606	IV	V 2 ~ 4-D2
607	V-1	V 2 ~ 4-D2
608	V-1	V 1-D2
609	IV	V 6
610	IV	V 2 ~ 4-A7
611	IV	V 2 ~ 4-A7
612	IV	V 2 ~ 4-A7
613	IV	V 2 ~ 4-A7
614	IV	V 2 ~ 4-A7
615	IV	V 2 ~ 4-A7
616	Ⅲ-2	V 2 ~ 4-A7
617	IV	V 2 ~ 4-A7
618	IV	V 2 ~ 4-A7
619	IV	V 2 ~ 4-A7
620	IV	V 2 ~ 4-A7
621	IV	V 2 ~ 4-A7
622	IV	V 2 ~ 4-A7
623	IV	V 2 ~ 4-A7
624	IV	V 2 ~ 4-A7
625	IV	V 2 ~ 4-A7
626	IV	V 2 ~ 4-A7
627	-	V 2 ~ 4-A7
628	-	V 2 ~ 4-A7
629	IV-6	V 2 ~ 4-A7
630	IV	V 2 ~ 4-A7
631	V-1	V 2 ~ 4-A7
632	V-1	V 2 ~ 4-A7
633	IV	V 2 ~ 4-A7
634	IV	V 2 ~ 4-A7
635	IV	V 2 ~ 4-A7
636	IV-6	V 2 ~ 4-A7
637	Ⅵ	V 2 ~ 4-A7
638	V-1	V 2 ~ 4-A7
639	IV	V 2 ~ 4-A7
640	IV	V 2 ~ 4-A7
641	V-1	V 2 ~ 4-A7
642	V-1	V 2 ~ 4-A7
643	V-1	V 2 ~ 4-A7

番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類
644	IV	V 2 ~ 4-A7	714	III-2	Ⅷ 2-A3	784	V-1	Ⅷ 2-A5	854	III-2	Ⅷ 2-A5
645	IV	V 2 ~ 4-A7	715	IV	Ⅷ 2-A3	785	III-2	Ⅷ 2-A5	855	III-2	Ⅷ 2-A5
646	V-1	V 2 ~ 4-A7	716	III-2	Ⅷ 2-A3	786	III-2	Ⅷ 2-A5	856	III-2	Ⅷ 2-A5
647	IV	V 2 ~ 4-A7	717	III-2	Ⅷ 1-A3	787	III-2	Ⅷ 2-A5	857	IV	Ⅷ 2-A5
648	IV	V 2 ~ 4-A7	718	III-2	Ⅷ 2-A3	788	III-2	Ⅷ 2-A5	858	IV	Ⅷ 2-A5
649	IV	V 2 ~ 4-A7	719	I	Ⅷ 2-A3	789	IV	Ⅷ 2-A5	859	III-2	Ⅷ 2-A5
650	IV	V 2 ~ 4-A6	720	III-2	Ⅷ 2-A3	790	III-2	Ⅷ 2-A5	860	III-2	Ⅷ 1-A5
651	V-1	V 2 ~ 4-A6	721	IV	Ⅷ 2-A3	791	IV	Ⅷ 2-A5	861	III-2	Ⅷ 1-A5
652	V-1	V 2 ~ 4-A6	722	IV	Ⅷ 2-A3	792	IV	Ⅷ 2-A5	862	III-2	Ⅷ 2-A5
653	IV	V-A2	723	III-2	Ⅷ 2-A3	793	III-2	Ⅷ 2-A5	863	III-2	Ⅷ 2-A5
654	IV	V-A2	724	III-2	Ⅷ 2-A3	794	III-2	Ⅷ 2-A5	864	IV	Ⅷ 2-A5
655	III-2	V-A2	725	III-2	Ⅷ 2-A3	795	III-2	Ⅷ 2-A5	865	III-2	Ⅷ 2-A5
656	V-1	V-A2	726	IV	Ⅷ 1-A4	796	III-2	Ⅷ 1-A5	866	III-2	Ⅷ 2-A5
657	V-1	V-A2	727	IV	Ⅷ 1-A4	797	-	Ⅷ 1-A5	867	IV	Ⅷ 2-A5
658	-	V-A2	728	IV	Ⅷ 1-A4	798	IV	Ⅷ 1-A5	868	III-2	Ⅷ 2-A4
659	IV	V-A2	729	IV	Ⅷ 1-A4	799	IV	Ⅷ 1-A5	869	IV	Ⅷ 2-A4
660	IV	V-A2	730	IV	Ⅷ 1-A4	800	IV	Ⅷ 1-A5	870	IV	Ⅷ 1-A4
661	V-1	V-A2	731	IV	Ⅷ 1-A4	801	IV	Ⅷ 1-A5	871	III-2	Ⅷ 2-A
662	III-2	V-A2	732	IV	Ⅷ 1-A4	802	IV	Ⅷ 1-A5	872	III-2	Ⅷ 2-A
663	V-1	V-A2	733	IV	Ⅷ 1-A4	803	IV	Ⅷ 1-A5	873	III-2	Ⅷ 2-A
664	IV	V-A2	734	IV	Ⅷ 1-A4	804	V-1	Ⅷ 1-A5	874	IV	Ⅷ 2-A
665	V-1	V-A2	735	IV	Ⅷ 1-A4	805	IV	Ⅷ 1-A5	875	III-2	Ⅷ 2-A
666	IV	V-A2	736	IV	Ⅷ 1-A4	806	III-2	Ⅷ 1-A5	876	III-2	Ⅷ 2-A
667	-	V-A2	737	IV	Ⅷ 1-A4	807	IV	Ⅷ 2 ~ Ⅷ 1-A5	877	III-2	Ⅷ 2-A
668	IV	V-A2	738	III-2	Ⅷ 1-A4	808	IV	Ⅷ 2 ~ Ⅷ 1-A5	878	IV-6	Ⅷ 2-A
669	V-1	V-A2	739	IV	Ⅷ 1-A4	809	IV-6	Ⅷ 2-A5	879	IV	Ⅷ 1-B1
670	V-1	V-A2	740	IV	Ⅷ 1-A4	810	IV	Ⅷ 1-A4	880	IV	Ⅷ 1-B1
671	-	V-A2	741	IV	Ⅷ 1-A4	811	IV	Ⅷ 1-A2	881	V-1	Ⅷ 1-B1
672	IV	V-A4	742	IV	Ⅷ 1-A4	812	III-2	Ⅷ 2-A4	882	V-1	Ⅷ 1-B1
673	IV	V-A4	743	IV	Ⅷ 1-A4	813	III-2	Ⅷ 2-A4	883	IV	Ⅷ 1-B1
674	IV	V-A4	744	IV-6	Ⅷ 1-A4	814	III-2	Ⅷ 2-A4	884	V-1	Ⅷ 2 ~ Ⅷ 1-C2
675	IV	Ⅷ 1-A3	745	IV	Ⅷ 1-A4	815	III-2	Ⅷ 2-A4	885	IV	Ⅷ 2 ~ Ⅷ 1-C2
676	IV	Ⅷ 1-A3	746	IV-6	Ⅷ 1-A4	816	III-2	Ⅷ 2-A4	886	Ⅷ	Ⅷ 2 ~ Ⅷ 1-C2
677	III-2	Ⅷ 1-A3	747	IV	Ⅷ 1-A4	817	IV	Ⅷ 2-A4	887	III-2	Ⅷ 2 ~ Ⅷ 1-C2
678	IV	Ⅷ 1-A3	748	III-2	Ⅷ 2-A3	818	IV-6	Ⅷ 2-A4	888	V-1	Ⅷ 2-C2
679	IV	Ⅷ 1-A3	749	IV	Ⅷ 1-A4	819	III-2	Ⅷ 2-A4	889	III-2	Ⅷ 2-C2
680	IV	Ⅷ 1-A3	750	III-2	Ⅷ 1-A4	820	V-1	V-A4	890	III-2	Ⅷ 2-C2
681	IV	Ⅷ 1-A3	751	IV	Ⅷ 1-A4	821	IV	Ⅷ 2-A4	891	III-2	Ⅷ 2-C2
682	IV	Ⅷ 1-A3	752	IV	Ⅷ 1-A4	822	III-2	Ⅷ 2-A4	892	-	Ⅷ 2-C2
683	IV	Ⅷ 1-A3	753	IV	Ⅷ 1-A4	823	V-1	Ⅷ 2-A4	893	IV	Ⅷ 2-C2
684	IV	Ⅷ 2-A3	754	IV	Ⅷ 1-A4	824	III-2	Ⅷ 2-A4	894	IV-9	Ⅷ 2-C2
685	IV-3	Ⅷ 2-A3	755	V-1	Ⅷ 1-A4	825	III-2	Ⅷ 2-A4	895	IV	Ⅷ 2-C2
686	IV	Ⅷ 2-A3	756	IV	Ⅷ 1-A4	826	IV	Ⅷ 2-A4	896	IV	Ⅷ 2-C2
687	IV	Ⅷ 1 ~ 2-A3	757	III-2	Ⅷ 1-A4	827	IV	Ⅷ 2-A4	897	III-2	Ⅷ 2-C2
688	IV-6	Ⅷ 2-A3	758	III-2	Ⅷ 1-A4	828	III-2	Ⅷ 2-A4	898	III-2	Ⅷ 2-C2
689	IV	Ⅷ 2 ~ 2-A3	759	IV	Ⅷ 1-A4	829	IV	Ⅷ 2-A4	899	IV	Ⅷ 2-C2
690	III-2	Ⅷ 1 ~ 2-A3	760	IV	Ⅷ 1-A4	830	IV-6	Ⅷ 2-A4	900	III-2	Ⅷ 2-C1
691	III-2	Ⅷ 2-A3	761	IV-9	Ⅷ 1-A5	831	IV	Ⅷ 2-A4	901	IV	Ⅷ 2-C1
692	IV	Ⅷ 2-A3	762	IV	Ⅷ 1-A4	832	IV	Ⅷ 2-A4	902	III-2	Ⅷ 2-C1
693	III-2	Ⅷ 2-A3	763	III-2	Ⅷ 1-A4	833	III-2	Ⅷ 2-A4	903	III-2	Ⅷ 2-C1
694	IV	Ⅷ 2-A3	764	III-2	Ⅷ 1-A4	834	III-2	Ⅷ 2-A4	904	IV-9	Ⅷ 2-C1
695	III-2	Ⅷ 2-A3	765	IV	Ⅷ 1-A5	835	III-2	Ⅷ 2-A4	905	IV	Ⅷ 2-C1
696	III-2	Ⅷ 2-A3	766	IV	Ⅷ 1-A4	836	III-2	Ⅷ 2-A4	906	III-2	Ⅷ 2-C1
697	IV	Ⅷ 2-A3	767	III-2	Ⅷ 2-A4	837	III-2	Ⅷ 2-A4	907	III-2	Ⅷ 2-C1
698	IV	Ⅷ 2-A3	768	IV-6	Ⅷ 1-A5	838	IV	Ⅷ 2-A4	908	III-2	Ⅷ 2-C1
699	IV	Ⅷ 2-A3	769	III-2	Ⅷ 1-A5	839	III-2	Ⅷ 2-A4	909	III-2	Ⅷ 2-C1
700	III-2	Ⅷ 2-A3	770	IV	Ⅷ 1-A5	840	III-2	Ⅷ 2-A4	910	IV-6	Ⅷ 2-C1
701	IV	Ⅷ 2-A3	771	III-2	Ⅷ 1-A5	841	IV	Ⅷ 2-A4	911	III-2	Ⅷ 2-C1
702	III-2	Ⅷ 2-A3	772	IV-9	Ⅷ 1-A5	842	III-2	Ⅷ 2-A4	912	III-2	Ⅷ 2-C1
703	IV	Ⅷ 2-A3	773	IV	Ⅷ 1-A5	843	III-2	Ⅷ 2-A4	913	III-2	Ⅷ 2-C1
704	III-2	Ⅷ 2-A3	774	IV	Ⅷ 1-A5	844	IV	Ⅷ 2-A4	914	III-2	Ⅷ 2-C1
705	III-2	Ⅷ 2-A3	775	IV	Ⅷ 1-A5	845	III-2	Ⅷ 2-A4	915	III-2	Ⅷ 2-C1
706	III-2	Ⅷ 4-A3	776	IV	Ⅷ 2-A5	846	V-1	Ⅷ 2-A4	916	III-2	Ⅷ 2-C1
707	III-2	Ⅷ 2-A3	777	III-2	Ⅷ 2-A5	847	IV	Ⅷ 2-A4	917	IV	Ⅷ 2-C1
708	III-2	Ⅷ 2 ~ Ⅷ 1-A3	778	IV	Ⅷ 1-A5	848	I	Ⅷ 2-A5	918	III-2	Ⅷ 2-C1
709	III-2	Ⅷ 2 ~ Ⅷ 1-A3	779	III-2	Ⅷ 1-A5	849	IV	Ⅷ 1-A5	919	IV-6	Ⅷ 2-C1
710	III-2	Ⅷ 2-A3	780	III-2	Ⅷ 2-A5	850	III-2	Ⅷ 2-A5	920	III-2	Ⅷ 2-C1
711	III-2	Ⅷ 2-A3	781	IV	Ⅷ 2-A5	851	III-2	Ⅷ 2-A5	921	III-2	Ⅷ 2-C1
712	IV	Ⅷ 2-A3	782	IV	Ⅷ 2-A5	852	III-2	Ⅷ 2-A5	922	IV	Ⅷ 2-C1
713	III-2	Ⅷ 2-A3	783	III-2	Ⅷ 2-A5	853	IV	Ⅷ 2-A5	923	III-2	Ⅷ 2-C1

番号	層位	分類
924	III-2	Ⅷ 2-C1
925	III-2	Ⅷ 2-C1
926	III-2	Ⅷ 2-C1
927	I	Ⅷ 2-C1
928	IV	Ⅷ 2-C1
929	IV	Ⅷ 2-C1
930	IV	Ⅷ 2-C1
931	III-2	Ⅷ 2-C1
932	III-2	Ⅷ 2-C1
933	I	Ⅷ 6-C2
934	IV	Ⅷ 2-B
935	III-2	Ⅷ 2-B
936	IV	Ⅷ 1-B
937	III-2	Ⅷ 1-B
938	V-1	Ⅷ 1-B
939	I	Ⅷ 2-B
940	II	Ⅷ 2-Ⅷ 1-F1
941	III-2	Ⅷ 2-F1
942	IV	Ⅷ 2-F1
943	III-2	Ⅷ 2-F1
944	III-2	Ⅷ 2-F1
945	IV	Ⅷ 3-F2
946	III-2	Ⅷ 2-F1
947	IV	Ⅷ 2-G
948	III-2	Ⅷ 2-G
949	IV	Ⅷ 2-G
950	III-2	Ⅷ 2-G
951	III-2	Ⅷ 2-G
952	IV	Ⅷ 4-Ⅷ 4-A
953	IV	Ⅷ 4-Ⅷ 4-A
954	III-2	Ⅷ 7-A3
955	III-2	Ⅷ 7-A3
956	III-2	Ⅷ 7-A3
957	I	Ⅷ 7-A3
958	IV	Ⅷ 7-A5
959	III-2	Ⅷ 7-A5
960	III-2	Ⅷ 7-A5
961	III-2	Ⅷ 7-A5
962	III-2	Ⅷ 7-A4
963	III-2	Ⅷ 7-A5
964	III-2	Ⅷ 7-A5
965	IV	Ⅷ 7-A5
966	III-2	Ⅷ 7-A5
967	III-2	Ⅷ 7-A5
968	III-2	Ⅷ 7-A4
969	III-2	Ⅷ 7-A4
970	III-2	Ⅷ 7-A4
971	-	Ⅷ 7-A4
972	III-2	Ⅷ 7-A5
973	III-2	Ⅷ 7-A4
974	III-2	Ⅷ 7-A4
975	IV-6	Ⅷ 7-A5
976	III-2	Ⅷ 7-A4
977	III-2	Ⅷ 7-A4
978	III-2	Ⅷ 7-A4
979	III-2	Ⅷ 7-A4
980	III-2	Ⅷ 7-A5
981	III-2	Ⅷ 7-A5
982	III-2	Ⅷ 7-A4
983	IV	Ⅷ 7-A4
984	III-2	Ⅷ 7-A4
985	III-2	Ⅷ 7-A4
986	III-2	Ⅷ 7-A4
987	III-2	Ⅷ 7-A4
988	IV	Ⅷ 7-A4
989	III-2	Ⅷ 7-A4
990	IV	Ⅷ 7-A4
991	IV	Ⅷ 7-A4
992	III-2	Ⅷ 7-A4
993	III-2	Ⅷ 7-A4

番号	層位	分類
994	V-1	Ⅷ 7-C2
995	III-2	Ⅷ 7-C2
996	I	Ⅷ 7-C2
997	III-2	Ⅷ 7-D1
998	III-2	Ⅷ 7-C1
999	IV	V 4-Ⅷ 1-A6
1000	IV	V 4-Ⅷ 1-A6
1001	IV	V 4-Ⅷ 1-A6
1002	IV	V 4-Ⅷ 1-A6
1003	IV	Ⅷ 1-A6
1004	IV	Ⅷ 1-A6
1005	IV	Ⅷ 1-A6
1006	IV	Ⅷ 1-A6
1007	III-2	Ⅷ 1-A6
1008	IV	Ⅷ 1-A6
1009	III-2	Ⅷ 1-A6
1010	IV	Ⅷ 1-A6
1011	IV	Ⅷ 1-A6
1012	III-2	Ⅷ 1-A6
1013	IV	Ⅷ 1-A6
1014	IV	Ⅷ 1-A6
1015	IV	Ⅷ 1-A6
1016	IV	Ⅷ 1-A6
1017	IV	Ⅷ 1-A6
1018	IV	Ⅷ 1-A6
1019	V-1	Ⅷ 1-A6
1020	III-2	Ⅷ 1-A6
1021	IV	Ⅷ 1-A6
1022	III-2	Ⅷ 1-A6
1023	IV	Ⅷ 1-A6
1024	IV	Ⅷ 1-A6
1025	III-2	Ⅷ Ⅷ-A6
1026	I-1	Ⅷ Ⅷ-A6
1027	IV	Ⅷ Ⅷ-A6
1028	III-2	Ⅷ Ⅷ-A6
1029	III-2	Ⅷ Ⅷ-A6
1030	III-2	Ⅷ Ⅷ-A6
1031	III-2	Ⅷ Ⅷ-A6
1032	III-2	Ⅷ Ⅷ-A6
1033	IV	Ⅷ Ⅷ-A6
1034	I	Ⅷ Ⅷ-A6
1035	IV	Ⅷ Ⅷ-A6
1036	III-2	Ⅷ Ⅷ-A6
1037	III-2	Ⅷ Ⅷ-A6
1038	IV	Ⅷ Ⅷ-A6
1039	III-2	Ⅷ Ⅷ-A6
1040	IV	Ⅷ Ⅷ-A6
1041	III-2	Ⅷ Ⅷ-A6
1042	IV	Ⅷ Ⅷ-A6
1043	IV-9	Ⅷ Ⅷ-A6
1044	III-2	Ⅷ Ⅷ-A6
1045	III-2	V Ⅷ-VI-A7
1046	IV	V Ⅷ-VI-A7
1047	IV	V Ⅷ-VI-A7
1048	IV	V Ⅷ-VI-A7
1049	IV	V Ⅷ-VI-A7
1050	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1051	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1052	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1053	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1054	V-1	Ⅷ Ⅷ-A7
1055	V-1	Ⅷ Ⅷ-A7
1056	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1057	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1058	V-1	Ⅷ Ⅷ-A7
1059	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1060	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1061	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1062	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1063	IV	Ⅷ Ⅷ-A7

番号	層位	分類
1064	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1065	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1066	V-1	Ⅷ Ⅷ-A7
1067	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1068	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1069	Ⅷ	Ⅷ Ⅷ-A7
1070	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1071	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1072	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1073	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1074	I	Ⅷ Ⅷ-A7
1075	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1076	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1077	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1078	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1079	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1080	IV-9	Ⅷ Ⅷ-A7
1081	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1082	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1083	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1084	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1085	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1086	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1087	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1088	IV-6	Ⅷ Ⅷ-A7
1089	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1090	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1091	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1092	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1093	III-2	Ⅷ Ⅷ-A7
1094	IV	Ⅷ Ⅷ-A7
1095	III-2	Ⅷ Ⅷ-A3
1096	I	Ⅷ Ⅷ-A3
1097	III-2	Ⅷ Ⅷ-A3
1098	III-2	Ⅷ Ⅷ-A3
1099	I	Ⅷ Ⅷ-A3
1100	III-2	Ⅷ 2-A3
1101	III-2	Ⅷ 2-A3
1102	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1103	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1104	I	Ⅷ Ⅷ-A4
1105	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1106	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1107	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1108	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1109	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1110	IV	Ⅷ Ⅷ-A4
1111	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1112	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1113	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1114	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1115	V-1	Ⅷ Ⅷ-A4
1116	I	Ⅷ Ⅷ-A4
1117	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1118	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1119	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1120	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1121	I	Ⅷ Ⅷ-A4
1122	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1123	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1124	IV-6	Ⅷ Ⅷ-A4
1125	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1126	I	Ⅷ Ⅷ-A4
1127	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1128	IV	Ⅷ Ⅷ-A4
1129	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1130	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1131	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1132	I	Ⅷ Ⅷ-A5
1133	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5

番号	層位	分類
1134	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1135	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1136	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1137	IV	Ⅷ Ⅷ-A5
1138	V-1	Ⅷ Ⅷ-A5
1139	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1140	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1141	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1142	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1143	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1144	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1145	IV	Ⅷ Ⅷ-A4
1146	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1147	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1148	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1149	III-2	Ⅷ Ⅷ-A4
1150	IV	Ⅷ Ⅷ-A5
1151	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1152	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1153	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1154	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1155	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1156	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1157	I	Ⅷ Ⅷ-A5
1158	IV	Ⅷ Ⅷ-A5
1159	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1160	IV	Ⅷ Ⅷ-A5
1161	IV	Ⅷ Ⅷ-A5
1162	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1163	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1164	III-2	Ⅷ Ⅷ-A5
1165	III-2	Ⅷ Ⅷ-A
1166	III-2	Ⅷ Ⅷ-A
1167	III-2	Ⅷ Ⅷ-A
1168	IV	Ⅷ Ⅷ-A
1169	III-2	Ⅷ Ⅷ-A
1170	III-2	Ⅷ Ⅷ-A
1171	III-2	Ⅷ Ⅷ-A
1172	III-2	Ⅷ Ⅷ-A
1173	III-2	Ⅷ Ⅷ-A
1174	III-2	Ⅷ Ⅷ-A
1175	III-2	Ⅷ Ⅷ-A
1176	III-2	Ⅷ Ⅷ-A
1177	III-2	Ⅷ Ⅷ-A
1178	III-2	Ⅷ 2-A3
1179	III-2	Ⅷ 2-A3
1180	III-2	Ⅷ 2-A3
1181	III-2	Ⅷ 2-A3
1182	III-2	Ⅷ 2-A3
1183	III-2	Ⅷ 2-A3
1184	I	Ⅷ 2-A3
1185	III-2	Ⅷ 2-A3
1186	III-2	Ⅷ 2-A3
1187	III-2	Ⅷ 2-A3
1188	III-2	Ⅷ 2-A3
1189	III-2	Ⅷ 2-A3
1190	III-2	Ⅷ 2-A3
1191	III-2	Ⅷ 2-A3
1192	III-2	Ⅷ 2-A3
1193	III-2	Ⅷ 2-A3
1194	I	Ⅷ 2-A3
1195	III-2	Ⅷ 2-A3
1196	III-2	Ⅷ 2-A3
1197	III-2	Ⅷ 2-A3
1198	III-2	Ⅷ 2-A3
1199	III-2	Ⅷ 2-A3
1200	III-2	Ⅷ 2-A3
1201	III-2	Ⅷ 2-A3
1202	III-2	Ⅷ 2-A3
1203	III-2	Ⅷ 2-A4

番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類	
1204	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1274	I	Ⅴ1 ~ 2-A4	1344	Ⅲ-2	Ⅴ6-A2	1414	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1205	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1275	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-A4	1345	V-1	Ⅴ1 ~ 2-A4	1415	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1206	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1276	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-A4	1346	Ⅲ-2	Ⅴ6-C2	1416	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1207	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1277	V-1	Ⅴ1 ~ 2-A4	1347	IV	Ⅴ6-C2	1417	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1208	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1278	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-A4	1348	Ⅲ-2	Ⅴ6-C1	1418	IV	ⅤA-A	
1209	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1279	IV	Ⅴ1 ~ 2-A4	1349	Ⅲ-2	Ⅴ6-C1	1419	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1210	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1280	IV	Ⅴ1 ~ 2-A5	1350	Ⅲ-2	Ⅴ6-C2	1420	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1211	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1281	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-A5	1351	Ⅲ-2	Ⅴ6-C2	1421	IV	ⅤA-A	
1212	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1282	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-A5	1352	I	Ⅴ6-C2	1422	IV	ⅤA-A	
1213	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1283	IV	Ⅴ1 ~ 2-A5	1353	Ⅲ-2	Ⅴ6-C2	1423	I	ⅤA-A	
1214	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1284	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-A5	1354	-	Ⅴ7-C2	1424	IV	ⅤA-A	
1215	IV	Ⅴ2-A4	1285	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-A5	1355	-	Ⅴ7-C2	1425	IV-9	ⅤA-A	
1216	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1286	IV	Ⅴ1 ~ 2-A5	1356	Ⅲ-2	Ⅴ7-C2	1426	IV	ⅤA-A	
1217	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1287	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-A5	1357	Ⅲ-2	Ⅴ7-C2	1427	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1218	I	Ⅴ2-A4	1288	IV	Ⅴ1 ~ 2-A5	1358	IV	Ⅴ7-C2	1428	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1219	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1289	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-A5	1359	Ⅲ-2	Ⅴ7-C2	1429	IV	ⅤA-A	
1220	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1290	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-A5	1360	Ⅲ-2	Ⅴ5-F	1430	IV-9	ⅤA-A	
1221	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1291	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-A5	1361	Ⅲ-2	Ⅴ6 ~ 7-F	1431	IV	ⅤA-A	
1222	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1292	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-A5	1362	IV	Ⅴ6 ~ 7-F	1432	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1223	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1293	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-A5	1363	Ⅲ-2	Ⅴ6 ~ 7-F	1433	IV	ⅤA-A	
1224	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1294	IV	Ⅴ1 ~ 2-A5	1364	Ⅲ-2	Ⅴ6 ~ 7-F	1434	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1225	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1295	IV	Ⅴ1 ~ 2-A5	1365	Ⅲ-2	Ⅴ7-F	1435	IV	ⅤA-A	
1226	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1296	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C2	1366	Ⅲ-2	Ⅴ7-F	1436	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1227	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1297	IV	Ⅴ1 ~ 2-C2	1367	Ⅲ-2	Ⅴ7-A2	1437	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1228	Ⅲ-2	Ⅴ2-A4	1298	IV	Ⅴ1 ~ 2-C2	1368	Ⅲ-2	Ⅴ7-A2	1438	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1229	Ⅲ-2	Ⅴ2-A	1299	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C2	1369	Ⅲ-2	Ⅴ5-A4	1439	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1230	Ⅲ-2	Ⅴ2-A	1300	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C2	1370	Ⅲ-2	Ⅴ5-A4	1440	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1231	IV	Ⅴ2-A	1301	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C2	1371	Ⅲ-2	Ⅴ5-A4	1441	I	ⅤA-A	
1232	Ⅲ-2	Ⅴ2-A	1302	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C2	1372	Ⅲ-2	Ⅴ5-A4	1442	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1233	Ⅲ-2	Ⅴ2-A	1303	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C2	1373	Ⅲ-2	Ⅴ5-A4	1443	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1234	Ⅲ-2	Ⅴ2-A	1304	IV	Ⅴ1 ~ 2-C2	1374	I	Ⅴ5-C1	1444	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1235	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2	1305	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C2	1375	Ⅲ-2	Ⅴ5-A4	1445	IV	ⅤA-A	
1236	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2	1306	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C2	1376	Ⅲ-2	Ⅴ5-A4	1446	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1237	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2	1307	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C2	1377	Ⅲ-2	Ⅴ5-A4	1447	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1238	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2	1308	IV	Ⅴ1 ~ 2-C2	1378	Ⅲ-2	Ⅴ5-A4	1448	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1239	-	Ⅴ1-A2	1309	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C2	1379	Ⅲ-2	Ⅴ5-A6	1449	I	ⅤA-A	
1240	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2	1310	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C2	1380	Ⅲ-2	Ⅴ5-A6	1450	IV	ⅤA-A	
1241	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2	1311	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C2	1381	Ⅲ-2	Ⅴ5-A5	1451	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1242	I	Ⅴ1-A2	1312	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C2	1382	Ⅲ-2	Ⅴ5-A5	1452	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1243	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2	1313	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C2	1383	I	Ⅴ5-A5	1453	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1244	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2	1314	V-1	Ⅴ1 ~ 2-C2	1384	Ⅲ-2	Ⅴ5-A5	1454	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1245	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2	1315	Ⅲ-2	Ⅴ5-A4	1385	Ⅲ-2	Ⅴ5-A5	1455	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1246	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2	1316	Ⅲ-2	Ⅴ5-A3	1386	Ⅲ-2	Ⅴ5-A5	1456	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1247	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2	1317	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C1	1387	Ⅲ-2	Ⅴ5-A5	1457	IV	ⅤA-A	
1248	IV	Ⅴ1-A5	1318	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C1	1388	Ⅲ-2	Ⅴ4-A3	1458	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1249	Ⅲ-2	Ⅴ1-A2	1319	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C1	1389	Ⅲ-2	Ⅴ4-A3	1459	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1250	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5	1320	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C1	1390	Ⅲ-2	Ⅴ4-A3	1460	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1251	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5	1321	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C1	1391	Ⅲ-2	X 2	1461	IV-9	ⅤA-A	
1252	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5	1322	IV	Ⅴ1 ~ 2-C1	1392	IV	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1462	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1253	IV	Ⅴ1-A5	1323	IV	Ⅴ1 ~ 2-C1	1393	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1463	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1254	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5	1324	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C1	1394	-	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1464	IV	ⅤA-A	
1255	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5	1325	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C1	1395	IV	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1465	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1256	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5	1326	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-C1	1396	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1466	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1257	IV	Ⅴ1-A5	1327	V-1	Ⅴ1 ~ 2-C2	1397	V-1	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1467	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1258	IV	Ⅴ1-A4	1328	I	Ⅴ1 ~ 2-C2	1398	IV-9	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1468	I-1	ⅤA-A	
1259	IV	Ⅴ1-A4	1329	IV	Ⅴ1 ~ 2-F1	1399	IV	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1469	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1260	IV	Ⅴ1-A4	1330	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-F1	1400	IV	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1470	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1261	-	Ⅴ1-A4	1331	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-F1	1401	IV	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1471	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1262	Ⅲ-2	Ⅴ1-A4	1332	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-F1	1402	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1472	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1263	IV	Ⅴ1-A4	1333	I-1	Ⅴ1 ~ 2-F1	1403	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1473	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1264	Ⅲ-2	Ⅴ1-A4	1334	V-1	Ⅴ	G	1404	V-1	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1474	IV	ⅤA-A
1265	IV	Ⅴ1-A5	1335	I	Ⅴ1 ~ 2-B	1405	IV	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1475	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1266	IV	Ⅴ1-A5	1336	Ⅲ-2	Ⅴ	C	1406	IV	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1476	I	ⅤA-A
1267	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5	1337	Ⅲ-2	Ⅴ5-C1	1407	IV	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1477	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1268	IV	Ⅴ1-A5	1338	IV	Ⅴ5-C1	1408	IV-9	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1478	IV	ⅤA-A	
1269	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5	1339	Ⅲ-2	Ⅴ5-A4	1409	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1479	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1270	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5	1340	IV	Ⅴ5-D2	1410	IV	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1480	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1271	Ⅲ-2	Ⅴ1-A5	1341	Ⅲ-2	Ⅴ5-A2	1411	IV-9	Ⅴ1 ~ Ⅴ1-A7	1481	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1272	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-A4	1342	Ⅲ-2	Ⅴ6-A2	1412	Ⅲ-2	ⅤA-A	1482	Ⅲ-2	ⅤA-A	
1273	Ⅲ-2	Ⅴ1 ~ 2-A4	1343	Ⅲ-2	Ⅴ6-C2	1413	Ⅲ-2	ⅤA-A	1483	Ⅲ-2	ⅤA-A	

番号	層位	分類
1484	III-2	Ⅷ-A
1485	III-2	Ⅷ-A
1486	III-2	Ⅷ-A
1487	III-2	Ⅷ-A
1488	III-2	Ⅷ-A
1489	III-2	Ⅷ-A
1490	IV-6	Ⅷ-A
1491	III-2	Ⅷ-A
1492	I	Ⅷ-A
1493	III-2	Ⅷ-A
1494	III-2	Ⅷ-A
1495	IV	Ⅷ-A
1496	-	Ⅷ-A
1497	III-2	Ⅷ-A
1498	III-2	Ⅷ-A
1499	III-2	Ⅷ-A
1500	III-2	Ⅷ-A
1501	I	Ⅷ-A
1502	III-2	Ⅷ-A
1503	IV	Ⅷ-A
1504	III-2	Ⅷ-A
1505	IV	Ⅷ-A
1506	III-2	Ⅷ-A
1507	IV	Ⅷ-A
1508	IV	Ⅷ-A
1509	III-2	Ⅷ-A
1510	IV	Ⅷ-A
1511	V-1	Ⅷ-A
1512	III-2	Ⅷ-A
1513	III-2	Ⅷ-A
1514	III-2	Ⅷ-A
1515	III-2	Ⅷ-A
1516	IV	Ⅷ-A
1517	III-2	Ⅷ-A
1518	III-2	Ⅷ-A
1519	III-2	Ⅷ-A
1520	III-2	Ⅷ-A
1521	I	Ⅷ-A
1522	III-2	Ⅷ-A
1523	IV	Ⅷ-A
1524	IV	Ⅷ-A
1525	III-2	Ⅷ-A
1526	III-2	Ⅷ-A
1527	III-2	Ⅷ-A
1528	III-2	Ⅷ-A
1529	III-2	Ⅷ-A
1530	I	Ⅷ-A
1531	IV	Ⅷ-A
1532	I	Ⅷ-A
1533	III-2	Ⅷ-A
1534	III-2	Ⅷ-A
1535	III-2	Ⅷ-A
1536	III-2	Ⅷ-A
1537	III-2	Ⅷ-A
1538	III-2	Ⅷ-A
1539	III-2	Ⅷ-A
1540	III-2	Ⅷ-A
1541	III-2	Ⅷ-A
1542	III-2	Ⅷ-A
1543	III-2	Ⅷ-A
1544	III-2	Ⅷ-A
1545	III-2	Ⅷ-A
1546	III-2	Ⅷ-A
1547	III-2	Ⅷ-A
1548	III-2	Ⅷ-A
1549	III-2	Ⅷ-A
1550	III-2	Ⅷ-A
1551	III-2	Ⅷ-A
1552	III-2	Ⅷ-A
1553	III-2	Ⅷ-A

番号	層位	分類
1554	III-2	Ⅷ-A
1555	III-2	Ⅷ-A
1556	III-2	Ⅷ-A
1557	III-2	Ⅷ-A
1558	III-2	Ⅷ-A
1559	III-2	Ⅷ-A
1560	III-2	Ⅷ-A
1561	III-2	Ⅷ-A
1562	III-2	Ⅷ-A
1563	III-2	Ⅷ-A
1564	III-2	Ⅷ-A
1565	III-2	Ⅷ-A
1566	III-2	Ⅷ-A
1567	III-2	Ⅷ-A
1568	III-2	Ⅷ-A
1569	III-2	Ⅷ-A
1570	III-2	Ⅷ-A
1571	III-2	Ⅷ-A
1572	I	Ⅷ-A
1573	III-2	Ⅷ-A
1574	III-2	Ⅷ-A
1575	III-2	Ⅷ-A
1576	III-2	Ⅷ-A
1577	III-2	Ⅷ-A
1578	III-2	Ⅷ-A
1579	I	Ⅷ-A
1580	III-2	Ⅷ-A
1581	III-2	Ⅷ-A
1582	III-2	Ⅷ-A
1583	IV	Ⅷ-A
1584	III-2	Ⅷ-A
1585	III-2	Ⅷ-A
1586	III-2	Ⅷ-A
1587	III-2	Ⅷ-A
1588	III-2	Ⅷ-A
1589	I	Ⅷ-A
1590	III-2	Ⅷ-A
1591	III-2	Ⅷ-A
1592	III-2	Ⅷ-A
1593	III-2	Ⅷ-A
1594	III-2	Ⅷ-A
1595	III-2	Ⅷ-A
1596	III-2	Ⅷ-A
1597	III-2	Ⅷ-A
1598	III-2	Ⅷ-A
1599	III-2	Ⅷ-A
1600	IV	Ⅷ-A
1601	III-2	Ⅷ-A
1602	-	Ⅷ-A
1603	III-2	Ⅷ-A
1604	I	Ⅷ-A
1605	IV	Ⅷ-A
1606	IV	Ⅷ-A
1607	III-2	Ⅷ-A
1608	III-2	Ⅷ-A
1609	III-2	Ⅷ-A
1610	III-2	Ⅷ-A
1611	III-2	Ⅷ-A
1612	IV	Ⅷ-A
1613	I	Ⅷ-A
1614	III-2	Ⅷ-A
1615	III-2	Ⅷ-A
1616	I	Ⅷ-A
1617	IV	Ⅷ-A
1618	III-2	Ⅷ-A
1619	IV	Ⅷ-A
1620	III-2	Ⅷ-A
1621	III-2	Ⅷ-A
1622	III-2	Ⅷ-A
1623	III-2	Ⅷ-A

番号	層位	分類
1624	I	Ⅷ-A
1625	III-2	Ⅷ-A
1626	III-2	Ⅷ-A
1627	III-2	Ⅷ-A
1628	III-2	Ⅷ-A
1629	III-2	Ⅷ-A
1630	III-2	Ⅷ-A
1631	IV-6	Ⅷ-A
1632	IV-6	Ⅷ-A
1633	IV	Ⅷ-A
1634	III-2	Ⅷ-A
1635	III-2	Ⅷ-A
1636	I	Ⅷ-A
1637	IV	Ⅷ-A
1638	IV	Ⅷ-A
1639	IV	Ⅷ-A
1640	III-2	Ⅷ-A
1641	III-2	Ⅷ-A
1642	III-2	Ⅷ-A
1643	III-2	Ⅷ-A
1644	IV	Ⅷ-A
1645	III-2	Ⅷ-A
1646	III-2	Ⅷ-A
1647	III-2	Ⅷ-A
1648	III-2	Ⅷ-A
1649	IV	Ⅷ-A
1650	III-2	Ⅷ-A
1651	III-2	Ⅷ-A
1652	III-2	Ⅷ-A
1653	III-2	Ⅷ-A
1654	IV	Ⅷ-A
1655	III-2	Ⅷ-A
1656	III-2	Ⅷ-A
1657	III-2	Ⅷ-A
1658	III-2	Ⅷ-A
1659	III-2	Ⅷ-A
1660	III-2	Ⅷ-A
1661	III-2	Ⅷ-A
1662	IV	Ⅷ-A
1663	IV	Ⅷ-A
1664	III-2	Ⅷ-A
1665	III-2	Ⅷ-A
1666	III-2	Ⅷ-A
1667	III-2	Ⅷ-A
1668	III-2	Ⅷ-A
1669	III-2	Ⅷ-A
1670	III-2	Ⅷ-A
1671	III-2	Ⅷ-A
1672	III-2	Ⅷ-A
1673	III-2	Ⅷ-A
1674	IV	Ⅷ-A
1675	III-2	Ⅷ-A
1676	IV	Ⅷ-A
1677	III-2	Ⅷ-A
1678	III-2	Ⅷ-A
1679	III-2	Ⅷ-A
1680	IV-9	Ⅷ-A
1681	IV	Ⅷ-A
1682	III-2	Ⅷ-A
1683	III-2	Ⅷ-A
1684	III-2	Ⅷ-A
1685	III-2	Ⅷ-A
1686	III-2	Ⅷ-A
1687	III-2	Ⅷ-A
1688	III-2	Ⅷ-A
1689	III-2	Ⅷ-A
1690	III-2	Ⅷ-A
1691	III-2	Ⅷ-A
1692	III-2	Ⅷ-A
1693	III-2	Ⅷ-A

番号	層位	分類
1694	III-2	Ⅷ-A
1695	IV	Ⅷ-A
1696	III-2	Ⅷ-A
1697	IV	Ⅷ-A
1698	III-2	Ⅷ-A
1699	III-2	Ⅷ-A
1700	III-2	Ⅷ-A
1701	III-2	Ⅷ-A
1702	III-2	Ⅷ-A
1703	III-2	Ⅷ-A
1704	III-2	Ⅷ-A
1705	III-2	Ⅷ-A
1706	III-2	Ⅷ-A
1707	III-2	Ⅷ-A
1708	III-2	Ⅷ-A
1709	III-2	Ⅷ-A
1710	III-2	Ⅷ-A
1711	III-2	Ⅷ-A
1712	III-2	Ⅷ-A
1713	III-2	Ⅷ-A
1714	III-2	Ⅷ-A
1715	III-2	Ⅷ-A
1716	III-2	Ⅷ-A
1717	IV	Ⅷ-A
1718	III-2	Ⅷ-A
1719	III-2	Ⅷ-A
1720	IV	Ⅷ-A
1721	IV-9	Ⅷ-A
1722	III-2	Ⅷ-A
1723	III-2	Ⅷ-A
1724	III-2	Ⅷ-A
1725	III-2	Ⅷ-A
1726	III-2	Ⅷ-A
1727	IV	Ⅷ-A
1728	III-2	Ⅷ-A
1729	III-2	Ⅷ-A
1730	III-2	Ⅷ-A
1731	III-2	Ⅷ-A
1732	III-2	Ⅷ-A
1733	III-2	Ⅷ-A
1734	III-2	Ⅷ-A
1735	III-2	Ⅷ-A
1736	III-2	Ⅷ-A
1737	I	Ⅷ-A
1738	III-2	Ⅷ-A
1739	III-2	Ⅷ-A
1740	IV	Ⅷ-A
1741	III-2	Ⅷ-A
1742	IV	Ⅷ-A
1743	I	Ⅷ-A
1744	III-2	Ⅷ-A
1745	III-2	Ⅷ-A
1746	III-2	Ⅷ-A
1747	IV	Ⅷ-A
1748	III-2	Ⅷ-A
1749	I	Ⅷ-A
1750	III-2	Ⅷ-A
1751	III-2	Ⅷ-A
1752	III-2	Ⅷ-A
1753	IV	Ⅷ-A
1754	III-2	Ⅷ-A
1755	III-2	Ⅷ-A
1756	I	Ⅷ-A
1757	III-2	Ⅷ-A
1758	III-2	Ⅷ-A
1759	III-2	Ⅷ-A
1760	IV	Ⅷ-A
1761	III-2	Ⅷ-A
1762	III-2	Ⅷ-A
1763	III-2	Ⅷ-A

番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類	番号	層位	分類
1764	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1776	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1788	Ⅳ	Ⅴ-A	1800	Ⅲ-2	Ⅴ-A
1765	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1777	Ⅳ	Ⅴ-A	1789	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1801	Ⅳ	Ⅴ-A
1766	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1778	Ⅳ	Ⅴ-A	1790	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1802	Ⅳ-6	Ⅴ-A
1767	Ⅳ	Ⅴ-A	1779	V-1	Ⅴ-A	1791	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1803	Ⅳ	Ⅴ-A
1768	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1780	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1792	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1804	Ⅲ-2	Ⅴ-A
1769	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1781	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1793	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1805	-	Ⅴ-A
1770	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1782	V-1	Ⅴ-A	1794	V-1	Ⅴ-A	1806	Ⅲ-2	Ⅴ-A
1771	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1783	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1795	Ⅵ	Ⅴ-A	1807	V-1	X 3
1772	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1784	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1796	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1808	V-1	X 3
1773	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1785	Ⅳ	Ⅴ-A	1797	V-1	Ⅴ-A			
1774	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1786	Ⅳ	Ⅴ-A	1798	Ⅲ-2	Ⅴ-A			
1775	Ⅲ-2	Ⅴ-A	1787	Ⅳ	Ⅴ-A	1799	Ⅲ-2	Ⅴ-A			

第43表 H-6 グリッド出土土製品観察表 (第248図、第252～第254図)

番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ	番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ
1809	Ⅲ-2	ミニチュア	[1.6]	(6.7)	-	1948	Ⅳ	土偶	[6.3]	[2.9]	[3.1]
1810	Ⅲ-2	ミニチュア	[4.4]	(5.4)	-	1949	Ⅳ	土偶	[6.4]	[3.8]	[3.1]
1811	Ⅳ	ミニチュア	[2.5]	(4.8)	-	1950	Ⅲ-2	台付鉢	[8.1]	[4.2]	[4.0]
1812	Ⅲ-2	ミニチュア	[2.7]	(4.6)	-	1951	Ⅲ-2	土版	[4.0]	[2.7]	1.3
1813	Ⅳ	釣手土器	[5.9]	[3.9]	[1.5]	1952	Ⅳ	土偶	[6.3]	[4.2]	[4.3]
1814	-	土器片鏝	1.8	2.1	0.6	1953	Ⅲ-2	土版	[6.8]	[6.3]	1.9
1942	Ⅲ-2	人面付土器	[4.7]	[6.7]	[2.0]	1954	Ⅲ-2	土版	[4.7]	[3.6]	[2.0]
1943	V-1	土偶	[6.9]	[6.2]	[3.8]	1955	Ⅲ-2	土版	[6.6]	[6.6]	2.0
1944	Ⅳ	土偶	[4.1]	[4.9]	[4.5]	1956	Ⅲ-2	土版	[5.8]	[3.9]	[1.6]
1945	Ⅲ-2	土偶	[5.8]	[6.8]	[4.1]	1957	Ⅲ-2	土版	[4.1]	[7.2]	[2.1]
1946	Ⅲ-2	土偶	[3.2]	[3.4]	[2.0]	1958	Ⅲ-2	土版	[6.8]	[4.0]	2.0
1947	Ⅲ-2	土偶	[4.5]	[4.2]	[1.9]						

第44表 H-6 グリッド出土土製品観察表 (第248～第251図)

番号	層位	最大径	重量	分類	番号	層位	最大径	重量	分類	番号	層位	最大径	重量	分類
1815	Ⅲ-2	7.2	64.4	Ⅱ-A-ア	1853	Ⅳ	5.7	24.6	Ⅱ-A-イ	1891	Ⅳ	5.6	30.7	Ⅰ-B-ウ
1816	Ⅲ-2	7.9	61.3	Ⅱ-B-ウ	1854	Ⅳ	5.3	27.1	Ⅱ-A-イ	1892	Ⅳ	5.2	23.5	Ⅰ-B-ウ
1817	Ⅲ-2	4.8	28.2	Ⅱ-A-イ	1855	Ⅳ	5.0	24.5	Ⅱ-A-イ	1893	Ⅳ	5.5	22.9	Ⅰ-B-ウ
1818	Ⅲ-2	7.1	47.2	Ⅱ-A-ウ	1856	Ⅳ	5.3	22.1	Ⅱ-A-イ	1894	Ⅳ	4.8	17.9	Ⅰ-B-ウ
1819	Ⅲ-2	6.5	45.7	Ⅱ-A-イ	1857	Ⅳ	5.2	23.6	Ⅱ-A-イ	1895	Ⅳ	4.4	29.4	Ⅰ-B-ウ
1820	Ⅳ	7.0	40.7	Ⅱ-A-イ	1858	Ⅳ	4.7	13.7	Ⅱ-A-エ	1896	Ⅳ	3.7	11.8	Ⅰ-B-ウ
1821	Ⅳ	6.8	55.3	Ⅱ-A-ウ	1859	Ⅳ	4.8	17.2	Ⅱ-A-イ	1897	Ⅲ-2	5.8	33.2	Ⅰ-B-ウ
1822	Ⅳ	5.7	46.4	Ⅱ-A-イ	1860	Ⅳ	5.1	20.1	Ⅱ-A-イ	1898	Ⅲ-2	4.3	19.0	Ⅰ-B-ウ
1823	Ⅳ	6.8	59.4	Ⅱ-A-イ	1861	Ⅳ	5.2	25.8	Ⅱ-A-イ	1899	Ⅲ-2	5.2	26.6	Ⅰ-B-ウ
1824	Ⅳ	8.2	64.4	Ⅱ-A-ウ	1862	Ⅳ-9	5.2	23.5	Ⅱ-A-イ	1900	Ⅲ-2	4.3	20.5	Ⅰ-B-ウ
1825	Ⅳ	7.0	40.1	Ⅱ-A-イ	1863	Ⅳ	5.3	24.6	Ⅱ-A-イ	1901	Ⅲ-2	4.6	24.2	Ⅰ-B-ウ
1826	Ⅳ	5.0	21.8	Ⅱ-A-イ	1864	V-1	4.1	15.6	Ⅱ-A-ア	1902	Ⅰ	4.8	25.5	Ⅰ-B-ウ
1827	Ⅳ-9	6.8	47.3	Ⅱ-A-エ	1865	V-1	5.3	26.0	Ⅱ-A-エ	1903	Ⅰ	4.0	15.8	Ⅰ-B-ウ
1828	V-1	5.6	33.6	Ⅱ-A-エ	1866	Ⅳ	4.6	22.1	Ⅱ-A-ア	1904	Ⅲ-2	4.9	26.5	Ⅰ-B-ウ
1829	Ⅳ	5.5	41.1	Ⅱ-A-ウ	1867	Ⅳ	4.2	17.5	Ⅱ-A-イ	1905	Ⅲ-2	4.8	23.3	Ⅰ-B-ウ
1830	Ⅳ	6.0	41.8	Ⅱ-A-イ	1868	Ⅳ-9	4.2	18.0	Ⅱ-A-イ	1906	Ⅳ	4.2	14.8	Ⅰ-B-ウ
1831	Ⅲ-2	6.2	31.6	Ⅱ-A-イ	1869	Ⅳ	4.9	26.6	Ⅱ-A-イ	1907	Ⅳ	4.7	18.0	Ⅰ-B-ウ
1832	Ⅳ	7.6	52.8	Ⅱ-A-ア	1870	Ⅳ	4.5	22.1	Ⅱ-A-イ	1908	Ⅳ	5.3	28.3	Ⅰ-B-ウ
1833	Ⅳ	5.6	32.5	Ⅱ-A-ア	1871	Ⅳ	4.7	15.6	Ⅱ-A-イ	1909	Ⅳ	4.4	15.5	Ⅰ-B-ウ
1834	Ⅳ	5.5	38.9	Ⅱ-A-エ	1872	Ⅳ	5.4	34.1	Ⅱ-A-ア	1910	Ⅳ	4.2	12.4	Ⅰ-B-ウ
1835	Ⅳ	4.5	24.1	Ⅱ-A-イ	1873	Ⅳ	5.7	46.4	Ⅱ-A-イ	1911	Ⅳ	4.2	22.5	Ⅰ-B-ウ
1836	Ⅳ	4.9	22.4	Ⅱ-A-イ	1874	Ⅳ	5.0	25.4	Ⅱ-A-エ	1912	Ⅳ	4.5	17.4	Ⅰ-B-ウ
1837	Ⅳ	5.7	28.6	Ⅱ-A-イ	1875	Ⅳ	4.4	24.4	Ⅱ-A-エ	1913	Ⅳ	4.0	22.0	Ⅰ-B-ウ
1838	Ⅳ	5.4	29.7	Ⅱ-A-イ	1876	Ⅳ	3.8	20.2	Ⅱ-A-ウ	1914	Ⅲ-2	4.2	10.6	Ⅰ-B-イ
1839	Ⅳ	4.8	25.0	Ⅱ-A-エ	1877	Ⅳ	5.5	21.4	Ⅱ-A-ア	1915	Ⅲ-2	4.1	11.4	Ⅰ-B-ウ
1840	Ⅲ-2	4.8	17.5	Ⅱ-A-イ	1878	Ⅳ	5.0	30.3	Ⅱ-A-ウ	1916	Ⅲ-2	4.3	18.7	Ⅰ-B-ウ
1841	Ⅳ	6.0	30.3	Ⅱ-C	1879	V-VI	7.4	39.4	Ⅱ-A-イ	1917	Ⅲ-2	4.5	13.9	Ⅰ-B-ウ
1842	Ⅳ	6.2	33.9	Ⅱ-A-イ	1880	Ⅲ-2	6.5	50.7	Ⅰ-B-ウ	1918	Ⅲ-2	3.1	7.1	Ⅰ-B-ウ
1843	Ⅳ	5.0	23.9	Ⅱ-A-イ	1881	Ⅲ-2	5.4	29.6	Ⅰ-B-ウ	1919	Ⅲ-2	4.7	16.4	Ⅰ-B-ウ
1844	Ⅲ-2	3.5	11.9	Ⅱ-A-エ	1882	Ⅳ	4.3	20.2	Ⅰ-B-ウ	1920	Ⅲ-2	4.5	22.9	Ⅰ-B-ウ
1845	Ⅳ	6.3	42.7	Ⅱ-A-イ	1883	Ⅲ-2	4.3	33.1	Ⅰ-B-ウ	1921	Ⅲ-2	4.1	33.3	Ⅰ-B-ウ
1846	Ⅳ	5.3	28.3	Ⅱ-A-イ	1884	Ⅳ	5.0	22.6	Ⅰ-B-ウ	1922	Ⅲ-2	4.6	34.2	Ⅰ-B-ウ
1847	Ⅳ	4.4	17.6	Ⅱ-A-ウ	1885	Ⅳ	5.0	20.7	Ⅰ-B-ウ	1923	Ⅳ	3.5	10.8	Ⅰ-B-ウ
1848	Ⅳ	5.4	26.1	Ⅱ-A-イ	1886	V-1	4.5	16.3	Ⅰ-B-ウ	1924	Ⅳ-9	4.2	24.8	Ⅰ-B-ウ
1849	Ⅳ	5.6	37.9	Ⅱ-A-イ	1887	Ⅳ	4.6	19.0	Ⅰ-B-ウ	1925	Ⅳ	4.0	10.6	Ⅰ-B-ウ
1850	Ⅳ	5.8	35.8	Ⅱ-A-イ	1888	Ⅳ	4.4	23.3	Ⅰ-B-ウ	1926	Ⅲ-2	3.5	15.0	Ⅰ-B-ウ
1851	Ⅳ	4.7	21.1	Ⅱ-A-エ	1889	Ⅳ	5.4	19.1	Ⅰ-B-ウ					
1852	Ⅳ	5.0	30.8	Ⅱ-A-ウ	1890	Ⅳ	5.3	33.2	Ⅰ-B-ウ					

第45表 H-6 グリッド出土耳飾の観察表 (第251図、第252図)

番号	層位	径 1	径 2	高さ	重量	分類	番号	層位	径 1	径 2	高さ	重量	分類
1927	Ⅲ-2	(6.5)	(5.7)	1.9	6.0	Ⅲ-B-ア	1935	Ⅲ-2	(8.5)	-	[2.0]	8.7	V
1928	Ⅲ-2	(5.0)	(4.4)	2.0	4.6	Ⅲ-B-ア	1936	Ⅳ	6.0	3.8	2.1	37.3	Ⅲ-C-ア
1929	Ⅳ	4.0	3.4	1.9	13.5	Ⅳ-B	1937	Ⅳ	(6.2)	(6.0)	2.1	4.9	Ⅲ-A-ア
1930	Ⅳ	3.0	2.3	1.6	7.6	Ⅳ-B	1938	Ⅳ	(6.1)	(5.9)	2.1	3.7	Ⅲ-A-ア
1931	Ⅳ	(2.2)	(2.1)	1.8	8.3	Ⅳ-A-イ	1939	V-1	(7.6)	(7.4)	[2.3]	22.6	Ⅲ-B-ア
1932	Ⅲ-2	2.3	1.8	1.6	8.0	I-B-イ	1940	Ⅲ-2	(5.2)	(3.7)	2.1	29.5	I-B-ア
1933	Ⅲ-2	(9.7)	-	[2.9]	10.2	V	1941	Ⅳ	2.2	1.6	1.8	5.2	Ⅲ-C-ア
1934	Ⅲ-2	(10.0)	-	[2.4]	9.5	V							

第46表 H-6 グリッド出土石器観察表 (第255～第272図)

番号	層位	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重量
1959	Ⅲ-2	尖頭器	-	チャート	3.9	2.1	1.1	7.9
1960	Ⅳ	尖頭器	-	チャート	3.5	2.0	0.6	4.1
1961	Ⅲ-2	尖頭器	-	頁岩	3.6	1.6	0.9	5.0
1962	Ⅲ-Ⅳ	石織	I	黒曜石	1.6	1.4	0.3	0.5
1963	Ⅳ	石織	I	チャート	[2.9]	1.5	0.4	1.1
1964	Ⅳ	石織	I	黒曜石	[0.8]	1.6	0.4	0.5
1965	Ⅲ-2	石織	Ⅱ	チャート	2.8	1.6	0.5	1.4
1966	Ⅲ-2	石織	Ⅱ	チャート	3.5	1.3	0.5	1.5
1967	Ⅲ-2	石織	Ⅱ	チャート	[2.4]	1.4	0.7	1.9
1968	Ⅳ	石織	I	チャート	2.4	1.2	0.6	1.4
1969	Ⅳ	石織	Ⅱ	チャート	4.0	1.8	0.9	5.2
1970	Ⅲ-2	スクレイパー	I	チャート	6.0	6.4	2.0	84.5
1971	Ⅳ	スクレイパー	Ⅱ	チャート	2.8	3.3	1.0	7.7
1972	Ⅳ	二次加工剥片	-	黒曜石	2.3	2.5	0.9	3.9
1973	V-1	二次加工剥片	-	チャート	3.7	2.4	1.1	8.8
1974	Ⅲ-2	二次加工剥片	-	チャート	3.2	3.6	1.3	11.6
1975	Ⅳ	二次加工剥片	-	チャート	2.8	[3.1]	1.1	8.0
1976	Ⅳ	二次加工剥片	-	黒曜石	2.2	1.9	0.5	2.0
1977	Ⅲ-2	石核	-	チャート	2.8	4.2	2.4	30.3
1978	Ⅲ-2	石核	-	チャート	3.5	3.6	2.9	43.1
1979	Ⅲ-2	石核	-	チャート	4.2	4.2	3.7	84.9
1980	-	打製石斧	I	頁岩	9.6	7.3	2.1	128.0
1981	V-1	打製石斧	I	頁岩	8.2	6.1	1.6	70.2
1982	V-1	打製石斧	I	ホルンフェルス	9.8	7.1	2.8	272.9
1983	Ⅳ	打製石斧	I	頁岩	[11.1]	[7.0]	2.1	186.1
1984	Ⅲ-2	打製石斧	I	頁岩	[5.4]	[7.5]	2.3	107.8
1985	Ⅳ	打製石斧	I	頁岩	[9.1]	6.8	2.7	205.9
1986	V-1	打製石斧	Ⅲ	ホルンフェルス	12.6	5.7	3.1	284.6
1987	Ⅲ-2	打製石斧	-	頁岩	7.9	5.4	1.8	89.1
1988	Ⅳ	打製石斧	-	ホルンフェルス	[7.8]	5.8	1.5	71.4
1989	Ⅲ-2	打製石斧	-	頁岩	[12.4]	11.7	2.0	331.0
1990	Ⅳ	打製石斧	-	頁岩	[6.7]	6.8	2.2	122.0
1991	Ⅳ	打製石斧	-	ホルンフェルス	[5.3]	7.9	2.7	147.1
1992	Ⅳ	打製石斧	-	緑色岩	13.3	9.0	3.3	575.0
1993	Ⅳ	礫器	I	頁岩	9.3	5.5	3.0	182.1
1994	Ⅲ-2	礫器	Ⅱ	頁岩	[5.7]	7.3	1.8	70.1
1995	Ⅲ-2	礫器	Ⅲ	頁岩	[8.6]	9.6	3.3	336.3
1996	Ⅳ	礫器	Ⅲ	頁岩	10.0	12.1	3.5	453.2
1997	Ⅳ	礫器	Ⅲ	頁岩	[13.3]	6.0	3.9	334.9
1998	Ⅲ-2	礫器	Ⅲ	頁岩	[10.1]	9.8	4.1	525.8
1999	Ⅲ-2	礫器	Ⅲ	緑色岩	12.6	9.5	3.2	586.8
2000	Ⅲ-2	磨製石斧	I	砂岩	[8.8]	7.8	4.1	445.4
2001	Ⅳ	磨製石斧	I	安山岩	[6.8]	[4.3]	2.9	125.2
2002	Ⅳ	磨製石斧	I	緑色岩	[6.5]	[4.7]	2.4	115.1
2003	Ⅳ-9	磨製石斧	I	砂岩	[5.1]	[6.0]	3.2	82.8
2004	Ⅲ-2	磨製石斧	Ⅱ	緑色岩	17.5	9.6	3.8	928.3
2005	Ⅳ	磨製石斧	-	砂岩	[6.8]	4.9	1.9	89.4
2006	Ⅳ	磨製石斧	Ⅲ	蛇紋岩	6.0	3.4	1.2	36.4
2007	Ⅲ-2	磨製石斧	Ⅲ	緑色岩	[3.7]	2.3	1.0	15.0
2008	Ⅳ	礫石	I	緑泥片岩	7.7	3.4	2.3	99.3
2009	V-1	礫石	I	砂岩	14.3	5.9	4.2	549.2
2010	Ⅳ	礫石	I	安山岩	13.0	4.4	3.1	249.1
2011	Ⅳ	礫石	I	頁岩	9.1	2.7	1.5	42.0
2012	Ⅳ	礫石	I	緑泥片岩	7.8	4.3	2.1	100.3
2013	Ⅳ	礫石	I	頁岩	11.1	4.1	2.3	116.2
2014	V-1	礫石	I	片岩	14.0	3.5	2.1	138.8
2015	Ⅲ-2	礫石	I	安山岩	[11.8]	5.0	3.9	358.1
2016	Ⅲ-2	礫石	I	頁岩	8.3	2.7	1.8	62.2
2017	V-1	礫石	I	緑泥片岩	4.0	1.7	1.8	140.2
2018	Ⅲ-2	礫石	Ⅱ	片岩	[19.0]	8.7	3.5	938.4
2019	-	礫石	Ⅱ	緑泥片岩	[10.5]	4.0	2.9	193.7
2020	Ⅳ	礫石	Ⅱ	安山岩	[22.2]	7.2	4.2	873.0

番号	層位	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重量
2021	IV	回石	I	安山岩	7.2	6.9	3.6	263.0
2022	III-2	回石	I	安山岩	5.6	5.3	3.8	157.6
2023	III-2	回石	I	安山岩	5.0	5.0	4.3	167.6
2024	III-2	回石	I	安山岩	5.5	5.2	4.9	177.4
2025	III-2	回石	I	安山岩	5.4	5.5	4.7	185.7
2026	III-2	回石	I	安山岩	5.5	5.6	4.1	186.8
2027	III-2	回石	I	安山岩	4.9	4.6	4.3	120.8
2028	III-2	回石	I	安山岩	4.9	4.8	4.3	118.3
2029	III-2	回石	I	安山岩	6.7	6.3	4.7	279.0
2030	IV-9	回石	I	安山岩	5.7	5.1	[3.0]	96.2
2031	III-2	回石	III	安山岩	9.1	8.2	5.2	639.9
2032	III-2	回石	III	安山岩	[10.8]	8.3	5.3	352.5
2033	III-2	回石	III	安山岩	6.5	6.3	4.5	148.9
2034	IV	回石	-	安山岩	[7.2]	8.5	3.5	251.8
2035	III-2	回石	III	安山岩	11.5	8.5	5.7	977.9
2036	V-1	回石	III	安山岩	9.9	5.6	4.8	441.8
2037	III-2	回石	III	安山岩	12.0	7.8	4.5	682.7
2038	III-2	回石	-	安山岩	7.1	6.3	5.5	215.2
2039	III-2	回石	-	安山岩	11.1	11.4	6.0	343.2
2040	III-2	回石	-	安山岩	[8.2]	[8.0]	6.1	372.6
2041	IV	磨石	I	安山岩	9.1	5.1	3.9	260.1
2042	III-2	磨石	I	安山岩	16.3	8.4	6.9	1178.8
2043	IV	磨石	I	安山岩	8.6	8.1	5.2	549.2
2044	III-2	磨石	I	安山岩	6.1	7.6	4.8	306.2
2045	III-2	磨石	I	安山岩	8.4	6.7	4.6	409.1
2046	III-2	磨石	I	安山岩	7.0	6.5	4.9	291.5
2047	III-2	磨石	I	安山岩	5.9	6.4	5.3	283.3
2048	III-2	磨石	I	安山岩	6.8	7.1	3.3	232.9
2049	IV	磨石	I	閃綠岩	16.9	9.0	6.4	1421.5
2050	III-2	磨石	I	安山岩	10.1	7.6	3.7	460.4
2051	III-2	磨石	I	安山岩	15.9	10.3	4.9	1269.3
2052	III-2	磨石	I	閃綠岩	13.9	9.4	4.6	1015.6
2053	I	磨石	I	安山岩	[10.9]	10.0	5.8	908.4
2054	III-2	磨石	I	安山岩	10.6	8.1	3.8	517.0
2055	III-2	磨石	I	安山岩	5.7	5.6	3.4	149.5
2056	V-1	磨石	I	安山岩	6.0	6.2	4.7	269.9
2057	III-2	磨石	I	安山岩	[4.4]	6.6	3.0	94.7
2058	IV	磨石	I	安山岩	[4.8]	7.6	4.2	219.3
2059	III-2	磨石	I	安山岩	[5.2]	7.8	4.0	263.1
2060	IV	磨石	I	安山岩	10.6	8.1	3.8	517.0
2061	III-2	磨石	I	安山岩	5.8	4.6	3.2	108.6
2062	III-2	磨石	I	安山岩	8.1	5.7	2.8	107.2
2063	III-2	磨石	I	安山岩	11.8	6.5	4.2	278.1
2064	III-2	磨石	I	安山岩	[6.2]	5.9	4.8	207.6
2065	III-2	磨石	I	安山岩	4.6	5.4	3.8	131.0
2066	IV	磨石	II	安山岩	7.7	5.2	3.8	259.4
2067	III-2	磨石	II	安山岩	7.6	7.7	5.5	523.2
2068	III-2	磨石	II	安山岩	5.6	5.6	3.4	161.6
2069	III-2	磨石	II	砂岩	7.6	6.2	3.8	318.6
2070	III-2	磨石	II	安山岩	5.8	5.0	3.5	95.9
2071	III-2	磨石	II	安山岩	5.8	5.1	2.9	126.9
2072	III-2	磨石	II	安山岩	8.5	10.7	6.7	793.4
2073	III-2	磨石	II	安山岩	5.6	6.1	5.3	252.7
2074	III-2	磨石	II	安山岩	5.5	6.1	4.6	216.3
2075	V-1	磨石	II	安山岩	4.7	5.0	3.8	133.8
2076	IV	磨石	II	砂岩	8.0	6.4	3.6	265.5
2077	-	磨石	II	頁岩	7.3	6.0	4.6	233.4
2078	V-1	磨石	II	安山岩	7.1	6.7	4.6	337.5
2079	IV	磨石	II	安山岩	4.9	4.5	3.9	122.1
2080	IV	磨石	II	安山岩	6.2	6.1	4.7	271.1
2081	III-2	磨石	II	安山岩	6.2	5.7	5.1	238.4
2082	III-2	磨石	II	安山岩	6.8	6.6	6.1	394.9
2083	III-2	磨石	II	安山岩	11.5	8.2	6.7	954.1
2084	III-2	磨石	II	閃綠岩	13.0	8.7	5.6	1019.3
2085	III-2	磨石	II	安山岩	[12.9]	9.5	5.2	954.2
2086	III-2	磨石	II	閃綠岩	[12.4]	8.5	6.0	846.8
2087	III-2	磨石	II	安山岩	[10.4]	5.6	3.0	246.9
2088	III-2	磨石	II	安山岩	8.8	7.1	5.4	467.8
2089	III-2	磨石	II	安山岩	7.8	6.3	3.4	132.4
2090	III-2	磨石	II	安山岩	6.1	5.6	5.0	163.2
2091	IV	磨石	II	安山岩	3.8	3.0	2.2	30.7
2092	III-2	磨石	II	安山岩	6.3	5.4	3.7	99.1
2093	IV-9	磨石	II	安山岩	5.3	4.7	2.9	75.9
2094	III-2	磨石	II	安山岩	5.4	6.0	4.4	119.9

番号	層位	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重量
2095	IV	磨石	-	安山岩	4.8	7.8	5.1	233.4
2096	III-2	磨石	-	安山岩	4.6	6.8	4.4	219.5
2097	IV-9	磨石	-	安山岩	9.2	8.2	5.2	568.3
2098	III-2	磨石	-	砂岩	7.4	5.2	3.4	152.0
2099	IV	磨石	-	安山岩	7.5	5.2	5.3	116.2
2100	III-2	磨石	-	頁岩	10.2	5.6	3.4	283.8
2101	III-2	磨石	-	安山岩	6.6	5.7	3.5	100.2
2102	III-2	磨石	-	安山岩	[5.4]	[6.8]	3.1	67.0
2103	III-2	磨石	-	安山岩	[6.7]	[5.3]	3.9	126.3
2104	IV	磨石	-	緑泥片岩	[11.9]	4.2	2.5	221.5
2105	-	磨石	-	安山岩	[8.9]	5.9	5.9	370.8
2106	III-2	磨石	-	安山岩	[8.7]	6.3	3.9	233.2
2107	IV-9	磨石	-	安山岩	[4.6]	[6.6]	[4.1]	167.6
2108	III-2	石皿	II	安山岩	18.5	12.1	4.9	1344.8
2109	IV	石皿	II	安山岩	[17.9]	[10.4]	7.0	1189.8
2110	IV	石皿	II	安山岩	[16.3]	13.0	9.4	954.7
2111	III-2	石皿	II	安山岩	[11.7]	[9.2]	4.6	406.6
2112	III-2	石皿	II	安山岩	[12.8]	[8.8]	7.6	557.7
2113	III-2	石皿	III	安山岩	14.6	[8.8]	5.8	682.3
2114	IV	石皿	II	安山岩	[11.2]	[10.3]	6.8	676.8
2115	III-2	砥石	I	安山岩	7.9	6.9	4.4	169.3
2116	III-2	砥石	II	砂岩	[12.0]	[8.9]	3.3	328.9
2117	IV	砥石	II	砂岩	[6.3]	4.6	1.0	28.9
2118	IV-9	砥石	II	砂岩	[5.5]	2.7	1.0	15.4
2119	V-1	砥石	II	砂岩	[5.4]	[4.5]	1.2	22.6
2120	V-1	砥石	II	砂岩	[5.0]	[2.0]	1.3	10.0
2121	IV	砥石	III	砂岩	6.5	2.3	1.0	14.7
2122	V-1	砥石	III	砂岩	[9.8]	8.0	2.2	114.8
2123	IV	砥石	III	安山岩	[10.0]	[5.2]	3.1	192.3
2124	IV	砥石	III	砂岩	[5.6]	4.4	2.9	66.8
2125	III-2	砥石	III	安山岩	[5.0]	[5.9]	1.6	30.7
2126	IV	砥石	III	安山岩	[6.4]	4.5	1.0	25.7
2127	IV	砥石	III	砂岩	[5.4]	[6.6]	1.0	45.9
2128	V-1	砥石	III	安山岩	[4.7]	7.9	3.3	100.5
2129	V-1	砥石	III	砂岩	[3.3]	[2.8]	1.6	11.8
2130	V-1	石鐘	I	頁岩	6.3	3.3	1.6	42.9
2131	III-2	石鐘	I	安山岩	6.7	4.8	1.8	83.3
2132	III-2	石鐘	I	砂岩	5.2	3.4	1.0	25.8
2133	III-2	石鐘	I	緑色岩	6.9	3.6	1.7	65.2
2134	V-1	石鐘	I	頁岩	6.6	3.9	1.5	50.4
2135	III-2	石鐘	I	安山岩	4.6	3.0	1.6	17.6
2136	V-1	石鐘	II	安山岩	8.7	7.3	2.4	201.3
2137	III-2	石鐘	II	緑色岩	6.1	4.3	1.7	65.7
2138	IV	軽石類	II	軽石	3.3	4.1	1.4	2.6
2139	IV	軽石類	III	軽石	8.3	4.8	3.7	51.4
2140	III-2	石椀類	I	安山岩	[9.7]	9.7	7.6	878.2
2141	IV	石椀類	I	緑泥片岩	[11.8]	10.2	9.4	1636.1
2142	IV	石椀類	I	片岩	[11.5]	7.6	5.1	765.7
2143	III-2	石椀類	I	緑泥片岩	[23.4]	6.6	5.4	1166.2
2144	III-2	石椀類	I	片岩	[17.0]	5.8	3.9	595.2
2145	III-2	石椀類	II	緑泥片岩	[13.8]	3.8	2.5	184.4
2146	III-2	石椀類	II	片岩	[13.5]	3.2	2.0	121.8
2147	III-2	石椀類	II	緑泥片岩	[10.1]	3.0	2.0	92.2
2148	IV	石椀類	-	砂岩	[8.8]	4.1	3.1	182.5
2149	III-2	石椀類	-	頁岩	[5.9]	2.5	1.3	25.4
2150	III-2	石椀類	-	緑泥片岩	[8.5]	[2.8]	1.3	38.9
2151	IV	石椀類	-	片岩	[14.5]	3.5	2.0	162.3
2152	IV	石椀類	-	緑色岩	[12.6]	3.6	2.0	128.3
2153	III-2	石椀類	-	頁岩	[9.5]	[3.4]	2.0	99.3
2154	III-2	岩版	-	緑泥片岩	[10.8]	[6.2]	0.8	81.7
2155	III-2	岩版	-	凝灰岩	[2.3]	[5.5]	[3.1]	15.8
2156	III-2	岩版	-	凝灰岩	[3.5]	[4.4]	[2.0]	18.9
2157	-	垂飾	-	滑石	2.2	[2.2]	0.3	2.3
2158	III-2	垂飾	-	滑石	2.0	1.6	0.5	1.9
2159	III-2	垂飾	-	安山岩	3.7	2.1	0.7	4.5
2160	III-2	垂飾	-	頁岩	[3.5]	2.3	0.5	4.5

第47表 H-6 グリッド出土骨製品の観察表 (第272図)

番号	層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量
2161	III~IV	筭	[2.0]	1.1	0.9	1.8
2162	III~IV	加工のある骨角	[2.1]	0.4	0.4	0.4
2163	III~IV	加工のある骨角	[2.8]	0.6	0.6	0.6

報告書抄録

ふりがな	ながたけいせき							
書名	長竹遺跡Ⅳ							
副書名	首都圏氾濫区域堤防強化対策における埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第461集							
編著者名	金子直行 入江直毅							
編集機関	公益財団法人 埼玉埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦2020(令和2)年3月23日							
所取遺跡	所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
長竹遺跡 (第1・3次)	埼玉県加須市 大字大越字樋 ノ口702-1 他	11210	039	36°11'14"	139°36'50"	20100501 ～ 20110331 20120406 ～ 20130331	3.321	堤防建設 記録保存 調査
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
長竹遺跡 (第1・3次)	集落跡	縄文時代	住居跡 29軒 掘立柱建物跡 3棟 土壇 68基 柱穴列 3基 埋蔵 3基 焼土跡 25基 粘土塊 3箇所 ピット 1293基 遺物集中 6箇所	土器 土製品 石器 石製品 骨製品	縄文時代後・晩期に形成された環状盛土遺構の南側を調査した。盛土遺構の遺存状態は極めて良好であった。盛土の厚は190mに及び、関東地方有数の規模である。			
要約								
<p>長竹遺跡は利根川沿いの埋没台地上に立地する。縄文時代から近世にわたる複合遺跡である。本書は縄文時代後期から晩期にかけて形成された南北環状盛土遺構のうち、南盛土内から出土した遺構に属さない遺物に関する報告である。</p> <p>南盛土では後期から晩期にかけての住居跡29軒、掘立柱建物跡3棟、柱穴列3基、土壇68基の他に、埋蔵3基、焼土跡25基、遺物集中6箇所と1293基という夥しい数のピットが検出されている。これらの遺構や遺構に伴う遺物に関しては既報告(「長竹遺跡Ⅱ」)であるが、それ以外の帰属遺構の判明しない遺物や、いわゆる包含層からの遺物が大量に出土している。多数の焼土跡や遺物集中箇所、ピット群が存在することから、調査時に把握しきれなかった住居跡等の遺構が相当数存在することが想定される。今回の報告では、それらを補うことも目的とし、遺物の出土位置(小グリッド単位)と数量、層位についても考慮して資料化した。</p> <p>遺物は日常生活で使用されていた膨大な量の土器類、石器類、骨角器類、祭祀的な遺物である土偶・石棒や、装飾品としての耳飾りなどが出土している。また、土製円盤として分類した加工痕のある土製品は、用途不明であるが多量に出土しており、本遺跡の特徴的な遺物の一つとなっている。土器群では、特に遺構の検出が困難であった時期の晩期中葉安行3c式から3d式の良好な土器群と共に、並行期である東北地方大洞C1式、C2式、北関東地方の天神原式、東関東地方の前浦式、関西地方の笠賀里式などが出土しており、広域的な交流関係が把握された。石器では特殊な形の砥石や大型磨製石斧、局部磨製石鏃の出土等が特筆されよう。</p>								

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第461集

長竹遺跡Ⅳ

首都圏氾濫区域堤防強化対策における

埋蔵文化財発掘調査報告

(第1分冊)

令和2年3月13日 印刷

令和2年3月23日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

0493 (39) 3955

<http://www.saimibun.or.jp>

印刷／山進社印刷株式会社